

IBM File Manager for z/OS®
ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス (IMS データ用)
バージョン 15.1.5

注

本書をご使用になる前に、[特記事項 ページ dccxxi](#)に記載されている一般情報をお読みください。

本書に関する注意事項

本書(2024年6月発行)は、IBM® File Manager for z/OS® バージョン 15 リリース 1 モディフィケーション・レベル 5 (プログラム番号 5755-A03)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

目次

本書について.....	x	出力データ・セット割り振りオプション (オプション 0.8).....	44
本書の対象読者.....	xi	「Trace options (トレース・オプション)」 (オプション 0.9).....	44
前提条件および関連情報.....	xi	DBCS 文字の表示または編集.....	44
構文図の見方.....	xi	国別文字.....	45
変更の要約.....	xv	第 4 章. データベースの表示.....	47
第 I 部. FM/IMS での作業.....	16	データベースのアクセス.....	47
第 1 章. 概要.....	17	異なるアクセス・モードについて.....	47
データベースおよびセグメント.....	17	ビューを使用するかどうかの決定.....	49
FM/IMS と階層データベース.....	19	静的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス.....	49
FM/IMS における DLI モードと BMP モード.....	20	動的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス.....	51
動的および静的 PSB.....	21	静的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス.....	53
テンプレートおよびビュー.....	21	動的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス.....	56
テンプレートおよびビューを使用する理由.....	21	ブラウズまたは編集で使用不可の HALDB 区画および DEDB 領域.....	59
ビューで実行できること.....	23	データの表示方法の決定.....	60
ビューを使用できる場所.....	24	初期表示形式の設定.....	60
HALDB 区画および DEDB 領域の処理.....	24	FM/IMS によるデータベース内の位置の検出方法.....	61
第 2 章. File ManagerIMS™ のシステム要件.....	26	「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを介した開始位置の決定.....	61
第 3 章. 始めに.....	27	「Key Specification (キー指定)」パネルを介した開始位置の決定.....	62
FM/IMS の開始と終了.....	27	データのビューの操作.....	63
FM/IMS の使用を開始.....	27	表示形式の選択.....	63
ご使用の FM/IMS バージョンの検査.....	28	セグメントすべてを表示するためのズームイン.....	69
使用している COBOL コンパイラーの確認.....	29	データを表示するためのスクロール.....	71
FM/IMS の終了.....	30	フィールドまたは桁の位置決め.....	74
FM/IMS インターフェースの使用.....	30	スライディング・ウィンドウのスクロールおよびデータベース位置への影響.....	74
FM/IMS でのナビゲート.....	31	バッチでのデータベースの印刷.....	75
ライブラリー・データ・セットの指定.....	32	キー・ファイルの作成.....	76
FM/IMS での 16 進値の使用.....	36	印刷を実行するバッチ・ジョブの生成.....	76
ヘルプの使用.....	37	KEYLIST、KEYRANGE、および MAXROOTS パラメーターを指定するように JCL を変更.....	79
フィールド・ヘルプ情報の表示.....	37	報告書の印刷.....	80
チュートリアル用ヘルプへのアクセス.....	38	バッチでのデータベースの表示.....	80
拡張エラー・メッセージの表示.....	40	IBB REXX プロシージャ (バッチ・ブラウザ).....	83
処理オプションの設定.....	40	現行ブラウザまたは編集セッションの統計リスト.....	84
印刷処理オプションの設定 (オプション 0.1).....	41	第 5 章. テンプレートおよびビューの操作.....	86
システム設定 (オプション 0.2).....	41	テンプレートの作成および更新.....	86
バッチ・ジョブ・カード情報の設定 (オプション 0.3).....	42	テンプレートの作成.....	86
言語およびコンパイラー仕様の設定 (オプション 0.4).....	42		
コンパイラー言語の選択 (オプション 0.4.1).....	42		
COBOL 処理オプション (オプション 0.4.2).....	42		
HLASM 処理オプション (オプション 0.4.3).....	43		
PL/I 処理オプション (オプション 0.4.4).....	43		
エディター・オプション (オプション 0.5).....	43		
IMS サブシステム設定 (オプション 0.6).....	44		
一時データ・セット割り振りオプション (オプション 0.7).....	44		

テンプレートの更新.....	89	FIND での長いストリングの処理.....	145
テンプレートの編集.....	99	ストリングの変更.....	146
ビューの作成および編集.....	104	CHANGE での長いストリングの処理.....	146
ブラウズまたは編集前のビューの作成.....	104	FIND または CHANGE での検索の制限.....	147
ブラウズまたは編集中のビューの作成.....	105	レコード内のセグメントの変更.....	150
ビューの更新.....	106	セグメントの挿入.....	150
ビューの編集.....	109	セグメントの繰り返し.....	152
セグメント・タイプおよびレイアウトの選択と除外.....	111	セグメントの削除.....	153
ビューでのフィールドの選択および順序付け.....	112	バッチでのデータベースの編集.....	154
フィールド属性の設定.....	113	IEB REXX プロシージャ (バッチ編集).....	157
切り捨てなしでのフィールドの表示.....	114	第 7 章. データの管理.....	160
日付/時刻フィールドの定義.....	114	IMS データベースの定義と初期化.....	160
スクランブル・オプションの指定.....	115	データ・セットの削除と再定義.....	160
スクランブル・オプションを指定するためのフィールドの選択.....	115	空のデータベースの初期化.....	162
ビューを使用したデータ表示のフィルター操作.....	120	データの抽出.....	166
現行の定様式セグメント・タイプの変更.....	120	データベースの完全コピーの作成.....	166
シャドー行の表示.....	120	キー・ファイルを使用した部分的抽出.....	169
フィールド選択基準の指定.....	122	抽出基準を使用した部分的抽出.....	172
選択およびフィールド選択基準の影響.....	122	KEYLIST、KEYRANGE、および MAXROOTS パラメーターを指定するように JCL を変更.....	178
File Manager および REXX.....	125	順次従属セグメントを持つ DEDB データベースの抽出およびロード.....	178
REXX について的一般情報.....	125	抽出テンプレートの作成.....	180
REXX コンパイラの使用.....	125	抽出報告書.....	183
内部式処理を使用してのパフォーマンスの向上.....	125	データのロード.....	183
REXX 式の概要.....	126	初期化されたデータベースへのロード.....	184
浮動小数点数の処理.....	129	未初期化データベースへのロード.....	186
比較演算子.....	130	ロード報告書.....	189
算術演算子.....	132	第 8 章. 基準の操作.....	190
論理 (ブール) 演算子.....	134	「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネル.....	190
便利な関数.....	134	テンプレートを使用した基準セットの作成 (CT).....	191
REXX の例.....	136	モデルからの基準セットの作成 (CM).....	191
第 6 章. データの編集.....	138	基準セットの編集 (E).....	191
データベースへの変更内容のコミット.....	138	基準セットの更新.....	192
同時編集とデータ・ロック.....	139	オプション 4.3 を使用してフォアグラウンドで 1 つの基準セットを更新.....	192
チェックポイント頻度の設定.....	139	オプション 4.6 を使用してフォアグラウンドまたはバッチ・ジョブで 1 つ以上の基準セットを更新.....	193
AUTOSAVE の使用.....	141	関係基準の変更.....	195
変更の取り消し.....	141	フィールド選択基準の変更.....	196
データの變更.....	141	第 9 章. 監査証跡報告書の印刷.....	198
個々のセグメント内のデータの変更.....	142	報告書に含まれる内容.....	198
可変長セグメントのサイズ・フィールドの編集.....	142	監査証跡データ・セットの作成方法.....	198
ストリングの検索と変更.....	143	監査証跡報告書の印刷方法.....	198
検索されるセグメントのシーケンス.....	143	SMF ログ・ファイル検索 JCL.....	200
ストリングの検索.....	144	監査証跡報告書.....	201
無効データの検出.....	144	第 II 部. 参照.....	204
データ内の無効数値フィールドの変更.....	145	第 10 章. パネルおよびフィールド.....	205

「Advanced Member Selection (拡張メンバー選択) パネル.....	205	「Extract Options (抽出オプション) パネル.....	305
「AGN Selection (AGN 選択) パネル.....	206	「Extract : To Data Set Specification (抽出: 受け入れ先データ・セット指定) パネル.....	308
「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力) パネル.....	208	「Field Attributes (フィールド属性) パネル - 英数字フィールド.....	311
「Batch Browse Options (バッチ・ブラウズ・オプション) パネル.....	215	「Field Attributes (フィールド属性) パネル - 数値フィールド.....	317
「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力) パネル.....	215	「Field Information (フィールド情報) パネル.....	324
「Batch Edit Options (バッチ編集オプション) パネル.....	222	「Field Selection Criteria (フィールド選択基準) パネル.....	326
「BMP Mode Options (BMP モード・オプション) パネル.....	224	「IMS™ Catalog Specification (カタログ指定) パネル.....	330
「BMP Mode Parameters (BMP モード・パラメータ) パネル.....	227	IMS™ Subsystem Specification (サブシステム指定) パネル.....	332
「Browse Entry (ブラウズ項目の入力) パネル.....	229	「IMS data (IMS データ) パネル.....	334
「Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択) パネル.....	236	「Initial Load Options (初期ロード・オプション) パネル.....	342
「Copybook Library List (コピーブック・ライブラリー・リスト) パネル.....	238	「Initialize Entry (項目の初期化) パネル.....	344
「Criteria Member Selection (基準メンバー選択) パネル.....	240	「Insert Root Segment (ルート・セグメントの挿入) パネル.....	347
「Criteria Set Entry (基準セットの入力) パネル.....	243	「Insert Segment (セグメントの挿入) パネル.....	349
「Criteria Set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティ) パネル.....	246	「Insert Segment Layout Selection (挿入: セグメント・レイアウト選択) パネル.....	354
「Data Set Selection (データ・セット選択) パネル.....	251	「Insert : Segment Selection (挿入: セグメント選択) パネル.....	355
「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示) パネル.....	252	「ISPF Settings (ISPF 設定) パネル.....	356
「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定) パネル.....	254	「JCL Submission (JCL 実行依頼) パネル.....	357
「Database Hierarchy (データベース階層) パネル.....	257	「Key Specification (キー指定) パネル.....	358
「Database Positioning (データベース位置決め) パネル.....	258	「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)	361
「Database Selection (データベース選択) パネル.....	261	「Load Options (ロード・オプション) パネル.....	367
「Date/Time Attributes (日付/時刻属性) パネル.....	263	「Logical Relationship Information (論理関係情報) パネル.....	369
「DBD Information (DBD 情報) パネル.....	267	「PCB Selection (PCB 選択) パネル.....	370
「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト) パネル.....	269	Primary Option Menu (基本オプション・メニュー).....	373
「Delete/Define Entry (項目の削除/定義) パネル.....	271	「Print Audit Trail (監査証跡の印刷) パネル.....	376
「DLI Mode Data Sets 1 (DLI モード・データ・セット 1) パネル.....	274	「Print Entry (印刷項目の入力) パネル.....	379
「DLI Mode Data Sets 2 (DLI モード・データ・セット 2) パネル.....	276	「Print Options (印刷オプション) パネル.....	386
「DLI Mode Options (DLI モード・オプション) パネル.....	279	「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット) パネル.....	387
「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメータ) パネル.....	282	「PSB Selection (PSB 選択) パネル.....	389
「Edit Entry (編集項目の入力) パネル.....	286	「Record Type Selection (レコード・タイプ選択) パネル.....	391
「Editor Options (エディター・オプション) パネル.....	293	「Redefines / Range Specifications (再定義/範囲の指定) パネル.....	392
「Extract Entry (抽出項目の入力) パネル.....	297	「Relationship Criteria (関係基準) パネル.....	394
		「Secondary Index Selection (2 次索引の選択) パネル.....	396
		「Segment Information (セグメント情報) パネル.....	397
		「Segment Layout (セグメント・レイアウト) パネル.....	399
		「Segment Layout Selection (セグメント・レイアウト選択) パネル.....	406

「Segment Selection (セグメント選択)」パネル.....	409	CE (エラー検出) 基本コマンド.....	471
「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」パネル.....	411	CHANGE 基本コマンド (編集のみ).....	473
「Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)」パネル.....	412	CHILD 基本コマンド.....	482
「Set HLASM Processing Options (HLASM 処理オプションの設定)」パネル.....	414	DBD 基本コマンド.....	483
「Set Language and compiler specifications (言語およびコンパイラ仕様の設定)」パネル.....	415	DBDLIST 基本コマンド.....	483
「Set Output Data Set Allocation Options (出力データ・セット割り振りオプション設定)」パネル.....	416	DELETE 基本コマンド (編集のみ).....	484
「Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)」パネル.....	419	DOWN 基本コマンド.....	484
「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネル.....	420	DPRINT 基本コマンド.....	485
「Set Temporary Data Set Allocation Options (一時データ・セット割り振りオプション設定)」パネル.....	425	EDIT 基本コマンド.....	486
「Set Trace options (トレース・オプションの設定)」パネル.....	426	END 基本コマンド.....	487
「Settings Menu (設定メニュー)」パネル.....	428	FE (エラー検出) 基本コマンド.....	487
「Subset Selection (サブセット選択)」パネル.....	430	FIELD 基本コマンド.....	488
「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル.....	432	FIND 基本コマンド.....	489
「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」パネル.....	435	FMAP 基本コマンド.....	498
「System Settings (システム設定)」パネル.....	437	FORMAT 基本コマンド.....	499
「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネル.....	439	FREE 基本コマンド.....	500
「Template Entry (テンプレート項目の入力)」パネル.....	440	GE 基本コマンド.....	501
「Template Member Selection (テンプレート・メンバー選択)」パネル.....	442	HEX 基本コマンド.....	501
「Template Specification (テンプレート指定)」パネル.....	444	HIDE 基本コマンド.....	502
「Template Update : New Database Segments (テンプレートの更新: 新規データベース・セグメント)」パネル.....	449	HIERARCH 基本コマンド.....	503
「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」パネル.....	450	HOLD 基本コマンド.....	504
「Template/View/Criteria Set Menu (テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー)」パネル.....	456	INSERT 基本コマンド (編集のみ).....	504
「Utility Menu (ユーティリティ・メニュー)」パネル.....	457	JUST 基本コマンド.....	506
「View Entry (ビュー項目の入力)」パネル.....	458	KEY 基本コマンド.....	506
「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」パネル.....	460	LEFT 基本コマンド.....	507
「View Update Utility (ビューの更新ユーティリティ)」パネル.....	462	LHEX 基本コマンド.....	509
第 11 章. コマンド.....	467	LIBLIST 基本コマンド.....	510
ABOUT 基本コマンド.....	467	LOCATE 基本コマンド.....	510
AUTOSAVE 基本コマンド (編集のみ).....	467	LZEROプライマリコマンド.....	513
BOTTOM 基本コマンド.....	468	NEXT 基本コマンド.....	514
CANCEL 基本コマンド.....	469	OFFSET 基本コマンド.....	516
CAPS 基本コマンド.....	470	ORDER 基本コマンド.....	516
CCSID 基本コマンド.....	471	PARENT 基本コマンド.....	517
		PIC 基本コマンド.....	518
		PREVIOUS 基本コマンド.....	518
		QUIT 基本コマンド.....	520
		RCHANGE 基本コマンド.....	520
		RDF 基本コマンド.....	521
		REFRESH 基本コマンド.....	521
		REFS 基本コマンド.....	521
		RELATED 基本コマンド.....	522
		REPEAT 基本コマンド (編集のみ).....	522
		RESET 基本コマンド.....	523
		RFIND 基本コマンド.....	525
		RIGHT 基本コマンド.....	525
		ROOT 基本コマンド.....	526
		SAVE 基本コマンド (編集のみ).....	527

SCOPE 基本コマンド.....	527	ロード (ILB).....	607
SEGMENT 基本コマンド.....	528	FM/IMS ロード・ステップの説明.....	608
SEGSTATS 基本コマンド.....	529	FMNIMSIN 制御ステートメント.....	610
SELECT ALL 基本コマンド.....	529	データベース・ロード統計報告書.....	615
SHOW (FLD) 基本コマンド.....	530	「Database Load Summary (データベース・ロード要約)」報告書.....	616
SHOW (REC) 基本コマンド.....	531	データベース・ロード診断報告書.....	618
SHOWCOB 基本コマンド.....	531	例.....	618
SLOC 基本コマンド.....	532	印刷 (IPR).....	619
SORT 基本コマンド.....	532	FMNIMSIN 制御ステートメント.....	621
SSID 基本コマンド.....	536	データベース印刷要約.....	626
STR 基本コマンド.....	536	データベース印刷統計報告書.....	629
TOP 基本コマンド.....	537	例.....	629
TPRINT 基本コマンド.....	537	バッチ編集 (IEB).....	630
TWIN 基本コマンド.....	537	FMNIMSIN 制御ステートメント.....	633
TYPE 基本コマンド.....	538	REXX IEB 呼び出し.....	638
UNDO 基本コマンド.....	539	ビューを使用した検索.....	638
UP 基本コマンド.....	539	ビューを使用しない検索.....	651
UPDATE 基本コマンド.....	540	例.....	669
VER 基本コマンド.....	541	IEB および IBB で定義された REXX 関数を使用する際の一般的ヒント.....	670
VIEW 基本コマンド.....	541	filerc 変数の使用.....	672
VSAVE 基本コマンド.....	542	バッチ・ブラウズ (IBB).....	672
WIDTH 基本コマンド.....	542	FMNIMSIN 制御ステートメント.....	674
XKEY 基本コマンド.....	543	REXX IBB 呼び出し.....	679
ZOOM 基本コマンド.....	544	初期化 (DIB).....	681
基本コマンドの使用.....	544	FMNIMSIN 制御ステートメント.....	683
ブラウズ時.....	544	例.....	685
編集の場合.....	546	Print Audit Report (AUD).....	687
編集時と表示時の基本コマンドの相違.....	547	例.....	689
行コマンド.....	547	メッセージ..... 694	
D (削除 - 編集のみ).....	547	File Manager IMS メッセージ..... 694	
FC、FH、FL、FS、FT (形式).....	547	サポート・リソース..... 730	
I (挿入 - 編集のみ).....	547	特記事項.....	dccxxxi
K (キー).....	547	用語集.....	dccxxxv
R (繰り返し - 編集のみ).....	548	索引.....	742
RA (すべて繰り返し - 編集のみ).....	548		
V (ビュー).....	548		
第 12 章. バッチ参照..... 549			
このリファレンス章の使用方法.....	549		
IMS テンプレートの更新 (ITU).....	550		
IMS View Update (IMS ビューの更新) (IVU).....	565		
Criteria set update (基準セットの更新) (ICU).....	570		
抽出 (IXB).....	577		
FMNIMSIN 制御ステートメント.....	578		
データベース抽出要約報告書.....	600		
データベース抽出統計報告書.....	602		
データ・レイアウトの抽出.....	603		
例.....	606		

ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス (IMS™ データ用)

本書では、File Manager for z/OS IMS™コンポーネント (FM/IMS) ユーザーのためのガイドと参照情報を提供します。

本書について

本書は、IBM® File Manager for z/OS® for IMS Component のユーザーのためのガイドと参照情報を提供します。

File Manager for z/OS® には、さまざまな環境で作業するために、またはさまざまなデータ形式を処理するために4つの“種類”の File Manager が含まれています。

- IMS™ データ処理用の **IMS コンポーネント** (本書に記載)
- File Manager Base component は、QSAM データ・セット、VSAM データ・セット、または PDS メンバーを処理します。
- **Db2 Component** は、Db2® データを処理します。
- **FM/CICS** は、CICS® リソースを処理します。

本書では、**IMS コンポーネント**のみについて説明します。File Manager Base component、Db2 コンポーネント、CICS コンポーネントについて詳しくは、以下の資料を参照してください。

- *File Manager User's Guide and Reference for IMS Data*
- *File Manager User's Guide and Reference for DB2 Data*
- *File Manager User's Guide and Reference for CICS*

本書において、以降では FM/IMS という用語は File Manager IMS コンポーネントを意味します。

本書は以下の2部に分かれています。

第1部 FM/IMS での作業

この部では、FM/IMS を使用して実行することができるタスクについて説明します。ステップバイステップの手順を中心に説明します。また、この部では、FM/IMS の概念も説明します。

第2部 参照

この部では、FM/IMS のエレメントに関する詳細な参照情報を記載します。

FM/IMS パネル、コマンド、および関数を検索して参照できるようになっています。

これらの参照できる資料は、以下の通りです。

- **パネルおよびフィールド:** FM/IMS のパネルをリストし、パネル内の各フィールドの定義を紹介し、該当する場合は、各フィールドに有効な値の範囲をリストします。
- **コマンド:** 基本コマンドおよび行コマンドをリストし、その構文、使用方法、および同等の関数について簡単に説明します。
- **関数:** FM/IMS の関数をリストし、その構文、使用方法、および使用可能なパラメーターについて説明します。

付録は File Manager IMS メッセージから構成されており、すべての FM/IMS バッチ・エラー・メッセージについてフルテキストで説明しています。

本書の対象読者

本書の対象読者は、以下の通りです。

- プログラムをテストおよびデバッグする必要がある、アプリケーション・プログラマー
- 問題を分析および修正する必要がある、サービス・サポート担当員
- 大量データを移動するなどのルーチン作業を行う必要のある、システム管理者およびシステム・オペレーター

FM/IMS は、IMS データベース内のデータの編集、ブラウズ、抽出、ロード、および保守を行うための強力なユーティリティ機能のセットです。アプリケーション・プログラマーおよびデータベース管理者による使用を対象とした強力な機能が 1 つの製品として提供されています。

本書の読者は ISPF および IMS データベースの使用に精通しているものと想定しています。

バッチ・ジョブで FM/IMS 機能を使用するには、JCL に精通している必要があります。

REXX™ プロシージャで FM/IMS 機能を使用するには、REXX プログラミング言語に習熟している必要があります。

前提条件および関連情報

File Manager の資料は以下の作業を支援します。

File Manager の計画、インストール、カスタマイズ、および保守

最初に *File Manager Customization Guide* を参照してください。この資料の中で、一部の情報について File Manager Program Directory (プロダクト・テープと一緒に出荷されている) を参照するように指示している場合があります。

FM/IMS の使用

本書 [*File Manager User's Guide and Reference for IMS Data*] は、FM/IMS を使用するためのガイドです。ISPF で FM/IMS を使用している時は、オンライン・ヘルプも参照できます。

構文図の見方

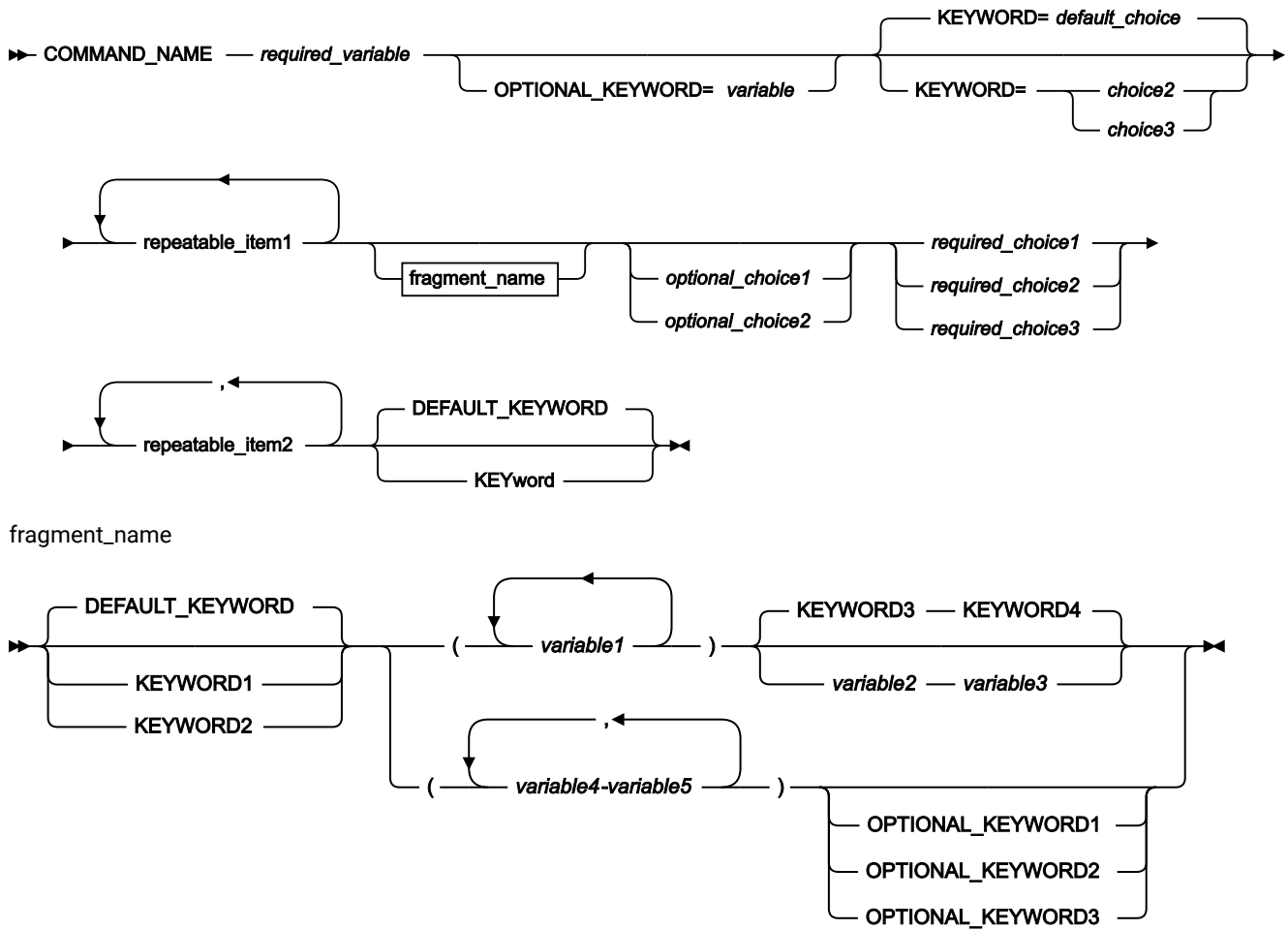
本書で説明するコマンドの構文構造は、構文図で示されています。

図 1: 構文図 ページ xii には、シンタックスダイアグラムのサンプルが示されており、そこには、「かどうか」などを示すさまざまな表記が含まれています。

- 項目がキーワードであるか、変数であるか。
- 項目が必須であるか、オプションであるか。
- 選択が可能であるかどうか。
- 値を指定しない場合、デフォルトを適用するかどうか。
- 項目の反復が可能であるかどうか。

図 1. 構文図

図 1. Syntax



fragment_name

構文図を読んで理解するためのヒントをいくつか示します。

読む順序

構文図は、直線のパスをたどって左から右、上から下に読みます。

▶— 記号は、ステートメントの開始を示しています。

—▶ 記号は、ステートメントが次の行に継続していることを示しています。

▶— 記号は、ステートメントが前の行から継続していることを示しています。

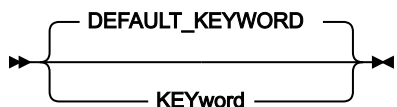
—▶ 記号は、ステートメントの終了を示しています。

キーワード

キーワードは、大文字で示します。

▶ COMMAND_NAME ▶

キーワードの最初の数文字を入力するだけでよいことがあります。この場合、キーワードの必須部分は大文字で示します。



この例では、「KEY」、「KEYW」、「KEYWO」、「KEYWOR」または「KEYWORD」と入力できます。

短縮したキーワードまたはキーワード全体を入力する場合、示されたとおりに正確に入力する必要があります。

変数

変数は、小文字で示します。変数はユーザーが指定する名前または値を表します。

▶▶ *required_variable* ◀◀

必須項目

必須項目は、水平線 (メインパス) 上に示されます。

▶▶ **COMMAND_NAME** — *required_variable* ◀◀

オプション項目

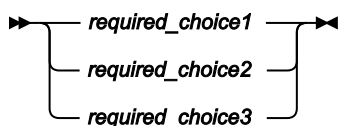
オプション項目は、メインパスの下に示されます。



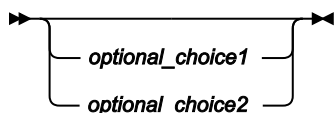
項目の選択

複数の項目から選択可能な場合、これらの項目は縦方向に重ねて示されます。

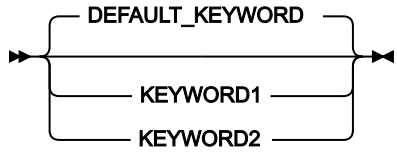
複数の項目から 1 項目を選択する必要がある場合には、項目のいずれかがメインパス上に表示されます。



複数の項目から任意で 1 項目を選択する場合は、縦にスタックされた選択項目全体がメインパスの線よりも下に表示されます。

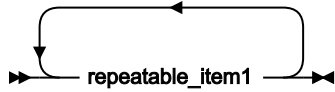


いずれの項目も選択しなかったときにデフォルト値が適用される場合は、デフォルト値をメインパスの上方に示します。

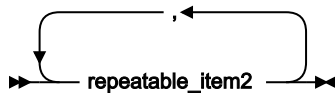


反復可能な項目

メインパスの上にある左向きの矢印は、繰り返し可能な項目を示します。

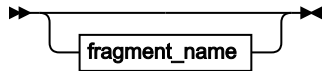


反復可能な項目の間に分離文字 (コンマなど) を指定する必要がある場合は、左に戻る矢印付きの線の中で、指定する必要がある分離文字を示します。

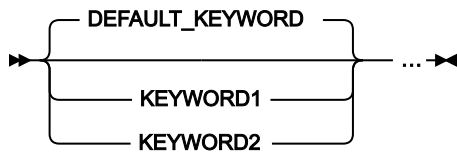


フラグメント

構文図を読みやすくするために、構文のセクションまたはフラグメントを分けて示すことがあります。



fragment_name



変更の要約

2024年6月、V15R1M5

本書のこの版では、File Manager バージョン 15 リリース 1 モディフィケーション・レベル 5 に適用可能な情報を提供します。これには、前のバージョンの情報に対する軽微な変更や説明が含まれています。

2024年3月、V15R1M4

本書のこの版では、File Manager バージョン 15 リリース 1 モディフィケーション・レベル 4 に適用可能な情報を提供します。これには、前のバージョンの情報に対する軽微な変更や説明が含まれています。

2023年10月、V15R1M3

本書のこの版では、File Manager バージョン 15 リリース 1 モディフィケーション・レベル 3 に適用可能な情報を提供します。これには、前のバージョンの情報に対する軽微な変更や説明が含まれています。

2023年6月、V15R1M2

本書のこの版では、File Manager バージョン 15 リリース 1 モディフィケーション・レベル 2 に適用可能な情報を提供します。これには、前のバージョンの情報に対する軽微な変更や説明が含まれています。

2023年3月、V15R1M1

本書のこの版では、File Manager バージョン 15 リリース 1 モディフィケーション・レベル 1 に適用可能な情報を提供します。これには、前のバージョンの情報に対する軽微な変更や説明が含まれています。

2022年10月、V15R1 初版の変更内容

本書のこの版では、File Manager バージョン 15 リリース 1 モディフィケーション・レベル 0 に適用可能な情報を提供します。

第 I 部. FM/IMS での作業

第1章. 概要

File Manager の IMS コンポーネント (FM/IMS) は ISPF アプリケーションの 1 つであり、IMS データベース内に保管されたデータを操作することができます。FM/IMS を使用すると、以下が可能となります。

- 1 つ以上の IMS セグメント・オカレンスからのデータを表示し、データベース内での他のセグメント・タイプとの関係を示す。
- IMS セグメント・オカレンス内のデータを編集および更新する。
- セグメント・オカレンスを IMS データベースへ挿入する。
- セグメント・オカレンスを IMS データベースから削除する。
- データベース・データ・セットを削除/定義、および初期化する。
- IMS データのサブセットをフラット・ファイルへ抽出する。
- データを IMS データベースへロードする。
- 選択したデータまたはデータベース全体を印刷する。

多くのタスクで、テンプレートおよびビューと呼ばれる FM/IMS エlement を使用して、コピーブックからのフィールド定義に基づいて、データベースの論理ビューを定義することができます。ビューとデータベースを関連付けると、以下のことが可能です。

- コピーブックで定義されているセグメント・レイアウトに従ってデータを形式設定する。
- 表示、編集、または抽出するセグメント・タイプおよびフィールドを選択する。
- フィールドを表示する順序の変更、およびフィールド・ヘディングの調整を行う。
- 使用するデータを識別および選択するための基準を作成する。



注: File Manager は、PDS(E) または CA-Panvalet ライブラリーに保管されているコピーブックをサポートします。

FM/IMS には、IMS データベースに接続するために柔軟な方法が多数用意されています。例えば、BMP モードでは、オンライン・マルチユーザー・データベースに接続して、データを操作することができます。DLI モードでは、単一ユーザーとしてオフラインでデータを操作したり、または他のユーザーとデータを共用したりすることができます。ご使用のシステムで許可されていれば、FM/IMS により DBD から PSB を動的に作成できるため、PSB を作成せずにデータベースにアクセスすることもできます。

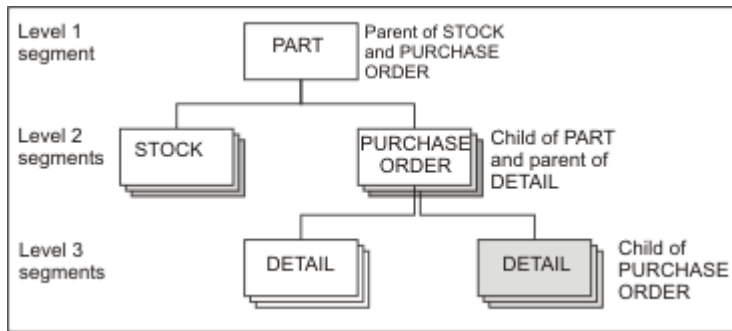
さらに、FM/IMS では、いくつかのバッチ関数も使用できます。FM/IMS バッチ編集 (IEB) は、セグメントの挿入、更新、検索、削除、または印刷、およびビューの作成を行うことができる REXX プロシージャーを実行します。FM/IMS 印刷 (IPR) では、ビューに基づいて、使用可能ないくつかの表示形式のいずれかでデータベース全体を印刷したり、データベース内で選択したサブセットを印刷したりできます。

データベースおよびセグメント


FM/IMS を使用して、IMS データ編成モデルを操作することができます。IMS は、データを保管する基本方式として階層モデルを使用します。このモデルでは、個々のエンティティー・タイプは、階層構造の中のセグメントとしてインプリメントされます。

階層データ構造の基本構築エレメントは、データのセグメント間の親/子関係です。親セグメントの各オカレンス (インスタンス) は、子セグメントの 0、1、2、またはそれ以上のオカレンスと関連付けられています。それぞれの子セグメントのオカレンスは、親セグメントの 1 つの (1 つだけの) オカレンスと関連付けられています。親セグメントのないセグメント (すなわち、最上部のセグメント) は、ルート・セグメントと呼ばれます。場合によっては、セグメント・タイプ (すなわち、セグメントの種類) とセグメント・オカレンス (すなわち、セグメント・タイプの特定のインスタンス) を区別する必要があります。

図 3. 階層データ構造



IMS では、「データベース」という用語は一般に、1 つの階層のインプリメンテーション (すなわち、構造内で定義されているさまざまなセグメント・タイプとそれらタイプ間の関係) を記述するのに使用します。図 3: 階層データ構造 ページ 18 では、従属する STOCK、ORDER、および DETAIL セグメントを持つ各 PART セグメントが、1 つのデータベース・レコードを構成しています。すべての PARTS についてこれらレコードをすべて収集したものを データベース (すなわち、PARTS データベース) と呼びます。

 **注:** 上記の情報は、2000 年 1 月発行の IBM Redbook、「IMS Primer」(SG24-5352-00) の 69 ページから抜粋修正したものです。

階層構造は、セグメントと、必要なアクセス・パスとの間の関係に基づいてデータベースの設計者によって決定されます。この構造は、データベース定義 (DBD) で定義されます。FM/IMS を介してデータベースにアクセスするには、DBD が保管されているデータ・セット・メンバーを指定する必要があります。また、DBD は、データベース・タイプ (アクセス方式) およびセグメント・データが保管されているデータ・セットの DD 名も定義します。これらの DDNAMES に割り振られるデータ・セットの名前は、DFSMDA 動的割り振りメンバー (BMP モードで必須) に保管されるか、ユーザーによって定義されます。DL/I モード・アクセスでは、ご使用のシステムで許可されている場合は、ユーザーが指定したデータ・セット名が受け入れられます。

FM/IMS は、データ編成の IMS モデルを使用して、多数の異なる IMS データベース・タイプをサポートします。これらのタイプは、以下の通りです。

- HDAM - 階層直接アクセス方式
- HIDAM - 階層索引直接アクセス方式
- HISAM - 階層索引順次アクセス方式
- SHISAM - 単純階層索引順次アクセス方式
- HSAM - 階層順次アクセス方式 (BSAM あるいは QSAM のみ)
- SHSAM - 単純階層順次アクセス方式 (BSAM あるいは QSAM)

- INDEX - 索引データベース
- DEDB - データ入力データベース (ファースト・パス)
- MSDB - 主記憶データベース (ファースト・パス)
- PHDAM - 区画に分割された階層直接アクセス方式 (HALDB)
- PHIDAM - 区画に分割された階層索引直接アクセス方式 (HALDB)
- PSINDEX - 区画に分割された 2 次索引 (HALDB)

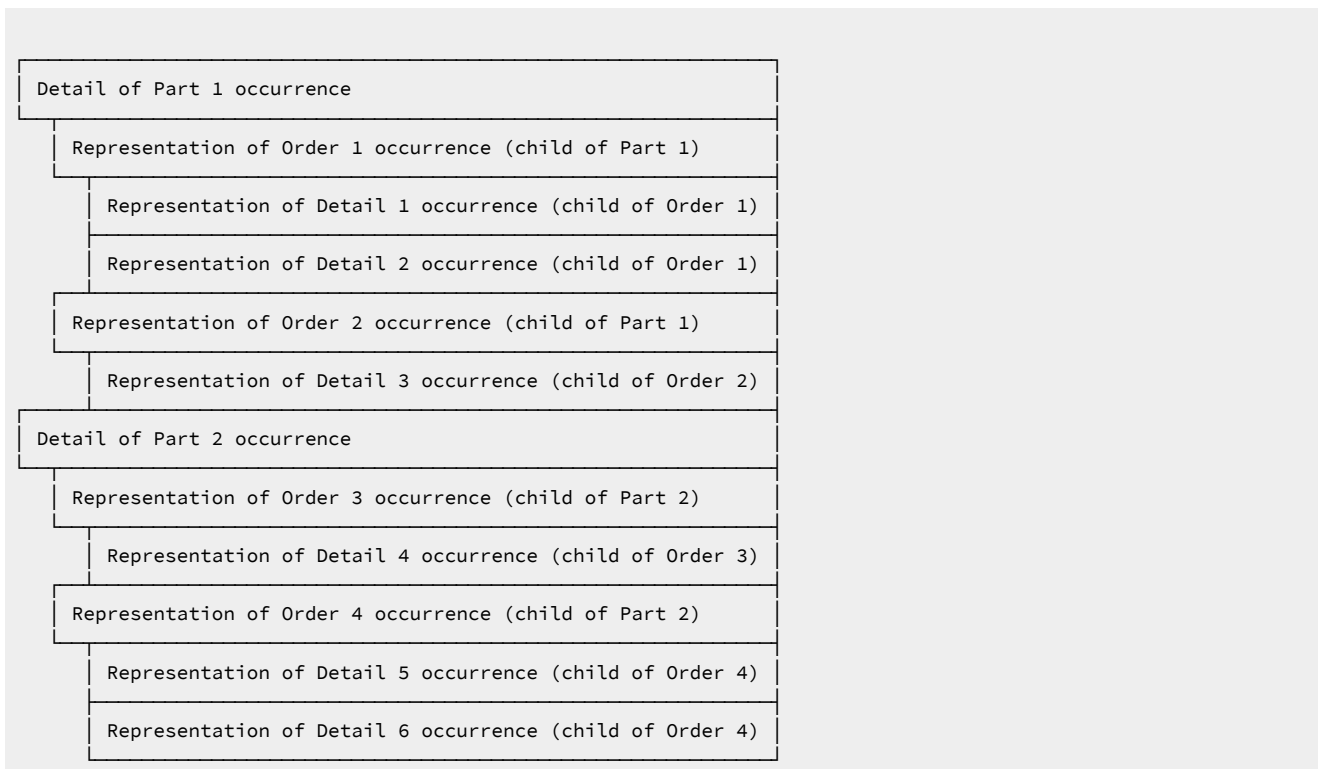
FM/IMS は、汎用順次アクセス方式 (GSAM) データベースをサポートしません。GSAM データベースは順次データ・セットであるため、File Manager Base component を使用してアクセスすることができます。

セグメント・データは、使用中の DBD で定義されている規則に従った方法であれば、どのような方法でも操作することができます。セグメントは、ユーザーの設定、およびユーザーが提供する情報によって、さまざまな形式で表示することができます。CHAR、HEX、および LHEX の表示形式では、セグメント・データは保管されたままの状態に表示されます。TABL および SNGL 形式では、テンプレートおよびビューを使用して、それぞれのフィールドごとにデータを列または行で表示します。

FM/IMS と階層データベース

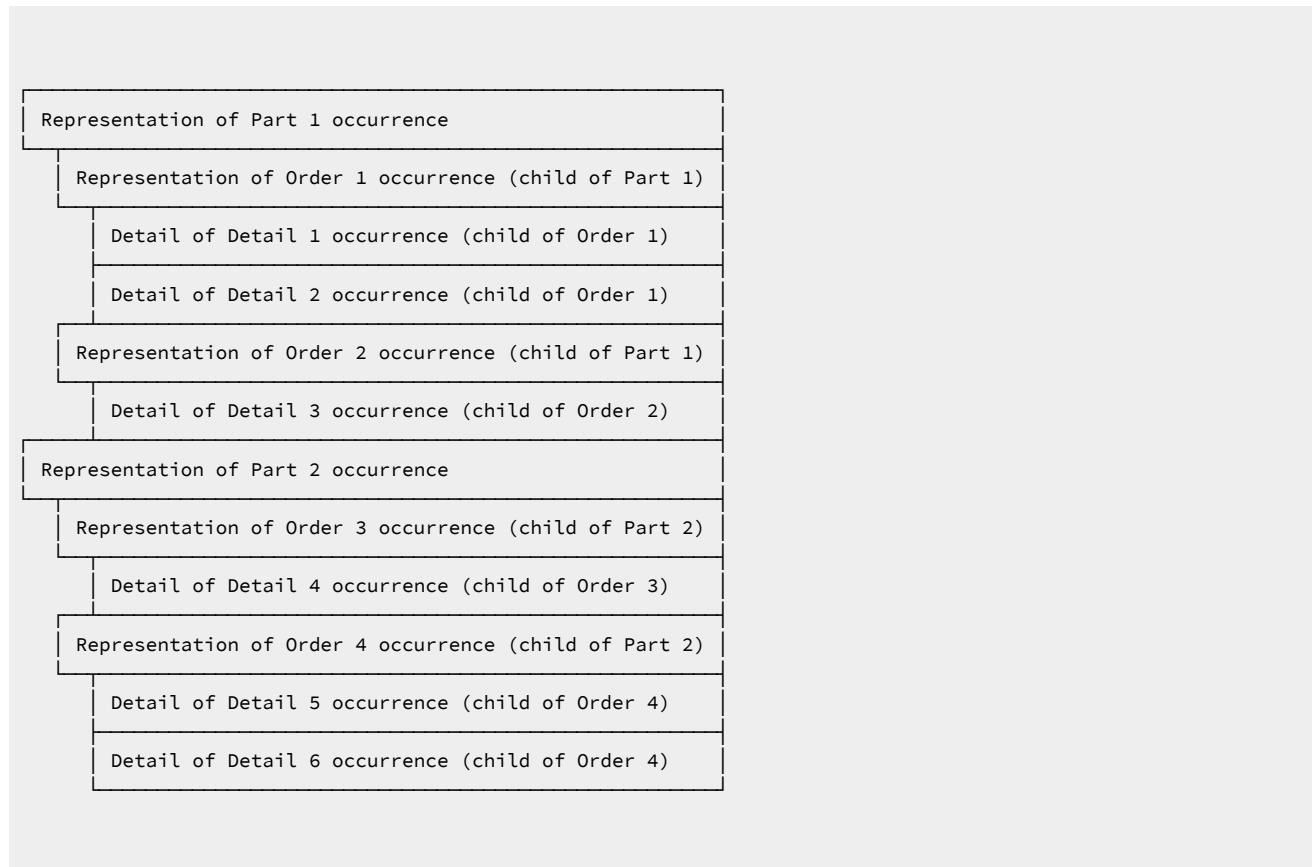
FM/IMS では、IMS データベースでのセグメントの階層関係を表示したり、各セグメントとその親子セグメントとの関連付けを表示したりすることができます。また、FM/IMS では、親セグメントと子セグメントの表示を対話式に切り替えることができます。例えば、PARTS データベース内の PARTS、PURCHASE ORDER、および DETAILS セグメントを表示するように選択した場合は、FM/IMS は PARTS セグメントと階層内のその子セグメントを表示します。

図 4. PARTS オカレンスと子セグメント



単純なコマンドを使用して、DETAILS セグメントの表示に切り替えて、セグメントとその親との関係を表示できます。

図 5. DETAILS オカレンスと親セグメント



FM/IMS における DLI モードと BMP モード

FM/IMS から、DLI (データ言語/I) モードまたは BMP (バッチ・メッセージ処理) モードのいずれかで IMS データベースに接続することができます。一般的に、開発またはテスト環境で作業していて、ライブ環境に影響を与えずにデータの独自のコピーを操作できるようにするときに、DLI モードの使用を選択します。一般に、複数のユーザーがデータのアクセスおよび更新を同時に行えることが重要となる、「ライブ」環境 (つまり実稼働環境) でデータベースに接続するには BMP モードを使用します。

DLI モードでは、FM/IMS は IMS データベース・データ・セットを TSO アドレス・スペースに割り振ります。内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) を使用しない場合、データベースの更新を行うことができるのは、単一ユーザーのみです。IRLM を使用して DLI モードでのアクセスを管理することで、複数のユーザーが同じデータベースを更新できるようになります。DLI モードでのマルチユーザー・アクセスを可能にするには、データベースが DISP=SHR で割り振られていることを確認しなければなりません。

BMP モードでは、データベース・データ・セットは IMS 制御領域に割り振られるため、複数のユーザーが同じデータベースを更新することができます。

FM/IMS のインストール・プロセスでは、FM/IMS 管理者が FM/IMS 関数によるアクセスを許可した IMS サブシステムごとに、デフォルトの IMS 制御情報が用意されています。制御情報の大部分に対して、BMP モード用と DLI モード用で異なる

値を指定することができます。インストール・プロセスでは、FM/IMS 管理者は、指定された各デフォルト値をユーザーがオーバーライドできるかどうかを指定することもできます。例えば、次のように指定できます。

- 実動サブシステムでは、いずれの IMS サブシステム設定もオーバーライドできないようにします。
- テスト・サブシステムでは、関数が DLI モードで実行されている場合に使用される IMS 設定はオーバーライドできるが、関数が BMP モードで実行されている場合に使用される IMS 設定はオーバーライドできないようにします。
- 開発システムでは、すべての IMS サブシステム設定をオーバーライドできるようにします。

動的および静的 PSB

PSB (プログラム仕様ブロック) は、IMS データベースへのアクセスを定義および制御するロード・ライブラリー・メンバーです。1 つ以上の PCB (プログラム連絡ブロック) から構成されており、それぞれが個々のデータベースへのアクセスを制御します。

FM/IMS では、事前作成の PSB (静的 PSB と呼ばれる) を使用するか、または FM/IMS に PSB を生成させる (動的 PSB と呼ばれる) ことができます。

静的 PSB は通常、データベース管理者が作成し、アクセスおよび制御に関する 厳しい規則が含まれています。一般に、静的 PSB は、ライブ (つまり、実稼働) 環境への接続時に使用されます。静的 PSB を使用している場合、FM/IMS は、ユーザーが指定する、既存の PSB ロード・ライブラリー・メンバーを使用します。PSB に複数の PCB が含まれている場合には、使用する PCB を選択することができます。

動的 PSB は、指定した DBD で検出される情報を使用して、FM/IMS によって生成されます。動的 PSB では一般的に、DBD にリストされているセグメントすべてに対する全アクセス権限が許可されるため、動的 PSB はテストまたは開発環境には適していますが、実稼働環境では使用が制限されることがよくあります。動的 PSB は、FM/IMS システム管理者が FM/IMS のセットアップでその使用を許可したときのみ、使用できます。動的 PSB を使用しているときには、2 次索引 (定義されている場合) を使用した、データベースへのアクセスを選択することができます。

テンプレートおよびビュー

FM/IMS テンプレートは、IMS データベースのフィールドおよびセグメントを選択および形式設定するために使用できる情報の集合です。テンプレートは、編集、ブラウズ、抽出、および印刷時に使用するデータの論理ビューを FM/IMS に提供します。

テンプレートは、COBOL、HLASM、または PL/I コピーブックに基づきます。

FM/IMS コンポーネント、File Manager Base component および FM/Db2 コンポーネントはすべて、テンプレートを使用します。ただし、これらのテンプレートは交換可能ではありません。例えば、IMS データに File Manager Base component テンプレートを使用することはできません。

テンプレートおよびビューを使用する理由

一般に、アプリケーション・データが入っているデータベースは、データベース内の各セグメントがいくつかのフィールドから構成される、うまく定義された構造になっています。それぞれのフィールドには、顧客の名前、製品コード、またはデータベースに保管可能な値など、それぞれ別個のデータ項目が入っています。このデータはさまざまなタイプにする

ことができ、一部のフィールドには文字データが入り、他のフィールドには 2 進数形式または パック 10 進数形式でエンコードされる数値データが入ります。

このようなデータベースを効率的に処理するには、セグメント・レイアウトを認識し、個々のフィールドを選択して処理することを可能にするツールが必要です。

例えば、IMS テスト・プログラム DFSDDLTO を使用してアプリケーション・データベースを印刷すると、各セグメントが文字ストリングとして表示されるため、セグメントが個々のフィールドから構成されていることは示されません。2 進数フォーマットまたはパック 10 進数フォーマットでエンコードされた数値データのいったフィールドは、2 行になった 16 進値で表されます。

各フィールドの列の境界がわかっていても、DFSDDLTO を使用してアプリケーション・データを 保守することは、難しい時間のかかる作業になります。

- 特定のフィールドのデータを探して置き換えたい場合には、フィールドの長さを変えないように注意する必要があります。 そうしないと、以降のフィールドの境界が移動されてしまい、セグメント構造が壊れる可能性があります。
- データが 2 進数やパック 10 進数でエンコードされている数値フィールドのデータを探して置き換えたい場合には、数値でなくその形式 (通常は 16 進値) で検索値や置き換え値を指定する必要があります。
- 編集しているデータベースに (それぞれが 1 つまたはいくつかのレイアウトを持つ) いくつかのセグメント・タイプが入っており、1 つのセグメント/レイアウト・タイプのデータだけを検索して置き換えたい場合には、他のセグメント/レイアウト・タイプを編集作業から除外する必要があります。

上記を説明するため、DFSDDLTO の実行後に、SDFS に表示された英数字フィールドと数値フィールドの混合が入っているセグメントを以下に示します。

```

                                100003599000015970004282
SEGMENT      =(BROOME          112300666980800170C0011120C005C62)

DBPCB  LEV=01  SEG=SHIRE      RET CODE=   KFDB LEN=0020  KEY FDB=(BROOME      )
.....
    
```

上記のセグメントでは、最後の 2 バイト (X'8622') は、2 進数値フィールドに保管されます。この値と等価の 10 進数は 34338 です。この値を 12151 に変更するには、以下を行う必要があります。

1. セグメント・データの 16 進値を表示します。
2. フィールドが占めている桁位置を判別します。
3. 数値 12151 を等価の 16 進値 (X'2F77') に変換します。
4. 数値フィールドの古い 16 進値 (X'8622') に新しい値を上書きするか、あるいは CHANGE コマンドを使用して新旧の 16 進値を入れ替えます。

同じセグメントを SNGL 形式で表示すると以下ようになります。

図 6. データベース・セグメント

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS          Browse : IMS Database DJ1E
                SHOW SUP ON  Scope DB  Format SNGL
Segment SHIRE          Level: 1
Concatenated key value: DENMARK

Top Line is 1   of 9

Current 01: SHIRE-TOWN
Ref Field      Typ  Len  Data
 3 SHIRE-NAME  AN   20 K DENMARK
 4 SHIRE-TYPE  AN    1  1
 5 SHIRE-CODE1 ZD    3  305
 6 SHIRE-CODE2 ZD    5  244
 7 SHIRE-YEAR  BI    2  6280
 8 SHIRE-BRICK PD    8  606363187610
 9 SHIRE-WOODEN PD    8  2034233224332
10 SHIRE-SCHOOL PD    4  3020312
11 SHIRE-GOLF  BI    2  12608
*** End of record ***

Command ==>
F1=Help      F2=Format    F3=Exit      F4=CRetriev  F5=RFind     F6=RChange
F7=Up        F8=Down      F9=Swap      F10=Previous F11=Next     F12=Cancel

```

FM/IMS では、上記のレコードの SHIRE-GOLF 2 進数値フィールドの数値を 12608 から 12151 に変更するためには、その数値を上書きするか、または次のコマンドを入力します。

```
CHANGE 12608 12151 #11
```

ビューで実行できること

ビューをデータベースに適用する場合には、以下のようにします。

・フィールドを形式設定および編集する

そのデータ・タイプに従って、フィールドを表示、印刷、および編集することができます。例えば、2 進数値フィールドは、2 進値の文字表現としてではなく、真の数値として表示されます。

編集時には、形式設定された数値フィールド値を、上書きするかまたは CHANGE コマンドを使用して別の数値に置き換えることができます。FM/IMS は、元の 2 進値をセグメントに保管します。

表示または印刷するフィールドを選択できます。データのブラウズ時または編集時には、コマンド (FIND または CHANGE など) の有効範囲を特定のフィールドに制限することができます。

フィールドを表示または印刷する順序を変更できます。

数値フィールドの場合には、先行ゼロを表示するか、または抑制 (例えば、00057 は 57 として表示および印刷されます) することができます。デフォルトでは先行ゼロは抑制されます。

・レイアウト・タイプを指定して、そのタイプのセグメントを選択する

セグメント・タイプの選択のほかに、次の 2 つのレベルの基準を使用してセグメントを選択できます。

◦ レイアウト識別基準

セグメント・レイアウトは、その固有の特性がテンプレート内で識別されるため、File Manager は同じセグメント内の他のレイアウトと区別することができます。ビューでは、そのレイアウト・タイプに基づいて、使用するセグメント・オカレンスを選択できます。

◦ フィールド選択基準

あるセグメント・オカレンスが特定のレイアウトに属しているものとして識別されたら、フィールド値の選択基準を指定して、使用する特定のレイアウト・タイプのオカレンスを絞り込むことができます。

ビューを使用できる場所

ビューを使用して、データをブラウズ、編集、抽出、および印刷することができます。以下の表は、ダイアログ (ISPF で File Manager を使用している場合) およびテンプレートを使用できるバッチ関数をリストしています。

タスク	ダイアログ	バッチ関数
データのブラウズ	「Browse (ブラウズ)」 (オプション 1)	IBB
データの編集	「Edit (編集)」 (オプション 2)	IEB
データの印刷	「Print (印刷)」 (オプション 3.5)	IPR
抽出	「Extract (抽出)」 (オプション 3.3)	

上記のダイアログまたはバッチ関数のいずれでも、既存のビューを提供したり、テンプレートから即座にビューを作成したりすることができます。

HALDB 区画および DEDB 領域の処理

FM/IMS では、HALDB (ハイ・アベイラビリティ・ラージ・データベース) および DEDB (高速機能高速処理データベース) に保管されたデータを処理できます。これらのデータベース内のデータは、区画 (HALDB) および領域 (DEDB) に保管されます。

HALDB 区画または DEDB 領域が使用できないことがあります。例えば、IMS ユーティリティを実行できるように区画または領域が停止されているとき、あるいは、区画または領域に関連したエラーが発生した場合です。ただし、これにより、FM/IMS が、使用可能なこれらの区画または領域内のデータの処理を妨げられることはありません。

FM/IMS では、ブラウズまたは編集に使用不可の区画または領域が検出された場合、データが使用不可であることを示すために、“*unavailable partition (使用不可区画)/area (領域)*” という行が表示されます。後でデータが使用可能になった場合、FM/IMS は「*unavailable partition (使用不可区画)/ area (領域)*」という行をデータで置き換えます。グローバル編集変更 (CHANGE ALL など) を行っている場合には、変更は使用不可のデータには適用されません。

FM/IMS がロードまたは抽出ジョブの実行中に使用不可の区画または領域が検出しても、FM/IMSは、データベースの処理を続行し、使用可能な区画または領域からのロード、または使用可能な区画または領域への抽出を行います。このジョブは、戻りコード 4 で完了し、ジョブからの報告書には、データベースの処理中にデータが使用不可であったことが示され

ます。完全なデータベースをロードまたは抽出する場合には、すべてのデータを使用可能にするためのステップを実行してから、ロードまたは抽出を再実行する必要があります。

FM/IMS が、バッチ印刷ジョブの実行中に使用不可な区画または領域を検出した場合、FM/IMSは、「unavailable partition (使用不可区画)/area (領域)」を印刷し、データベースの処理を続行します。このジョブは、戻りコード 4 で完了し、データベースの処理中にデータが使用不可であったことが示されます。

IMS バッチ (IEB) ジョブの実行中に、FM/IMS で使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域が検出されたときの必要なアクションについては、ユーザーが判断する必要があります。DELIMS、GETIMS、ISRTIMS、または REPLIMS 関数の実行中に、FM/IMS で使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域が検出された場合、関数は戻りコード 8 を受け取り、ISPF 変数 FMSTATUS には、以下の IMS 状況コードが示されます。

- FH - 使用不可の DEDB 領域の場合。
- BA - 使用不可の HALDB 区画の場合。

第 2 章. File ManagerIMS™ のシステム要件

FM/IMS は以下をサポートします。

- IMS™ バージョン 13
- IMS™ バージョン 14
- IMS™ バージョン 15
- IMS™ バージョン 15.1.0 以降

第3章. 始めに

この章は、新規のユーザーが FM/IMS パネルで操作する際に使用する ユーザー・インターフェースや一般的な方法を理解するのに役立つように構成されています。

この章で説明されている主なタスクは、以下の通りです。

- [FM/IMS の開始と終了 ページ 27](#)
- [FM/IMS インターフェースの使用 ページ 30](#)
- [ヘルプの使用 ページ 37](#)
- [処理オプションの設定 ページ 40](#)

FM/IMS の開始と終了

FM/IMS は、ISPF アプリケーションであり、通常は ISPF セッション内から実行されます。FM/IMS を終了すると、ISPF セッションに戻ります。

本節で説明されている作業は、以下のとおりです。

- [FM/IMS の使用を開始 ページ 27](#)
- [ご使用の FM/IMS バージョンの検査 ページ 28](#)
- [FM/IMS の終了 ページ 30](#)

FM/IMS の使用を開始

FM/IMS を起動する方法は、ユーザーのシステムでそれをどのようにインストールしたかによって異なります。一般的に FM/IMS は、次のように ISPF メニューの 1 つにオプションとしてインストールされます。

図 7. FM/IMS オプションを表示する「z/OS Primary Option menu (基本オプション・メニュー)」パネル

```
Menu Utilities Compilers Options Status Help
-----
z/OS Primary Option Menu
0 Settings          Terminal and user parameters      User ID . . : FMUSER
1 View             Display source data or listings  Time. . . . : 13:50
2 Edit            Create or change source data      Terminal. . : 3278
3 Utilities        Perform utility functions         Screen. . . . : 1
4 Foreground      Interactive language processing   Language. . : ENGLISH
5 Batch           Submit job for language processing Appl ID . . : ISR
6 Command         Enter TSO or Workstation commands TSO logon . : ISPF
7 Dialog Test     Perform dialog testing            TSO prefix: FMUSER
9 IBM Products    IBM program development products System ID . : FMD2
10 SCLM           SW Configuration Library Manager MVS acct. . : USER
11 Workplace      ISPF Object/Action Workplace     Release . . : ISPF 5.0
12 z/OS System    z/OS system programmer applications
13 z/OS User      z/OS user applications
14 IBMGSA         IBMGSA Development and Service Apps
S SDSF           Spool Display and Search Facility
F File Manager    File Manager z/OS
FI FM/IMS        File Manager/IMS

Option ==> FI
-----
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F7=Backward  F8=Forward   F9=Swap
F10=Actions  F12=Cancel
```

FM/IMS を開始するには、以下を実行します。

1. z/OS の「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」から、FM/IMS オプションを選択します。

FM/IMS を開始すると、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」が表示され、現行バージョン情報の要約がポップアップ・メッセージ・ボックスに示されます。

図 8. バージョン情報が示された「Primary Option menu (基本オプション・メニュー)」パネル

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS          Primary Option Menu

0  Settings      Set processing options          User ID . : FMUSER
1  Browse        Browse data                     System ID : FMD2
2  Edit          Edit data                      Appl ID  : FMN1
3  Utilities     Perform utility functions      Version . : 15.1.5
4  Templates    Template/view/criteria set utilities Terminal. : 3278
X  Exit          Terminate FM/IMS               Screen.  : 1
                                       Date.   : 2024/01/01
                                       Time.   : 11:24

IBM* File Manager for z/OS Version Version 15 Release 1 Modification 5
5755-A03 IMS Component
Licensed Materials - Property of IBM* and HCL**
(C) Copyright IBM Corp. 2001, 2017 - All Rights Reserved.
(C) Copyright HCL Technologies Ltd. 2017, 2024 - All Rights Reserved.
* Trademark of International Business Machines
** Trademark of HCL Technologies Limited

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetrieve F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions   F12=Cancel
    
```

2. Enter キーを押して、バージョンのウィンドウを閉じます。

FM/IMS が、いずれかの ISPF メニューのオプションでない場合は、システム管理者に問い合わせ、サイトで使用されている始動プロセスについて説明を求めてください。

関連トピック

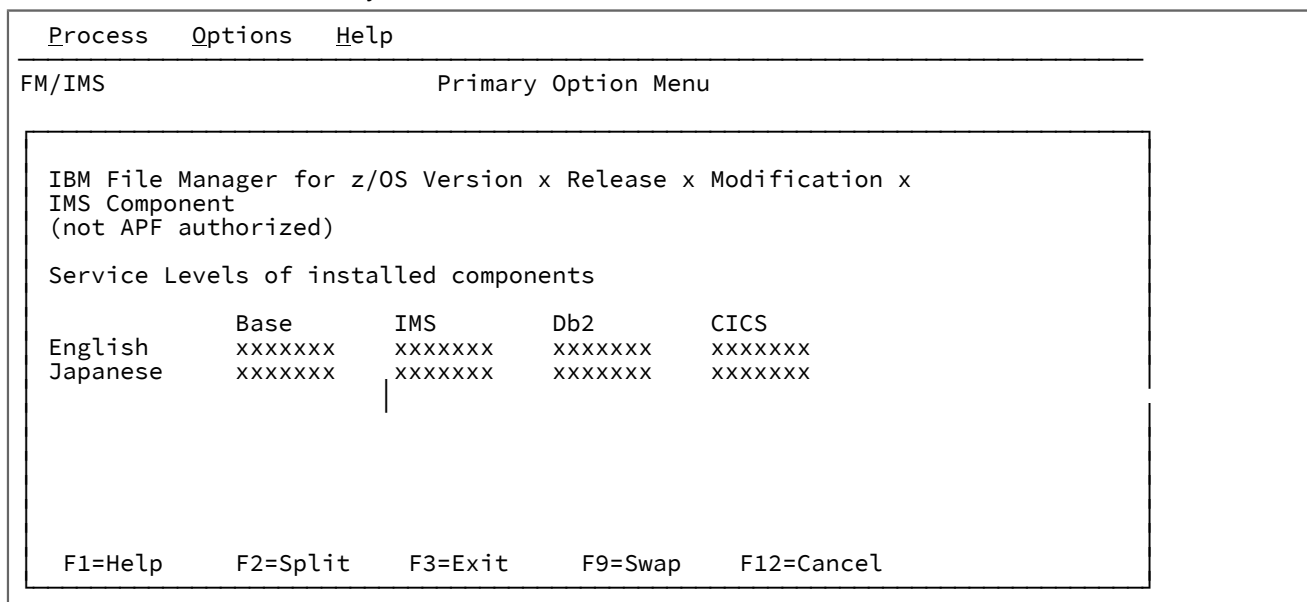
[Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\) ページ 373](#)

ご使用の FM/IMS バージョンの検査

FM/IMS の完全バージョン情報を表示するには、いずれかのパネルのコマンド行に **VER** を入力します。現行の FM/IMS のバージョン番号と各 File Manager コンポーネントの PTF 番号が、ウィンドウに表示されます。また、ウィンドウには、FM/IMS が APF 許可されているのかも示されます。

問題をログに記録するときには、**VER** コマンドで得られる情報をサポート・チームに提供してください。これは、問題の診断と解決に役立ちます。

図 9. PTF 情報が示された「Primary Option menu (基本オプション・メニュー)」



関連トピック

[ABOUT 基本コマンド ページ 467](#)

[VER 基本コマンド ページ 541](#)

VER コマンドが機能しない場合の対処

VER が ISPF コマンド・テーブル内に既に存在する場合、VER コマンドは FM/IMS で機能しません。代わりに、LVL という同義語を使用できます。LVL コマンドは、VER コマンドと同じ方法で実行することができます。

バージョン情報を表示する代替の方法として、パネル上のアクション・バーから **Help > 6. About** を選択するか、または ABOUT 基本コマンドを入力します。

FM/IMS の現行バージョン番号と File Manager IMS コンポーネントの PTF 番号が表示されます。また、このウィンドウには、著作権情報と、製品と一緒に出荷されたメモがあれば、それも表示されます。

関連トピック

[VER 基本コマンド ページ 541](#)

使用している COBOL コンパイラーの確認

FM/IMS は現在ロードされている COBOL コンパイラーを使用して、COBOL コピーブックからテンプレートを作成します。

現行の COBOL コンパイラーに関する詳細を表示するには、パネルのコマンド行に SHOWCOB と入力します。FM/IMS はウィンドウに現行 COBOL コンパイラーの詳細を表示します。

関連トピック

FM/IMS の終了

以下の方法のいずれかを使用して、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」から File Manager を終了することができます。

- 「Exit (終了)」機能キー (F3) を押します
- コマンド行で X (または EXIT か END) を入力します。
- アクション・バーから、「**Process (処理)**」 > 「**Exit from File Manager (終了)**」を選択します。

FM/IMS 内の任意のパネルからアプリケーションを終了するには、以下の通りにします。

- コマンド行で `=x` を入力します。

パネルを終了してから、以下を押すことで、呼び出し元のパネルに戻ることができます。

- 「Exit」機能キー (F3)。このキーを使用して設定パネル (オプション 0) を終了すると、パネル・フィールドに指定した値はユーザー・プロファイルに保管されます。
- ほとんどの場合、「Cancel」機能キー (F12)。このキーを使用して設定パネル (オプション 0) を終了すると、パネル・フィールドに指定した値は破棄されます。

関連トピック

[CANCEL 基本コマンド ページ 469](#)

[END 基本コマンド ページ 487](#)

FM/IMS インターフェースの使用

この節では、FM/IMS 内のパネルをナビゲートする方法、および共通のパネル情報を指定する方法について説明します。また、値を 10 進数から 16 進数に (およびその逆に) 変換して、それらの値を適切なフォーマットでパネルに入力できるようにするための方法についても説明します。

FM/IMS インターフェースは、ISPF モデルをベースにしています。タスクを実行するには、該当するパラメーターを指定して機能を処理します。使いやすいパネルを使用して、機能を選択し、パラメーター情報を提供できます。

FM/IMS では多くの場合、選択した機能が実行される前に、情報を入力したりオプションを選択したりする必要のある一連のパネルが提供されます。この一連のパネルはダイアログと呼ばれ、入力パネルから始まります。各パネルで入力した情報に応じて、次に表示されるパネルが決定されるので、ダイアログを経由して最終結果に至るまでには多数の経路があります。例えば、「Edit (編集)」ダイアログは、「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルから始まり、この後、以下に応じて複数の異なるパネルを提示します。

- データ・セットを完全修飾したかどうか
- 静的と動的のどちらの PSB を使用するように選択したか
- BMP と DL/I のどちらのモードでアクセスするように選択したか

FM/IMS は、最終的に「IMS Data (IMS データ)」パネル (「Edit (編集)」ダイアログの最終宛先) を表示します。

ほとんどのパネルはフォアグラウンド・モードで処理されます。フォアグラウンド・モードでは、選択されたオプションが即時に処理され、結果は設定に応じて、画面上に戻されるか、または印刷出力に送られます。すべてのユーティリティー関数では、パネル情報から JCL が生成され、続いて編集を行うためにユーザーに渡されます。この規則は「Print Audit Trail (監査証跡の印刷)」機能では例外で、ここでは JCL の生成はオプションです。テンプレート、ビュー、および基準の更新のためのユーティリティーの場合も、JCL の生成はオプションです。このコードを変更して、処理キューに実行依頼することができます。続いて、その結果を、SDSF を介して表示するか、プリンターに経路指定することができます。

本節で説明されている作業は、以下のとおりです。

- [FM/IMS でのナビゲート ページ 31](#)
- [ライブラリー・データ・セットの指定 ページ 32](#)
- [FM/IMS での 16 進値の使用 ページ 36](#)

FM/IMS でのナビゲート

FM/IMS パネルは、ISPF の下の他のパネルと同じ方法でナビゲートします。つまり、メニューから、コマンド行に適切なメニュー・オプション番号を入力することによって、ダイアログを開始します。「Primary Option menu (基本オプション・メニュー)」によって、特定の機能または機能のグループに関連したダイアログへアクセスすることができるようになります。場合によっては、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」上のオプションによって別のメニューが表示され、そのパネルからさらに選択を行うことができるものもあります。

一部の FM/IMS パネルには、1 つの画面で見ることができるよりも多くの情報があります (特に、80x24 のディスプレイで実行している場合)。このことが起きると、パネルの右上隅に「More (続く)」メッセージが表示されます。ウィンドウにすべてのデータを表示できない場合、分割画面モードでもこのようになる場合があります。

図 10. 「More (続く)」メッセージが表示されたパネルの例

Process	Options	Help						
FM/IMS		Set Output Data Set Allocation Options						More: +
Data set	Space Units	Primary Quantity	Secondary Quantity	Management Class	Storage Class	Data Class	Device Type	
Audit Log	CYL 16	8					SYSALLDA	
Print	CYL 64	32					SYSALLDA	
Trace								
IMS log	TRK 20	20					SYSALLDA	
Extract Keys	TRK 1	1					SYSALLDA	
Logical Keys	CYL 10	10					Volume (NonSMS)	
Command ==>								
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F6=Reset	F7=Backward			
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel					

追加の情報は、以下の方法で表示することができます。

- 「Forward」機能キー (F8) を押す(この操作で一度に 1 画面だけスクロールダウンします)。
- コマンド行で FORWARD または DOWN と入力する (これらのコマンドで一度に 1 画面だけスクロールダウンします)。
- コマンド行で BOTTOM と入力する (このコマンドで情報の最下部まで移動します)。

情報の先頭に向かって後方にスクロールするには、以下のようにします。

- 「Backward」機能キー (F7) を押す (この操作で一度に 1 画面だけスクロールアップします)。
- コマンド行で BACKWARD または UP と入力する (これらのコマンドで一度に 1 画面だけスクロールダウンします)。
- コマンド行で TOP と入力する (このコマンドでパネルの先頭まで移動します)。

パネルを終了するには、以下のようにします。

- 「Exit (終了)」機能キー (F3) を押します。
- コマンド行に END と入力して、Enter キーを押します。
- 「Cancel」機能キー (F12) を押す。
- コマンド行に CANCEL と入力して、Enter キーを押します。

関連トピック

[データを表示するためのスクロール ページ 71](#)

[BOTTOM 基本コマンド ページ 468](#)

[DOWN 基本コマンド ページ 484](#)

[TOP 基本コマンド ページ 537](#)

[UP 基本コマンド ページ 539](#)

ライブラリー・データ・セットの指定

多くの FM/IMS パネルでは、関数が使用する PDS ライブラリーを指定する必要があります。

データ・セットを指定するには、以下のステップを実行してください。

1. 「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、データ・セット名またはデータ・セット名パターンを入力します。コピーブック・ライブラリーの場合、これは CA-Panvalet ライブラリーの名前にすることができます。「Data set name (データ・セット名)」フィールドのすぐ下に「Member (メンバー)」フィールドがある場合、名前にメンバー名またはメンバー名パターンを括弧に入れて指定することもできます。「Data set name (データ・セット名)」フィールドにメンバーを指定する場合は、関連する「Member (メンバー)」フィールドをブランクのままにしておく必要があります。

データ・セット名を引用符で囲まない場合は、ユーザー ID に対する TSO 接頭部が、高位修飾子として使用されません。

データ・セット名パターンには、単一文字を表すパーセント記号 (%) と、修飾子内の任意の数の文字を表すアスタリスク (*) を含めることができます。2 つのアスタリスク (**) は任意の数の修飾子内の任意の数の文字を表します。

パフォーマンスを改善するために、データ・セット名はできるだけ修飾してください。

2. 「Data set name (データ・セット名)」フィールドのすぐ下に「Member (メンバー)」フィールドがあり、メンバー名またはメンバー名パターンを「Data set name (データ・セット名)」フィールドに指定していない場合、「Member (メンバー)」フィールドにメンバー名またはメンバー名パターンを入力します。

メンバー名パターンは、メンバー名に有効な任意の文字と、次の2つの特殊パターン文字とで構成することができます。

アスタリスク (*)

任意の数の文字を表します。必要な数のアスタリスクがメンバー名のどこに表示されても構いません。例えば、*d* と入力すると、名前に「d」が含まれるデータ・セットのすべてのメンバーのリストが表示されます。

パーセント記号 (%)

単一文字を表す置き換え文字。パーセント記号は、メンバー名の任意の場所に必要な数だけ指定できます。例えば、**** と入力すると、名前の長さが4文字のデータ・セットのすべてのメンバーのリストが表示されます。

3. Enter キーを押します。フィールドに入力した内容に応じて、以下のパネルの一方または両方が、示されている順序で表示されます。
 - 「Data Set Selection (データ・セット選択)」パネル
 - データ・セット名パターンを入力した場合に表示されます。
 - 指定したデータ・セット名パターンと一致する名前を持つデータ・セットのリストを表示します。
 - 「Member Selection (メンバー選択)」パネル
 - 指定したデータ・セットが区分データ・セットのときに、メンバー名を入力しなかった場合、またはメンバー名パターンを入力した場合に表示されます。
 - データ・セット内のすべてのメンバーのリスト (メンバー名を入力しなかった場合)、または指定したメンバー名パターンと一致する名前を持つメンバーのリスト (それ以外の場合) のいずれかを表示します。
4. データ・セット選択リストからデータ・セットを選択するには、必要なデータ・セットの横にある「Sel」フィールドに「s」と入力して、Enter キーを押します。このリストから、1つの名前だけを選択できます。
5. メンバー選択リストからメンバーを選択するには、必要なメンバーの横にある「Sel」フィールドに「s」と入力して、Enter キーを押します。



注:

- a. 接頭領域に入力し、まだ処理されていない値をリセットする場合は、RESET 基本コマンドを使用します。
 - b. ディレクトリーを再読み取りし、現行のメンバー・リストを表示する場合は、REFRESH 基本コマンドを使用します。
6. メンバーを選択する際、表示されるメンバーのリストをソートすると便利ことがあります。これを行うには、次の2とおりの異なる方法があります。

- SORT 基本コマンドを使用して、2 つまでの表示列別に、メンバー・リストをソートします。フィールド名は、列見出しです。例えば、`SORT SIZE CREATED` は、最初にサイズ別に、次に作成日別に、メンバーのリストをソートします。
- ソートしたい列の列見出しにカーソルを合わせて、Enter キーを押します。



注: メンバーをソートする場合、所定の列の順序 (昇順または降順) は、あらかじめ決められており、ISPF と整合性があります。

データ・セット名パターンの例

以下の例では、USERID 高位修飾子のもとに以下のデータ・セットが存在することを想定しています。

```
USERID.FMN.DATA  
USERID.FMN.TEMPLATES  
USERID.COBOL.COPY  
USERID.COBOL.SOURCE  
USERID.PLI.COPY  
USERID.PLI.SOURCE  
USERID.MISC.DATA.BACKUP  
USERID.WORK
```

例 1

次のパターン (単一アスタリスク) を入力します。

```
'USERID.*'
```

これは、USERID の後ろに 1 レベルの修飾子のみを持つ項目だけを表示します。

```
USERID.WORK
```

例 2

次のパターン (2 個のアスタリスク) を入力します。

```
'USERID.**'
```

USERID という高位修飾子を持つデータ・セットの完全なリストが表示されます。

例 3

次のパターンを入力します。

```
'USERID.*.%%%'
```

これは、次のリスト (3 つの修飾子から成り、3 レベル目の修飾子が正確に 4 文字から成るデータ・セットを含む) を表示します。

```
USERID.FMN.DATA  
USERID.COBOL.COPY  
USERID.PLI.COPY
```

メンバー名またはパターンの指定例

以下の例では、下記のメンバーが、FMNUSER.DATA という名前のデータ・セット内に存在するものと想定しています。

```
DATA1
FMNCDATA
FMNCTAM
FMNCTEM
FMNCTMP
NEWDATA
NEWSTUFF
TEMPA
TEMPB
```

例 1

入力パネルで次のように入力すると、

```

:
:  Data set name . . . . . FMNUSER.DATA
:  Member . . . . . -----
:
:
```

全メンバー名のリストが表示されます。

```
DATA1
FMNCDATA
FMNCTAM
FMNCTEM
FMNCTMP
NEWDATA
NEWSTUFF
TEMPA
TEMPB
```

例 2

入力パネルで次のように入力すると、

```

:
:  Data set name . . . . . FMNUSER.DATA
:  Member . . . . . FMNCT*
:
:
```

メンバー名リストが表示されます。

```
FMNCTAM
FMNCTEM
FMNCTMP
```

例 3

入力パネルで次のように入力すると、

```

:
:  Data set name . . . . . FMNUSER.DATA (NEWDATA)
:  Member . . . . . _____
:
:
```

データ・セット FMNUSER.DATA のメンバー NEWDATA の詳細が表示されます。

例 4

入力パネルで次のように入力すると、

```
⋮  
Data set name . . . . . FMUSER.DATA(TEM*)  
Member . . . . . _____  
⋮
```

メンバー名リストが表示されます。

```
TEMPA  
TEMPB
```

例 5

入力パネルで次のように入力すると、

```
⋮  
Data set name . . . . . FMUSER.DATA(*)  
Member . . . . . _____  
⋮
```

全メンバー名のリストが表示されます。

```
DATA1  
FMNCDATA  
FMNCTAM  
FMNCTEM  
FMNCTMP  
NEWDATA  
NEWSTUFF  
TEMPA  
TEMPB
```

FM/IMS での 16 進値の使用

多くの FM/IMS パネルで、10 進値はテキスト文字として、または 16 進値として、表示または入力することができます。10 進値から 16 進値へ、または 16 進値から 10 進値への変換を手早く行えるように、FM/IMS では以下の 2 つの基本コマンドが用意されています。

DX

10 進値を 16 進値に変換します。

XD

16 進値を等価の 10 進値に変換するには、以下のとおりにします。

DX または XD コマンドを入力すると、FM/IMS は、その結果をメッセージとして画面の最下部に表示します。

例えば、File Manager/IMS コマンド行に以下を入力すると、

```
DX 10
```

FM/IMS は、次のメッセージを表示します。

```
Dec 10 = hex 0000000A
```

16 進値を等価の 10 進値に変換するには、以下のとおりにします。

1. いずれかのパネルのコマンド行で、XD と、その後続けて 16 進値を入力します。

FM/IMS はその結果をメッセージとして画面の最下部に表示します。

例えば、File Manager/IMS コマンド行に以下を入力すると、

```
XD 10
```

FM/IMS は、次のメッセージを表示します。

```
Hex 00000010 = dec 16
```

ヘルプの使用

FM/IMS には、コンテキスト依存フィールド情報とチュートリアル用ヘルプという、2つのタイプの組み込みヘルプが用意されています。フィールド・ヘルプ情報では、現行フィールドの説明、有効値または入力可能な値の範囲のリスト、および、該当する場合は、デフォルトのフィールド値を提供します。チュートリアル用ヘルプはコンテキスト・ヘルプ・システムであり、FM/IMS パネルおよびそれらパネルを使用する際のダイアログの詳細な説明を提供します。さらに、すべてのエラー・メッセージにフルテキストの説明が関連付けられ、問題の原因を判別するのに役立ちます。

本節で説明されている作業は、以下のとおりです。

- [フィールド・ヘルプ情報の表示 ページ 37](#)
- [チュートリアル用ヘルプへのアクセス ページ 38](#)
- [拡張エラー・メッセージの表示 ページ 40](#)

フィールド・ヘルプ情報の表示

フィールド・ヘルプ情報を表示するには、以下のようになります。

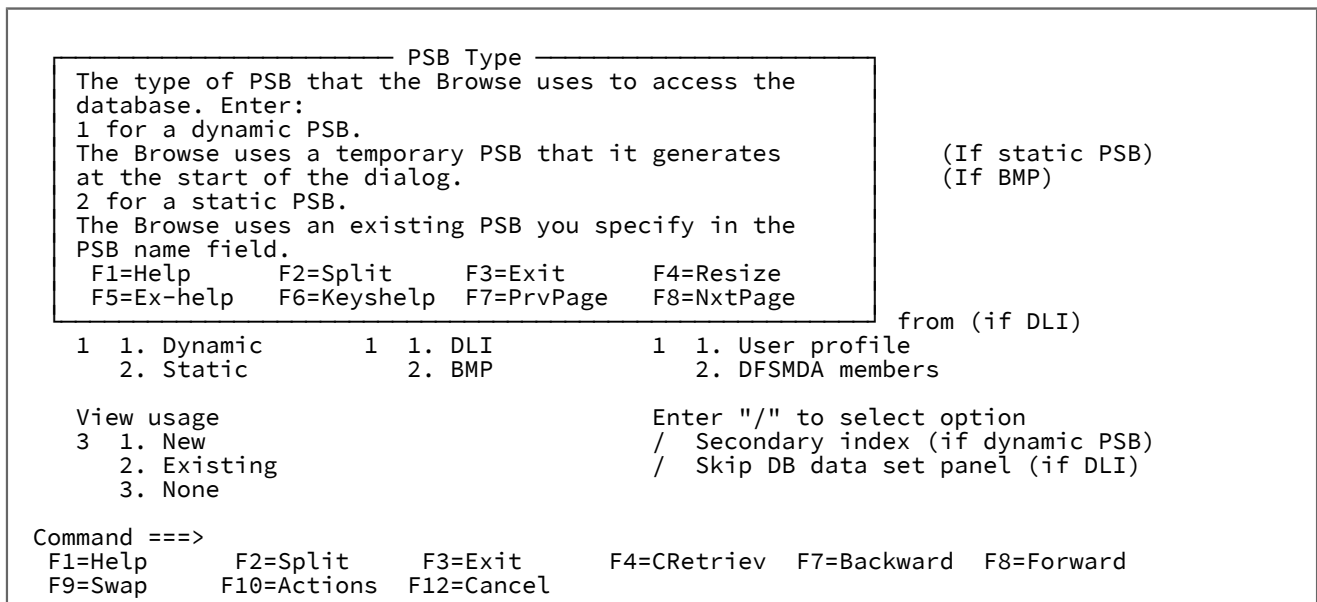
1. カーソルをフィールド上に置きます。
2. 「Help (ヘルプ)」機能キー (F1) を押します。ポップアップ・ウィンドウにフィールド・ヘルプ情報が表示されます。

ポップアップ・ウィンドウの表示中に、以下の通りにします。

- 「Extended Help」機能キー (F5) を押して、現行パネルのチュートリアル用ヘルプ・ページにアクセスします。
 - 「Help」機能キー (F1) を押すと、チュートリアル用ヘルプ・システム内のヘルプ解説ページ (すなわち、チュートリアル用ヘルプの使用方法を説明するページ) に移動します。
3. メッセージ、または関連するチュートリアル用ヘルプ・ページの確認が終了したら、「Exit」機能キー (F3) を押して、開始パネルに戻ります。

例えば、カーソルが「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルの「PSB Type (PSB タイプ)」フィールド内にあるときに F1 を押すと表示されるメッセージを [図 11: 「PSB Type \(PSB タイプ\)」フィールドのフィールド・ヘルプ情報 ページ 38](#) に示します。

図 11. 「PSB Type (PSB タイプ)」 フィールドのフィールド・ヘルプ情報



チュートリアル用ヘルプへのアクセス

チュートリアル用ヘルプ・システムは、コンテキストに依存しているとともに、構造的に編成されたヘルプ・システムです。コンテキスト依存のアクセス方式を使用して必要な情報を直接入手するか、または特定の場所でヘルプ・システムに入り、トピック情報について構造内をナビゲートすることができます。

コンテキスト依存のチュートリアル用ヘルプ・ページにアクセスするには、以下のようにします。

1. カーソルをコマンド行に置くか、またはパネル内のフィールド入力行の外の任意の場所に置きます。
2. 「Help (ヘルプ)」機能キー (F1) を押します。現行パネルに関連するチュートリアル用ヘルプ・ページが表示されます。

このようにしてチュートリアル用ヘルプにアクセスしたときに表示される最初のページは、開始したコンテキストに応じて、関連するサブトピックをリストしたメニューのあるメイン・トピック・ページである場合と、サブトピック・ページの場合があります。

3. チュートリアル用ヘルプ・ページをナビゲートして、必要な情報を見つけます (ナビゲーション・コマンドのリストは、下記を参照してください)。
4. 終了したら、「Exit」機能キー (F3) を押して開始したパネルに戻ります。

チュートリアル用ヘルプ・システムは、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」に基づいた目次構造で編成されています。目次の中のそれぞれのエントリから、いくつかの関連するサブトピックを持つ、メイン・トピックに進みます。さらに、チュートリアル用ヘルプからの選択されたトピックを、主題ごとにアルファベット順にリストした索引があります。

チュートリアル用ヘルプの中の開始点を選択するには、以下のようにします。

1. パネル・アクション・バーから「Help (ヘルプ)」プルダウン・メニューを選択します。
2. 必要なチュートリアル用ヘルプの入り口点のオプション番号を入力します。それらは以下のとおりです。

1.Help for help (ヘルプのヘルプ)

チュートリアル用ヘルプ・システムのヘルプ・パネルを表示します。

2.Extended help (全般ヘルプ)

現行の FM/IMS パネルに関連するチュートリアル用ヘルプ・パネルを表示します (FM/IMS パネルから F1 を押すのと同じ)。「Primary Options menu (基本オプション・メニュー)」上では、これは、「Tutorial - Table of Contents (チュートリアル・目次)」パネルになります。

3.Keys help (キーのヘルプ)

現行の FM/IMS パネル上でアクティブである機能キーについてのヘルプを表示します。

4.チュートリアル

「Tutorial - Table of Contents (チュートリアル・目次)」パネルを表示します。

5.About (バージョン情報)

FM/IMS バージョンおよびリリース情報をポップアップ・ウィンドウに表示します。

6.News about FM/IMS (FM/IMS に関するニュース)

現在の FM/IMS のリリースに関する一般情報を表示します。

チュートリアル用ヘルプをナビゲートするには、いずれかのチュートリアル・ページで、次のコマンドをコマンド行に入力します。

直前に表示したページまで戻る場合。

BACK または B

現在のトピックをスキップして、次のトピックから続ける場合。

SKIP または S

より高いレベルのトピックのリストを表示する場合。

UP または U

目次を表示する場合。

TOC または T

チュートリアル索引を表示する場合。

INDEX または I

代わりに、チュートリアルを表示中に以下のキーを使用することもできます。

トピック内の次のページを表示する場合。

ENTER (Ctrl)

チュートリアル用ヘルプ・システム内のヘルプ解説ページ (つまり、チュートリアル用ヘルプを使用する方法を記述したページ) を表示する場合。

Help (F1)

チュートリアルを終了する場合。

END (F3)

より高いレベルのトピック・リストを表示する場合 (UP と入力する代わり)。

Up (F7)

次のトピックにスキップする場合 (SKIP と入力する代わり)。

Down (F8)

トピック内の次のページを表示する場合 (ENTER を押す代わり)。

Right (F11)

トピック内の直前のページを表示する場合 (BACK と入力する代わり)。

Left (F10)



注: リストされたキーは、デフォルトのキー・マッピングです。キー・マッピングはカスタマイズすることができるので、ご使用のシステムでは、これらのキーが異なっている場合があります。

拡張エラー・メッセージの表示

FM/IMS がパネルのプロセスを試みたときにエラーが発生した場合、画面の右上に短いテキスト・メッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に、その拡張テキストを表示するには、「Help」機能キー (F1) を押すと、画面の最下部にあるボックス内にエラー・メッセージの拡張テキストが表示されます。

関連トピック

[メッセージ ページ 694](#)

処理オプションの設定

FM/IMS が実行する処理操作の多くは、FM/IMS アプリケーション内から設定可能な値を使用します。これらの値を調整することで、FM/IMS をカスタマイズすることができます。

「設定」パネルの値は、FM/IMS マクロを使用して FMN1POPT 管理者が制御することができます。詳しくは、「*File Manager Customization Guide*」を参照してください。

フィールドは、ユーザーが特定の値を使用するように書き込み保護にすることができます。パネルに指定した値は、各サブシステムごとに排他的であり (IMSID フィールドが提供される)、同じサブシステムの BMP および DL/I モードで異なる値にできます。管理者はすべてのデフォルト値を設定することができます。特定フィールドのデフォルト値が複数のサブシステムで同じ場合、これらの値の入力は 1 回のみですみます。

関連する処理オプション・パネルからこれらの値を更新することができます。

処理オプション・パネルにアクセスするには、以下の方法のいずれかを使用します。

- 「Primary Option menu (基本オプション・メニュー)」から、以下のようになります。
 1. オプション 0 (「設定」) を選択します。「Settings (設定)」メニューが表示されます。
 2. メニューから必須指定のオプションを選択します。
- いずれかの FM/IMS パネルから **「Options (オプション)」** プルダウン・メニューを使用して、必要な処理オプション・タイプを選択します。



注: ブラウズまたは編集セッション内からは、**「Editor options (エディター・オプション) (プルダウン・メニューのオプション 5)」**にはアクセスできません。

いずれの方法でも、その結果として、オプションのグループおよびその現行値が表示されます。

- 書き込み保護されていないオプションの値を変更するには、その現行値の上から重ねて入力します。
- 変更したオプションを保管してパネルを終了するには、「Exit」機能キー (F3) を押します。

変更内容は、以後の FM/IMS セッションで使用できるように、ISPF ユーザー・プロファイルに保管されます。これは、このオプションをもう一度変更するまで有効となります。

「Subsystem Settings (サブシステム設定)」メニュー (「Settings (設定)」メニューのオプション 6) 上での設定の場合、値は、アクセスする IMS サブシステムごとに保管されます。つまり、異なるサブシステムごとに異なる値を保管することができます。

- 変更内容を保管せずにパネルを終了するには、「Cancel」機能キー (F12) を押します。
- パネル上のすべてのオプションをそのインストールのデフォルトにリセットするには、コマンド行に `RESET` を入力します。

関連トピック

[「Settings Menu \(設定メニュー\)」 パネル ページ 428](#)

印刷処理オプションの設定 (オプション 0.1)

印刷処理オプションは、印刷出力の宛先、使用するページ形式、および印刷するレコード数などを制御します。

関連トピック

[「Set Print Processing Options \(印刷処理オプションの設定\)」 パネル ページ 420](#)

システム設定 (オプション 0.2)

「System Settings (システム設定)」パネルを使用すると、FM/IMS 機能によって使用される複数の各種オプションを設定することができます。

関連トピック

[\[System Settings \(システム設定\)\] パネル ページ 437](#)

バッチ・ジョブ・カード情報の設定 (オプション 0.3)

「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」パネルでは、バッチ・ジョブ実行依頼の JCL の生成に使用されるバッチ・ジョブ・カード情報を指定できます。「バッチ・ジョブ・カード情報」パネルは、この情報を入力できる複数のブランク行 (「Batch Submission Job Statement Information (バッチ実行依頼ジョブ・ステートメント情報)」) を提供します。

FM/IMS では、非ブランク行は JCL ジョブ・カードの定義と見なされ、これらの行から情報が生成された JCL にコピーされます。すべての行がブランクの場合には、JCL 生成プロセスは、システム変数からの情報を使用して基本ジョブ・カードを生成します。

関連トピック

[\[Set Batch Job Card Information \(バッチ・ジョブ・カード情報の設定\)\] パネル ページ 411](#)

言語およびコンパイラ仕様の設定 (オプション 0.4)

言語およびコンパイラ仕様のオプションで、コピーブックからテンプレートを生成するために使用するコンパイラを選択することができます。

関連トピック

[\[Compiler Language Selection \(コンパイラ言語の選択\)\] パネル ページ 236](#)

コンパイラ言語の選択 (オプション 0.4.1)

「Compiler Language Selection (コンパイラ言語選択)」パネルを使用して、FM/IMS がテンプレートの作成に使用するコンパイラを指定できます。

また、FM/IMS がテンプレートのコンパイラ・オプションを使用するか、テンプレートを更新したときにコンパイラ・オプション・パネルで指定したコンパイラ・オプションを使用するかを指定できます。

関連トピック

[\[Compiler Language Selection \(コンパイラ言語の選択\)\] パネル ページ 236](#)

COBOL 処理オプション (オプション 0.4.2)

「Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)」パネルを使用して、以下を指定できます。

- FM/IMS が COBOL コピーブックおよびソースからテンプレートを構築するときに使用する、選択済み COBOL コンパイラ・オプション。
- COBOL コピーブック内で置き換える 5 つまでの疑似テキスト文字ストリング。
- 置き換える文字ストリングの置換疑似テキスト文字ストリング。

- FM/IMS がテンプレートの構築時に COBOL コンパイラーから受け入れる最大戻りコード。
- CBL ステートメントで追加される、追加コンパイラー・オプション。

関連トピック

[\[Set COBOL Processing Options \(COBOL 処理オプションの設定\)\]](#) パネル ページ 412

HLASM 処理オプション (オプション 0.4.3)

[Set HLASM Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)] パネルを使用して、以下を指定できます。

- FM/IMS が HLASM コピーブックおよびソースからテンプレートを構築するときに使用する、選択済み HLASM コンパイラー・オプション。
- FM/IMS がテンプレートの構築時に HLASM コンパイラーから受け入れる最大戻りコード。
- *PROCESS ステートメントで追加される、追加コンパイラー・オプション。

関連トピック

[\[Set HLASM Processing Options \(HLASM 処理オプションの設定\)\]](#) パネル ページ 414

PL/I 処理オプション (オプション 0.4.4)

[Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)] パネルを使用して、以下を指定できます。

- FM/IMS が PL/I コピーブックおよびソースからテンプレートを構築するときに使用する、選択済み PL/I コンパイラー・オプション。
- FM/IMS がテンプレートの構築時に PL/I コンパイラーから受け入れる最大戻りコード。
- *PROCESS ステートメントで追加される、追加コンパイラー・オプション。

関連トピック

[\[Set PL/I Processing Options \(PL/I 処理オプションの設定\)\]](#) パネル ページ 419

エディター・オプション (オプション 0.5)

エディター・オプションは、ブラウズまたは編集のときにデータを表示する形式を設定するために使用する、さまざまなオプションを制御します。



注: ブラウズ・セッションまたは編集セッションでは、オプション 0.5 にアクセスすることはできません。現行の表示、編集、または印刷セッションの動作を変更するには、それに相当する基本コマンドを (使用可能な場面で) 使用してください。

関連トピック

[\[Editor Options \(エディター・オプション\)\]](#) パネル ページ 293

IMS サブシステム設定 (オプション 0.6)

「Subsystem Settings (サブシステム設定)」パネルを使用して、以下の IMS サブシステム設定を表示および変更できます。

- File Manager/IMS 機能が DLI モードで実行されるときに IMS 領域コントローラーに渡されるパラメーター (オプション 0.6.1)。
- DLI モードで実行されるときに FM/IMS 機能によって使用される DFSVSAMP、RESLIB、および IMS マクロ・データ・セットの名前 (オプション 0.6.2)。
- DLI モードで実行されるときに FM/IMS 機能によって使用される RECON および ACBLIB データ・セットの名前 (オプション 0.6.3)。
- DLI モードで実行されるときに FM/IMS 機能によって使用されるその他の選択済みオプション (オプション 0.6.4)。
- File Manager/IMS 機能が BMP モードで実行されるときに IMS 領域コントローラーに渡されるパラメーター (オプション 0.6.5)。
- BMP モードで実行されるときに FM/IMS 機能によって使用されるその他の選択済みオプション (オプション 0.6.6)。
- FM/IMS 機能によって使用される PSB および DBD データ・セットの名前 (オプション 0.6.7)。
- FM/IMS 機能によって使用されるテンプレート・データ・セットの名前 (0.6.8)。値はアクセスする各 IMS サブシステムごとに保管されます。つまり、異なるサブシステムごとに異なる値を保管することができます。

一時データ・セット割り振りオプション (オプション 0.7)

これらのオプションは、FM/IMS で使用される一時データ・セットのデータ・セット特性を提供します。

関連トピック

[「Set Temporary Data Set Allocation Options \(一時データ・セット割り振りオプション設定\)」](#) パネル ページ 425

出力データ・セット割り振りオプション (オプション 0.8)

これらのオプションは、FM/IMS で作成されるデータ・セットのデータ・セット特性 (監査ログ、ファイルの印刷、およびキー・ファイルの抽出など) を提供します。

関連トピック

[「Set Output Data Set Allocation Options \(出力データ・セット割り振りオプション設定\)」](#) パネル ページ 416

「Trace options (トレース・オプション)」 (オプション 0.9)

これらのオプションは、デバッグ・モードで実行されているときに FM/IMS によって生成されるトレース出力を制御します。

DBCS 文字の表示または編集

DBCS 対応の端末があり、FM/IMS で DBCS 文字を表示または編集したい場合は、「ISPF Settings (ISPF 設定)」に、これらの文字をサポートする端末タイプを必ず指定する必要があります。

ISPF に端末タイプを指定するには、以下のようにします。

1. FM/IMS を終了して、z/OS の「Primary Option menu (基本オプション・メニュー)」に戻ります。

FM/IMS の実行中に ISPF 端末タイプ設定を変更できますが、その変更は、FM/IMS が次回に起動されるまで、実装されません。

2. z/OS の「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」から、オプション 0 を選択します。

図 12. 「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネル

```

Log/List  Function keys  Colors  Environ  Workstation  Identifier  Help
-----
                                ISPF Settings
                                More:  -
- Session Manager mode          Command delimiter . ;
/ Jump from leader dots
- Edit PRINTDS Command
/ Always show split line
- Enable EURO sign

Terminal Characteristics
Screen format  1  1. Data    2. Std    3. Max    4. Part

Terminal Type  3
1. 3277        2. 3277A   3. 3278   4. 3278A
5. 3290A       6. 3278T   7. 3278CF  8. 3277KN
9. 3278KN    10. 3278AR  11. 3278CY  12. 3278HN
13. 3278H0     14. 3278IS  15. 3278L2  16. BE163
17. BE190      18. 3278TH  19. 3278CU  20. DEU78
21. DEU78A     22. DEU90A  23. SW116   24. SW131
25. SW500

Command ==> -----
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F7=Backward F8=Forward  F9=Swap
F10=Actions  F12=Cancel

```

3. 「Terminal Type (端末タイプ)」のリストから 3277KN または 3278KN のいずれかを選択します。



ヒント: 「Terminal Type (端末タイプ)」のリストを見つけるために、このパネルのスクロールダウンが必要な場合があります。

4. 「Exit」機能キー (F3) を押して、選択を保管し、z/OS の「Primary Option menu (基本オプション・メニュー)」に戻ります。
5. FM/IMSを再始動します。

国別文字

File Manager では、表 1: 国別文字 ページ 45 に示されている国別文字が使用されます。

表 1. 国別文字

文字	16 進値	コード・ページ 37 および 500 での表示
ドル記号	X'5B'	\$
ハッシュ記号	X'7B'	#
アットマーク	X'7C'	@

表 1. 国別文字

(続く)

文字	16 進値	コード・ページ 37 および 500 での表示
----	-------	-------------------------



1. ドル記号 (\$) とハッシュ記号 (#) は File Manager の構文で特別な構文上の意味を持っています。
2. 37 および 500 以外のコード・ページを使用している国では、次のようになります。
 - a. 端末キーボードに表記される上記の文字は、異なる 16 進表現になる場合があります、このことがエラーや望ましくない結果を引き起こす可能性があります。例えば、国によっては \$ 文字が 'X'4A' となる可能性があります。
 - b. 上記の 16 進値は、上記文字とは異なる文字として表示される場合があります。

バッチまたはオンラインで File Manager コマンドを入力するときは、16 進値に対応するキーボードの文字を使用してください。

第4章. データベースの表示

IMS データベースに保管されているデータを表示するには、「Browse (ブラウズ)」オプションまたは「Edit (編集)」オプションを使用できます。「Browse (ブラウズ)」オプションでは、データの変更は行えませんが、データを表示することはできます。「Edit (編集)」オプションでは、データを表示および変更することができます。データを表示するにはその前に、データベースのアクセス方法およびデータの表示方法に関して多くの決定を行う必要があります。データを表示して、ニーズに最も合うように表示を操作することができます。

この章で説明されている主なタスクは、以下の通りです。

- [データベースのアクセス ページ 47](#)
- [データの表示方法の決定 ページ 60](#)
- [データのビューの操作 ページ 63](#)

これらの説明は、「Browse (ブラウズ)」ダイアログに沿って行います。ただし、特に指定のない限り、「Edit (編集)」ダイアログ内でもこれらのアクションを実行することができます。

データベースのアクセス

IMS データベースへのアクセスは、2つの方法のいずれかで行うことができます。1つは IMS 制御領域の制御下で行います (BMP モード)。もう1つはバッチ処理で、独自の IMS サブシステムとして実行します (DLI モード)。両方のモードで、動的 PSB を使用することも、静的 PSB を使用することもできます。

この節で説明されている概念とタスクは、以下の通りです。

- [異なるアクセス・モードについて ページ 47](#)
- [静的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 49](#)
- [動的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 51](#)
- [静的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 53](#)
- [動的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 56](#)

異なるアクセス・モードについて

データベースへのアクセスは、データベースがオンライン・システム上に割り振られているときは、BMP モードで行います。BMP モードでは、ライブ実稼働環境に適した、厳密な制御が行われます。例えば、アクセスできるのは、ご使用の IMS サブシステムに定義されているデータベース・データ・セットのみです。行った変更は IMS オンライン・ログ・データ・セットに記録され、IMS は、セグメント・データへのマルチユーザー・アクセス や自動バックアウトなどを、必要に応じて制御します。

BMP モードで実行しているときには、静的 PSB または動的 PSB を使用したデータベースへのアクセスを選択することができます。静的 PSB では、使用可能なセグメントについての制御や、使用可能セグメントで実行できる「Browse (ブラウズ)」または「Edit (編集)」などの処理オプションについての制御を提供します。一般に、ライブ実稼働環境でデータの更新を行うエンド・ユーザーは、静的 PSB を使用した BMP モードでデータベースにアクセスします。

また、ご使用のサイトのインストール・システムが、BMP モードでの動的 PSB を使用したアクセスが可能であるようセットアップされている場合には、このタイプのアクセスを行うこともできます。この組み合わせによってライブ・データに対する全アクセス権限が付与されることになるため、サイトによっては、このタイプのアクセスを使用可能にすることを選択しない場合もあります。動的 PSB は、指定された DBD から FM/IMS によって生成され、データベース内のすべてのセグメントへの「Read (読み取り)」および「Update (更新)」の両方のアクセスが許可されます (「ブラウズ (Browse)」の場合は PROCOPT=G または GO、「編集 (Edit)」の場合は PROCOPT=A)。このタイプのアクセスは、IMS サブシステム全体をオフラインにすることなく、ライブ・データに対して重大な変更を行う必要があるデータベース管理者に必要な場合があります。



注: BMP モードでの動的 PSB の使用を可能にするには、「カスタマイズ・ガイド」で説明しているセットアップ・プロセスに従って、FM/IMS システム管理者がセットアップを行っている必要があります。

データベースへのアクセスは、データベースがオフラインになっているときには、DLI モードで行います。DLI モードでは、アクセスするデータ・セットを指定する必要があり、セキュリティはそのデータ・セット・レベルで制御されます。すなわち、データ・セットへのアクセスを ISPF を介して行った場合は、DLI モードで FM/IMS を介してデータ・セットにアクセスすることができます。これらのデータ・セットは、ユーザーの TSO アドレス・スペースに割り振られます。このタイプのアクセスは一般に、開発者によって使用されます。DLI モードでは、通常、単一ユーザーにアクセス権が付与されますが、IRLM オプションをオンに設定することで (IMS サブシステム定義に従って)、ほかのユーザーとデータベースを共用することができます。

DLI モードでは、静的 PSB または動的 PSB を使用することができます。静的 PSB では、BMP モードで提供されるのと同じ制御の手段が DLI モードでも提供されます。DLI モードで動的 PSB を使用するには、インストール時の特別なセットアップは不要で、指定したデータ・セットへの全アクセス権限を持つことが許されます。



注: また、「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」パネル (オプション 0.6.4) または「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」パネル (オプション 0.6.6) で、PROCOPT 設定 (通常の読み取りの場合は PROCOPT=G、安全性なしの読み取りの場合は PROCOPT=GO) を変更することにより、ブラウズ、抽出、印刷、およびバッチ・ブラウズ関数で提供される読み取りのタイプを制御することもできます。

G に設定すると、データの読み取り時に、データベースの読み取りロックが設定されてから解除されるため、常に完全に更新されたデータベース・レコードを読み取るようになります。

GO に設定すると、ロックは設定されません。その結果、内部的に矛盾したセグメント (セグメントのさまざまな部分が 2 つの別の作業単位によって更新される) が発生します。

関連トピック

[FM/IMS における DLI モードと BMP モード ページ 20](#)

[動的および静的 PSB ページ 21](#)

[「Edit Entry \(編集項目の入力\)」パネル ページ 286](#)

ビューを使用するかどうかの決定

データベースへのアクセス・モードを決定したら、次のステップで、データを表示する際にビューを使用するかどうかを決定します。データベースは、ビューを使用しないで表示することも、ビューを使用して表示することもできます。データベース用のテンプレートから関数によって作成される一時ビューを使用することも、既存のビューを使用することもできます。

ビューを使用しないで表示されたデータは、セグメントが個々のフィールドから構成されていることが示されないため、不定形式のテキストとして表示されます。2進数フォーマットまたはパック 10進数フォーマットでエンコードされた数値データのいったフィールドは、2行になった 16進値で表されます。

ビューを使用して表示されたデータは、テンプレートで定義されているフィールドに、定様式のテキストとして表示されます。ビューでは、テンプレートから表示するフィールド、フィールドを表示する順序、および (フィールド選択基準が定義されている場合) 表示するセグメントを定義します。

静的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス

静的 PSB を使用して BMP モードでデータベースにアクセスするには、その前に IMS サブシステムで PSB および DBD を定義しておく必要があります。これは、FM/IMS 環境の外部で IMS システム管理者が実行するタスクです。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」で、オプション **「1 Browse (1 ブラウズ)」** またはオプション **「2 Edit (2 編集)」** のいずれかを選択します。「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルまたは「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルが表示されます。
2. **「Subsystem name (サブシステム名)」** フィールドに、アクセスするデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID を入力します。必要なサブシステムをリストから選択する場合は、サブシステム名パターンを入力するか、フィールドを空白のままにします。
3. **「PSB name (PSB 名)」** フィールドに、関数が使用する PSB の名前を入力します。必要な PSB をリストから選択する場合は、PSB 名パターンを入力するか、フィールドを空白のままにします。指定する PSB は、アクセスするデータベースの PCB を持っている必要があります。
4. **「Database name (データベース名)」** フィールドに、アクセスするデータベースの名前を入力します。PSB にある PCB のリストから PCB を選択する場合は、データベース名パターンを入力するか、フィールドを空白のままにします。
5. 指定したサブシステムが AGN を使用する場合は、**「AGN name (AGN 名)」** フィールドに、使用する関数で必要となるアクセスを提供する AGN 名で、かつユーザーが使用権限を持っている AGN 名を入力します。サブシステムの AGN が、インストール・オプション・モジュールにリストされており、そのリストから AGN を選択する場合は、AGN 名パターンを入力するか、フィールドを空白のままにしておきます。指定したサブシステムが AGN を使用しない場合、AGN 名は入力しないでください。
6. 関数で既存のビューを使用する場合は、**「View data set name (ビュー・データ・セット名)」** フィールドに、関数が使用するビューを含むデータ・セットの名前を入力します。データ・セットをデータ・セット・リストから選択する場合は、データ・セット名パターンを入力します。選択したデータ・セットが区分データ・セットの場合、**「View member (ビュー・メンバー)」** フィールドにビュー・メンバー名を入力します。必要なビュー・メンバーをリストから選択する場合は、ビュー・メンバー名パターンを入力するか、フィールドを空白のままにします。選択したデータ・セットが区分データ・セットでない場合は、「View member (ビュー・メンバー)」フィールドを空白のままにしておきます。

7. **「PSB type (PSB タイプ)」** フィールドに、**2** を入力して静的 PSB を選択します。
8. **「Region type (領域タイプ)」** フィールドに、**2** を入力して BMP 領域を選択します。
9. **「View usage (ビューの使用)」** フィールドで、以下を行います。
 - 関数で新規ビューを使用する場合は、**1** を入力します。関数によって、データベース用のテンプレートから一時ビューが作成されます。
 - 関数で、**「View data set name (ビュー・データ・セット名)」** フィールドおよび **「Member (メンバー)」** フィールドに指定した既存ビューを使用する場合は、**2** を入力します。
 - 関数でビューを使用しない場合は、**3** を入力します。
10. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの1つまたは複数、リストされている順に表示される場合があります。
 - **「Subsystem Selection (サブシステム選択)」** パネル
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されません。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
 - **「PSB Selection (PSB 選択)」** パネル
 - PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの PSB ライブラリー内の PSB のリストを表示します。

サブシステムに固定の PSB ライブラリーがない場合、**「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」** パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの PSB ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の PSB ライブラリーがある場合、サブシステムの PSB ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。
 - **「PCB Selection (PCB 選択)」** パネル
 - 以下の場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。
 - 指定された PSB に PCB のリストを表示します。
 - **「AGN Selection (AGN 選択)」** パネル
 - 指定したサブシステムが AGN を使用し、その一部が FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされており、ユーザーが AGN 名を入力しなかったか、AGN 名パターンを入力した場合に表示されます。
 - FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされているサブシステムの AGN を表示します。
 - **「View Data Set Selection (ビュー・データ・セット選択)」** パネル
 - **「View data set name (ビュー・データ・セット名)」** パターンを入力し、**「View usage (ビューの使用)」** で **「Existing (既存)」** を選択している場合に表示されます。
 - 指定した **「View data set name (ビュー・データ・セット名)」** パターンと一致する名前を持つデータ・セットのリストを表示します。
 - **「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」** パネル

- ・指定したビュー・データ・セットが区分データ・セットのときに、ビュー・メンバー名を入力しなかった場合、またはビュー・メンバー名パターンを入力して「**View usage (ビューの使用)**」で「Existing (既存)」を選択した場合に表示されます。
- ・ビュー・データ・セットのメンバーのリストを表示します。

表示されている各選択パネルで、選択する項目の横の「**Cmd**」フィールドに **s** を入力し、Enter キーを押します。

11. これらのステップを完了したら、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルが表示されます。アクセス・プロセスは、セグメント・データの表示方法をセットアップすることで完了します。この手順は [データの表示方法の決定 ページ 60](#) で説明されています。

関連トピック

- 「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネル [ページ 229](#)
- 「Data Set Selection (データ・セット選択)」パネル [ページ 251](#)
- 「Edit Entry (編集項目の入力)」パネル [ページ 286](#)
- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネル [ページ 370](#)
- 「PSB Selection (PSB 選択)」パネル [ページ 389](#)
- 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル [ページ 432](#)
- 「System Settings (システム設定)」パネル [ページ 437](#)

動的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス

動的 PSB を使用して BMP モードでデータベースにアクセスするには、その前に FM/IMS システムでこのタイプのアクセスを許可するようにセットアップしておく必要があります。これは、FM/IMS 環境のインストールおよびカスタマイズで FM/IMS 管理者が実行するタスクです。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」で、オプション「**1 Browse (1 ブラウズ)**」またはオプション「**2 Edit (2 編集)**」のいずれかを選択します。「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルまたは「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルが表示されます。
2. 「**Subsystem name (サブシステム名)**」フィールドに、アクセスするデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID を入力します。必要なサブシステムをリストから選択する場合は、サブシステム名パターンを入力するか、フィールドをブランクのままにします。
3. 「**Database name (データベース名)**」フィールドに、アクセスするデータベースの名前を入力します。DBD のリストからデータベースを選択する場合は、データベース名パターンを入力するか、フィールドをブランクのままにします。
4. 指定したサブシステムが AGN を使用する場合は、「**AGN name (AGN 名)**」フィールドに、関数で必要となるアクセスを提供する AGN 名で、かつユーザーが使用権限を持っている AGN 名を入力します。サブシステムの AGN が、インストール・オプション・モジュールにリストされており、そのリストから AGN を選択する場合は、AGN 名パターンを入力するか、フィールドをブランクのままにしておきます。指定したサブシステムが AGN を使用しない場合、AGN 名は入力しないでください。
5. 関数で既存のビューを使用する場合は、「**View data set name (ビュー・データ・セット名)**」フィールドに、関数が使用するビューを含むデータ・セットの名前を入力します。データ・セットをデータ・セット・リストから選択する場合は、データ・セット名パターンを入力します。選択したデータ・セットが区分データ・セットの場合、「**View member (ビュー・メンバー)**」フィールドにビュー・メンバー名を入力します。必要なビュー・メン

バーをリストから選択する場合は、ビュー・メンバー名パターンを入力するか、フィールドをブランクのままにします。選択したデータ・セットが区分データ・セットでない場合は、**「View member (ビュー・メンバー)」** フィールドをブランクのままにしておきます。

6. **「PSB type (PSB タイプ)」** フィールドに、**1** を入力して動的 PSB を選択します。
7. **「Region type (領域タイプ)」** フィールドに、**2** を入力して BMP 領域を選択します。
8. **「View usage (ビューの使用)」** フィールドで、以下を行います。
 - 関数で新規ビューを使用する場合は、**1** を入力します。関数によって、データベース用のテンプレートから一時ビューが作成されます。
 - 関数で、**「View data set name (ビュー・データ・セット名)」** フィールドおよび **「Member (メンバー)」** フィールドに指定した既存ビューを使用する場合は、**2** を入力します。
 - 関数でビューを使用しない場合は、**3** を入力します。
9. 選択したデータベースに 2 次索引があり、2 次索引によってデータベースにアクセスする場合は、**「Secondary index (2 次索引)」** フィールドに **「/」** を入力します。
10. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの 1 つまたは複数、リストされている順に表示される場合があります。
 - **「Subsystem Selection (サブシステム選択)」** パネル
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されません。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
 - **「Database Selection (データベース選択)」** パネル
 - データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合に表示されません。
 - 指定されたサブシステムの DBD ライブラリー内の DBD のリストを表示します。

サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合は、**「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」** パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの DBD ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、サブシステムの DBD ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

 - **「AGN Selection (AGN 選択)」** パネル
 - 指定したサブシステムが AGN を使用し、その一部が FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされており、ユーザーが AGN 名を入力しなかったか、AGN 名パターンを入力した場合に表示されます。
 - FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされているサブシステムの AGN を表示します。
 - **「View Data Set Selection (ビュー・データ・セット選択)」** パネル
 - **「View data set name (ビュー・データ・セット名)」** パターンを入力し、**「View usage (ビューの使用)」** で **「Existing (既存)」** を選択している場合に表示されます。
 - 指定した **「View data set name (ビュー・データ・セット名)」** パターンと一致する名前を持つデータ・セットのリストを表示します。
 - **「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」** パネル

- ・指定したビュー・データ・セットが区分データ・セットのときに、**ビュー・メンバー名**を入力しなかった場合、または**ビュー・メンバー名**パターンを入力して「**View usage (ビューの使用)**」で「Existing (既存)」を選択した場合に表示されます。
 - ・ビュー・データ・セットのメンバーのリストを表示します。
 - 「Secondary Index Selection (2次索引の選択)」パネル
 - ・「Secondary index (2次索引)」オプションを選択し、選択したデータベースに複数の2次索引がある場合に表示されます。
 - ・選択したデータベースのすべての2次索引を表示します。
- 表示されている各選択パネルで、選択する項目の横の「**Cmd**」フィールドに **S** を入力し、Enter キーを押します。
11. これらのステップを完了したら、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルが表示されます。アクセス・プロセスは、セグメント・データの表示方法をセットアップすることで完了します。この手順は [データの表示方法の決定 ページ 60](#) で説明されています。

関連トピック

- [「Browse Entry \(ブラウズ項目の入力\)」パネル ページ 229](#)
- [「Data Set Selection \(データ・セット選択\)」パネル ページ 251](#)
- [「Edit Entry \(編集項目の入力\)」パネル ページ 286](#)
- [「PSB Selection \(PSB 選択\)」パネル ページ 389](#)
- [「Secondary Index Selection \(2次索引の選択\)」パネル ページ 396](#)
- [「Subsystem Selection \(サブシステム選択\)」パネル ページ 432](#)
- [「System Settings \(システム設定\)」パネル ページ 437](#)

静的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」で、オプション「**1 Browse (1 ブラウズ)**」またはオプション「**2 Edit (2 編集)**」のいずれかを選択します。「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルまたは「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルが表示されます。
2. 「**Subsystem name (サブシステム名)**」フィールドに、アクセスするデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID を入力します。必要なサブシステムをリストから選択する場合は、サブシステム名パターンを入力するか、フィールドを空白のままにします。
3. 「**PSB name (PSB 名)**」フィールドに、関数が使用する PSB の名前を入力します。必要な PSB をリストから選択する場合は、**PSB 名**パターンを入力するか、フィールドを空白のままにします。指定する PSB は、アクセスするデータベースの PCB を持っている必要があります。
4. 「**Database name (データベース名)**」フィールドに、アクセスするデータベースの名前を入力します。PSB にある PCB のリストから PCB を選択する場合は、データベース名パターンを入力するか、フィールドを空白のままにします。
5. 関数で既存のビューを使用する場合は、「**View data set name (ビュー・データ・セット名)**」フィールドに、関数が使用するビューを含むデータ・セットの名前を入力します。データ・セットをデータ・セット・リストから選択する場合は、データ・セット名パターンを入力します。選択したデータ・セットが区分データ・セットの場合、「**View member (ビュー・メンバー)**」フィールドにビュー・メンバー名を入力します。必要なビュー・メンバーをリストから選択する場合は、ビュー・メンバー名パターンを入力するか、フィールドを空白のままにし

ます。選択したデータ・セットが区分データ・セットでない場合は、**「View member (ビュー・メンバー)」** フィールドをブランクのままにしておきます。

6. **「PSB type (PSB タイプ)」** フィールドに、**2** を入力して静的 PSB を選択します。
7. **「Region Type (領域タイプ)」** フィールドに、「**1**」を入力して DL/I バッチ処理領域を選択します。
8. HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみのサブシステムではない IMS サブシステムを選択した場合、**「Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)」** フィールドで以下を実行します。
 - 関数で、ユーザー・プロファイルに名前が保管されているデータベース・データ・セットを使用する場合は、「**1**」を入力します。
 - 関数で、DFSMDA 動的割り振りメンバーに指定されたデータベース・データ・セットを使用する場合は、「**2**」を入力します。
9. **「View usage (ビューの使用)」** フィールドで、以下を行います。
 - 関数で新規ビューを使用する場合は、**1** を入力します。関数によって、データベース用のテンプレートから一時ビューが作成されます。
 - 関数で、**「View data set name (ビュー・データ・セット名)」** フィールドおよび **「Member (メンバー)」** フィールドに指定した既存ビューを使用する場合は、**2** を入力します。
 - 関数でビューを使用しない場合は、**3** を入力します。
10. **「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」** または **「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」** パネルの表示をスキップしたい場合は、**「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** フィールドに **「/」** と入力します。
11. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの 1 つまたは複数、リストされている順に表示される場合があります。
 - **「Subsystem Selection (サブシステム選択)」** パネル
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されません。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
 - **「PSB Selection (PSB 選択)」** パネル
 - PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの PSB ライブラリー内の PSB のリストを表示します。
 サブシステムに固定の PSB ライブラリーがない場合、**「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」** パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの PSB ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の PSB ライブラリーがある場合、サブシステムの PSB ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。
 - **「PCB Selection (PCB 選択)」** パネル
 - 以下の場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。
 - 指定された PSB に PCB のリストを表示します。
 - **「View Data Set Selection (ビュー・データ・セット選択)」** パネル

- ・ **「View data set name (ビュー・データ・セット名)」** パターンを入力し、**「View usage (ビューの使用)」** で **「Existing (既存)」** を選択している場合に表示されます。
- ・ 指定した **「View data set name (ビュー・データ・セット名)」** パターンと一致する名前を持つデータ・セットのリストを表示します。
- **「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」** パネル
 - ・ 指定したビュー・データ・セットが区分データ・セットのときに、**ビュー・メンバー名**を入力しなかった場合、または**ビュー・メンバー名**パターンを入力して**「View usage (ビューの使用)」** で **「Existing (既存)」** を選択した場合に表示されます。
 - ・ ビュー・データ・セットのメンバーのリストを表示します。

表示されている各選択パネルで、選択する項目の横の **「Cmd」** フィールドに **␣** を入力し、Enter キーを押します。

12. **「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションを選択しなかった場合、**「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」** パネルまたは **「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」** パネルのいずれかが表示されます。
- **「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」** パネルは、HALDB であるデータベース、または動的割り振りのみとして定義されているサブシステムが、**「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」** パネルまたは **「Edit Entry (編集項目の入力)」** パネルで選択されている場合に表示されます。このパネルには、編集またはブラウズで使用されるデータベース・データ・セットの名前が表示されます。リストされているデータベース・データ・セットが、関数が使用するデータベース・データ・セットであることを確認します。これらのデータ・セットの使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、Enter キーを押します。
 - **「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」** パネルは、HALDB ではないデータベース、および動的割り振りのみとして定義されていないサブシステムが、**「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」** パネルまたは **「Edit Entry (編集項目の入力)」** パネルで選択されている場合に表示されます。**「Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元)」** オプションで **「User profile (ユーザー・プロファイル)」** を選択した場合、ユーザー・プロファイルに保管されているデータ・セット名が表示されます。**「Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)」** オプションで **「DFSMDA members (DFSMDA メンバー)」** を選択した場合、サブシステムの DFSMDA 動的振り割りメンバーで指定したデータ・セット名が表示されます。

「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」 パネルは、**「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションが選択されなかった場合に表示されます。また、**「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションが選択され、以下のいずれかの条件が該当する場合にも表示されます。

- ・ FM/IMS が、ユーザー・プロファイルまたは DFSMDA メンバーから、必須のデータ・セット名すべてを取得することに失敗した。
- ・ 1 つまたは複数のデータベース・データ・セットが存在しない、またはデータ・セット編成が無効。
- ・ 1 つ以上のデータ・セットの割り振りが失敗する。

表示されたデータ・セット名が、関数が使用するデータ・セット名でない場合、またはデータ・セット名が表示されていない場合は、関数が使用するデータ・セット名を入力し、Enter キーを押します。表示されたデータ・セット名の使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、もう一度 Enter キーを押します。

13. これらのステップを完了したら、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルが表示されます。アクセス・プロセスは、セグメント・データの表示方法をセットアップすることで完了します。この手順は [データの表示方法の決定 ページ 60](#) で説明されています。

関連トピック

- [\[Browse Entry \(ブラウズ項目の入力\)\] パネル ページ 229](#)
- [\[Data Set Selection \(データ・セット選択\)\] パネル ページ 251](#)
- [\[Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)\] パネル ページ 254](#)
- [\[DLI Mode Parameters \(DLI モード・パラメーター\)\] パネル ページ 282](#)
- [\[Edit Entry \(編集項目の入力\)\] パネル ページ 286](#)
- [\[PCB Selection \(PCB 選択\)\] パネル ページ 370](#)
- [\[PSB Selection \(PSB 選択\)\] パネル ページ 389](#)
- [\[Subsystem Selection \(サブシステム選択\)\] パネル ページ 432](#)
- [\[System Settings \(システム設定\)\] パネル ページ 437](#)

動的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」で、オプション「**1 Browse (1 ブラウズ)**」またはオプション「**2 Edit (2 編集)**」のいずれかを選択します。「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルまたは「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルが表示されます。
2. 「**Subsystem name (サブシステム名)**」フィールドに、アクセスするデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID を入力します。必要なサブシステムをリストから選択する場合は、サブシステム名パターンを入力するか、フィールドをブランクのままにします。
3. 「**Database name (データベース名)**」フィールドに、アクセスするデータベースの名前を入力します。DBD のリストからデータベースを選択する場合は、データベース名パターンを入力するか、フィールドをブランクのままにします。
4. 関数で既存のビューを使用する場合は、「**View data set name (ビュー・データ・セット名)**」フィールドに、関数が使用するビューを含むデータ・セットの名前を入力します。データ・セットをデータ・セット・リストから選択する場合は、データ・セット名パターンを入力します。選択したデータ・セットが区分データ・セットの場合、「**View member (ビュー・メンバー)**」フィールドにビュー・メンバー名を入力します。必要なビュー・メンバーをリストから選択する場合は、ビュー・メンバー名パターンを入力するか、フィールドをブランクのままにします。選択したデータ・セットが区分データ・セットでない場合は、「**View member (ビュー・メンバー)**」フィールドをブランクのままにしておきます。
5. 「**PSB type (PSB タイプ)**」フィールドに、**1** を入力して動的 PSB を選択します。
6. 「**Region Type (領域タイプ)**」フィールドに、「**1**」を入力して DL/I バッチ処理領域を選択します。
7. HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみのサブシステムではない IMS サブシステムを選択した場合、「**Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)**」フィールドで以下を実行します。

- 関数で、ユーザー・プロファイルに名前が保管されているデータベース・データ・セットを使用する場合は、「1」を入力します。
 - 関数で、DFSMDA 動的割り振りメンバーに指定されたデータベース・データ・セットを使用する場合は、「2」を入力します。
8. 「View usage (ビューの使用)」フィールドで、以下を行います。
- 関数で新規ビューを使用する場合は、「1」を入力します。関数によって、データベース用のテンプレートから一時ビューが作成されます。
 - 関数で、「View data set name (ビュー・データ・セット名)」フィールドおよび「Member (メンバー)」フィールドに指定した既存ビューを使用する場合は、「2」を入力します。
 - 関数でビューを使用しない場合は、「3」を入力します。
9. 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」または「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルの表示をスキップしたい場合は、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」フィールドに「/」と入力します。
10. 選択したデータベースに 2 次索引があり、2 次索引を介してデータベースにアクセスする場合は、「Secondary index (2 次索引)」フィールドに「/」を入力します。
11. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの 1 つまたは複数、リストされている順に表示される場合があります。
- 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されません。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
 - 「Database Selection (データベース選択)」パネル
 - データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合に表示されません。
 - 指定されたサブシステムの DBD ライブラリー内の DBD のリストを表示します。

サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合は、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル(オプション 0.6.7)でサブシステムの DBD ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、サブシステムの DBD ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

- 「View Data Set Selection (ビュー・データ・セット選択)」パネル
 - 「View data set name (ビュー・データ・セット名)」パターンを入力し、「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択している場合に表示されます。
 - 指定した「View data set name (ビュー・データ・セット名)」パターンと一致する名前を持つデータ・セットのリストを表示します。
- 「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」パネル
 - 指定したビュー・データ・セットが区分データ・セットのときに、ビュー・メンバー名を入力しなかった場合、またはビュー・メンバー名パターンを入力して「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合に表示されます。
 - ビュー・データ・セットのメンバーのリストを表示します。
- 「Secondary Index Selection (2 次索引の選択)」パネル

- ・ **「Secondary index (2 次索引)」** オプションを選択し、選択したデータベースに複数の 2 次索引がある場合に表示されます。
- ・ 選択したデータベースのすべての 2 次索引を表示します。

表示されている各選択パネルで、選択する項目の横の **「Cmd」** フィールドに **s** を入力し、Enter キーを押します。

12. **「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションを選択しなかった場合、**「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」** パネルまたは **「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」** パネルのいずれかが表示されます。

- **「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」** パネルは、HALDB であるデータベース、または動的割り振りのみとして定義されているサブシステムが、**「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」** パネルまたは **「Edit Entry (編集項目の入力)」** パネルで選択されている場合に表示されます。このパネルには、編集またはブラウズで使用されるデータベース・データ・セットの名前が表示されます。リストされているデータベース・データ・セットが、関数が使用するデータベース・データ・セットであることを確認します。これらのデータ・セットの使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、Enter キーを押します。
- **「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」** パネルは、HALDB ではないデータベース、および動的割り振りのみとして定義されていないサブシステムが、**「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」** パネルまたは **「Edit Entry (編集項目の入力)」** パネルで選択されている場合に表示されます。**「Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元)」** オプションで **「User profile (ユーザー・プロフィール)」** を選択した場合、ユーザー・プロフィールに保管されているデータ・セット名が表示されます。**「Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)」** オプションで **「DFSMDA members (DFSMDA メンバー)」** を選択した場合、サブシステムの DFSMDA 動的割り振りメンバーで指定したデータ・セット名が表示されます。

「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」 パネルは、**「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションが選択されていない場合に表示されます。また、**「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションが選択され、以下のいずれかの条件が該当する場合にも表示されます。

- ・ FM/IMS が、ユーザー・プロフィールまたは DFSMDA メンバーから、必須のデータ・セット名すべてを取得することに失敗した。
- ・ 1 つまたは複数のデータベース・データ・セットが存在しない、またはデータ・セット編成が無効。
- ・ 1 つ以上のデータ・セットの割り振りが失敗する。

表示されたデータ・セット名が、関数が使用するデータ・セット名でない場合、またはデータ・セット名が表示されていない場合は、関数が使用するデータ・セット名を入力し、Enter キーを押します。表示されたデータ・セット名の使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、もう一度 Enter キーを押します。

13. これらのステップを完了したら、**「Database Positioning (データベース位置決め)」** パネルが表示されます。アクセス・プロセスは、セグメント・データの表示方法をセットアップすることで完了します。この手順は [データの表示方法の決定 ページ 60](#) で説明されています。

関連トピック

- 「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」 パネル ページ 229
- 「Data Set Selection (データ・セット選択)」 パネル ページ 251
- 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」 パネル ページ 254
- 「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」 パネル ページ 282
- 「Edit Entry (編集項目の入力)」 パネル ページ 286
- 「PSB Selection (PSB 選択)」 パネル ページ 389
- 「Secondary Index Selection (2 次索引の選択)」 パネル ページ 396
- 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」 パネル ページ 432
- 「System Settings (システム設定)」 パネル ページ 437

ブラウズまたは編集で使用不可の HALDB 区画および DEDB 領域

FM/IMS では、使用不可な区画を持つ HALDB データベース、または使用不可な領域を持つ DEDB データベースを編集またはブラウズすることができます。編集もブラウズも行えないのは、すべての区画または領域が使用不可の場合のみです。HALDB データベースのすべての区画が使用不可の場合、または DEDB データベースのすべての領域が停止されている場合は、「Database Positioning (データベースの位置決め)」パネル上にメッセージが表示され、データが使用可能になるまで続行することができなくなります。

ユーザーが使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域にあるセグメント上への配置を試行した場合、「Database positioning (データベースの位置決め)」パネルまたは「Key Specification (キー指定)」パネルから、FM/IMS はメッセージを表示します。ユーザーは、配置を試行しているセグメントのキー値を変更するか、または HALDB 区画または DEDB 領域が使用可能になるようにする必要があります。

「Database positioning (データベースの位置決め)」パネル上でルート・セグメントにキー値が指定されておらず、FM/IMS で使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域が検出された場合は、使用不可の区画/領域はスキップされ、使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域の直後の最初の使用可能なデータ上に配置されます。このことによって、処理時に FM/IMS が有効な開始位置を確実に持つようになります。

編集セッションで FM/IMS が IMS データベースを読み取るときに、使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域が検出された場合、使用不可の区画/領域行が表示され、その表示位置にあるデータが使用不可であることが示されます。

HALDB データベースの場合、FM/IMS で以下の行が表示され、

```
===== Unavailable Partitions =====
```

使用不可のデータであることが示されます。複数の連続した使用不可の区画がある場合には、それらの区画が使用不可であることを示す単一行のみが表示されます。

DEDB データベースの場合、FM/IMS で以下の行が表示され、

```
===== Unavailable Area =====
```

使用不可のデータであることが示されます。FM/IMS に、それぞれの使用不可の領域ごとに、使用不可の領域であることを示す行が表示されます。

使用不可であることを示す行で指示された位置にあるデータが使用可能になったと FM/IMS が判断すると、そのデータを表示します。

データの表示方法の決定

データベースにアクセスするためのモード、およびビューを使用するかどうかを決定したら、データベース内の開始位置および使用する初期表示形式を決定する必要があります。開始位置は、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを使用して決定することができます。また、必要に応じて、「Key Specification (キー指定)」パネルを使用して、この決定内容をさらに詳細に設定することができます。指定された開始位置より前のセグメントは、「IMS Data (IMS データ)」パネルに表示されません。表示形式は当初、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで設定されますが、「IMS Data (IMS データ)」パネル内から変更することもできます。

この節で説明されているタスクと概念は以下の通りです。

- [初期表示形式の設定 ページ 60](#)
- [FM/IMS によるデータベース内の位置の検出方法 ページ 61](#)
- [「Database Positioning \(データベース位置決め\)」パネルを介した開始位置の決定 ページ 61](#)
- [「Key Specification \(キー指定\)」パネルを介した開始位置の決定 ページ 62](#)

初期表示形式の設定

表示形式とは、表示上または編集上の要件に合うように、「IMS Data (IMS データ)」パネルのデータ域にデータを配置する方法のことです。表示形式は、ビューを介して論理形式が設定されているか、または設定されていないデータに適用することができます。ビューを使用して形式設定されていないデータは、CHAR、HEX、またはLHEX表示形式で表示することができます。ビューを使用して形式設定されているデータは、CHAR、HEX、LHEX SNGL、またはTABL表示形式で表示することができます。

CHAR

各セグメントのデータが連続するストリングとして表示される。

HEX

各セグメントのデータが連続する2行の16進数ストリングとして表示され、先頭行にはすべての表示可能なデータが文字形式で表示される。

LHEX

各セグメントのデータが連続する16進数ストリングとして表示される。

TABL

各フィールドのデータが1つの列内に置かれる。

SNGL

各セグメントのデータが1ページに表示される。

初期表示形式は、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで指定します。この形式は、ブラウザ・セッションまたは編集セッションでデータを表示する際に変更することができます。

初期表示形式を指定するには、以下のようにします。

1. 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで、「Format (形式)」フィールドに、必要とする形式の先頭の文字を入力します。
2. Enter キーを押します。フィールドに、完全形式名が表示されます。

FM/IMS によるデータベース内の位置の検出方法

どのデータベースでも、デフォルトの開始位置では、ルート・セグメントの先頭のセグメント・オカレンスから表示されるようになっています。しかし、IMS データベースには何百万ものレコードが含まれている可能性があるため、パフォーマンス上の理由で、データの表示をこれとは異なるセグメント・オカレンスからにする場合があります。

この配置を実現するには、選択されたセグメント・タイプにキー値を指定します。FM/IMS は、これらのキー値を使用して、選択されたセグメント・タイプの階層パス内のセグメント・レベルごとに SSA (セグメント検索指数) を作成します。FM/IMS は、指定されたキー値と一致するデータベース内の最初のセグメント・オカレンスを表示します。ビューが使用されており、一致するセグメントがこのビューで表示されない場合、開始位置は、一致するセグメントの後にあり、次に表示可能なセグメント・オカレンスになります。

“*hierarchical path* (階層パス)” は、データベース階層内のそのセグメントとルート・セグメントの間の各レベルにあるセグメントから構成されます。例えば、セグメントがレベル 3 にある場合には、そのセグメントと関連レベル 2 および 1 (ルート) のセグメントのキー値を入力します。

「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルまたは「Key Specification (キー指定)」パネルのいずれかで、開始位置のキー値を指定することができます。「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルには多くの階層パスのセグメントがリストされ、リスト内の任意のセグメントにキー値を指定できます。ただし、セグメントを選択して表示した場合には、FM/IMS はそのセグメントの階層パス内のキーだけを使用します。指定された任意の値に対して作成される SSA は「等しい」(=) 演算子を使用します。「Key Specification (キー指定)」パネルには、選択したセグメントの階層パス内のセグメントだけがリストされます。このため、データベースの位置を決定するためにどのキーが使用されるかを正確に参照することが容易になります。また、「Key Specification (キー指定)」パネルでは、さまざまな比較演算子を使用して、複雑な SSA ステートメントを作成することもできます。

選択したセグメント・タイプの階層パス内のどのキー値もブランクのままにしておいた場合には、FM/IMS はそのレベルについて非修飾 SSA を形式設定します。

「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを介した開始位置の決定

「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルに表示されるセグメント・キー・フィールドに値を入力して、データベース内の開始位置を決定することができます。このパネルで、ビューを使用するしないにかかわらず、不定形式のキー値を指定します。2 進数およびパック 10 進数キーの場合は、通常はバイト値を 16 進数 ('HEX ON') で指定することがこれに含まれます。

動的 PSB を使用してデータベースにアクセスしている場合には、DBD にリストされているすべてのセグメントがパネルに表示されます。静的 PSB を使用している場合には、その PSB 内で参照されたセグメントだけがパネルに表示されます。

開始位置を指定するには、以下のようになります。

1. 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで、表示するセグメントの横の **「Cmd」** フィールドに `s` コマンドを入力します。
2. 指定されたセグメントの **「Key value (キー値)」** フィールドに値を入力します。

ルート・セグメント以外のセグメントを表示する場合は、目的のセグメントと階層内のそれより上のすべてのセグメントの **「Key value (キー値)」** フィールドに値を入力します。

3. 入力した値がセグメント・オカレンス内の値と完全に一致する場合は、Enter キーを押します。「IMS Data (IMS データ)」パネルが表示され、基準に一致する最初の表示可能なセグメントがデータ域の先頭に配置されます。

指定されたキー値と一致するセグメントが存在しなかった場合には、パネルの右上隅に “Segment not found (セグメントが見つかりません)” というエラー・メッセージが表示されます。

4. 入力した値がセグメント・オカレンス内にある値と完全に一致しない場合は、「GE」機能キー (F5) を押します。この操作で、SSA ステートメントはすべて「より大きいか等しい」(>=) 演算子に変換されます。



注: データベース・タイプが HDAM、PHDAM、または DEDB である場合、または 2 次索引を使用している場合には、ルート・セグメントの SSA ステートメントでは「等しい」(=) 演算子が使用されます。その他のセグメントは「より大きいか等しい」(>=) に変換されます。

「IMS Data (IMS データ)」パネルが表示され、基準より大きいか等しい最初の表示可能なセグメントがデータ域の先頭に配置されます。

「Key Specification (キー指定)」パネルを介した開始位置の決定

「Key Specification (キー指定)」パネルの **「Key value (キー値)」** フィールドに値を入力して、データベース内の開始位置を決定することができます。このパネルには、「等しい」および「より大きいか等しい」以外の演算子を使用して開始位置基準を指定する機能が用意されています。ビューを使用している場合は、キーを定様式値として指定することもできます。すなわち、16 進のバイト値 (「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで使用する必要のある) の代わりに、数値を 2 進およびバック 10 進数字キーを指定することができます。

開始位置を指定するには、以下のようにします。

1. 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで、表示するセグメントの横の **「Cmd」** フィールドに `k` コマンドを入力します。「Key Specification (キー指定)」パネルが表示され、選択したセグメントの階層パス内のセグメントすべてが表示されます。
2. 指定されたセグメントの **「Key value (キー値)」** フィールドに値を入力します。

ルート・セグメント以外のセグメントを表示する場合は、目的のセグメントと階層内のそれより上のすべてのセグメントの **「Key value (キー値)」** フィールドに値を入力します。

3. 該当する「RO」フィールドに比較演算子を入力します。
4. Enter キーを押します。「IMS Data (IMS データ)」パネルが表示され、基準に一致する最初のセグメントがデータ域の先頭に配置されます。

関連トピック

「Key Specification (キー指定)」パネル ページ 358

比較演算子

「Key Positioning (キーの位置決め)」パネルで、「RO」フィールドに以下の比較演算子を入力することができます。

> または GT

より大

>=、=> または GE

次以上

= または EQ

等しい

< または LT

より小

<=、=< または LE

次以下

≠、≠= または NE

等しくない

また、次を入力することもできます。

UQ

FM/IMS はこのレベルで非修飾 SSA を使用します (「Key value (キー値)」フィールドに値が入っていても、無視されます)。

データのビューの操作

「IMS Data (IMS データ)」パネルにデータが表示されたならば、データのビューを操作して、必要なセグメントにフォーカスすることができます。

本節で説明されている作業は、以下のとおりです。

- [表示形式の選択 ページ 63](#)
- [セグメントすべてを表示するためのズームイン ページ 69](#)
- [データを表示するためのスクロール ページ 71](#)
- [フィールドまたは桁の位置決め ページ 74](#)
- [スライディング・ウィンドウのスクロールおよびデータベース位置への影響 ページ 74](#)

表示形式の選択

表示形式とは、ブラウザ上または編集上の要件に合うように、「IMS Data (IMS データ)」パネルのデータ域にデータを配置する方法のことです。表示形式は、テンプレートおよびビューを介して論理形式が設定されているか、または設定され

ていないデータに適用することができます。テンプレートを使用して形式設定されていないデータは、CHAR、HEX、または LHEX 表示形式で表示することができます (不定様式表示とも呼ばれます)。テンプレートを使用して形式設定されているデータは、上記の表示形式と、SNGL または TABL 表示形式で表示することができます (定様式表示とも呼ばれます)。

不定様式表示では、セグメント・データのバイトが連続して表示されます。表示できない文字 (例えば、パック 10 進数値) は、ドットとして表されます。

セグメントは、「Database Positioning (データベース位置決め)」または「Key Specification (キー指定)」パネルに指定されたキーから、1 行に 1 つずつ階層順に表示されます。セグメントに保持されているデータが一定以上大きい場合には、表示がパネルの右方を超えてしまいます。このオーバーフローには右方へスクロールすることによってアクセスできます。

初期表示形式の設定

「IMS Data (IMS データ)」パネルをブラウズまたは編集セッションの始めにどのように表示するかを指定するには、「Editor Options (エディター・オプション)」パネルで、「**Format (形式)**」オプションを必要な表示形式に設定します。

表示形式の変更

表示形式は、以下の 2 とおりの方法で変更することができます。

1. カーソルを「**Format (形式)**」フィールド (右上隅) に置きます。次に、必要な形式の先頭の文字で現在の設定を上書きし、Enter キーを押します。パネルに、選択した形式が再表示されます。
2. FC (FORMAT CHAR)、FH (FORMAT HEX)、FL (FORMAT LHEX)、FS (FORMAT SNGL) または FT (FORMAT TABL) 基本コマンドを入力します。



注: 編集セッションで作業するとき、接頭部コマンド・フィールドに上記のコマンドの短縮フォームを入力することもできます。

表示形式

どの表示形式がニーズに最も合っているかを判断するには、以下の表示形式の説明を検討してください。

CHAR

文字表示形式。この形式は、キーボードを使用して入力可能な文字から構成されている、構造化されていないテキストを表示または編集するのに適しています。

```

FM/IMS                      Edit : IMS Database DJ1E
  CHKPID FM000001 Autosave OFF SHOW SUP ON Scope DB Col 1_____ Format CHAR
Cmd Level Segment  ----+----1----+----2----+----3----+----4----+----5---
                      **** Top of window ****
___ 1      SHIRE      DENMARK                      130500244.h.....g/.....
    
```

HEX

16

進数が上下に表示され、その後目盛りが続く形式。この形式では、それぞれのバイトの文字用、ゾーン用、および数字用に別々の行を使用します。16

3	3	SHIRE-NAME	AN	20	K	DENMARK
4	2	SHIRE-TYPE	AN	1	1	
5	2	SHIRE-CODE1	ZD	3	305	
6	2	SHIRE-CODE2	ZD	5	244	
7	2	SHIRE-YEAR	BI	2	6280	
8	2	SHIRE-BRICK	PD	8	606363187610	
9	2	SHIRE-WOODEN	PD	8	2034233224332	
10	2	SHIRE-SCHOOL	PD	4	3020312	
11	2	SHIRE-GOLF	BI	2	12608	
*** End of record ***						

この例では、Ref (フィールド参照)、Typ (タイプ)、および Len (長さ) の各列を示しており、Field (フィールド) 列には構造情報が含まれています。この情報の表示はオプションです (デフォルトでは、情報が表示されます)。

SNGL モードで表示される情報を変更するには、以下のコマンドの1つを入力します。

JUST

数値フィールドを左寄せします。

PIC

ピクチャー列を表示または非表示にします。

RDF

再定義情報および再定義フィールドを表示または非表示にします。

REFS

フィールド参照列を表示または非表示にします。

SLOC

開始列を表示または非表示にします。

STR

フィールド列の構造情報を表示または非表示にします。

TYP

タイプ列および長さ列を表示または非表示にします。

これらのコマンドは、現在のパネルの状態に応じて表示形式をオンからオフまたはオフからオンに変更する切り替えコマンドです。コマンドは 現行の編集セッションまたはブラウザ・セッションにのみ影響し、デフォルト設定は変更されません。

「IMS Data (IMS データ)」パネルのデフォルト設定を変更するには、以下のようになります。

1. 現在、ブラウザまたは編集セッションではないことを確認します。
2. 「Primary Option (基本オプション)」メニューから、オプション 0.5 「**Editor options (エディター・オプション)**」を選択します。または、アクション・バーから 「**Options (オプション)**」 -> 「**Editor options (エディター・オプション)**」を選択します。

3. 「Editor Options (エディター・オプション)」パネルで以下のオプションを選択またはクリアします。
- Show redefined fields on SNGL and TABL displays (再定義フィールドを SNGL 画面および TABL 画面に表示)
 - Show field reference numbers on SNGL displays (フィールド参照番号を SNGL 画面に表示)
 - Show field type & length on SNGL displays (フィールド・タイプおよび長さを SNGL 画面に表示)
 - Show field picture clauses on SNGL displays (フィールド・ピクチャー文節を SNGL 画面に表示)
 - Show field start locations on SNGL displays (フィールド開始位置を SNGL 画面に表示)
 - Show record structure on SNGL displays (レコード構造を SNGL 画面に表示)
 - Left justify numerics on SNGL displays (左寄せ数値を SNGL 画面に表示)
 - Show field CCSID on SNGL display (フィールド CCSID を SNGL 画面に表示)



注: これらのオプションは、ブラウズまたは編集セッションにいるときには変更できません。

TABL

表形式

(ビューを使用する場合にのみ使用可能)。次のように、フィールドは、列に整列されます。この形式は、フィールドまたはセグメントに構造化された情報を表示し、複数のセグメントを検討する必要がある場合に適しています。

Cmd	Level	Segment	#3	#4	#5	#6
---	1	SHIRE	DENMARK	1	305	244

TABL 表示形式の場合、一度に表示されるのは、データ・セット中の 1 つのセグメント・タイプだけです。画面の最上部の列見出しは、現在のセグメント・タイプのフィールドを反映しています。見出しには、以下の 3 つの行があります。

```
field_heading
#n [R #n]
type start_column:length
<- ... ->
```

各部の意味は以下のとおりです。

field_heading

デフォルトでは、コピーブックで定義されているフィールド名になります。これは、テンプレートまたはビューを編集することによって変更できます。詳しくは、[フィールド属性の設定 ページ 113](#)を参照してください。

#n [R #n]

フィールド参照。これは、File Manager
内でフィールドを参照するために使用します。例えば、FIND
基本コマンドをあるフィールドだけの検索に制限するには、それらのフィールドにフィールド参
照を指定します。

フィールドが別のフィールドを再定義する場合には、再定義されるフィールドの前に「R」を表
記することによってそのことが示されます。例えば、#5 [R #4] は、これがフィールド 5
であり、フィールド 4 を再定義するものであることを示しています。

タイプ

フィールドのデータ・タイプ。

start_column

フィールドの開始桁。

length

フィールド長。

<- ... ->

フィールドのサイズを表す罫線。

CCSID

CCSID 列を表示または非表示にします。

その他のタイプのセグメントは表示から「抑制」され、非表示になるか、シャドー行で表されます。

CHAR、HEX、および LHEX 形式で、SNGL または TABL 形式の英数字フィールドの場合は、表示できない文字（「非表示」
文字）はピリオドとして表現されます。

- 定様式フィールド・データの 16 進値は、コマンド行に「HEX ON」を入力することによって表示できます。例え
ば、TABL 表示形式でデータを表示しているとき、表示が次のようである場合、

```

FM/IMS                               Edit : IMS Database DJ1E
          CHKPID FM000001 Autosave OFF SHOW SUP ON  Scope DB  Format TABL
          SHIRE-NAME                SHIRE-TYPE SHIRE-CODE1 SHIRE-CODE2
Cmd Level Segment #3                #4                #5                #6
          AN 1:20                    AN 21:1          ZD 22:3          ZD 25:5
          <-----1-----> -          <-->          <---->
___ 1    SHIRE    DENMARK            1                305            244
    
```

コマンド HEX ON を出すと、次のような 16 進数表記が表示されます。

```

FM/IMS                               Edit : IMS Database DJ1E
          CHKPID FM000001 Autosave OFF SHOW SUP ON  Scope DB  Format TABL
          SHIRE-NAME                SHIRE-TYPE SHIRE-CODE1 SHIRE-CODE2
Cmd Level Segment #3                #4                #5                #6
          AN 1:20                    AN 21:1          ZD 22:3          ZD 25:5
          <-----1-----> -          <-->          <---->
___ 1    SHIRE    DENMARK            1                305            244
    
```


CCDDCDD4444444444444 F	FFF	FFFFF
45541920000000000000 1	305	00244

- 数値フィールドに、数値として正しく解釈できないデータが入っている (例えば、パック 10 進数フィールドに無効なパック値が入っている) 場合は、このフィールドは、強調表示されたアスタリスクとして表示されます。
- 数値フィールドには有効な数値が入っているが、値が画面上のフィールド (オリジナル・コピーブックのピクチャー仕様に定義されているとおり) に割り振られている幅に収めるには大きすぎる場合は、その値は切り捨てられます。切り捨てが行われたことを示すために、このフィールドは強調表示されます。

切り捨てなしにフィールド全体を表示するには、テンプレートを編集し、フィールドの出力幅を指定する必要があります。

- フィールドが配列エレメントである場合は、そのフィールド見出しの後には括弧で囲まれた添え字が続きます (例えば、ELEMENT(1))。

関連トピック

[FORMAT 基本コマンド ページ 499](#)

[HEX 基本コマンド ページ 501](#)

[REFS 基本コマンド ページ 521](#)

[TYPE 基本コマンド ページ 538](#)

[フィールド属性の設定 ページ 113](#)

[「Editor Options \(エディター・オプション\)」パネル ページ 293](#)

[エディター・オプション \(オプション 0.5\) ページ 43](#)

セグメントすべてを表示するためのズームイン

CHAR、HEX、または LHEX 表示形式で、特定セグメント中のすべてのデータを左右にスクロールせずに表示する場合は、単一セグメントを「ズームイン」できます。[図 13:1 つのセグメントのズームイン \(CHAR 表示形式\) ページ 69](#) に示されているように、File Manager は表示をその 1 セグメントだけに制限し、データを次の行に折り返します。

図 13.1 つのセグメントのズームイン (CHAR 表示形式)

```

FM/IMS                Browse : IMS Database DJ1G
                                Col 1 Zoom Format CHAR
Segment SHRLSUB                Level: 2
Concatenated key value: BROOME                BROOME
Length Byte  ----+----1----+----2----+----3----+----4----+----5----+----
              80  1 BROOME                BROOME                6725 B6501664DERBY
              61  169175812214BROOM

```

SNGL 表示形式では、ズームインすると、ビューの中で選択されたフィールドだけでなく、SNGL 表示形式で表されていたセグメント内のすべてのフィールドが表示されます。「Zoom (ズーム)」という語が「Format (形式)」フィールドの左方に表示されます。これにより、簡単に「通常の」SNGL および「ズームされた」SNGL 表示を識別することができます。

TABL 表示形式になっているときにズームインすると、表示が “zoomed (ズームされた)” SNGL 表示形式に変化します。

図 14.1 つのセグメントのズームイン (SNGL 表示形式)

```

FM/IMS                               Edit : IMS Database DJ1E                               Zoom Format SNGL
Segment SHIRE                          Level: 1
Concatenated key value: DENMARK
                                         Top Field is 3   of 11
Current 01: SHIRE-TOWN
Ref Field      Typ  Len  Data
 3  3 SHIRE-NAME  AN   20 K DENMARK
 4  2 SHIRE-TYPE  AN    1  1
 5  2 SHIRE-CODE1 ZD    3  305
 6  2 SHIRE-CODE2 ZD    5   244
 7  2 SHIRE-YEAR  BI    2  6280
 8  2 SHIRE-BRICK PD    8  606363187610
 9  2 SHIRE-WOODEN PD    8  2034233224332
10  2 SHIRE-SCHOOL PD    4  3020312
11  2 SHIRE-GOLF  BI    2  12608
*** End of record ***
    
```

ズームインするには、次のようにします。

1. コマンド行で **ZOOM** と入力します。
2. ズーム・モードで表示するセグメントにカーソルを移動します。
3. Enter キーを押します。

カーソルがセグメント上にない場合には、FM/IMS は現在パネルに表示されている先頭のセグメントにズームインします。先頭行が表示されているセグメントでない場合には、ズームは働きません。

ズーム表示は、ズームする前に **[Col]** フィールド (CHAR、HEX または LEX) に示されていた桁、または表示されている左端フィールド (TABL) に自動的にスクロールします。

セグメントでズームインしている間に、**[Format (形式)]** フィールドに最初の文字を重ねて入力することによって、形式を通常の方法で別の形式に変更することができます。

ズームアウトするには、**ZOOM** 基本コマンドを再入力します。ズームアウトすると、表示形式はズームイン前の設定に戻ります。例えば、表示形式が CHAR であるときにズームインし、その後で HEX に変更した場合には、ズームアウトによって表示は CHAR 形式に戻ります。ズームアウトでは、また、ズームインの前の桁の設定に戻ります。

SNGL (非 ZOOM) 表示形式では、「Previous」機能キー (F10) と「Next」機能キー (F11) を使用してセグメント間を移動できます。現在 SNGL 表示形式または TABL 表示形式のいずれかで表示されているセグメントをズームすると、そのセグメントは SNGL 表示形式で表示されますが、テンプレートで表示用に選択したかどうかにかかわらず、すべてのフィールドが表示されます。

現在 CHAR 表示形式または HEX 表示形式で表示されているセグメントをズームすると、画面にはそのセグメントだけが表示されますが、全セグメントも表示されています。



注: ZOOM モードは、単一セグメントのビューをより完全にするために使用されます。ZOOM モードのときには、セグメント間を移動できません。

ZOOM モードでは、SEGMENT、REC、および CHILD はアクティブではありません。

データを表示するためのスクロール

データベースの「Browse (ブラウズ)」パネルでは、データをすべて表示できる十分な大きさではないことがよくあります。現在表示されていないデータを表示するには、データをスクロールすることができます。

データをスクロールするには、以下の機能キーを使用します。

使用する機能キー

用途

「Up」機能キー (F7)

後方 (上方) にスクロールする

下機能キー (F8)

前方 (下方) にスクロールする

左の機能キー (F10)

左方にスクロールする

「Right」機能キー (F11)

右方にスクロールする

SNGL 表示形式では、F10 と F11 機能キーの動きは異なります。

「Previous (戻る)」機能キー (F10)

直前のセグメントに戻る

「Next」機能キー (F11)

次のセグメントに進む

基本コマンド UP、DOWN、LEFT、RIGHT、TOP、BOTTOM、NEXT、および PREVIOUS を使用してスクロールすることもできます。

SNGL 表示形式で、 n 個のセグメントを下方へ移動するには、2 とおりの方法があります。

- コマンド行に NEXT n を入力する。
- コマンド行に n を入力し、「Next」機能キー (F11) を押す。



注: 後続のセグメント数より大きいセグメント数を指定した場合には、FM/IMS は `**** End of data ****` (**** データの終わり ****) 標識を表示します。続いて、「Previous」機能キー (F10) を押して、最後に選択されたセグメントを表示することができます。

SNGL 表示形式で、 n 個のセグメントを上方へ移動するには、2 とおりの方法があります。

- コマンド行に `PREVIOUS n` を入力する。
- コマンド行に n を入力し、「Previous」機能キー (F10) を押す。



注: 前のセグメントの数より大きいセグメント数を指定した場合には、最初に選択されたセグメントが表示されません。

例

`LEFT 8`

左に 8 列スクロールします。

`LEFT`

【Scroll (スクロール)】 フィールドに示した列数だけ左にスクロールします。

`LEFT CSR`

カーソルがセグメント上にある場合は、そのカーソル位置まで左にスクロールし、そうでない場合は、1 ページだけ左にスクロールします。

関連トピック

[コマンド ページ 467](#)

スクロール移動量の制御

いずれかのスクロール機能キーを押すときのスクロールの移動量を制御するには、**【Scroll (スクロール)】** フィールドに下のスクロール移動量を入力してください。

スクロール移動量

スクロール方法

PAGE

一度に 1 画面

HALF

一度に半画面

DATA

一度に 1 画面より少ない 1 行または 1 桁

CSR

カーソル位置まで

(スクロールするときに、カーソルがセグメント上にない場合は、スクロール移動量は、デフォルトで PAGE になります)

nnnn

一度に移動する桁数 (左右にスクロールする場合) またはセグメント数 (上下にスクロールする場合)

**注:**

1. 「Next」機能キー (F11) または「Previous」機能キー (F10) を使用してセグメントをスクロールする場合に、非表示になっているセグメントがスキップされたことは、セグメント番号 (画面の右上隅に表示される) がそれに応じてスキップされたことによるのみ示されます。
2. TABL 表示形式では、左または右にスクロールすると、指定したスクロール移動量が一番近いフィールドの開始位置に移動します。例えば、**「Scroll (スクロール)」** フィールドに CSR が入っていて、あるフィールドにカーソルを移動して「Right」機能キー (F11) を押すと、そのフィールドの先頭桁が画面の左側になるように、表示は右にスクロールされます。数値のスクロール移動量 (nnnn) を入力すると、その移動量は、絶対桁番号 (相対桁番号ではなく) として扱われ、表示は、その桁を占めるフィールドの開始位置にスクロールされます。

「Scroll (スクロール)」 フィールドの移動量は、コマンド行にスクロール移動量を入力してから、スクロール機能キーを押すことによって一時的に指定変更することができます。例えば、コマンド行に 8 を入力して、「Right」機能キー (F11) を押すと、File Manager は右へ 8 桁スクロールします。

最初または最後のセグメントまたは列へのスクロール

データ・セット中の先頭または最後のセグメントまたは先頭または最後の桁にスクロールするには、コマンド行に **「MAX」** (または **「M」**) を入力してから、スクロール機能キーの 1 つを押します。例えば、「M」を入力してから、「Right」機能キー (F11) を押すと、最後の桁まで右へスクロールします。

また、コマンド行に **「TOP」** または **「BOTTOM」** を入力することによって、先頭または最後の行にスクロールすることもできます。

スクロール時のフィールドの保持

フィールドを保持して、スクロールする距離に関係なく常に表示されるようにすることができます。

フィールドを保持するには、**「Cmd」** フィールドに **H** を入力します。

TABL 表示形式で、保持フィールドは常に、画面の左端のフィールドとして (テンプレートの編集時にフィールドを保持した順序で) 表示されます。保持フィールドは、左から右への表示に関する限り、他のフィールドより優先されます。

SNGL 表示形式では、保持フィールドは常に画面上の最上位フィールドとして表示されます (テンプレートの編集時に保持された順序で表示されます)。保持フィールドは、上から下への表示に関する限り、他のフィールドより優先されます。

フィールドを保持するには、**【Cmd】** フィールドに **H** を入力します。

フィールドの保持について詳しくは、[テンプレートおよびビューの操作 ページ 86](#)を参照してください。

フィールドまたは桁の位置決め

SNGL および TABL 以外のすべての表示形式では、**【Col】** フィールドに桁番号を入力して、Enter キーを押すことによって、特定の桁までスクロールできます。

SNGL および TABL 表示形式で、フィールド参照番号またはフィールド名のいずれかを使用する、LOCATE 基本コマンドを使用して、特定のフィールドまでスクロールできます。例:

```
LOCATE #5
```

または

```
LOCATE Age
```

フィールドが配列の 1 つの項目であるときには、見つけたい出現箇所を識別できるように添字を括弧で囲んで指定する必要があります。フィールドが多次元配列の一部の場合、配列の次元ごとに添字を指定しなければなりません。例:

```
L #7(5)
```

```
L #9(2,3)
```

TABL 表示形式では、LOCATE コマンドは、指定したフィールドが左端の可視フィールドになるようにビューをスクロールします。1 つのフィールドに位置付けると、「Down」(F8) または「Up」(F7) コマンド (機能キー) を使用してセグメントをスクロールして、同じ相対フィールド・ビューを維持することができます。

SNGL 表示形式では、LOCATE コマンドは、指定したフィールドが上端の可視フィールドになるようにビューをスクロールします。1 つのフィールドに位置付けると、「Next」(F11) または「Prev (戻る)」(F10) コマンド (機能キー) を使用してセグメントをスクロールして、同じ相対フィールド・ビューを維持することができます。

関連トピック

[LOCATE 基本コマンド ページ 510](#)

スライディング・ウィンドウのスクロールおよびデータベース位置への影響

データベースは非常に大きくなる可能性があります。FM/IMS は制限されたメモリーで処理する必要があり、このことは、必ずしも FM/IMS がデータベース内のすべてのセグメントをメモリー内に保持できるわけではないことを意味します。

代わりに、FM/IMS は、データベースの表示を提供するスライディング・ウィンドウと連動します。このウィンドウの先頭は、**【Top of window (ウィンドウの先頭)】** 行によって「IMS Data (IMS データ)」パネル上に表示されます。これは、**TOP** コマンドを入力した場合に「IMS Data (IMS データ)」パネル上で見るすることができます。スライディング・ウィンドウにはおよそ 500 個のセグメントが保持されますが、これは、個々のセグメントのサイズ、およびデータベース・レコードの構造とサイズによって異なります。

ウィンドウの先頭がデータベースの先頭でもある場合がありますが、これを即座に知る方法はありません。データベースの先頭へは、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルでルート・セグメントのキー値をブランクにするか、

あるいは `ROOT FIRST` コマンドを入力することによって進むことができます。(データベースの先頭は、現在有効な選択基準によって決定されます。)

「IMS Data (IMS データ)」パネル上のデータを見ながら、「Up」機能キー (F7) を押し続けると、最終的に、ウィンドウの先頭行が表示されます。「Up」機能キー (F7) を押しても、この行を超えて戻ることはできません。

スライディング・ウィンドウ内のセグメントへの追加処理を行っているときに、スライディング・ウィンドウがその最大サイズに達すると、ウィンドウの先頭が下方に (データベースの下部に向かって) 移動します。そのような場合には、例えば、`BOTTOM` コマンドを入力してから、「Down (下へ)」機能キー (F8) を押すと、スライディング・ウィンドウの先頭が下方に移動します。スライディング・ウィンドウの内容を変更できる可能性がある その他のコマンドには、`CHANGE NEXT`、`CHANGE ALL`、`RCHANGE`、`DOWN`、`FIND NEXT`、`RFIND`、`KEY`、`ROOT FIRST`、および `UP MAX` があります。

`TOP` コマンドは、スライディング・ウィンドウによって制限されます。

バッチでのデータベースの印刷

「Print (印刷)」ダイアログ (「Utility (ユーティリティ)」メニューのオプション 5) によって、IMS データベースから以下のいずれかの形式でデータを印刷するバッチ・ジョブが生成されます。

- 文字形式
- 16 進形式。

印刷された IMS セグメントには、3 つの行が含まれます。1 行目はその IMS セグメントの文字表現、2 行目と 3 行目はその 16 進表現です。

- 単一形式

印刷された IMS セグメントでは、その IMS セグメントに対してビューで指定されたフィールドごとに 1 行があります。

- 表形式

印刷された IMS セグメントでは、ビューで指定されたフィールドが横に並んで表示されます。

データベース全体、またはデータベースのいくつかのサブセットを印刷できます。データベースのサブセットのみを印刷したい場合は、以下のいずれかの組み合わせを使用して、印刷するセグメント・オカレンスを制御することができます。

- 印刷したいデータベース・レコードのルート・セグメント・キー値を含むファイル。このファイルはキー・ファイルと呼ばれます。
- 印刷したいデータベース・レコードのルート・セグメント・キー値を指定する `KEYLIST` パラメーター。

このリストで、完全な、または部分的なキー値を指定できます。部分キーを指定すると、部分キーに一致するルート・キー値を持つデータベース・レコードが印刷されます。

- 印刷したいデータベース・レコードのルート・セグメント・キー値の範囲を指定する `KEYRANGE` パラメーター。
- 印刷するためにセグメント・オカレンスが満たす必要のある基準を指定するビュー。

ビューを使用して、セグメントのどのフィールドを印刷するかを指定することもできます。

通常は、関数によって印刷するデータベース・レコードを指定するには、キー・ファイルか、KEYLIST パラメーターまたは KEYRANGE パラメーターを使用し、印刷するセグメント・オカレンスを制御するにはビューを使用します。

キー・ファイルの作成

印刷するデータベース・レコードを制御する方法の 1 つに、キー・ファイルを使用して必要なデータベース・レコードのルート・キー値を指定する方法があります。キー・ファイルを作成する方法の 1 つについて、以下で説明します。

1. 「Browse」機能 (オプション 1) を使用して、データを印刷するデータベースのルート・セグメントを参照します。

「Browse」機能でルート・セグメントのみを表示するには、「Browse Entry」パネルの「View usage」で「New」を選択し、「Database Positioning」パネルで従属セグメントをすべて選択解除します。

2. 「IMS data」パネルで、印刷したい最初のデータベース・レコードのルート・セグメントまでスクロールし、XKEY コマンドを発行します。FM/IMS によって、次の名前の順次キー・ファイルが作成されます。

```
temphlq.XKEY.Dyymmdd.Thhmmss.dbname
```

各部の意味は以下のとおりです。

- temphlq は、「Set Temporary Data Set Allocation Options」パネルで指定された高位修飾子です (オプション 0.7)。
- dyymmdd はデータ・セットが作成された日付です。
- thhmmss はデータ・セットが作成された時刻です。
- dbname は参照しているデータベースの名前です。

このファイルには、スクロール先のルート・セグメントのキー値と、データベース内のそのルート・セグメントの後にあるすべてのルート・セグメントのキー値が含まれています。

3. キー・ファイルを編集して、印刷したくないデータベース・レコードのルート・キー値をすべて削除します。

印刷を実行するバッチ・ジョブの生成

IMS データベースからデータを印刷するバッチ・ジョブを生成するには、以下のようにします。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」からオプション「**3 Utilities (3 ユーティリティー)**」を選択し、「Utility Menu (ユーティリティー・メニュー)」から「**5 Print (5 印刷)**」を選択します。「Print Entry (印刷項目の入力)」パネルが表示されます。
2. 「Print Entry (印刷項目の入力)」パネルのフィールドの多くが、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルにもあることに注意してください。両方のパネルに共通するフィールドに入力するには、印刷に使用する領域タイプおよび PSB タイプに応じて、以下の手順のいずれかに従います。
 - 静的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 49 のステップ 2 から 9。
 - 動的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 51 のステップ 2 から 8。
 - 静的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 53 のステップ 2 から 10。
 - 動的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 56 のステップ 2 から 9。
3. 「Print format (印刷形式)」フィールドに、印刷対象のデータに使用する形式を入力します。
 - 文字形式の場合は 1 を入力します。
 - 16 進形式の場合は 2 を入力します。

- SNGL 形式の場合は 3 を入力します。
- TABL 形式の場合は 4 を入力します。

SNGL または TABL 形式を選択する場合は、**「View usage (ビューの使用)」** で「New (新規)」または「Existing (既存)」を選択する必要があります。

4. 印刷でキー・ファイルを使用する場合は、「Use key values」フィールドに / を入力します。
5. **「View usage (ビューの使用)」** で「Existing (既存)」を選択した場合に、印刷でビューを使用する前にそれを編集するときは、**「Edit view (ビューの編集)」** フィールドに「/」を入力します。
6. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの 1 つまたは複数、リストされている順に表示される場合があります。

- **「Subsystem Selection (サブシステム選択)」** パネル
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されません。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
- **「PSB Selection (PSB 選択)」** パネル
 - PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力して「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの PSB ライブラリー内の PSB のリストを表示します。

サブシステムに固定の PSB ライブラリーがない場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの PSB ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の PSB ライブラリーがある場合、サブシステムの PSB ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

- **「PCB Selection (PCB 選択)」** パネル
 - **「PSB type (PSB タイプ)」** で「Static (静的)」を選択し、以下のいずれかが当てはまる場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。
 - 指定された PSB に PCB のリストを表示します。
- **「Database Selection (データベース選択)」** パネル
 - データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力して **「PSB type (PSB タイプ)」** で「Dynamic (動的)」を選択した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの DBD ライブラリー内の DBD のリストを表示します。

サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合は、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの DBD ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、サブシステムの DBD ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

- **「AGN Selection (AGN 選択)」** パネル

- ・以下のすべてが該当する場合に表示されます。
 - ・ **「Region type (領域タイプ)」** で **「BMP」** を選択した。
 - ・ 指定したサブシステムは AGN を使用しており、その一部は FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている。
 - ・ AGN 名を入力しなかったか、または AGN 名パターンを入力した。
- ・ FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされているサブシステムの AGN を表示します。
- **「View Data Set Selection (ビュー・データ・セット選択)」** パネル
 - ・ **「View data set name (ビュー・データ・セット名)」** パターンを入力し、 **「View usage (ビューの使用)」** で **「Existing (既存)」** を選択している場合に表示されます。
 - ・ 指定した **「View data set name (ビュー・データ・セット名)」** パターンと一致する名前を持つデータ・セットのリストを表示します。
- **「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」** パネル
 - ・ 指定したビュー・データ・セットが区分データ・セットのときに、ビュー・メンバー名を入力しなかった場合、またはビュー・メンバー名パターンを入力して **「View usage (ビューの使用)」** で **「Existing (既存)」** を選択した場合に表示されます。
 - ・ ビュー・データ・セットのメンバーのリストを表示します。

表示されている各選択パネルで、選択する項目の横の **「Cmd」** フィールドに **␣** を入力し、Enter キーを押します。

7. **「Region type (領域タイプ)」** で **「DLI」** を選択し、 **「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションを選択しなかった場合、 **「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」** パネルまたは **「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」** パネルのいずれかが表示されません。

- **「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」** パネルは、HALDB であるデータベース、または動的割り振りのみとして定義されているサブシステムが、 **「Print Entry (印刷項目の入力)」** パネルで選択されている場合に表示されます。このパネルには、関数が使用するデータベース・データ・セットの名前が表示されます。リストされているデータベース・データ・セットが、関数が使用するデータベース・データ・セットであることを確認します。これらのデータ・セットの使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、Enter キーを押します。
- **「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」** パネルは、HALDB ではないデータベース、および動的割り振りのみとして定義されていないサブシステムが、 **「Print Entry (印刷項目の入力)」** パネルで選択されている場合に表示されます。 **「Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元)」** オプションで **「User profile (ユーザー・プロファイル)」** を選択した場合、ユーザー・プロファイルに保管されているデータ・セット名が表示されます。 **「Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)」** オプションで **「DFSMDA members (DFSMDA メンバー)」** を選択した場合、サブシステムの DFSMDA 動的振り割りメンバーで指定したデータ・セット名が表示されます。

「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」 パネルは、 **「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションが選択されなかった場合に表示されます。また、 **「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションが選択され、以下のいずれかの条件が該当する場合にも表示されます。

- FM/IMS が、ユーザー・プロファイルまたは DFSMDA メンバーから、必須のデータ・セット名すべてを取得することに失敗した。
- 1 つまたは複数のデータベース・データ・セットが存在しない、またはデータ・セット編成が無効。

表示されたデータ・セット名が、関数を使用するデータ・セット名でない場合、またはデータ・セット名が表示されていない場合は、関数を使用するデータ・セット名を入力し、Enter キーを押します。表示されたデータ・セット名の使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、もう一度 Enter キーを押します。

8. 「Print Entry」パネルで「Use key values」オプションを選択した場合は、「Print Options」パネルが表示されません。

「Print Options」パネルで、「Key values」フィールドにキー・ファイルの名前を指定し、Enter キーを押します。

9. FM/IMS は、ダイアログに指定したデータを使用して、印刷ジョブ用の JCL を生成します。ダイアログの終わりに JCL が表示されます。

ジョブを実行依頼する前に、この JCL を編集できます。



注: 必要最小領域サイズは 2M です。

関連トピック

[「Utility Menu \(ユーティリティー・メニュー\)」パネル ページ 457](#)

[「Print Entry \(印刷項目の入力\)」パネル ページ 379](#)

[「System Settings \(システム設定\)」パネル ページ 437](#)

[「PCB Selection \(PCB 選択\)」パネル ページ 370](#)

[「Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)」パネル ページ 254](#)

KEYLIST、KEYRANGE、および MAXROOTS パラメーターを指定するように JCL を変更

[印刷を実行するバッチ・ジョブの生成 ページ 76](#) では、「Print」ダイアログを使用して IMS データベースからデータを印刷するジョブの JCL を生成する方法について説明しました。

ただし、「Print」ダイアログで生成されない、使用可能な 3 つのパラメーターがあります。これらは KEYLIST、KEYRANGE、および MAXROOTS の各パラメーターです。

KEYLIST パラメーターを使用して、印刷したいデータベース・レコードのルート・セグメント・キー値のリストを指定できます。このリストはもちろん、キー・ファイルでも指定できますが、このパラメーターはキー・リストを指定する別の方法を提供するものです。キー・ファイルとは異なりますが、KEYLIST パラメーターでも部分キーを指定できます。ルート・キー値の長さがルート・セグメントのキー長より短い場合、関数はそれをキーの最初の部分と見なし、部分キー値に一致するルート・キー値を持つデータベース・レコードをすべて印刷します。

KEYRANGE パラメーターは、ルート・キー値の範囲の始まりと終わりを指定するために使用できます。関数は、指定された範囲内のルート・キー値を持つデータベース・レコードを印刷します。

MAXROOTS パラメーターを使用して、関数によって印刷されるデータベース・レコード数を制限できます。このパラメーターを指定すると、関数は、印刷したデータベース・レコード数をカウントし、指定された限度に達すると終了します。

これらのパラメーターのコーディング方法については、[印刷 \(IPR\) ページ 619](#)を参照してください。

報告書の印刷

印刷機能により、以下の2つの報告書が作成されます。

- データベース印刷要約
- データベース印刷統計報告書

データベース印刷要約報告書は、印刷で使用されたオプションおよびリソースを報告します。この報告書の内容については、[データベース印刷要約 ページ 626](#)を参照してください。

データベース印刷統計報告書には、印刷された各セグメント・タイプの出現回数を含む、印刷統計が表示されます。この報告書の内容については、[データベース印刷統計報告書 ページ 629](#)を参照してください。

バッチでのデータベースの表示

「Batch Browse (バッチ・ブラウズ)」ダイアログ (「Utility (ユーティリティー)」メニューのオプション 7) によって、バッチ・ブラウズ・ジョブ用の JCL が生成されます。バッチ・ブラウズ・ジョブは、ユーザーが作成した REXX プロシージャーを実行します。これによって、組み込み関数が呼び出され、ユーザーは IMS データベースを読み取ることができるようになります。

バッチ・ブラウズ・ジョブ用の JCL を生成するには、以下のようにします。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」からオプション「**3 Utilities (3 ユーティリティー)**」を選択し、「Utility Menu (ユーティリティー・メニュー)」から「**7 Batch Browse (7 バッチ・ブラウズ)**」を選択します。
「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」パネルが表示されます。
2. 「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」パネルのフィールドの多くが、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルにもあることに注意してください。両方のパネルに共通するフィールドに入力するには、バッチ・ブラウズに使用する領域タイプおよび PSB タイプに応じて、以下の手順のいずれかに従います。
 - 静的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス [ページ 49](#)のステップ 2 から 9。
 - 動的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス [ページ 51](#)のステップ 2 から 8。
 - 静的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス [ページ 53](#)のステップ 2 から 10。
 - 動的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス [ページ 56](#)のステップ 2 から 9。
3. 「**View usage (ビューの使用)**」で「Existing (既存)」を選択した場合に、バッチ・ブラウズでビューを使用する前にそれを編集するときは、「Edit view (ビューの編集)」フィールドに「/」を入力します。
4. バッチ・ブラウズが実行する REXX プロシージャーに TPLDD パラメーターが設定された VIEWIMS 呼び出しを組み込む場合、「Include template DD (テンプレート DD の組み込み)」フィールドに「s」を入力します。このオプションを選択すると、生成された JCL に、指定したサブシステムのテンプレート・データ・セットを指定する TDDIN DD ステートメントが組み込まれます。
5. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの1つまたは複数、リストされている順に表示される場合があります。

- 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」 パネル
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されません。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
- 「PSB Selection (PSB 選択)」 パネル
 - PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力して「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの PSB ライブラリー内の PSB のリストを表示します。

サブシステムに固定の PSB ライブラリーがない場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの PSB ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の PSB ライブラリーがある場合、サブシステムの PSB ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。
- 「PCB Selection (PCB 選択)」 パネル
 - 「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Static (静的)」を選択し、以下のいずれかが当てはまる場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。
 - 指定された PSB に PCB のリストを表示します。
- 「Database Selection (データベース選択)」 パネル
 - データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力して「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Dynamic (動的)」を選択した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの DBD ライブラリー内の DBD のリストを表示します。

サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合は、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの DBD ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、サブシステムの DBD ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。
- 「AGN Selection (AGN 選択)」 パネル
 - 以下のすべてが該当する場合に表示されます。
 - 「**Region type (領域タイプ)**」で「BMP」を選択した。
 - 指定したサブシステムは AGN を使用しており、その一部は FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている。
 - AGN 名を入力しなかったか、または AGN 名パターンを入力した。
 - FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされているサブシステムの AGN を表示します。
- 「View Data Set Selection (ビュー・データ・セット選択)」 パネル
 - 「View data set name (ビュー・データ・セット名)」パターンを入力し、「**View usage (ビューの使用)**」で「Existing (既存)」を選択している場合に表示されます。
 - 指定した「View data set name (ビュー・データ・セット名)」パターンと一致する名前を持つデータ・セットのリストを表示します。

- 「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」パネル
 - 指定したビュー・データ・セットが区分データ・セットのときに、ビュー・メンバー名を入力しなかった場合、またはビュー・メンバー名パターンを入力して「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合に表示されます。
 - ビュー・データ・セットのメンバーのリストを表示します。

表示されている各選択パネルで、選択する項目の横の「Cmd」フィールドに s を入力し、Enter キーを押します。

6. 「Region type (領域タイプ)」で「DLI」を選択し、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションを選択しなかった場合、「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルまたは「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルのいずれかが表示されません。

- 「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルは、HALDB であるデータベース、または動的割り振りのみとして定義されているサブシステムが、「Print Entry (印刷項目の入力)」パネルで選択されている場合に表示されます。このパネルには、関数が使用するデータベース・データ・セットの名前が表示されます。リストされているデータベース・データ・セットが、関数が使用するデータベース・データ・セットであることを確認します。これらのデータ・セットの使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、Enter キーを押します。
- 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルは、HALDB ではないデータベース、および動的割り振りのみとして定義されていないサブシステムが、「Print Entry (印刷項目の入力)」パネルで選択されている場合に表示されます。「Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元)」オプションで「User profile (ユーザー・プロファイル)」を選択した場合、ユーザー・プロファイルに保管されているデータ・セット名が表示されます。「Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)」オプションで「DFSMDA members (DFSMDA メンバー)」を選択した場合、サブシステムの DFSMDA 動的振り割りメンバーで指定したデータ・セット名が表示されます。

「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルは、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションが選択されなかった場合に表示されます。また、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションが選択され、以下のいずれかの条件が該当する場合にも表示されます。

- FM/IMS が、ユーザー・プロファイルまたは DFSMDA メンバーから、必須のデータ・セット名すべてを取得することに失敗した。
- 1 つまたは複数のデータベース・データ・セットが存在しない、またはデータ・セット編成が無効。

表示されたデータ・セット名が、関数が使用するデータ・セット名でない場合、またはデータ・セット名が表示されていない場合は、関数が使用するデータ・セット名を入力し、Enter キーを押します。表示されたデータ・セット名の使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、もう一度 Enter キーを押します。

7. 「Batch Browse Options (バッチ・ブラウズ・オプション)」パネルで、実行する REXX プロシージャをインストリームで自分で作成するか、前に作成したデータ・セット (またはメンバー) から実行するかを指定します。

REXX プロシージャをインストリームで作成するには、次のようにします。

- 「Procedure type (プロシージャ・タイプ)」で「In-stream (インストリーム)」を選択します。実行される REXX を指定するように、生成された JCL を編集してください。

既存のデータ・セット (またはメンバー) から REXX を実行するには、次のようにします。

- 「REXX Procedure (REXX プロシージャ)」フィールドに、実行される REXX を含むデータ・セット (必ず、PDS) およびメンバーを指定します。
- 「Procedure type (プロシージャ・タイプ)」で「Cataloged (カタログ作成)」を選択します。
- REXX を保守するには、「Edit REXX (REXX の編集)」フィールドを選択します。これにより、REXX プロシージャを保守するための ISPF 編集セッションに入ります。

8. Enter キーを押します。FM/IMS は、ダイアログに指定したデータを使用して、バッチ・ブラウズ・ジョブ用の JCL を生成します。ジョブを実行依頼する前に、この JCL を編集できます。



注: 必要最小領域サイズは 2M です。

IBB REXX プロシージャ (バッチ・ブラウズ)

バッチ・ブラウズによって実行される REXX プロシージャは、IBB 関数を呼び出し、ビューを使用して、または使用せずに、データベースを処理します。

ビューを使用すると、FM/IMS による IMS データベースのナビゲーションを限定的に制御します。ビューで選択基準を指定することによって、FM/IMS は、指定された選択基準に一致する IMS セグメントのみを戻します。

ビューを使用する場合に利用可能な IBB 呼び出しは、以下のものです。

GETIMS

指定されたビューを使用して IMS セグメントを取り出します。

PRINT

CHAR、HEX、SNGL、または TABL 形式で IMS セグメントを印刷します。

SETRC

IBB ジョブ・ステップの戻りコードを設定します。

VIEWIMS

REXX プロシージャが IMS セグメントの取り出しに使用するビューを作成およびロードします。

VIEWPOSN

GETIMS 呼び出しを起動する前に、IMS セグメント上に位置づけます。これにより、IMS データベース内のあるポイントから、そのデータベースの処理を開始できます。

ビューを使用しない場合、GETIMS 呼び出しを使用して IMS データベースをナビゲートできます。この方式は、プログラム内での IMS 呼び出しの発行と同様です。以下を行うことができます。

- セグメントのキー値に基づいてセグメントを取り出します。
- セグメントの子を取り出します。
- セグメントの親、またはそのルート・セグメント上に位置づけます。

ビューを使用しない場合に利用可能な IBB 呼び出しは、以下のものです。

GETIMS

IMS セグメントを取り出します。

PRINT

CHAR、HEX、SNGL、または TABL 形式で IMS セグメントを印刷します。

SETRC

IBB ジョブ・ステップの戻りコードを設定します。

VIEWIMS

REXX

プロシージャが使用するビューを作成およびロードします。ビューを使用してデータベースを処理しない場合、FM/IMS は、ビューの IMS セグメント・レイアウトおよびフィールドを使用して以下を行います。

- SNGL または TABL 形式で印刷します。
- IMS セグメントの検索時に WHERE 文節でビューからのフィールドを指定する場合に、IMS SSA を生成します。

関連トピック

[\[Utility Menu \(ユーティリティー・メニュー\)\] パネル ページ 457](#)

[\[Print Entry \(印刷項目の入力\)\] パネル ページ 379](#)

[\[System Settings \(システム設定\)\] パネル ページ 437](#)

[\[PCB Selection \(PCB 選択\)\] パネル ページ 370](#)

[\[Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)\] パネル ページ 254](#)

現行ブラウザまたは編集セッションの統計リスト

現行ブラウザまたは編集セッションの統計をリストするには、SEGSTATS 基本コマンドを使用します。

SEGSTATS 基本コマンドは、以下のものを表示します (ポップアップ・パネルで)。

- 現行の編集またはブラウザ・セッションのセグメント数
- データ・バイトの合計

ビューを使用した場合は、SEGSTATS 基本コマンドは以下のものも表示します。

- レイアウトの数
- レイアウト名および各レイアウトに属するレコード・エレメント数のリスト
- レコード・データが識別基準を満たしていないために識別されなかったセグメントの数
- 関連するレイアウトの長さを超えたセグメント長を持つセグメントの数

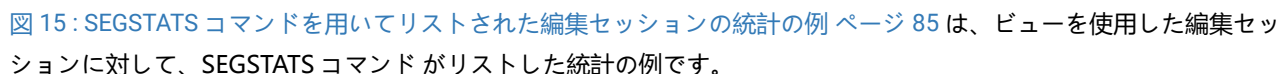
 図 15: SEGSTATS コマンドを用いてリストされた編集セッションの統計の例 ページ 85 は、ビューを使用した編集セッションに対して、SEGSTATS コマンド がリストした統計の例です。

図 15. SEGSTATS コマンドを用いてリストされた編集セッションの統計の例

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS                               Edit : IMS Database DJ1E
                                CHKPID FM000001 Autosave OFF SHOW SUP ON  Scope DB  Format TABL
                                File Manager Messages

IBM File Manager for z/OS IMS Component
Segment statistics

Total segments                   : 190
Total data bytes                 : 2270

Segment SHIRE                   : 13
Layout SHIRE                    : 13
Layout SHIRE-TOWN               : 0
Layout SHIRE-CITY              : 0

Segment SHIRENP                 : 11
Layout SHIRE-NON-PUBLIC         : 11

Segment LINKSUB                 : 87
Layout SHIRE-SUBURB           : 87

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit      F4=CRetriev  F7=Backward
F8=Forward   F9=Swap      F10=Actions  F12=Cancel

```

関連トピック

[SEGSTATS 基本コマンド ページ 529](#)

第5章. テンプレートおよびビューの操作

FM/IMS でデータベースをブラウズまたは編集するときは、ビューを使用してセグメントを個々のフィールドに形式設定し、表示するセグメントおよびフィールドを選択することができます。ビューを作成するには、最初にデータベース・セグメントのレイアウトを定義するコピーブックから、テンプレートを作成する必要があります。

テンプレートには、データベース内にあるセグメントの基本的説明、および各セグメント内のフィールドのレイアウト (すなわち、セグメント内のフィールド・タイプ、サイズ、および位置) が含まれています。データベースには1つのセグメント・タイプに対して複数のレイアウトがある可能性があるため、テンプレート内でレイアウト識別基準を定義して、異なるレイアウトを識別することができます。レイアウト識別基準を指定するにはその前に、データを調べて、どのフィールド値が、セグメント・オカレンスを特定のタイプに属するものとして固有に識別するかを判断する必要があります。これらのセグメント・レイアウトは、いったん定義すると、ビューで使用することができます。通常、それぞれのデータベースごとに、1つのテンプレートのみが定義されます。

ビューは、テンプレートから作成され、セグメント選択、フィールド選択、および表示順序などの追加情報が含まれます。データベースの多くのビューが作成され、それぞれが特定の目的のために調整される可能性があります。

テンプレートの作成および更新

FM/IMS テンプレートは、IMS データベースのセグメントおよびフィールドを選択および形式設定するために使用できる情報の集合です。テンプレートは、編集、ブラウズ、抽出、および印刷時に使用するデータの論理ビューを FM/IMS に提供します。テンプレートはコピーブックに基づいています。

テンプレートの作成

データベースのテンプレートを作成する前に、データベースの名前、データベースの DBD が含まれる DBD ロード・ライブラリーの名前、新規のテンプレートを保管する区分データ・セットの名前、およびセグメント・レイアウトについて記述したコピーブックが入っている区分データ・セットの名前を知っておく必要があります。また、各セグメント・タイプに対してどのコピーブック・メンバーが対応しているかも知っていないかもしれません。

テンプレートを作成するには、以下のようにします。

1. 「Primary Option menu (基本オプション・メニュー)」から、オプション **「4 Template (テンプレート)」** を選択します。「Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)」メニューが表示されます。
2. オプション **「1 Templates (テンプレート)」** を選択します。「Template Entry (テンプレート項目の入力)」パネルが表示されます。
3. **「Template data set name (テンプレート・データ・セット名)」** フィールドで、テンプレートを保管する区分データ・セットの名前を入力します。
4. **「Template Member (テンプレート・メンバー)」** フィールドで、テンプレートが必要なデータベースの名前を入力します。このメンバーがまだ存在しない場合、「Template (テンプレート)」ダイアログは指定された名前でテンプレートを作成し、これをこのメンバーに保管します。
5. Enter キーを押します。「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネルが表示されます。このパネルで DBD ロード・ライブラリーを最大 6 個まで入力します。FM/IMS は、これらのライブラリーを検索して、指定されたデータベース名の DBD を探します。ライブラリーはそれらが指定された順序で検索され、FM/IMS は、指定され

- a. 必要なセグメント・タイプの隣の **【Cmd】** フィールドに X と入力し、「Redefines / Range Specifications (再定義/範囲指定)」のポップアップ・パネルを表示します。
- b. **【Level (レベル)】** フィールドに、ソース・レベル値を指定します。これは、新規のレコード・レイアウトを生成する REDEFINES または UNION-レベルの文節を識別するために使用されます。

別の方法としては、コンパイル前にソースを変更してすべての突き合わせレベルが 01 に変更されるようにするために、**【Change all matching levels to 01 (すべての突き合わせレベルを 01 に変更)】** オプションに対して "/" を入力します。

- c. **【Field name (フィールド名)】** フィールドで、REDEFINES 文節のターゲット・フィールド名、または FM/IMS が新規レイアウトを作成するように指示するために使用する REDEFINES または UNION ステートメントを識別する UNION 文節を持つフィールド名を指定します。
 - d. それぞれのレイアウトごとにオフセット値を調整して、開始位置が再定義または UNION のフィールドの開始位置になるようにするには、**【Set offset (オフセットの設定)】** フィールドに "/" を入力します。
11. テンプレートにコンパイルされるコピーブックのサブセットを抽出する手順は以下のとおりです。
- a. 必要なセグメント・タイプの隣の **【Cmd】** フィールドに X と入力し、「Redefines / Range Specifications (再定義/範囲指定)」のポップアップ・パネルを表示します。
 - b. **【From statement (開始ステートメント)】** フィールドに、抽出の開始行番号を指定します。
 - c. **【To statement (終了ステートメント)】** フィールドに、抽出の終了行番号を指定します。
 - d. **【From string (検索ストリング)】** フィールドに、FM/IMS がコピーブックを検索するためのストリングを指定します。そのストリングを含む最初のステートメントが抽出を開始します。
 - e. **【To string (置き換えストリング)】** フィールドに、FM/IMS がコピーブックを検索するためのストリングを指定します。そのストリングを含む最初のステートメントが抽出を終了します。
12. **【Template Specification (テンプレート指定)】** パネルから指定されたコピーブックをコンパイルし、さらに、既存のテンプレートを更新するか、もしくは新規テンプレートを作成するには、UPDATE 基本コマンドまたは U 接頭部コマンドを使用します。
13. 所定のセグメントのテンプレートを編集するには、E 接頭部コマンドを使用します。別の方法としては、E 基本コマンドを使用して、ディスプレイの上部でセグメントのテンプレートを編集することができます。



注: 何らかの変更を行うと、FM/IMS はコンパイルと更新を実行します。

14. 対応するレイアウト・メンバーに対して、再定義または範囲パラメーターを指定した場合、「R」列には値「R」が入ります。

テンプレートが新たに作成される場合、「I」列は空白です。それに値「I」が入るのは、テンプレートが作成されていて、そのセグメントに対してレイアウトが1つしか指定されていない、または所定のセグメントの各レイアウトに基準が提供されている場合です。

このフィールドが空白の場合、コピーブックには各セグメント・タイプ用に複数のレイアウトがあるため、テンプレートでレイアウト識別基準を指定する必要があります ([レイアウト識別基準の指定 ページ 101](#) を参照)。

FM/IMS では、レイアウト識別基準を指定する必要はありません。このフィールドをまだブランクにしたままでこのパネルを終了する場合、FM/IMS がそのテンプレートを保管します。ただし、そのようなテンプレートで作成されたビューを使用してデータベースをブラウズまたは編集すると、FM/IMS が間違ったレイアウトを使用してセグメントを表示する可能性があります (あるいは一部のセグメントを全く表示しない可能性があります)。

関連トピック

[EDIT 基本コマンド ページ 486](#)

[LIBLIST 基本コマンド ページ 510](#)

[UPDATE 基本コマンド ページ 540](#)

[「Key Specification \(キー指定\)」 パネル ページ 358](#)

[「Redefines / Range Specifications \(再定義/範囲の指定\)」 パネル ページ 392](#)

[「Template Entry \(テンプレート項目の入力\)」 パネル ページ 440](#)

[「Template Specification \(テンプレート指定\)」 パネル ページ 444](#)

テンプレートの更新

テンプレートを作成した後で、セグメント・タイプを関連のデータベースから削除したり追加した場合、あるいはセグメント・レイアウトを変更した場合には、これらの変更を反映するようにテンプレートを更新する必要があります。また、そのテンプレートから作成したビューも更新する必要があります。テンプレートは、以下の方法で更新できます。

- 「Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)」メニューからオプション「**1 Templates (テンプレート)**」を選択します。
- 同じメニューからオプション「**4 Template update (テンプレートの更新)**」を選択します。
- バッチ関数を使用します。[IMS テンプレートの更新 \(ITU\) ページ 550](#)を参照してください。

オプション「1 Templates (テンプレート)」を使用してフォアグラウンドで1つのテンプレートを更新

1. 「**Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)**」からオプション「**4 Templates (テンプレート)**」を選択し、「**Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)**」メニューを表示します。
2. オプション「**1 Templates (テンプレート)**」を選択し、「**Template Entry (テンプレート項目の入力)**」パネルを表示します。
3. 「**Template data set name (テンプレート・データ・セット名)**」フィールドで、更新するテンプレートが含まれる区分データ・セットの名前を入力します。
4. 「**Template Member (テンプレート・メンバー)**」フィールドで、更新するテンプレート・メンバーの名前を入力します。メンバー名を入力しなかった場合、またはメンバー名パターンを入力した場合は、「**Template Member Selection (テンプレート・メンバー選択)**」パネルが表示されます。パネルに表示されるテンプレートのリストから、テンプレートを選択することができます。
5. **Enter** キーを押します。FM/IMS は、最新の DBD およびコピーブック・メンバーに基づいて新規のテンプレートを作成し、古いテンプレートからは、新規のデータベース構造に現在関係のあるその他の情報をコピーします。
 - コピーブック・メンバーへのセグメント・タイプのマッピング
 - セグメント記述

- レイアウト識別基準
- フィールド順序付け

その後、FM/IMS が「Template Specification (テンプレート指定)」パネルを表示します。

FM/IMS がテンプレートを更新するために使用する DBD ライブラリーのリストを変更するか、または単に表示するには、DBDLIST コマンドを発行します。このコマンドを発行する際に、FM/IMS は「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネルを表示します。「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネルには、ご使用のテンプレートに現在保管されている DBD ライブラリー・リストが表示されます。リストを変更してから「Exit」機能キー (F3) を押すと、FM/IMS は以下を実行します。

- 指定した DBD ライブラリーの妥当性検査を行います。
- ライブラリーを検索してテンプレートの DBD を探します。
- 見つかった DBD を使用してテンプレートを再作成します。
- 「Template Specification (テンプレート指定)」パネルに戻ります。

更新されたテンプレートを保管すると、指定した DBD ライブラリー・リストも保管されます。

コピーブックの変更がデータベースへの唯一の変更である場合、名前を変更することができます。あるいは、その名前が同じであれば、このパネルのコマンド行に UPDATE コマンドを入力することができます。

新しいコピーブックが別のコピー・ライブラリーにある場合には、コピーブック・データ・セットへの参照を変更する必要があります。これを行うには、LIBLIST コマンドを実行し、適切なデータ・セットが適切な場所にあることを確認します。

データベースに**新規のセグメントを追加**した場合は、そのセグメントがブランクの「I」フィールドおよび「**Layout member (レイアウト・メンバー)**」フィールドで表示されます。新規のセグメント・タイプについては、コピーブック・メンバーを指定する必要があり、また、新規のテンプレートを作成する場合のように、レイアウト識別基準も指定する必要があることもあります。

データベースから**セグメントを除去**した場合は、それが表示に反映され、「Template changed (テンプレートが変更されました)」のメッセージが出ます。

6. 更新処理により、レイアウト識別基準の中のフィールド参照番号が、フィールド順序の変更を反映するように調整されます。ただし、基準が、コピーブックから削除されたフィールドを参照している場合には、更新処理によって、削除されたフィールドへの参照が「#0」に変更されている「**Segment Layout (セグメント・レイアウト)**」パネルが表示されます。基準を編集し、廃止されたフィールド参照を除去するかまたは置き換えて、その後で「Exit」機能キー (F3) を押して更新処理を続行します。
7. 更新されたテンプレートを保管するには、「**Template Specification (テンプレート指定)**」パネルで「Exit」機能キー (F3) を押してください。

関連トピック

[Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\) ページ 373](#)

[「Template Entry \(テンプレート項目の入力\)」パネル ページ 440](#)

[「Template Specification \(テンプレート指定\)」パネル ページ 444](#)

[「Template/View/Criteria Set Menu \(テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー\)」パネル ページ 456](#)

オプション「4 Template update (4 テンプレートの更新)」を使用してフォアグラウンドまたはバッチで複数のテンプレートを更新

テンプレート更新ユーティリティーを使用して、フォアグラウンドまたはバッチで複数のテンプレートを更新します。

処理するテンプレートは、次の基準の一方または両方でフィルターできます。

- テンプレート名パターン (1 つの完全なテンプレート名を入力すると、その 1 つのテンプレートのみが処理されます)。
- 最大 4 つのコピーブック名またはパターン。

拡張メンバー選択オプションの使用も選択可能です。それにより、以下の 1 つ以上を使用して選択またはフィルターが可能になります。

- 名前範囲でのテンプレートの選択
- テンプレートを更新したユーザー ID (あるいはパターンまたは範囲) によるフィルター
- 作成日 (あるいはパターンまたは範囲) によるフィルター
- 変更日 (あるいはパターンまたは範囲) によるフィルター

フォアグラウンドまたはバッチで 1 つ以上のテンプレートを更新するには、以下のようにオプション 4 を使用します。

1. 「Primary Option menu (基本オプション・メニュー)」からオプション「4 Templates (テンプレート)」を選択し、「Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)」メニューを表示します。
2. オプション「4 Template update (テンプレートの更新)」を選択し、「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティー)」パネルを表示します。
3. 「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティー)」パネルで、更新するテンプレートを選択するための詳細を入力します。
 - 「Template (テンプレート)」の「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、データ・セット (必ず区分化されたもの) を特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定します。
 - 「Template (テンプレート)」の「Member (メンバー)」フィールドに、テンプレート名またはテンプレート名パターンを指定できます。
 - 「Template (テンプレート)」の「Copybook filter (コピーブック・フィルター)」フィールドで、メンバー・パターンと一致するコピーブック、またはコピーブックを参照するテンプレートのみが処理のために選択されるように、フィルターとして使用される 4 個までのメンバーの名前またはパターンを指定できます。
4. 「Output Template (出力テンプレート)」の「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、更新されたテンプレートが保管される出力データ・セットを特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定できます。このフィールドを空白のままにすると、入力データ・セットで更新が行われます。
5. 「Output Template (出力テンプレート)」の「Member mask (メンバー・マスク)」フィールドで、更新されたテンプレートが代替名で保管されるように、名前変更マスクを指定できます。
6. 処理オプションを選択します。
 - **Batch execution (バッチ実行)**: バッチでこの機能を実行します。
 - **Replace member (メンバーの置換)**: 出力区分データ・セットの同名メンバーを置換します。

- **Advanced member selection (拡張メンバー選択)**: 特定メンバー名または総称メンバー名ではなく、選択するメンバーの範囲を指定します。
- **Specify library data sets (ライブラリー・データ・セットの指定)**: ユーティリティーがテンプレートの作成に使用するライブラリー・データ・セットを指定します。このオプションを選択しないと、ユーティリティーは、テンプレートで参照されるライブラリー・データ・セットを使用します。
- **Skip member list (メンバー・リストのスキップ)**: メンバー選択リストを表示せずに実行します。このオプションを使用すると、メンバー・リスト・パネルを表示せずに、該当の全メンバーを処理します。指定されたパラメーターからエラー (重複した出力名など) が発生した場合は、そのエラーが強調表示されてメンバー・リスト・パネルが表示されます。
- **Specify DBD data sets (DBD データ・セットの指定)**: テンプレートで参照される DBD データ・セット名を、指定された DBD データ・セット名の 1 つで更新します。最大 2 つの DBD データ・セット名を指定できます。DBD データ・セット名は、一致する DBD (テンプレート名) を含む、最初に検索されたものに変更されます。一致する DBD メンバーが見つからない場合、DBD データ・セット名は更新されません。
- **Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)**: テンプレート更新時の DBD 検査とキー位置処理を行わないことによって、パフォーマンスを向上させます。このオプションは、テンプレート作成元の DBD で指定されたセグメント名のリストに変更がない場合にのみ選択してください。
- **Check mode - no update (検査モード - 更新なし)**: 結果として生成されるメンバーを保管せずに、この機能を実行します。
- **New database segments (新規データベース・セグメント)**: 既存の DBD/テンプレートに新規セグメントを追加します。このオプションが選択されていて、**「Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)」** オプションが選択されていない場合、**「New Database Segments (新規データベース・セグメント)」** パネルが表示され、そこで、それぞれの新規セグメントのレイアウト・メンバーを指定できます。
- **Forced update (強制更新)**: 変更が検出されない場合でも更新を実行する場合。
- **Preserve copybook library (コピーブック・ライブラリーの保持)**: コピーブックが、前に検出されたライブラリーにまだ存在し、更新が使用しているリストにそのライブラリーがある場合に、そのコピーブックを使用します。

以下のいずれかのケースがあてはまる場合、ユーティリティーは、リストされた順序でライブラリーを検索し、検出した最初のバージョンのコピーブックを使用します。

- このオプションが選択されていない
- コピーブックが、前に検出されたライブラリーにもう存在しない
- 更新が使用しているリストに、そのライブラリーがない

7. Enter キーを押します。

最初に、総称として指定されたすべてのデータ・セットが検索されます。必要なデータ・セットの選択が必要です。その後、選択されたオプションに従って、次のパネルが表示されます。

8. **「Specify library data sets (ライブラリー・データ・セットの指定)」** または **「Specify DBD data sets (DBD データ・セットの指定)」** が選択された場合、**「Template Update : DBDLIB/Library lists (テンプレートの更新: DBDLIB/ライブラリー・リスト)」** パネルが表示されます。

【**DBD data set name (DBD データ・セット名)**】フィールドには、最大2つのデータ・セット名(必ず、DBD ライブラリー)を指定できます。このデータ・セットは、テンプレート名に一致する DBD を検索する際に代替 DBD ライブラリーとして使用されます。

【**Specify DBD data sets (DBD データ・セットの指定)**】オプションを選択していて、テンプレート・メンバー名が DBD として存在する場合、DBD は、テンプレートの更新時にこのライブラリーから使用され、DBD データ・セット名は、一致するメンバー名を含む、最初に見つかったデータ・セットに更新されます。

【**Library data set name (ライブラリー・データ・セット名)**】フィールドには、最大12のコピーブック・ライブラリー名を指定できます。テンプレートで参照されるコピーブック・ライブラリー名が、このフィールドに指定されたコピーブック・ライブラリー名に変更されます。新規のライブラリー・データ・セットが、更新処理中のコピーブックの検索とコンパイルに使用されます。そのため、更新エラーが発生しないよう、選択されたすべてのテンプレートで参照されるすべてのコピーブックが、指定するライブラリーで必ず使用可能であるようにしてください。

9. Enter キーを押します。
10. 【**New database segments (新規データベース・セグメント)**】が選択された場合、【**Template Update : New Database Segments (テンプレートの更新: 新規データベース・セグメント)**】パネルが表示されます。最大12のセグメント(またはレイアウト)名の対を指定できます。これより多く必要な場合は、更新をバッチ・ジョブとして実行します。生成済みの JCL を実行依頼する前に、追加のセグメントに対応するようにそれを変更してください。
11. Enter キーを押します。
12. 【**Advanced member selection (拡張メンバー選択)**】が選択された場合、【**Advanced Member Selection (拡張メンバー選択)**】パネルが表示されます。ここで、テンプレート名パターン、またはテンプレート名の範囲、および更新ユーザー ID (あるいはパターンまたは範囲)、作成日 (あるいはパターンまたは範囲)、変更日 (あるいはパターンまたは範囲) を組み合わせて指定できます。
13. Enter キーを押します。
14. 【**Skip member list (メンバー・リストのスキップ)**】を選択していない場合には、【**Template Member Selection (テンプレート・メンバー選択)**】パネルが表示されます。F11 (Right) を押すと右へスクロールして「Description (記述)」列を表示し、F10 (Left) を押すと元の表示に戻ります。
15. 接頭部域 (Sel) に、次の任意の接頭部コマンドを入力し、Enter キーを押して関連付けられたアクションを実行します。

B

ISPF の「Browse (ブラウズ)」パネル (File Manager の「Browse (ブラウズ)」パネルではありません) を使用してメンバーが表示されます。

E


【**Template Specification (テンプレート指定)**】パネルにメンバーが表示されます。

V

ISPF の「View (ビュー)」パネルを使用してメンバーが表示されます。

S

処理するメンバーを1つ以上選択します。

 **ヒント:** 基本コマンド `SELECT *` を入力して、表示されている全メンバーを選択します。

Enter キーを押して、選択したテンプレートをすべて処理します。

16. **「Batch execution (バッチ実行)」** が選択された場合、JCL が生成されます。

その他の処理オプションの場合は、実行されたアクションの結果を示すメッセージが表示されます。いずれかの更新が失敗した場合は、エラー・メッセージが表示され、各メンバーの状況が **「Prompt (プロンプト)」** フィールドに表示されます。

「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティー)」 パネルに戻ると、以下のような要約メッセージが表示されます。

```
42 members read 23 Updated 5 Not changed 0 Not replaced 14 Errors
```

関連トピック

[「Advanced Member Selection \(拡張メンバー選択\)」](#) パネル ページ 205

[「Template Member Selection \(テンプレート・メンバー選択\)」](#) パネル ページ 442

[「Template Specification \(テンプレート指定\)」](#) パネル ページ 444

[「Template Update : New Database Segments \(テンプレートの更新: 新規データベース・セグメント\)」](#) パネル ページ 449

[「Template Update Utility \(テンプレートの更新ユーティリティー\)」](#) パネル ページ 450

[「Template/View/Criteria Set Menu \(テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー\)」](#) パネル ページ 456

テンプレートおよびコピーブックの概念

コピーブックは、COBOL データ記述項目、PL/I DECLARE ステートメント、または HLASM データ記述項目が入っている PDS メンバーです。

COBOL Copybook

コピーブック内の各レベル 01

グループ項目はセグメント・レイアウトについて記述し、グループ中の基本項目はレイアウト中のフィールドについて記述しています。例えば、次のコピーブックは固定長セグメント・タイプの 3 つのレイアウト (SHIRE、SHIRE-TOWN、および SHIRE-CITY) について記述しています。

```
01 SHIRE.
  05 SHIRE-KEY.
    10 SHIRE-NAME          PIC X(20).
  05 SHIRE-TYPE            PIC X(1).
    88 SHIRETYPE-SHIRE    VALUE '0'.
    88 SHIRETYPE-TOWN     VALUE '1'.
    88 SHIRETYPE-CITY     VALUE '2'.
  05 SHIRE-CODE1           PIC 9(3).
  05 SHIRE-CODE2           PIC 9(5).
  05 SHIRE-ROAD            PIC S9(15) COMP-3.
  05 SHIRE-RIVER           PIC S9(15) COMP-3.
  05 SHIRE-BRIDGE         PIC S9(15) COMP-3.
01 SHIRE-TOWN.
```

```

05 SHIRE-KEY.
  10 SHIRE-NAME          PIC X(20).
05 SHIRE-TYPE           PIC X(1).
   88 SHIRETYPE-SHIRE    VALUE '0'.
   88 SHIRETYPE-TOWN     VALUE '1'.
   88 SHIRETYPE-CITY     VALUE '2'.
   05 SHIRE-CODE1        PIC 9(3).
05 SHIRE-CODE2          PIC 9(5).
05 SHIRE-YEAR           PIC 9(4) COMP.
05 SHIRE-BRICK          PIC S9(15) COMP-3.
05 SHIRE-WOODEN         PIC S9(15) COMP-3.
05 SHIRE-SCHOOL         PIC S9(7) COMP-3.
05 SHIRE-GOLF           PIC S9(4) COMP.
01 SHIRE-CITY.
  05 SHIRE-KEY.
   10 SHIRE-NAME          PIC X(20).
  05 SHIRE-TYPE           PIC X(1).
   88 SHIRETYPE-SHIRE    VALUE '0'.
   88 SHIRETYPE-TOWN     VALUE '1'.
   88 SHIRETYPE-CITY     VALUE '2'.
  05 SHIRE-CODE1         PIC 9(3).
  05 SHIRE-CODE2         PIC 9(5).
  05 SHIRE-MAJOR         PIC S9(4) COMP.
  05 SHIRE-MAIN-ATTRACTION PIC X(20).
  05 SHIRE-MINOR         PIC S9(4) COMP.

```

PL/I コピーブック

COBOL コピーブックと類似していて、各大構造 (レベル 1 名)

は、セグメント・レイアウトについて記述し、基本名はフィールドについて記述します。

```

1 SHIRE,
  3 SHIRE_KEY,
    5 SHIRE_NAME          CHAR(20),
  3 SHIRE_TYPE           CHAR(1),
                          /* '0' -SHIRE */
  3 SHIRE_CODE1          PIC'(3)9',
  3 SHIRE_CODE2          PIC'(5)9',
  3 SHIRE_ROAD           FIXED(15),
  3 SHIRE_RIVER          FIXED(15),
  3 SHIRE_BRIDGE         FIXED(15);
1 SHIRE_TOWN,
  3 SHIRE_KEY,
    5 SHIRE_NAME          CHAR(20),
  3 SHIRE_TYPE           CHAR(1),
                          /* '1' -TOWN */
  3 SHIRE_CODE1          PIC'(3)9',
  3 SHIRE_CODE2          PIC'(5)9',
  3 SHIRE_YEAR           FIXED BIN(15),
  3 SHIRE_BRICK          FIXED(15),
  3 SHIRE_WOODEN         FIXED(15),
  3 SHIRE_SCHOOL         FIXED(9),
  3 SHIRE_GOLF           FIXED BIN(15);
1 SHIRE_CITY,
  3 SHIRE_KEY,
    5 SHIRE_NAME          CHAR(20),
  3 SHIRE_TYPE           CHAR(1),
                          /* '2' -CITY */
  3 SHIRE_CODE1          PIC'(3)9',

```

```

3 SHIRE_CODE2          PIC'(5)9',
3 SHIRE_MAJOR          FIXED BIN(15),
3 SHIRE_MAIN_ATTRACTION CHAR(20),
3 SHIRE_MINOR          FIXED BIN(15);

```

HLASM Copybook

HLASM コピーブックは COBOL コピーブックと似ていて、大構造 (DSECT 名) にはレコード・タイプが、基本名にはフィールドが記述されます。

```

SHIRE          DSECT
SHIRE_KEY      DS  0CL20
SHIRE_NAME     DS  CL20
SHIRE_TYPE     DS  CL1
SHIRE_CODE1    DS  CL3
SHIRE_CODE2    DS  CL5
SHIRE_ROAD     DS  H
SHIRE_RIVER    DS  H
SHIRE_BRIDGE   DS  H
*
SHIRE_TOWN     DSECT
SHIRE_KEY      DS  0CL20
SHIRE_NAME     DS  CL20
SHIRE_TYPE     DS  CL1
SHIRE_CODE1    DS  CL3
SHIRE_CODE2    DS  CL5
SHIRE_YEAR     DS  H
SHIRE_BRICK    DS  PL8
SHIRE_WOODEN   DS  PL8
SHIRE_SCHOOL   DS  PL4
SHIRE_GOLF     DS  H
*
SHIRE_CITY     DSECT
SHIRE_KEY      DS  0CL20
SHIRE_NAME     DS  CL20
SHIRE_TYPE     DS  CL1
SHIRE_CODE1    DS  CL3
SHIRE_CODE2    DS  CL5
SHIRE_MAJOR    DS  H
SHIRE_MAIN_ATTRACTION DS CL10
SHIRE_MINOR    DS  H

```

詳細については、『File Manager での HLASM コピーブックの使用』Base(*File Manager* ユーザズ・ガイドおよびリファレンス)を参照してください。

テンプレートを作成または更新すると常に、FM/IMS は次の処理を行います。

1. コピーブック (セグメント・タイプと突き合わせたもの) を連結して、それらのすべてをシェル・プログラムに組み込みます。
2. 選択されているコンパイラーを呼び出してコピーブックの構文を検査し、ADATA ファイルを作成します。

「Compiler Language Selection (コンパイラー言語の選択)」パネル (オプション 0.4.1) を使用して、FM/IMS で呼び出すコンパイラーを指定できます。次のパネルで、コンパイルで許容される戻りコード・レベルを指定できます。

- [Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)] パネル (オプション 0.4.2)
 - [Set HLASM Processing Options (HLASM 処理オプションの設定)] パネル (オプション 0.4.3)
 - [Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)] パネル (オプション 0.4.4)
3. コンパイルがエラーなしで完了したら、FM/IMS は、ADATA ファイルの情報を処理してテンプレートを作成します。

コンパイルが、指定された最大値より大きい戻りコードで完了した場合は、FM/IMS はポップアップ・メニューを表示します。このポップアップ・メニューから、以下のことを選択できます。

- コンパイル・リストをブラウズする。
- テンプレート作成処理を停止する。
- コンパイルを再試行する。このオプションを選択する前に、コンパイル・リストを調べて、コピーブックのエラーを修正してください。コンパイル・リストが表示されているときには、ISPF 分割画面機能を使用して他の ISPF セッションでコピーブックを編集し、エラーを修正することができます。
- エラーを無視して、テンプレートの作成に進む。このオプションを使用できるのは、FM/IMS がテンプレートを作成できる場合のみです。警告のような一部のコンパイル・エラーは、テンプレートの作成には影響しません。不確かなときは、コンパイル・リストを参照してください。重大なコンパイル・エラーの場合には、FM/IMS はテンプレートを作成できません。
- 別の言語でコンパイラを試行する (COBOL または PLI コンパイラ言語が選択されている場合)。

FM/IMS でのアセンブラー・コピーブックの使用

FM/IMS がアセンブラー・コピーブックを処理するように指示するには、言語オプションを HLASM に設定する必要があります。(「**Auto detect (自動選択)**」は、COBOL および PL/I コピーブックにのみ適用されます。)オプションが「HLASM」に設定されている場合、コピーブックをサポートするすべての機能をアセンブラー・コピーブックで使用できます。HLASM コンパイラ仕様に従って、追加の SYSLIB を提供し、ALIGN および DBCS 処理オプションを変更してください。

COBOL データ記述項目の FM/IMS サポート

コピーブックに指定されているデータ記述項目では、FM/IMS は次のものをサポートします。

- ASSIGN 文節
- OCCURS 文節 (OCCURS DEPENDING ON を含む)
- PICTURE 文節 (数値編集を除く)
- REDEFINES 文節
- RENAMES 文節
- USAGE 文節
- VALUE 文節

FM/IMS は、以下を無視します。

- BLANK WHEN ZERO 文節
- DATE FORMAT 文節

- EXTERNAL 文節
- GLOBAL 文節
- JUSTIFIED 文節
- PICTURE 文節の数値編集
- SYNCHRONIZED 文節

FM/IMS は、レベル 88 (条件名) 以外のすべてのデータ項目レベル番号をサポートします。条件名は無視されます。

さまざまな文節に対するサポートの詳細を、下記の節で説明します。

VALUE 文節

VALUE 文節に指定するリテラル値は、そのフィールドの「Field Attribute (フィールド属性)」パネルで、「Create Attributes (作成属性)」の「**Start value (開始値)**」(数値フィールドの場合)または「**Pattern (パターン)**」(英数字フィールドの場合)を指定するために、テンプレートで使用されます。

FM/IMS は、この属性を使用して、データを作成するとき、またはデータのコピーの際に新規のフィールドを挿入するときにフィールドの値を初期化します。

可変長配列のサポート

可変長配列は、COBOL コピーブックでは OCCURS DEPENDING ON (ODO) 文節で定義され、PL/I コピーブックでは、上限または下限 (または両方) が REFER オプションによって定義される次元属性で定義されます。



注: 可変長セグメントは、2 バイトの 2 進数値の “size field (サイズ・フィールド)” で始まります。したがって、可変長セグメントのレイアウトでは、最初の基本項目は 2 バイトの 2 進数値フィールドでなければなりません。

可変長配列が入っているレイアウトを使用するときには、以下の考慮事項が適用されます。

- 可変長セグメント・タイプのレイアウトでは可変長配列だけを使用します。
- レイアウトには複数の可変長配列を入れることができますが、配列のサイズを定義するフィールド (ODO または「オブジェクト」参照) はすべて、最初の可変長配列項目より前のレイアウトに存在する必要があります。
- データベースのブラウズまたは編集時に、次のいずれかの条件が真である場合、セグメントの「**Cmd**」フィールドに、セグメント長がそのレイアウトには正しくないことを示すタグ `=LG` が入ります。
 - (COBOL コピーブックのみ)。オブジェクトが、ODO 文節の指定範囲外にある。
 - セグメントの実際の長さが、オブジェクトによって指定された配列項目の数で計算されたセグメントの長さとは一致しない。
- SNGL または TABL 表示形式の場合。
 - オブジェクト・フィールドの値を変更した場合は、配列中の項目数は自動的に拡張または縮小され、サイズ・フィールドの値 (可変長セグメントの始めにある 2 バイトの 2 進数値フィールド) が、新しいセグメント長に一致するように調整されます。

新規項目は、現行の配列の終わり (および配列の後のフィールドの前) に挿入され、数値項目はゼロに、英数字項目はブランクに初期化されます。

同様に、項目が配列の終わりから削除されますが、配列の最後に続くフィールドには影響しません。

PL/I の場合には、配列中の項目数は、次元属性の上限から下限を減算することによって決定されます。下限と上限の両方が REFER オプションを使用して指定されている場合には、REFER 項目フィールドのいずれかの値を変更すると、それに応じて配列項目が挿入または削除されます。

- (COBOL コピーブックのみ)。オブジェクト・フィールドを、ODO 文節が指定する範囲外の値に変更することはできません。(FM/IMS は、ODO の最小値 0 をサポートします。)
- (COBOL コピーブックのみ)。新規セグメントを挿入することによって、セグメントは ODO 定義によって指定された最小数の配列項目を持つことになります。例:

- 次の ODO 文節の場合、新規のセグメントを挿入すると、ODO-CNTRL-ONE フィールドがゼロに初期化され、新規のセグメントの中には ODO-ONE 配列項目がなくなります。

```
ODO-ONE OCCURS 0 TO 10 TIMES DEPENDING ON ODO-CNTRL-ONE.
```

- 次の ODO 文節の場合、ODO-CNTRL-ONE は 5 に初期化され、新規セグメントの中には 5 つの ODO-ONE 配列項目が入ります。

```
ODO-ONE OCCURS 5 TO 7 TIMES DEPENDING ON ODO-CNTRL-ONE.
```

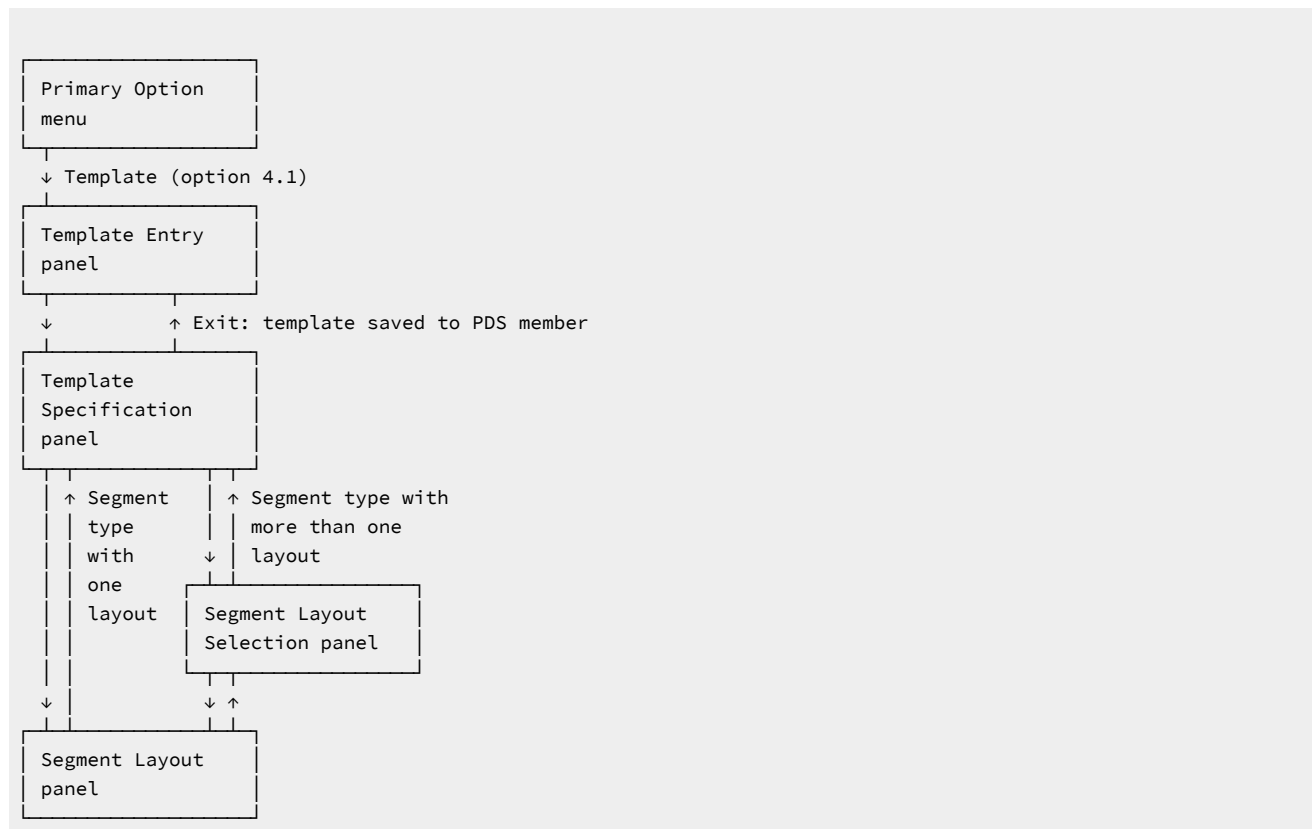
- (PL/I コピーブックのみ)。新規セグメントを挿入することによって、セグメントの配列項目数がゼロになります。上限および下限の参照オブジェクト・フィールドはゼロに初期化されます。
- CHAR、HEX または LHEX 表示形式では、オブジェクト・フィールドの値を変更しても、セグメント長は変わりません。これらの表示形式では、オブジェクト・フィールドの値を変更すると、オブジェクト・フィールド値と、多くの配列項目を持つセグメントの計算された長さが一致しなくなる場合があります。

テンプレートの編集

テンプレートを作成したら、確実に要件に合うようにさらに編集することができます。以下の方法で、テンプレートを編集できます。

- セグメント・レイアウトを表示および印刷する。
- レイアウトを識別するための式を指定する。
- シーケンス番号を使用してフィールドの順序を設定する。
- レイアウトのオフセット値を変更する。

図 16. テンプレートの編集



セグメント・レイアウトの表示および印刷

レイアウトを編集することにより、セグメントのレイアウトを表示または印刷することができます。

1. 「Template Specification (テンプレート指定)」パネルから、表示するセグメントの横の「Cmd」フィールドに、**E**を入力して、Enter キーを押します。

注: 行コマンド「E」を入力する前に、すべての「**レイアウト・メンバー**」フィールドに記入する必要があります。すべての「**Layout member (レイアウト・メンバー)**」フィールドに記入する前に行コマンド「E」を入力した場合には、FM/IMS はそのコマンドを無視し、空の「**Layout member (レイアウト・メンバー)**」フィールドの始めにメンバー選択リストを表示します。

コピーブック・メンバーに、このセグメントのレベル 01 レイアウト定義が 1 つしかない場合、「Template : Segment Layout (テンプレート : セグメント・レイアウト)」パネルが表示されます。

コピーブック・メンバーに、このセグメントのレイアウト定義が複数ある場合、「Template : Segment Layout Selection (テンプレート : セグメント・レイアウト選択)」パネルが表示されます。表示するレイアウトの横の「Cmd」フィールドに、**E**を入力して、Enter キーを押します。「Template : Segment Layout (テンプレート : セグメント・レイアウト)」パネルが表示されます。

2. FIND 基本コマンドを使用して、レイアウト内のストリングを探し出すことができます。
3. レイアウトを印刷するには、TPRINT (または TP) 基本コマンドを発行します。

関連トピック

[TPRINT 基本コマンド ページ 537](#)

[LZEROプライマリコマンド ページ 513](#)

[「Segment Layout \(セグメント・レイアウト\)」 パネル ページ 399](#)

[「Segment Layout Selection \(セグメント・レイアウト選択\)」 パネル ページ 406](#)

[「Template Specification \(テンプレート指定\)」 パネル ページ 444](#)

レイアウト識別基準の指定

テンプレートにおいてセグメントに複数のレイアウトがある場合は、そのセグメント・タイプの各レイアウトごとにレイアウト識別基準を指定する必要があります。

そのセグメント・タイプが入っているデータベースをブラウズまたは編集するためにビューを (テンプレートに基づいて) 使用する場合は、FM/IMS がそのセグメント・タイプのおカレンスとレイアウト識別基準を比較することにより、使用するレイアウトを決定します。セグメント・データが複数のレイアウトのレイアウト識別基準と一致する場合は、FM/IMS は最初に一致したレイアウト (コピーブック中でのレイアウトの順序に従います) を使用します。データがレイアウト基準のいずれとも一致しない場合、データがレイアウト基準のいずれとも一致していないことを示すためにセグメントにフラグが立てられます。

例えば、[テンプレートおよびコピーブックの概念 ページ 94](#)の COBOL コピーブックでは、3つのレイアウトすべてに SHIRE-TYPE フィールドがあります。SHIRE-TYPE において SHIRE に“0”、SHIRE-TOWN に“1”、および SHIRE-CITY に“2”が入っている場合は、#4=0 を SHIRE レイアウトのレイアウト識別基準として、#4=1 を SHIRE-TOWN のレイアウト識別基準として、#4=2 を SHIRE-CITY のレイアウト識別基準として指定できます (#4 は SHIRE-TYPE に対するフィールド参照)。データのブラウズまたは編集時には、FM/IMS は SHIRE-TYPE の値に応じ、適切なレイアウトを使用してそのセグメント・タイプのおカレンスを表示します。

レイアウト識別基準を指定するには、以下のようにします。

1. 「Template Specification (テンプレート指定)」 パネルから、表示するセグメントの横の 「Cmd」 フィールドに、 を入力して、Enter キーを押します。コピーブック・メンバーに、このセグメントのレベル 01 レイアウト定義が複数ある場合、「Template : Segment Layout Selection (テンプレート : セグメント・レイアウト選択)」 パネルが表示されます。
2. 編集するレイアウトの横の 「Cmd」 フィールドに、 を入力して、Enter キーを押します。「Template : Segment Layout (テンプレート : セグメント・レイアウト)」 パネルが表示されます。
3. 以下のいずれかを行って、セグメント識別基準を指定します。
 - フリー・フォーム REXX 式を 「ID」 フィールドに入力します。「Right」 機能キー (F11) または 「Left」 機能キー (F10) を使用して、フィールド内を右または左にスクロールできます。あるいは、「Expand」 機能キー (F4) を使用してフィールドを拡張できます。
 - 1 基本コマンドを入力して 「Layout Identification Criteria (レイアウト識別基準)」 パネルを表示し、このパネル上のフィールドを使用して基準ステートメントを作成します。

4. 「Exit」機能キー (F3) を押して、「Template Layout Selection (テンプレート・レイアウト選択)」パネルに戻り、レベル 01 レイアウトごとにこれらのステップを繰り返します。
5. すべてのレイアウトにレイアウト識別基準を割り当てたら、もう一度 F3 を押して「Template Specification (テンプレート指定)」パネルに戻り、テンプレートを保管します。

関連トピック

[「Segment Layout \(セグメント・レイアウト\)」パネル ページ 399](#)

[「Field Selection Criteria \(フィールド選択基準\)」パネル ページ 326](#)

テンプレート・フィールドの順序の設定

次のように、データベースのブラウズまたは編集時に表示されるフィールドの順序を変更します。

1. 「Template : Segment Layout (テンプレート : セグメント・レイアウト)」パネルで、「**Seq**」フィールドにシーケンス番号を入力します。

シーケンス番号のあるフィールドは、シーケンス番号のないフィールドより前に表示されます。シーケンス番号のあるフィールドは、そのシーケンス番号順で表示されます。残りのフィールド (シーケンス番号のないもの) は、デフォルトの順序 (パネルに表示される順序) で表示されます。シーケンス番号は 1 から始まる必要はなく、連続している必要もありません。

テンプレートから作成するすべてのビューまたは基準セットは「Template : Segment Layout (テンプレート : セグメント・レイアウト)」パネルで編集することができます。これらのシーケンス番号は、「View : Segment Layout (ビュー : セグメント・レイアウト)」パネル、または「Criteria : Segment Layout (テンプレート : セグメント・レイアウト)」パネルから、関連する基本コマンドを入力したときに表示される同一 (見出しを除く) のパネルです。

関連トピック

[「Segment Layout \(セグメント・レイアウト\)」パネル ページ 399](#)

レイアウトのオフセット値の変更

テンプレートを使用してデータを形式設定すると、セグメント内の情報が置き換えられることがあります。これは、コピーブックまたはテンプレートがそのフィールドを、セグメント内の実際のデータの右側または左側から始まるフィールドとして定義するためです。例えば、セグメントにはヘッダー情報が含まれているが、このヘッダー情報がコピーブックの構造には定義されていない場合や、実際のデータには存在しないヘッダー情報の定義がコピーブックに含まれている場合があります。(PL/I コピーブックは、File Manager がレコードから取り出す 4 バイト RDW フィールドを使用してコード化される場合があります。このようなフィールドは通常、データの一部とみなされません。)元となるコピーブックを変更せずにテンプレートをセグメントにマップするには、オフセット値を指定します。これにより、テンプレートのフィールド開始位置が左または右に変更されます。

オフセット値は -32760 から 32760 までの範囲の整数であり、テンプレート内の 1 つ以上のレベル 01 フィールドに適用されます。レベル 01 セグメント・レイアウト内での各フィールドの開始位置は、この値の分だけ増減されます。正のオフセット値を指定すると、フィールドが右方向に移動して、一部のフィールドがセグメントの長さを超える位置にマップさ

ることがあります。セグメント・レイアウト長を超えるデータは表示されません。指定したデータが物理的なレイアウトの終わりを越えるフィールドは(レコードが固定長であっても可変長であっても)編集できません。負のオフセット値を指定すると、フィールドが左方向に移動して、その結果、開始位置がゼロ以下になったフィールドはすべて、表示されなくなります。

必須フィールドはすべて、正の開始位置である必要があります。必須フィールドとは、OCCURS DEPENDING ON ターゲット・フィールド、PL/I REFER フィールド、あるいはセグメント識別基準またはフィールド選択基準で参照されるフィールドなどのことです。指定したオフセット値によって必須フィールドの開始列値がゼロ以下になる場合は、そのオフセット値は無効なので許可されません。次元フィールドの最初のエレメントの開始位置がゼロ以下である場合は、そのフィールド(すべての配列エレメント)は表示されません。

オフセットは、ID 基準または選択基準で使用するために、値の計算前に適用されます。

テンプレートを編集する場合、「Template : Segment Layout (テンプレート:セグメント・レイアウト)」パネルでオフセット値を入力して、現在表示されているセグメント・タイプの開始位置を変更することができます。テンプレートに複数のレベル 01 フィールドが含まれている場合は、「Template : Segment Layout Selection (テンプレート:セグメント・レイアウト選択)」パネルで OFFSET 基本コマンドを使用して、1 つ以上のレベル 01 フィールドを変更できます。

単一のセグメント・タイプでオフセットを変更するには、以下のようにします。

1. 「Template : Segment Layout (テンプレート:セグメント・レイアウト)」パネルの「Offset (オフセット)」フィールドに -32760 から 32760 の範囲の正または負の整数を入力します。

オフセット値は、レベル 01 フィールドのセグメント長、およびセグメント・レイアウト内のすべてのフィールドの開始位置に追加されます。

複数のセグメント・レイアウトでオフセットを変更するには、以下のようにします。

1. 「Template : Segment Layout Selection (テンプレート:セグメント・レイアウト選択)」パネルのコマンド行に OFFSET 基本コマンドおよびオフセット値を入力します。

デフォルトでは、オフセット値は、現行オフセット値がゼロのセグメント・レイアウトすべてに適用されます。現行オフセット値に関係なく、テンプレート内のすべてのセグメント・タイプにオフセット値を適用するには、この基本コマンドとともに ALL キーワードを使用します。特定のセグメント・レイアウトにオフセット値を適用するには、この基本コマンドとともにレイアウト名を指定します。

オフセット値は、レベル 01 フィールドのセグメント長、および指定したセグメント・レイアウト内のすべてのフィールドの開始位置に追加されます。

関連トピック

[OFFSET 基本コマンド ページ 516](#)

[「Segment Layout \(セグメント・レイアウト\)」パネル ページ 399](#)

[「Segment Layout Selection \(セグメント・レイアウト選択\)」パネル ページ 406](#)

ビューの作成および編集

ビューはテンプレートのコピーとして始まります。その後、以下の目的で情報を追加することができます。

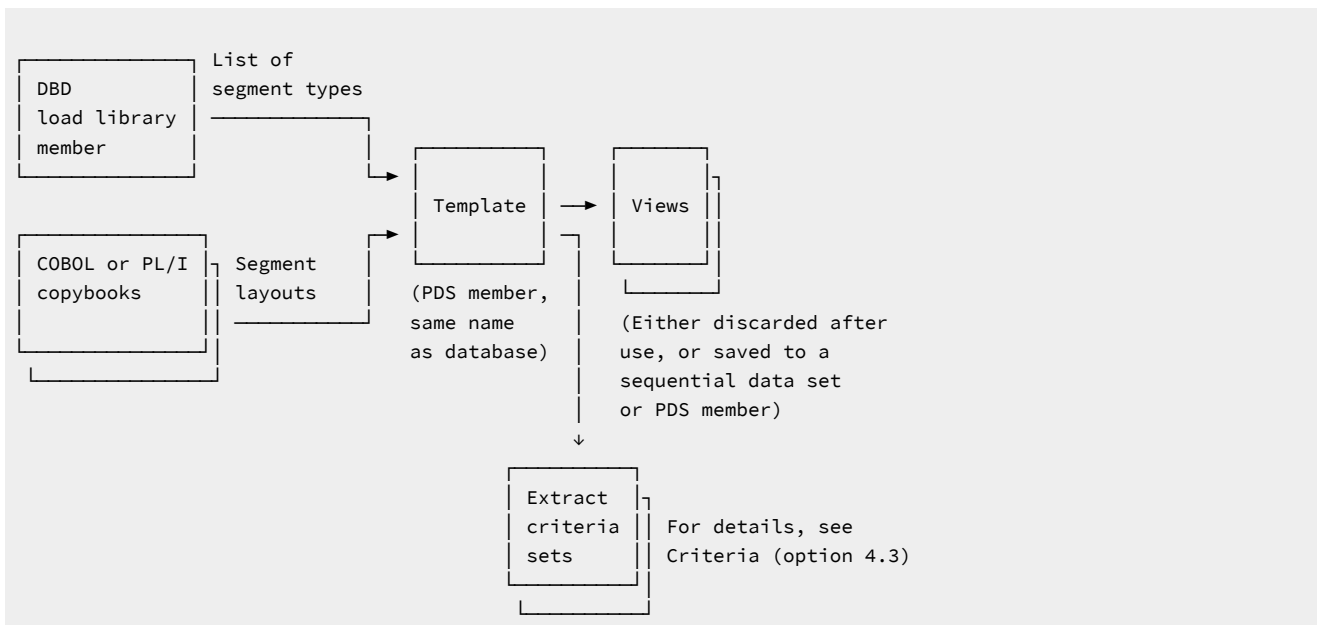
- 表示するセグメントを選択する
- 表示するフィールドを選択する
- フィールドを表示する順序を選択する
- フィールドの表示幅を変更する
- 数値フィールドに先行ゼロを表示する
- コピーブック中のフィールド名の代わりに使用するフィールド見出しを指定する



ヒント: 1つのデータベース (DBD) 当たり 1つのテンプレートを作成します。テンプレートと DBD は一致するメンバー名を持ちます。テンプレートを更新する必要があるのは、セグメント・タイプを追加したり、セグメント・タイプを名前変更したり、あるいは基礎となるデータベース構造中でセグメント・レイアウトを変更した場合だけです。

同じデータベースについて必要な数だけビューを作成することができ、各ビューでデータを異なる方法で表示し、各種のセグメントおよびフィールドを選択することができます。データをブラウズまたは編集する前にビューを用意したり、データベースのブラウズまたは編集時にビューを作成して編集することもできます。

図 17. テンプレートおよびビューの概要



ブラウズまたは編集前のビューの作成

ブラウズまたは編集前にビューを作成するには、以下のようにします。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」から「**Views (ビュー)**」(オプション 4.2)を選択する。
「View Entry Panel (ビュー項目の入力パネル)」が表示されます。
2. 「**Template (テンプレート)**」フィールドにテンプレートのデータ・セット名およびメンバー名を入力します。
3. 「**View : Data set name (ビュー : データ・セット名)**」フィールドに、ビューを保管する既存データ・セットの名前を入力します。
4. 「**View : Member (ビュー : メンバー)**」フィールドに新規メンバーの名前を入力します。このメンバーはビューの保管時に作成されます。
5. 新規ビューを既存ビューのコピーとして始める場合は、「**Model view: (モデル・ビュー:)**」フィールドにモデル・ビューのデータ・セット名とメンバー名を入力してから、コマンド行に CM 基本コマンドを入力します。

それ以外の場合は、次のようにします。

コマンド行に CT 基本コマンドを入力します。

6. Enter キーを押します。ビューが作成され、確認メッセージがパネルの右上隅に表示されます。

いずれかの方法を使用してビューを作成した後で、それを編集することができます。また、データベースのブラウズまたは編集時にビューを編集することもできます。

関連トピック

[「View Entry \(ビュー項目の入力\)」パネル ページ 458](#)

ブラウズまたは編集中のビューの作成

ブラウズまたは編集処理中にビューを作成する場合に、一時ビューを作成するか、または後で再使用するためにビューを保管するかを選択することができます。

ブラウズまたは編集中にビューを作成するには、以下のようになります。

1. ビューを保管するようにプロンプトを出す場合は、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」からオプション「**0 Settings (設定)**」を選択して、「Setting (設定)」メニューから「**5 EDIT (編集)**」を選択します。「Editor Options (エディター・オプション)」パネルが表示されます。編集セッションまたはブラウズ・セッションを終了する際に、ビューを保管するために「**Prompt (プロンプト)**」で「/」を入力し、次に「Exit」機能キー (F3) を押して、この設定を保管してパネルを終了します。
2. [データベースのアクセス ページ 47](#)に記載されている指示に従い、「Browse Entry Panel (ブラウズ項目の入力)」または「Edit Entry Panel (編集項目の入力)」パネルで、「**View usage (ビューの使用)**」オプションで「New (新規)」を選択します。
3. 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルが表示されます。「View (ビュー)」フィールドには「Temporary (一時)」が表示されることに注意してください。
4. X 行コマンドを使用してセグメント・タイプの選択を解除し、Enter を押すと、文字「C」が「View (ビュー)」ヘッダーの横に表示されることに注意してください。ビューに何らかの変更を行うと、「C」標識が表示されます。
5. VSAVE コマンドを発行します。FM/IMS は「View Save (ビュー保管)」パネルを表示します。一時ビューを保管するデータ・セットとメンバーの名前を指定して、次に「Exit」機能キー (F3) を押します。

6. FM/IMS はビューを指定されたデータ・セットに保管して、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルに戻ります。「C」標識は表示されなくなり、「View (ビュー)」フィールドには、ビューを保管したデータ・セットとメンバーの名前が表示されることに注意してください。
7. X 行コマンドを使用してセグメント・タイプの選択をもう一度解除し、Enter を押します。「C」標識が以前と同様に表示されることに注意してください。
8. 「Exit」機能キー (F3) を押して、「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルまたは「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルが表示される場合、「Exit」機能キーをもう一度押します。「View Save (ビュー保管)」パネルがもう一度表示されます。ここではビューに対して行った変更の保管または変更の廃棄の選択ができます。



注: 「Editor Options (エディター・オプション)」パネルで編集セッションまたはブラウザ・セッションのオプションを終了する時にビューを保管するために「Prompt (プロンプト)」を選択して、セッション中にビューを変更したがこれを保管していない場合にのみ、「Browse Entry (ブラウザ項目の入力)」パネルまたは「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルに戻る前に、ビューを保管するようプロンプトが出されます。

関連トピック

[「Database Positioning \(データベース位置決め\)」パネル ページ 258](#)

ビューの更新

テンプレートが更新されている場合は、そのテンプレートに基づくすべてのビューを更新する必要もあります。

ビューは、以下の方法で更新できます。

- 「**Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)**」メニューからオプション「**2 Views (ビュー)**」を選択します。
- 同じメニューからオプション「**5 View update (ビューの更新)**」を選択します。
- バッチ関数を使用します。[IMS View Update \(IMS ビューの更新\) \(IVU\) ページ 565](#) を参照してください。

オプション「2 Views (ビュー)」を使用してフォアグラウンドで1つのビューを更新

以下のようにして、オプション「**2 Views (ビュー)**」を使用し、フォアグラウンドで1つのビューを更新します。

- 「**Primary Option menu (基本オプション・メニュー)**」からオプション「**4 Templates (テンプレート)**」を選択し、「**Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)**」メニューを表示します。
- オプション「**2 Views (ビュー)**」を選択し、「**View Entry (ビュー項目の入力)**」パネルを表示します。
- 「**View Entry (ビュー項目の入力)**」パネルで、更新するビューを選択するための詳細を入力します。

「View (ビュー)」の「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドに、データ・セット(必ず、区分)を特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定します。ビュー・メンバー名を入力するか、ビュー名パターンを入力して「**View Member Selection (ビュー・メンバー選択)**」のリストからビューを選択できるようにします。

- 次に、コマンド行に **↵** と入力して、Enter キーを押します。

- テンプレートにビューの更新を必要とする変更が行われたことを処理が検出した場合、「View updated (ビューの更新)」のメッセージが表示されます。ビューは、その結果、テンプレートで検出された新しい情報で更新されます。これで、セグメントでの変更が考慮され、ビューを編集することができます。現行のテンプレートに対してビューがまだ有効である場合は、「Update not required (更新は必要ありません)」と表示されます。

関連トピック

[Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\) ページ 373](#)

[\[Template/View/Criteria Set Menu \(テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー\)\] パネル ページ 456](#)

[\[View Entry \(ビュー項目の入力\)\] パネル ページ 458](#)

[\[View Member Selection \(ビュー・メンバー選択\)\] パネル ページ 460](#)

オプション「5 View update (ビューの更新)」を使用してフォアグラウンドまたはバッチ・ジョブで1つ以上のビューを更新

View Update Utility (ビューの更新ユーティリティ) を使用すると、フォアグラウンドまたはバッチで1つ以上のビューを更新することができます。処理するビューは、次の基準の一方または両方でフィルターできます。

- ビュー名パターン (1つの完全なビュー名を入力すると、その1つのビューのみが処理されます)。
- 最大4つのテンプレート名またはパターン。

拡張メンバー選択オプションの使用も選択可能です。それにより、以下の1つ以上を使用して選択またはフィルターが可能になります。

- 名前範囲でのビューの選択
- ビューを更新したユーザー ID (あるいはパターンまたは範囲) によるフィルター
- 作成日 (あるいはパターンまたは範囲) によるフィルター
- 変更日 (あるいはパターンまたは範囲) によるフィルター

オプション 5 を使用してフォアグラウンドまたはバッチ・ジョブで1つ以上のビューを更新するには:

- **[Primary Option menu (基本オプション・メニュー)]** からオプション **[4 Templates (テンプレート)]** を選択し、**[Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)]** メニューを表示します。
- オプション **[5 View update (5 ビューの更新)]** を選択し、**[View Update Utility (ビューの更新ユーティリティ)]** パネルを表示します。
- **[View Update Utility (ビューの更新ユーティリティ)]** パネルで、更新するビューを選択するための詳細を入力します。
 - **[View (ビュー)]** の **[Data set name (データ・セット名)]** フィールドに、データ・セット (必ず、区分) を特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定します。
 - **[View (ビュー)]** の **[Member (メンバー)]** フィールドに、ビュー名またはビュー名パターンを指定できます。
 - **[Template filter (テンプレート・フィルター)]** フィールドに、フィルターとして使用する最大4つのメンバー名またはパターンを指定することができます。これにより、それらのテンプレート、またはメンバー・パターンに一致するテンプレートを参照するビューのみが処理用に選択されるようになります。

- 「Output Template (出力テンプレート)」の「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、更新されたテンプレートが保管される出力データ・セットを特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定できます。このフィールドをブランクのままにすると、入力データ・セットで更新が行われます。
- 「Output View (出力ビュー)」の「Member mask (メンバー・マスク)」フィールドに、更新されたテンプレートを代わりに新しい名前でも保管するための名前変更マスクを指定できます。
- 「Template (テンプレート)」の「Data set name (データ・セット名)」フィールドに、データ・セット (必ず区分化されたもの) を特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定します。
- 処理オプションを選択します。
 - **Batch execution (バッチ実行)**: バッチでこの機能を実行します。
 - **Replace member (メンバーの置換)**: 出力区分データ・セットの同名メンバーを置換します。
 - **Advanced member selection (拡張メンバー選択)**: 特定メンバー名または総称メンバー名ではなく、選択するメンバーの範囲を指定します。
 - **Specify template data sets (テンプレート・データ・セットの指定)**: ビューで参照されるテンプレート・データ・セット名を、このテンプレート・データ・セットで更新します。このオプションを選択しないと、ユーティリティーは、ビューで参照されるテンプレート・データ・セットを使用します。
 - **Skip member list (メンバー・リストのスキップ)**: メンバー選択リストを表示せずに実行します。このオプションを使用すると、メンバー・リスト・パネルを表示せずに、該当の全メンバーを処理します。指定されたパラメーターからエラー (重複した出力名など) が発生した場合は、そのエラーが強調表示されてメンバー・リスト・パネルが表示されます。
 - **Check mode - no update (検査モード - 更新なし)**: 結果として生成されるメンバーを保管せずに、この機能を実行します。
 - **Forced update (強制更新)**: 変更が検出されない場合でも更新を実行する場合。
- **Enter** キーを押します。

最初に、総称として指定されたすべてのデータ・セットが検索されます。必要なデータ・セットの選択が必要です。その後、選択されたオプションに従って、次のパネルが表示されます。

- 「Advanced member selection (拡張メンバー選択)」が選択された場合、「Advanced Member Selection (拡張メンバー選択)」パネルが表示されます。ここで、ビュー名パターン、またはビュー名の範囲、および更新ユーザー ID (あるいはパターンまたは範囲)、作成日 (あるいはパターンまたは範囲)、変更日 (あるいはパターンまたは範囲) を組み合わせて指定できます。
- **Enter** キーを押します。

「Skip member list (メンバー・リストのスキップ)」を選択していない場合には、「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」パネルが表示されます。F11 (Right) を押すと右へスクロールして「Description (記述)」列を表示し、F10 (Left) を押すと元の表示に戻ります。

- 接頭部域 (Sel) に、次の任意の接頭部コマンドを入力し、**Enter** キーを押して関連付けられたアクションを実行します。

B

ISPF の「Browse (ブラウズ)」パネル (File Manager の「Browse (ブラウズ)」パネルではありません) を使用してメンバーが表示されます。

E

【**Segment Selection (セグメント選択)**】 パネルにメンバーが表示されます。

V

ISPF の「View (ビュー)」 パネルを使用してメンバーが表示されます。

S

処理するメンバーを 1 つ以上選択します。



ヒント: 基本コマンド `SELECT *` を入力して、表示されている全メンバーを選択します。

Enter キーを押して、選択したビューをすべて処理します。

- 【**Batch execution (バッチ実行)**】 が選択された場合、**JCL** が生成されます。それ以外の場合は、指示された処理が実行され、実行されたアクションの結果を通知するメッセージが表示されます。いずれかの更新が失敗した場合は、エラー・メッセージが表示され、各メンバーの状況が「Prompt (プロンプト)」フィールドに表示されます。

【**View Update Utility (ビューの更新ユーティリティー)**】 パネルに戻ると、以下のような要約メッセージが表示されます。

```
4 members read 2 Updated 1 Not changed 0 Not replaced 1 Errors
```

関連トピック

[【Advanced Member Selection \(拡張メンバー選択\)】](#) パネル ページ 205

[Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\)](#) ページ 373

[【Segment Selection \(セグメント選択\)】](#) パネル ページ 409

[【Template/View/Criteria Set Menu \(テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー\)】](#) パネル ページ 456

[【View Member Selection \(ビュー・メンバー選択\)】](#) パネル ページ 460

[【View Update Utility \(ビューの更新ユーティリティー\)】](#) パネル ページ 462

ビューの編集

ビューの編集は、「View Entry Panel (ビュー項目の入力パネル)」を介して、または編集あるいはブラウザ・セッションで行うことができます。ビューを使用して、以下のタスクを実行できます。

- 表示用**セグメント・タイプ**の選択または選択解除。セグメント・タイプが表示のために選択されない場合には、FM/IMS はこのタイプのどのセグメントも「IMS Data (IMS データ)」パネルに表示しません。セグメント内の値は、データベース・レコードが選択されたかどうかを判別するために、引き続き使用することができます。

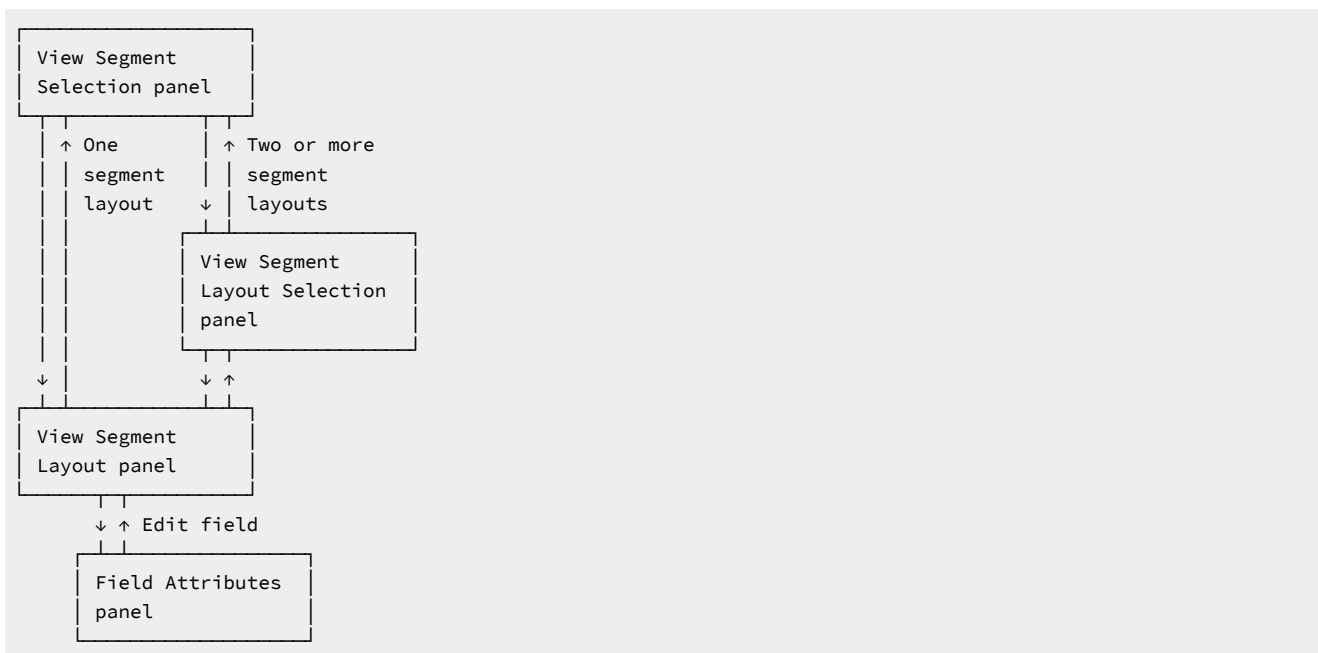
セグメント・タイプが表示のために選択された場合には、このタイプのセグメントが現行の定様式セグメントか抑制セグメントのいずれかとして表示されます。

- 表示する**セグメント・レイアウト**を選択または選択解除します。セグメント・レイアウトが表示のために選択されていない場合は、このセグメント・レイアウトのレイアウト識別基準に適合するセグメントがあっても FM/IMS はそれを「IMS Data (IMS データ)」パネルに表示しません。セグメント内の値は、データベース・レコードが選択されたかどうかを判別するために、引き続き使用することができます。

セグメント・レイアウトが表示のために選択された場合には、このレイアウトのセグメントが現行の定様式セグメントか抑制セグメントのいずれかとして表示されます。

- 表示するフィールドを選択または選択解除します。フィールドが表示のために選択されていない場合は、FM/IMS はフィールドを「IMS Data (IMS データ)」パネルに表示しません。(定様式セグメントでズームすると、選択されているかどうかにかかわらず、すべてのフィールドが表示されます。)
- フィールド見出しを変更します。デフォルトのフィールド (列) 見出しは、コピーブックからのフィールド名です。別のフィールド見出しを指定した場合には、FM/IMS は、その見出しを TABL 定様式パネルの場合は列見出し、あるいは SNGL 定様式パネルの場合はフィールド見出しとして使用します。
- フィールド選択基準を指定します。セグメントのインスタンスを選択する場合は、そのセグメントはセグメント・レイアウトの突き合わせに指定されたフィールド選択基準を満たしていなければなりません。セグメントが基準を満たしていない場合には、選択されず、そのセグメントがコンポーネントとなっているデータベース・レコードも選択されない可能性があります。(レイアウト識別基準はテンプレートの中に指定されます。)
- フィールドの出力幅を調整します。
- 先行ゼロを表示します。数値フィールドに適用されます。
- 作成属性を指定します。これらの属性は、セグメントの挿入時に使用されます。

図 18. ビューの編集



以下の 2 つの異なる方法でビューの編集を始めることができます。

1. 「View Entry Panel (ビュー項目の入力パネル)」でテンプレート・データ・セット名とメンバー名、およびビュー・データ・セット名とメンバー名を入力し、コマンド行に「E」を入力します。「Segment Selection (セグメント選択)」パネルで編集するセグメント・タイプの横の「Cmd」フィールドに「E」を入力します。
2. 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで編集するセグメント・タイプの横の「Cmd」フィールドに「E」を入力します。

選択されたセグメントがマルチ・レイアウト・セグメントではない場合には、**「View : Segment Layout (ビュー : セグメント・レイアウト)」** パネルが表示されます。

選択されたセグメントがマルチ・レイアウト・セグメントである場合には、**「View : Segment Layout Selection (ビュー : セグメント・レイアウト選択)」** パネルが表示されます。編集するレイアウトの横の「Cmd」フィールドに「E」を入力して、レイアウトを選択します。

関連トピック

[「View Entry \(ビュー項目の入力\)」 パネル ページ 458](#)

[「Database Positioning \(データベース位置決め\)」 パネル ページ 258](#)

[「Segment Layout \(セグメント・レイアウト\)」 パネル ページ 399](#)

[「Segment Layout Selection \(セグメント・レイアウト選択\)」 パネル ページ 406](#)

セグメント・タイプおよびレイアウトの選択と除外

デフォルトでは、テンプレート内のセグメント・タイプはすべて、最初にビューで選択済みになっています。このため、表示対象として選択するセグメントの一般的な指定方法は、不要なセグメントを除外することです。

表示からのセグメント・タイプの除外は、「View Entry Panel (ビュー項目の入力パネル)」を介して、あるいは編集またはブラウザ・セッションで行うことができます。

「View Entry Panel (ビュー項目の入力パネル)」を介してセグメント・タイプを除外するには、以下のようにします。

1. 「Segment Selection (セグメント選択)」 パネルを表示するには、[ビューの編集 ページ 109](#)の指示に従ってください。
2. 除外する選択済みの各セグメント・タイプの横にある**「Cmd」**フィールドに「S」を入力します。

S コマンドは、現在の選択の状況に応じて、選択をオンまたはオフに切り替えます。選択済みの各セグメント・タイプの**「Sel」**列には、アスタリスクが表示されます。除外されたセグメントを再度選択するには、もう一度 S コマンドを入力します。

「Database Positioning (データベース位置決め)」 パネルを介してセグメント・タイプを除外するには、以下のようにします。

1. 「Database Positioning (データベース位置決め)」 パネルを表示するには、[ビューの編集 ページ 109](#)の指示に従ってください。
2. 除外する選択済みの各セグメント・タイプの横にある**「Cmd」**フィールドに「X」を入力します。

X コマンドは、現在の選択の状況に応じて、選択をオンまたはオフに切り替えます。選択済みの各セグメント・タイプの**「SXE」**列に「X」が表示されます。除外されたセグメントを再度選択するには、もう一度 X コマンドを入力します。

セグメント・レイアウトを除外するには、以下のようにします。

1. 「Segment Selection (セグメント選択)」パネルまたは「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルから、マルチ・レイアウト・セグメント・タイプの横の「**Cmd**」フィールドに「**E**」を入力します。
2. 除外する選択済みの各セグメント・レイアウトの横にある「**Cmd**」フィールドに「**S**」を入力します。

S コマンドは、現在の選択の状況に応じて、選択をオンまたはオフに切り替えます。選択済みの各セグメント・レイアウトの「**SIE**」列に「**S**」が表示されます。

ビューに多数のセグメント・タイプまたはセグメント・レイアウトが存在するときに、その中から少数のセグメントを選択する場合は、すべてのセグメント・タイプを一度の操作で除外してから、組み込むタイプだけを再度選択することができます。

1. 任意のパネルで、コマンド行に「**SELECT ALL OFF**」と入力します。
2. 組み込みたい各セグメント・タイプまたはレイアウトの横にある「**Cmd**」フィールドに「**S**」または「**X**」を入力します。

すべてのセグメント・タイプまたはレイアウトを再度選択するには、コマンド行に「**SELECT ALL**」を入力します。

関連トピック

[SELECT ALL 基本コマンド ページ 529](#)

[「Database Positioning \(データベース位置決め\)」パネル ページ 258](#)

[「Segment Layout \(セグメント・レイアウト\)」パネル ページ 399](#)

[「Segment Layout Selection \(セグメント・レイアウト選択\)」パネル ページ 406](#)

ビューでのフィールドの選択および順序付け

ビューに表示されるフィールドの順序は、最初は基礎となるテンプレートから取得されます。ただし、ビューにおけるフィールドの順序を変更すること、および表示からフィールドを除外することができます。表示から除外したフィールドは、レイアウト識別基準またはフィールド選択基準で引き続き使用することができます。

次のように、データベースのブラウズまたは編集時に表示されるフィールドの順序を変更します。

1. 「View : Segment Layout (テンプレート : セグメント・レイアウト)」パネルで、「**Seq**」フィールドにシーケンス番号を入力します。

シーケンス番号のあるフィールドは、シーケンス番号のないフィールドより前に表示されます。シーケンス番号のあるフィールドは、そのシーケンス番号順で表示されます。残りのフィールド (シーケンス番号のないもの) は、デフォルトの順序 (パネルに表示される順序) で表示されます。シーケンス番号は 1 から始まる必要はなく、連続している必要もありません。

レイアウトからフィールドを除外するには、以下のようにします。

1. 「View : Segment Layout (ビュー : セグメント・レイアウト)」パネルで、組み込みたい各フィールドの横にある **[Cmd]** フィールドに **[s]** を入力します。

s コマンドは、現在の選択の状況に応じて、選択をオンまたはオフに切り替えます。選択済みの各フィールドの **[SHC]** 列に **[S]** が表示されます。



注: フィールド選択は、すべてのフィールドがデフォルトで選択されているという点で、セグメント・タイプまたはレイアウトの選択とは異なります。したがって、このパネルで選択を行わず、フィールドの **[SHC]** 列に **[S]** のタグを付けなければ、すべてのフィールドが選択されます。ただし、**s** コマンドを使用して1つのフィールドにタグを付けると、その他すべてのフィールドが除外済みになります。

レイアウトに多数のフィールドが存在するときに、その中から少数のフィールドを選択解除する場合は、一度の操作ですべてのフィールドに選択対象としてタグを付けてから、除外するフィールドだけを選択解除することができます。このためには次のようにします。

1. 「View : Segment Layout (ビュー : セグメント・レイアウト)」パネルで、コマンド行に `SELECT ALL` 基本コマンドを入力します。
2. 除外する各フィールドの横にある **[Cmd]** フィールドに **s** コマンドを入力します。

関連トピック

[SELECT ALL 基本コマンド ページ 529](#)

[\[Segment Layout \(セグメント・レイアウト\)\] パネル ページ 399](#)

フィールド属性の設定

ビューでは、フィールドの表示および作成属性を変更することができます。

変更可能なフィールド表示属性は次の通りです。

- フィールド見出し。(データベース表示におけるデフォルトの見出しはレイアウトで使用されるフィールド名ですが、これは表示目的でのみ変更することができます。)
- Output width (出力幅)
- 先行ゼロ (数値フィールド)

英数字フィールドで変更可能なフィールド作成属性は次の通りです。

- Filler (充てん文字)
- Action (アクション)
- Start character (開始文字)
- Pattern (パターン)
- Repeat user pattern (ユーザー・パターンの繰り返し)

数値フィールドで変更可能なフィールド作成属性は次の通りです。

- Start value (開始値)
- End value (終了値)
- Increment (増分)
- Cycle (サイクル)

フィールド属性を変更するには、次のようにします。

1. 「View : Segment Layout (ビュー : セグメント・レイアウト)」パネルで、編集するフィールドの横にある **「Cmd」** フィールドに **Ⓜ** を入力します。

「Field Attributes (フィールド属性)」パネルが表示され、フィールド・タイプに対応する属性が表示されます。

2. 変更する属性フィールドに値を入力します。

関連パネル

[「Field Attributes \(フィールド属性\)」パネル - 英数字フィールド ページ 311](#)

[「Field Attributes \(フィールド属性\)」パネル - 数値フィールド ページ 317](#)

切り捨てなしでのフィールドの表示

数値フィールドに、有効な数値が入っているが、値が大きすぎてフィールドに割り振られた幅 (オリジナル・コピーブックで PICTURE 文節によって定義されている) に入らない場合、この値は切り捨てられます。切り捨てが行われたことを示すために、このフィールドは強調表示されます。

切り捨てなしにフィールド全体を表示するには、ビューを編集し、フィールドの出力幅を指定する必要があります。

1. 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルに移動するには F3 を押します。
2. ビューに複数のセグメント・タイプが含まれている場合は、フィールドのセグメント・タイプの横に **Ⓜ** を入力します。
3. フィールドの横に **Ⓜ** を入力します。

フィールドの「Field Attributes (フィールド属性)」パネルが表示されます。

4. **「Output width (出力幅)」** フィールドに、フィールド全体の表示に十分な幅の値を入力します。
5. 「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻るまで「Exit」機能キー (F3) を押します。

フィールドが、テーブル・エレメント (オリジナル・コピーブックで、OCCURS 文節によって定義されている) である場合は、そのフィールド見出しの後には、括弧で囲まれた添え字が付けられます。例えば、TABLE-ELEMENT(1) のようになります。

日付/時刻フィールドの定義

ビューでは、日付または時刻 (あるいはその両方) の値を保持するように FM/IMS フィールドを指定できます。これは「Date/Time Attributes (日付/時刻属性)」パネルで行うことができます。このパネルでは以下を指定できます。

- フィールド日時値を保管するために使用する内部フォーマット
- 日時処理に使用する代替データ・タイプ
- フィールドに保管された日時値を表示するために使用するフォーマット
- 日付作成オプション
- 日付/時刻スクランブル・オプション

フィールドの日時属性を定義または変更するには、次のようにします。

1. 「View : Segment Layout (ビュー : セグメント・レイアウト)」パネルで、日付/時刻フィールドの横にある「Cmd」フィールドに **DT** を入力します。

「Date/Time Attributes (日付/時刻属性)」パネルが表示され、フィールドに既に定義済みの属性が表示されます。

2. 定義または変更する属性フィールドに値を入力します。

スクランブル・オプションの指定

データをスクランブルすることで、特定のフィールドの値を変更する機能を利用しながら、実動(「生」)データを基にテスト・データを作成できます。

スクランブルを実行するには、FM/IMS 抽出ユーティリティを実行し、パネルからスクランブル・オプションを選択するか、既存のバッチ・ジョブに対して SCRAMBLE=YES キーワードを使用します。スクランブル属性が設定されている抽出済みデータベースに関連付けられたテンプレートのフィールドは、それに応じてスクランブルされます。

フィールドにスクランブルのマークを付けるには、テンプレート内のそのフィールドのスクランブル・オプションを設定します。スクランブル・オプションは、「Field Attributes (フィールド属性)」パネルで指定または変更できます。このパネルには2つのバージョンがあります。一方は英数字フィールド用、もう一方は数値フィールド用です。

スクランブル・オプションを指定するためのフィールドの選択

フィールドを「Field Selection (フィールド選択)」または「Edit (編集)」パネルから選択します。スクランブル・オプションを指定するためのフィールドを少なくとも1つ選択するには、その必須フィールドの横にある「Cmd」フィールドで **E** を入力します。選択したフィールドごとに、FM/IMS では「Field Attributes (フィールド属性)」パネルが表示されます。

フィールドのスクランブル・オプション(または他のフィールド属性のいずれか)を更新した後で、「Field Selection (フィールド選択)」または「Edit (編集)」パネルに戻ると、(「SHE」見出しの下にある)E列に、そのフィールドの属性が変更されたことを示す「E」が表示されます。

指定できるスクランブル・オプションは以下のとおりです。

- スクランブル・タイプ
- 値オプション
- 値入力列
- 値出力列
- 数値範囲の最小値と最大値
- 値データ・セット名

スクランブル・オプションにより、入力データを出力データ・セットにコピーする際に順序変更することがある場合には、その方法を決定します。

スクランブル・タイプの指定

【Scramble Type (スクランブル・タイプ)】 オプションにより、データが出力データ・セットにコピーされる際にどのように順序変更されるかを決定します。

スクランブル・タイプを次の値のいずれかに設定します。

空白

データは順序変更されません。

1 (「ランダム」)

個々の呼び出しでランダム出力値を生成するように順序変更されたデータ。

2 (「反復可能」)

個々の呼び出しで同じ出力値を生成するように順序変更されたデータ。

3 (「変換」)

値データ・セット (**【Dsn】** フィールドで指定) に保持されている入力値および出力値を使用して順序変更されたデータ。

このオプションでは、入力列と出力列 (**【IN】** および **【OUT】**) および値データ・セット名 (**【DSN】**) で **【Value (値)】** オプションを選択する必要があります。変換データ・セットに含まれるすべてのレコードは、コピー操作にメモリーにロードされます。入力列と出力列には、データ・セットに保管されている入力フィールド値および出力フィールド値の位置が示されます。その長さは、コピー操作でマップされた個々の入力フィールドおよび出力フィールドによって決まります。一致する入力フィールド値が見つかったら、対応する出力フィールド値が、一致するレコードから取得されます。一致する値が見つからない場合、フィールドはゼロまたはデータ作成属性により決定される値に初期化されます。

4 (「終了」)

スクランブル出口 (別のパネルで指定されます)

を使用して順序変更されたデータ。スクランブル出口の記述について詳しくは、*File Manager Customization Guide*を参照してください。

関連トピック

[値オプションの指定 ページ 116](#)

[値入力列および値出力列の指定 ページ 117](#)

[範囲値の指定 ページ 118](#)

[値データ・セット名の指定 ページ 118](#)

値オプションの指定

【Value (値)】 オプションおよび対応するフィールドは、スクランブル・プロセスの出力を制御します。

このオプションを選択または指定する方法は、関連するフィールドが英数字であるかまたは数値であるかにより異なります。

- 英数字フィールドの場合、以下のいずれかを実行します。
 - ブランクを入力して **「Value (値)」** オプションの選択を解除します。
 - **「/」** を入力して **「Value (値)」** オプションの選択を行います。
- 数値フィールドの場合、以下のいずれかを実行します。
 - ブランクを入力して **「Value (値)」** オプションの選択を解除します。
 - **「1」** を入力して範囲を選択します。
 - **「2」** を入力して **「Value (値)」** オプションの選択を行います。

値オプションの選択 (**「/」**)

このオプションを選択すると、以下を提供することができます。

- **変換データ・セット**。これは、**「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」** の 3 (**「Translate (変換)」**) を入力列および出力列と値データ・セットで選択した場合に適用されます。
- **検索データ・セット**。これは、**「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」** の 1 (**「Random (ランダム)」**) または 2 (**「Repeatable (反復可能)」**) を値データ・セット名とともに選択した場合に適用されます。データ・セットはメモリーにロードされ、出力値はロードされたレコードのいずれかからランダムにまたは反復可能なものとして選択されます。出力列により、このフィールドに選択された値の位置が決まります。
- **値リスト**。これは、**「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」** の 1 (**「Random (ランダム)」**) または 2 (**「Repeatable (反復可能)」**) を値データ・セット名なしで選択した場合に適用されます。このフィールドの選択値は、Enter を押した際に表示されるパネルに入力できます。指定した値のいずれかが、コピー操作中にランダムにまたは反復可能なものとして選択されます。入力する値はテンプレートに保管されます。値リストについては、後で詳しく説明します。

値オプションの選択解除 (**ブランク**)

このオプションの選択を解除すると、ランダムまたは反復可能な出力値を生成する入力フィールドの順序が変更されません。**「スクランブル・タイプ」** は、1 (**「ランダム」**) または 2 (**「反復可能」**) に設定する必要があります。

値入力列および値出力列の指定

入力列フィールド (**「IN」**) は、値データ・セットの入力フィールド値の開始位置を定義するものであり、入力フィールドを値データ・セットの値と突き合わせるために、コピー操作で変換処理が実行される際に使用されます。フィールドの長さは、コピー処理時にこのフィールドにマップされる入力フィールドの長さに設定されます。



注: この値は、**「スクランブル・タイプ」** の 3 (**「変換」**) を選択する場合にのみ必要です。

出力列フィールド (**「OUT」**) は、値データ・セットの出力フィールド値の開始位置を定義するもので、コピー操作で以下の方法で使用されます。

- **変換**。入力フィールド値が値データ・セットで一致すると、対応する出力値が使用されます。
- **「ランダム」**または**「反復可能」**。入力値は、値データ・セットから出力値をランダムにまたは反復可能なものとして選択するために使用されます。

フィールドの長さは、「Field Attributes (フィールド属性)」パネルに表示されるフィールドの長さです。



注: この値は、「スクランブル・タイプ」の3 (「変換」) を選択する場合に必要です。

「**Scramble Type (スクランブル・タイプ)**」の1 (「Random (ランダム)」) または2 (「Repeatable (反復可能)」) を選択して、「**Value (値)**」オプションも選択すると、値データ・セット名 (**DSN**) を指定した場合に出力列が1にデフォルト設定されます。

範囲値の指定

数値フィールドにスクランブル・オプションを指定すると、結果として生じる順序が変更された値の選択元となる値の範囲を指定できます。

範囲の最小値を「**Min (最小)**」フィールドに指定し、範囲の最大値を「**Max (最大)**」フィールドに指定します。

範囲オプションは、ランダム・スクランブルおよび反復可能スクランブルが指定された場合にのみ選択できます。出力値は、指定された範囲内の数値から、ランダムにまたは反復可能なものとして選択されます。

値データ・セット名の指定

出力データ・セット名フィールド「**Dsn**」は、値データ・セットを定義します。カタログされた順次データ・セット、区分データ・セット、またはVSAMデータ・セットを指定できます。このデータ・セットには、コピー処理時の出力フィールド値を決定するために使用されるデータが入っています。

「**Scramble Type (スクランブル・タイプ)**」の3 (「Translate (変換)」) を選択する場合、データ・セットには、入力列および出力列で指定した位置の入力値および出力値が含まれている必要があります。

「**Scramble Type (スクランブル・タイプ)**」の1 (「ランダム」) または2 (「Repeatable (反復可能)」) を選択する場合、データ・セットには、出力列で指定した位置の出力値が含まれている必要があります。



注釈:

1. このフィールドは、「**Scramble Type (スクランブル・タイプ)**」の3 (「Translate (変換)」) を選択する場合に必要です。「**Scramble Type (スクランブル・タイプ)**」の1 (「Random (ランダム)」) または2 (「Repeatable (反復可能)」) を選択して、「**Value (値)**」オプションも選択すると、オプションでデータ・



セット名を指定することができます。このフィールドを空白のままにして **「Value (値)」** オプションを選択すると、テンプレートに保管されている値リストを入力するようにプロンプトが出されます。

2. 値データ・セット・レコードの長さは、フィールドの長さよりも長いかまたは同じである必要があります。

値リストの指定と編集

値リストは、コピー操作でフィールドに取り込まれる値を選択するために、スクランブル・オプションとともに使用される値のリストです。出力フィールドに値が取り込まれるときに、このリストの値のいずれかが選択されます。スクランブル・オプションは、元の値をランダム・シードまたは反復可能シードと組み合わせて、リストから値を選択します。

ランダム・スクランブルおよび反復可能スクランブルの場合、値データ・セット・フィールド (**Dsn**) を空白のままにして、**「Value (値)」** オプションを選択することにより、値リストをインラインで指定できます。

関連する値リストを編集するには、**「Value (値)」** オプションを選択して Enter を押します。FM/IMS は、**「Value List Edit (値リスト編集)」** パネルを表示します。

指定する値は対応するフィールド・タイプで有効でなければなりません。値リストを削除すると、前のパネルの値リスト・オプションがオフになります。

- 16 進値を入力するには、以下のように X'hhhh' 形式を使用します。

```
x'C1C2C3'
```

- 先行空白または空白値を指定するには、以下のように引用符付きストリングを使用します。

```
' SMITH'
```

- 空白値の行 (引用符なし) は無視されます。

指定されたストリングが含まれる値またはこのストリングで始まる値を現在行に入れるには、FIND コマンドおよび LOCATE コマンドを使用します。

行のコピー、挿入、移動、反復、または削除を行うために接頭部コマンドを使用できます。

値を保管するには F3 を押します。変更を無視するには Cancel を押します。

日付/時刻フィールドのスクランブル・オプションの指定

フィールドを **「Field Selection (フィールド選択)」** または **「Edit (編集)」** パネルから選択します。日時のスクランブル・オプションを指定するフィールドを選択するには、その必要なフィールドの横にある **「Cmd」** フィールドに DT を入力します。DT は、必要なだけのフィールドに入力することができます。選択したフィールドごとに、FM/IMS では **「Date/Time Attributes (日付/時刻属性)」** パネルが表示されます。

指定できるスクランブル・オプションは以下のとおりです。

- スクランブル・タイプ (ランダムまたは反復可能)
- 日時範囲の開始値および終了値

スクランブル・タイプの指定

Random オプションを選択すると、FM/IMS は、コピー・プロセスの呼び出しごとにランダム日時出力値を生成します。

「Random (ランダム)」オプションが選択されておらず、範囲の **Start** と **End** の値が指定されている場合、FM/IMS は反復可能なスクランブルを実行します。この場合、コピー・プロセスの呼び出しごとに同じ日時出力値が生成されます。

範囲値の指定

FM/IMS が日時フィールドでスクランブルを実行するには、範囲の **Start** と **End** の値を指定する必要があります。 **Start** と **End** の値は、フィールドに定義されている出力属性 **Format** に日時値として入力する必要があります。これらの値は、FM/IMS がスクランブル日時値を生成できる範囲を定義します。

ビューを使用したデータ表示のフィルター操作

ビューがデータベースに関連付けられている場合には、TABL 表示モードでは、ある時点で1つのセグメント・タイプに関連付けられたデータ (セグメント・オカレンス) のみを表示します。このセグメント・タイプを “*currently formatted* (現行の定様式)” セグメント・タイプと呼びます。現行タイプのものではない選択済みのセグメント・オカレンスは、シャドー行で示されます。これらのセグメント・オカレンスを “抑制” セグメントと呼びます。現行タイプのものであっても、選択されていないセグメント・オカレンスは、ビューに表示されません。

現行タイプのセグメント・オカレンスが選択されるか選択されないかは、その値と、ビューで定義されたレイアウト識別基準およびフィールド選択基準との一致状況によって決まります。

現行の定様式セグメント・タイプの変更

現在選択されているセグメント内で、現行の定様式タイプだけが TABL 表示モードで表示されます。その他の選択済みセグメントはすべて、シャドー行で示されます。シャドー行は1つ以上のセグメントを表すことがあります。

行がシャドー行から現行の定様式セグメントになるように変更するには、そのセグメントに対応する「**Cmd**」行に **v** (VIEW) を入力します。新しい “現行の定様式” セグメントが、そのセグメント・レイアウトから取得したフィールド見出しとともに表示されるように変更されます。

突き合わせる SNGL 表示形式では、VIEW コマンドは必要ありません。これは、スクロールして表示されるセグメントと一致するように、現行レイアウトが自動的に変更されるためです。SHOW SUP OFF が有効になっていると、抑制セグメントはスキップされます。

CHAR/HEX/LEX モードでは、SHOW SUP OFF が使用された場合、セグメントが抑制されるだけです。SHOW SUP ON を使用すると、すべてのセグメントが表示されます。

シャドー行の表示

FM/IMS でシャドー行は、以下の2つのタイプのセグメントを表します。

・抑制セグメント

抑制セグメントのシャドー行には、1つのセグメント・タイプと1つのレイアウトに関する情報が保持され、このシャドー行は、そのタイプとレイアウトに一致するすべてのセグメントを表します。抑制セグメントに子がない場

合、シャドー行にはその行が置き換える抑制セグメントの数が表示されます。複数のレイアウトがセグメントに可能な場合には、その行にセグメント・レイアウト名も表示されます。抑制セグメントに子セグメントがある場合には、シャドー行はそのセグメントのキー・フィールドの先頭 30 バイトだけを表示し、複数の可能なレイアウトがあれば、セグメント・レイアウト名を表示します。

• 一致しないセグメント

一致しない行には、レイアウト識別基準と一致するデータを含むセグメントが表示されますが、セグメントとセグメント・レイアウトの長さは異なります。

コマンド行に SHOW SUP ON コマンドまたは SHOW SUP OFF コマンドを入力することにより、シャドー行を表示または非表示にすることができます。



注: 抑制セグメントだけが非表示になります。これらのレコードは引き続き選択されていて、データの印刷、コピー、または作成の機能にも組み込まれます。

[Cmd] フィールドの下のタグは、その行がシャドー行であった理由を示します。

=ID

これは、セグメントがどのレイアウト識別基準も満たしていなかったことを示します。

=LG

これは、セグメントは現行レイアウトと一致するが、セグメント長がこのレイアウトの有効範囲内でないことを示します。

レイアウト内のすべてのフィールドが固定長である場合には、“有効範囲”は単一の値、すなわち、レイアウト内のすべてのフィールドの長さの合計に制限されます。

しかし、レイアウトに可変長配列が組み込まれている場合には、その有効最小長はコピーブックにより許可された最小数の配列項目を持つセグメントの長さとなります。有効最大長は、コピーブックに配列項目の数の上限が指定されているかどうかによって異なります。

=DA

これは、セグメントは現行レイアウトと一致するが、以下のいずれかが当てはまることを示します。

- (COBOL コピーブックのみ)。ODO オブジェクト・フィールド値がその ODO 文節によって許可された範囲の外側にあります。
- レイアウトに 1 つまたは複数の可変長配列が含まれていますが、セグメント長は、配列サイズ (または“オブジェクト”) フィールドによって指定された数の配列項目を持つセグメントの計算上の長さとは一致しません。

可変長配列を含むレイアウトの使用上について詳しくは、[可変長配列のサポート ページ 98](#) を参照してください。

フィールド選択基準の指定

ビューでは、各レイアウトごとにフィールド選択基準を指定することができます。フィールド選択基準によって、FM/IMS がブラウザまたは編集時に表示するために、どのセグメント・オカレンスを選択するかが決まります。

フィールド選択基準は、「Extract (抽出)」（オプション 3.3）の使用時にどのセグメントを抽出するかを決定するために、抽出基準セットでも使用されます。抽出基準セットについて詳しくは、[基準の操作 ページ 190](#)を参照してください。

フィールド選択基準を指定するには、「View: Segment Layout (ビュー: セグメント・レイアウト)」パネルで以下のいずれかの操作を行います。

- フリー・フォーム REXX 式を「Sel」フィールドに入力します。「Right」機能キー (F11) または「Left」機能キー (F10) を使用して、フィールド内を右または左にスクロールできます。あるいは、「Expand」機能キー (F4) を使用してフィールドを拡張できます。
- 1 基本コマンドを入力して「Field Selection Criteria (フィールド選択基準)」パネルを表示し、このパネル上のフィールドを使用して基準ステートメントを作成します。「Exit」機能キー (F3) を押して、「Segment Layout (セグメント・レイアウト)」パネルに戻ります。



注: 配列エレメント (COBOL の OCCURS 文節を持つデータ・エレメント) のフィールド別の基準を入力することはできません。代わりに、配列エレメントの基準にフリー・フォームの式を使用する必要があります。

関連トピック

[「Segment Layout \(セグメント・レイアウト\)」パネル ページ 399](#)

[「Field Selection Criteria \(フィールド選択基準\)」パネル ページ 326](#)

[File Manager および REXX ページ 125](#)

選択およびフィールド選択基準の影響

以下の条件を満たすセグメントが選択され、表示されます。

- セグメント・タイプが「View: Segment Selection (ビュー: セグメント選択)」パネルまたは「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで選択されていること。
- セグメント内の該当する値がセグメント・タイプのレイアウトについて (「Template Segment Layout (テンプレートのセグメント・レイアウト)」パネルで設定された) レイアウト識別基準を満たしていること。このレイアウトは「突き合わせ」レイアウトと呼ばれます。レイアウトが 1 つだけである場合には、レイアウト識別基準はなく、セグメントはレイアウトと自動的に突き合わされます。
- 突き合わせレイアウトが「View: Segment Layout Selection (ビュー: セグメント・レイアウト選択)」パネルで表示のために選択されること。レイアウトが 1 つだけである場合には、そのセグメント・レイアウトが自動的に選択されます。
- セグメント内の該当する値が突き合わせレイアウトについて (「View: Segment Layout (ビュー: セグメント・レイアウト)」パネルで設定された) フィールド選択基準を満たしていること。これを簡単に言うと、セグメントが基準を満たしているということです。

- セグメントの親セグメントと子セグメントが、そのセグメントのフィールド選択基準に一致していること。

ビューに子セグメント・レイアウトのためのフィールド選択基準が含まれている場合には、少なくとも1つの子セグメントが基準を満たしている場合のみ親セグメントが選択されます。基準を満たす子セグメントがない場合や、親セグメントに子セグメントがない場合は、親セグメントは選択されません。

セグメントがこれらのテストのいずれかにパスしない場合には、選択されていないセグメントであり、表示されません。

セグメントがこれらすべてのテストにパスしても、FM/IMS がセグメントの長さが突き合わせレイアウトの長さとは一致しないことを検出した場合には、一致しないシャドー行として表示されます。

基準は上位のデータベース階層に影響します。データベース階層に次の3つのレベルがあるとします。すなわち、レベル1 (ルート・セグメント); レベル2 (レベル1の子); レベル3 (レベル2の子) です。

レベル3セグメントにフィールド選択基準が指定されている場合、レベル1セグメントが選択されるのは、そのセグメントにレベル2の子セグメントが少なくとも1つあり、その子セグメントにレベル3レイアウト内のフィールド選択基準を満たすレベル3の子が少なくとも1つ存在する場合だけです。各レベルで基準が設定される場合、レベル1セグメントが選択されるのは、次のすべての条件が真であるときのみです。

- レベル1セグメントは、レベル1レイアウトのフィールド選択基準を満たす。
- レベル1セグメントには、レベル2レイアウトのフィールド選択基準を満たすレベル2の子が少なくとも1つある。
- レベル2セグメントには、レベル3レイアウトのフィールド選択基準を満たすレベル3の子が少なくとも1つある。

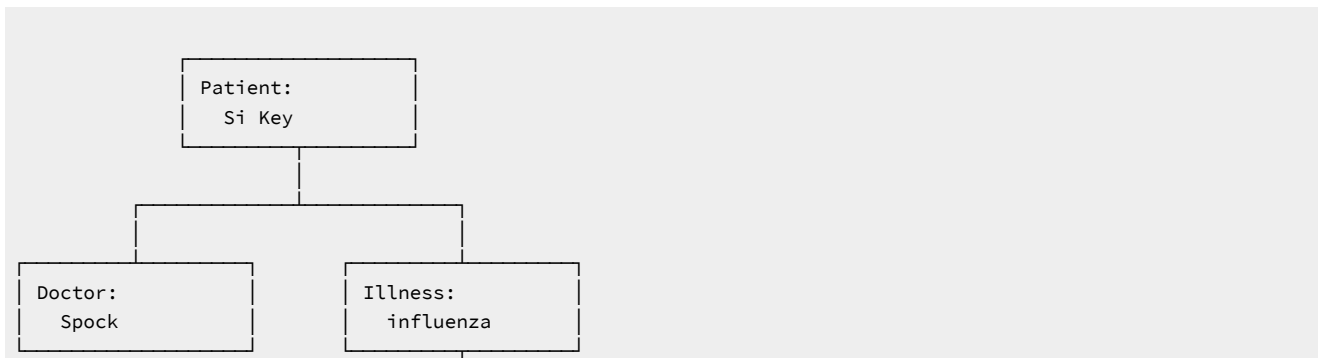
基準は下位のデータベース階層にも影響します。つまり、レベル1 (ルート) セグメントに2つの子セグメント・タイプがあり、一方の子タイプの選択基準を満たす子セグメントがない場合には、2番目のタイプの子セグメントも選択されません。

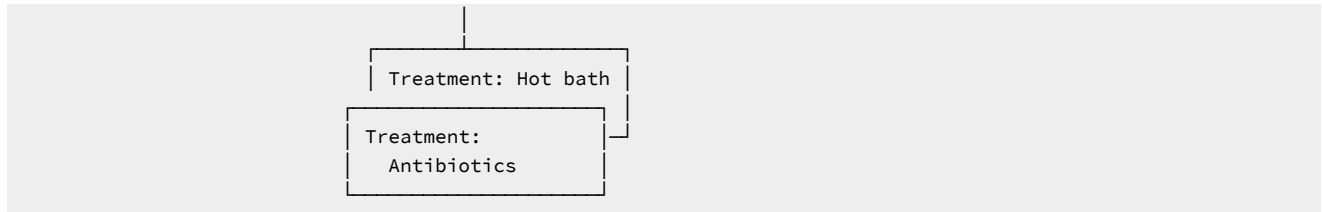
子セグメントに複数のレイアウトがある場合に、親セグメントが選択されないのは、すべての子セグメントのレイアウトがいずれも選択されない場合だけです。



注: セグメントがフィールド選択基準を満たすかどうかを判断する場合に、子セグメント・タイプを表示するように選択したかどうかは関係ありません。

以下は、選択基準の適用方法を示すいくつかの例です。





これらの例で、ルート・セグメントは Patient です。これには Doctor と Illness の 2 つの子セグメントがあり、Illness セグメントには、その子セグメントである Treatment の 2 つのオカレンスがあります。ここではいくつかの可能性があります。

• 例 1

以下のものを表示するために選択します。

- Doctor セグメント

以下のフィールド選択基準を指定します。

- Treatment セグメント: Treatment=Antibiotics

FM/IMS は以下を表示します。

- Doctor: Spock セグメント

• 例 2

以下のものを表示するために選択します。

- Patient セグメント

以下のフィールド選択基準を指定します。

- Doctor セグメント: Doctor=Spock
- Treatment セグメント: Treatment=Vitamin C

FM/IMS は以下を表示します。

- なし。 Doctor セグメントは、そのフィールド選択基準を満たしています。しかし、Treatment セグメントのフィールド選択基準を満たす Treatment セグメントはなく、このことは、Illness セグメントは選択されず、したがって、Patient セグメントも選択されないことを意味します。

• 例 3

以下のものを表示するために選択します。

- Patient セグメントと Illness セグメント

以下のフィールド選択基準を指定します。

- Doctor セグメント: Doctor=Spock
- Treatment セグメント: Treatment=Antibiotics

FM/IMS は以下を表示します。

- Patient: Si キー・セグメント
- Illness: influenza セグメント

File Manager および REXX

このセクションの情報の多くは、*z/OS TSO/E REXX Reference* および *z/OS TSO/E REXX User's Guide* から要約されたものです。

REXX についての一般情報

REXX は、PL/I に類似した汎用プログラム言語です。文字操作のための広範な構文解析関数、広範な算術関数、および、さまざまな処理、検索、および比較関数を実行する組み込み関数を備えています。

REXX プログラムは、通常、言語処理プログラム (インタープリター) によって実行されます。つまり、プログラムは、初めに別の形式に変換 (コンパイル) されることなく、ステートメント単位に実行されます。REXX のインタープリターの性質によって、FM/IMS は、セグメント識別およびフィールド選択基準を処理するときに、REXX の機能を活用することができます。

REXX は強力かつ多目的な言語ですが、REXX を使用した選択基準のコーディングは簡明です。REXX プログラムの記述方法を知っている必要はありません。知っている必要があるのは、REXX 比較式の書き方だけです。FM/IMS が、選択基準を REXX プログラムに変換してくれます。

REXX コンパイラーの使用

REXX コンパイラーがインストールされている場合は、次の DD ステートメントをバッチ・ジョブに組み込むか、DD を TSO/ISPF セッションに割り振ることによって REXX 処理のパフォーマンスを向上させることができます。

```
//FMNRXCMP dd DSN=rexx.compiler.lib,DISP=SHR
```

内部式処理を使用してのパフォーマンスの向上

単純な基準では、FM/IMS は REXX を呼び出す必要もなく、内部で式を処理できます。これにより、レイアウト識別およびフィールド選択基準の処理が高速化される可能性があります。式が内部処理に適格でない場合は、関連するパネルで Enter キーを押したときに、FM/IMS が“メッセージ REXX が必要”を表示します。この場合、REXX が不要になるように式を変更するか、あるいは内部処理ではなく REXX 処理で式を使用するかを選択できます。

内部処理に適格な式は、以下の項目のみで構成する必要があります。

- **リテラル・ストリング:** これには、通常の引用符で囲まれたストリングがバイナリー・ストリングおよび 16 進数ストリングとともに含まれています。
- **数値:** REXX とは異なり、内部式処理プログラムが文字タイプと数値タイプを識別します。内部処理で正しい数値が確実に使用されるようにするには、数値データを引用符なしストリングとして入力してください。

例えば、内部式処理プログラムはストリング `5` を数値として扱い、5 の値を持つ他の数値と等しいとします。ただし、ストリング `'5'` は文字データとして扱われ、`'X'F5'` を含むストリングと等しいとします (厳密でない比較では、前

後の空白は無視されます)。REXX は、両方の文字列を同じに扱い、これらを文字データとして処理しますが、適切なコンテキストでは数値としてこれらの文字列が扱われるようになります。

浮動小数点数値以外は 31 小数桁数に制限され、浮動小数点数値は倍精度浮動小数点数として保管できる数の範囲に制限されます。

- **比較演算子:** 内部処理プログラムはすべての REXX 比較演算子をサポートします。

内部処理プログラムは、両方のオペランドが数値であるか、または数値データを含むときには (数値フィールドの定様式参照、または数値形式設定タイプを指定する FLD 参照) 数値比較を実行し、両方のオペランドがビット・フィールドのときにはビット比較を実行し、それ以外の場合には文字比較を実行します。

両方のオペランドの値が同じ場合、そのデータの長さやタイプに関係なく、数値比較は一致します。ビット比較は、両方のビット・フィールドが同じときのみ一致します。フィールドが同じ長さでない場合には長いほうのフィールドの先行ゼロは無視されます。文字比較は、2 つの文字列が同一の場合のみ一致します。ただし、先行空白および末尾空白は、厳密でない演算子によって無視されます。内部処理プログラムは EBCDIC 標準照合シーケンスに従ってバイトごとに文字文字列を比較し、短いほうの文字列がその文字列長の終わりまで長いほうの文字列と一致すると、長いほうの文字列はより大きいと考えられます。

- **論理 AND (&) および OR (!) 演算子:** 内部処理プログラムが許可する他の 2 項演算子は論理 AND (&) および包含 OR (!) 演算子のみです。プラス (+) とマイナス (-) 演算子は、10 進数の前 (符号を示す)、および REXX 構文によって定義される浮動小数点数値の前と内部で使用することができます。
- **File Manager フィールド参照:** 内部処理プログラムは定様式参照と不定形式参照の両方をサポートします。
- 括弧

関連トピック

[REXX 式の概要 ページ 126](#)

[浮動小数点数の処理 ページ 129](#)

[比較演算子 ページ 130](#)

[記号 ページ 128](#)

REXX 式の概要

REXX 式は、1 個以上の項と、項の間に挟まれたゼロ個以上の演算子で構成されます。演算子は、項に作用する演算を表します。式は、左から右に評価され、通常の代数と同じ方法で、括弧および演算子優先順位によってその順番が変わります。括弧が見つかり (関数呼び出しを識別する括弧は除きます)、括弧の間にある副次式全体が、項が要求されたときに即時に評価されます。評価の過程でエラーが発生しない限り、式全体が評価されます。

REXX ステートメントはフリー・フォーマットです。つまり、ワード間に余分なスペースを挿入してもエラーになりません。

ここで、選択基準式で使用できる項について説明します。使用可能な演算子が、次のパネルに示されています。

リテラル・ストリング

リテラル・ストリングは、任意の文字を含む、一重引用符 (') または二重引用符 (") で区切られたシーケンスです。2 つの連続した二重引用符 ("") は、二重引用符で区切られたストリング内の " 文字を表します。2 つの連続した一重引用符 (' ') は、一重引用符で区切られたストリング内の ' 文字を表します。リテラル・ストリングは定数であり、処理されるときにその内容が変更されることはありません。

以下は、有効なストリングです。

```
'Fred'
"Don't Panic!"
'You shouldn't' /* Same as "You shouldn't" */
```

直後に (が続くストリングは、関数の名前と見なされます。(直後に記号 x または x が続くストリングは、16 進数ストリングとみなされます。直後に記号 b または b が続くストリングは、バイナリー・ストリングとみなされます。

16 進数ストリングは、エンコード方式の 16

進表記を使用して表現したリテラル・ストリングです。ペアでグループになっている

0 個以上の 16 進数字 (0-9、a-f、A-F) による任意のシーケンスです。16

進数字を偶数個にするために、必要に応じてストリングの前に 1

個の先行 0 が想定されます。数字のグループは、オプションで 1

つ以上の空白によって分離され、シーケンス全体は、一重引用符または二重引用符によって区切られ、直後に記号 X または x が続きます。(x や X は、これより長い記号に含めることはできません)。16

進数ストリングは、与えられた 16 進数字をパックして形成されるリテラル・ストリングです。16

進数字をパックすると、空白が除去され、16

進数字の各ペアが、対応する文字に変換されます。例えば、'C1'X A.

16 進数ストリングを使用すると、文字自体を直接入力できない場合でも、プログラムに文字を組み込むことができます。以下は、有効な 16 進数ストリングです。

```
'ABCD'x
"1d ec f8"X
"1 d8"x
```

バイナリー・ストリングは、そのエンコード方式の 2 進表記を使用して表現したリテラル・ストリングで

す。8 個 (バイト) または 4 個 (ニブル) がグループになった、ゼロ個以上の 2 進数字 (0 または 1) による任意のシーケンスです。最初のグループが、4 桁未満の場合があります。その場合には、最初の数字の左側に最大 3 個までの 0 を補い、合計 4 桁にします。数字のグループは、オプションで 1 つ以上の空白によって分離され、シーケンス全体は、突き合わせする一重引用符または二重引用符によって区切られ、直後に記号 b または B が続きます。

バイナリー・ストリングは、与えられた 2 進数字をパックすることによって作られるリテラル・ストリングです。2 進数字の数が 8 の倍数でない場合は、パックの前に先行ゼロが左側に追加され、8 の倍数にされます。

バイナリー・ストリングを使用すると、ビット単位で文字を明示的に指定できます。

以下は、有効なバイナリー・ストリングです。

```
'11110000'b      /* == 'f0'x          */
"101 1101"b      /* == '5d'x          */
'1'b             /* == '00000001'b and '01'x */
'10000 10101010'b /* == '0001 0000 1010 1010'b */
'b              /* == ''            */
```

記号

引用符のない文字ストリングで、英大文字に変換されます。# で始まる記号はすべて、処理対象のセグメント内のフィールドに対する参照として扱われ、そのフィールドの値が使用されます。これ以外の記号は、すべて定数として扱われます。

FM/IMS は、テンプレートで定義された各フィールドに固有のフィールド参照番号を割り当てます。選択基準式のフィールドを参照するときは、接頭部 #. を付けて、そのフィールドのフィールド参照番号に指定します。参照できるのは、現在処理中のセグメント内に定義されているフィールドだけです。別のセグメント・タイプに定義されているフィールドは参照できません。また、セグメント識別基準で参照できるフィールドは、セグメントの静的部分 (つまり、OCCURS DEPENDING ON 文節によって定義される 可変長配列よりも前の部分) に定義されているフィールドだけになります。

REXX 式の評価は、「型なし」の文字ストリングの形式でのみデータを処理します (型なしは、COBOL の場合のように、バイナリーやパック 10 進数のような特定のデータ・タイプではないためです)。したがって、数字フィールドを参照すると、FM/IMS はそのフィールドの値を、選択基準式の評価時に REXX が処理できる数値文字ストリングに変換します。文字ストリング内の整数および小数点以下の桁数は、テンプレートのフィールド定義によって決まります。例えば、COBOL あるいは PL/I の PICTURE 文節 999V99 のパック 10 進フィールドを参照すると、FM/IMS は、フィールドの値を文字ストリングに変換します。この文字ストリングは、数字、仮想小数点のピリオド、および値がマイナスの場合には、先行する符号文字で構成されます (例えば、-123.45)。数値フィールドは、COBOL あるいは PL/I の PICTURE 文節に符号シンボルが含まれているいにかかわらず、すべて符号付きとして扱われますので注意が必要です。

場合によっては、数値フィールドの値を、数字ストリングに変換することなく評価することがあります。そのためには、フィールド参照番号の接頭部を #u ではなく、#. にします。これは、この数字を数字ストリングに変換しないように FM/IMS に指示します。例えば、2 バイトの 2 進数値フィールド (フィールド参照番号は 45) が、X'FFFF' という特殊値かどうかを検査するときは、次のようにコーディングできます。

```
#u45 = 'FFFF'x
```

配列内のフィールドを参照するときは、必要な数の添字を括弧で囲み、コンマで区切って、フィールド参照を修飾する必要があります。指定する添字の数は、参照するフィールドを含む配列の次元数と同じにする必要があります。COBOL の条件では、フィールド自身の OCCURS 文節も含めて、フィールドを含む階層の OCCURS 文節ごとに添字が必要です。指定する添字は、1 から、OCCURS 文節に指定されているフィールドの出現の最大回数までの範囲にある正の整数にする必要があります。参照するフィールドが (OCCURS DEPENDING ON 文節を使って指定される) 可変長配列内にある場合は、どのセグメントについても、存在しない可能性があるオカレンスのフィールドを

参照しないようにする必要があります。存在しないフィールドを参照すると、選択基準は満たされず、そのセグメントは選択されません。



注: OCCURS DEPENDING ON 文節のオブジェクトは、配列と同じセグメントの静的部分 (つまり、セグメントの OCCURS DEPENDING ON 文節によって定義される可変長配列よりも前の部分) にフィールドとして定義しなければなりません。OCCURS DEPENDING ON 文節のオブジェクトがそのように定義されていない場合は、その配列内のすべてのフィールド、およびその配列以降のセグメント内のすべてのフィールドを参照できません。

関数呼び出し

REXX 組み込み関数の呼び出しです。

副次式

左括弧と右括弧で囲まれた式内の項です。

浮動小数点数の処理

内部式処理プログラムは、固有の 16 進浮動小数点形式の内部浮動小数点フィールド上で作動します。外部浮動小数点フィールドは、内部浮動小数点フィールドであるかのように、処理される前に倍精度内部フォーマットに変換されます。比較で 2 つのフィールドの精度が異なる場合は、高いほうの精度を持つフィールドが低いほうの精度に丸められ、低いほうの精度を使用して比較が行われます。内部浮動小数点フィールドは外部 (10 進数) 形式に変換されて、ストリングとして REXX に渡され、外部浮動小数点フィールドもストリングとして渡されるため、比較の評価結果は REXX と内部式処理プログラムの間で異なる可能性があります。

整合性を保証するために、浮動小数点フィールドを含む式をコーディングする場合には以下の点に注意してください。

- 浮動小数点フィールドを定数と比較する場合、FM/IMS が使用する外部表記に一致する定数を必ず使用します。例えば、単精度浮動小数点フィールドについては、入力時に `-2.2527494E+08` と `-2.2527495E+08` は両方とも `'C7D6D6C4'x` として保管されますが、FM/IMS は常にこのデータを `-2.2527494E+08` として表示します。内部式処理プログラムを使用した場合、どちらの値を使用しても値が一致しますが、REXX を使用した場合は、`-2.2527494E+08` のみが一致します。
- 外部形式の代わりに 16 進ストリングと不定形式フィールド参照を使用すると、内部浮動小数点値を正確に表すことができます。例えば、`#2 = -2.2527494E+08` の代わりに、`#U2 = x2c(C7D6D6C4)` を使用できます。この技法は、`x2c()` 関数が内部的に処理されないため、式が REXX を必要とする場合のみ、適用できます。
- REXX を使用して異なる精度を持つ浮動小数点フィールドを比較すると、期待された結果が得られない場合があります。これは、値は一致 (丸めの有無は無関係) しても精度が異なる浮動小数点数の外部表記は、一般的に同じではないためです。例えば、`'C7D6D6C4'x (-2.2527494E+08)` の外部表記は、フィールドの余分の精度によってより正確な外部表記が生成されるため、`'C7D6D6C4 00000000'x (-2.2527494400000000E+08)` の外部表記とは異なります。この状態 (内部値が完全に一致する状態) は、長いほうのフィールドの端を切り捨てることによって REXX で処理できます (#2 が短い浮動小数点を示し、#3 が長い浮動小数点を示すと想定します)。

```
#U2 = Substr(#U3,1,4)
```

内部処理プログラムと同じ結果を得るために丸め処理をシミュレートし、それゆえに異なる精度のフィールド間で等しいことをより一般的にテストするには、次のような特別な式が必要になります。

```
#U2 = d2c(c2d(Substr(#U3,1,4))+Substr(x2b(c2x(Substr(#U3,5,1))),1,1),4)
```

これは以下によって行われます。

- 長い浮動小数点を 4 バイトに切り捨て、それを 10 進数に変換する。
- 指数部の廃棄された半分の高位バイトを追加する。
- その結果を内部フォーマットに変換する。

この加算は、指数部がフィールドの右端のビットにあるので有効です。この加算によって繰り上がりが発生すると、必要に応じて仮数部が増分されます。この処理が行われない唯一のケースは、指数オーバーフローのケースです。

比較演算子

REXX 比較演算子は、2 つの項を比較して、結果が真なら値 1 を、それ以外なら 0 を戻します。比較演算子は、数字または文字ストリングを比較できます。最もよく使用される比較演算子は、次のとおりです。

演算子

意味

=

等しい

~=, \=

等しくない

<

より小

~<, \<

未満でない

>

より大

~>, \>

以下

<=

次以下

>=

次以上

><

より大きいかより小さい (等しくないと同等)

<>

より小さいかより大きい (等しくないと同じ)

not 文字 (~) は、円記号 (¥) と同じです。どちらの文字も同様に使用可能です。

これらの比較演算子を使用して項を比較するときには、式の項が両方とも数値であれば、REXX は数値比較を実行します。それ以外のときは、両方の項が文字ストリングとして扱われ、REXX は文字比較を実行します。(REXX 内の数字は、1 個以上の 10 進数字、オプションの小数点、およびオプションの先頭符号文字を含むストリングです。ストリングは、1 個以上の先行または末尾空白を含むことができ、符号文字は 1 個以上の空白によって数字と分離することができます。)

文字比較では、先行および末尾空白は無視され、短いほうのストリングの右側に空白が埋め込まれます。文字比較では、大/小文字が区別されます。したがって、小文字が大文字に変換されないようにするためには、文字ストリングを引用符で区切る必要があります。例えば、フィールド #4 に `MixedCase` という値が入っていると、次の比較演算はどちらも真になります。

```
#4 = 'MixedCase'
#4 = '   MixedCase   '
```

しかし、次の比較演算は真になりません。

```
#4 = MixedCase
```

数値比較では、2 つの数値を引き算して (差を計算して)、その結果と 0 を比較することによって比較を行います。例えば、次の比較演算は、

```
#6 = 10
```

次の演算と同じです。

```
(#6 - 10) = 0
```

これらの比較演算子の他にも、REXX は、主に文字ストリングの比較に使用される、多数の「厳密な」比較演算子を提供しています。厳密な比較演算子は、すべて `==` (厳密に等しい) のように、演算を定義する文字の 1 つが二重になっています。

厳密な比較演算子は、次のとおりです。

演算子

意味

`==`

厳密に等しい

`~=, \=`

厳密に等しくない

`<<`

厳密により小さい

`<<, \<<`

厳密により小さくない

>>

厳密により大きい

->>, \>>

厳密により大きくない

<<=

厳密により小さいか等しい

>>=

厳密により大きい等しい

`==` 比較演算子 (厳密に等しい) を使用するときは、厳密に等しくするためには、比較される 2 つの文字ストリングが (一文字一文字) 同一で、長さが同じでなければなりません。先行および末尾ブランクは、意味を持ちます。例えば、引き続き、`#4` という値が入ったフィールド `MixedCase` を例に取れば、次の比較演算のうち真になるのは、初めのほうだけです。

```
#4 == 'MixedCase'
#4 == '    MixedCase    '
```

同じように、`>>` や `<<` といった厳密な比較演算子も、比較対象のどちらのストリングにも埋め込みをせずに、単純な文字単位の比較を行います。2 つのストリングの比較は、左から右に行われます。一方のストリングが他方のストリングよりも短く、また他方のストリングの先行サブストリングになっていれば、そのストリングは、他方のストリングより小さいこととなります。厳密な比較演算子は、2 つの項の数値比較は実行しませんので、数値フィールドの比較には使用しないでください。

算術演算子

比較式における数値項は、算術演算子を使用して処理できます。

演算子

意味

+

加算

-

減算

*

乗算

/

除算

%

整数の除算 (除算し、結果の整数部分を戻します)

//

剰余 (除算し、剰余 -- 結果が負になる可能性があるためモジュロではない -- を戻します)

**

累乗 (数値の整数乗を計算します)

Prefix -

減算 `0 - number` と同じです

Prefix +

加算 と同じです `0 + number`

これらの演算子を使用して、他の項と比較可能な中間結果を得ることができます。例えば、フィールド #6 には、従業員の年間給与を示す数値が入っていて、フィールド #15 と #23 には、それぞれ、従業員の年間の出張旅費とボーナスを示す数値が入っている場合、次の比較を使用して、年間支払合計が \$100,000 を超える従業員のセグメントを選択できます。

```
(#6 + #15 + #23) > 100000
```

もう 1 つ例を挙げると、フィールド #45 には、従業員が取得できる年間の有給休暇の数が入っていて、フィールド #46 には、従業員が今年既に使った有給休暇の数が入っている場合、次の比較を使用して、有給休暇を 50% 以上使っている従業員のセグメントを選択できます。

```
(#46 / #45) >= .5
```

これらの例で、算術副次式が括弧に入っていることに注目してください。こうすると、副次式全体が、比較演算の前に確実に評価されます。

算術演算子の優先順位は、次のとおりです (高いほうから順番に示します)。

演算子**意味**

+ - \

接頭演算子

**

累乗

*/

乗算と除算

+-

加算と減算

例えば、* (乗算) は + (加算) よりも優先順位が高いため、`3+2*5` は、`13` として評価されます (左から右へ厳密に評価した場合の `25` にはなりません)。強制的に乗算より前に加算を行うために、式を `(3+2)*5` のように書き換えることができます。括弧を付加すると、最初の 3 つのトークンは副次式になります。

論理 (ブール) 演算子

REXX 比較式は、処理されると、真 (1) または偽 (0) の値を戻します。論理演算子は、2 つの比較を結合し、その結果に基づき、真 (1) または偽 (0) の値を戻します。

論理演算子は次のとおりです。

演算子

意味

&

AND

両方の比較が真であれば、1 を戻します。例:

```
(4 > 2) & (a = a)      /* true, so result is 1 */
(2 > 4) & (a = a)      /* false, so result is 0 */
```

|

包含 OR (包含論理和)

少なくとも 1 つの比較が真であれば、1 を戻します。例: `(4 > 2) | (5 = 3)` /* 少なくとも一方が真、結果は 1 */ `(2 > 4) | (5 = 3)` /* 両方とも真ではない、結果は 0 */

&&

排他 OR (排他論理和)

比較の 1 つだけ (両方ではない) が真であれば、1 を戻します。例:

```
(4 > 2) && (5 = 3)     /* only one is true, so result is 1 */
(4 > 2) && (5 = 5)     /* both are true, so result is 0 */
(2 > 4) && (5 = 3)     /* neither one is true, so result is 0 */
```

接頭部 ~\

論理 NOT

反対の応答を戻します。例:

```
\ 0:                  /* opposite of 0, so result is 1 */
\ (4 > 2)              /* opposite of true, so result is 0 */
```

論理式は、複雑な比較に使用し、望ましくない条件を停止する (除数として使用する前に、フィールドの値がゼロでないか調べる場合など) チェックポイントとして働かせることができます。一連の論理式がある場合は、明確化のために、1 つ以上の括弧を使用して各式を囲んでください。例:

```
(#46 = 999) | ((#45 > 0) & (#46 / #45) >= .5)
```

便利な関数

REXX は、文字操作および変換関数など、豊富な組み込み関数を提供しています。こうした関数には、比較式を記述するときに利用できるものがあります。これらについて、下のリストで説明します。FM/IMS も使用可能な関数を提供していま

す。それらの関数についても下のリストで説明します。関数を呼び出すには、関数名に続いて括弧の中に 1 つ以上の引数を指定します。関数名と左括弧の間には、スペースを置きません。例:

```
function(arguments)
```

関数呼び出しには、コンマで区切って、最大 20 個までの引数を指定できます。各引数は次のうちの 1 つ以上になります。

引数

例

空白

```
function()
```

Constant

```
function(55)
```

シンボル

```
function(#5)
```

リテラル・ストリング

```
function('With a literal string')
```

関数が認識するオプション

```
function(option)
```

関数の追加

```
function(function(arguments))
```

引数タイプの組み合わせ

```
function('Literal string', #5, option)
```

REXX が提供する組み込み関数のうち、有用と思われるものをいくつか紹介します。

ABS

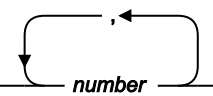
▶▶ ABS — (*number*) ◀◀

number の絶対値を戻します。例えば、フィールド #12 に、-10 から +10 までの値が入っているレコードを選択したいときには、次のように指定できます。

```
ABS(#12) <= 10
```

MAX

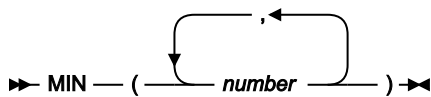
▶▶ MAX — (— *number* —) ◀◀



指定されたリストの中から最も大きい数値を戻します。例えば、フィールド #10, #11,、または #12 のいずれかに、55 より大きい値が入っているセグメントを選択する場合には、次のように指定できます。

```
MAX(#10, #11, #12) > 55
```

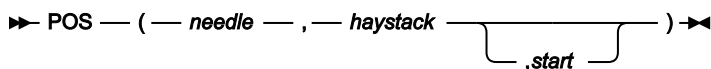
分



指定されたリストの中から最も小さい数値を戻します。例えば、フィールド #10、#11、または #12 のいずれかに 0 より小さい値が入っているセグメントを選択する場合には、次のように指定できます。

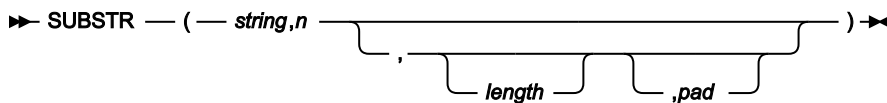
```
MIN(#10, #11, #12) < 0
```

POS



もう 1 つのストリング *haystack* 内にあるストリング *needle* の位置を戻します。 *needle* がヌル・ストリングの場合、 *haystack* がない場合、または *start* が *haystack* の長さより大きい場合には、 0 を戻します。デフォルトでは、 *haystack* の先頭文字から検索を始めます (つまり、 *start* の値が 1)。検索の開始位置 *start* (正の整数でなければなりません) を指定して、このデフォルトを変更することができます。例えば、フィールド #22 のいずれかの文字が空白であるセグメントを選択する場合には、次のように指定できます。 `POS(' ', #22) > 0`

SUBSTR



string の *n* 番目の文字から始まる、長さ *length* のサブストリングを、必要な場合には *pad* を埋め込んで、戻します。 *n* は正の整数です。 *n* が *string* の長さより大きい場合は、埋め込み文字だけを戻します。

length を指定しないと、ストリングの残り部分が戻されます。デフォルトの *pad* 文字は空白です。

例えば、フィールド #22 の文字 4-6 が、ストリング「NOT」であるセグメントを選択するときは、次のように指定できます。

```
SUBSTR(#22,4,3) = 'NOT'
```

REXX の例

REXX 比較式の例は次の通りです。

例 1

取引日付 (フィールド #14) が 2000 年 7 月か、取引額 (フィールド #27) が \$100,000.00 より大きいセグメントを選択します。

```
(#14 >= 20000701 & #14 < 20000801) | #27 > 100000.00
```

例 2

貸方伝票の数 (フィールド #62) が、請求書の数 (フィールド #61) の 10% より大きいセグメントを選択します。

```
#62 > #61/10
```

例 3

従業員の ID (フィールド #17) が A、C、または E で始まるセグメントを選択します。

```
CO(SUBSTR(#17,1,1), 'A', 'C', 'E')
```

例 4

供給業者番号 (フィールド #23) が、997644 か 997645 で、項目説明 (フィールド #33) に「CABINET」というワードが含まれているセグメントを選択します。

```
NCO(#23,997644,997645) & CO(#33,'CABINET')
```

例 5

セグメントの 17 バイト目から始まる 4 バイトのパック 10 進数フィールドに、負の値が入っているセグメントを選択します。

```
FLD(17,4,P) < 0
```

例 6

取引額 (フィールド #27) が \$50,000.00 より大きく、注文書番号 (フィールド #25) が「TX」以外の文字で始まるレコード、または取引額が \$70,000 より大きく、供給業者番号 (フィールド #23) が 984545 であるセグメントを選択しますが、両方の条件が真であるセグメントは除外します。

```
(#27 > 50000.00 & SUBSTR(#25,1,2) != 'TX') &&  
(#27 > 70000.00 & #23 = 984545)
```

第 6 章. データの編集

FM/IMS を使用して、IMS データベース内のセグメント・データを検索および変更できます。また、セグメント・オカレンスを挿入、コピー、削除、および変更することもできます。

この章で説明されている主なタスクは、以下の通りです。

[データベースへの変更内容のコミット ページ 138](#)

[データの変更 ページ 141](#)

[ストリングの検索と変更 ページ 143](#)

データベースへの変更内容のコミット

データベースの編集では、変更内容は、データのコミットと呼ばれるプロセスでデータベースのデータ・セット・ファイルに書き込まれるまで、IMS バッファに保持されます。

「Edit (編集)」ダイアログで「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルに初めて入ると、FM/IMS からチェックポイントが発行され、セグメント・データの現在の状態にマーク付けが行われます。データがコミットされるたびに (SAVE または EXIT コマンドを使用したとき、または FM/IMS によって自動的にデータが保管される時)、新規チェックポイントが発行されます。データをコミットするまでは随時、変更内容を元に戻したり取り消したりすることによって、最後のチェックポイントの位置に戻すことができます。DLI モードでの作業中、「Dynamic Backout (動的バックアウト)」オプションが選択されているときには、FM/IMS は異常終了時に最後のチェックポイントの位置へ戻ります。BMP モードでの作業中は、このロールバックは自動的に行われます。

データがデータベースへコミットされるポイントは、AUTOSAVE オプションの設定によって異なります。

- AUTOSAVE を OFF に設定すると、変更内容は作業中に IMS バッファに保管されますが、SAVE コマンドを実行するまで、または「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを終了するまで、データベースへコミットされません。変更内容がデータベースへコミットされるまでは、複数のセグメント・オカレンスを一度に変更したり、複数のセグメント・タイプのオカレンスを変更したりすることができます。
- AUTOSAVE を ON に設定すると、カウンターに記録される変更回数が、「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」パネル (オプション 0.6.4) または「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」パネル (オプション 0.7.2) の「Edit Checkpoint Frequency (EDIT チェックポイント頻度)」フィールドまたは「Change All Checkpoint Frequency (CHANGE ALL チェックポイント頻度)」フィールドに指定した値に達したときに、変更内容が自動的にデータベースへコミットされます。



注: DLI モードでの作業中に、I/O PCB のない静的 PSB を使用すると、AUTOSAVE が使用不可になり、SAVE、UNDO、および CANCEL コマンドが非アクティブになります。「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを終了するときのみ、変更内容をデータベースへコミットすること、または取り消すことができます。変更内容を保管するには、そのパネルで「Exit」機能キー (F3) を押します。また、変更内容を破棄するには、「Cancel」機能キー (F12) を押します。

本節で説明されている作業は、以下のとおりです。

- [チェックポイント頻度の設定 ページ 139](#)
- [AUTOSAVE の使用 ページ 141](#)
- [変更の取り消し ページ 141](#)

同時編集とデータ・ロック

マルチユーザー環境でのレコードの表示または編集時には、複数のユーザーが同一データベースを同時に使用している可能性が常にあります。FM/IMS のブラウズおよび編集機能は、制御がユーザーに戻されるたびに、同時ユーザー・アクセスを可能にするためにデータ・ロックを解除するように設計されています。これは、DLI アクセス・モードと BMP アクセス・モードの両方に当てはまります。

FM/IMS では、ユーザーの対話中に現行データベース・レコードでロックを保持しないので、読み取りと編集の操作中に変更中のデータが他のユーザーによって更新されないようにするために、他のメカニズムを使用しています。そのメカニズムとは、以下のとおりです。

- エディターでのデータの表示時に、FM/IMS がデータのコピーをメモリー内に作成します。
- 一部の詳細を上書きしたり Enter キーを押すなど、データへの変更を要求すると、FM/IMS は、要求された変更の別のコピーを作成してから、健全性検査を実行します。このチェックでは、FM/IMS は以下を行います。
 - データベースに再度保管されるときにセグメントを読み取ります。
 - このセグメントをメモリー内のオリジナル・コピー（つまり、変更を加える前）と比較します。
 - 2つのセグメントのバージョンが同じ場合は、要求された変更は IMS バッファーに保管され、データベース・レコードで更新ロックが発行されます。

同じではない場合は、最初にデータを読み取ったときから、そのデータを変更しようとしたときの間に、他の誰かがセグメントを変更したことになり、FM/IMS は警告を発行して、要求された変更を保管しません。

- 変更がデータベースにコミットされて、ロックが解除される時点まで、更新ロックはデータベース・レコードでオンのままになります。ロック時間を最小限に抑えて、他のユーザーが最新の更新済みデータベース・レコードを使用できるようにするには、「Edit Checkpoint Frequency (EDIT チェックポイント頻度)」を 1 にして AUTOSAVE オプションを使用します。これは、健全性検査に合格すると即時にすべての更新をコミットして、変更を入力するとすぐにロックを効果的に解除するように FM/IMS に指示します。

チェックポイント頻度の設定

FM/IMS では、以下の 3 タイプのチェックポイント頻度カウンターが使用されます。

Edit Checkpoint Frequency (EDIT チェックポイント頻度)

AUTOSAVE がオンの場合、アクション・キー（例えば、Enter、F8 や F7 などのスクロール・キーなど）を押し、データの変更が要求されるたびに、FM/IMS はカウントを 1 ずつ増やします。カウンターの値が、「**Edit Checkpoint Frequency (EDIT チェックポイント頻度)**」フィールドに指定された数値と等しくなると、FM/IMS はデータをコミットし、チェックポイントを発行して、カウンターをリセットします。

Change All Checkpoint Frequency (CHANGE ALL チェックポイント頻度)

CHANGE ALL コマンドは 1 つのアクションで多数のセグメントに影響を及ぼす可能性があるため、変更されるセグメント数は、別のカウンターに記録されます。AUTOSAVE がオンの場合、CHANGE ALL 操作時にセグメントが更新されるたびに、FM/IMS はカウントを 1 ずつ増やし、データをコミットして、**「Change All Checkpoint Frequency (CHANGE ALL チェックポイント頻度)」** フィールドに指定された数値とカウントが同じになったときに、チェックポイントを発行し、カウンターをリセットします。CHANGE ALL 操作中のどこかの時点でチェックポイントが発行された場合、操作の終わりに最終チェックポイントが発行されるため、変更の中間点までロールバックすることはできません。

Batch Checkpoint Frequency (バッチ・チェックポイント頻度)

この値は、File Manager/IMS バッチ更新ジョブ実行中のチェックポイントの頻度を決定するために使用します。バッチ更新ジョブがセグメントを更新、削除、または挿入するたびに、FM/IMS は カウントを 1 ずつ増やし、**「Batch Checkpoint Frequency (BATCH チェックポイント頻度)」** フィールドに指定された数値とカウントが同じになったときにチェックポイントを発行します。

チェックポイント頻度を設定するには、以下のようにします。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」から、オプション **「0 Settings (0 設定)」** を選択してから、オプション **「6 Subsystem (6 サブシステム)」** を選択します。「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」が表示されます。このパネルで、DLI モード設定を変更する場合はオプション **「4 DLI mode Options (4 DLI モード・オプション)」** を選択し、BMP モード設定を変更する場合はオプション **「6 BMP mode Options (6 BMP モード・オプション)」** を選択します。次に、**「Subsystem name (サブシステム名)」** フィールドに、オプションを設定するサブシステムの ID を入力します。次に、Enter キーを押します。「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」パネル、または「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」パネルが表示されます。
2. **「Checkpoint Frequency: Edit (チェックポイント頻度: EDIT)」** フィールドに 1 から 99 までの範囲の値を入力します。実稼働環境では、チェックポイント頻度を 1 に設定するのが一般的です。

この値は DLI モードで使用されます。この値は、ご使用のシステムで IMS サブシステムの自動保管設定値を変更できる場合に BMP モードでも使用されます。
3. **「Checkpoint Frequency: CHANGE all (チェックポイント頻度: CHANGE ALL)」** フィールドに 1 から 9,999 までの範囲の値を入力します。

この値は DLI モードで使用されます。この値は、ご使用のシステムで IMS サブシステムの自動保管設定値を変更できる場合に BMP モードでも使用されます。
4. **「Checkpoint Frequency: Batch (チェックポイント頻度: バッチ)」** フィールドに 1 から 99,999 までの範囲の値を入力します。
5. 「Exit」機能キー (F3) を押して、変更を保管し、「Subsystems Settings (サブシステム設定)」メニューに戻ります。

AUTOSAVE の使用

AUTOSAVE をオンにするには、「IMS Data (IMS データ)」パネルまたは「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルのコマンド行に `AUTOSAVE ON` コマンドを入力します。このコマンドをオンに設定すると、チェックポイントが書き込まれるたびに、FM/IMS によってパネルの右上隅に次のようなメッセージが表示されます。

```
CHKPT FM000005 written
```

AUTOSAVE をオフにするには、コマンド行に `AUTOSAVE OFF` コマンドを入力します。

変更の取り消し

データがデータベースへコミットされた最後の時点まで、編集の変更を取り消して元に戻すことができます。これは、以下のうちの最新のものになります。

- 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを最後に終了したとき
- SAVE コマンドを最後に実行したとき
- チェックポイントが最後に発行されたとき

変更内容を元に戻すには、「IMS Data (IMS データ)」パネルのコマンド行に `UNDO` コマンドを入力します。

また、`CANCEL` 基本コマンドを使用して「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを終了することで、変更内容を破棄することもできます。その時点で、コミットされていないデータ変更を破棄するかどうかの確認を求められません。



注: 「IMS Data (IMS データ)」パネルから `CANCEL` コマンドを使用すると、処理されていない変更内容のみが破棄されます。データ変更は、Enter キーを押すか、コマンドを出すか、またはコマンドを出す機能キー (例えば、F10 キーは `LEFT` コマンドを出す) を使用すると処理されます。「IMS Data (IMS データ)」パネルから `CANCEL` を使用しても、処理された変更内容は破棄されません。これらの変更内容を破棄するには、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルから `CANCEL` を使用する必要があります。

関連トピック

[CANCEL 基本コマンド ページ 469](#)

[UNDO 基本コマンド ページ 539](#)

データの変更

データの編集時には、旧データを新しいテキストで上書きすることによって、個々のセグメントのデータを変更できます。この方法は、特定のセグメントに対して随時の変更を行う必要がある場合に役立ちます。

本節で説明されている作業は、以下のとおりです。

- [個々のセグメント内のデータの変更 ページ 142](#)
- [可変長セグメントのサイズ・フィールドの編集 ページ 142](#)

個々のセグメント内のデータの変更

編集内容を変更できる機能は、DBD に指定されているデータベースの挿入および削除の論理規則によって制御されます。静的 PSB を使用すると、セグメントへのアクセス機能およびセグメントの変更機能も制限されることがあります。

一般的な規則として、キー・フィールドのデータは変更できません。インストール時のデフォルト・カラーを変更していない場合は、キー・フィールドが白い文字のテキストで表示され、編集可能フィールドは緑色のテキストで表示されます。

個々のセグメントのデータを変更するには、次のようにします。

1. 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルから **X** 接頭部コマンドを使用して、「IMS Data (IMS データ)」パネルに表示するセグメントのタイプを選択します。
2. 現行の定様式セグメント・タイプにするセグメント・タイプの「Cmd」フィールドに **S** と入力し、Enter キーを押します。
3. 「IMS Data (IMS データ)」パネルで、変更するセグメントをスクロールして表示し、テキストの編集を開始する位置にカーソルを移動します。

これは、マウスまたは矢印キーを使用するか、LOCATE コマンドまたは FIND コマンドを使用して行うことができます。

4. 既存のテキストを変更内容で上書きするか、文字を挿入または削除します。
5. Enter キーを押します。変更内容がデータベースの規則に違反する場合は、この時点でメッセージが表示されるので、データベースの規則に適合するまで変更内容を修正する必要があります。
6. 変更するセグメントごとにステップ 3 から 5 を繰り返します。
7. 変更をコミットする準備ができたなら、SAVE 基本コマンドを入力します。

変更した内容は、「IMS Data (IMS データ)」パネルまたは「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで SAVE コマンドが出されるまで、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを EXIT するまで、あるいは次の自動チェックポイントが出されるまで (AUTOSAVE がオンになっている場合)、データベースにコミットされません。



注: キーボードの中には、Enter の機能が右側の Ctrl キーに割り当てられているものもあります (これらのキーボードの Enter キーは Return キーとして機能します)。

File Manager/IMS の編集セッションで入力を行う場合、デフォルトのキーボード動作は、既存のテキストの上書きになります。Insert キーを押すことにより、この動作をテキストの挿入に変更できます。文字は Delete キーまたは Backspace キーを使用して削除できます。CHAR、HEX、または LHEX 表示形式で挿入または削除を使用する場合は、挿入された文字により、その右側に続く文字が「押されて」、フィールドの開始桁に収まりきらなくなるため、注意が必要です。これは、ビューで作業する場合には問題とはなりません、ビューがフィールドの形式設定に使用されていない場合は、これが原因でデータが壊れる可能性があります。

可変長セグメントのサイズ・フィールドの編集

可変長セグメントは、2 バイトの 2 進数値の “size field (サイズ・フィールド)” で始まります。SNGL または TABL 表示形式では、サイズ・フィールドの値を変更し、新規の値がそのセグメントについて許可された最小長と最大長の範囲内にある場

合には、FM/IMS はセグメント長をその新規の値と一致するように変更します。しかし、新規の値が許可された最小セグメント長 (順次フィールド (ある場合) の長さにサイズ・フィールドそれ自体の 2 バイトを加えた長さ) より短いか、あるいは許可された最大セグメント長 (DBD に定義されています) より長い場合には、FM/IMS はエラーを表示し、セグメント長を変更することなく、サイズ・フィールドをその直前の値に復元します。

ストリングの検索と変更

FIND 基本コマンドを使用して、データベースの中の選択したセグメント内でストリングを検索できます。CHANGE コマンドを使用して、ストリングを複数のセグメントで検索し、それを別のストリングへ置き換えることができます。FIND コマンドは「IMS Data (IMS データ)」パネルで、CHANGE コマンドは編集の場合に「IMS Data (IMS データ)」パネルで使用できます。

必要であれば、自動スクロールが行われて、そのストリングがビューに入れられ、カーソルがストリングまたはフィールドの先頭に置かれます。使用可能なオペランドと FIND コマンドおよび CHANGE コマンドの操作は、ビューが使用中かどうか、およびビューが使用されている場合は、SHOW SUP ON (グループ行で公開されるデータ) または SHOW SUP OFF (単一行でグループ化されるセグメント) の現行設定によって異なります。

これらの変更の影響は、コマンド・パラメーターを使用するか、または制限する方式を適用することにより、制限できません (FIND または CHANGE での検索の制限 ページ 147 を参照してください)。

本節で説明されている作業は、以下のとおりです。

- [検索されるセグメントのシーケンス ページ 143](#)
- [ストリングの検索 ページ 144](#)
- [無効データの検出 ページ 144](#)
- [FIND での長いストリングの処理 ページ 145](#)
- [ストリングの変更 ページ 146](#)
- [CHANGE での長いストリングの処理 ページ 146](#)
- [FIND または CHANGE での検索の制限 ページ 147](#)

検索されるセグメントのシーケンス

FIND または CHANGE 基本コマンドで NEXT、FIRST、または ALL パラメーターを指定した場合、FM/IMS は最初のセグメントから最後のセグメントに向かって検索範囲内で順方向に検索します。FIND および CHANGE 基本コマンドは、順方向でデータベースから最新のデータを読み取ります。

FIND または CHANGE 基本コマンドで PREV パラメーターを指定した場合、FM/IMS は最後のセグメントから最初のセグメントに向かって検索範囲内で逆方向に検索します。



注: PREV パラメーターを指定した場合、検索範囲はスライディング・ウィンドウの先頭のセグメントとカーソル位置にあるセグメントの間に制限されます。その理由は、IMS は逆方向の読み取りはサポートしていないためです。そのため、FM/IMS は、ナビゲーション・アクションの結果としてスライディング・ウィンドウに保管されているセグメントの位置を調べることによって、逆方向検索を真似ています。その結果、FIND または CHANGE 基本コマ



ンドを逆方向で使用すると、FM/IMS は、古くなって実際のデータベースとは異なるようなセグメント情報を使用することがあります。

関連トピック

[CHANGE 基本コマンド \(編集のみ\) ページ 473](#)

[FIND 基本コマンド ページ 489](#)

ストリングの検索

データから特定のストリングを検索するには、FIND 基本コマンド (F または / に短縮できる) を使用します。

例えば、大文字と小文字の任意の混合ストリング“James”の次の出現箇所を検索するには、コマンド行に次のように入力します。

```
F JAMES
```

カーソルを次に現れる検索ストリングに移動するには、「RFind」機能キー (F5) を押します。

直前の FIND 基本コマンドでの指定と同じストリングを検索するには、検索ストリングとしてアスタリスク (*) を指定します。

データ内の接頭部として現れる個所のみにもストリングの検索を限定するには、PREFIX パラメーターを指定します。

データ内の接尾部として現れる箇所のみにもストリングの検索を限定するには、SUFFIX パラメーターを指定します。

データ内の「ワード」として現れる個所のみにもストリングの検索を限定するには、WORD パラメーターを指定します。

関連トピック

[FIND 基本コマンド ページ 489](#)

[RFIND 基本コマンド ページ 525](#)

無効データの検出

データのエラーを検出するために (エラーを訂正せずに)、FE (エラー検出) 基本コマンドを入力することができます。カーソルは、エラーのあるストリングの先頭に位置付けられます。必要に応じて、自動スクロールが行われ、そのストリングがビュー内に表示されます。

エラーのフラグが立てられた数値フィールド (フィールド表示ではすべてアスタリスク) を検出し、特定の数値に変更するには、CE 基本コマンドを使用します。

関連トピック

[データ内の無効数値フィールドの変更 ページ 145](#)

[FE \(エラー検出\) 基本コマンド ページ 487](#)

データ内の無効数値フィールドの変更

データにある無効な数値フィールド (フィールド表示内の全アスタリスク) を特定の数値に変更するには CE (Change Error) 基本コマンドを使用します。

CE コマンドの検索引数はエラーのある数値フィールドであると想定されています。

エラーの数値フィールドが検出されると、このフィールドは CE コマンドで指定されたストリングに変更されます。指定されたストリングは、もちろん有効な数値でなければなりません。

エラーの次のフィールドを (同じ値に) 変更するには、CE コマンドを再び入力するか、「RFind」機能キー (F5) を押します。

(変更は実行せず) エラーが存在するというフラグの立った数値フィールドの検索のみを行うには、FE 基本コマンドを使用します。

関連トピック

[CE \(エラー検出\) 基本コマンド ページ 471](#)

[FE \(エラー検出\) 基本コマンド ページ 487](#)

[\[IMS data \(IMS データ\)\] パネル ページ 334](#)

FIND での長いストリングの処理

文字カラム (CHAR、VARCHAR) の場合には、検索ストリングを 100 文字の長さまで指定することができます。ただし、長い検索ストリングを扱うとき、FIND コマンド全体 (他のパラメーターも含む) をコマンド行に収めることができない場合があります。この問題を解決するには、以下のいずれかを実行して「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネルを表示します。

- **FX** (Find Extended の略) を入力します。
- FIND コマンド (または「F」や「/」などの省略形) をパラメーターなしで入力します。

「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネルには 5 つの行 (各 50 文字) があり、そこにすべての FIND コマンド・パラメーターを入力できます (ただし、実際のキーワード FIND やその省略形は入力しません)。FM/IMS は、このポップアップ・パネル上の 5 行を連続したものとして扱います。これにより、長い検索ストリング、他の任意のパラメーター (オプション) を、合計で 250 字まで指定できます。



注: 検索ストリング (または他の任意のパラメーター) は、ポップアップ・パネルの行の末尾から次の行の先頭に続けることができます。ただし、1 行を完全に埋めてから次の行を使用しなければならないというわけではありませ



ん。例えば、1 行目で検索ストリングを指定し、次の行で FM/IMS フィールド番号 (#*n*として指定) を指定することができます。行の未使用部分に関して、FM/IMS はそれをシングル・スペースとして扱います。

ストリングの変更

データを編集しているときには、CHANGE 基本コマンドを入力することにより、複数のセグメントのデータを変更できません。

例えば、ストリング「JAMES?」の次のオカレンスを「JIMMY?」に変更するには、コマンド行に次のように入力します。

```
C JAMES JIMMY
```

検索ストリングの次のオカレンスを変更するには、RChange コマンドを入力します。

「JAMES?」のすべてのオカレンスを「JIMMY?」へ変更するには、コマンド行に次のように入力します。

```
C ALL JAMES JIMMY
```

前の CHANGE 基本コマンドで指定したものと同一ストリングを検索するには、検索ストリングにアスタリスク (*) を指定します。

前の CHANGE 基本コマンドで指定したものと同一置き換えストリングを使用するには、置き換えストリングにアスタリスク (*) を指定します。

データ内の接頭部として現れる個所だけにストリングの検索を限定するには、PREFIX パラメーターを指定します。

データ内の接尾部として現れる箇所だけにストリングの検索を限定するには、SUFFIX パラメーターを指定します。

データ内の「ワード」として現れる個所だけにストリングの検索を限定するには、WORD パラメーターを指定します。

関連トピック

[CHANGE 基本コマンド \(編集のみ\) ページ 473](#)

[RCHANGE 基本コマンド ページ 520](#)

CHANGE での長いストリングの処理

文字カラム (CHAR、VARCHAR) の場合には、100 文字までの長さの“元”ストリングと“宛先”ストリング (*from_string* および *to_string*) を指定できます。ただし、長いストリングを扱うときには、コマンド行に CHANGE コマンド全体 (他のパラメーターを含む) が収まらないことがあります。この問題を解決するには、以下のいずれかを実行して「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネルを表示します。

- `cx` (Change Extended の略) を入力する。
- CHANGE 基本コマンド (または「C」などの省略形) をパラメーターなしで入力します。



注: 現在のブラウザ・セッションまたは編集セッションで以前に CHANGE コマンドまたは FIND コマンドを使用したことがある場合、RESET コマンドを使用してから、CHANGE コマンドを入力します。あるいは、`cx` と入力してください。

「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネルには 5 つの行 (各 50 文字) があり、そこにすべての CHANGE コマンド・パラメーターを入力できます (ただし、実際のキーワード CHANGE やその省略形は入力しません)。FM/IMS は、このポップアップ・パネル上の 5 行を連続したものとして扱います。これにより、長い *“from”* および *“to”* ストリング、FM/IMS 列番号、他の任意のパラメーター (オプション) を、合計で 250 字まで指定できます。



注: ストリング (または他の任意のパラメーター) は、ポップアップ・パネルの行の末尾から次の行の先頭に続けることができます。ただし、1 行を完全に埋めてから次の行を使用しなければならないというわけではありません。例えば、1 行目で *“From (検索)”* ストリングを指定し、次の行で *“To (置換)”* ストリングを指定し、さらに次の行で FM/IMS 列番号 (*#n* として指定) を指定することができます。行の未使用部分に関して、FM/IMS はそれをシングル・スペースとして扱います。

図 123 : CHANGE コマンドの「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネル ページ 481

は、CHANGE コマンドの「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネルを示しています。この例では、FM/IMS にあるストリング *“The Cappuccino Strip”* が、非除外行についてのみストリング *“LONG AND WINDING ROAD”* に変更されます。

関連トピック

[CHILD 基本コマンド ページ 482](#)

FIND または CHANGE での検索の制限

FIND または CHANGE 基本コマンドを使用すると、検索がセグメント・タイプ全体に適用されることがあります。これらの両方のコマンドには、コマンドの影響を制限できるパラメーターがあります。

検索範囲の制限

FIND または CHANGE 基本コマンドを出す場合、*range* パラメーターを指定するか、または *scope* 設定方法のいずれかによって、検索範囲を制限することができます。

次のテーブルは、それぞれの範囲パラメーターごとの検索範囲を示しています。

FIND または CHANGE の範囲パラメーター	検索範囲
RECCURREC	現行ルート・レコード内で使用可能な全セグメント

FIND または CHANGE の範囲パラメーター	検索範囲
NORECDBALLALLREC	データベース内で使用可能な全セグメント
CHILDDEP	カーソル位置にあるセグメントまたはカーソル位置にもっとも近いセグメントに從属するすべてのセグメント
使用されていません	有効範囲の設定が“DB”の場合、データベース内で使用可能な全セグメント。 有効範囲の設定が“REC”の場合、現行ルート・レコード内で使用可能な全セグメント。

有効範囲の設定を変更するには、次の 2 とおりの方法があります。

- 次の SCOPE 基本コマンドを使用します。
 - 検索をデータベース・レコード内に制限するには、コマンド `SCOPE REC` を出します。
 - すべてのデータベース・レコードにまたがる検索を許可するには、コマンド `SCOPE DB` を出します。
- 「Editor Options (エディター・オプション)」パネル (0.5) で、**「Set SCOPE REC, limiting segments to within a database record (SCOPE REC に設定、データベース・レコード内にセグメントを制限)」** オプションを使用します。
 - 検索をデータベース・レコード内に制限するには、このオプションを選択します。
 - すべてのデータベース・レコードにまたがる検索を許可するには、このオプションを選択解除します。

関連トピック

[CHANGE 基本コマンド \(編集のみ\) ページ 473](#)

[FIND 基本コマンド ページ 489](#)

指定桁への検索の制限

デフォルトでは、SNGL または TABL 表示形式で、フィールド参照を指定せずに CHANGE または FIND コマンドを入力する場合、FM/IMS は、表示されるすべてのフィールドを各フィールドのテンプレート属性に基づいて検索します。

基本コマンドを入力するときに検索する桁の最初と最後を示す桁番号の対を入力することによって、この検索方式を指定変更することができます。



注: 桁の範囲を指定すると、このセグメント・タイプのすべてのフィールドが、あたかも文字フィールドであるかのように検索されます。数値フィールドの場合、これによって予期せぬ結果が引き起こされる場合があります。

検索ストリングが指定された桁内に完全に含まれていると、その検索ストリングが検出されることとなります。

次のコマンドは、1 から 20 桁内で、ストリング “Exact” を含む次のセグメントを検索します。

```
FIND 'Exact' 1 20
```

関連トピック

[CHANGE 基本コマンド \(編集のみ\) ページ 473](#)

[FIND 基本コマンド ページ 489](#)

指定フィールドへの検索の制限

SNGL 表示形式または TABL 表示形式の場合は、オプションで、基本コマンドの影響を、指定されたフィールド、フィールドのリスト、または 1 つ以上のフィールド範囲に限定できます。(その他の表示形式では、フィールド参照を指定することはできません。)

次のコマンドは、フィールド参照 #8 および #9 を持つフィールドのいずれかに、数値 123 を含む次のセグメントを検索します。

```
FIND 123 #8,#9
```

フィールドが多次元の配列 (テーブル) の一部である場合は、その配列フィールドは同じフィールド参照番号を持ちますが、添え字を使用した次元によって区別されます。例えば、次のフィールド参照 (TABL 表示形式で表示される) があるとすると、

```
(1,1)  (1,2)  (1,3)  (2,1)  (2,2)  (3,2)
#9     #9     #9     #9     #9     #9
```

次のようにフィールド参照を使用できます。

```
F bike #9(1,2)
F bike (#8 #9(2,1))
```

配列内のすべての項目を検索するには、次のように指定します。

```
F bike #9
```

関連トピック

[FIND 基本コマンド ページ 489](#)

フィールドの範囲の指定

範囲の最初と最後のフィールド参照を、ハイフンで区切って (間にスペースを入れるか入れないかで) 明示することによって、フィールドの範囲を指定します。桁を小括弧で囲むこともできます。

有効なフィールドの範囲を以下に示します。

```
#17-#19
#17 - #19
(#17-#19)
(#17 - #19)
```

複数のフィールドの範囲を指定するには、次のようにします。

- 各フィールド範囲を括弧で囲む (コンマで区切ることもできる) か、または
- 間にスペースを入れずに、各フィールド範囲をコンマで区切ります。

有効なフィールドの範囲を以下に示します。

```
(#8-#11) (#17-#19) (#24-#25)
(#8-#11), (#17-#19), (#24-#25)
#8-#11, #17-#19, #24-#25
```

以下のフィールドの範囲は無効です。

```
#8-#11 #17-#19 #24-#25
#8-#11, #17-#19, #24-#25
```



注:

1. フィールド範囲を使用する場合、フィールド参照番号を添字にすることはできません。例えば、`#3(2) - #5(4)` は無効な構文です。
2. フィールド範囲は重ねることができます。例えば、`#2-#7, #5-#9` です。この場合、結果は `#2-#9` と等しい単一のフィールド範囲に統合されます。

レコード内のセグメントの変更

FM/IMS を使用すると、新規セグメントを挿入すること、セグメントを削除すること、および既存のセグメントをコピーした後でそれらのセグメント内の値を変更することができます。

本節で説明されている作業は、以下のとおりです。

- [セグメントの挿入 ページ 150](#)
- [セグメントの繰り返し ページ 152](#)
- [セグメントの削除 ページ 153](#)

セグメントの挿入

セグメントは、基本コマンドまたは接頭部コマンドを使用して挿入できます。基本コマンド (INSERT) を使用すると、データベース階層内のセグメントを挿入することを選択できます。接頭部コマンド (I) を使用する場合、表示されているタイプと同じタイプのセグメントのみを挿入できます。



注: SNGL 形式で表示している場合は、INSERT 基本コマンドのみを使用できます。

INSERT 基本コマンドを使用して新規セグメントを挿入するには、次のようにします。

1. 「IMS Data (IMS データ)」パネルで、コマンド行に INSERT 基本コマンドを入力します。「Segment Selection (セグメント選択)」パネルが表示されます。
2. 挿入するセグメント・タイプの「Cmd」フィールドに「S」を入力します。「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルが表示されます。

ルート・セグメントを選択した場合は、「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルにルート・セグメントの初期化済みフィールドが表示されます。

子セグメントを選択した場合は、「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルの一番上のセクションに、ルート・セグメントのキー値の詳細、および階層内のルートと選択した子セグメント・タイプの間にある各親セグメントのキー値の詳細が表示されます。また、パネルの一番下のセクションには、子セグメントの初期化済みフィールドが表示されます。使用されるルート・セグメントは、コマンドの入力時にデータベース・ウィンドウの一番上に表示されていたセグメントのルートです。

新規セグメントのフィールドは、次のように初期化されます。

- 表示形式が CHAR、HEX、または LHEX である場合は、セグメント全体が空白に初期化されます。
 - 表示形式が SNGL または TABL である場合は、セグメントが現行レイアウトのフィールド作成属性に従って初期化されます。作成属性が指定されていない場合は、以下のようになります。
 - 数値フィールドはゼロに初期化されます。
 - 英数字フィールドは空白に初期化されます。
 - セグメント・タイプに変長配列が含まれている場合は、セグメントが配列エレメントの最小数を使用して初期化され、配列サイズ・フィールド (多次元配列の場合は、複数の配列サイズ・フィールド) がそれに応じて初期化されます。
3. 必要に応じて、ルートと親の「Key Value (キー値)」フィールドの値を調整して、子セグメントを別の親またはルートに割り当てることができます。
 4. Tab または Return キーを使用して、新規セグメントの最初の使用可能フィールドに移動します。
 5. フィールドに必要なデータを入力し、Enter キーを押します。親の「Key Value (キー値)」フィールドで行った変更または新規セグメントに入力したデータがデータベースの規則に違反する場合は、この時点でメッセージが表示されるので、入力内容を修正する必要があります。
 6. 「Exit」機能キー (F3) を押して、セグメントを挿入し、「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻ります。

新規ルート・セグメントを挿入するには、**I** 接頭部コマンドを使用して、次のようにします。

1. CHAR、HEX、LHEX、または TABL 表示形式では、ルート・セグメントの接頭部域にカーソルを移動します。**I** 接頭部コマンドを入力し、Enter キーを押します。

「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルが表示され、新規セグメントのフィールドが初期化されます。

2. Tab または Return キーを使用して、最初の使用可能フィールドに移動します。
3. 必要なデータを入力します。
4. 「Exit」機能キー (F3) を押して、セグメントを挿入し、「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻ります。

新規子セグメントを挿入するには、**I** 接頭部コマンドを使用して、次のようにします。

1. 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで、表示する子セグメント・タイプが選択されていることを確認します。

親セグメント・タイプを選択する必要はありませんが、これを選択すると、必要な親の子セグメントを識別するのが容易になります。

2. 「IMS Data (IMS データ)」パネルで、必要な親の子セグメントを見つけます。必要な親に子セグメントがまだない場合は、挿入するものと同じタイプの子セグメントを見つけます。

3. CHAR、HEX、LHEX、または TABL 表示形式では、既存の子セグメントのいずれかの接頭部にカーソルを移動します。⌘ 接頭部コマンドを入力し、Enter キーを押します。

「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルが表示され、選択した子の親セグメント (ルート・セグメントまで) と新規の子セグメントが表示されます。子セグメントのフィールドが初期化されます。

4. 必要に応じて、親セグメントのキー値を、新規の子セグメントの必要な親のキー値に変更します。
5. Tab または Return キーを使用して、子セグメントの最初の使用可能フィールドに移動します。
6. 必要なデータを入力します。
7. 「Exit」機能キー (F3) を押して、セグメントを挿入し、「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻ります。



注:

1. 新規セグメントが、そのセグメント・タイプの適切なキー順でソートされます。新規セグメントのキーのために、そのセグメントがソートされると、データベースの開始位置より前にきてしまう場合は、終了して「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルまで戻り、そのセグメントのデータベース階層の開始キー値を変更しなければならない可能性があります。
2. 挿入されたセグメントは、「IMS Data (IMS データ)」パネルまたは「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで SAVE コマンドが出されるまで、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを EXIT するまで、あるいは次の自動チェックポイントが出されるまで (AUTOSAVE がオンになっている場合)、データベースにコミットされません。

関連トピック

[I \(挿入 - 編集のみ\) ページ 547](#)

[「Insert Segment \(セグメントの挿入\)」パネル ページ 349](#)

セグメントの繰り返し

セグメントを繰り返すことによって、セグメントのコピーを作成できます。繰り返しにより、セグメントを迅速に複写でき、固有のデータを容易に変更できます。

セグメントを繰り返すには、次のようにします。

1. 繰り返すセグメントの接頭部領域へカーソルを移動します。
2. ⌘ 接頭部コマンドを入力し、Enter キーを押します。
3. 「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルが表示され、選択したセグメントのコピーが表示されます。
4. 固有でないレコードを受け入れるようにセグメントが設定されていない場合は、少なくとも、新規セグメントの「Key Value (キー値)」フィールドを変更する必要があります。
5. 必要なデータを入力します。
6. 「Exit」機能キー (F3) を押して、セグメントを挿入し、「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻ります。

単一のセグメントを繰り返すのと同様に、親セグメントとそのすべての子のコピーを作成することによって、セグメント階層全体を繰り返すことができます。

セグメントとそのすべての子セグメントを繰り返すには、次のようにします。

1. 繰り返す親セグメントの接頭部域へカーソルを移動します。
2. RA 接頭部コマンドを入力し、Enter キーを押します。
3. 「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルが表示され、選択した親セグメントのコピーが表示されます。
4. 固有でないレコードを受け入れるようにセグメントが設定されていない場合は、少なくとも、新規セグメントの「Key Value (キー値)」フィールドを変更する必要があります。
5. 必要なデータを入力します。
6. 「Exit」機能キー (F3) を押して、セグメントを挿入し、「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻ります。
7. 新規親セグメントを見つけます (新規セグメントを見つけるのが困難な場合は、下記の『注』を参照してください)。新規の親セグメントに、元の親セグメントのすべての子のコピーが作成されます。それぞれの子は、「Key value (キー値)」フィールドによって新規の親にリンクされています。
8. 必要に応じて、子セグメントの値を変更します。



注:

1. 新規セグメントが、そのセグメント・タイプの適切なキー順でソートされます。このセグメントのキーのために、そのセグメントがソートされると、データベースの開始位置より前にきてしまう場合は、終了して「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルに戻り、そのセグメントのデータベース階層のキー値を変更しなければならない可能性があります。
2. 挿入されたセグメントは、「IMS Data (IMS データ)」パネルまたは「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで SAVE コマンドが出されるまで、あるいは「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを EXIT するまで、あるいは次の自動チェックポイントが出されるまで (AUTOSAVE がオンになっている場合)、データベースにコミットされません。

関連トピック

[R \(繰り返し - 編集のみ\) ページ 548](#)

[RA \(すべて繰り返し - 編集のみ\) ページ 548](#)

[「Insert Segment \(セグメントの挿入\)」パネル ページ 349](#)

セグメントの削除

どの表示形式の場合でも、DELETE 基本コマンドを使用することによりセグメントを削除できます。セグメントを削除すると、同時にそのすべての子セグメントが削除されます。

DELETE 基本コマンドを使用してセグメントを削除するには、次のようにします。

1. CHAR、HEX、LHEX、または TABL 表示形式では、削除するセグメントがデータ域の一番上にくるまで、スクロールします。SNGL 形式では、削除するセグメントが画面に表示されるまで、スクロールします。
2. コマンド行に DELETE 基本コマンドを入力します。

CHAR、HEX、LHEX、または TABL 表示形式では、D 接頭部コマンドを使用してセグメント (およびその従属子セグメント) を削除することもできます。

接頭部コマンドを使用してセグメントを削除するには、次のようにします。

1. 削除する最初のセグメントの接頭部領域へカーソルを移動し、D 基本コマンドを入力します。
2. データベースから除去するセグメントごとにこの操作を繰り返します。
3. Enter キーを押します。セグメントと従属子セグメントがデータ・セットから削除されます。



1. ルートまたは親セグメントを削除するときには、現在表示または選択されていなくても、すべての従属子セグメントが削除されるので注意が必要です。
2. CHAR、HEX、LHEX、または TABL 表示形式では、データ域の一番上にある削除するセグメントを表示するようにスクロールするには、複数回のキー・ストロークが必要になる場合があるので、接頭部コマンドを使用する方が速いことがよくあります。
3. 削除は、「Edit : Database (編集 : データベース)」パネルまたは「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで SAVE コマンドが発行されるまで、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを EXIT するまで、あるいは次の自動チェックポイントが発行されるまで (AUTOSAVE がオンになっている場合)、データベースにコミットされません。

関連トピック

[D \(削除 - 編集のみ\) ページ 547](#)

[RA \(すべて繰り返し - 編集のみ\) ページ 548](#)

バッチでのデータベースの編集

「Batch Edit (バッチ編集)」ダイアログ (「Utility (ユーティリティ)」メニューのオプション 6) によって、バッチ編集ジョブの JCL が生成されます。バッチ編集ジョブは、ユーザーが作成した REXX プロシージャを実行します。これによって、組み込み関数が呼び出され、ユーザーは IMS データベースの読み取りおよび更新を行うことができるようになります。

バッチ編集ジョブ用の JCL を生成するには、以下のようになります。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」からオプション「3 Utilities (3 ユーティリティー)」を選択し、「Utility Menu (ユーティリティー・メニュー)」からオプション「6 Batch Edit (6 バッチ編集)」を選択します。「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネルが表示されます。
2. 「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネルのフィールドの多くが、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルにもあることに注意してください。両方のパネルに共通するフィールドに入力するには、バッチ編集に使用する領域タイプおよび PSB タイプに応じて、以下の手順のいずれかに従います。
 - 静的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 49 のステップ 2 から 9。
 - 動的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 51 のステップ 2 から 8。
 - 静的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 53 のステップ 2 から 10。
 - 動的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 56 のステップ 2 から 9。
3. 「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合に、バッチ編集でビューを使用する前にそれを編集する場合は、「Edit view (ビューの編集)」フィールドに「/」を入力します。
4. バッチ編集が実行する REXX プロシージャに TPLDD パラメーターが設定された VIEWIMS 呼び出しを組み込む場合、「Include template DD (テンプレート DD の組み込み)」フィールドに s を入力します。このオプションを選択すると、生成された JCL に、指定したサブシステムのテンプレート・データ・セットを指定する TDDIN DD ステートメントが組み込まれます。
5. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの 1 つまたは複数が、リストされている順に表示される場合があります。
 - 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されません。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
 - 「PSB Selection (PSB 選択)」パネル
 - PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力して「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Static (静的)」を選択した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの PSB ライブラリー内の PSB のリストを表示します。

サブシステムに固定の PSB ライブラリーがない場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの PSB ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の PSB ライブラリーがある場合、サブシステムの PSB ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

 - 「PCB Selection (PCB 選択)」パネル
 - 「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択し、以下のいずれかが当てはまる場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。
 - 指定された PSB に PCB のリストを表示します。
 - 「Database Selection (データベース選択)」パネル

- ・ データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力して「PSB type (PSB タイプ)」で「Dynamic (動的)」を選択した場合に表示されます。
 - ・ 指定されたサブシステムの DBD ライブラリー内の DBD のリストを表示します。
- サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合は、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの DBD ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、サブシステムの DBD ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。
- 「AGN Selection (AGN 選択)」パネル
 - ・ 以下のすべてが該当する場合に表示されます。
 - ・ 「Region type (領域タイプ)」で「BMP」を選択している。
 - ・ 指定したサブシステムは AGN を使用しており、その一部は FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている。
 - ・ AGN 名を入力しなかったか、または AGN 名パターンを入力した。
 - ・ FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされているサブシステムの AGN を表示します。
 - 「View Data Set Selection (ビュー・データ・セット選択)」パネル
 - ・ 「View data set name (ビュー・データ・セット名)」パターンを入力し、「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択している場合に表示されます。
 - ・ 指定した「View data set name (ビュー・データ・セット名)」パターンと一致する名前を持つデータ・セットのリストを表示します。
 - 「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」パネル
 - ・ 指定したビュー・データ・セットが区分データ・セットのときに、ビュー・メンバー名を入力しなかった場合、またはビュー・メンバー名パターンを入力して「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合に表示されます。
 - ・ ビュー・データ・セットのメンバーのリストを表示します。

表示されている各選択パネルで、選択する項目の横の「Cmd」フィールドに s を入力し、Enter キーを押します。

6. 「Region type (領域タイプ)」で「DLI」を選択し、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションを選択しなかった場合、「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルまたは「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルのいずれかが表示されます。

- 「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルは、HALDB であるデータベース、または動的割り振りのみとして定義されているサブシステムが、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルまたは「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルで選択されている場合に表示されます。このパネルには、編集またはブラウズで使用されるデータベース・データ・セットの名前が表示されます。リストされているデータベース・データ・セットが、関数が使用するデータベース・データ・セットであることを確認します。これらのデータ・セットの使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、Enter キーを押します。
- 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルは、HALDB ではないデータベース、および動的割り振りのみとして定義されていないサブシステムが、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルまたは「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルで選択されている場合に表示されます。「Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元)」オプションで「User profile (ユーザー・プロ

ファイル)] を選択した場合、ユーザー・プロファイルに保管されているデータ・セット名が表示されます。[Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)] オプションで [DFSMDA members (DFSMDA メンバー)] を選択した場合、サブシステムの DFSMDA 動的振り割りメンバーで指定したデータ・セット名が表示されます。

[Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)] パネルは、[Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)] オプションが選択されなかった場合に表示されます。また、[Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)] オプションが選択され、以下のいずれかの条件が該当する場合にも表示されます。

- ・ FM/IMS が、ユーザー・プロファイルまたは DFSMDA メンバーから、必須のデータ・セット名すべてを取得することに失敗した。
- ・ 1 つまたは複数のデータベース・データ・セットが存在しない、またはデータ・セット編成が無効。

表示されたデータ・セット名が、関数を使用するデータ・セット名でない場合、またはデータ・セット名が表示されていない場合は、関数を使用するデータ・セット名を入力し、Enter キーを押します。表示されたデータ・セット名の使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、もう一度 Enter キーを押します。

7. [Batch Edit Options (バッチ編集オプション)] パネルで、実行する REXX プロシージャをインストリームで自分で作成するか、前に作成したデータ・セット (またはメンバー) から実行するかを指定します。

REXX プロシージャをインストリームで作成するには、次のようにします。

- [Instream (インストリーム)] フィールドを選択します。実行される REXX を指定するように、生成された JCL を編集してください。

既存のデータ・セット (またはメンバー) から REXX を実行するには、次のようにします。

- [REXX Procedure (REXX プロシージャ)] フィールドに、実行される REXX を含むデータ・セット (必ず、PDS) およびメンバーを指定します。
- [Instream (インストリーム)] フィールドが指定されていないことを確認します。
- REXX を保守するには、[Edit REXX (REXX の編集)] フィールドを選択します。これにより、REXX プロシージャを保守するための ISPF 編集セッションに入ります。

8. Enter キーを押します。FM/IMS は、ダイアログに指定したデータを使用して、バッチ編集ジョブ用の JCL を生成します。ジョブを実行依頼する前に、この JCL を編集できます。



注: 最小領域サイズは 2M です。

IEB REXX プロシージャ (バッチ編集)

バッチ編集によって実行される REXX プロシージャは、IEB 関数を呼び出し、ビューを使用して、または使用せずに、データベースを処理します。

ビューを使用すると、FM/IMS による IMS データベースのナビゲーションを限定的に制御します。ビューで選択基準を指定することによって、FM/IMS は、指定された選択基準に一致する IMS セグメントのみを戻します。

ビューを使用する場合に利用可能な IEB 呼び出しは、以下のものです。

DELIMS

現行 IMS セグメントを削除します。

GETIMS

指定されたビューを使用して IMS セグメントを取り出します。

ISRTIMS

現行 IMS セグメントの下にセグメントを挿入します。

PRINT

CHAR、HEX、SNGL、または TABL 形式で IMS セグメントを印刷します。

REPLIMS

現行の IMS セグメント・データを置き換えます。

SETRC

IEB ジョブ・ステップの戻りコードを設定します。

VIEWIMS

REXX プロシージャが IMS セグメントの取り出しに使用するビューを作成およびロードします。

VIEWPOSN

GETIMS 呼び出しを起動する前に、IMS セグメント上に位置づけます。これにより、IMS データベース内のあるポイントから、そのデータベースの処理を開始できます。

ビューを使用しない場合、GETIMS 呼び出しを使用して IMS データベースをナビゲートできます。この方式は、プログラム内での IMS 呼び出しの発行と同様です。以下を行うことができます。

- セグメントのキー値に基づいてセグメントを取り出します。
- セグメントの子を取り出します。
- セグメントの親、またはそのルート・セグメント上に位置づけます。
- WHERE 文節によって指定された基準を使用し、IMS セグメントを挿入または更新します。

ビューを使用しない場合に利用可能な IEB 呼び出しは、以下のものです。

DELIMS

現行 IMS セグメント、または WHERE 文節で指定された IMS セグメントを削除します。

GETIMS

IMS セグメントを取り出します。

ISRTIMS

現行 IMS セグメントの下、または WHERE 文節で指定された IMS セグメントの下にセグメントを挿入します。

PRINT

CHAR、HEX、SNGL、または TABL 形式で IMS セグメントを印刷します。

REPLIMS

現行 IMS セグメント、または WHERE 文節で指定された IMS セグメントを置き換えます。

SAVEIMS

IMS データを保管します。この呼び出しを発行すると、IMS データベース内の位置が設定解除されます。データベース内の位置の再設定には、GETIMS 呼び出しが必要です。

SETRC

IEB ジョブ・ステップの戻りコードを設定します。

VIEWIMS**REXX**

プロシージャが使用するビューを作成およびロードします。ビューを使用してデータベースを処理しない場合、FM/IMS は、ビューの IMS セグメント・レイアウトおよびフィールドを使用して以下を行います。

- SNGL または TABL 形式で印刷します。
- IMS セグメントの検索時に WHERE 文節でビューからのフィールドを指定する場合に、IMS SSA を生成します。

関連トピック

[\[Utility Menu \(ユーティリティー・メニュー\)\] パネル ページ 457](#)

[\[Print Entry \(印刷項目の入力\)\] パネル ページ 379](#)

[\[System Settings \(システム設定\)\] パネル ページ 437](#)

[\[PCB Selection \(PCB 選択\)\] パネル ページ 370](#)

[\[Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)\] パネル ページ 254](#)

第7章. データの管理

FM/IMS を使用して、空の IMS データベースを定義および初期化し、データベースからすべてのセグメントまたは選択したセグメントを抽出し、抽出したデータをデータベースへロードできます。

この章で説明されている主なタスクは、以下の通りです。

[IMS データベースの定義と初期化 ページ 160](#)

[データの抽出 ページ 166](#)

[データのロード ページ 183](#)

IMS データベースの定義と初期化

IMS データベースにアクセスするアプリケーションを開発するときには、データ・セットを空にして、もう一度データの入力を始めたい場合があります。FM/IMS は、以下のことを行うメカニズムを提供します。

- IMS データベースに関連付けられたデータ・セットを削除および再定義する。
- 編集またはロードのプロセスで使用できるようにデータベースを初期化する。
- 未初期化 IMS データベースヘデータをロードする ([未初期化データベースへのロード ページ 186](#)を参照)。

本節で説明されている作業は、以下のとおりです。

[データ・セットの削除と再定義 ページ 160](#)

[空のデータベースの初期化 ページ 162](#)

データ・セットの削除と再定義

「Delete/Define (削除/定義)」ダイアログを使用して、IMS データベースおよび論理的に関連するデータベースに関連付けられたデータ・セットを削除し、再定義するバッチ・ジョブを作成できます。データ・セットを削除して再定義すると、データベースが効率的に空になるので、新しいデータを再入力できます。この時点から、データベースを初期化して手動で新規セグメントを追加したり、未初期化データベースヘデータをロードしたりすることができます。

以下のタイプの IMS データベースに関連付けられたデータ・セットを削除/定義できます。

- HDAM - 階層直接アクセス方式
- HIDAM - 階層索引直接アクセス方式
- HISAM - 階層索引順次アクセス方式
- SHISAM - 単純階層索引順次アクセス方式
- HSAM - 階層順次アクセス方式 (BSAM あるいは QSAM のみ)
- SHSAM - 単純階層順次アクセス方式 (BSAM あるいは QSAM)
- DEDB - データ入力データベース (ファースト・パス)
- PHDAM - 区画に分割された階層直接アクセス方式 (HALDB)
- PHIDAM - 区画に分割された階層索引直接アクセス方式 (HALDB)

ご使用のデータベース・データ・セットを削除して再定義するジョブの JCL を生成するには、以下の手順を実行します。

1. IMS サブシステム内で IMS データベースが停止していることを確認します。



注: データベースが IMS サブシステムで使用されている間は、データ・セットを削除したり再定義したりすることはできません。

2. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」から「**3 Utilities (ユーティリティー)**」オプションを選択して、次に「Utility Menu (ユーティリティー・メニュー)」から「**1 Delete/Define (削除/定義)**」オプションを選択します。「Delete/Define Entry (削除/定義項目の入力)」パネルが表示されます。
3. 「**Subsystem name (サブシステム名)**」フィールドに、削除/定義を行うデータ・セットのデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID を入力します。必要なサブシステムをリストから選択する場合は、サブシステム名パターンを入力するか、フィールドを空白のままにします。
4. 「**Database name (データベース名)**」フィールドに、削除および再定義を行うデータ・セットのデータベースの名前を入力します。DBD のリストからデータベースを選択する場合は、データベース名パターンを入力するか、フィールドを空白のままにします。指定したデータベースが論理的に他のデータベースに関連する場合、削除/定義により、論理的に関連するデータベースのデータ・セットも削除され、再定義されます。
5. HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみのサブシステムではない IMS サブシステムを選択した場合、「**Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)**」フィールドで以下を実行します。
 - 関数で、ユーザー・プロファイルに名前が保管されているデータベース・データ・セットを削除して再定義する場合は、「1」を入力します。
 - 関数で、DFSMDA 動的割り振りメンバーに指定されたデータベース・データ・セットを削除して再定義する場合は、「2」を入力します。
6. 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」または「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルの表示をスキップしたい場合は、「**Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)**」フィールドに「/」と入力します。
7. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの 1 つまたは複数、リストされている順に表示される場合があります。
 - 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル。
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されません。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
 - 「Database Selection (データベース選択)」パネル。
 - データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合に表示されません。
 - 指定されたサブシステムの DBD ライブラリー内の DBD のリストを表示します。

サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合は、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル(オプション 0.6.7)でサブシステムの DBD ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、サブシステムの DBD ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

表示されている各選択パネルで、選択する項目の横の「**Cmd**」フィールドに **s** を入力し、Enter キーを押します。

8. **「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションを選択しなかった場合、**「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」** パネルまたは **「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」** パネルのいずれかが表示されます。

- **「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」** パネルは、HALDB であるデータベースまたは 動的割り振りのみとして定義されているサブシステムが **「Delete/Define Entry (削除/定義項目の入力)」** パネルで選択された場合に表示されます。このパネルには、削除/定義によって削除され、再定義されるデータベース・データ・セットの名前が表示されます。リストされているデータベース・データ・セットが、関数が使用するデータベース・データ・セットであることを確認します。これらのデータベース・セットの使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、Enter キーを押します。
- **「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」** パネルは、HALDB ではないデータベースおよび 動的割り振りのみとして定義されていないサブシステムが **「Delete/Define Entry (削除/定義項目の入力)」** パネルで選択された場合に表示されます。 **「Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元)」** オプションで **「User profile (ユーザー・プロファイル)」** を選択した場合、ユーザー・プロファイルに保管されているデータベース・セット名が表示されます。 **「Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)」** オプションで **「DFSMDA members (DFSMDA メンバー)」** を選択した場合、サブシステムの DFSMDA 動的振り割りメンバーで指定したデータベース・セット名が表示されます。

「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」 パネルは、 **「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションが選択されなかった場合に表示されます。また、 **「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションが選択され、以下のいずれかの条件が該当する場合にも表示されます。

- FM/IMS が、ユーザー・プロファイルまたは DFSMDA メンバーから、必須のデータベース・セット名すべてを取得することに失敗した。
- 1 つまたは複数のデータベース・データ・セットが存在しない、またはデータベース・セット編成が無効。

表示されたデータベース・セット名が、関数が使用するデータベース・セット名でない場合、またはデータベース・セット名が表示されていない場合は、関数が使用するデータベース・セット名を入力し、Enter キーを押します。表示されたデータベース・セット名の使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、もう一度 Enter キーを押します。

9. Enter キーを押します。FM/IMS は、ダイアログで指定されたデータベースを使用して、削除/定義ジョブの JCL を生成します。ジョブを実行依頼する前に、この JCL を編集できます。

関連トピック

[「Delete/Define Entry \(項目の削除/定義\)」](#) パネル ページ 271

[「Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)」](#) パネル ページ 254

[「Utility Menu \(ユーティリティー・メニュー\)」](#) パネル ページ 457

空のデータベースの初期化

「Initialize (初期化)」 ダイアログを使用して、ご使用の IMS データベースを初期化するバッチ・ジョブを作成できます。

以下のタイプの IMS データベースを初期化できます。

- HDAM - 階層直接アクセス方式
- HIDAM - 階層索引直接アクセス方式
- HISAM - 階層索引順次アクセス方式
- SHISAM - 単純階層索引順次アクセス方式
- DEDB - データ入力データベース (ファースト・パス)
- PHDAM - 区画に分割された階層直接アクセス方式 (HALDB)
- PHIDAM - 区画に分割された階層索引直接アクセス方式 (HALDB)

IMS データベースを初期化するジョブの JCL を生成するには、以下の手順を実行します。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」から「**3 Utilities (ユーティリティ)**」オプションを選択して、次に「Utility Menu (ユーティリティ・メニュー)」から「**2 Initialize (初期化)**」オプションを選択します。
「Initialize Entry (項目の初期化)」パネルが表示されます。
2. 「**Subsystem name (サブシステム名)**」フィールドに、初期化するデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID を入力します。必要なサブシステムをリストから選択する場合は、サブシステム名パターンを入力するか、フィールドをブランクのままにします。
3. 「**Database name (データベース名)**」フィールドに、初期化するデータベースの名前を入力します。DBD のリストからデータベースを選択する場合は、データベース名パターンを入力するか、フィールドをブランクのままにします。指定したデータベースが論理的に他のデータベースに関連する場合、初期化により、論理的に関連するデータベースのデータ・セットも初期化されます。
4. 生成された JCL に、イメージ・コピー・ジョブを生成する GENJCL.IC コマンドを使用するジョブ・ステップを組み込むには、以下の手順を実行します。
 - 「**Submit image copy (イメージ・コピーの実行依頼)**」フィールドに「/」と入力します。
 - 「**Image copy skeleton (イメージ・コピー・スケルトン)**」フィールドに、初期化に使用するイメージ・コピー・スケルトンを含んでいる区分データ・セットの名前を入力します。

生成されたイメージ・コピー・ジョブは、内部読み取りプログラムに実行依頼されます。

5. HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみのサブシステムではない IMS サブシステムを選択した場合、「**Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)**」フィールドで以下を実行します。
 - 関数で、ユーザー・プロファイルに名前が保管されているデータベース・データ・セットを初期化する場合は、「1」を入力します。
 - 関数で、DFSMDA 動的割り振りメンバーに指定されたデータベース・データ・セットを初期化する場合は、「2」を入力します。
6. 生成された JCL に、データベース・データ・セットを削除して再定義するジョブ・ステップを組み込むには、「**Delete/Define DB data sets (DB データ・セットの削除/再定義)**」フィールドに「/」と入力します。
7. 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」または「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルの表示をスキップしたい場合は、「**Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)**」フィールドに「/」と入力します。
8. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの 1 つまたは複数、リストされている順に表示される場合があります。

- 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されません。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
- 「Database Selection (データベース選択)」パネル
 - データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合に表示されません。
 - 指定されたサブシステムの DBD ライブラリー内の DBD のリストを表示します。

サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合は、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの DBD ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、サブシステムの DBD ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

表示されている各選択パネルで、選択する項目の横の「Cmd」フィールドに「s」と入力し、Enter キーを押します。

9. 「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションを選択しなかった場合、「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルまたは「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルのいずれかが表示されます。
- 「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルは、HALDB であるデータベースまたは 動的割り振りのみとして定義されているサブシステムが「Initialize Entry (項目の初期化)」パネルで選択された場合に表示されます。このパネルには、関数が初期化するデータベース・データ・セットの名前が表示されます。リストされているデータベース・データ・セットが、関数が使用するデータベース・データ・セットであることを確認します。これらのデータ・セットの使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、Enter キーを押します。
 - 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルは、HALDB ではないデータベースおよび 動的割り振りのみとして定義されていないサブシステムが「Initialize Entry (項目の初期化)」パネルで選択された場合に表示されます。「Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元)」オプションで「User profile (ユーザー・プロファイル)」を選択した場合、ユーザー・プロファイルに保管されているデータ・セット名が表示されます。「Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)」オプションで「DFSMDA members (DFSMDA メンバー)」を選択した場合、サブシステムの DFSMDA 動的振り割りメンバーで指定したデータ・セット名が表示されます。

「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルは、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションが選択されなかった場合に表示されます。また、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションが選択され、以下のいずれかの条件が該当する場合にも表示されます。

- ・ FM/IMS が、ユーザー・プロファイルまたは DFSMDA メンバーから、必須のデータ・セット名すべてを取得することに失敗した。
- ・ 1 つまたは複数のデータベース・データ・セットが存在しない、またはデータ・セット編成が無効。

表示されたデータ・セット名が、関数が使用するデータ・セット名でない場合、またはデータ・セット名が表示されていない場合は、関数が使用するデータ・セット名を入力し、Enter キーを押します。表示されたデータ・セット名の使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、もう一度 Enter キーを押します。

10. FM/IMS によって、データ・セット情報が検索され、これらのデータ・セットを初期化するジョブがビルドされません。

生成された JCL には、データベース・タイプと選択したオプションに適した命令が含まれています。

- **「Delete/Define IMS data sets (IMS データ・セットの削除/定義)」** を選択した場合、JCL には、これらのデータ・セットを削除/定義する命令も含まれます。
- DEDB ファースト・パスの場合は、ファースト・パス領域の初期化に IMS ユーティリティ DBFUMIN0 が使用されます。
- 全機能データベースの場合は、データベースを初期化するステップが次のようになります。
 - 作業データ・セットの削除。注 a と注 b を参照してください。
 - IMS 事前再編成ユーティリティ (DFSURPRO)。注 a と注 b を参照してください。
 - データベース・ロード。
 - IMS データベース接頭部解決ユーティリティ (DFSURG10)。注 a と注 b を参照してください。
 - HISAM 再編成アンロード・ユーティリティ (DFSURUL0)。注 a を参照してください。
 - IMS HISAM 再編成ロード・ユーティリティ (DFSURRL0)。注 a を参照してください。
 - IMS データベース接頭部更新ユーティリティ (DFSURGP0)。注 b を参照してください。
 - データベース・セグメントの削除。
 - IMS イメージ・コピーの生成 (DSPURX00)。注 c を参照してください。
 - 作業データ・セットの削除。注 a と注 b を参照してください。
- HALDB データベースの場合は、データベースを初期化するステップは次のようになります。
 - 作業データ・セットの削除。
 - PINIT DBRC STEP (DSPURX00)。マスター HALDB データベースを PINIT に設定します。すべての区画を初期化する必要があります。
 - IMS 事前再編成ユーティリティ (DFSURPRO)。HALDB 区画を初期化するために使用します。
 - IMS イメージ・コピーの生成 (DSPURX00)。注 c を参照してください。
 - 作業データ・セットの削除。



注:

- このステップは、データベースに 2 次索引がある場合にのみ実行します。
- このステップは、データベースに論理関係がある場合にのみ実行します。
- GENJCL ステップは、データベースに「Submit image copy (イメージ・コピーの実行依頼)」フラグが選択された場合にのみ、実行されます。DBRC (特に HALDB) を使用するデータベースは、IMS データベースについてイメージ・コピーが実行されるまで、使用不可です。

関連トピック

[\[Initialize Entry \(項目の初期化\)\] パネル ページ 344](#)

[\[Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)\] パネル ページ 254](#)

[\[Utility Menu \(ユーティリティ・メニュー\)\] パネル ページ 457](#)

データの抽出

「Extract (抽出)」(オプション 3.3)によって、IMS データベースからすべてのセグメントまたは選択したセグメントを抽出して、それを順次データ・セットに保管できます。セグメントの抽出後、「Load (ロード)」(オプション 3.4)を使用して、それを別の IMS データベースにロードすることができます。

実行できる抽出のタイプは、以下の通りです。

- データベースの全抽出 (論理的に関連するデータベースの全抽出を含む)。
- データベースの部分的抽出 (以下の組み合わせによって選択されたセグメントを含む)。
 - 抽出するデータベース・レコードを判別するルート・セグメント・キー値を含むファイル。

このファイルは、データベースの編集時に、XKEY コマンドを入力して作成できます。
 - 抽出するセグメントを指定する抽出基準と、抽出されるデータベース・レコードを選択するためのフィールド選択基準
 - 論理セグメントがどのように追跡されるかを指定する関係基準

以下に、抽出の 2 つの使用例を示します。

大きな運用データベースから小さなテスト・データベースを作成

大きな運用データベースから比較的少数のセグメントを抽出してから、そのセグメントをアプリケーションのテスト用に別のデータベースにロードできます。

データベースの照会

基準の組み合わせを使用して、フィールドが特定値に一致するセグメントだけを抽出できます。

IMS セグメントの定様式抽出を印刷するには、IPR (IMS 印刷) 機能を使用します。



注: 抽出ユーティリティは動的 PSB または静的 PSB を使用できます。

本節で説明されている作業は、以下のとおりです。

[データベースの完全コピーの作成 ページ 166](#)

[キー・ファイルを使用した部分的抽出 ページ 169](#)

[抽出基準を使用した部分的抽出 ページ 172](#)

データベースの完全コピーの作成

データベースの完全コピーの作成によって、データのバックアップまたはデータベースのコピーを作成することができます。

「Criteria usage (基準の使用)」オプションで「None (なし)」を選択し、「Use key values (キー値の使用)」オプションを選択しなかった場合、FM/IMS は全データベースの抽出を実行します。

データベースの完全コピーを作成するには、次のようにします。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」から「3 Utilities (ユーティリティ)」オプションを選択して、次に「Utility Menu (ユーティリティ・メニュー)」から「3 Extract (抽出)」オプションを選択します。「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネルが表示されます。
2. 「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネルのフィールドの多くが、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルにもあることに注意してください。両方のパネルに共通するフィールドに入力するには、抽出に使用する領域タイプと PSB タイプに応じて、以下の手順のいずれかに従います。
 - 静的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 49 のステップ 2、3、4、5、7 および 8。
 - 動的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 51 のステップ 2、3、4、6 および 7。
 - 静的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 53 のステップ 2、3、4、6、7、8 および 10。
 - 動的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 56 のステップ 2、3、5、6、7 および 9。
3. 「Criteria usage (基準の使用)」フィールドに、基準を使用しない抽出を選択するため 3 を入力します。
4. 「Use key values (キー値の使用)」フィールドをブランクにします。
5. 抽出ダイアログまたは抽出ジョブで抽出ファイルのテンプレートを作成する場合は、「Create extract template (抽出テンプレートの作成)」フィールドに「/」と入力します。
6. 順次従属 (SDEP) セグメントのある DEDB から抽出する場合で、抽出された SDEP セグメントがデータベースにロードされ、ロードされた SDEP セグメントをタイム・スタンプ順にすることが要求される場合に、「SDEP in timestamp order (タイム・スタンプ順の SDEP)」フィールドに「/」と入力します。
7. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの 1 つまたは複数、リストされている順に表示される場合があります。
 - 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されません。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
 - 「PSB Selection (PSB 選択)」パネル
 - PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力して「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの PSB ライブラリー内の PSB のリストを表示します。

サブシステムに固定の PSB ライブラリーがない場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの PSB ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の PSB ライブラリーがある場合、サブシステムの PSB ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネル

「DFSMDA members (DFSMDA メンバー)」を選択した場合、サブシステムの DFSMDA 動的振り割りメンバーで指定したデータ・セット名が表示されます。

「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルは、**「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションが選択されなかった場合に表示されます。また、**「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」** オプションが選択され、以下のいずれかの条件が該当する場合にも表示されます。

- ・ FM/IMS が、ユーザー・プロファイルまたは DFSMDA メンバーから、必須のデータ・セット名すべてを取得することに失敗した。
- ・ 1 つまたは複数のデータベース・データ・セットが存在しない、またはデータ・セット編成が無効。

表示されたデータ・セット名が、関数が使用するデータ・セット名でない場合、またはデータ・セット名が表示されていない場合は、関数が使用するデータ・セット名を入力し、Enter キーを押します。表示されたデータ・セット名の使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、もう一度 Enter キーを押します。

9. 「To Data Set Specification (宛先データ・セット指定)」パネルで、抽出データを保管するデータ・セット名を指定します。これは順次ファイルである必要があります。
10. 抽出データ・セットの後処理を以下のように指定します。
 - 既存の順次データ・セットを指定した場合は、「Disposition (後処理)」を OLD に設定します。これにより、既存ファイルが上書きされます。
 - 新規順次データ・セットを指定した場合は、「Disposition (後処置)」を NEW に設定し、サイトの必要に応じて**「Allocation parameters (割り振りパラメーター)」**への入力を行います。



注: サイトで使用中のストレージ管理システムにより、これらのすべてのパラメーターにデフォルト値が割り当てられる可能性があります。このような場合は、これらのフィールドへの入力を行う必要はありません。

11. Enter キーを押します。FM/IMS は、ダイアログに指定したデータを使用して、印刷ジョブ用の JCL を生成します。ジョブを実行依頼する前に、この JCL を編集できます。JCL を実行依頼します。

FM/IMS は、指定された順次データ・セットにセグメントを抽出します。

全抽出の場合、FM/IMS は、基本データベースの全体に対して Get Next を実行して、セグメントをすべて抽出します。データベースに論理関係がある場合は、関連するデータベースのそれぞれにある、すべてのセグメントが抽出されます。

キー・ファイルを使用した部分的抽出

データベース・レコードのサブセットを抽出するときには、キー・ファイルを使用して、抽出する各レコードのルート・セグメントを指定できます。FM/IMS は以下のすべてのセグメントを抽出します。

- ・ キー・ファイルで指定されたルート・キーを持つデータベース・レコード
- ・ 抽出される論理子セグメントの 1 つ以上の論理親を含むデータベース・レコード

キー・ファイルを使用した部分的抽出を実行する方法は、次の通りです。

1. 「IMS Data (IMS データ)」パネルに、データベースのルート・セグメント・タイプを表示します。



注: データベース階層内から任意のセグメント・タイプを使用できますが、抽出されるキーは必ずルート・セグメントから取り出されます。

2. キー・ファイルに抽出する最初のセグメント・インスタンスまでスクロールします。
3. XKEY コマンドを発行します。FM/IMS は次の形式で順次キー・ファイルを作成します。

```
userid.XKEY.Dyymmdd.Thhmmss.dbd-name
```

このファイルには、現行セグメントからデータベースまでのルート・セグメント・キーのリストが含まれていません。

4. キー・ファイルを編集して、抽出したくないレコードのルート・キーを除去します。これは、ISPF エディターを使用すると手動で実行でき、IEB を使用するとプログラマチックに実行できます。
5. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」から **「3 Utilities (ユーティリティー)」** オプションを選択して、次に「Utility Menu (ユーティリティー・メニュー)」から **「3 Extract (抽出)」** オプションを選択します。「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネルが表示されます。
6. 「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネルのフィールドの多くが、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルにもあることに注意してください。両方のパネルに共通するフィールドに入力するには、抽出に使用する領域タイプと PSB タイプに応じて、以下の手順のいずれかに従います。
 - 静的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 49 のステップ 2、3、4、5、7 および 8。
 - 動的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 51 のステップ 2、3、4、6 および 7。
 - 静的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 53 のステップ 2、3、4、6、7、8 および 10。
 - 動的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 56 のステップ 2、3、5、6、7 および 9。
7. 「Criteria usage (基準の使用)」フィールドに、基準を使用しない抽出を選択するため「3」を入力します。
8. 「Use key values (キー値の使用)」フィールドに「/」と入力してキー値ファイルを使用する抽出を選択します。
9. 抽出ダイアログまたは抽出ジョブで抽出ファイルのテンプレートを作成する場合は、「Create extract template (抽出テンプレートの作成)」フィールドに「/」と入力します。
10. 順次従属 (SDEP) セグメントのある DEDB から抽出する場合で、抽出された SDEP セグメントがデータベースにロードされ、ロードされた SDEP セグメントをタイム・スタンプ順にすることが要求される場合に、「SDEP in timestamp order (タイム・スタンプ順の SDEP)」フィールドに「/」と入力します。
11. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの 1 つまたは複数、リストされている順に表示される場合があります。
 - 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されません。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
 - 「PSB Selection (PSB 選択)」パネル
 - PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力して「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの PSB ライブラリー内の PSB のリストを表示します。

サブシステムに固定の PSB ライブラリーがない場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの PSB ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の PSB ライブラリーがある場合、サブシステムの PSB ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネル
 - 「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択し、以下のいずれかが当てはまる場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。
 - 指定された PSB に PCB のリストを表示します。
- 「Database Selection (データベース選択)」パネル
 - データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力して「PSB type (PSB タイプ)」で「Dynamic (動的)」を選択した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの DBD ライブラリー内の DBD のリストを表示します。

サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合は、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの DBD ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、サブシステムの DBD ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

- 「AGN Selection (AGN 選択)」パネル
 - 以下のすべてが該当する場合に表示されます。
 - 「Region type (領域タイプ)」で「BMP」を選択した。
 - 指定したサブシステムは AGN を使用しており、その一部は FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている。
 - AGN 名を入力しなかったか、または AGN 名パターンを入力した。
 - FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされているサブシステムの AGN を表示します。

表示されている各選択パネルで、選択する項目の横の「Cmd」フィールドに「s」と入力し、Enter キーを押します。

12. 「Region type (領域タイプ)」で「DLI」を選択し、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションを選択しなかった場合、「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルまたは「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルのいずれかが表示されず。

- 「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルは、HALDB であるデータベースまたは 動的割り振りのみとして定義されているサブシステムが「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネルで選択された場合に表示されます。このパネルには、関数が使用するデータベース・データ・セットの名前が表示されます。リストされているデータベース・データ・セットが、関数が使用するデータベース・データ・セットであることを確認します。これらのデータ・セットの使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、Enter キーを押します。

- 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルは、HALDB ではないデータベースおよび動的割り振りのみとして定義されていないサブシステムが「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネルで選択された場合に表示されます。「Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元)」オプションで「User profile (ユーザー・プロファイル)」を選択した場合、ユーザー・プロファイルに保管されているデータ・セット名が表示されます。「Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)」オプションで「DFSMDA members (DFSMDA メンバー)」を選択した場合、サブシステムの DFSMDA 動的振り割りメンバーで指定したデータ・セット名が表示されます。

「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルは、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションが選択されなかった場合に表示されます。また、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションが選択され、以下のいずれかの条件が該当する場合にも表示されます。

- FM/IMS が、ユーザー・プロファイルまたは DFSMDA メンバーから、必須のデータ・セット名すべてを取得することに失敗した。
- 1 つまたは複数のデータベース・データ・セットが存在しない、またはデータ・セット編成が無効。

表示されたデータ・セット名が、関数を使用するデータ・セット名でない場合、またはデータ・セット名が表示されていない場合は、関数を使用するデータ・セット名を入力し、Enter キーを押します。表示されたデータ・セット名の使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、もう一度 Enter キーを押します。

13. 「Extract Options (抽出オプション)」パネルで、「**Key values (キー値)**」フィールドにキー・ファイルの名前を指定し、Enter キーを押します。「To Data Set Specification (宛先データ・セット指定)」パネルが表示されます。
14. 「To Data Set Specification (宛先データ・セット指定)」パネルで、抽出データを保管するデータ・セット名を指定します。これは順次ファイルである必要があります。
15. 「**Disposition (後処理)**」を指定し、必要に応じて抽出ファイルの「**Allocation parameters (割り振りパラメーター)**」(データベースの完全コピーの作成 ページ 166 を参照)を指定します。
16. Enter キーを押します。FM/IMS は、ダイアログに指定したデータを使用して、印刷ジョブ用の JCL を生成します。ジョブを実行依頼する前に、この JCL を編集できます。JCL を実行依頼します。

JCL が実行依頼されると、FM/IMS によって、キー・ファイルが読み取られ、それぞれのキーごとに、ルート・セグメントおよびそのすべての従属セグメントが抽出されます。

抽出基準を使用した部分的抽出

FM/IMS では、セグメントに対する基準を指定して、セグメントを抽出するかどうかを判別することができます。基準のグループは、「基準サブセット」に結合されます。単一の基準サブセットは、データベース・レコードを抽出するかどうかを判別するために使用されます。それぞれのフィールド選択基準が、データベース・レコードを抽出するかどうかを判別するためにテストされます。複数の基準サブセットがある場合、FM/IMS が同じデータベース・レコードを複数回抽出してしまう可能性があります。そのため、複数の基準サブセットが指定されている場合には、FM/IMS によって作成された JCL は、抽出されたデータをソートして、重複データを除去します。

キー・ファイル、または抽出基準のいずれかを指定した場合、FM/IMS は、基本データベースの部分的抽出を実行します。論理関係を持つデータベースについては、FM/IMS は、基本データベースで論理子セグメント・タイプが抽出用に選択されている場合、論理的に関連したデータベースからのセグメントのみを抽出します。

関係基準サブセットを選択した場合は、このサブセットで指定された設定値が FM/IMS が論理関係を追跡する方法を制御します。

論理関係基準サブセットを保持することで、データベースを抽出する際に、以下を判別することができます。FM/IMS

- データベース間での論理関係の追跡の選択。
- それぞれのデータベース・レコードごとに FM/IMS で追跡する各論理関係の数。

論理関係を使用してステートメントを抽出するには、以下のようになります。

1. **【Primary Option (基本オプション)】** パネルから、**【Extract (抽出)】 (オプション 3.3)** を選択して、Enter キーを押します。

【Extract Entry (抽出項目の入力)】 パネルが表示されます。

IVP サンプル・データベース・データ・セットを使用します。使用するメンバーは、**DJ2E** です。

2. **【Extract Entry (抽出項目の入力)】** パネルのフィールドの多くが、**【Browse Entry (ブラウズ項目の入力)】** パネルにもあることに注意してください。両方のパネルに共通するフィールドに入力するには、抽出に使用する領域タイプと PSB タイプに応じて、以下の手順のいずれかに従います。
 - 静的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 49 のステップ 2、3、4、5、7 および 8。
 - 動的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 51 のステップ 2、3、4、6 および 7。
 - 静的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 53 のステップ 2、3、4、6、7、8 および 10。
 - 動的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 56 のステップ 2、3、5、6、7 および 9。
3. 抽出に既存の基準を使用する場合は、**【Criteria usage (基準の使用)】** フィールドに「2」を入力して、**【Criteria (基準)】** フィールドに抽出で使用する基準を含んでいるデータ・セットの名前を指定します。抽出を実行する前にこの基準を編集する場合は、**【Edit criteria (基準の編集)】** フィールドに「/」と入力します。抽出用に新規基準を作成する場合は、**【Criteria usage (基準の使用)】** フィールドに「1」を入力します。
4. 抽出でキー値ファイルを使用する場合は、**【Use key values (キー値の使用)】** フィールドに「/」と入力します。
5. 抽出ダイアログまたは抽出ジョブで抽出ファイルのテンプレートを作成する場合は、**【Create extract template (抽出テンプレートの作成)】** フィールドに「/」と入力します。
6. 順次従属 (SDEP) セグメントのある DEDB から抽出する場合で、抽出された SDEP セグメントがデータベースにロードされ、ロードされた SDEP セグメントをタイム・スタンプ順にすることが要求される場合に、**【SDEP in timestamp order (タイム・スタンプ順の SDEP)】** フィールドに「/」と入力します。
7. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの 1 つまたは複数、リストされている順に表示される場合があります。
 - **【Subsystem Selection (サブシステム選択)】** パネル
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されます。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
 - **【PSB Selection (PSB 選択)】** パネル
 - PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力して「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの PSB ライブラリー内の PSB のリストを表示します。

サブシステムに固定の PSB ライブラリーがない場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの PSB ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の PSB ライブラリーがある場合、サブシステムの PSB ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネル
 - 「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Static (静的)」を選択し、以下のいずれかが当てはまる場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。
 - 指定された PSB に PCB のリストを表示します。
- 「Database Selection (データベース選択)」パネル
 - データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力して「PSB type (PSB タイプ)」で「Dynamic (動的)」を選択した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの DBD ライブラリー内の DBD のリストを表示します。

サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合は、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの DBD ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、サブシステムの DBD ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

- 「AGN Selection (AGN 選択)」パネル
 - 以下のすべてが該当する場合に表示されます。
 - 「**Region type (領域タイプ)**」で「BMP」を選択した。
 - 指定したサブシステムは AGN を使用しており、その一部は FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている。
 - AGN 名を入力しなかったか、または AGN 名パターンを入力した。
 - FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされているサブシステムの AGN を表示します。

表示されている各選択パネルで、選択する項目の横の「**Cmd**」フィールドに **s** を入力し、Enter キーを押します。

8. 「**Criteria usage (基準の使用)**」と「**Edit criteria (基準の編集)**」オプションで「Existing (既存)」を選択するか、「**Criteria usage (基準の使用)**」で「New (新規)」を選択すると、「Criteria : Subset Selection (基準 : サブセット選択)」パネルが表示されます。これが「Edit criteria (基準の編集)」ダイアログの最初のパネルです。このダイアログにより、基準を作成または編集できます。

ステップ 9 ページ 174 から 15 ページ 175 までは、抽出のための基準の作成方法について説明しています。

9. 「**Relationship Criteria (関係基準)**」に対して **E** を入力して、Enter キーを押します。
10. 以下の「Max occurrences to pursue per DB record (DB レコード毎実行最大オカレンス数)」を入力します。

FM/IMS	Relationship Criteria
--------	-----------------------

```

Criteria New
Template FMN.IMS.IVP.TEMPLATE(DJ2E)

Default max relationship occurrences to pursue          (Blank for no limit)

      Source      Source      Target
Cmd Sel DBD      segment DBD      Relationship type  Max occurrences to
      * DJ2E      LINKSTR DJ3E      Bidirectional      2
      * DJ2E      INSHIRE DJ1E      Bidirectional      1
      * DJ3E      INSUB   DJ2E      Bidirectional      1
      * DJ1E      LINKSUB DJ2E      Bidirectional      1
**** End of data ****

```

11. Enter キーを押します。
12. 関係基準に対して **I** を入力してフィールド選択基準サブセットを作成し、Enter キーを押します。

【Criteria : Segment Selection (基準 : セグメント選択)】 パネルが表示されます。

13. SUBURB セグメントに対して **E** を入力して、Enter キーを押します。

【Criteria : Segment Layout (ビュー : セグメント・レイアウト)】 パネルが表示されます。

14. **【Field Selection Criteria (フィールド選択基準)】** で、**#2=FREMANTLE** を入力して、Enter キーを押します。

画面の右上に、**【Retrieving with qual SSA (修飾 SSA による検索)】** が表示されます。**【Help】機能キー (F1)** を押すと、拡張メッセージが表示されます。



注: このメッセージは、選択基準でキーを指定してある場合にのみ、表示されます (FM/IMS はパフォーマンス向上のため、修飾 SSA を使用して検索します)。

15. **【Exit】機能キー (F3)** を 3 回押して、基準を保管します。

【Extract Entry (抽出項目の入力)】 パネルが再表示されます。このパネルの右上隅に、メッセージ *“Criteria Set saved (基準セットが保管されました)”* が表示されます。

16. Enter キーを押します。

【Extract : To Data Set Specification (抽出 : 受け入れ先データ・セット指定)】 パネルが表示されます。

17. セグメント抽出先のデータ・セット名を指定して、Enter キーを押します。

JCL が表示されます。

18. JCL を実行依頼します。

報告書では、抽出された各セグメント・タイプのセグメント数などの、データベース抽出の詳細が指定されます。

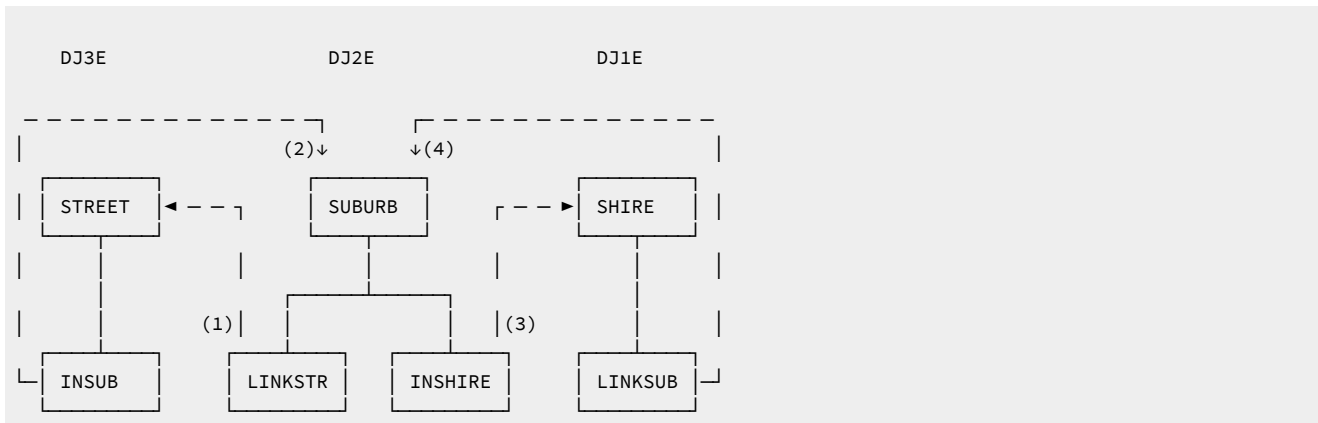


注: 最小領域サイズは 2M です。

論理関係の例

下記の関係図は、キー **FREMANTLE** を持つ SUBURB セグメントの論理関係が抽出される方法を示しています。

図 19. DJ2E データベースの論理関係



通常は抽出処理では、論理関係は基本データベース中のすべてのデータベース・レコードが処理された後で追跡されます。次の例では、SUBURB FREMANTLE とそのすべての従属セグメントだけを抽出します。前のページの関係基準を使用します。

最初に、SUBURB FREMANTLE のルート・セグメントが選択されて、LINKSTR および INSHIRE セグメントが抽出ファイルに書き込まれます。

INSHIRE と SHIRE 間の論理関係については、1つのセグメントだけを追跡します。したがって、FREMANTLE の SHIRE が追跡されます。すなわち、

1. FREMANTLE の SHIRE ルート・セグメントとそのすべての従属セグメントが抽出ファイルに書き込まれます。
2. LINKSUB と SUBURB の間の最初の論理関係が追跡されます。この LINKSUB セグメントには BEACONSFIELD の論理親があります。この SUBURB セグメントは前に抽出されていないので、BEACONSFIELD のデータベース・レコードが抽出されません。
3. BEACONSFIELD の INSHIRE と SHIRE 間の論理関係については、1つのセグメントだけを追跡します。したがって、FREMANTLE の SHIRE が追跡されます。FREMANTLE の SHIRE セグメントはすでに抽出されているので、さらなる追跡は必要ありません。

BEACONSFIELD の LINKSTR と STREET 間の論理関係については、2つのセグメントだけを追跡します。したがって、AGNES ST と ANNIE ST の STREET (Beaconsfield 中の英字順の最初の2つの番地) が追跡されます。

1. AGNES ST の STREET ルート・セグメントとそのすべての従属セグメントが抽出ファイルに書き込まれます。
2. INSUB と SUBURB 間の最初の論理関係が変更されます。この LINKSUB セグメントには BEACONSFIELD の論理親があり、これは抽出されているので、AGNES ST についてさらに追跡する必要はありません。
3. ANNIE ST の STREET ルート・セグメントとそのすべての従属セグメントが抽出ファイルに書き込まれます。
4. INSUB と SUBURB 間の最初の論理関係が変更されます。この LINKSUB セグメントには BEACONSFIELD の論理親があります。このデータベース・レコードは抽出されているので、ANNIE ST についてさらに追跡する必要はありません。

キー値 FREMANTLE を持つ INSHIRE および SHIRE セグメントについては、論理関係はすべて追跡されています。

INSHIRE 論理関係の追跡が完了した後で、LINKSTR と STREET 間の論理関係が追跡されます。この関係については、FM/IMS は LINKSTR セグメントの最初の 2 つのオカレンスを追跡します。したがって、以下の番地が処理されます。

- ADELAIDE ST
- ALMA ST

ADELAIDE ST については、次の処理が行われます。

1. ADELAIDE ST の STREET ルート・セグメントとそのすべての従属セグメントが、抽出ファイルに書き込まれます。
2. INSUB と SUBURB 間の最初の論理関係が変更されます。この LINKSUB セグメントには ESPERANCE の論理親があります。この DJ2E データベース・レコードは処理されていないので、抽出ファイルに書き込まれます。
3. キーが ESPERANCE である INSHIRE および SHIRE 間の論理関係については、1 つのオカレンスだけが追跡されます。したがって、キー ESPERANCE を持つ SHIRE セグメントが追跡されます。これは処理されていないので、DJ1E データベース・レコードが抽出されます。
4. キーが ESPERANCE である LINKSUB および SUBURB 間の論理関係については、1 つのオカレンスだけが追跡されます。したがって、キー CASCADE を持つ SUBURB セグメントが追跡されます。これは処理されていないので、DJ2E データベース・レコードが抽出されます。
5. キーが CASCADE である INSHIRE および SHIRE 間の論理関係については、1 つのオカレンスだけが追跡されます。したがって、キー ESPERANCE を持つ SHIRE セグメントが追跡されます。これは処理されているので、DJ1E データベース・レコードは抽出されません。
6. CASCADE の SUBURB に対する LINKSTR および STREET 間の論理関係については、1 つのオカレンスだけが追跡されます。したがって、キー ASHA CT を持つ STREET セグメントが追跡されます。これは処理されていないので、DJ3E データベース・レコードが抽出されます。
7. INSUB と SUBURB 間の最初の論理関係が変更されます。この LINKSUB セグメントには ESPERANCE の論理親があります。これは処理されているので、DJ2E データベース・レコードは抽出されません。
8. キー ESPERANCE を持つ SUBURB に対する LINKSTR および STREET 間の論理関係については、1 つのオカレンスだけが追跡されます。したがって、キー ADDINGTON CRO を持つ STREET セグメントが追跡されます。これは処理されていないので、DJ3E データベース・レコードが抽出されます。
9. INSUB と SUBURB 間の最初の論理関係が変更されます。この LINKSUB セグメントには ESPERANCE の論理親があります。これは処理されているので、DJ2E データベース・レコードは抽出されません。

抽出処理は FREMANTLE の SUBURB について論理関係の追跡を続行します。ALMA ST については、次の処理が行われず。

1. ALMA ST の STREET ルート・セグメントとそのすべての従属セグメントが、抽出ファイルに書き込まれます。
2. INSUB と SUBURB 間の最初の論理関係が変更されます。この LINKSUB セグメントには FREMANTLE の論理親があります。この DJ2E データベース・レコードは処理されているので、抽出ファイルには書き込まれません。
3. これ以上追跡する論理関係がないので、抽出処理は終了します。

関連トピック

[基準の操作 ページ 190](#)

KEYLIST、KEYRANGE、および MAXROOTS パラメーターを指定するように JCL を変更

前の3つのサブセクションでは、「Extract」ダイアログを使用して IMS データベースからデータを抽出するジョブの JCL を生成する方法について説明しました。ただし、「Extract」ダイアログで生成されない、使用可能な3つのパラメーターがあります。

これらは KEYLIST、KEYRANGE、および MAXROOTS の各パラメーターです。

KEYLIST パラメーターは、抽出したいデータベース・レコードのルート・セグメント・キー値のリストを指定するために使用できます。このリストはもちろん、キー・ファイルでも指定できますが、このパラメーターはキー・リストを指定する別の方法を提供するものです。キー・ファイルとは異なりますが、KEYLIST パラメーターでも部分キーを指定できます。ルート・キー値の長さがルート・セグメントのキー長より短い場合、関数はそれをキーの最初の部分と見なし、部分キー値に一致するルート・キー値を持つデータベース・レコードをすべて抽出します。

KEYRANGE パラメーターは、ルート・キー値の範囲の始まりと終わりを指定するために使用できます。関数は、指定された範囲内のルート・キー値を持つデータベース・レコードを抽出します。

MAXROOTS パラメーターは、関数によって抽出されるデータベース・レコード数を制限するために使用できます。このパラメーターを指定すると、関数は、抽出したデータベース・レコード数をカウントし、指定された限度に達すると終了します。

これらのパラメーターのコーディング方法については、[抽出 \(IXB\) ページ 577](#)を参照してください。

順次従属セグメントを持つ DEDB データベースの抽出およびロード

順次従属 (SDEP) セグメントは、DEDB 領域の順次従属部分に、ルートまたはそのルートを含む作業単位 (UOW) に関係なく挿入され、日時順に保管されます。続いて、SDEP セグメントは、DL/I 呼び出しによって後入れ先出し法 (LIFO) の順序で取り出されます。したがって、1つのルートの下にある順次従属セグメントを表示するときは、挿入されたときと順序が逆になります。

以下は、2つの異なるルートの下に6つの SDEP セグメントを挿入した場合のデータベースの例です。

```
CUSTROOT ..00000001 CUSTROOT SEGMENT
CUSDEPSG .. 5TH SEGMENT INSERTED
CUSDEPSG .. 4TH SEGMENT INSERTED
CUSDEPSG .. 1ST SEGMENT INSERTED
CUSTROOT ..00000010 CUSTROOT SEGMENT
CUSDEPSG .. 6TH SEGMENT INSERTED
CUSDEPSG .. 3RD SEGMENT INSERTED
CUSDEPSG .. 2ND SEGMENT INSERTED
```

SDEP セグメントの設計では、SDEP セグメントを挿入するとき、または高速機能の順次従属スキャン・ユーティリティまたは順次従属削除ユーティリティを使用して SDEP セグメントを処理するとき、パフォーマンスが良くなります。ただし、DL/I 呼び出しを使用して順次従属セグメントを読み取る場合は、処理が遅くなります。

以下は、順次スキャン・ユーティリティを使用した結果の例です。

```
1ST SEGMENT INSERTED
2ND SEGMENT INSERTED
3RD SEGMENT INSERTED
```

```
4TH SEGMENT INSERTED
5TH SEGMENT INSERTED
6TH SEGMENT INSERTED
```

SDEP セグメントは、そのルート・セグメントを削除するか、または IMS 高速機能順次従属削除ユーティリティを使用しないと、削除できません。IMS では、順次従属セグメントの挿入のみを許可し、置換は許可していないため、SDEP セグメントを持つ DEDB データベースをロードする際には、セグメントを重複して作成しないよう注意が必要です。

SDEP セグメントの重複を避けるには、高速機能順次従属削除ユーティリティを実行して、既存の SDEP を削除します。このユーティリティを実行する際には、以下の点を考慮する必要があります。

- このユーティリティを実行する前に、高速機能順次従属スキャン・ユーティリティを実行して、削除する SDEP を読み取りたい場合があります。
- 順次従属削除ユーティリティは、一番古くに挿入された SDEP から、指定されたポイントまでの SDEP を除去します。ルート・セグメントの順次従属セグメントを個々に指定する方法がないため、他のユーザーのデータを削除してしまわないように注意してください。



注: 高速機能の順次従属スキャン・ユーティリティおよび順次従属削除ユーティリティについて詳しくは、「IMS ユーティリティ解説書: データベース管理プログラムおよびトランザクション管理プログラム」を参照してください。

SDEP セグメントの抽出

FM/IMS では、抽出した SDEP セグメントの順序を指定するために、次の 2 つの方法が可能です。

逆検索順序 (デフォルト)

この方法を使用すると、SDEP の順序が検索の順序とは逆になります。この順序で SDEP をロードすると、各ルートの下にその順序が復元されますが、順次スキャン・ユーティリティによって表示される順序では復元されません。

以下は、データベースで表示される結果の例です。

```
CUSTROOT ..00000001 CUSTROOT SEGMENT
CUSDEPSG .. 5TH SEGMENT INSERTED
CUSDEPSG .. 4TH SEGMENT INSERTED
CUSDEPSG .. 1ST SEGMENT INSERTED
CUSTROOT ..00000010 CUSTROOT SEGMENT
CUSDEPSG .. 6TH SEGMENT INSERTED
CUSDEPSG .. 3RD SEGMENT INSERTED
CUSDEPSG .. 2ND SEGMENT INSERTED
```

以下は、順次スキャン・ユーティリティを使用した結果の例です。

```
2ND SEGMENT INSERTED
3RD SEGMENT INSERTED
6TH SEGMENT INSERTED
1ST SEGMENT INSERTED
4TH SEGMENT INSERTED
5TH SEGMENT INSERTED
```

SDEP タイム・スタンプ順序

この方法では、POS の DL/I 呼び出しでタイム・スタンプを読み取ることによって、取り出された SDEP セグメントを、最初に挿入された順序で配置しようとしています。このタイム・スタンプは、SDEP セグメントとともにアンロード・ファイルに書き込まれます。この方法は POS 呼び出しのオーバーヘッドにより多くのコストがかかりますが、この順序で SDEP をロードすると、各ルートの下にその順序が復元され、かつ、順次スキャン・ユーティリティによって表示される順序で復元されます。

以下は、データベースで表示される結果の例です。

```
CUSTROOT ..00000001 CUSTROOT SEGMENT
CUSDEPSG .. 5TH SEGMENT INSERTED
CUSDEPSG .. 4TH SEGMENT INSERTED
CUSDEPSG .. 1ST SEGMENT INSERTED
CUSTROOT ..00000010 CUSTROOT SEGMENT
CUSDEPSG .. 6TH SEGMENT INSERTED
CUSDEPSG .. 3RD SEGMENT INSERTED
CUSDEPSG .. 2ND SEGMENT INSERTED
```

以下は、順次スキャン・ユーティリティを使用した結果の例です。

```
1ST SEGMENT INSERTED
2ND SEGMENT INSERTED
3RD SEGMENT INSERTED
4TH SEGMENT INSERTED
5TH SEGMENT INSERTED
6TH SEGMENT INSERTED
```

この抽出方法を使用するには、抽出 JCL の生成時に「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネルの「**SDEP in timestamp order (タイム・スタンプ順の SDEP)**」オプションにチェックを入れるか、または IXB 関数に SDEPTSO JCL オプションを手動で指定します。

抽出テンプレートの作成

「Extract (抽出)」(オプション 3.3) によって、オプションで抽出テンプレートを作成できます。抽出テンプレートは、抽出データを記述する 1 つ以上の IMS テンプレートから派生した複合 File Manager Base component テンプレートです。

抽出テンプレートと File Manager Base component ユーティリティを使用して、次のことができます。

- 抽出ファイルの編集、表示、ブラウズ。例:

同じ IMS™ データベース情報のコピーが、類似した DBD 名の下にロードされている場合があります。これにより、類似データを使用する複数の IMS™ 環境が存在できます。FM/IMS の抽出が完了したら、抽出によって作成されたテンプレートを使用して、データベース名を変更したり、定形式ビューで他のデータを更新したりできます。

- DSC 機能を使用した出力ファイルのフィールドの順序変更。

抽出テンプレートの作成方法

抽出テンプレートは、以下から派生されます。

- 抽出の基本データベースのテンプレート、および
- 基本データベースに論理的に関連しているすべてのデータベースのテンプレート

抽出プロセスは、これらのテンプレートで見つかったフィールド定義を、抽出ヘッダー・レコードおよび接頭部域のフィールド定義と結合し、現在の抽出プロセスの抽出レコードの全タイプを記述する基本抽出テンプレートを作成します。

抽出テンプレートの作成方法

抽出テンプレートを作成するには、以下のステップを実行してください。

1. 「Primary Option menu (基本オプション・メニュー)」から、「**Extract (抽出)**」(オプション 3.3) を選択します。
「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネルが表示されます。
2. 実行する抽出のタイプの詳細を入力します。
 - データベースの完全コピーの作成 ページ 166 を参照してください。
 - キー・ファイルを使用した部分的抽出 ページ 169 を参照してください。
3. 「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネルで「**Create extract template (抽出テンプレートの作成)**」オプションを選択し、Enter キーを押します。FM/IMS が「Extract Options (抽出オプション)」パネルを表示します。

「Extract Options (抽出オプション)」パネルでは、以下を実行することができます。

- フォアグラウンドで抽出テンプレートを作成する。
 - 作成した抽出テンプレートを編集する。
 - 抽出テンプレートをバッチ抽出ジョブの一部として作成できるように、キーワードを生成する。
4. 「Extract Options (抽出オプション)」パネルで、必要に応じて、以下のフィールドに詳細を入力します。

Extract Template: データ・セット名

これは必須フィールドです。抽出テンプレートを保管するデータ・セットを識別する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定します。メンバー名が入力 IMS テンプレートのいずれかと同じ場合は、データ・セット名を入力テンプレート・データ・セット名と異なる名前にする必要があります。

Extract Template: Member (メンバー)

このフィールドはメンバー名です。抽出テンプレート用の区分データ・セットのメンバー名を指定します。このフィールドを空白のままにするか、メンバー名のパターンを指定すると、FM/IMS によってメンバー名のリストが表示されます。次に、該当するメンバーの「Select (選択)」フィールドに「s」と入力し、必要なメンバーを選択します。

5. 「Extract Options (抽出オプション)」パネルで、必要に応じて、以下のオプションを選択します。

Foreground (フォアグラウンド)

抽出テンプレートをフォアグラウンドで作成するときに、このオプションを選択します。選択した場合、Enter キーを押すと、FM/IMS によってテンプレートが作成されます。

Batch (バッチ)

抽出ジョブで抽出テンプレートを作成するときに、このオプションを選択します。選択した場合、バッチ抽出で抽出テンプレートを作成するために必要なキーワードが FM/IMS によって生成されません。

Skip (スキップ)

抽出テンプレートを作成しないときに、このオプションを選択します。

Edit extract template (抽出テンプレートの編集)

テンプレートを編集するときに、このオプションを選択します。このオプションと **「Foreground execution (フォアグラウンド実行)」** オプションを選択して Enter キーを押すと、FM/IMS によってテンプレートが作成され、テンプレートの編集と保管ができる **「Record Type Selection (レコード・タイプ選択)」** パネルが表示されます。FM/IMS は、**「Foreground execution (フォアグラウンド実行)」** オプションが選択されている場合にだけ、このフィールドを使用します。

6. Enter キーを押すと、処理オプションで決定されている通りに関数が実行され、抽出ダイアログに進みます。PF3 を押すと、関数を実行せずに前のパネルに戻ります。

関連トピック

[「Record Type Selection \(レコード・タイプ選択\)」 パネル ページ 391](#)

抽出テンプレートの命名規則

抽出ヘッダー・レコードには、以下の名前が含まれています。

HEADER-DYNAMIC

動的 PSB ヘッダー・レコード

HEADER1-STATIC

静的 PSB の最初のヘッダー・レコード

HEADER2-STATIC

静的 PSB の後続のヘッダー・レコード

抽出された IMS セグメント・レコードは、以下の命名規則に従います。

```
dbd-segment-01name
```

各部の意味は以下のとおりです。

dbd

DBD 名。

セグメント

セグメント名。

01name

元のテンプレートで指定されている通りに、このセグメントを記述する 01 レイアウトの名前。



注: 元の IMS テンプレートが PL/I コピーブックから構築されている場合、ダッシュ・セパレーター ('-') は下線 ('_') に置き換えられます。

抽出報告書

データベース抽出要約報告書は、抽出で使用されたオプションおよびリソースを報告します。

データベース抽出統計報告書には、各データベースから抽出された各セグメント・タイプの出現回数を含む、抽出統計が示されます。

関連トピック

[データベース抽出要約報告書 ページ 600](#)

[データベース抽出統計報告書 ページ 602](#)

データのロード

「Load (ロード)」(オプション 3.4) を使用して、FM/IMS 「Extract (抽出)」(オプション 3.3) ユーティリティーで以前に抽出されたデータをデータベースへロードできます。

ロードには動的 PSB または静的 PSB を使用できます。

ロードには、以下の 3 つのタイプがあります。

No replace (置換なし)

ロードはセグメントの挿入を試行するだけです。挿入呼び出しが II 状況コードを受け取ると、ロードはデータベースにある既存のセグメントをロード・セグメントで置き換えません。

Replace (置換)

ロードは「No replace (置換なし)」の場合と同じように、セグメントの挿入を試行します。ただし、挿入呼び出しが II 状況コードを受け取ると、ロードはデータベースにある既存のセグメントをロード・セグメントで置き換えます。注: セグメントが非固有キーの場合、またはキーを持たない場合、データベースにある既存のセグメントは置き換えられません。ロード・セグメントは、データベース内に同じキーを持つ既存のセグメントがある場合でも、挿入されます。

Initial (初期)

ロード PSB を使用して、IMS セグメントを空の未初期化データベースへ挿入します。データベースが空になっていない場合は、**「Delete/define data sets (データ・セットの削除/定義)」** オプションを使用してファイルを準備します。



制限: FM/IMS ロード・プロセスを使用して、ポインター・エラーと論理的に関連付けられたデータベースをリカバーすることはできません。このような問題に対処するには、IMS ユーティリティーを使用してください。

本節で説明されている作業は、以下のとおりです。

[初期化されたデータベースへのロード ページ 184](#)

[未初期化データベースへのロード ページ 186](#)

[ロード報告書 ページ 189](#)

初期化されたデータベースへのロード

「No replace (置換なし)」 または **「Replace (置換)」** オプションを使用して、初期化されたデータベースまたは既にデータが入っているデータベースへデータをロードできます。これらのオプションは、静的 PSB または動的 PSB とともに使用できます。

初期化された IMS データベースへデータをロードするには、次のようにします。

1. 「Primary Options Menu (基本オプション・メニュー)」から **「3 Utilities (ユーティリティー)」** オプションを選択して、次に「Utility Menu (ユーティリティー・メニュー)」から **「4 Load (ロード)」** オプションを選択します。
「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」が表示されます。
2. 「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」のフィールドの多くは、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルにもあることに注意してください。両方のパネルに共通するフィールドに入力するには、ロードに使用する領域タイプと PSB タイプに応じて、以下の手順のいずれかに従います。
 - 静的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 49 のステップ 2、3、4、5、7 および 8。
 - 動的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 51 のステップ 2、3、4、6 および 7。
 - 静的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 53 のステップ 2、3、4、6、7、8 および 10。
 - 動的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 56 のステップ 2、3、5、6、7 および 9。
3. **「Load type (ロード・タイプ)」** フィールドに、ロードで既存のデータベース・セグメントを置き換えない場合は「1」を入力し、既存のセグメントをロード・セグメントと置き換える場合は「2」を入力します。
4. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの 1 つまたは複数、リストされている順に表示される場合があります。
 - 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されません。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
 - 「PSB Selection (PSB 選択)」パネル

- PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力して「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Static (静的)」を選択した場合に表示されます。
- 指定されたサブシステムの PSB ライブラリー内の PSB のリストを表示します。

サブシステムに固定の PSB ライブラリーがない場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの PSB ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の PSB ライブラリーがある場合、サブシステムの PSB ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネル
 - 「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択し、以下のいずれかが当てはまる場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。または、
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。
 - 指定された PSB に PCB のリストを表示します。
- 「Database Selection (データベース選択)」パネル
 - データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力して「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Dynamic (動的)」を選択した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの DBD ライブラリー内の DBD のリストを表示します。

サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合は、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) でサブシステムの DBD ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、サブシステムの DBD ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

- 「AGN Selection (AGN 選択)」パネル
 - 以下のすべてが該当する場合に表示されます。
 - 「**Region type (領域タイプ)**」で「BMP」を選択した
 - 指定したサブシステムは AGN を使用しており、その一部は FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている。
 - AGN 名を入力しなかったか、または AGN 名パターンを入力した。
 - FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされているサブシステムの AGN を表示します。

表示されている各選択パネルで、選択する項目の横の「**Cmd**」フィールドに **s** を入力し、Enter キーを押します。

5. 「**Region type (領域タイプ)**」で「DLI」を選択し、「**Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)**」オプションを選択しなかった場合、「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルまたは「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルのいずれかが表示されず。

- 「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルは、HALDB であるデータベースまたは 動的割り振りのみとして定義されているサブシステムが「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」で選択された場合に表示されます。このパネルには、関数を使用するデータベース・データ・セットの名前が表示されます。リストされているデータベース・データ・セットが、関数を使用するデータベース・データ・セットであることを確認します。これらのデータ・セットの使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、Enter キーを押します。
- 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルは、HALDB ではないデータベースおよび 動的割り振りのみとして定義されていないサブシステムが「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」で選択された場合に表示されます。「Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元)」オプションで「User profile (ユーザー・プロファイル)」を選択した場合、ユーザー・プロファイルに保管されているデータ・セット名が表示されます。「Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)」オプションで「DFSMDA members (DFSMDA メンバー)」を選択した場合、サブシステムの DFSMDA 動的振り割りメンバーで指定したデータ・セット名が表示されます。

「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルは、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションが選択されなかった場合に表示されます。また、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションが選択され、以下のいずれかの条件が該当する場合にも表示されます。

- FM/IMS が、ユーザー・プロファイルまたは DFSMDA メンバーから、必須のデータ・セット名すべてを取得することに失敗した。
- 1 つまたは複数のデータベース・データ・セットが存在しない、またはデータ・セット編成が無効。

表示されたデータ・セット名が、関数を使用するデータ・セット名でない場合、またはデータ・セット名が表示されていない場合は、関数を使用するデータ・セット名を入力し、Enter キーを押します。表示されたデータ・セット名の使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、もう一度 Enter キーを押します。

6. 「Load Options (ロード・オプション)」パネルで、「Load from: (ロード元:)」のデータ・セット詳細を指定します。これは、FM/IMS 抽出ユーティリティを使用して以前に抽出したデータが入っている順次ファイルである必要があります。
7. Enter キーを押します。FM/IMS は、ダイアログに指定したデータを使用して、ロード・ジョブの JCL を生成します。ジョブを実行依頼する前に、この JCL を編集できます。JCL を実行依頼します。



注: 必要最小領域サイズは 2M です。

未初期化データベースへのロード

「Initial (初期化)」オプションを使用して、未初期化データベースヘデータをロードすることができます。このオプションでは動的 PSB と DLI 領域タイプのみをサポートします。「Delete/define data sets (データ・セットの削除/定義)」ユーティリティを使用してデータベースを空にするか、またはこのプロセス中で「Delete/define data sets (データ・セットの削除/定義)」オプションを選択する必要があります。

未初期化 IMS データベースヘデータをロードするには、以下の手順で行います。

1. 「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」から「**3 Utilities (ユーティリティ)**」オプションを選択して、次に「Utility Menu (ユーティリティ・メニュー)」から「**4 Load (ロード)**」オプションを選択します。
「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」が表示されます。
2. 「**Subsystem name (サブシステム名)**」フィールドに、アクセスするデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID を入力します。必要なサブシステムをリストから選択する場合は、サブシステム名パターンを入力するか、フィールドを空白のままにします。
3. 「**Database name (データベース名)**」フィールドに、アクセスするデータベースの名前を入力します。DBD のリストからデータベースを選択する場合は、データベース名パターンを入力するか、フィールドを空白のままにします。
4. 「**PSB type (PSB タイプ)**」フィールドに、**1** を入力して動的 PSB を選択します。
5. 「**Region Type (領域タイプ)**」フィールドに、「**1**」を入力して DL/I バッチ処理領域を選択します。
6. HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみのサブシステムではない IMS サブシステムを選択した場合、「**Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)**」フィールドで以下を実行します。
 - 関数で、ユーザー・プロファイルに名前が保管されているデータベース・データ・セットを使用する場合は、「**1**」を入力します。
 - 関数で、DFSMDA 動的割り振りメンバーに指定されたデータベース・データ・セットを使用する場合は、「**2**」を入力します。
7. 「**Load type (ロード・タイプ)**」フィールドに、「**3**」を入力してロード PSB (PROCOPT=L) を使用するロードを選択します。
8. 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」または「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルの表示をスキップしたい場合は、「**Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)**」フィールドに「/」と入力します。
9. Enter キーを押して、入力したデータを処理します。パネルに入力した内容に応じて、これらのパネルの 1 つまたは複数、リストされている順に表示される場合があります。
 - 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル
 - サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されます。
 - インストール時に FM/IMS 管理者によって定義された IMS サブシステムのリストが表示されます。
 - 「Database Selection (データベース選択)」パネル
 - データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合に表示されます。
 - 指定されたサブシステムの DBD ライブラリー内の DBD のリストを表示します。

サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合は、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル(オプション 0.6.7)でサブシステムの DBD ライブラリーを指定します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、サブシステムの DBD ライブラリーは、インストール時に FM/IMS 管理者によって指定されます。

表示されている各選択パネルで、選択する項目の横の「**Cmd**」フィールドに **s** を入力し、Enter キーを押します。

10. 「**Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)**」オプションを選択しなかった場合、「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルまたは「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルのいずれかが表示されます。

- 「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルは、HALDB であるデータベースまたは 動的割り振りのみとして定義されているサブシステムが「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」で選択された場合に表示されます。このパネルには、関数が使用するデータベース・データ・セットの名前が表示されます。リストされているデータベース・データ・セットが、関数が使用するデータベース・データ・セットであることを確認します。これらのデータ・セットの使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、Enter キーを押します。
- 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルは、HALDB ではないデータベースおよび 動的割り振りのみとして定義されていないサブシステムが「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」で選択された場合に表示されます。「Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元)」オプションで「User profile (ユーザー・プロファイル)」を選択した場合、ユーザー・プロファイルに保管されているデータ・セット名が表示されます。「Fetch DB dsnames from (DB DS 名取り出し元)」オプションで「DFSMDA members (DFSMDA メンバー)」を選択した場合、サブシステムの DFSMDA 動的振り割りメンバーで指定したデータ・セット名が表示されます。

「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルは、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションが選択されなかった場合に表示されます。また、「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションが選択され、以下のいずれかの条件が該当する場合にも表示されます。

- FM/IMS が、ユーザー・プロファイルまたは DFSMDA メンバーから、必須のデータ・セット名すべてを取得することに失敗した。
- 1 つまたは複数のデータベース・データ・セットが存在しない、またはデータ・セット編成が無効。

表示されたデータ・セット名が、関数が使用するデータ・セット名でない場合、またはデータ・セット名が表示されていない場合は、関数が使用するデータ・セット名を入力し、Enter キーを押します。表示されたデータ・セット名の使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、もう一度 Enter キーを押します。

11. 「Initial Load Options (初期ロード・オプション)」パネルで、「Load from: (ロード元:)」のデータ・セット詳細を指定します。これは、FM/IMS 抽出ユーティリティを使用して以前に抽出したデータが入っている順次ファイルである必要があります。
12. オプション 0.6.1 で DBRC を指定した場合は、「Image copy skeleton : Data set name (イメージ・コピー・スケルトン: データ・セット名)」フィールドに、DBRC スケルトンが含まれているデータ・セットの名前を入力します。これは、データベースの IMS イメージ・コピーを生成するために使用されます。サンプル・スケルトンは IMS Proclib データ・セットにあります。



注: HALDB データベースの場合には DBRC を使用する必要があるため、HALDB を初期化するためにこのオプションを選択する必要があります。

13. データベースがまだ空になっていない場合は、「Delete/Define DB data sets (DB データ・セットの削除/定義)」オプションを選択します。
14. DBRC を使用する場合、データベース用に生成された JCL から GENJCL.IC DBRC コマンドを発行して IMS イメージ・コピーを生成するには、「Submit image copy (イメージ・コピーの実行依頼)」オプションを選択します。これによって生成されたイメージ・コピー・ジョブは、内部読み取りプログラムに実行依頼されます。

このオプションを選択していない場合は、イメージ・コピーが実行されるまでデータベースが使用不可になるため、サイトの外部ジョブを実行してこのコマンドを発行する必要があります。

15. Enter キーを押します。FM/IMS は、ダイアログに指定したデータを使用して、ロード・ジョブの JCL を生成します。ジョブを実行依頼する前に、この JCL を編集できます。JCL を実行依頼します。

**注:**

必要最小領域サイズは 2M です。

ロード報告書

ロードにより、以下の報告書が作成されます。

- データベース・ロード要約
- データベース・ロード統計報告書
- データベース・ロード診断報告書 (診断が実行された場合のみ)

データベース・ロード要約報告書は、ロードで使用されたオプションおよびリソースを報告します。

データベース・ロード統計報告書には、各データベースにロードされた各セグメント・タイプの出現回数を含む、ロード統計が示されます。

データベース・ロード診断報告書には、ロードできなかった各セグメント・オカレンスの詳細が、そのタイプ、連結キー、データ、および挿入の試行で受け取った IMS 状況コードとともに示されます。

関連トピック

[「Database Load Summary \(データベース・ロード要約\)」報告書 ページ 616](#)

[データベース・ロード統計報告書 ページ 615](#)

[データベース・ロード診断報告書 ページ 618](#)

第 8 章. 基準の操作

「Extract (抽出)」ダイアログ (オプション 3.3) を使用して、IMS データベースからセグメントを抽出するバッチ・ジョブを生成する場合は、以下を判別するために基準セットを指定できます。

- 抽出するセグメント。
- フィールド選択基準を使用して抽出するデータベース・レコード (ルート・セグメントおよびすべての従属セグメント)。
- 「Relationship Criteria (関係基準)」を使用して抽出するデータベース間の論理関係。

1 つの基準セットには、1 個の関係基準サブセットと、抽出するデータベース・レコードを判別するためのフィールド選択基準が入っている最大 n 個のサブセットが含まれています。

各フィールド選択基準サブセットが、個別にデータベース・レコードに適用されます。重複レコードは、抽出の完了後にソート・ユーティリティー・プログラムを使用して 除去されます。

「Extract (抽出)」ダイアログで設定された基準セットを作成および編集するか、または「Criteria (基準)」(オプション 4.3) を使用して、後で使用するために基準セットを作成および編集することができます。

基準セットを使用できるようにするためには、関連データベースのテンプレートがすでに作成されていなければなりません。

サブセット内では、データベース中の各セグメント・タイプごとに基準を指定できます (複数のレイアウトがあるセグメント・タイプの場合は、各レイアウトごとに基準を指定できます)。ルート・セグメントとそのすべての階層の従属セグメント (すべてのレベル) がそれらの基準と一致している場合には、ルート・セグメントがそのすべての従属セグメントとともに抽出されます。ただし、どのセグメントもその基準と一致しない場合には、そのルート・セグメントとルート・セグメントのすべての階層の従属セグメントは抽出されません。

基準セットには、常に「関係」基準サブセットが含まれています。データベースに論理関係が含まれている場合には、このサブセットを使用して、FM/IMS で論理関係のオカレンスを抽出するかどうかを決定することができます。

関連トピック

[テンプレートの作成 ページ 86](#)

「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネル

「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネルから、以下のことが可能です。

- テンプレートから基準セットを作成する (CT コマンド)
- 基準セットを既存の基準セットでモデル化する (CM コマンド)
- 基準セットを (E コマンドで) 編集して以下を保守する
 - フィールド選択基準
 - 論理関係基準
 - 抽出するセグメント
- 前に更新されたテンプレートを使用して基準セットを更新する (U コマンド)

これらのコマンド (CT、CM、E、U) について、以下で説明します。

テンプレートを使用した基準セットの作成 (CT)

1. 「**Primary Option menu (基本オプション・メニュー)**」からオプション「**4 Templates (テンプレート)**」を選択し、「**Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)**」メニューを表示します。
2. オプション「**3 Criteria sets (基準セット)**」を選択し、「**Criteria Set Entry (基準セットの入力)**」パネルを表示します。
3. 「**Criteria Set Entry (基準セットの入力)**」パネルで、作成する基準セットの詳細を入力します。
 - 「Template (テンプレート)」の「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドに、必須データ・セット (必ず、区分) を特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定します。テンプレート・メンバー名を入力するか、テンプレート名パターンを入力して「**Template Member Selection (テンプレート・メンバー選択)**」のリストからテンプレートを選択できるようにします。
 - 「Criteria (基準)」の「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドに、必須データ・セットを特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定します。データ・セットが区分データ・セットで、既存の基準セットを置き換える場合は、基準セット・メンバー名を入力するか、基準セット・メンバー名パターンを入力して「**Criteria Member Selection (基準メンバー選択)**」のリストから基準セットを選択できるようにします。
4. 次に、コマンド行に **CT** と入力して、**Enter** キーを押します。
5. 基準セットが作成されたら、以下に説明するように E コマンドを使用し、それを編集することができます。

モデルからの基準セットの作成 (CM)

1. 「**Primary Option menu (基本オプション・メニュー)**」からオプション「**4 Templates (テンプレート)**」を選択し、「**Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)**」メニューを表示します。
2. オプション「**3 Criteria sets (基準セット)**」を選択し、「**Criteria Set Entry (基準セットの入力)**」パネルを表示します。
3. 「**Criteria Set Entry (基準セットの入力)**」パネルで、作成する基準セットの詳細を入力します。
 - 「Criteria (基準)」の「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドに、必須データ・セットを特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定します。データ・セットが区分データ・セットの場合、基準セット・メンバー名を入力するか、基準セット・メンバー名パターンを入力して「**Criteria Member Selection (基準メンバー選択)**」のリストから基準セットを選択できるようにします。
 - 「Model Criteria (モデル基準)」の「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドに、必須データ・セットを特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定します。データ・セットが区分データ・セットの場合、モデル・メンバー名を入力するか、モデル名パターンを入力して「**Model Member Selection (モデル・メンバー選択)**」のリストから基準セットを選択できるようにします。
 - 次に、コマンド行に **CM** と入力して、**Enter** キーを押します。
 - 基準セットが作成されたら、以下に説明するように E コマンドを使用し、それを編集することができます。

基準セットの編集 (E)

E コマンドにより、基準セットに対するフィールド選択基準および関係基準を保守することができます。

1. 「Primary Option menu (基本オプション・メニュー)」からオプション「**4 Templates (テンプレート)**」を選択し、「Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)」メニューを表示します。
2. オプション「**3 Criteria sets (基準セット)**」を選択し、「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネルを表示します。
3. 「Criteria (基準)」の「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドおよび「**Member (メンバー)**」フィールドで、編集する基準セットの詳細を入力します。
4. コマンド行に **↵** と入力して、Enter キーを押します。

FM/IMS によって、「Criteria: Subset Selection (基準: サブセット選択)」パネルが表示されます。このパネルから、関係基準およびフィールド選択基準を保守することができます。

関連トピック

[関係基準の変更 ページ 195](#)

[フィールド選択基準の変更 ページ 196](#)

基準セットの更新

テンプレートを更新した場合は、そのテンプレートに基づくすべての基準セットを更新する必要があります。

この更新処理は、以下 2 つの方法のいずれかで行うことができます。

- 「Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)」メニューからオプション「3 Criteria Sets (基準セット)」を選択します。
- 同じメニューからオプション「6 Criteria update (基準の更新)」を選択します。

オプション 4.3 を使用してフォアグラウンドで 1 つの基準セットを更新

1. 「Primary Option menu (基本オプション・メニュー)」からオプション「**4 Templates (テンプレート)**」を選択し、「Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)」メニューを表示します。
2. オプション「**3 Criteria sets (基準セット)**」を選択し、「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネルを表示します。
3. 「Criteria (基準)」の「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドに、必須データ・セットを特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定します。データ・セットが区分データ・セットの場合、基準セット・メンバー名を入力するか、基準セット・メンバー名パターンを入力して「**Criteria Member Selection (基準メンバー選択)**」のリストから基準セットを選択できるようにします。
4. 次に、コマンド行に **↵** と入力して、Enter キーを押します。
5. テンプレートに基準セットの更新を必要とする変更が行われたことを処理が検出した場合、「Criteria set updated (基準セットが更新されました)」のメッセージが表示されます。基準セットは、その結果、テンプレートで検出された新しい情報で更新されます。これで、基準セットを編集し、セグメント内の変更に対応できるようになります。

現行のテンプレートに対して基準セットがまだ有効である場合は、「Update not required (更新は必要ありません)」と表示されます。

テンプレートに対して大きな変更が行われた場合には、更新処理によって、予想通りの結果が得られない可能性があります。その場合には、`CT` コマンドを使用してテンプレートから基準セットを再作成してから、`E` コマンドを使用してそれを編集してください。

関連トピック

[\[Criteria Member Selection \(基準メンバー選択\)\] パネル ページ 240](#)

[\[Criteria Set Entry \(基準セットの入力\)\] パネル ページ 243](#)

[Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\) ページ 373](#)

[\[Template/View/Criteria Set Menu \(テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー\)\] パネル ページ 456](#)

オプション 4.6 を使用してフォアグラウンドまたはバッチ・ジョブで 1 つ以上の基準セットを更新

Criteria set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティ) を使用すると、フォアグラウンドまたはバッチで 1 つ以上の基準セットを更新することができます。処理する基準セットは、次の一方または両方でフィルターできます。

- 基準セット名パターン (1 つの完全な基準セット名を入力すると、その 1 つの基準セットのみが処理されます)
- 最大 4 つのテンプレート名またはパターン

拡張メンバー選択オプションの使用も選択可能です。それにより、以下の 1 つ以上を使用して選択またはフィルターが可能になります。

- 名前範囲での基準セットの選択
- 基準セットを更新したユーザー ID (あるいはパターンまたは範囲) によるフィルター
- 作成日 (あるいはパターンまたは範囲) によるフィルター
- 変更日 (あるいはパターンまたは範囲) によるフィルター

以下のようにして、オプション 6 を使用し、フォアグラウンドまたはバッチ・ジョブで 1 つ以上の基準セットを更新します。

1. **[Primary Option menu (基本オプション・メニュー)]** からオプション **[4 Templates (テンプレート)]** を選択し、**[Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)]** メニューを表示します。
2. オプション **[6 Criteria set update (基準セットの更新)]** を選択し、**[Criteria set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティ)]** パネルを表示します。
3. **[Criteria set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティ)]** パネルで、更新する基準セットを選択するための詳細を入力します。
 - **[Criteria set (基準セット)]** の **[Data set name (データ・セット名)]** フィールドに、データ・セット (必ず、区分) を特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定します。
 - **[Criteria set (基準セット)]** の **[Member (メンバー)]** フィールドに、基準セット名または基準セット名パターンを指定できます。

- **「Template filter (テンプレート・フィルター)」** フィールドに、フィルターとして使用する最大 4 つのメンバー名またはパターンを指定することができます。これにより、それらのテンプレート、またはメンバー・パターンに一致するテンプレートを参照する基準セットのみが処理に選択されるようになります。
- 「Output Criteria set (出力基準セット)」の **「Data set name (データ・セット名)」** フィールドに、更新された基準セットが保管される出力データ・セットを特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定できます。このフィールドをブランクのままにすると、入力データ・セットで更新が行われます。
- 「Output Criteria set (出力基準セット)」の **「Member mask (メンバー・マスク)」** フィールドに、更新されたテンプレートを代替りの新しい名前での保管するための名前変更マスクを指定できます。
- 「Template (テンプレート)」の **「Data set name (データ・セット名)」** フィールドに、データ・セット (必ず区分化されたもの) を特定する完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名を指定します。

4. 処理オプションを選択します。

- **Batch execution (バッチ実行):** バッチでこの機能を実行します。
- **Replace member (メンバーの置換):** 出力区分データ・セットの同名メンバーを置換します。
- **Advanced member selection (拡張メンバー選択):** 特定メンバー名または総称メンバー名ではなく、選択するメンバーの範囲を指定します。
- **Specify template data sets (テンプレート・データ・セットの指定):** 基準セットで参照されるテンプレート・データ・セット名を、このテンプレート・データ・セットで更新します。このオプションを選択しないと、ユーティリティーは、基準セットで参照されるテンプレート・データ・セットを使用します。
- **Skip member list (メンバー・リストのスキップ):** メンバー選択リストを表示せずに実行します。このオプションを使用すると、メンバー・リスト・パネルを表示せずに、該当の全メンバーを処理します。指定されたパラメーターからエラー (重複した出力名など) が発生した場合は、そのエラーが強調表示されてメンバー・リスト・パネルが表示されます。
- **Check mode - no update (検査モード - 更新なし):** 結果として生成されるメンバーを保管せずに、この機能を実行します。
- **Forced update (強制更新):** 変更が検出されない場合でも更新を実行する場合。

5. Enter キーを押します。

最初に、総称として指定されたすべてのデータ・セットが検索されます。必要なデータ・セットの選択が必要です。その後、選択されたオプションに従って、次のパネルが表示されます。

6. **「Advanced member selection (拡張メンバー選択)」** が選択された場合、**「Advanced Member Selection (拡張メンバー選択)」** パネルが表示されます。ここで、基準セット名パターン、または基準セット名の範囲、および更新ユーザー ID (あるいはパターンまたは範囲)、作成日 (あるいはパターンまたは範囲)、変更日 (あるいはパターンまたは範囲) を組み合わせて指定できます。

7. Enter キーを押します。

「Skip member list (メンバー・リストのスキップ)」 を選択していない場合には、**「Criteria set Member Selection (基準セット・メンバー選択)」** パネルが表示されます。F11 (Right) を押すと右へスクロールして「Description (記述)」列を表示し、F10 (Left) を押すと元の表示に戻ります。

8. 接頭部域 (Sel) に、次の任意の接頭部コマンドを入力し、Enter キーを押して関連付けられたアクションを実行します。

B

ISPF の「Browse (ブラウズ)」パネル (File Manager の「Browse (ブラウズ)」パネルではありません) を使用してメンバーが表示されます。

E

「Subset Selection (サブセット選択)」パネルにメンバーが表示されます。

V

ISPF の「Criteria set (基準セット)」パネルを使用してメンバーが表示されます。

S

処理するメンバーを 1 つ以上選択します。

処理する基準セットに S コマンドを入力したら、**Enter** キーを押します。表示されているすべてのメンバーを選択する場合は、「*」パラメーターを指定した基本コマンド SELECT を使用できます。

9. 「**Batch execution (バッチ実行)**」が選択された場合、**JCL** が生成されます。それ以外の場合は、指示された処理が実行され、実行されたアクションの結果を通知するメッセージが表示されます。いずれかの更新が失敗した場合は、エラー・メッセージが表示され、各メンバーの状況が「**Prompt (プロンプト)**」フィールドに表示されます。

「**Criteria Set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティー)**」パネルに戻ると、以下のような要約メッセージが表示されます。

```
47 members read 33 Updated 8 Not changed 0 Not replaced 6 Errors
```

関連トピック

[「Advanced Member Selection \(拡張メンバー選択\)」パネル ページ 205](#)

[「Criteria Member Selection \(基準メンバー選択\)」パネル ページ 240](#)

[「Criteria Set Update Utility \(基準セットの更新ユーティリティー\)」パネル ページ 246](#)

[Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\) ページ 373](#)

[「Subsystem Selection \(サブシステム選択\)」パネル ページ 432](#)

[「Template/View/Criteria Set Menu \(テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー\)」パネル ページ 456](#)

関係基準の変更

「Criteria : Subset Selection (基準 : サブセット選択)」パネルでは、FM/IMS で FM/IMS が論理関係を追跡する方法を変更することができます (データベースに論理関係が含まれている場合)。

1. 関係基準サブセットに対して **␣** を入力します。
2. Enter キーを押します。

FM/IMS が「Relationship Criteria (関係基準)」パネルを表示します。

「Relationship Criteria (関係基準)」パネルから、以下を行うことができます。

- データの抽出で FM/IMS が追跡する論理関係を判別する。

これを行うには、選択解除する論理関係に対して **S** を入力します。抽出中、FM/IMS はこの論理関係を追跡しません。

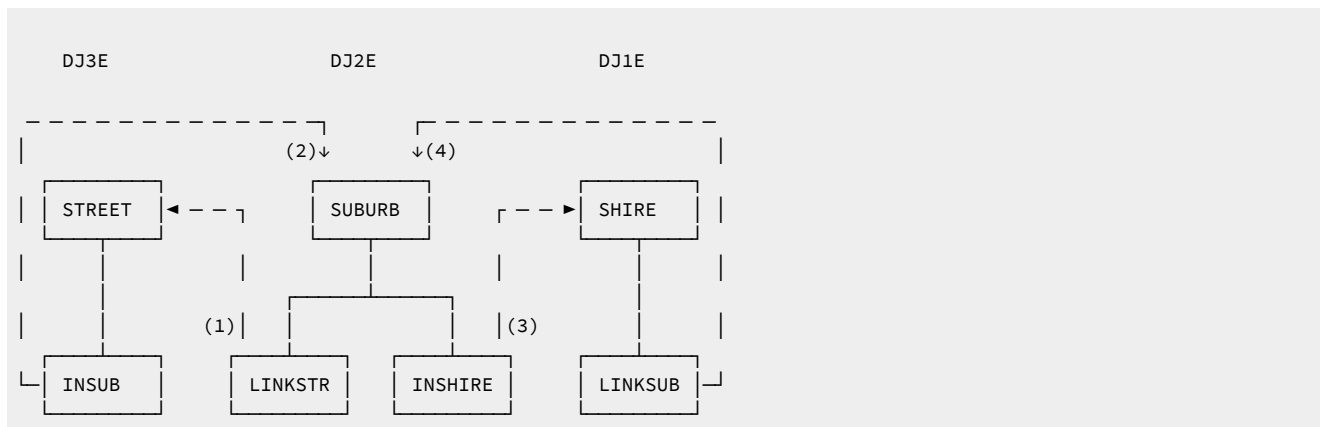
- それぞれのデータベース・レコードごとに追跡される論理関係の数を指定する。

これを行うには、各論理関係に対して「Max occurrences to pursue per DB record (DB レコード毎実行最大オカレンス数)」フィールドで数値を指定します。「**Default max relationship occurrences to pursue (実行するデフォルトの最大関係オカレンス数)**」フィールドは、論理関係に対して値が指定されていない場合に使用されます。

このようにして、FM/IMS では、データベースの小さなサブセットをテスト目的で作成することができます。

下記の関係図は、キー **FREMANTLE** を持つ SUBURB セグメントの論理関係が抽出される方法を示しています。

図 20. DJ2E データベースの論理関係



追跡する論理関係を指定することは、抽出されるデータを制限できることを意味します。

例えば、FREMANTLE と WEST PERTH の情報を、他の suburb は含まずに、論理的に関係するデータベースから抽出することができます。次のセグメント間の論理関係を追跡しないことによって、これを行うことができます。

- INSUB と SUBURB
- LINKSUB と SUBURB

したがって、他の suburb にも存在する番地名は抽出されません。また、FREMANTLE と WEST PERTH から離れている他の suburb のある shire も抽出されません。

関係が追跡されないことを確実にするためには、「Relationship Criteria (関係基準)」パネル上でそれを選択解除してください。

フィールド選択基準の変更

既存のフィールド基準サブセットを編集するには、フィールド基準サブセットに対して **B** を入力します。FM/IMS は、この基準サブセットの「Segment Selection (セグメント選択)」パネルを表示します。新規のフィールド基準サブセットを作成するには、任意の基準サブセットに対して **I** を入力します。FM/IMS は、この新規基準サブセットの「Segment Selection (セグメント選択)」パネルを表示します。「Segment Selection (セグメント選択)」パネルから、FM/IMS が抽出するセグメ

ントを判別することができます。1つの基準サブセットでこれを変更した場合には、この基準セット内のすべてのFM/IMS基準サブセットで、抽出されるセグメントが変更されることとなります。

また、このパネルから、抽出されるデータベース・レコードを判別するフィールド選択基準を保守することができます。複数の基準サブセットがある場合には、FM/IMSは基準サブセットのそれぞれに一致するデータを抽出し、続いて、重複レコードを除去するためにデータをソートします。

1. IMSセグメントに対してEを入力します。
2. Enterキーを押します。

FM/IMSは、以下の選択内容を表示します。

- 「Criteria : Segment Layout Selection (基準 : セグメント・レイアウト選択)」パネル (セグメントに複数のレイアウトが含まれる場合)
- 「Criteria : Segment Layout (基準 : セグメント・レイアウト)」パネル (セグメントに単一のレイアウトが含まれる場合)

セグメントに対する複数のレイアウトがセグメントに含まれている場合には、FM/IMSは、「Criteria : Segment Layout (基準 : セグメント・レイアウト)」パネルを表示します。FM/IMSにより、それぞれの個々のレイアウトに対してフィールド選択基準を指定することができます。例えば、suburbセグメントにcityおよびcountryのレイアウトがある場合には、Fで始まるcity suburb、およびSで始まるcountry suburbのみを抽出することができます。

1. 「Segment Layout Selection (セグメント・レイアウト選択)」パネルのセグメント・レイアウトに対して、または「Criteria Specification (基準指定)」パネル上で単一のレイアウトを持つIMSセグメントに対してEと入力します。
2. Enterキーを押します。

「Criteria : Segment Layout (基準 : セグメント・レイアウト)」パネルから、基準に一致するIMSセグメント (単一セグメントの場合) を抽出するために使用されるか、またはそれぞれのレイアウトごとに (複数のレイアウトに) 指定されたセグメントに一致する基準を持つ所定のレイアウトを使用してIMSセグメントを抽出するために使用される、フィールド選択基準を入力することができます。

データの抽出時に、FM/IMSは、データベース・レコード (ルート・セグメント + 従属セグメント) が抽出されるかどうか、またはレイアウトに対して指定された基準と一致して特定のレイアウトを使用するIMSセグメントを判別するために、それぞれの基準サブセットごとにセグメントおよびレイアウトに対してすべてのデータを突き合わせます。いずれかの基準で障害が起こった場合、FM/IMSはデータベース・レコードを抽出しません。異なる基準でデータベース・レコードを抽出するには、複数の基準サブセットを使用することができます。

基準 1

STREET CANNING HWY が含まれる、**S** で始まるセグメントを抽出する。

基準 2

POSTCODE > 6550 で、**STREET VICTORIA PARK** が含まれるセグメントを抽出する。

第 9 章. 監査証跡報告書の印刷

「Print Audit Trail (監査証跡の印刷)」機能 (オプション 3.8) は、ユーザーの監査ログ・データ・セットから監査証跡報告書を作成します。FM/IMS 機能は、監査ログ記録が必須であるか、「Edit (編集)」の場合のみにユーザーが監査ログ記録を要求するときに、監査ログ・データ・セットを作成します。

報告書に含まれる内容

監査報告書は、以下から構成されます。

- セッション情報
- 監査イベントのログ
- 監査証跡統計

監査イベントのログに印刷される IMS セグメント・データは、定様式または不定形式の場合があります。不定形式モードは 16 進数印刷出力です。定様式報告書には、データベースの編集に使用されたテンプレートに従ってデータが印刷されます。

監査証跡データ・セットの作成方法

1. バッチ・ジョブ FMNSMFX (FM/IMS と一緒に提供されたもの) を使用します。

このジョブは、SMF ログ・ファイルからのデータを使用して監査証跡データ・セットを作成します。詳しくは、*File Manager Customization Guide*を参照してください。

「Print audit trail report (監査証跡報告書の印刷)」オプションを選択すると、「Print Audit Trail (監査証跡の印刷)」パネル [ページ 376](#) に示されている「Data Create Utility (データ作成ユーティリティー)」パネルが表示されます。

監査証跡報告書の印刷機能は、監査証跡データ・セットの内容を使用して、監査証跡報告書を印刷するために使用します。監査証跡データ・セットは、「Edit (編集)」オプションの使用時に、「Create an audit trail (監査証跡の作成)」オプションを選択している場合に作成されます。

関連トピック

[「Edit Entry \(編集項目の入力\)」パネル ページ 286](#)

監査証跡報告書の印刷方法

監査証跡報告書を印刷するには、以下のようになります。

1. 印刷する監査証跡データが入っている監査証跡データ・セットの名前(「データ・セット名」)を指定します。

File Manager で監査証跡データ・セットを作成した場合、その名前の形式は `userid.IMSAUDIT.Dyyymmdd.Thhmmss` です。ここで、

userid

ユーザーの ID

IMSAUDIT

監査ログ (証跡) としてデータ・セットを識別する定数

Dyymmdd

File Manager がこの監査証跡データ・セットを作成した日付

Thhmmss

File Manager がこの監査証跡データ・セットを作成した時刻



注: AUDITHLQ オプションが FMNPOPT (「カスタマイズ・ガイド」を参照) で設定されている場合は、監査証跡データ・セットの名前は、*audithlq.FMNLOG.Dyymmdd.Thhmmss* です。

自分で監査証跡データ・セットを作成した場合には、提供されたバッチ・ジョブ FMNSMFX で指定したデータ・セット名を使用してください。詳しくは、*File Manager Customization Guide*を参照してください。

2. 監査証跡報告書を識別しやすくするために、「説明」入力フィールドを使用してください。記述に組み込みスペースが入る場合には、全体を引用符で囲む必要があります。入力した説明は、報告書の「定様式監査イベント・レコード」セクションに表示されます。
3. 必要な処理オプションを選択します。

Formatted print (定様式印刷)

報告書項目を、16 進形式でなく、定様式文字表現で表示します。

Print only Changed Fields (変更されたフィールドのみ印刷)

印刷行の量を制限します。

Delete data set after printing (印刷後にデータ・セットを削除)

データ・セットの印刷後にデータ・セットを保持するかまたは削除するか。

Browse report (報告書のブラウズ)

監査証跡報告書をすぐに表示します。



注: 監査証跡報告書の内容は、「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネルの「**PRINTOUT**」印刷オプションで指定したように SYSOUT クラスに転送されます。監査証跡報告書をブラウズするには、「**PRINTOUT**」印刷オプションを「SYSOUT=c」に設定してください。

関連トピック

[印刷処理オプションの設定 \(オプション 0.1\) ページ 41](#)

Batch execution (バッチ実行)

バッチ・ジョブを使用して、監査証跡報告書を印刷するための JCL を生成します。

1. Enter キーを押します。

Audit Trail (監査証跡)

データ・セット名

これは、印刷する編集セッションの監査証跡を含むデータ・セットの名前です。このデータ・セットは、FM/IMS によって直接作成して埋め込むか、あるいは SMF ログ・ファイルから取り込むこともできます。SMF ファイルからデータを取り込むには、ジョブのセットアップが必要です。サンプル JCL が提供されています。

説明

監査証跡報告書の要約統計ページに表示する監査証跡の記述。この記述に組み込みスペースを入れる場合は、引用符で囲む必要があります。

関連トピック

[\[Print Audit Trail \(監査証跡の印刷\)\] パネル ページ 376](#)

SMF ログ・ファイル検索 JCL

SORT の SYSIN ステートメントをこの例に示されているとおりに使用すると、SMF ヘッダーが除去されて、出力は FM/IMS 印刷プログラムが処理できる形式でレンダリングされます。

図 21. SMF ログ・ファイル検索

```
//EXTRACT EXEC PGM=IFASMFDP
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SMFIN DD DISP=SHR,DSN=your.install.SMF.logfile
//DUMP DD DISP=(NEW,PASS,DELETE),DSN=whatever.you.wanna.callit,
// DCB=*.SMFIN,UNIT=unit,SPACE=(cyl,(prim,sec),RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
INDD(SMFIN,OPTIONS(DUMP))
OUTDD(DUMP,TYPE(your SMF rec id))
/*
//SORT EXEC PGM=SORT,COND=(0,LT)
//SYSUDUMP DD SYSOUT=0
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DISP=(OLD,DELETE,DELETE),DSN=*.EXTRACT.DUMP
//SORTOUT DD DISP=(NEW,CATLG,DELETE),DSN=whatever.you.wanna.callit,
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=32756,BLKSIZE=32760),
// UNIT=unit,SPACE=(cyl,(prim,sec),RLSE)
//SORTWK01 DD UNIT=unit,SPACE=(cyl,(prim,sec),RLSE)
//SORTWK02 DD UNIT=unit,SPACE=(cyl,(prim,sec),RLSE)
//SORTWK03 DD UNIT=unit,SPACE=(cyl,(prim,sec),RLSE)
//SORTWK04 DD UNIT=unit,SPACE=(cyl,(prim,sec),RLSE)
//SYSIN DD *
SORT FIELDS=(47,08,CH,A,
             11,04,CH,A,
             07,04,CH,A,
             15,04,CH,A,
             31,08,CH,A)
INCLUDE COND=(6,1,CH,EQ,X'your SMF rec id')
OPTION EQUALS
OUTREC FIELDS=(1:1,4,5:19)
/*
```

監査証跡報告書

監査証跡報告書に以下の 3 つ部分に分けられます。

- セッション情報
- 監査イベントのログ
- 監査証跡統計

各ページの見出しには、その報告書が印刷された日時が入ります。見出しの下に、それぞれのデータベース呼び出しの先頭にセグメント見出しが印刷されます。これは、各データベース・アクションに割り当てられた連続番号、アクションのタイプの記述 (UPDATE/DELETE/INSERT)、およびそれが実行された日時から構成されます。次の行には、オプションの記述付きのセグメント名およびセグメント・レベルが示され、複数タイプ・レコードの場合はその後に RCDTYPE 1 および 2 の値が示されます。3 行目には、それぞれのキーを「,」で区切って、連結キーがリストされます。印刷可能でない形式のキーがあった場合には、すべてのキーが 3 行の 16 進形式で印刷されます。

チェックポイント呼び出し発行のタイミング

FM/IMS は、SAVE コマンドが入力されるたびに、「n」回のデータベース更新の後に自動的にチェックポイント呼び出しを発行します。「n」は、「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」パネル (オプション 0.6.4) および「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」パネル (オプション 0.7.2) の「EDIT Checkpoint Frequency (EDIT チェックポイント頻度)」フィールドで指定され、**AUTOSAVE** コマンドを介してアクティブにされます。チェックポイント呼び出しは、監査証跡の単一行に印刷されます。

定様式詳細統計

定様式報告書を印刷するときには、File Manager は EDIT セッション中に指定されたものと同じテンプレート/ビューを使用します。報告書の最初の列には、レベルおよびフィールド名がセグメント・レイアウトに表示されている通りにリストされます。この形式は、EDIT/VIEW サブオプションと類似しています。

次の 2 つの列は変更前と変更後の値です。「Print only Changed Fields (変更されたフィールドのみ印刷)」オプションが選択されたかどうかにより、この列の一方または両方が使用されます。印刷不能データの含まれるフィールドがあった場合には、すべての値が 16 進形式で印刷されます。右端の列は通知メッセージ用です。

- 「occurs depending on」文節のオブジェクトの値が COBOL セグメント・レイアウトで増加された場合には、「n OCCURS ADDED」が印刷されます。(COBOL のみ)
- 「occurs depending on」文節のオブジェクトの値が COBOL セグメント・レイアウトで減少された場合には、「n OCCURS DELETED」が印刷されます。(COBOL のみ)
- 印刷されるオブジェクトの値がレイアウトの形式に準拠していない場合には、「FIELD INVALID」が印刷されません。

各セグメントの終わりに、合計セグメント長が印刷されます。

関連トピック

[図 174: コミットされた更新のみが報告される定様式監査報告書 \(パート 1/2\) ページ 692](#)

不定形式詳細統計

セグメント見出しの 2 行目には、「Edit sub Option (編集サブオプション)」と呼ばれる不定形式統計用の追加フィールドがあります。これは、セグメントが表、16 進数、文字、または単一セグメントとして編集されたことを示します。

16 進形式での印刷時には、データの各行が 3 印刷行に表されます。最上部の行は文字表現です。印刷不能な記号はスペースとして印刷されます。次の 2 行は、上の行が高位ハーフバイトおよび下の行が下位ハーフバイトの 16 進表記です。それぞれの行に最大 100 バイトを保持できます。

Start (開始) および Length (長さ) 列は、セグメント・データ中をナビゲートするために使用できます。

変更されたデータには、4 行目の左方でダッシュおよび「CHANGE」というテキストによるマークが付けられます。

セグメント・キー域には、4 行目にアスタリスクでマークが付けられます。

定様式印刷の場合と同様に、変更されていないフィールドは選択できますが、印刷はされません。表示には 1 行に 100 バイトを要するため、1 つのバイトが変更された場合であっても 100 バイトが印刷されます。印刷されない未変更の 100 バイトのグループが、メッセージ「n BYTES NOT PRINTED」を含む 1 行で置き換えられます。

関連トピック

[図 172: 監査ログ内のすべての監査イベントが報告される不定形式監査報告書 \(パート 1/2\) ページ 690](#)

要約統計

要約統計には、詳細統計画面と同じ見出しがあります。

各ページの見出しには、その報告書が印刷された日時とともに、監査されたデータベースの名前およびそのデータ・セットの名前が入ります。

次の数行には、データベースのオープンおよびクローズの日時と、それを実行したユーザーが記述されます。ユーザーの TSO-PREFIX が TSO-ID と異なる場合には、両方の行が印刷されます。

次は、(配列パネルで入力された) Audit Trail Description (監査証跡の記述) と監査証跡データ・セットです。DBDlib および XREF データ・セット名も印刷されます。

変更された Total Segments (合計セグメント数)、Replaced (置き換えのために小計に分割されたセグメント数)、Inserted (挿入されたセグメント数)、および Deleted (削除されたセグメント数) が次に印刷されます。

ヘッダーに正しい目印が入っていなかったために受け入れ不能と見なされたセグメントの数が、その次に印刷されます。

下部には、指定した監査証跡報告書オプションがあります。

監査証跡報告書

監査証跡報告書は、2 つのセクションに分かれています。詳細統計と要約統計です。

詳細統計には、すべての変更されたセグメントについて、変更の前と後が表示されます。この報告書の不定形式版にも、変更された位置が示されます。この報告書の定様式版には、データがテンプレートを使用して編集されている場合には、フィールドの値が表示されます。

要約統計には、変更、削除、または挿入されたセグメントの合計がリストされます。

第 II 部. 参照

第 10 章. パネルおよびフィールド

この節では、FM/IMS のすべての処理パネルをリストし、パネル内の各フィールドの定義を紹介し、該当する場合は、各フィールドに有効な値の範囲をリストします。

『親パネル』の節では、現行パネルにナビゲートできる元のパネルの名前をリストします。『子パネル』の節では、現行パネルからナビゲートするリンク先のパネルの名前をリストします。『関連トピックおよび例』の節では、パネルの使用方法を説明する『第 I 部 FM/IMS の操作』内の場所をリストします。

「Advanced Member Selection (拡張メンバー選択)」パネル

「Advanced Member Selection (拡張メンバー選択)」パネルは、以下の場合に表示されます。

- 「Advanced member selection (拡張メンバー選択)」オプションが、「View Update Utility (ビューの更新ユーティリティ)」、「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」、または「Criteria Set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティ)」パネルで選択されている。

この選択パネルで、更新するモジュールの検索を詳細化することができます。

パネルとフィールドの定義

図 22. 「Advanced Member Selection (拡張メンバー選択)」パネル

Process	Options	Help
File Manager		Advanced Member Selection
Select members from: FMN. IMS. IVP. VIEW		
Member name (or mask)		or range from: to:
Using ISPF Statistics criteria:		
Updated by (User id or mask)		or range from: to:
Date created (YYYY/MM/DD or mask)		or range from: to:
Date modified (YYYY/MM/DD or mask)		or range from: to:
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetrieve	F7=Backward
		F8=Forward

Member name (or mask) (メンバー名 (またはマスク))

入力区分データ・セットのメンバー名に基づいて、出力区分データ・セットのメンバーを名前変更するパターンを指定します。メンバー名のパターンは、メンバー名で有効な任意の文字と 2 つの特殊文字パターン、アスタリスク (*) とパーセント記号 (%) で構成されます。

*

変更がない複数の文字を表すプレースホルダー文字。マスクに指定するアスタリスクは、1 つのみにしてください。2

つ目以降のアスタリスク文字は、パーセント記号として扱われます。例えば、ABC* と入力すると、名前変更後のメンバーはすべて ABC で始まり、その後、古いメンバー名の残りが続きます。

%

変更がない単一文字を表すプレースホルダー文字。パーセント記号は、メンバー名の任意の場所に必要な数だけ指定できます。例えば、%%%A* と入力すると、名前変更後のメンバーの最初の 3 文字は変わらず、4 文字目が文字「A」に置き換えられ、古いメンバー名の残りは変更されません。

range from / to (範囲の開始/終了)

選択する名前の開始および終了 (それを含む) を指定します。from (開始) の名前に A、to (終了) の名前に D* を指定すると、「A」から「D」(それを含む) で始まるすべての名前をリストします。

Using ISPF statistics criteria (ISPF 統計基準の使用)

ユーザー ID、作成日、または変更日のパターン、名前、または範囲を指定します。

親パネル

- [\[Criteria Set Update Utility \(基準セットの更新ユーティリティ\)\]](#) パネル ページ 246
- [\[Template Update Utility \(テンプレートの更新ユーティリティ\)\]](#) パネル ページ 450
- [\[View Update Utility \(ビューの更新ユーティリティ\)\]](#) パネル ページ 462

子パネル

- [\[View Member Selection \(ビュー・メンバー選択\)\]](#) パネル ページ 460

「AGN Selection (AGN 選択)」 パネル

「AGN Selection (AGN 選択)」 パネルは、ブラウズ、編集、抽出、ロード、印刷、バッチ編集、またはバッチ・ブラウズの入力パネルで以下の項目を指定した場合に表示されます。

- 「Region type (領域タイプ)」で「BMP」。
- AGN を使用し、その一部が FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている IMS サブシステム。
- AGN 名を入力しなかったか、または AGN 名パターンを入力した。

AGN 名が指定されない場合、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている指定サブシステムのすべての AGN がパネルに表示されます。AGN 名パターンが指定された場合、FM/IMS インストール・オプション・モジュール内の指定サブシステムの AGN で、そのパターンに名前が一致するものがすべてパネルに表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 23. 「AGN Selection (AGN 選択)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Browse : AGN Selection
Subsystem IF62 IMS V13 NT QA System		
Cmd	AGN	Description
—	FMNA6201	IVP System
—	FMNA6202	Fast Path Databases
—	FMNA6203	HDOU System Only
—	FMNA6204	WP System - Update
—	FMNA6205	WP System - RO
—	FMNA6206	Dynamic PSB Access
	****	End of data ****
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
	F8=Forward	Scroll PAGE

パネルには、選択した IMS サブシステムの名前と説明、および各 AGN ごとに以下の詳細が表示されます。

Cmd (コマンド)

選択入力フィールド

AGN

アプリケーション・グループ名

Description (説明)

FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定された AGN 記述。

親パネル

- 「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」 パネル ページ 229
- 「Extract Entry (抽出項目の入力)」 パネル ページ 297
- 「Edit Entry (編集項目の入力)」 パネル ページ 286
- 「Print Entry (印刷項目の入力)」 パネル ページ 379
- 「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」 ページ 361
- 「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」 パネル ページ 215
- 「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」 パネル ページ 208

子パネル

- なし。

「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」パネル

「Batch Browse Entry」パネルは、「Batch Browse」ダイアログの最初のパネルです。「Utility Menu」パネルでオプション7 (Batch Browse) を選択すると表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 24. 「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS Batch Browse Entry Panel		
IMS:		
Subsystem name . . .	IF52	PSB name . . . _____ (If static PSB)
Database name . . .	DJ1E	AGN name . . . _____ (If BMP)
View:		
Data set name . . .	*	
Member	_____	
Processing Options:		
PSB type	Region type	Fetch DB dsnames from (if DLI)
1 1. Dynamic	1 1. DLI	2 1. User profile
2. Static	2. BMP	2. DFSMDA members
View usage		
1 1. New	Enter "/" to select option	
2. Existing	- Skip DB data set panel (if DLI)	
3. None	- Edit view	
	- Include template DD	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
	F8=Forward	

IMS

Subsystem name (サブシステム名)

データを抽出するデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID。FM/IMS は、指定された名前のサブシステムを、FM/IMS インストール・オプション・モジュールから検索します。サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に、「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるサブシステムのリストから、サブシステムを選択することができます。

PSB name

「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択した場合は、バッチ参照で使用する PSB の名前を指定します。指定する PSB は、ブラウズするデータベースの PCB を持っている必要があります。

FM/IMS は、IMS カタログまたは PSB ライブラリーのいずれかで、指定された名前の PSB を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した PSB ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの PSB ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの PSB ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの PSB ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「PSB Data set name (PSB データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した PSB ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する PSB ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 PSB ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった PSB を使用します。

PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力した場合に、「PSB Selection (PSB 選択)」パネルが表示されます。パネルに表示される PSB のリストから、PSB を選択することができます。



注: 「PSB type (PSB タイプ)」で「Dynamic (動的)」を選択した場合、このフィールドは無視されます。

Database name (データベース名)

ブラウズするデータベースの名前。

FM/IMS は、IMS カタログまたは DBD ライブラリーのいずれかで、指定された名前の DBD を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した DBD ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの DBD ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの DBD ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの DBD ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「DBD Data set name (DBD データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した DBD

ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する DBD ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 DBD ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった DBD を使用します。

以下は、**「PSB type (PSB タイプ)」** で「Dynamic (動的)」を選択した場合に適用されます。

- データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合は、「Database Selection (データベース選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるデータベースのリストから、データベースを選択することができます。
- 選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - ブラウズするデータベースの DBD。
 - ブラウズするデータベースに論理的に関連している各データベースごとの DBD。

以下は、**「PSB type (PSB タイプ)」** で「Static (静的)」を選択した場合に適用されます。

- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネルは、以下のいずれかが該当する場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。

「PCB Selection (PCB 選択)」パネルに表示されたデータベース PCB のリストから、PCB を選択することができます。

- サブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - PSB で指定されたそれぞれのデータベースごとの DBD
 - PSB で指定されたデータベースに論理的に関連しているそれぞれのデータベースごとの DBD

AGN name (AGN 名)

アプリケーション・グループ名 (AGN) は、IMS リソースのグループを示します。指定した名前は、「Region type (領域タイプ)」で「BMP」を選択した場合に、IMS 領域コントローラーに渡されます。

AGN を使用しないサブシステムを選択した場合、AGN 名は入力しないでください。

AGN

を使用するサブシステムを選択した場合は、バッチ参照に必要なアクセスを提供し、かつ使用す

る権限を持っている AGN を指定します。(FM/IMS が開始する BMP 領域は、指定された AGN に関連した IMS リソースを使用する許可が与えられているだけです。)

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルは、以下の条件がすべて真の場合に表示されます。

- BMP の領域タイプが選択されている。
- 選択したサブシステムが AGN を使用している。
- 選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている。
- AGN 名が入力されていない。または、AGN 名パターンが入力されており、FM/IMS インストール・オプション・モジュールに、パターンと一致する選択したサブシステム用の AGN が存在する。

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルに表示される AGN のリストから、AGN を選択できます。選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされていない場合は、AGN のフルネームを指定する必要があります。



注: 「Region type (領域タイプ)」で「DLI」を選択すると、このフィールドは無視されます。

View (表示)

Data set name (データ・セット名)

「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合、これはバッチ参照で使用するビューを含むデータ・セットの名前です。



注: 「View usage (ビューの使用)」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Member (メンバー)

「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合、以下を実行してください。

- バッチ参照で使用するビューが PDS(E) にある場合、このフィールドにはビュー・メンバー名を指定します。
- バッチ参照で使用するビューが順次データ・セットにある場合は、このフィールドをブランクにします。



注: 「View usage (ビューの使用)」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

PSB type (PSB タイプ)

バッチ参照でデータベースにアクセスするために使用する PSB のタイプ。以下のタイプがあります。

1.Dynamic (動的)

バッチ参照では、バッチ・ジョブの開始時に生成される一時 PSB を使用します。

2.Static (静的)

バッチ参照では、「PSB name」フィールドで指定した既存の PSB を使用します。

Region type (領域タイプ)

バッチ参照を実行する領域のタイプ。以下のタイプがあります。

1.DLI

DL/I

バッチ処理領域の場合。データベースがオフラインであるか、またはデータ共有サポートがある場合に、DL/I バッチ処理領域を使用することができます。

2.BMP

BMP 領域の場合。データベースがオンラインの場合に、BMP 領域を使用することができます。

Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元) (DLI の場合)

「Region type (領域タイプ)」に「DLI」を選択し、HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみではない IMS サブシステムを選択した場合、以下のようになります。

1.ユーザー・プロファイル

バッチ参照では、ユーザー・プロファイルに保管された名前を持つデータベース・データ・セットを使用します。

2.DFSMDA メンバー

バッチ参照では、DFSMDA 動的割り振りメンバーで指定されたデータベース・データ・セットを使用します。



注: 以下のいずれかを指定した場合、このフィールドは無視されます。



- 「Region type (領域タイプ)」で「BMP」。
- HALDB データベース。
- FM/IMS インストール・オプション・モジュールでのみ、動的割り振りとして定義されている IMS サブシステム。

View usage (ビューの使用)

バッチ参照で新規ビューを使用するか、既存ビューを使用するか、またはビューを使用しないかを指定します。以下のオプションがあります。

1.New (新規作成)

バッチ参照で新規ビューを使用する場合は、このオプションを選択します。

バッチ参照では、指定されたデータベースのテンプレートから一時ビューが作成されます。

FM/IMS

は、テンプレートを、ユーザーまたは管理者が指定したテンプレート・ライブラリーから検索します。FM/IMS が検索を行うテンプレート・ライブラリーは、選択したサブシステムに依存します。

- 指定されたサブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがない場合、FM/IMS は、「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネルで指定されたテンプレート・ライブラリーから検索します。
- サブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがある場合、FM/IMS は、FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されたサブシステムをデフォルトのテンプレート・ライブラリーから検索します。

FM/IMS は、指定された順番で各テンプレート・ライブラリーで検索を行い、指定されたデータベース名が最初に見つかったテンプレートを使用します。

2.既存

バッチ参照で既存ビューを使用する場合は、このオプションを選択します。バッチ参照では、ビューの「Data set name (データ・セット名)」フィールドおよび「Member (メンバー)」フィールドで指定されたビューを使用します。

3.None (なし)

バッチ参照でビューを使用しない場合は、このオプションを選択します。

Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ) (DLI の場合)

FM/IMS が「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルまたは「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルを表示しないようにする場合は、このオプションを選択します。

このオプションを選択せず、「**Region type (領域タイプ)**」で「DLI」を選択した場合、「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」または「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルが表示されます。



注: 「**Region type (領域タイプ)**」で「BMP」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Edit view (ビューの編集)

「**View usage (ビューの使用)**」で「Existing (既存)」を選択し、バッチ参照で使用する前にビューを編集したい場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、FM/IMS はビューのデータ・セット・フィールドおよびメンバー・フィールドで指定されたビューを編集および保管できる「View (ビュー)」ダイアログを開始します。



注: 「**View usage (ビューの使用)**」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Include template DD (テンプレート DD の組み込み)

バッチ参照で実行する REXX プロシージャに、TPLDD パラメーターを指定した VIEWIMS 呼び出しを組み込む場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、生成された JCL に、指定したサブシステムのテンプレート・データ・セットを指定する TDDIN DD ステートメントが組み込まれます。

関連トピック

[「Batch Edit Entry \(バッチ編集項目の入力\)」パネル ページ 215](#)

親パネル

- [「Utility Menu \(ユーティリティ・メニュー\)」パネル ページ 457](#)

子パネル

- [「AGN Selection \(AGN 選択\)」パネル ページ 206](#)
- [「Data Set Selection \(データ・セット選択\)」パネル ページ 251](#)
- [「Database Data Set Display \(データベース・データ・セット表示\)」パネル ページ 252](#)
- [「Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)」パネル ページ 254](#)
- [「PCB Selection \(PCB 選択\)」パネル ページ 370](#)
- [「PSB Selection \(PSB 選択\)」パネル ページ 389](#)
- [「Subsystem Selection \(サブシステム選択\)」パネル ページ 432](#)
- [「View Member Selection \(ビュー・メンバー選択\)」パネル ページ 460](#)
- [「Batch Browse Options \(バッチ・ブラウズ・オプション\)」パネル ページ 215](#)

「Batch Browse Options (バッチ・ブラウズ・オプション)」パネル

「Batch Browse Options (バッチ・ブラウズ・オプション)」パネルは、「Batch Edit Options (バッチ編集オプション)」パネルと同じです。

入力フィールドの説明については、「Batch Edit Options (バッチ編集オプション)」パネルを参照してください。

関連トピック

[「Batch Edit Options \(バッチ編集オプション\)」パネル ページ 222](#)

親パネル

- [「Batch Browse Entry \(バッチ・ブラウズ項目の入力\)」パネル ページ 208](#)
- [「Database Data Set Display \(データベース・データ・セット表示\)」パネル ページ 252](#)
- [「Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)」パネル ページ 254](#)

子パネル

- [「JCL Submission \(JCL 実行依頼\)」パネル ページ 357](#)

「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネル

「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネルは、「Batch Edit (バッチ編集)」ダイアログの最初のパネルです。これは、「Utility Menu (ユーティリティ・メニュー)」パネルでオプション 6 (「Batch Edit (バッチ編集)」) を選択すると表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 25. 「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネル

<u>P</u> rocess	<u>O</u> ptions	<u>H</u> elp
FM/IMS Batch Edit Entry Panel		
IMS:		
Subsystem name . . .	IF52	PSB name . . . _____ (If static PSB)
Database name . . .	DJ1E	AGN name . . . _____ (If BMP)
View:		
Data set name . . .	*	_____
Member	_____	
Processing Options:		
PSB type	Region type	Fetch DB dsnames from (if DLI)
<u>1</u> 1. Dynamic	<u>1</u> 1. DLI	<u>2</u> 1. User profile
2. Static	2. BMP	2. DFSMDA members
View usage		
<u>1</u> 1. New	Enter "/" to select option	
2. Existing	_ Skip DB data set panel (if DLI)	
3. None	_ Edit view	
	_ Include template DD	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
	F8=Forward	

IMS

Subsystem name (サブシステム名)

編集するデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID。FM/IMS は、指定された名前のサブシステムを、FM/IMS インストール・オプション・モジュールから検索します。サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に、「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるサブシステムのリストから、サブシステムを選択することができます。

PSB name

「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択した場合、バッチ編集で使用する PSB の名前を指定します。指定する PSB は、編集するデータベースの PCB を持っている必要があります。

FM/IMS は、IMS カタログまたは PSB ライブラリーのいずれかで、指定された名前の PSB を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した PSB ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの PSB ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの PSB ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの PSB ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「PSB Data set name (PSB データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した PSB ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する PSB ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 PSB ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった PSB を使用します。

PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力した場合に、「PSB Selection (PSB 選択)」パネルが表示されます。パネルに表示される PSB のリストから、PSB を選択することができます。



注: 「PSB type (PSB タイプ)」 で「Dynamic (動的)」を選択した場合、このフィールドは無視されます。

Database name (データベース名)

編集するデータベースの名前。

FM/IMS は、IMS カタログまたは DBD ライブラリーのいずれかで、指定された名前の DBD を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した DBD ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの DBD ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの DBD ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの DBD ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「DBD Data set name (DBD データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した DBD ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する DBD ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 DBD ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった DBD を使用します。

以下は、「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Dynamic (動的)」を選択した場合に適用されます。

- データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合は、「Database Selection (データベース選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるデータベースのリストから、データベースを選択することができます。
- 選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - 編集するデータベースの DBD。
 - 編集するデータベースに論理的に関連している各データベースごとの DBD。

以下は、「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Static (静的)」を選択した場合に適用されます。

- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネルは、以下のいずれかが該当する場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。

「PCB Selection (PCB 選択)」パネルに表示されたデータベース PCB のリストから、PCB を選択することができます。

- サブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - PSB で指定されたそれぞれのデータベースごとの DBD
 - PSB で指定されたデータベースに論理的に関連しているそれぞれのデータベースごとの DBD

AGN name (AGN 名)

アプリケーション・グループ名 (AGN) は、IMS リソースのグループを示します。指定した名前は、「Region type (領域タイプ)」で「BMP」を選択した場合に、IMS 領域コントローラーに渡されます。

AGN を使用しないサブシステムを選択した場合、AGN 名は入力しないでください。

AGN

を使用するサブシステムを選択した場合、バッチ編集に必要なアクセスを提供し、かつ、使用する権限のある AGN を指定します。(FM/IMS が開始する BMP 領域は、指定された AGN に関連した IMS リソースを使用する許可が与えられているだけです。)

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルは、以下の条件がすべて真の場合に表示されます。

- BMP の領域タイプが選択されている。
- 選択したサブシステムが AGN を使用している。
- 選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている。
- AGN 名が入力されていない。または、AGN 名パターンが入力されており、FM/IMS インストール・オプション・モジュールに、パターンと一致する選択したサブシステム用の AGN が存在する。

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルに表示される AGN のリストから、AGN を選択できます。選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされていない場合は、AGN のフルネームを指定する必要があります。



注: 「Region type (領域タイプ)」で「DLI」を選択すると、このフィールドは無視されます。

View (表示)

Data set name (データ・セット名)

「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合、これはバッチ編集で使用するビューを含むデータ・セットの名前です。



注: 「View usage (ビューの使用)」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Member (メンバー)

「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合、以下を実行してください。

- バッチ編集で使用するビューが PDS(E) にある場合、このフィールドにはビュー・メンバー名を指定します。
- バッチ編集で使用するビューが順次データ・セットにある場合、このフィールドをブランクにします。



注: 「View usage (ビューの使用)」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

PSB type (PSB タイプ)

バッチ編集でデータベースにアクセスするために使用する PSB のタイプ。以下のタイプがあります。

1.Dynamic (動的)

バッチ編集では、バッチ・ジョブの開始時に生成する一時的な PSB を使用します。

2.Static (静的)

バッチ編集では、「PSB name (PSB 名)」フィールドに指定している既存の PSB を使用します。

Region type (領域タイプ)

バッチ編集を実行する領域のタイプ。以下のタイプがあります。

1.DLI

DL/I

バッチ処理領域の場合。データベースがオフラインであるか、またはデータ共用サポートがある場合に、DL/I バッチ処理領域を使用することができます。

2.BMP

BMP 領域の場合。データベースがオンラインの場合に、BMP 領域を使用することができます。

Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元) (DLI の場合)

「Region type (領域タイプ)」に「DLI」を選択し、HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみではない IMS サブシステムを選択した場合、以下のようになります。

1.ユーザー・プロファイル

バッチ編集では、ユーザー・プロファイルに名前が保管されているデータベース・データ・セットを使用します。

2.DFSMDA メンバー

バッチ編集では、DFSMDA 動的割り振りメンバーに指定されているデータベース・データ・セットを使用します。



注: 以下のいずれかを指定した場合、このフィールドは無視されます。

- 「Region type (領域タイプ)」で「BMP」。
- HALDB データベース。
- FM/IMS インストール・オプション・モジュールでのみ、動的割り振りとして定義されている IMS サブシステム。

View usage (ビューの使用)

バッチ編集で新規ビューを使用するか、既存ビューを使用するか、あるいはビューを使用しないかを指定します。以下のオプションがあります。

1.New (新規作成)

バッチ編集で新規ビューを使用する場合は、このオプションを選択します。

バッチ編集では、指定されたデータベースのテンプレートから一時ビューが作成されます。

FM/IMS

は、テンプレートを、ユーザーまたは管理者が指定したテンプレート・ライブラリーから検索します。FM/IMS が検索を行うテンプレート・ライブラリーは、選択したサブシステムに依存します。

- 指定されたサブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがない場合、FM/IMS は、「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネルで指定されたテンプレート・ライブラリーから検索します。
- サブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがある場合、FM/IMS は、FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されたサブシステムをデフォルトのテンプレート・ライブラリーから検索します。

FM/IMS は、指定された順番で各テンプレート・ライブラリーで検索を行い、指定されたデータベース名が最初に見つかったテンプレートを使用します。

2.既存

バッチ編集で既存ビューを使用する場合は、このオプションを選択します。バッチ編集では、ビューの「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドおよび「**Member (メンバー)**」フィールドで指定されたビューを使用します。

3.None (なし)

バッチ編集でビューを使用しない場合は、このオプションを選択します。

Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ) (DLI の場合)

FM/IMS が「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルまたは「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルを表示しないようにする場合は、このオプションを選択します。

このオプションを選択せず、「**Region type (領域タイプ)**」で「DLI」を選択した場合、「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」または「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルが表示されます。



注: 「**Region type (領域タイプ)**」で「BMP」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Edit view (ビューの編集)

「**View usage (ビューの使用)**」で「Existing (既存)」を選択し、ビューを編集してから、バッチ編集でそれを使用する場合、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、FM/IMS はビューのデータ・セット・フィールドおよびメンバー・フィールドで指定されたビューを編集および保管できる「View (ビュー)」ダイアログを開始します。



注: 「View usage (ビューの使用)」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Include template DD (テンプレート DD の組み込み)

バッチ編集で実行する REXX プロシージャーに、TPLDD パラメーターを指定した VIEWIMS 呼び出しを組み込む場合、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、生成された JCL に、指定したサブシステムのテンプレート・データ・セットを指定する TDDIN DD ステートメントが組み込まれます。

親パネル

- [「Utility Menu \(ユーティリティー・メニュー\)」パネル ページ 457](#)

子パネル

- [「AGN Selection \(AGN 選択\)」パネル ページ 206](#)
- [「Database Data Set Display \(データベース・データ・セット表示\)」パネル ページ 252](#)
- [「Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)」パネル ページ 254](#)
- [「Database Selection \(データベース選択\)」パネル ページ 261](#)
- [「PCB Selection \(PCB 選択\)」パネル ページ 370](#)
- [「PSB Selection \(PSB 選択\)」パネル ページ 389](#)
- [「Subsystem Selection \(サブシステム選択\)」パネル ページ 432](#)
- [「View Member Selection \(ビュー・メンバー選択\)」パネル ページ 460](#)
- [「Batch Edit Options \(バッチ編集オプション\)」パネル ページ 222](#)

「Batch Edit Options (バッチ編集オプション)」パネル

このパネルを使用して、以下を指定できます。

- バッチ編集でカタログ式 REXX プロシージャーを実行するか、またはインストリーム REXX プロシージャーを実行するか。
- カatalog式 REXX プロシージャーを実行する場合、以下を指定します。
 - バッチ編集で実行する REXX プロシージャーが含まれている PDS(E) の名前。
 - REXX プロシージャー・メンバー名。
 - JCL を生成する前に、REXX プロシージャーを編集するかどうか。

パネルとフィールドの定義

図 26. 「Batch Edit Options (バッチ編集オプション)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Batch Edit Options Panel	
Database DJ1E		
REXX Procedure:		
Data set name	_____	
Member	_____	
Processing Options:		
Procedure type	Enter "/" to select option	
2 1. In-stream	_ Edit procedure	
2. Cataloged		
Command ==> _____ Scroll PAGE		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
F4=CRetrieve	F7=Backward	F8=Forward

Database (データベース)

「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネルに指定されたデータベースの名前。

データ・セット名

「Procedure type (プロシージャ・タイプ)」で「Cataloged (カタログ式)」を選択した場合、バッチ編集で実行する REXX プロシージャを含む PDS(E) の名前を指定します。



注: 「Procedure type (プロシージャ・タイプ)」で「In-stream (インストリーム)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Member (メンバー)

「Procedure type (プロシージャ・タイプ)」で「Cataloged (カタログ式)」を選択した場合、REXX プロシージャ・メンバー名を指定します。



注: 「Procedure type (プロシージャ・タイプ)」で「In-stream (インストリーム)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Procedure type (プロシージャ・タイプ)

バッチ編集でインストリーム・プロシージャを実行するか、またはカタログ式プロシージャを実行するかを指定します。

1.In-stream (インストリーム)

このオプションを選択する場合、生成される JCL にインストリーム REXX プロシージャを追加する必要があります。REXX プロシージャは、`$$FILEM PROC=*` ステートメントの直後に挿入する必要があります。

2.Cataloged (カタログ式)

バッチ編集では、REXX プロシージャのデータ・セット名フィールドおよびメンバー・フィールドで指定されたプロシージャを実行します。

Edit procedure (プロシージャの編集)

「**Procedure type (プロシージャ・タイプ)**」で「Cataloged (カタログ式)」を選択し、プロシージャを編集してから JCL を生成する場合、このオプションを選択します。



注: 「**Procedure type (プロシージャ・タイプ)**」で「In-stream (インストリーム)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

親パネル

- [\[Batch Edit Entry \(バッチ編集項目の入力\)\]](#) パネル ページ 215
- [\[Database Data Set Display \(データベース・データ・セット表示\)\]](#) パネル ページ 252
- [\[Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)\]](#) パネル ページ 254

子パネル

- [\[JCL Submission \(JCL 実行依頼\)\]](#) パネル ページ 357

「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」パネル

「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」パネルを使用すると、BMP モードで実行されるときに FM/IMS 機能によって使用される選択済みオプションを表示および変更できます。

このパネルは、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」パネルでオプション 6 を選択すると表示されません。

「Subsystem (サブシステム)」フィールドには、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」で指定した IMS サブシステム ID が表示されます。

パネルには、BMP 領域タイプが選択され、この IMS サブシステム ID が機能の入力パネルで指定されている場合に、オンライン FM/IMS 機能が使用するオプションが表示されます。

FM/IMS 管理者が、パネル上に表示されたオプションの一部またはすべての値を修正している場合があります。オプションが修正された場合は、パネル・フィールドが保護され、指定された値を変更できなくなります。

オプションが修正されていない場合は、オプションに指定された値を変更できます。

パネル上のすべてのオプションをそのサブシステムのデフォルトにリセットするには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保管してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保管せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 27. 「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」 パネル

<u>P</u> rocess	<u>O</u> ptions	<u>H</u> elp			
FM/IMS	BMP Mode Options				
Subsystem IF52 IMS V13 NT Test					
Options:					
Enter "/" to select option					
_ Autosave					
Checkpoint Frequencies:					
Edit	5				
Change All/Repeat All	55				
Load	155				
Batch Edit	255				
PSB Processing Options:					
Browse	Extract	Print	Batch Browse		
<u>2</u> 1. G	<u>2</u> 1. G	<u>1</u> 1. G	<u>1</u> 1. G		
2. G0	2. G0	2. G0	2. G0		
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel			

Subsystem (サブシステム)

「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」で指定した IMS サブシステム ID。

Autosave (自動保管)

編集セッションを開始するときに自動保管機能を設定する場合、このオプションを選択します。

Edit Checkpoint Frequency (EDIT チェックポイント頻度)

データベース編集時の自動保管機能の頻度を指定する数値。

Autosave をオンに設定すると、FM/IMS は以下を実行します。

- アクション・キーを押し、データの変更が要求されるたびに、カウントを1つインクリメントします。
- カウントがこのフィールドに指定された数値と同じになったときに、チェックポイントを発行します。

値は 1 から 99 までの範囲でなければなりません。

Change All/Repeat All Checkpoint Frequency (すべて変更/すべて繰り返しチェックポイント頻度)

「Change All (すべて変更)」および「Repeat All (すべて繰り返し)」操作中の自動保管機能の頻度を指定する数値。

Autosave をオンに設定すると、FM/IMS は以下を実行します。

- セグメントが「Change All (すべて変更)」操作中に更新されるか、または「Repeat All (すべて繰り返し)」操作中に挿入されるたびに、カウントを1つインクリメントします。
- カウントがこのフィールドに指定された数値と同じになったときに、チェックポイントを発行します。

値は1から9,999までの範囲でなければなりません。

Load Checkpoint Frequency (ロード・チェックポイント頻度)

File Manager/IMS Load ジョブ実行時の自動保管機能の頻度を指定する数値。

FM/IMS はロード・ジョブがセグメントを挿入または置換するたびにカウントを1つインクリメントし、カウントがこのフィールドに指定された数値と同じになったときにチェックポイントを発行します。

値は1から99,999までの範囲でなければなりません。

Batch Edit Checkpoint Frequency (バッチ編集チェックポイント頻度)

バッチ編集ジョブ実行時の自動保管機能の頻度を指定する数値。

FM/IMS は、バッチ編集ジョブがデータベース・セグメントを挿入、削除または置換するたびにカウントを1つインクリメントし、カウントがこのフィールドに指定された数値と同じになったときにチェックポイントを発行します。

値は1から99,999までの範囲でなければなりません。

Browse PSB Processing Option (ブラウズ PSB 処理オプション)

「Browse」に生成された動的 PSB が使用する「PSB Processing Option」(PROCOPT):

1 - PROCOPT=G

「Browse (ブラウズ)」は整合性を保持して読み取ります。

2 - PROCOPT=GO

「Browse (ブラウズ)」は整合性を保持せずに読み取ります。

Extract PSB Processing Option (抽出 PSB 処理オプション)

「Extract」に生成された動的 PSB が使用する「PSB Processing Option」(PROCOPT):

1 - PROCOPT=G

「Extract (抽出)」は整合性を保持して読み取ります。

2 - PROCOPT=GO

「Extract (抽出)」は整合性を保持せずに読み取ります。

Print PSB Processing Option (印刷 PSB 処理オプション)

「Print」に生成された動的 PSB が使用する「PSB Processing Option」(PROCOPT):

1 - PROCOPT=G

「Print (印刷)」は整合性を保持して読み取ります。

2 - PROCOPT=GO

「Print (印刷)」は整合性を保持せずに読み取ります。

Batch Browse PSB Processing Option (バッチ・ブラウズ PSB 処理オプション)

「Batch Browse」に生成された動的 PSB が使用する「PSB Processing Option」(PROCOPT):

1 - PROCOPT=G

「Batch Browse (バッチ・ブラウズ)」は整合性を保持せずに読み取ります。

2 - PROCOPT=GO

「Batch Browse (バッチ・ブラウズ)」は整合性を保持せずに読み取ります。

親パネル

- [「Subsystem Settings Menu \(サブシステム設定メニュー\)」](#) パネル ページ 435

子パネル

- なし。

「BMP Mode Parameters (BMP モード・パラメーター)」 パネル

「BMP Mode Parameters (BMP モード・パラメーター)」パネルを使用すると、File Manager/IMS 機能が BMP モードで実行されるときに IMS 領域コントローラーに渡されるパラメーターを表示および変更できます。

このパネルは、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」でオプション 5 を選択すると表示されます。

パネルには、BMP 領域タイプが選択され、この IMS サブシステム ID が機能の入力パネルで指定されている場合に、オンライン FM/IMS 機能が使用するパラメーターが表示されます。「**Subsystem (サブシステム)**」フィールドには、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」で指定した IMS サブシステム ID が表示されます。

FM/IMS 管理者が、パネル上に表示されたパラメーターの一部またはすべての値を修正している場合があります。

パラメーターが修正されている場合は、パネル・フィールドが保護され、指定された値を変更できなくなります。パラメーターが修正されていない場合は、パラメーターに指定された値を変更できます。

パネル上のすべてのパラメーターをサブシステムのデフォルトに再設定するには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保存してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保存せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 28. 「BMP Mode Parameters (BMP モード・パラメーター)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	BMP Mode Parameters	
Subsystem IF52 IMS V13 NT Test		
Options:		
PARDLI		
2	1. PARDLI=0	
	2. PARDLI=1	
Fast Path Buffer Allocation:		
NBA	<u>11</u>
OBA	<u>7</u>
Parameters:		
LOCKMAX	. . .	<u>555</u>
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
F4=CRetriev	F7=Backward	F8=Forward

Subsystem (サブシステム)

「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」で指定した IMS サブシステム ID。

PARDLI

BMP モードで実行される関数によって使用される並列 DL/I オプションを指定します。

1 - PARDLI=0

DL/I 処理は BMP 領域で実行されます。

2 - PARDLI=1

BMP のすべての DL/I 処理は、IMS 制御領域で実行されます。

PARDLI=1 は、BMP 領域のシステム X22 異常終了の結果生じる制御領域のシステム 113 異常終了を防ぎます。ただし、PARDLI=1 の場合、並列 DL/I は使用不可になります。これによって、パフォーマンスが低下する場合があります。

Normal Buffer Allocation (NBA)

ファースト・パス領域が活動化されているときに、共通サービス域で使用可能にされるファースト・パス・データベース・バッファの数。指定された数は、ファースト・パス・データベースにアクセスするときに関数によって使用されます。

1 から 9999 までの範囲でなければなりません。

Overflow Buffer Allocation (OBA)

通常割り当て (NBA フィールドで指定される)

が使用されるときに、ファースト・パス領域に対して使用可能にされる追加のページ固定バッファの数。指定された数は、ファースト・パス・データベースにアクセスするときに関数によって使用されます。

1 から 9999 までの範囲でなければなりません。

LOCKMAX

関数が一度に保持することを許可されるロックの最大数 (1000 の単位)。この数は、0 から 32767 の範囲内である必要があります。

0 を指定すると、関数が一度に保持できるロックの数には制限がなくなります。

フィールドを空白にしておく場合、PSBGEN 文に指定された LOCKMAX 値が使用されるか、PSBGEN 文に LOCKMAX パラメーターが指定されないときは 0 (制限なし) が使用されます。

親パネル

- [「Subsystem Settings Menu \(サブシステム設定メニュー\)」パネル ページ 435](#)

子パネル

- なし。

「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネル

「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルは、「Browse (ブラウズ)」ダイアログの最初のパネルです。これは、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルでオプション 1 (「Browse (ブラウズ)」) を選択すると表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 29. 「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Browse Entry Panel	
IMS:		
Subsystem name . . .	IF52	PSB name . . . _____ (If static PSB)
Database name . . .	DJ1E	AGN name . . . _____ (If BMP)
View:		
Data set name . . .	_____	
Member	_____	
Processing Options:		
PSB type	Region type	Fetch DB dsnames from (if DLI)
<u>1</u> 1. Dynamic	<u>1</u> 1. DLI	<u>2</u> 1. User profile
2. Static	2. BMP	2. DFSMDA members
View usage	Enter "/" to select option	
<u>3</u> 1. New	_ Secondary index (if dynamic PSB)	
2. Existing	_ Skip DB data set panel (if DLI)	
3. None		
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
		F8=Forward

IMS

Subsystem name (サブシステム名)

データを抽出するデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID。FM/IMS は、指定された名前のサブシステムを、FM/IMS インストール・オプション・モジュールから検索します。サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に、「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるサブシステムのリストから、サブシステムを選択することができます。

PSB name

「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択した場合、ブラウズで使用する PSB の名前を指定します。指定する PSB は、ブラウズするデータベースの PCB を持っている必要があります。

FM/IMS は、IMS カタログまたは PSB ライブラリーのいずれかで、指定された名前の PSB を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した PSB ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの PSB ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの PSB ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの PSB ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「PSB Data set name (PSB データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した PSB ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する PSB ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 PSB ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった PSB を使用します。

PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力した場合に、「PSB Selection (PSB 選択)」パネルが表示されます。パネルに表示される PSB のリストから、PSB を選択することができます。



注: 「PSB type (PSB タイプ)」 で「Dynamic (動的)」を選択した場合、このフィールドは無視されます。

Database name (データベース名)

ブラウズするデータベースの名前。

FM/IMS は、IMS カタログまたは DBD ライブラリーのいずれかで、指定された名前の DBD を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した DBD ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの DBD ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの DBD ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの DBD ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「DBD Data set name (DBD データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した DBD ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する DBD ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 DBD ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった DBD を使用します。

以下は、「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Dynamic (動的)」を選択した場合に適用されます。

- データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合は、「Database Selection (データベース選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるデータベースのリストから、データベースを選択することができます。
- 選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - ブラウズするデータベースの DBD。
 - ブラウズするデータベースに論理的に関連している各データベースごとの DBD。

以下は、「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Static (静的)」を選択した場合に適用されます。

- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネルは、以下のいずれかが該当する場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。

「PCB Selection (PCB 選択)」パネルに表示されたデータベース PCB のリストから、PCB を選択することができます。

- サブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - PSB で指定されたそれぞれのデータベースごとの DBD
 - PSB で指定されたデータベースに論理的に関連しているそれぞれのデータベースごとの DBD

AGN name (AGN 名)

アプリケーション・グループ名 (AGN) は、IMS リソースのグループを示します。指定した名前は、「Region type (領域タイプ)」で「BMP」を選択した場合に、IMS 領域コントローラーに渡されます。

AGN を使用しないサブシステムを選択した場合、AGN 名は入力しないでください。

AGN

を使用するサブシステムを選択した場合、ブラウズに必要なアクセスを提供し、かつ、使用する権限のある AGN を指定します。(FM/IMS が開始する BMP 領域は、指定された AGN に関連した IMS リソースを使用する許可が与えられているだけです。)

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルは、以下の条件がすべて真の場合に表示されます。

- BMP の領域タイプが選択されている。
- 選択したサブシステムが AGN を使用している。
- 選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている。
- AGN 名が入力されていない。または、AGN 名パターンが入力されており、FM/IMS インストール・オプション・モジュールに、パターンと一致する選択したサブシステム用の AGN が存在する。

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルに表示される AGN のリストから、AGN を選択できます。選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされていない場合は、AGN のフルネームを指定する必要があります。



注: 「Region type (領域タイプ)」で「DLI」を選択すると、このフィールドは無視されます。

View (表示)

Data set name (データ・セット名)

「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合、これはブラウザで使用するビューを含むデータ・セットの名前です。



注: 「View usage (ビューの使用)」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Member (メンバー)

「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合、以下を実行してください。

- ブラウズで使用するビューが PDS(E) にある場合、このフィールドにはビュー・メンバー名を指定します。
- ブラウズで使用するビューが順次データ・セットにある場合、このフィールドを空白にします。



注: 「View usage (ビューの使用)」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

PSB type (PSB タイプ)

ブラウザでデータベースにアクセスするために使用する PSB のタイプ。以下のタイプがあります。

1.Dynamic (動的)

ブラウザでは、ダイアログの開始時に生成する一時的な PSB を使用します。

2.Static (静的)

ブラウザでは、「PSB name (PSB 名)」フィールドに指定している既存の PSB を使用します。

Region type (領域タイプ)

ブラウザを実行する領域のタイプ。以下のタイプがあります。

1.DLI

DL/I

バッチ処理領域の場合。データベースがオフラインであるか、またはデータ共用サポートがある場合に、DL/I バッチ処理領域を使用することができます。

2.BMP

BMP 領域の場合。データベースがオンラインの場合に、BMP 領域を使用することができます。

Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元) (DLI の場合)

「Region type (領域タイプ)」に「DLI」を選択し、HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみではない IMS サブシステムを選択した場合、以下ようになります。

1. ユーザー・プロファイル

ブラウザでは、ユーザー・プロファイルに名前が保管されているデータベース・データ・セットを使用します。

2. DFSMDA メンバー

ブラウザでは、DFSMDA 動的割り振りメンバーに指定されているデータベース・データ・セットを使用します。



注: 以下のいずれかを指定した場合、このフィールドは無視されます。

- 「Region type (領域タイプ)」で「BMP」。
- HALDB データベース。
- FM/IMS インストール・オプション・モジュールでのみ、動的割り振りとして定義されている IMS サブシステム。

View usage (ビューの使用)

ブラウザで新規ビューを使用するか、既存ビューを使用するか、あるいはビューを使用しないかを指定します。以下のオプションがあります。

1. New (新規作成)

ブラウザで新規ビューを使用する場合は、このオプションを選択します。

ブラウザでは、指定されたデータベースのテンプレートから一時ビューが作成されます。

FM/IMS

は、テンプレートを、ユーザーまたは管理者が指定したテンプレート・ライブラリーから検索します。FM/IMS が検索を行うテンプレート・ライブラリーは、選択したサブシステムに依存しません。

- 指定されたサブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがない場合、FM/IMS は、「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネルで指定されたテンプレート・ライブラリーから検索します。
- サブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがある場合、FM/IMS は、FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されたサブシステムをデフォルトのテンプレート・ライブラリーから検索します。

FM/IMS は、指定された順番で各テンプレート・ライブラリーで検索を行い、指定されたデータベース名が最初に見つかったテンプレートを使用します。

2.既存

ブラウザで既存ビューを使用する場合は、このオプションを選択します。ブラウザでは、ビューの「Data set name (データ・セット名)」フィールドおよび「Member (メンバー)」フィールドで指定されたビューを使用します。

3.None (なし)

ブラウザでビューを使用しない場合は、このオプションを選択します。

Secondary index (2 次索引) (動的 PSB の場合)

「PSB type (PSB タイプ)」で「Dynamic (動的)」を選択し、2 次索引を使用してデータベースにアクセスする場合は、このオプションを選択します。

このオプションを選択し、データベースに複数の 2 次索引がある場合は、「Secondary Index Selection (2 次索引選択)」パネルが表示されます。パネルに表示される 2 次索引のリストから、2 次索引を選択することができます。



注: 「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ) (DLI の場合)

FM/IMS が「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルまたは「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルを表示しないようにする場合は、このオプションを選択します。

このオプションを選択せず、「Region type (領域タイプ)」で「DLI」を選択した場合、「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」または「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルが表示されます。



注: 「Region type (領域タイプ)」で「BMP」を選択すると、このフィールドは無視されます。

親パネル

- [Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\) ページ 373](#)

子パネル

- [「AGN Selection \(AGN 選択\)」パネル ページ 206](#)
- [「Data Set Selection \(データ・セット選択\)」パネル ページ 251](#)
- [「Database Data Set Display \(データベース・データ・セット表示\)」パネル ページ 252](#)
- [「Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)」パネル ページ 254](#)
- [「PCB Selection \(PCB 選択\)」パネル ページ 370](#)

- 「PSB Selection (PSB 選択)」 パネル ページ 389
- 「Secondary Index Selection (2 次索引の選択)」 パネル ページ 396
- 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」 パネル ページ 432
- 「Database Selection (データベース選択)」 パネル ページ 261
- 「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」 パネル ページ 460
- 「Database Positioning (データベース位置決め)」 パネル ページ 258

関連トピックおよび例

- データベースのアクセス ページ 47

「Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択)」 パネル

「Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択)」 パネルは、「Set Language and compiler specifications (言語およびコンパイラ仕様の設定)」 パネルでオプション 1 を選択すると表示されます。

このパネルでは、FM/IMS がテンプレートの構築に使用するコンパイラを指定できます。また、FM/IMS がテンプレートのコンパイラ・オプションを使用するか、テンプレートを更新したときにコンパイラ・オプション・パネルで指定したコンパイラ・オプションを使用するかを指定できます。

変更内容を保存してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保存せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 30. 「Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択)」 パネル

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS          Compiler Language Selection

Language Selection:
Specify Default Compiler
 1. COBOL          Use the COBOL compiler
 2. PL/I           Use the PL/I compiler
 3. Auto detect    Determine which compiler to use
 4. HLASM          Use the HLASM compiler

Processing Options:
Enter "/" to select option
_ Override compiler options for template update
Z Preserve copybook library
_ Show copybook name with record type field name
_ Suppress boundary field errors

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetriev  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions   F12=Cancel
    
```

Language Selection (言語の選択)

テンプレート作成のためのコピーブックのコンパイルに使用する言語。

1.COBOl

COBOL コンパイラを使用します。これはデフォルト値です。

2.PL/I

PL/I コンパイラーを使用します。

3.Auto detect (自動選択)

COBOL および PL/I

にのみ適用されます。ソースを分析して、以下の適切なコンパイラーを使用します。

- コピーブックに、FM/IMS
が言語の判別に使用できる任意のキーワードが含まれていないと、FM/IMS は COBOL
コンパイラーを使用します。
- コンパイラーが ADATA を作成し、4 以下の戻りコードを作成した場合には、FM/IMS
は、プロンプトを出さずにテンプレートを作成します。
- コンパイラーが ADATA を作成するが、4
より大きい戻りコードを生成する場合には、FM/IMS がポップアップ・メニューを表示
し、そこから、他のコンパイラーの使用を含め、各種オプションを選択できます。
- ADATA が作成されなかった場合には、FM/IMS はプロンプトを出さずに他のコンパイ
ラーを使用します。
- 他のコンパイラーが ADATA を作成し、戻りコードが 4 を超える場合には、FM/IMS は
ポップアップ・メニューを表示します。
- 他のコンパイラーが ADATA を作成しない場合には、FM/IMS は最初のコンパイラーを再
度試して、もう一度ポップアップ・メニューを表示します。

4.HLASM

HLASM コンパイラーを使用します。

テンプレート更新のコンパイラー・オプションを指定変更

テンプレートを更新するときに、「Set COBOL Processing Options (COBOL
処理オプションの設定)」パネル、「Set HLASM Processing Options (HLASM
処理オプションの設定)」パネル、または「Set PL/I Processing Options (PL/I
処理オプションの設定)」パネルで指定したコンパイラー・オプションを使用する場合、このオプションを選
択します。このオプションを選択しない場合、FM/IMS は、テンプレートに保管されているコンパイラー・オ
プションを使用します。



注:



1. フォアグラウンド処理は、コンパイラ・オプションを含まない古いテンプレートのコンパイラ・オプションを常にオーバーライドします。古いテンプレートのバッチ・テンプレート更新で、JCL
にコンパイラ・オプションが生成されるようにする場合、このオプションを指定します。
2. 古いテンプレートはコンパイラ・オプションを含みませんが、更新が実行されると、コンパイラ・オプションを含むようにテンプレートがアップグレードされます。このオプションが選択されていない場合、そのコンパイラ・オプションがその後の更新で使用されます。

Preserve copybook library (コピーブック・ライブラリーの保持)

コピーブックが、前に検出されたライブラリーにまだ存在し、更新が使用しているリストにそのライブラリーがある場合に、そのコピーブックを使用します。

このオプションを選択しないか、コピーブックが、前に検出されたライブラリーに存在しなくなったか、更新が使用しているリストにそのライブラリーがない場合、ユーティリティーは、リストされた順序でライブラリーを検索し、検出した最初のバージョンのコピーブックを使用します。

Show copybook name with record type field name (コピーブック名をレコード・タイプ・フィールド名で表示)

このオプションは、コピーブック名を、テンプレート編集中表示されるレコード・レイアウトに関連するものにするか、コピーブックまたはテンプレートを使用している編集、表示、またはブラウザの各セッションに関連するものにする場合に選択します。



注: レイアウト名が指定されたエディター・セッションの場合は、関連するコピーブックの名前が接頭部として付けられます。接頭部の長さによっては、これによってレイアウト名が切り捨てられることがあります。

Suppress boundary field errors (境界フィールド・エラーの抑止)

このオプションを選択すると、SNGL
表示形式で、現在のレコード境界を超えて開始されるフィールドの表示または出力が抑止されます。

親パネル

- ・ [「Set Language and compiler specifications \(言語およびコンパイラ仕様の設定\)」](#) パネル ページ 415

子パネル

- ・ なし。

「Copybook Library List (コピーブック・ライブラリー・リスト)」 パネル

「Copybook Library List (コピーブック・ライブラリー・リスト)」 パネルは、「Template (テンプレート)」ダイアログ (オプション 4.1) および「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティー)」ダイアログ (オプション 4.4) で表示されます。

このパネルでは、関数が使用するコピーブックを含むコピーブック・ライブラリーの名前を指定します。

「Template (テンプレート)」ダイアログ

このパネルは、「Template Entry (テンプレート項目の入力)」パネルで存在しないメンバーを指定するか、または「Template Specification (テンプレート指定)」パネルで LIBLIST コマンドを発行した場合に、「Template (テンプレート)」ダイアログで表示されます。

関数は、指定されたライブラリーから、「Template Specification (テンプレート指定)」パネルで指定したレイアウト・メンバーを検索します。

指定したコピーブック・ライブラリー・リストは、テンプレートに保管され、後続の更新で使用されます。

LIBLIST コマンドを発行した場合、このパネルには、テンプレートに現在保管されているコピーブック・ライブラリー・リストが表示されます。

「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」ダイアログ

このパネルは、「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」パネルで「Specify library data sets (ライブラリー・データ・セットの指定)」オプションを選択したときに、「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」ダイアログで表示されます。

このオプションを選択すると、ユーティリティは、(テンプレートで参照されるコピーブック・ライブラリー内のレイアウト・メンバーではなく)指定されたコピーブック・ライブラリー内のレイアウト・メンバーを使用して、テンプレートを作成します。更新エラーを防止するために、選択されたすべてのテンプレートで参照されるすべてのレイアウト・メンバーを、指定するライブラリーで使用可能にしておく必要があります。指定されたコピーブック・ライブラリーを使用した更新が正常に終了すると、ユーティリティは、テンプレート内のコピーブック・ライブラリー・リストを指定されたライブラリー・リストに変更します。

パネルとフィールドの定義

図 31. 「Copybook Library List (コピーブック・ライブラリー・リスト)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Copybook Library List	
Copybook Library:		
Data set name	1 'FMN.REGTEST.IMS.COPYLIB.COBOL'	
	2 'FMN.REGTEST.IMS.COPYLIB.PLI'	
	3 'SSAND.\$RETAIN.SOURCE'	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit F9=Swap F12=Cancel

データ・セット名

テンプレートを作成または更新するデータベースのセグメント・レイアウトについて記述したコピーブックが入っている 1 から 12 個のライブラリーで、これらは、すべてが PDS(E)、すべてが CARMA、またはすべてが Panvalet ライブラリーのいずれかであることが必要です。

関数は、ライブラリーを、それらが指定された順序で検索します。

前の行を空白のままにすることができます。例えば、1 行目または 2 行目ではなく、3 行目にデータ・セット名を入力できます。ただし、これらの行のいずれか 1 つに、少なくとも 1 つのデータ・セット名を入力しなければなりません。

親パネル

- [「Template Specification \(テンプレート指定\)」パネル ページ 444](#)
- [「Template Update Utility \(テンプレートの更新ユーティリティ\)」パネル ページ 450](#)

子パネル

- なし。

「Criteria Member Selection (基準メンバー選択)」パネル

「Criteria Member Selection (基準メンバー選択)」パネルは、「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネル、「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネル、または「Criteria Set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティ)」パネルで、基準メンバー名を指定していないか、または基準メンバー・パターンを指定した場合に表示されます。

基準メンバー名を指定しなかった場合、基準データ・セット内のすべてのメンバーがパネルに表示されます。基準メンバー・パターンを指定した場合、そのパターンに名前が一致するすべてのメンバーがパネルに表示されます。

基準メンバーを選択するには、**[Cmd]** フィールドに「**Ⓢ**」を入力し、Enter キーを押します。

「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネルまたは「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネルで、このフィールドに選択リストが表示される場合、選択できるメンバーは1つのみです。「Criteria Set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティ)」パネルで、このフィールドに選択リストが表示される場合、複数のメンバーを選択できます。

このパネルでは、以下を実行することもできます。

- 表示されるメンバー属性を選択する。
- メンバー属性の表示順序を選択する。
- 各メンバー属性を表示する列の幅を指定する。
- 表示されるメンバー属性のいずれかでメンバー・リストをソートする。
- メンバー属性パターンを使用して、メンバー・リストをフィルターに掛ける。
- メンバーをブラウズまたは表示する。

「Criteria Set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティ)」パネルで、このフィールドに選択リストが表示される場合、基準セット・エディターを使用して、表示される基準メンバーを編集して保管することもできます。

パネル・フィールドおよび機能の詳細については、「**ユーザズ・ガイドおよびリファレンス**」の『**Member Selection panel**』を参照してください。

パネルとフィールドの定義

図 32. Criteria Member Selection (基準メンバー選択) パネル (「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネルまたは「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネルで、基準メンバー・フィールドに選択リストが表示される場合)

Process		Options		Help					
FM/IMS		Criteria Member List				Row 00001 of 00050			
DSNAME FMN.REGTEST.IMS.CRITERIA									
Name	Prompt	Typ	Created	Updated	Lang	Ver	Descri ▶		
*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
AHRD#1		CR	2007/07/31	2008/11/26	10:34:55	PL/I	2		
ALPOLLO		CR	2006/12/06	2006/12/15	10:01:48	PL/I	1		
ALPOLXX		CR	2006/12/06	2006/12/15	10:26:55	PL/I	1		
ALPOL390		CR	2006/12/06	2006/12/15	10:26:55	PL/I	1		
A19D#C1		CR	2007/04/19	2007/04/19	10:48:24	COBOL	2		
A70D#C1		CR	2010/01/18	2010/01/18	11:39:39	COBOL	2		
A70D#C5		CR	2010/01/18	2010/01/18	11:50:02	COBOL	2		
A70D#1C1		CR	2010/01/18	2010/01/18	11:39:39	COBOL	2		
A70D#1C5		CR	2010/01/18	2010/01/18	11:50:02	COBOL	2		
A70D#2C1		CR	2010/01/18	2010/01/18	11:39:39	COBOL	2		
A70D#2C5		CR	2010/01/18	2010/01/18	11:50:02	COBOL	2		
A70D#3C1		CR	2010/01/18	2010/01/18	11:39:39	COBOL	2		
A70D#3C5		CR	2010/01/18	2010/01/18	11:50:02	COBOL	2		
A70D#4C1		CR	2010/01/18	2010/01/18	11:39:39	COBOL	2		
A70D#4C5		CR	2010/01/18	2010/01/18	11:50:02	COBOL	2		
CHDVMSOB		CR	2002/11/20	2006/10/06	05:52:34	COBOL	2		
CHDVMPLI		CR	2006/08/11	2006/08/11	06:10:56	COBOL	2		
CZUBD1PL		CR	2008/04/07	2008/04/07	11:57:07	PL/I	2		
C34COB		CR	2006/07/14	2006/07/14	11:41:09	COBOL	1		
C34LESS		CR	2006/07/18	2006/07/18	11:57:42	COBOL	1		
C34MORE		CR	2006/07/18	2006/07/20	10:54:04	COBOL	1		
C34NAME		CR	2006/07/18	2006/07/18	11:54:40	COBOL	1		
C34PLI		CR	2006/07/19	2006/07/19	07:29:43	PL/I	1		
Command ==>						Scroll PAGE			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F7=Backward				
F8=Forward	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel					

図 33. 「Criteria Member Selection (基準メンバー選択)」パネル (「Criteria Update Utility (基準の更新ユーティリティ)」パネルで、基準メンバー・フィールドに選択リストが表示される場合)

Process	Options	Help					
FM/IMS	Criteria Member Selection	Row 00001 of 00050					
Input data set FMN.REGTEST.IMS.CRITERIA							
Update data set FMN.REGTEST.IMS.CRITERIA							
Name	Prompt	Typ	Created	Updated	Lang	Ver	Descri
*	*	*	*	*	*	*	*
AHRD#1		CR	2007/07/31	2008/11/26 10:34:55	PL/I	2	
ALPOLLO		CR	2006/12/06	2006/12/15 10:01:48	PL/I	1	
ALPOLXX		CR	2006/12/06	2006/12/15 10:26:55	PL/I	1	
ALPOL390		CR	2006/12/06	2006/12/15 10:26:55	PL/I	1	
A19D#C1		CR	2007/04/19	2007/04/19 10:48:24	COBOL	2	
A70D#C1		CR	2010/01/18	2010/01/18 11:39:39	COBOL	2	
A70D#C5		CR	2010/01/18	2010/01/18 11:50:02	COBOL	2	
A70D#1C1		CR	2010/01/18	2010/01/18 11:39:39	COBOL	2	
A70D#1C5		CR	2010/01/18	2010/01/18 11:50:02	COBOL	2	
A70D#2C1		CR	2010/01/18	2010/01/18 11:39:39	COBOL	2	
A70D#2C5		CR	2010/01/18	2010/01/18 11:50:02	COBOL	2	
A70D#3C1		CR	2010/01/18	2010/01/18 11:39:39	COBOL	2	
A70D#3C5		CR	2010/01/18	2010/01/18 11:50:02	COBOL	2	
A70D#4C1		CR	2010/01/18	2010/01/18 11:39:39	COBOL	2	
A70D#4C5		CR	2010/01/18	2010/01/18 11:50:02	COBOL	2	
CHDVMCOB		CR	2002/11/20	2006/10/06 05:52:34	COBOL	2	
CHDVMP LI		CR	2006/08/11	2006/08/11 06:10:56	COBOL	2	
CZUBD1PL		CR	2008/04/07	2008/04/07 11:57:07	PL/I	2	
C34COB		CR	2006/07/14	2006/07/14 11:41:09	COBOL	1	
C34LESS		CR	2006/07/18	2006/07/18 11:57:42	COBOL	1	
Command ==>						Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F7=Backward		
F8=Forward	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel			

親パネル

- 「Criteria Set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティ)」パネル ページ 246
- 「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネル ページ 297

子パネル

- なし。

「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネル

「Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)」メニューで「Criteria Sets (基準セット)」(オプション 3)を選択すると、FM/IMS は、「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネルを表示します。

パネルとフィールドの定義

図 34. 「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Criteria Set Entry Panel
CT	Create criteria set from template	E Edit criteria set
CM	Create criteria set from model	U Update criteria set from template
Template:		
	Data set name . 'FMN. IMS. IVP. TEMPLATE'	
	Member DJ2E	
Criteria:		
	Data set name . 'FMN. IMS. IVP. CRITERIA'	
	Member SUBURB	
Model criteria:		
	Data set name .	
	Member	
Command ==> CT		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetrieV	F7=Backward
		F8=Forward

このパネルを使用するには、使用するコマンドを最初に決定してから、必要なフィールド (各コマンドごとに以下のリストで説明) への入力を行い、その後でコマンド行にコマンドを入力して Enter キーを押します。

CT

テンプレートから新規の空の抽出基準セットを作成します。

フィールド

入力内容

Template (テンプレート)

基準セットの作成に使用するテンプレートを保持する区分データ・セットの名前。

Criteria set (基準セット)

新規の基準セットを保管する順次データ・セット名、

または PDS およびメンバー名。【Data set name

(データ・セット名)】フィールドには、メンバー名または名前パターンを括弧に入れて指定することもできます。メンバーまたはメンバー・パターンをここで指定した場合は、関連する

【Member (メンバー)】フィールドを空にしておく必要があります。

CM

既存の (“モデル”) 抽出基準セットをコピーすることによって、新規の抽出基準セットを作成します。

フィールド

入力内容

Model criteria set (モデル基準セット)

コピーする基準セットの順次データ・セット名、または PDS およびメンバー名 (新規の基準セットの“モデル”として使用)。「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドには、メンバー名または名前パターンを括弧に入れて指定することもできます。メンバーまたはメンバー・パターンをここで指定した場合は、関連する「**Member (メンバー)**」フィールドを空にしておく必要があります。

Criteria set (基準セット)

新規の基準セットを保管する順次データ・セット名、または PDS およびメンバー名。「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドには、メンバー名または名前パターンを括弧に入れて指定することもできます。メンバーまたはメンバー・パターンをここで指定した場合は、関連する「**Member (メンバー)**」フィールドを空にしておく必要があります。

E

抽出基準セットを編集します。

フィールド**入力内容****Criteria set (基準セット)**

編集する基準セットの順次データ・セット名、または PDS およびメンバー名。「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドには、メンバー名または名前パターンを括弧に入れて指定することもできます。メンバーまたはメンバー・パターンをここで指定した場合は、関連する「**Member (メンバー)**」フィールドを空にしておく必要があります。

U

既存の基準セットを、それが作成されたテンプレートから更新します。

フィールド**入力内容****Criteria set (基準セット)**

更新する既存の基準セットの順次データ・セット名、または PDS およびメンバー名。「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドには、メンバー名または名前パターンを括弧に入れて指定することもできます。メンバーまたはメンバー・パターンをここで指定した場合は、関連する「**Member (メンバー)**」フィールドを空にしておく必要があります。



注: このコマンドは、「**Template (テンプレート)**」フィールドで指定されたテンプレートを無視します。代わりに、テンプレートの PDS およびメンバーを基準セットから入手します。

このコマンドは、基準セットを作成したもとなったテンプレートに対して、行った変更が少ない場合に使用してください。

テンプレートに対して大きな変更が行われた場合には、更新処理によって、予想通りの結果が得られない可能性があります。その場合には、**CT** コマンドを使用してテンプレートから基準セットを再作成してから、**E** コマンドを使用してそれを編集してください。

親パネル

- [\[Template/View/Criteria Set Menu \(テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー\)\]](#) パネル ページ 456

子パネル

- [\[Criteria Member Selection \(基準メンバー選択\)\]](#) パネル ページ 240
- [\[Subset Selection \(サブセット選択\)\]](#) パネル ページ 430

「Criteria Set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティ)」パネル

「Criteria Set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティ)」パネルでは、既存の基準セットを入力データ・セットまたはオプションの出力データ・セットに更新することができます。

以下を行うことができます。

- テンプレート・フィルターを使用して、指定されたテンプレート、またはパターンに一致するテンプレートに基づく基準セットのみを選択します。
- 基準セットの更新に使用されるテンプレート・データ・セットを変更します。
- バッチまたはフォアグラウンドでユーティリティを実行します。

パネルとフィールドの定義

図 35. 「Criteria Update Utility (基準の更新ユーティリティ)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Criteria Set Update Utility
Criteria:		
Data set name . . .	_____	
Member	_____	
Template filter . .	_____	
Output Criteria Set:		
Data set name . . .	_____	
Member mask	_____	
Template:		
Data set name . . .	_____	
Processing Options:		
Enter "/" to select option		
— Batch execution	— Replace member	
— Advanced member selection	— Specify Template data set	
— Skip member list	— Check mode - no update	
— Forced update	— Specify subsystem	
Command ==>		Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetrieval	F7=Backward
		F8=Forward

基準

Data set name (データ・セット名)

(必須) データ・セット (必ず、区分) を特定するための完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名。

総称データ・セット名では、単一文字を表すパーセント (%)

記号と、任意の数の文字を表すアスタリスク (*) を修飾子内で使用します。2つのアスタリスク (**) は任意の数の修飾子内の任意の数の文字を表します。

TSO 接頭部 (ユーザー ID に定義されている) が、引用符で囲まれていない名前前の高位修飾子として使用されます。

パフォーマンスを改善するために、データ・セット名はできるだけ修飾してください。

メンバー名とデータ・セット名は、*Data set name(Member)* の形式で組み合わせることが可能です。

Member (メンバー)

区分データ・セットのメンバーの名前。メンバー名を空白のままにするか、メンバー名のパターンを指定すると、FM/IMS

にはメンバー名のリストが表示されます。次に、該当するメンバーの「Select (選択)」フィールドに「S」と入力し、必要なメンバーを選択します。

メンバー名のパターンは、メンバー名で有効な任意の文字と2つの特殊文字パターン、アスタリスク (*) とパーセント記号 (%) で構成されます。

*

任意の数の文字を表します。必要な数のアスタリスクがメンバー名のどこに表示されても構いません。例えば、*d* と入力すると、名前に「d」が含まれるデータ・セットのすべてのメンバーのリストが表示されます。

%

単一の文字を意味するプレースホルダー文字です。パーセント記号は、メンバー名の任意の場所に必要な数だけ指定できます。例えば、次のように入力するとします。**** では、名前の長さが 4 文字である、データ・セット内のすべてのメンバーのリストが表示されます。

Template filter (テンプレート・フィルター)

最大 4 つのテンプレート・メンバー名またはパターンを入力し、選択および処理を、指定するテンプレートの 1 つに基づく基準、または指定するパターンの 1 つに一致するテンプレートに限定します。



注: テンプレート・メンバー名はデータベース名と同じであるため、これは、データベース・フィルターでもあります。

Output Criteria Set (出力基準セット)

データ・セット名

(オプション) 出力データ・セット (必ず、区分) を特定するための完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名。このフィールドが指定されないと、更新は入力データ・セットで行われます。

上記の基準セット・データ・セット名の説明にあるように、パーセント記号 (%) およびアスタリスク (*) を使用して総称データ・セット名を指定できます。

TSO 接頭部 (ユーザー ID に定義されている) が、引用符で囲まれていない名前の高位修飾子として使用されます。パフォーマンスを改善するために、データ・セット名はできるだけ修飾してください。

メンバー名とデータ・セット名は、*Data set name(Member)* の形式で組み合わせることが可能です。

Member mask (メンバー・マスク)

入力区分データ・セットのメンバー名に基づいて、出力区分データ・セットのメンバーを名前変更するパターンを指定します。メンバー名のパターンは、メンバー名で有効な任意の文字と 2 つの特殊文字パターン、アスタリスク (*) とパーセント記号 (%) で構成されます。

*

変更がない複数の文字を表すプレースホルダー文字。マスクに指定するアスタリスクは、1つのみにしてください。2つ目以降のアスタリスク文字は、パーセント記号として扱われます。

例えば、次のように入力するとします。

```
ABC*
```

名前変更後のメンバーはすべて ABC で始まり、その後、古いメンバー名の残りが続きます。

%

変更がない単一文字を表すプレースホルダー文字。パーセント記号は、メンバー名の任意の場所に必要な数だけ指定できます。

例えば、次のように入力するとします。

```
%%A*
```

名前変更後のメンバーの最初の 3 文字は変わらず、4 文字目が文字「A」に置き換えられ、古いメンバー名の残りは変更されません。

Template (テンプレート)

Data set name (データ・セット名)

このフィールドは、「Specify Template data set (テンプレート・データ・セットの指定)」オプションが選択されている場合のみ使用されます。このオプションが選択された場合、(各基準セットで参照されるテンプレートではなく) 指定されたデータ・セット内のテンプレートを使用して基準セットを更新し、更新が正常終了した場合、ユーティリティによって、基準セット内のテンプレート・データ・セット名が、指定されたデータ・セット名に変更されます。

Processing Options (処理オプション):

Batch execution (バッチ実行)

バッチでこの機能を実行するための JCL を示します。JCL は、編集して実行依頼できます。「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」パネルを使用して、FM/IMS が JCL の生成に使用するデフォルトの JOB カードを書き換えることが可能です。

Advanced member selection (拡張メンバー選択)

メンバー名、作成日、最終変更日、およびそのメンバーを最終更新したユーザー ID に基づいて、どのメンバーを処理するかを指定できます。これらの各基準に対して、マスクまたは値範囲を入力できます。

Skip member list (メンバー・リストのスキップ)

メンバー選択リストを表示せずに実行します。このオプションを使用すると、メンバー・リスト・パネルを表示せずに、該当の全メンバーを処理します。指定されたパラメーターからエラー

(重複した出力名など)が発生した場合は、そのエラーが強調表示されてメンバー・リスト・パネルが表示されます。

Forced update (強制更新)

変更が検出されていない場合でも、更新を実行します。

Replace member (メンバーの置換)

出力区分データ・セットの同名メンバーを置換します。

Specify template data set (テンプレート・データ・セットの指定)

ユーティリティーが基準セットの更新に使用するテンプレート・データ・セットを指定できません。

基準セットが「Template data set name (テンプレート・データ・セット名)」フィールドで指定したデータ・セット内のテンプレートに基づくようにする場合、このオプションを選択します。指定されたテンプレート・データ・セット名は、更新された基準セットに保管され、静的テンプレートに基づいてフラグが立てられません。

「Specify subsystem (サブシステムの指定)」オプションも選択されている場合、静的テンプレートに基づく基準セットのみがこの方法で更新されます。動的テンプレートに基づく基準セットは、「Specify subsystem (サブシステムの指定)」オプションのヘルプの説明に従って更新されます。

これらのオプションのいずれも選択されておらず、基準セットが静的テンプレートに基づいている場合、基準セットは、基準セットに名前が格納されているテンプレートに基づきます。

Specify subsystem (サブシステムの指定)

基準セットを動的テンプレートに基づくようにする場合にこのオプションを選択します。これらは、IMS™ カタログまたは DBD ライブラリー内のデータから動的に生成されるテンプレートです。

このオプションを選択すると、「IMS Subsystem Specification (IMS サブシステム指定)」パネルが表示されます。このパネルを使用して、テンプレートの生成元のデータ・ソースを指定します。データ・ソースの名前は、更新された基準セットに保管され、それらは動的テンプレートに基づいている基準セットとしてフラグが立てられます。

「Specify Template data set (テンプレート・データ・セットの指定)」オプションも選択されている場合は、動的テンプレートに基づく基準セットのみがこの方法で更新されます。静的テンプレートに基づく基準セットは、「Specify Template data set (テンプレート・データ・セットの指定)」オプションのヘルプ・パネルの説明に従って更新されます。

どちらのオプションも選択されず、基準セットが動的テンプレートに基づいている場合、基準セットは、基準セットに指定されているデータ・ソースから生成されたテンプレートに基づきません。

Check mode - no update (検査モード - 更新なし)

結果として生成されるメンバーを保管せずに、この機能を実行します。通常、エラーの検査に使用されます。

親パネル

- [\[Template/View/Criteria Set Menu \(テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー\)\]](#) パネル ページ 456

子パネル

- [\[Advanced Member Selection \(拡張メンバー選択\)\]](#) パネル ページ 205
- [\[JCL Submission \(JCL 実行依頼\)\]](#) パネル ページ 357
- [\[View Member Selection \(ビュー・メンバー選択\)\]](#) パネル ページ 460

「Data Set Selection (データ・セット選択)」パネル

「Data Set Selection (データ・セット選択)」パネルには、データ・セット名フィールドで指定されたデータ・セット名パターンに一致するすべてのデータ・セットがリストされます。パネル・タイトルの前には、パターンを入力したフィールドの名前が入ります。

パネルとフィールドの定義

図 36.

Process	Options	Help
FM/IMS	DBDLIB #1 Data Set Selection	Row 00001 of 00009
Data Set Selection for FMN.REGTEST.IMS.DBDL**		
Data Set Name	Type	Volume Created
<u>FMN.REGTEST.IMS.DBDL**</u>	*	* * *
— FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB	NVSAM	D\$FM06 2003.310
— FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB.DUMMY	NVSAM	D\$FM08 2005.206
— FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB.INFRONT	NVSAM	D\$FM11 2005.094
— FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB.LESS	NVSAM	D\$FM14 2006.193
— FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB.MORE	NVSAM	D\$FM14 2006.193
— FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB.SEQ	NVSAM	D\$FM09 2008.196
— FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB.V6	NVSAM	D\$FM06 2002.171
— FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB2	NVSAM	D\$FM11 2008.183
— FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB2.OLD	NVSAM	D\$FM02 2006.223
**** End of data ****		
Command ==> _____ Scroll PAGE		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F12=Cancel	F4=CRetriev F7=Up F8=Down

Data Set Selection for (データ・セットの選択対象)

「data set name (データ・セット名)」フィールドで使用されるパターンを示します。

Sel (選択)

データ・セットを選択するために、s を入力することができる選択フィールド。複数のフィールドに s を入力することができますが、最初のデータ・セットのみが処理されます。

Data Set Name (データ・セット名)

パターンと一致するデータ・セットをリストします。

Type (タイプ)

表示されたそれぞれのデータ・セットごとにデータ・セット・タイプをリストします。

Volume (ボリューム)

データ・セットが保管されるボリュームをリストします。

Created (作成済み)

形式 yyyy.ddd で、それぞれのデータ・セットごとに作成日をリストします。ここで、ddd は年の日番号 (日付ではない) です。例えば、2003.036 は、2003 年 2 月 5 日です。

親パネル

データ・セット名フィールドを持つすべてのパネル。

関連トピックおよび例

- [静的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 49](#)
- [動的 PSB を使用した BMP モードでのアクセス ページ 51](#)
- [静的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 53](#)
- [動的 PSB を使用した DLI モードでのアクセス ページ 56](#)

「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネル

「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルには、関数が使用するデータベース・データ・セットの名前が表示されます。

このパネルは、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネル、「Edit Entry (編集項目の入力)」パネル、「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネル、「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」、「Print Entry (印刷項目の入力)」パネル、「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネル、または「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」パネルで、以下を指定した場合に表示されます。

- 「Region type (領域タイプ)」に「DLI」を指定する。
- 「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションを未選択にする。
- HALDB であるデータベース、または FM/IMS インストール・オプション・モジュールで動的割り振りのみとして定義されている IMS サブシステム。

また、「Delete/Define Entry (項目の削除/定義)」パネルまたは「Initialize Entry (項目の初期化)」パネルで、以下を指定した場合にも表示されます。

- 「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションを未選択にする。
- HALDB であるデータベース、または FM/IMS インストール・オプション・モジュールで動的割り振りのみとして定義されている IMS サブシステム。

パネルとフィールドの定義

図 37. 「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネル

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS          Browse : Database Data Set Display

Subsystem IF32  Database DJ1E

DBD name  DD name  Data set name
DJ1E      DJ1E     'FM.XTEST.DB.DJ1E'
DJ2E      DJ2E     'FM.XTEST.DB.DJ2E'
DJ2F      DJ2F     'FM.XTEST.DB.DJ2F'
DJ3E      DJ3E     'FM.XTEST.DB.DJ3E'
DJ3F      DJ3F     'FM.XTEST.DB.DJ3F'
DJ1F      DJ1F     'FM.XTEST.DB.DJ1F'
****      End of data  ****

Press ENTER to confirm usage of the specified data set(s)
Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetriev  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions   F12=Cancel

```

Subsystem (サブシステム)

機能の入力パネルで指定したサブシステム名。

Database (データベース)

機能の入力パネルで指定したデータベース名。

DBD name

以下の物理 DBD の名前です。

- 機能の入力パネルで指定したデータベースの DBD (物理 DBD の場合)、または参照する物理 DBD (論理 DBD の場合)。
- 上記の箇条書き項目で指定した物理 DBD に論理的に関連している物理 DBD。

DD name

IMS によって動的に割り振られるデータベース・データ・セットごとの DD 名。

Data set name (データ・セット名)

IMS によって動的に割り振られるデータベース・データ・セットの名前。HALDB データベースの場合、FM/IMS は DBRC からデータ・セット名を取得します。HALDB 以外のデータベースの場合、FM/IMS は DFSMDA 動的割り振りメンバーからデータ・セット名を取得します。

リストされているデータベース・データ・セットが、関数が使用するデータベース・データ・セットであることを確認します。

これらのデータ・セットの使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、Enter キーを押します。

親パネル

- [Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)] パネル ページ 208
- [Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)] パネル ページ 215
- [Browse Entry (ブラウズ項目の入力)] パネル ページ 229
- [Delete/Define Entry (項目の削除/定義)] パネル ページ 271
- [Edit Entry (編集項目の入力)] パネル ページ 286
- [Extract Entry (抽出項目の入力)] パネル ページ 297
- [Initialize Entry (項目の初期化)] パネル ページ 344
- [Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)] ページ 361
- [Print Entry (印刷項目の入力)] パネル ページ 379

子パネル

- [Batch Browse Options (バッチ・ブラウズ・オプション)] パネル ページ 215
- [Batch Edit Options (バッチ編集オプション)] パネル ページ 222
- [Database Positioning (データベース位置決め)] パネル ページ 258
- [JCL Submission (JCL 実行依頼)] パネル ページ 357
- [Load Options (ロード・オプション)] パネル ページ 367
- [Extract : To Data Set Specification (抽出 : 受け入れ先データ・セット指定)] パネル ページ 308

「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネル

「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルでは、関数が使用するデータベース・データ・セットを指定します。

このパネルは、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネル、「Edit Entry (編集項目の入力)」パネル、「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネル、「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」、「Print Entry (印刷項目の入力)」パネル、「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネル、または「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」パネルで、以下を指定した場合に表示されます。

- [Region type (領域タイプ)] に「DLI」を指定する。
- [Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)] オプションを未選択にする。
- HALDB 以外のデータベース。
- FM/IMS インストール・オプション・モジュールで、動的割り振りのみとして定義されていない IMS サブシステム。

また、「Delete/Define Entry (項目の削除/定義)」パネルまたは「Initialize Entry (項目の初期化)」パネルで、以下を指定した場合にも表示されます。

- 「Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)」オプションを未選択にする。
- HALDB 以外のデータベース。
- FM/IMS インストール・オプション・モジュールで、動的割り振りのみとして定義されていない IMS サブシステム。

パネルとフィールドの定義

図 38. 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネル

```

Process   Options   Help
-----
FM/IMS           Edit : Database Data Set Specification

Subsystem IF52 Database DJ1E

DBD name  DD name  Data set name
DJ1E      DJ1E     'FMN.IMS.IVP.DB.DJ1E'
DJ2E      DJ2E     'FMN.IMS.IVP.DB.DJ2E'
DJ2F      DJ2F     'FMN.IMS.IVP.DB.DJ2F'
DJ3E      DJ3E     'FMN.IMS.IVP.DB.DJ3E'
DJ3F      DJ3F     'FMN.IMS.IVP.DB.DJ3F'
DJ1F      DJ1F     'FMN.IMS.IVP.DB.DJ1F'
**** End of data ****

Processing Options:
  Fetch dsnames from          Enter "/" to select option
  1. User profile             Save dsnames in profile
  2. DFSMDA members

Press ENTER to confirm usage of the specified data set(s)
Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetrieve  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions   F12=Cancel

```

Subsystem (サブシステム)

選択した機能の入力パネルに指定したサブシステム名。

Database (データベース)

機能の入力パネルで指定したデータベース名。

DBD name

以下の物理 DBD の名前です。

- 機能の入力パネルで指定したデータベースの DBD (物理 DBD の場合)、または参照する物理 DBD (論理 DBD の場合)。
- 上記の箇条書き項目で指定した物理 DBD に論理的に関連している物理 DBD。

ddname

関数で使用するデータベース・データ・セットごとの DD 名。

Data set name (データ・セット名)

「Fetch dsnames from (DS 名の取り出し元)」オプションを「User profile (ユーザー・プロファイル)」に設定した場合、このパネルには、ユーザー・プロファイルに保管されている

データ・セット名が表示されます。詳細については、**「Save dsnames in profile (プロファイルに DS 名を保管する)」** オプションの説明を参照してください。

「Fetch dsnames from (DS 名の取り出し元)」 オプションを「DFSMDA members (DFSMDA メンバー)」に設定し、指定されたサブシステムの RESLIB データ・セットが、リストされた物理 DBD の DFSMDA 動的割り振りメンバーを持つ場合、このパネルには、これらのメンバーに指定されたデータベース・データ・セット名が表示されます。

表示されたデータ・セット名が、関数を使用するデータ・セット名でない場合 (または、データ・セット名が表示されていない場合)、関数を使用するデータ・セット名を入力し、Enter キーを押します。

表示されたデータ・セット名の使用を確認し、ダイアログの次のパネルに進むには、もう一度 Enter キーを押します。

Fetch dsnames from (DS 名の取り出し元)

このオプションを使用すると、パネルに表示するデータ・セット名を選択できます。入力:

1. ユーザー・プロファイル

ユーザー・プロファイルに保管されているデータ・セット名を表示します。

2. DFSMDA メンバー

DFSMDA 動的割り振りメンバーに指定されているデータ・セット名を表示します。

このパネルに初めて入ると、このオプションには、機能の入力パネルの **「Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元)」** オプションで指定した値が設定されています。

Save dsnames in profile (プロファイルに DS 名を保管する)

パネルに表示されるデータベース・データ・セット名をユーザー・プロファイルに保管する場合、このオプションを選択します。データ・セット名は、ダイアログで次のパネルに移動するときに保管されます。保管場所は、サブシステム名、DBD 名、および DD 名に対して入力された ISPF テーブルです。指定されたサブシステムおよびデータベース (または論理的に関連するデータベース) に対して、パネルが再表示されるたびに、**「Fetch dsnames from (DS 名の取り出し元)」** オプションが「User profile (ユーザー・プロファイル)」に設定されている場合は、これらの保管されたデータベース・データ・セット名が表示されます。

親パネル

- [「Batch Browse Entry \(バッチ・ブラウズ項目の入力\)」](#) パネル ページ 208
- [「Batch Edit Entry \(バッチ編集項目の入力\)」](#) パネル ページ 215
- [「Browse Entry \(ブラウズ項目の入力\)」](#) パネル ページ 229
- [「Delete/Define Entry \(項目の削除/定義\)」](#) パネル ページ 271
- [「Edit Entry \(編集項目の入力\)」](#) パネル ページ 286

子パネル

- ・ [Segment Information (セグメント情報)] パネル ページ 397 (セグメント名のいずれかの先頭文字上にカーソルを置き、Enter キーを押します。)

「Database Positioning (データベース位置決め)」パネル

「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを使用して、編集またはブラウズを開始するデータベース内の位置、およびデータを表示する形式を指定します。

データベースの編集後またはブラウズ後に、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルに戻ると、このパネルは「Pos」フィールドおよび「Key value (キー値)」フィールドを使用して、IMS データ・パネルを終了したときのデータベース内の位置を示します。

動的 PSB を使用している場合には、このパネルに DBD 内のすべてのセグメント・タイプがリストされます。

静的 PSB を使用している場合には、このパネルには、PCB が依存する、DBD 内のセグメント・タイプがリストされます。

パネルとフィールドの定義

図 40. 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネル

Process	Options	Help	
FM/IMS		Edit : Database Positioning	
Subsystem	IF52	Database	DJ1E
View	C	Temporary	
Cmd	SXE	Level	Segment
	SX	1	SHIRE
	X	2	SHIRENP
	XE	2	LINKSUB
**** End of data ****			
Key sequence	len	Key value	Format
	20		TABL
	0		
	18	
Command ==>			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F5=Key >=	Scroll	CSR
		F7=Backward	

Subsystem (サブシステム)

「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルに指定されたサブシステム ID。

Database (データベース)

「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルまたは「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルで入力された DBD の名前が表示されます。また、この行には、データベース・タイプ HSAM、SHSAM、HISAM、SHISAM、HIDAM、GSAM、INDEX、MSDB のキー・シーケンスも含まれます。

View (表示)

使用しているビュー・データ・セットおよびメンバーが表示されます。このセッションでビューを使用していない場合には、「None(なし)」と表示されます。ビューがテンプレートから生成される(新規のビュー)場合、表示される名前は「Temporary」になります。このビューが変更された場合は(行コマンドまたは基本コマンドで)、ビューが保管されるまで **C** 標識が表示されます。

Cmd (コマンド)

行コマンド・フィールド。このパネルで使用可能な行コマンドは、以下のとおりです。

E (編集)

ビューの編集対象であるセグメント・タイプの「Cmd」フィールドに「e」と入力します。これは、ビューが使用されているときにのみ使用できます。

K (キー値)

表示するセグメント・タイプの「Cmd」フィールドに「k」を入力すると、「Key Specification (キー指定)」パネルが表示されます。このパネルで、選択したセグメント・タイプの階層パス内のすべてのセグメント・タイプのキー・フィールドを指定することができます。

S (位置)

データ表示パネルでセグメントの検索の開始位置とするセグメント・タイプの「Cmd」フィールドに「s」を入力して、希望するセグメント・オカレンスの階層パスにあるすべてのセグメント・タイプのキー値フィールドにキー値を指定します。Enter キーを押すと、入力された特定のキー値が「等しい」ものの検索のために使用されます。GE コマンド (File Manager では機能キー F5 に割り当てられている) と合わせて使用すると、キー値フィールドに部分キーを入力することができます。例えば、「Cmd」フィールドに「S」を入力し、ルート・セグメントのキー値フィールドに「M」を入力してから、F5 を押すと、「M」で始まるルート・セグメントからセグメントの表示が開始されます。キー順になっていないデータベース・タイプの場合には、ルート・セグメント・レベルで特定のキーを入力しなければなりません (GE コマンドを使用時でも) が、より低いレベルの部分キーを入力することができます。

X (選択)

選択または選択解除を行うビューを変更するセグメント・タイプの「Cmd」フィールドに「x」を入力します。また、これはビューが使用されているときにのみ使用できます。

このフィールドを使用して、編集を開始する位置を指定します。

SXE

以下の 3 桁の情報を示します。

S

セグメント・タイプが現在位置の階層パス内にある则表示され、それ以外はブランクになります。

X

表示するセグメントとして現在のビューによって選択されているセグメントに対して表示されません。ビューが使用されていない場合、すべてのセグメントが選択されていると想定されます。

E

現在のビューの中に選択式があるセグメントに対して表示されます。

Level (レベル)

データベース内のセグメント・タイプの階層レベル。

Segment (セグメント)

セグメント・タイプの名前。

説明

ビューを使用している場合には、これはセグメント記述 (テンプレートの作成時に指定した) になります。それ以外の場合、このフィールドは空白です。

Key len (キー長)

セグメント・タイプのキーの長さ。

Key value (キー値)

データベースの編集後にこのパネルに戻ったときに、編集を終了した位置の階層パス内にセグメント・タイプがある場合には、このフィールドにはその位置のキー値が入ります。それ以外の場合、このフィールドには 2 進ゼロが入ります。

このパネルを (データベースの編集前に) 最初に表示したときに、データベース編成がキー・シーケンスのルート・セグメントを保管していた場合は、このフィールドにはデータベース内の最初のルート・セグメントのキー値が入ります。

キー値は不定形式の文字として表示されます。すなわち、ビューを使用している場合であっても、2 進数およびバック 10 進数値フィールドの値は定様式数値としては表示されません。

キー値の 16 進数の内容をエディター内で使用されているものと類似した形式で表示するために、HEX ON コマンドを実行することができます。この場合は、キー文字の下に 16 進値が表示されます。

キーが 30 文字より長い場合には、その値はパネル上で次の行に折り返します。

親パネル

- [「Database Data Set Display \(データベース・データ・セット表示\)」](#) パネル ページ 252
- [「Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)」](#) パネル ページ 254
- [「Browse Entry \(ブラウズ項目の入力\)」](#) パネル ページ 229
- [「Edit Entry \(編集項目の入力\)」](#) パネル ページ 286
- [「Secondary Index Selection \(2 次索引の選択\)」](#) パネル ページ 396

子パネル

- 「IMS data (IMS データ)」 パネル ページ 334
- 「Segment Layout (セグメント・レイアウト)」 パネル ページ 399
- 「Segment Layout Selection (セグメント・レイアウト選択)」 パネル ページ 406
- 「Key Specification (キー指定)」 パネル ページ 358

関連トピックおよび例

- 「Database Positioning (データベース位置決め)」 パネルを介した開始位置の決定 ページ 61

「Database Selection (データベース選択)」 パネル

「Database Selection (データベース選択)」 パネルは、「Edit Entry (編集項目の入力)」、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」、「Extract Entry (抽出項目の入力)」、「Load Entry (ロード項目の入力)」、「Print Entry (印刷項目の入力)」、「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」、または「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」の各パネルで、以下を指定した場合に表示されます。

- 「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Dynamic (動的)」。
- データベース名を指定しなかったか、またはデータベース名パターンを指定した。

また、「Delete/Define Entry (項目の削除/定義)」パネルまたは「Initialize Entry (項目の初期化)」パネルで、データベース名を指定しなかったか、またはデータベース名パターンを指定した場合にも表示されます。

このパネルには2つのバージョンがあります。表示されるバージョンは、入力パネルで選択したサブシステムがIMS 管理 ACB を使用するかどうかによって異なります。これらの各バージョンを順に説明します。

サブシステムによる IMS 管理 ACB の使用

データベース名を指定しなかった場合、選択したサブシステムが使用する IMS カタログ内のすべてのデータベースがパネルに表示されます。データベース名パターンを指定した場合、そのパターンに名前が一致する IMS カタログ内のすべてのデータベースがパネルに表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 41. 「Database Selection (データベース選択)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Initialize : Database Selection
Subsystem IFG1		
Cmd	DB name	Timestamp
	AHRD#1	1524414432060
	AHRD#2	1524414432060
	AHRD#4	1524414432060
	AHRX#1	1524414432060
	AHRX#2	1524414432060
	AHRX#4	1524414432060
	ATRD#1	1524414432060
	ATRD#2	1524414432060
	ATRD#4	1524414432060
	ATRX2#1	1524414432060
	ATRX2#2	1524414432060
	ATRX2#4	1524414432060
	AUBD#1	1524414432060
	AUBD#2	1524414432060
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F4=CRetriev	F5=Key >=	Scroll CSR
F7=Backward	F8=Forward	F9=Swap
F10=Actions	F12=Cancel	

このパネルには、入力パネルで指定したサブシステム名と、各データベースの以下の詳細情報が表示されます。

DB name (DB 名)

データベースの名前。

Timestamp (タイム・スタンプ)

アクティブ ACB ライブラリー内の ACB のタイム・スタンプ。

データベースを選択するには、「Cmd」フィールドに **S** を入力し、Enter キーを押します。

サブシステムが IMS 管理 ACB を使用しない

データベース名を指定しなかった場合、選択したサブシステムの DBD ライブラリー内のすべての DBD がパネルに表示されます。データベース名パターンを指定した場合、そのパターンに名前が一致するすべてのデータベースがパネルに表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 42. 「Database Selection (データベース選択)」パネル

Process	Options	Help								
FM/IMS			Database Selection					Row 00001 of 01313		
DSNAME	FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB									
	Name	Prompt	Lib	Alias-of	Size	AC	AM	RM	----	Attribut
	*	*	*	*		*	*	*	*	*
	#TRD		3		00000228	00	24	24		
	#TRX2		3		00000138	00	24	24		
	#UBD		3		00000240	00	24	24		
	#UBX		3		00000138	00	24	24		
	ABND		1		00000250	00	24	24		
	ABND#1		1		00000250	00	24	24		
	ABND#2		1		00000250	00	24	24		
	ABND#3		1		00000250	00	24	24		
	ABND#4		1		00000250	00	24	24		
	ACCTDB		1		00000360	00	24	24		
	ACT		3		00000130	00	24	24		
	AGCPDB01		3		00000450	00	24	24		
	AGCXDB01		3		00000240	00	24	24		
	AGCXDB02		3	AGCXDB01	00000240	00	24	24		
	AGCXDB03		3	AGCXDB01	00000240	00	24	24		
Command	==>									Scroll CSR
	F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind					F7=Backward
	F8=Forward	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel					

各データベースについて、パネルには、その DBD の名前とその他の属性が表示されます。

データベースを選択するには、「**Cmd**」フィールドに **S** を入力し、Enter キーを押します。

パネル・フィールドおよび機能の詳細については、「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」の「Member Selection (メンバー選択)」パネルの説明を参照してください。

親パネル

- 「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」パネル ページ 208
- 「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネル ページ 215
- 「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネル ページ 229
- 「Delete/Define Entry (項目の削除/定義)」パネル ページ 271
- 「Edit Entry (編集項目の入力)」パネル ページ 286
- 「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネル ページ 297
- 「Initialize Entry (項目の初期化)」パネル ページ 344
- 「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」ページ 361
- 「Print Entry (印刷項目の入力)」パネル ページ 379

「Date/Time Attributes (日付/時刻属性)」パネル

このパネルは、日付または時刻の値(あるいはその両方)を含むフィールドを定義するために使用されます。このパネルには、日時フィールドの形式、データ作成と変更の属性、およびデータ・スクランブル属性がリストされます。日時データが保管されるフォーマットを定義したり、必要に応じてフィールドのデータ型をオーバーライドしたり、日時の表示に使用さ

れるフォーマットを変更したりすることができます。また、データ作成およびフィールドのスクランブル・オプションを指定することもできます。

パネルとフィールドの定義

図 43. 「Date/Time Attributes (日付/時刻属性)」パネル

Process	Options	Help
File Manager		
Date/Time Attributes		
Command ==>		
Fixed Attributes:		
Field name	CHAR-DDMMYYYY	
Type	AN	
Start	10	
Length	8	
Internal Attributes:		
Format	DDMMYYYY	+
Type	—	
Output Attributes:		
Format	DD/MM/YYYY	+
Create/Modify Attributes:		
Base Date	20/10/2014	+
(Use = for current date/time)		
Day Adjustment	_____	
Month Adjustment	_____	
Year Adjustment	_____	
Scrambling Options:		
Enter "/" to select option		
Random Range Start	_____	+
End	_____	+
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Left	F11=Right
	F12=Cancel	F4=Expand
		F5=RFind
		F7=Up
		F8=Down

FM/IMS は、「Date/Time Attributes (日付/時刻属性)」パネルで以下のフィールドを表示します。

Internal attributes (内部属性)

フィールドに日時を格納する方法を定義するために使用します。

形式

日時値をフィールドに格納する形式を指定します。フォーマット値には、言語環境の日付と時間の呼び出し可能なサービスでサポートされている絵文字を含む文字を指定できます。例えば、8 バイトである場合、外部 10 進数フィールドを使用して、4 桁の年の値、続いて 2 桁の月の値、続いて 2 桁の日の値という形式の日付を保管できます。この形式ストリングは次のように指定します。

YYYYMMDD

File Manager でサポートされている以下のいずれかの形式を入力することもできます。

CENTSECS

時刻 (100 分の 1 秒単位)

CBLDATE

COBOL 日付 (1600 年 12 月 31 日以降の日数)

CYYDDD

ユリウス日付 (C を世紀標識として使用。0 は 1900 年代、1 は 2000 年代)

LILDATE

リリウス日付 (1582 年 10 月 14 日からの日数)

LILTIME

1582 年 10 月 14 日 00:00:00 からの秒数として格納される日時

MICSECS

時刻 (100 万分の 1 秒単位)

MILLSECS

時刻 (1000 分の 1 秒単位)

STCK

TOD クロック値として保管される日時

STCKE

拡張 TOD クロック値として保管される日時

Type (タイプ)

フィールド属性に定義されたデータ・タイプをオーバーライドするデータ・タイプを指定します。これは、フィールドのデータ・タイプが日時値の処理に適していない場合に使用されます。例えば、英数字フィールドを使用してマイクロ秒の時刻値を保管する場合、File Manager が時刻値の有効な処理を確実に実行するように、「Type (タイプ)」フィールドに BI (バイナリー) を入力することができます。

Output Attributes (出力属性)

日時の値を表示する方法を定義するために使用します。

形式

このフィールドの日時値を表示するために使用される形式を指定します。入力する形式は、Language Environment の日時呼び出し可能サービスによってサポートされるピクチャー文字を含むstringです。例えば、日付の値を、3 文字の曜日、3 文字の月、その月の日の 2 桁、およびその年の 4 桁を示すstringとして表示するには、形式stringを次のように指定します。

```
Www Mmm DD, YYYY
```

FM/IMS が日時フィールドを定様式モードで表示すると、フィールドの出力幅は指定された出力フォーマットの長さに設定されます。

Create/Modify Attributes (作成/変更の属性)

このフィールドを含むレコード用のテスト・データの作成時に、データ作成機能およびデータ・コピー機能で使用するフィールド固有の属性を定義します。

Base Date (基準日)

このフィールドに新しいデータを作成するときに使用する日付値を指定します。このフィールド用に定義された出力形式で日付値を入力できます。 =
を入力すると、現在日付が使用されることを示します。 Enter
キーを押すと、この値が取得され、フィールド内の =
がその値に置き換えられます。取得される値は定数であるため、データ作成機能が後で実行される場合、必ず同じ値がフィールドへの値の取り込みに使用されます。

を入力すると、データを作成した日付をフィールドへの取り込みに使用するように指定できます。 は、データ作成機能が実行される時のフィールドの変数値を示します。この値は作成関数が実行された日付です。

Day Adjustment (日付の調整)

基本日付の日の値の増分または減分となる値を指定します。値は整数で構成され、オプションで先頭にプラス (+) またはマイナス (-) 文字が付きます。プラス文字は、日の値が増加することを示します。マイナス文字は、日の値が減少することを示します。プラス文字もマイナス文字も指定されない場合は、プラスであると想定されます。

増加値または減少値は、前のレコードのフィールドに保管された日付値に適用されます。例えば値 -1 は、後続の各レコードは前のレコードに格納された日付値よりも 1 日早い日付値を持つことを示します。

Month Adjustment (月の調整)

基本日付の月の値の増分または減分となる値を指定します。値は整数で構成され、オプションで先頭にプラス (+) またはマイナス (-) 文字が付きます。プラス文字は、月の値が増加することを示します。マイナス文字は、月の値が減少することを示します。プラス文字もマイナス文字も指定されない場合は、プラスであると想定されます。

増加値または減少値は、前のレコードのフィールドに保管された月値に適用されます。例えば、値 +1 の場合、以降の各レコードには、前のレコードに保管された日付値から 1 か月後の日付値を指定する必要があります。

年の調整

基本日付の年の値の増分または減分となる値を指定します。値は整数で構成され、オプションで先頭にプラス (+) またはマイナス (-) 文字が付きます。プラス文字は、年の値が増加することを示します。マイナス文字は、年の値が減少することを示します。プラス文字もマイナス文字も指定されない場合は、プラスであると想定されます。

増加値または減少値は、前のレコードのフィールドに保管された年値に適用されます。例えば値 -1 は、後続の各レコードは前のレコードに格納された日付値よりも 1 年早い日付値を持つことを示します。

Scrambling Options (スクランブル・オプション)

これらのオプションは、テスト・データを生成するためにコピー、インポート、またはエクスポート機能の実行時に使用するフィールドの順序変更を制御します。

Random (ランダム)

このオプションを選択すると、File Manager は、この日時フィールドに値をコピーするときにランダム・スクランブルを実行します。ランダム・スクランブルの場合、入力値が同じでも、後続の起動時には出力値が異なります。このオプションが選択されておらず、範囲の「Start (開始)」値と「End (終了)」値が指定されている場合、File Manager は、この日時フィールドに対して反復可能なスクランブルを実行します。反復可能スクランブルとは、入力値が同じなら後続の起動時も出力値が同じになることを意味します。

ランダム・スクランブルと反復可能スクランブルの両方で、「Start (開始)」値と「End (終了)」値は、File Manager がこのフィールドに保管できる許容日時値の範囲を定義します。

Start (開始)

このデータ・セットにデータをコピーするときにこのフィールドに保管できる、スクランブル値の範囲の始まりである日時値を指定します。このフィールドに定義された出力フォーマットで日時値を入力します。

End (終了)

このデータ・セットにデータをコピーするときにこのフィールドに保管できる、スクランブル値の範囲の終わりである日時値を指定します。このフィールドに定義された出力フォーマットで日時値を入力します。

親パネル

子パネル

「DBD Information (DBD 情報)」パネル

このパネルは、DBD 基本コマンドを入力したときに表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 44. 「DBD Information (DBD 情報)」パネル

Process	Options	Help	
FM/IMS		DBD Information	
Database	DJ1E		
Access	HIDAM		
Cmd	Segment	Length	Key Start Length
****	Top of data	****	
1	SHIRE	1 53	1 20
2	SHIRENP	2 11	SHIRE
3	LINKSUB	2 18	SHIRE
****	End of data	****	
Dataset Group			
Command ==>		Scroll CSR	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel	

FM/IMS は、「DBD Information (DBD 情報)」パネル上に以下のフィールドを表示します。

データベース

データベース用の DBDGEN の DBD ステートメントに指定された名前。

Access (アクセス)

データベースに対する DL/I アクセス方式。

Cmd (コマンド)

行コマンド・フィールド。このパネルで使用可能な行コマンドは、以下のとおりです。

S

このセグメントの「Segment Information (セグメント情報)」パネルが表示されます。

Segment Number (セグメント番号)

データベース内のセグメントを固有に識別するために使用されるシーケンス番号。

Segment Name (セグメント名)

DBD に定義された通りのセグメントの名前。

Segment Level (セグメント・レベル)

データベース内のセグメントの階層レベル番号。

Length (長さ)

DBD に定義された通りのセグメント長。FM/IMS は、可変長セグメントの場合は最小長と最大長を表示します。

Key Start (キー開始)

セグメントのキー・フィールドの開始位置。セグメントにキーがない場合には、このフィールドは空白です。

Key Length (キー長)

セグメントのキー・フィールドの長さ。セグメントにキーがない場合には、このフィールドは空白です。

Parent (親)

セグメントの親の名前。セグメントがデータベースのルート・セグメントである場合には、このフィールドは空白です。

Data set Group (データ・セット・グループ)

セグメントが保管されているデータ・セット・グループの DD 名。

親パネル

- DBD 基本コマンドが入力されたときに表示される、それぞれの機能の「入力」パネルの後のすべてのパネル ([DBD 基本コマンド ページ 483](#)を参照)。

子パネル

- [「Segment Information \(セグメント情報\)」パネル ページ 397](#)

「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネル

「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネルは、「Template (テンプレート)」ダイアログ (オプション 4.1) および「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」ダイアログ (オプション 4.4) で表示されます。

「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネルでは、関数が使用するデータベース定義 (DBD) を含む DBD ライブラリーの名前を指定します。

「Template (テンプレート)」ダイアログ

このパネルは、「Template Entry (テンプレート項目の入力)」パネルで、「Template (テンプレート)」ダイアログに以下を指定すると表示されます。

- 存在しないテンプレート・メンバー。
- IMS 管理 ACB を使用しないサブシステム。

このパネルはさらに、IMS カタログの名前ではなく DBD ライブラリー・リストが、指定したテンプレートに保管されていて、以下のいずれかが当てはまる場合にも表示されます。

- リスト内の DBD ライブラリーの 1 つがカタログされていない。
- 関数が使用する DBD の 1 つが DBD ライブラリー内に見つからない。
- DBDLIST コマンドを「Template Specification (テンプレート指定)」パネルで発行する。

関数は、指定されたライブラリーから、テンプレートを使用するデータベースの DBD を検索し、検出された DBD からデータベースのセグメント・タイプのリストを取得します。新規テンプレートの場合、このリストは、テンプレートのセグメント・リストを作成するために使用されます。既存のテンプレートの場合、テンプレートのセグメント・リストがこのリストと同じでなければ、関数はテンプレートのセグメント・リストを更新して内容を同じにします。

指定した DBD ライブラリー・リストは、テンプレートに保管され、後続の更新で使用されます。

DBDLIST コマンドを発行した場合、このパネルには、テンプレートに現在保管されている DBD ライブラリー・リストが表示されます。

【Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)】 ダイアログ

このパネルは、「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」ダイアログで **【Specify DBDLIB list (DBDLIB リストの指定)】** オプションを選択し、**【Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)】** オプションを選択しなかった場合に表示されます。これらのオプションはどちらも「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」パネルにあります。

このユーティリティは、次の条件の一方または両方が真である場合に、指定された DBD ライブラリー内の DBD を使用します。

- **【Specify IMS catalog (IMS カタログの指定)】** オプションが選択されていない。
- テンプレートのセグメント・リストが前回更新されたときに使用された DBD は、IMS カタログからではなく、DBD ライブラリーからのものである。

上記が当てはまる場合、ユーティリティは指定されたライブラリーから、テンプレートを使用するデータベースの DBD を検索し、検出された DBD からデータベースのセグメント・タイプのリストを取得します。テンプレートのセグメント・リストがこのリストと同じでなければ、ユーティリティはテンプレートのセグメント・リストを更新して内容を同じにします。

テンプレートの更新が成功すると、ユーティリティは指定された DBD ライブラリー・リストをそのテンプレートに保存します。



注:

1. **【Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)】** オプションが選択されておらず、**【Specify IMS catalog (IMS カタログの指定)】** オプションと **【Specify DBDLIB list (DBDLIB リストの指定)】** オプションは選択されており、テンプレートのセグメント・リストが前回更新されたときに使用されていた DBD が IMS カタログからのものである場合、ユーティリティは「IMS Catalog Specification (IMS カタログ指定)」パネルで指定された IMS カタログの DBD を使用します。



2. 「Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)」、 「Specify IMS catalog (IMS カタログの指定)」、 および 「Specify DBDLIB list (DBDLIB リストの指定)」 のオプションがすべて選択されていない場合、ユーティリティーは、テンプレートに保管されている DBD ライブラリー・リストまたはテンプレートに保管されている IMS カタログのいずれかの DBD を使用します。

パネルとフィールドの定義

図 45. 「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	DBD Library List	
DBD Library:		
Data set name	1 'FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB'	
	2 _____	
	3 _____	
	4 _____	
	5 _____	
	6 _____	
Command ==> _		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F10=Actions	F12=Cancel	F7=Backward F8=Forward F9=Swap

FM/IMS は、「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネル上に、以下のフィールドを表示します。

Data set names (データ・セット名)

FM/IMS で使用するデータベース定義 (DBD) を含む、1 文字から 6 文字のロード・ライブラリーの名前。

親パネル

- [「Template Entry \(テンプレート項目の入力\)」パネル ページ 440](#)
- [「Template Specification \(テンプレート指定\)」パネル ページ 444](#)
- [「Template Update Utility \(テンプレートの更新ユーティリティー\)」パネル ページ 450](#)

「Delete/Define Entry (項目の削除/定義)」パネル

「Delete/Define Entry (項目の削除/定義)」パネルは、「Delete/Define (削除/定義)」ダイアログの最初のパネルです。これは、「Utility Menu (ユーティリティー・メニュー)」パネルでオプション 1 (「Delete/Define (削除/定義)」) を選択すると表示されます。

このパネルでは、以下の指定を行います。

- 削除および再定義するデータ・セットを持つデータベースの名前。
- 削除および再定義するデータ・セットを持つデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID。

- 削除/定義においてデータベース・データ・セット名をユーザー・プロファイルから取得するか、DFSMDA 動的割り振りメンバーから取得するか。
- 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」または「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルの表示をスキップするかどうか。

パネルとフィールドの定義

図 46. 「Delete/Define Entry (項目の削除/定義)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Delete/Define Entry Panel	
IMS:		
Subsystem name . . . <u>IF52</u>		
Database name . . . <u>DJ1E</u>		
Processing Options:		
Fetch DB dsnames from		Enter "/" to select option
<u>1</u>	1. User profile	_ Skip DB data set panel
	2. DFSMDA members	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetrieval	F7=Backward
	F8=Forward	

IMS Subsystem Name (IMS サブシステム名)

削除/定義するデータ・セットを持つデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID。

FM/IMS は、指定された名前のサブシステムを、FM/IMS インストール・オプション・モジュールから検索します。サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に、「サブシステム選択」パネルが表示されます。パネルに表示されるサブシステムのリストから、サブシステムを選択することができます。

IMS Database name (IMS データベース名)

削除および再定義するデータ・セットを持つデータベースの名前。指定したデータベースが論理的に他のデータベースに関連する場合、削除/定義により、論理的に関連するデータベースのデータ・セットも削除され、再定義されます。

FM/IMS は、IMS カタログまたは DBD ライブラリーのいずれかで、指定された名前の DBD を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した DBD ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの DBD ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの DBD ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの DBD ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「DBD Data set name (DBD データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した DBD ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する DBD ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 DBD ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった DBD を使用します。

IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。

- 指定するデータベースの DBD。
- 指定するデータベースに論理的に関連している各データベースごとの DBD。

データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合は、「Database Selection (データベース選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるデータベースのリストから、データベースを選択することができます。

Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元)

HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみではない IMS サブシステムを選択した場合、以下のいずれかのオプションを指定します。

1. ユーザー・プロファイル

削除/定義では、ユーザー・プロファイルに名前が保管されているデータベース・データ・セットを削除および再定義します。

2. DFSMDA メンバー

削除/定義では、DFSMDA 動的割り振りメンバーに指定されているデータベース・データ・セットを削除および再定義します。



注: 以下のいずれかを指定した場合、このフィールドは無視されます。



- HALDB データベース。
- FM/IMS インストール・オプション・モジュールでのみ、動的割り振りとして定義されている IMS サブシステム。

Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)

これを選択すると、FM/IMS は「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」および「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルを表示しません。

親パネル

- [「Utility Menu \(ユーティリティー・メニュー\)」パネル ページ 457](#)

子パネル

- [「Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)」パネル ページ 254](#)
- [「Database Data Set Display \(データベース・データ・セット表示\)」パネル ページ 252](#)
- [「JCL Submission \(JCL 実行依頼\)」パネル ページ 357](#)

関連トピックおよび例

- [データ・セットの削除と再定義 ページ 160](#)

「DLI Mode Data Sets 1 (DLI モード・データ・セット 1)」パネル

「DLI Mode Data Sets 1 (DLI モード・データ・セット 1)」パネルを使用すると、DLI モードで実行されるときに FM/IMS 機能によって使用される、DFSVSAMP、RESLIB、および IMS マクロ・データ・セットの名前を表示および変更できます。

このパネルは、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」でオプション 2 を選択すると表示されます。「Subsystem (サブシステム)」フィールドには、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」で指定した IMS サブシステム ID が表示されます。

パネルには、DLI 領域タイプが選択され、この IMS サブシステム ID が機能の入力パネルで指定されている場合に、オンライン FM/IMS 機能が使用するデータ・セット名が表示されます。

FM/IMS 管理者が、パネル上に表示されたデータ・セット名の一部またはすべての値を修正している場合があります。

データ・セットが修正された場合は、パネル・フィールドが保護され、指定された値を変更できなくなります。データ・セットが修正されていない場合は、データ・セットに指定された値を変更できます。

パネル上のすべてのデータ・セット名をサブシステムのデフォルトに再設定するには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保存してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保存せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 47. 「DLI Mode Data Sets 1 (DLI モード・データ・セット 1)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		DLI Mode Data Sets 1
Subsystem IF52 IMS V13 NT Test		
DFSVSAMP:		
Data set name . . .	'IMSV13.IFB2.PROCLIB'	
Member	DFSVMDB	
RESLIB:		
Data set name #1	'IMSV1210.IF52.SDFSRESL'	
Data set name #2	'IMSV1210.IF52.USERLIB3'	
Data set name #3	'IMSV1210.IF52.USERLIB4'	
Data set name #4	'IMSV1210.IF52.USERLIB5'	
Data set name #5	'IMSV1210.IF52.USERLIB6'	
Data set name #6	'IMSV1210.IF52.USERLIB'	
IMS Macros:		
Data set name . . .	'IMS.V1210.SDFSMAC'	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
	F8=Forward	

Subsystem (サブシステム)

「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」パネルで指定した IMS サブシステム ID が表示されます。

DFSVSAMP data set name (DFSVSAMP データ・セット名)

OSAM および VSAM データ・セット用に IMS

バッファ・サブプールを定義するパラメーターが含まれているデータ・セットの名前。File Manager/IMS 機能が DLI モードで実行される場合、指定したデータ・セットは DFSVSAMP DD に割り振られます。

指定したデータ・セットが区画に分割されている場合は、DFSVSAMP メンバー・フィールドに必要なメンバーを指定します。

DFSVSAMP member (DFSVSAMP メンバー)

DFSVSAMP データ・セットが区画に分割されている場合は、OSAM および VSAM データ・セット用に IMS バッファ・サブプールを定義するパラメーターが含まれていメンバーを指定します。File Manager/IMS 機能が DLI モードで実行される場合、指定したメンバーは DFSVSAMP DD に割り振られます。

DFSVSAMP

データ・セットが区画に分割されている場合、メンバー名にパターンまたはブランクを入力すると、メンバー選択リストが表示されます。このリストから、1つのメンバーを選択できます。

DFSVSAMP が順次データ・セットの場合は、メンバー名にブランクを入力します。

RESLIB data sets (RESLIB データ・セット)

IMS SVC モジュール、DFSMDA 動的割り振りメンバー、および IMS

出口ルーチンが含まれるデータ・セットの名前。File Manager/IMS 機能が DLI

モードで実行される場合、指定したデータ・セットは TASKLIB DD に割り振られ、APF 許可されたデータ・セットは DFSRESLB DD に割り振られます。

IMS Macros data set name (IMS マクロ・データ・セット名)

IMS マクロ・ライブラリーの名前。DLI モードで実行されている FM/IMS 機能は、動的 PSB を生成するとき、指定されたライブラリーの IMS マクロを使用します。

親パネル

- ・ [「Subsystem Settings Menu \(サブシステム設定メニュー\)」](#) パネル ページ 435

子パネル

- ・ なし。

「DLI Mode Data Sets 2 (DLI モード・データ・セット 2)」パネル

「DLI Mode Data Sets 2 (DLI モード・データ・セット 2)」パネルを使用すると、DLI モードでの実行時に、FM/IMS 機能によって使用される RECON、ACBLIB、および IMS ログ・データ・セットの名前を表示および変更できます。

このパネルは、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」でオプション 3 を選択すると表示されます。「Subsystem (サブシステム)」フィールドには、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」で指定した IMS サブシステム ID が表示されます。

パネルには、DLI 領域タイプが選択され、この IMS サブシステム ID が機能の入力パネルで指定されている場合に、オンライン FM/IMS 機能が使用するデータ・セット名が表示されます。

FM/IMS 管理者が、パネル上に表示されたデータ・セット名の一部またはすべての値を修正している場合があります。

データ・セットが修正された場合は、パネル・フィールドが保護され、指定された値を変更できなくなります。データ・セットが修正されていない場合は、データ・セットに指定された値を変更できます。

パネル上のすべてのデータ・セット名をサブシステムのデフォルトに再設定するには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保存してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保存せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 48. 「DLI Mode Data Sets 2 (DLI モード・データ・セット 2)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		DLI Mode Data Sets 2
Subsystem IF52 IMS V13 NT Test		
RECON:		
Primary data set name .	_____	
Secondary data set name	_____	
Spare data set name . .	_____	
ACBLIB:		
Data set name	'IMSV1210.IF52.ACBLIB'	
IMS log:		
Data set name pattern .	&UID..FMNLOG.&YMMDD..&HHMSS..&DBNAME.	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
F4=CRetriev	F7=Backward	F8=Forward

Subsystem (サブシステム)

「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」で指定した IMS サブシステム ID。

RECON Primary data set (RECON 1 次データ・セット)

IMS で DBRC RECON

データ・セットを動的に割り振る場合は、このフィールドを空白にしておきます。IMS は、必要な場合に、DFSMDA 動的割り振りメンバーで指定された RECON データ・セットを割り振ります。

FM/IMS で DBRC RECON データ・セットを割り振る場合は、IMS で使用する 1 次 DBRC RECON データ・セットの名前を指定します。DLI モードで実行されている FM/IMS 機能は、必要とされるときに、指定されたデータ・セットを RECON1 DD に割り振ります。

1 次 RECON データ・セットを指定する場合は、2 次およびスペア RECON データ・セットも指定する必要があります。

RECON Secondary (RECON 2 次)

IMS で DBRC RECON

データ・セットを動的に割り振る場合は、このフィールドを空白にしておきます。IMS は、必要な場合に、DFSMDA 動的割り振りメンバーで指定された RECON データ・セットを割り振ります。

FM/IMS で DBRC RECON データ・セットを割り振る場合は、IMS で使用する 2 次 DBRC RECON データ・セットの名前を指定します。DLI モードで実行されている FM/IMS 機能は、必要とされるときに、指定されたデータ・セットを RECON2 DD に割り振ります。

2 次 RECON データ・セットを指定する場合は、1 次およびスペア RECON データ・セットも指定する必要があります。

RECON Spare (RECON スペア)

IMS で DBRC RECON

データ・セットを動的に割り振る場合は、このフィールドをブランクにしておきます。IMS は、必要な場合に、DFSMDA 動的割り振りメンバーで指定された RECON データ・セットを割り振ります。

FM/IMS で DBRC RECON データ・セットを割り振る場合は、IMS で使用するスペア DBRC RECON データ・セットの名前を指定します。DLI モードで実行されている FM/IMS 機能は、必要とされるときに、指定されたデータ・セットを RECON3 DD に割り振ります。

スペア RECON データ・セットを指定する場合は、1 次および 2 次 RECON データ・セットも指定する必要があります。

ACBLIB Data set name (ACBLIB データ・セット名)

サブシステムのステージング ACBLIB データ・セット名。

このデータ・セットは、ファースト・パス・データベースが指定される場合に、Initialize 関数によって使用されます。DBFUMINO ユーティリティは、初期化するデータベースに生成された ACBLIB の DBD メンバーから情報を取得します。

IMS log Data set name pattern (IMS ログ・データ・セット名パターン)

FM/IMS 機能が IMS ログ・データ・セット名を生成するために使用する名前パターン。

名前パターンは、最大で 5 つの修飾子で構成できます。修飾子ごとに、必要な文字ストリングまたはシンボルのいずれかを指定できます。データ・セット名は、名前パターン内のシンボルをそのランタイム値と置き換えることで生成されます。

この項目の残りの部分では、「関数」は IMS ログを使用する関数のことを指して用いられています。

名前パターンは以下のシンボルをサポートします。

&DBNAME.

この関数がアクセスする 1 次データベースの名前。

&PREFIX.

ユーザーの TSO 接頭部 (名前が TSO 環境で生成される場合) または TSOPREFIX パラメーターに指定された値 (そうでない場合) のいずれか。値は NULL にすることができます。

&FUNCOD.

この関数のコード。

以下に、IMS ログを使用する可能性がある関数のコードを示します。

IE

Edit (編集)

IB

Browse (参照)

DIB

初期化

IXB

抽出

ILB

ロード

IPR

Print (印刷)

IEB

バッチ編集

IBB

バッチ・ブラウズ

&HHMMSS.

Thhmmss。ここで hhmmss は、IMS ログ・データ・セット名が生成された時刻を表し、時 (HH)、分 (MM)、および秒 (SS) で表されます。

&SSID.

機能がアクセスする対象の IMS サブシステムの名前。

&UID.

&PREFIX.(値が NULL でない場合) またはユーザー ID (値が NULL である場合) のいずれか。

&USER.

ユーザー ID

&YYMMDD.

Dyymmdd。ここで yymmdd は、IMS ログ・データ・セット名が生成された日付を表し、2 桁の年 (YY)、月 (MM)、および日 (DD) で表されます。

親パネル

- [「Subsystem Settings Menu \(サブシステム設定メニュー\)」](#) パネル ページ 435

子パネル

- なし。

「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」 パネル

「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」パネルを使用すると、BMP モードで実行されるときに FM/IMS 機能によって使用される選択済みオプションを表示および変更できます。

このパネルは、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」でオプション 4 を選択すると表示されます。「Subsystem (サブシステム)」フィールドには、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」で指定した IMS サブシステム ID が表示されます。

パネルには、DLI 領域タイプが選択され、この IMS サブシステム ID が機能の入力パネルで指定されている場合に、オンライン FM/IMS 機能が使用するオプションが表示されます。

FM/IMS 管理者が、パネル上に表示されたオプションの一部またはすべての値を修正している場合があります。

オプションが修正された場合は、パネル・フィールドが保護され、指定された値を変更できなくなります。オプションが修正されていない場合は、オプションに指定された値を変更できます。

パネル上のすべてのオプションをサブシステムのデフォルトに再設定するには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保存してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保存せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 49. 「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	DLI Mode Options	
Subsystem IF52 IMS V13 NT Test		
Options:		
Enter "/" to select option		
_ Autosave		
Checkpoint Frequencies:		
Edit	5	
Change All/Repeat All	55	
Load	155	
Batch Edit	255	
PSB Processing Options:		
Browse	Extract	Print
1 1. G	1 1. G	2 1. G
2. GO	2. GO	2. GO
Batch Browse		
2 1. G		
		2. GO
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
F4=CRetrieiv	F7=Backward	F8=Forward

Subsystem (サブシステム)

「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」で指定した IMS サブシステム ID。

Autosave (自動保管)

編集セッションを開始するときに自動保管機能を設定する場合、このオプションを選択します。

Edit Checkpoint Frequency (EDIT チェックポイント頻度)

データベース編集時の自動保管機能の頻度を指定する数値。

Autosave をオンに設定すると、FM/IMS は以下を実行します。

- アクション・キーを押し、データの変更が要求されるたびに、カウントを1つインクリメントします。
- カウントがこのフィールドに指定された数値と同じになったときに、チェックポイントを発行します。

値は1から99までの範囲でなければなりません。

Change All/Repeat All Checkpoint Frequency (すべて変更/すべて繰り返しチェックポイント頻度)

「Change All (すべて変更)」および「Repeat All (すべて繰り返し)」操作中の自動保管機能の頻度を指定する数値。

Autosave をオンに設定すると、FM/IMS は以下を実行します。

- セグメントが「Change All」操作中に更新される、または「Repeat All」操作中に挿入されるたびに、カウントを1つインクリメントします。
- カウントがこのフィールドに指定された数値と同じになったときに、チェックポイントを発行します。

値は1から9,999までの範囲でなければなりません。

Load Checkpoint Frequency (ロード・チェックポイント頻度)

File Manager/IMS Load ジョブ実行時の自動保管機能の頻度を指定する数値。

FM/IMS は、ロード・ジョブがセグメントを挿入または置換するたびにカウントを1つインクリメントし、カウントがこのフィールドに指定された数値と同じになったときにチェックポイントを発行します。

値は1から99,999までの範囲でなければなりません。

Batch Edit Checkpoint Frequency (バッチ編集チェックポイント頻度)

バッチ編集ジョブ実行時の自動保管機能の頻度を指定する数値。

FM/IMS は、バッチ編集ジョブがデータベース・セグメントを挿入、削除または置換するたびにカウントを1つインクリメントし、カウントがこのフィールドに指定された数値と同じになったときにチェックポイントを発行します。

値は1から99,999までの範囲でなければなりません。

Browse PSB Processing Option (ブラウズ PSB 処理オプション)

「Browse」に生成された動的 PSB が使用する「PSB Processing Option」(PROCOPT) :

1 - PROCOPT=G

「Browse (ブラウズ)」は整合性を保持して読み取ります。

2 - PROCOPT=GO

「Browse (ブラウズ)」は整合性を保持せずに読み取ります。

Extract PSB Processing Option (抽出 PSB 処理オプション)

「Extract (抽出)」に生成された動的 PSB が使用する「PSB Processing Option (PSB 処理オプション) (PROCOPT)」。以下のオプションがあります。

1 - PROCOPT=G

「Extract (抽出)」は整合性を保持して読み取ります。

2 - PROCOPT=GO

「Extract (抽出)」は整合性を保持せずに読み取ります。

Print PSB Processing Option (印刷 PSB 処理オプション)

「Print」に生成された動的 PSB が使用する「PSB Processing Option」(PROCOPT) :

1 - PROCOPT=G

「Print (印刷)」は整合性を保持して読み取ります。

2 - PROCOPT=GO

「Print (印刷)」は整合性を保持せずに読み取ります。

Batch Browse PSB Processing Option (バッチ・ブラウズ PSB 処理オプション)

「Batch Browse」に生成された動的 PSB が使用する「PSB Processing Option」(PROCOPT) :

1 - PROCOPT=G

「Batch Browse (バッチ・ブラウズ)」は整合性を保持せずに読み取ります。

2 - PROCOPT=GO

「Batch Browse (バッチ・ブラウズ)」は整合性を保持せずに読み取ります。

親パネル

- ・ [「Subsystem Settings Menu \(サブシステム設定メニュー\)」](#) パネル ページ 435

子パネル

- ・ なし。

「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネル

「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネルを使用すると、File Manager/IMS 機能が BMP モードで実行されるときに IMS 領域コントローラーに渡されるパラメーターを表示および変更できます。関数の IMS ログ使用設定の表示および変更は、更新インテントのある PSB を使用して行うこともできます。

このパネルは、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」でオプション 1 を選択すると表示されます。「Subsystem (サブシステム)」フィールドには、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」で指定した IMS サブシステム ID が表示されます。

パネルには、DLI 領域タイプが選択され、この IMS サブシステム ID が機能の入力パネルで指定されている場合に、オンライン FM/IMS 機能が使用するパラメーターが表示されます。

FM/IMS 管理者が、パネル上に表示されたパラメーターの一部またはすべての値を修正している場合があります。

パラメーターが修正された場合は、パネル・フィールドが保護され、指定された値を変更できなくなります。パラメーターが修正されていない場合は、パラメーターに指定された値を変更できます。

パネル上のすべてのパラメーターをサブシステムのデフォルトに再設定するには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保存してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保存せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 50. 「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネル

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS                               DLI Mode Parameters
Subsystem IF52  IMS V13 NT Test

Options:
DBRC                               IRLM                               IMS log (if PSB has update intent)
 1. DBRC=Y                          1. IRLM=Y                          1. Keep
 2. DBRC=N                          2. IRLM=N                          2. Keep when updates
 3. DBRC=Null                       3. IRLM=Null                       3. Delete
                                       4. None

Enter "/" to select option
/ Dynamic backout

Parameters:
IRLMNM . . . . IRLM                GSGNAME . . . . _____  TMINAME . . . . _____
BUF . . . . . _____          LOCKMAX . . . . _____

Command ==>
F1=Help      F2=Split  F3=Exit    F4=CRetriev  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions F12=Cancel

```

DBRC

機能が DLI モードで実行されるときに、データベース・リカバリー管理 (DBRC) を使用するかどうかを次のように指定します。

1.DBRC=Y

DBRC を使用します。

2.DBRC=N

DBRC を使用しません。

3.DBRC= Null

DBRC は、インストール・デフォルト・モジュール DFSIDEF0 の DBRC パラメーターに従って設定されます。

DFSIDEF0 モジュールが DBRC=YES または DBRC=FORCE を指定した場合、あるいは DFSIDEF0 モジュールがサブシステムの RESLIB データ・セットにない場合、関数は DBRC を使用します。DFSIDEF0 モジュールが DBRC=NO を指定している場合、関数は DBRC を使用しません。



注: このオプションが 2.DBRC=N に設定され、DFSIDEF0 モジュールが DBRC=FORCE を指定した場合、関数は IMS 異常終了コード 0044 で異常終了します。

IRLM

機能が DLI モードで実行されるときに、内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) を使用するかどうかを次のように指定します。

1.IRLM=Y

IRLM を使用します。

2.IRLM=N

IRLM を使用しません。

3.IRLM= Null

IRLM は、IMSCTRL マクロ・ステートメントの IRLM パラメーターと IRLMNM パラメーターに従って設定されます。以下のいずれかの条件が当てはまる場合、この関数は IRLM を使用します。

- IMSCTRL マクロ・ステートメントで IRLM=Y を指定する。
- IMSCTRL マクロ・ステートメントで IRLMNM を指定し、IRLM=N を指定しない。

以下のいずれかの条件が当てはまる場合、この関数は IRLM を使用しません。

- IMSCTRL マクロ・ステートメントで IRLM=N を指定する。
- IMSCTRL マクロ・ステートメントで、IRLM および IRLMNM の値を指定しない。

IMS ログ

更新インテントがある PSB を使う機能が、DLI モードで実行されるときに IMS ログを使用するかどうかを指定します。ログを使用する場合は、関数の終了時にログが保持されるかどうかを指定します。

1.Keep (保持)

IMS ログを使用します。機能の終了時にログを保持します。

2.更新時に保持

IMS ログを使用します。機能によりデータベースが更新されるか機能が正常に終了しないときに、ログを保持します。

3.削除

IMS ログを使用します。関数が正常に終了しない場合にのみ、ログを保持します。

4.None

IMS ログを使用しません。



注: このオプションは、DBRC オプションが 1. DBRC=Y に設定されている場合は、4. None (なし) に設定できません。これは、DBRC が IMS ログを使用する必要があるためです。

Dynamic backout (動的バックアウト)

以下のようにする場合は、このオプションを選択します。

- DLI モードで実行されている機能で IMS の疑似異常終了が発生したときに、IMS に動的バックアウトを実行させる。
- DLI モードでのデータベースの編集集中に、UNDO または CANCEL コマンドを使用する。

このオプションは、IMS ログ・オプションが、「1.Keep (保持)」、「2.Keep when updates (更新時に保持)」、または「3.削除」。

IRLMNM

この関数で使用する内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) の名前。DLI モードで実行される関数は、IRLM オプションが 1.IRLM=Y または 3.IRLM=NULL に設定されている場合に、名前を IMS 領域コントローラーに渡します。

IRLM を使用し、このフィールドに名前を指定しなかった場合、IMS は、IMSCTRL マクロの IRLMNM パラメーターで指定された名前を使用します。または、そのパラメーターが指定されない場合は IRLM を使用します。

GSGNAME

サブシステムがリモート・サイト・リカバリー (RSR) 複合システムの一部であり、IMSCTRL マクロ・ステートメントで GSGNAME を指定せず、DLI モードで実行されている機能によって実行される活動を RSR で追跡しない場合は、RSR 複合システムの Global Service Group (GSG) 名を入力します。

サブシステムが RSR 複合システムの一部であり、IMSCTRL マクロ・ステートメントで GSGNAME を指定し、DLI モードで実行されている機能の活動を追跡しない場合は、NONE を入力します。

それ以外の場合は、GSGNAME の値を指定しません。

TMINAME

IMS サブシステムがリモート・サイト・リカバリー (RSR) 複合システムの一部であり、DLI モードで実行されている FM/IMS 機能によって実行される活動を RSR で追跡する場合は、この機能で使用する Transport Manager Instance (TMI) 名を指定します。

活動を RSR で追跡し、このフィールドに名前を指定しなかった場合、IMS は、IMSCTRL マクロの TMINAME パラメーターで指定された名前を使用します。または、そのパラメーターが指定されない場合はブランクを使用します。

BUF

OSAM プールのサイズを計算するときに使用する 1K ブロックの数を指定します。

このフィールドに指定した値は、DFSVSAMP データ・セットに IOBF 制御ステートメントが含まれない場合にのみ使用されます。

LOCKMAX

関数が一度に保持することを許可されるロックの最大数 (1000 の単位) を指定します。

指定する数は、0 から 32767 の範囲内である必要があります。

0 を指定すると、関数が一度に保持できるロックの数には制限がなくなります。

フィールドをブランクにしておく場合、PSBGEN 文に指定された LOCKMAX 値が使用されるか、PSBGEN 文に LOCKMAX パラメーターが指定されないときは 0 (制限なし) が使用されます。

親パネル

- [「Subsystem Settings Menu \(サブシステム設定メニュー\)」パネル ページ 435](#)

子パネル

- なし。

「Edit Entry (編集項目の入力)」パネル

「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルは、「Edit (編集)」ダイアログの最初のパネルです。これは、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」パネルでオプション 2 (「Edit (編集)」) を選択すると表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 51. 「Edit Entry (編集項目の入力)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		
Edit Entry Panel		
IMS:		
Subsystem name . . .	<u>I</u> F52	PSB name . . . <u>L</u> A19D (If static PSB)
Database name . . .	<u>D</u> J1E	AGN name . . . _____ (If BMP)
View:		
Data set name . . .	_____	
Member	_____	
Processing Options:		
PSB type	Region type	Fetch DB dsnames from (if DLI)
<u>1</u> 1. Dynamic	<u>1</u> 1. DLI	<u>1</u> 1. User profile
2. Static	2. BMP	2. DFSMDA members
View usage		
<u>3</u> 1. New	Enter "/" to select option	
2. Existing	_ Secondary index (if dynamic PSB)	
3. None	_ Create audit trail	
	_ Skip DB data set panel (if DLI)	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
	F8=Forward	

IMS

Subsystem name (サブシステム名)

編集するデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID。FM/IMS は、指定された名前のサブシステムを、FM/IMS インストール・オプション・モジュールから検索します。サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に、「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるサブシステムのリストから、サブシステムを選択することができます。

PSB name

「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択した場合、編集で使用する PSB の名前を指定します。指定する PSB は、編集するデータベースの PCB を持っている必要があります。

FM/IMS は、IMS カタログまたは PSB ライブラリーのいずれかで、指定された名前の PSB を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した PSB ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの PSB ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの PSB ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの PSB ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「PSB Data set name (PSB データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した PSB ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する PSB ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 PSB ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった PSB を使用します。

PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力した場合に、「PSB Selection (PSB 選択)」パネルが表示されます。パネルに表示される PSB のリストから、PSB を選択することができます。



注: 「PSB type (PSB タイプ)」で「Dynamic (動的)」を選択した場合、このフィールドは無視されます。

Database name (データベース名)

編集するデータベースの名前。

FM/IMS は、IMS カタログまたは DBD ライブラリーのいずれかで、指定された名前の DBD を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した DBD ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの DBD ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの DBD ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの DBD ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「DBD Data set name (DBD データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した DBD ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する DBD ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 DBD ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった DBD を使用します。

以下は、「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Dynamic (動的)」を選択した場合に適用されます。

- データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合は、「Database Selection (データベース選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるデータベースのリストから、データベースを選択することができます。
- 選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - 編集するデータベースの DBD。
 - 編集するデータベースに論理的に関連している各データベースごとの DBD。

以下は、「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Static (静的)」を選択した場合に適用されます。

- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネルは、以下のいずれかが該当する場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。

「PCB Selection (PCB 選択)」パネルに表示されたデータベース PCB のリストから、PCB を選択することができます。
- サブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - PSB で指定されたそれぞれのデータベースごとの DBD
 - PSB で指定されたデータベースに論理的に関連しているそれぞれのデータベースごとの DBD

AGN name (AGN 名)

アプリケーション・グループ名 (AGN) は、IMS リソースのグループを示します。指定した名前は、「Region type (領域タイプ)」で「BMP」を選択した場合に、IMS 領域コントローラーに渡されます。

AGN を使用しないサブシステムを選択した場合、AGN 名は入力しないでください。

AGN

を使用するサブシステムを選択した場合、編集に必要なアクセスを提供し、かつ、使用する権限のある AGN を指定します。(FM/IMS が開始する BMP 領域は、指定された AGN に関連した IMS リソースを使用する許可が与えられているだけです。)

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルは、以下の条件がすべて真の場合に表示されます。

- BMP の領域タイプが選択されている。
- 選択したサブシステムが AGN を使用している。
- 選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている。
- AGN 名が入力されていない。または、AGN 名パターンが入力されており、FM/IMS インストール・オプション・モジュールに、パターンと一致する選択したサブシステム用の AGN が存在する。

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルに表示される AGN のリストから、AGN を選択できます。選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされていない場合は、AGN のフルネームを指定する必要があります。



注: 「Region type (領域タイプ)」で「DLI」を選択すると、このフィールドは無視されます。

View (表示)

Data set name (データ・セット名)

「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合、これは編集で使用するビューを含むデータ・セットの名前です。



注: 「View usage (ビューの使用)」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Member (メンバー)

「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合、以下を実行してください。

- 編集で使用するビューが PDS(E) にある場合、このフィールドにはビュー・メンバー名を指定します。
- 編集で使用するビューが順次データ・セットにある場合、このフィールドを空白にします。



注: 「View usage (ビューの使用)」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

PSB type (PSB タイプ)

編集でデータベースにアクセスするために使用する PSB のタイプ。以下のタイプがあります。

1.Dynamic (動的)

編集では、ダイアログの開始時に生成する一時的な PSB を使用します。

2.Static (静的)

編集では、「PSB name (PSB 名)」フィールドに指定している既存の PSB を使用します。

Region type (領域タイプ)

編集を実行する領域のタイプ。以下のタイプがあります。

1.DLI

DL/I

バッチ処理領域の場合。データベースがオフラインであるか、またはデータ共用サポートがある場合に、DL/I バッチ処理領域を使用することができます。

2.BMP

BMP 領域の場合。データベースがオンラインの場合に、BMP 領域を使用することができます。

Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元) (DLI の場合)

「**Region type (領域タイプ)**」に「DLI」を選択し、HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみではない IMS サブシステムを選択した場合、以下のようになります。

1.ユーザー・プロファイル

編集では、ユーザー・プロファイルに名前が保管されているデータベース・データ・セットを使用します。

2.DFSMDA メンバー

編集では、DFSMDA

動的割り振りメンバーに指定されているデータベース・データ・セットを使用します。



注: 以下のいずれかを指定した場合、このフィールドは無視されます。

- 「**Region type (領域タイプ)**」で「BMP」。
- HALDB データベース。
- FM/IMS インストール・オプション・モジュールでのみ、動的割り振りとして定義されている IMS サブシステム。

View usage (ビューの使用)

編集で新規ビューを使用するか、既存ビューを使用するか、あるいはビューを使用しないかを指定します。以下のオプションがあります。

1.New (新規作成)

編集で新規ビューを使用する場合は、このオプションを選択します。

編集では、指定されたデータベースのテンプレートから一時ビューが作成されます。

FM/IMS

は、テンプレートを、ユーザーまたは管理者が指定したテンプレート・ライブラリーから検索します。FM/IMS が検索を行うテンプレート・ライブラリーは、選択したサブシステムに依存しません。

- 指定されたサブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがない場合、FM/IMS は、「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネルで指定されたテンプレート・ライブラリーから検索します。
- サブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがある場合、FM/IMS は、FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されたサブシステムをデフォルトのテンプレート・ライブラリーから検索します。

FM/IMS は、指定された順番で各テンプレート・ライブラリーで検索を行い、指定されたデータベース名が最初に見つかったテンプレートを使用します。

2. 既存

編集で既存ビューを使用する場合は、このオプションを選択します。編集では、ビューの「Data set name (データ・セット名)」フィールドおよび「Member (メンバー)」フィールドで指定されたビューを使用します。

3. None (なし)

編集でビューを使用しない場合は、このオプションを選択します。

Secondary index (2 次索引) (動的 PSB の場合)

「PSB type (PSB タイプ)」で「Dynamic (動的)」を選択し、2 次索引を使用してデータベースにアクセスする場合は、このオプションを選択します。

このオプションを選択し、データベースに複数の 2 次索引がある場合は、「Secondary Index Selection (2 次索引選択)」パネルが表示されます。パネルに表示される 2 次索引のリストから、2 次索引を選択することができます。



注: 「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Create audit trail (監査証跡の作成)

編集セッション中にデータベースに対して行う更新の監査証跡を FM/IMS が作成する場合にこのオプションを選択します。

このオプションを使用すると、監査証跡が必須でないときに監査証跡を要求することができます。



注: FM/IMS 管理者は、一部の IMS サブシステムまたはユーザーに対してこのオプションを使用不可にする場合があります。したがって、監査証跡が必須でないときに監査証跡を作成することは、常に可能であるとは限りません。

Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ) (DLI の場合)

FM/IMS が「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルまたは「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルを表示しないようにする場合は、このオプションを選択します。

このオプションを選択せず、「**Region type (領域タイプ)**」で「DLI」を選択した場合、「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」または「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルが表示されます。



注: 「**Region type (領域タイプ)**」で「BMP」を選択すると、このフィールドは無視されます。

親パネル

- [Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\) ページ 373](#)

子パネル

- [「AGN Selection \(AGN 選択\)」パネル ページ 206](#)
- [「Data Set Selection \(データ・セット選択\)」パネル ページ 251](#)
- [「Database Data Set Display \(データベース・データ・セット表示\)」パネル ページ 252](#)
- [「Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)」パネル ページ 254](#)
- [「PCB Selection \(PCB 選択\)」パネル ページ 370](#)
- [「PSB Selection \(PSB 選択\)」パネル ページ 389](#)
- [「Secondary Index Selection \(2 次索引の選択\)」パネル ページ 396](#)
- [「Subsystem Selection \(サブシステム選択\)」パネル ページ 432](#)
- [「Database Selection \(データベース選択\)」パネル ページ 261](#)
- [「View Member Selection \(ビュー・メンバー選択\)」パネル ページ 460](#)
- [「Database Positioning \(データベース位置決め\)」パネル ページ 258](#)

「Editor Options (エディター・オプション)」パネル

パネルとフィールドの定義

「Editor Options (エディター・オプション)」パネルは、「Settings Menu (設定メニュー)」でオプション 5 を選択すると表示されます。

このパネルを使用すると、編集およびブラウズ機能によって使用される選択済みオプションを表示および変更することができます。



注: データを編集またはブラウズするときに、基本コマンドを使用して、エディター・オプションの設定を変更できます。ただし、変更した設定の有効性が維持されるのは、「Edit (編集)」または「Browse (ブラウズ)」ダイアログが終了するまでです。新しい「Edit (編集)」または「Browse (ブラウズ)」ダイアログを開始すると、このパネルで指定した設定が再び有効になります。

図 52. 「Editor Options (エディター・オプション)」パネル

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS                                     Editor Options

Initial Settings:
Enter "/" to select option
- Translate changed data to uppercase (CAPS ON)
- Expose suppressed records (SHOW SUP ON)
- Limit scope to current database record (SCOPE REC)
- Show field reference numbers on SNGL displays (REF)
- Show field picture clauses on SNGL displays (PIC)
- Show record structure on SNGL displays (STR)
/ Show redefined fields on SNGL and TABL displays (RDF)
- Show field type & length on SNGL displays (TYPE)
- Show field start locations on SNGL displays (SLOC)
/ Show the CCSID associated with the field on SNGL displays (CCSID)
- Left justify numerics on SNGL displays (JUST)
- Prompt to save view when exiting edit/browse session
/ Use * (any segment type) as default on NEXT and PREVIOUS commands

Format
 1. Previous
 2. TABL
 3. SNGL
 4. CHAR
 5. HEX
 6. LHEX

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetriev  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions   F12=Cancel
    
```

Translate changed data to uppercase (CAPS ON) (変更したデータを大文字に変換 (CAPS ON))

これを選択すると、入力フィールドに入力したデータが大文字に変換されます。小文字または大/小文字混合データを入力する場合、このオプションは選択しないでください。CHANGE 引数の処理にも影響を与えます。

Expose suppressed records (SHOW SUP ON) (抑制したレコードを公開 (SHOW SUP ON))

これを選択すると、抑制したレコードが公開または表示されます。このオプションを選択した場合の効果は、SHOW SUP ON コマンドを入力した場合と同じです。SHOW コマンドを File Manager セッション時に入力すると、そのセッションでは、このオプションがリセットされます。

Limit scope to current database record (SCOPE REC) (有効範囲を現行データベース・レコードに制限 (SCOPE REC))

これを選択すると、File Manager は、セグメントを表示するときにデータベース・レコードの終端で停止します。ナビゲーション・コマンドの NEXT および TWIN を使用する場合、別のデータベース・レコードに移動する前に通知パネルが表示されます。PREVIOUS コマンドの有効範囲は、現行のデータベース・レコードの先頭に限定されています。SCOPE DB

を使用すると、(ビュー基準を使用している場合、データベース・レコードがビュー基準を満たしていれば) File Manager はすべてのデータベース・レコードからのセグメントを表示します。

Show field reference numbers on SNGL displays (REF) (SNGL 表示でフィールド参照番号を表示 (REF))

これを選択すると、SNGL 表示形式または印刷形式を使用する場合に、フィールド参照番号が表示されます。このオプションを選択しない場合、フィールド参照番号は表示されません。このフィールドの表示は、REF コマンドを使用してエディター・ダイアログでも設定できます。

Show field picture clauses on SNGL displays (PIC) (SNGL 表示でフィールドの PICTURE 文節を表示 (PIC))

COBOL コピーブックから生成されたテンプレートを使用するときに、SNGL 表示形式を使用して、PICTURE 文節を表示する場合、および PL/I コピーブックから生成されたテンプレートを使用するときに、2 進数フィールドおよびパック 10 進数フィールドの長さおよびスケール (ゼロ以外の場合) を表示する場合に選択します。また、ビット・フィールドのビット長も表示します。このオプションを選択しない場合、PICTURE 文節は表示されません。この文節の表示は、PIC コマンドを使用してエディター・ダイアログでも設定できます。

Show record structure on SNGL displays (STR) (SNGL 表示でレコード構造を表示 (STR))

これを選択すると、SNGL 表示形式または印刷形式を使用する場合に、テンプレートの全構造が表示されます。このオプションを選択しない場合、全構造は表示されません。これらのフィールドの表示は、STR コマンドを使用してエディター・ダイアログでも設定できます。

Show redefined fields on SNGL and TABL displays (RDF) (SNGL および TABL 表示で再定義したフィールドを表示 (RDF))

これを選択すると、SNGL または TABL の表示形式または印刷形式を使用する場合に、再定義したすべてのフィールドが表示されます。このオプションを選択しない場合、再定義したフィールドは、テンプレートで明示的に選択されている場合を除いて表示されません。これらのフィールドの表示は、RDF コマンドを使用してエディター・ダイアログでも設定できます。

Show field type & length on SNGL displays (TYPE) (SNGL 表示でフィールド・タイプおよびフィールド長を表示 (TYPE))

これを選択すると、SNGL 表示形式または印刷形式を使用する場合に、タイプと長さの値が表示されます。このオプションを選択しない場合、フィールド・タイプおよびフィールド長は表示されません。これらのフィールドの表示は、TYPE コマンドを使用してエディター・ダイアログでも設定できます。

Show field start locations on SNGL displays (SLOC) (SNGL 表示でフィールド開始位置を表示 (SLOC))

これを選択すると、SNGL 表示形式または印刷形式を使用する場合に、各フィールドの開始位置が表示されます。このオプションを選択しない場合、各フィールドの開始位置は表示されません。開始位置の表示は、SLOC コマンドを使用してエディター・ダイアログでも設定できます。

Show the CCSID associated with fields on SNGL displays (CCSID) (SNGL 表示のフィールドに関連付けられた CCSID を表示 (CCSID))

これを選択すると、SNGL 表示形式または印刷形式を使用する場合に、CCSID が表示されます。このオプションを選択しないと、CCSID 列は表示されません。これらのフィールドの表示は、CCSID コマンドを使用してエディター・ダイアログでも設定できます。

Left justify numerics on SNGL displays (JUST) (SNGL 表示で数値を左寄せ (JUST))

これを選択すると、SNGL 表示形式または印刷形式を使用する場合に、数値フィールドが左寄せになります。このオプションを選択しない場合、数値フィールドは右寄せで表示されます。数値フィールドの表示位置調整は、JUST コマンドを使用してエディター・ダイアログでも設定できます。

Prompt to save view when exiting edit/browse session (編集/ブラウズ・セッションの終了時にビューを保管するプロンプトを出す)

これを選択すると、ビューを保管するためのプロンプトが出されます。このオプションを選択し、「View usage (ビューの使用)」処理オプションに 1 または 2 を選択してある場合、ビューを変更すると、ブラウズ/編集セッションの終了時に「View Save (ビュー保管)」パネルが表示され、ビューを保管できます。

Use * (any segment type) as default on NEXT and PREVIOUS commands (NEXT および PREVIOUS コマンドにデフォルトとして * (任意のセグメント・タイプ) を使用)

これを選択すると、NEXT および PREVIOUS ナビゲーション・コマンドのデフォルト・アクションに * パラメーターを使用できます。このオプションをオンに設定するか、コマンドで使用すると、セグメントまたはレイアウトのタイプにかかわらず、次の (または直前の) 使用可能なセグメントまでナビゲートされます。このオプションを使用しないときは、NEXT および PREVIOUS コマンドの操作は SHOW SUP 値の現行設定によって制御されます。

Format (フォーマット)

ブラウズまたは編集セッションの初期表示形式を設定します。

1.Previous (前)

前のブラウズまたは編集セッションで指定したものと同一形式を使用します。これがデフォルトです。

2.TABL

TABL 表示形式。テンプレートを用いて形式設定されていないデータの場合、IMS データ・パネルは CHAR 表示形式で表示されます。

3.SNGL

SNGL 表示形式。テンプレートを用いて形式設定されていないデータの場合、IMS データ・パネルは CHAR 表示形式で表示されます。

4.CHAR

CHAR 表示形式。

5.HEX

HEX 表示形式。

6.LHEX

LHEX 表示形式。

親パネル

- [「Settings Menu \(設定メニュー\)」 パネル ページ 428](#)

子パネル

- なし。

関連トピックおよび例

- [初期表示形式の設定 ページ 64](#)
- [表示形式の選択 ページ 63](#)
- [CAPS 基本コマンド ページ 470](#)
- [JUST 基本コマンド ページ 506](#)
- [NEXT 基本コマンド ページ 514](#)
- [PIC 基本コマンド ページ 518](#)
- [PREVIOUS 基本コマンド ページ 518](#)
- [RDF 基本コマンド ページ 521](#)
- [REFS 基本コマンド ページ 521](#)
- [SCOPE 基本コマンド ページ 527](#)
- [SHOW \(REC\) 基本コマンド ページ 531](#)
- [SLOC 基本コマンド ページ 532](#)
- [STR 基本コマンド ページ 536](#)
- [TYPE 基本コマンド ページ 538](#)

「Extract Entry (抽出項目の入力)」 パネル

「Extract Entry (抽出項目の入力)」 パネルは、「Extract (抽出)」 ダイアログの最初のパネルです。これは、「Utility Menu (ユーティリティー・メニュー)」 パネルでオプション 3 (「Extract (抽出)」) を選択すると表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 53. 「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		
Extract Entry Panel		
IMS:		
Subsystem name . . .	IF52	PSB name . . . LA19D (If static PSB)
Database name . . .	DJ1E	AGN name . . . (If BMP)
Criteria:		
Data set name . . .	'FMN.REGTEST.IMS.CRITERIA'	
Member	_____	
Processing Options:		
PSB type	Region type	Fetch DB dsnames from (if DLI)
<u>1</u> 1. Dynamic	<u>1</u> 1. DLI	<u>1</u> 1. User profile
2. Static	2. BMP	2. DFSMDA members
Criteria usage		
<u>2</u> 1. New	Enter "/" to select option	
2. Existing	- Use key values	/ Create extract template
3. None	- Edit criteria	- Skip DB data set panel (if DLI)
	- Scramble	- SDEP in timestamp order
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
F4=CRetrie v	F7=Backward	F8=Forward

IMS

Subsystem name (サブシステム名)

データを抽出するデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID。FM/IMS は、指定された名前前のサブシステムを、FM/IMS インストール・オプション・モジュールから検索します。サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に、「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるサブシステムのリストから、サブシステムを選択することができます。

PSB name

「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択した場合、抽出で使用する PSB の名前を指定します。

指定する PSB は、抽出の基本データベースの PCB を持っている必要があります。

抽出で論理関係を追跡する場合は、この PSB は、基本データベースに論理的に関連のある各データベースの PCB も持っている必要があります。

FM/IMS は、IMS カタログまたは PSB ライブラリーのいずれかで、指定された名前前の PSB を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した PSB ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの PSB ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの PSB ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの PSB ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「PSB Data set name (PSB データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した PSB ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する PSB ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 PSB ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった PSB を使用します。

PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力した場合に、「PSB Selection (PSB 選択)」パネルが表示されます。パネルに表示される PSB のリストから、PSB を選択することができます。



注: 「PSB type (PSB タイプ)」 で「Dynamic (動的)」を選択した場合、このフィールドは無視されます。

Database name (データベース名)

抽出の基本データベースの名前。

FM/IMS は、IMS カタログまたは DBD ライブラリーのいずれかで、指定された名前の DBD を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した DBD ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの DBD ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの DBD ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの DBD ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「DBD Data set name (DBD データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した DBD

ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する DBD ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 DBD ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった DBD を使用します。

以下は、**「PSB type (PSB タイプ)」** で「Dynamic (動的)」を選択した場合に適用されます。

- データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合は、「Database Selection (データベース選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるデータベースのリストから、データベースを選択することができます。
- 選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - 抽出の基本データベースの DBD。
 - 抽出の基本データベースに論理的に関連している各データベースごとの DBD。

以下は、**「PSB type (PSB タイプ)」** で「Static (静的)」を選択した場合に適用されます。

- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネルは、以下のいずれかが該当する場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。

「PCB Selection (PCB 選択)」パネルに表示されたデータベース PCB のリストから、PCB を選択することができます。

- サブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - PSB で指定されたそれぞれのデータベースごとの DBD
 - PSB で指定されたデータベースに論理的に関連しているそれぞれのデータベースごとの DBD

AGN name (AGN 名)

アプリケーション・グループ名 (AGN) は、IMS リソースのグループを示します。指定した名前は、「Region type (領域タイプ)」で「BMP」を選択した場合に、IMS 領域コントローラーに渡されます。

AGN を使用しないサブシステムを選択した場合、AGN 名は入力しないでください。

AGN

を使用するサブシステムを選択した場合、編集に必要なアクセスを提供し、かつ、使用する権限

のある AGN を指定します。(FM/IMS が開始する BMP 領域は、指定された AGN に関連した IMS リソースを使用する許可が与えられているだけです。)

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルは、以下の条件がすべて真の場合に表示されます。

- BMP の領域タイプが選択されている。
- 選択したサブシステムが AGN を使用している。
- 選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている。
- AGN 名が入力されていない。または、AGN 名パターンが入力されており、FM/IMS インストール・オプション・モジュールに、パターンと一致する選択したサブシステム用の AGN が存在する。

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルに表示される AGN のリストから、AGN を選択できます。選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされていない場合は、AGN のフルネームを指定する必要があります。



注: 「Region type (領域タイプ)」で「DLI」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Criteria (基準)

Data set name (データ・セット名)

「Criteria usage (基準の使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合、これは抽出で使用する基準を含むデータ・セットの名前です。



注: 「Criteria usage (基準の使用)」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Member (メンバー)

「Criteria usage (基準の使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合、以下を実行してください。

- 抽出で使用する基準が PDS(E) にある場合、このフィールドには基準メンバー名を指定します。
- 編集で使用する基準が順次データ・セットにある場合、このフィールドを空白にします。



注: 「Criteria usage (基準の使用)」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

PSB type (PSB タイプ)

抽出でデータベースにアクセスするために使用する PSB のタイプ。以下のタイプがあります。

1.Dynamic (動的)

抽出では、バッチ・ジョブの開始時に生成する一時的な PSB を使用します。

2.Static (静的)

抽出では、「PSB name (PSB 名)」フィールドに指定している既存の PSB を使用します。

Region type (領域タイプ)

抽出を実行する領域のタイプ。以下のタイプがあります。

1.DLI

DL/I

バッチ処理領域の場合。データベースがオフラインであるか、またはデータ共有サポートがある場合に、DL/I バッチ処理領域を使用することができます。

2.BMP

BMP 領域の場合。データベースがオンラインの場合に、BMP 領域を使用することができます。

Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元) (DLI の場合)

「Region type (領域タイプ)」に「DLI」を選択し、HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみではない IMS サブシステムを選択した場合、以下のようになります。

1.ユーザー・プロファイル

抽出では、ユーザー・プロファイルに名前が保管されているデータベース・データ・セットを使用します。

2.DFSMDA メンバー

抽出では、DFSMDA 動的割り振りメンバーに指定されているデータベース・データ・セットを使用します。



注: 以下のいずれかを指定した場合、このフィールドは無視されます。



- 「**Region type (領域タイプ)**」で「BMP」。
- HALDB データベース。
- FM/IMS インストール・オプション・モジュールでのみ、動的割り振りとして定義されている IMS サブシステム。

Criteria usage (基準の使用)

抽出で新規の基準を使用するか、既存の基準を使用するか、あるいは基準を使用しないかを指定します。以下のオプションがあります。

1.New (新規作成)

抽出で新規基準を使用する場合は、このオプションを選択します。

抽出では、指定されたデータベースのテンプレートから一時的な基準セットが作成されます。

FM/IMS

は、テンプレートを、ユーザーまたは管理者が指定したテンプレート・ライブラリーから検索します。FM/IMS が検索を行うテンプレート・ライブラリーは、選択したサブシステムに依存します。

- 指定されたサブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがない場合、FM/IMS は、「**Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)**」パネルで指定されたテンプレート・ライブラリーから検索します。
- サブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがある場合、FM/IMS は、FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されたサブシステムをデフォルトのテンプレート・ライブラリーから検索します。

FM/IMS は、指定された順番で各テンプレート・ライブラリーで検索を行い、指定されたデータベース名が最初に見つかったテンプレートを使用します。

FM/IMS は、一時的な基準セットを編集および保管できる「**Criteria (基準)**」ダイアログを開始します。

2.既存

抽出で既存の基準を使用する場合は、このオプションを選択します。抽出では、基準の「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドおよび「**Member (メンバー)**」フィールドで指定された基準セットを使用します。

3.None (なし)

抽出で基準を使用しない場合は、このオプションを選択します。

Use key values (キー値の使用)

抽出されるレコードのルート・セグメントのキー値を指定する場合には、このオプションを選択します。

このオプションを選択すると、「Extract Options (抽出オプション)」パネルが表示されます。抽出で使用するキー値を含むデータ・セットの名前を指定します。

Edit criteria (基準の編集)

「Criteria usage (基準の使用)」で「Existing (既存)」を選択しており、基準を編集してから使用する場合は、このオプションを選択します。

このオプションを選択すると、FM/IMS は、基準の「Data set name (データ・セット名)」フィールドおよび「Member (メンバー)」フィールドで指定された基準を編集および保管できる「Criteria (基準)」ダイアログを開始します。



注: 「Criteria usage (基準の使用)」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Create extract template (抽出テンプレートの作成)

「Extract (抽出)」ダイアログまたは抽出ジョブで抽出ファイルのテンプレートを作成する場合、このオプションを選択します。このテンプレートを使用すると、抽出ファイル内のレコードを編集または表示できます。

このオプションを選択すると、「Extract Options (抽出オプション)」パネルが表示されます。そのパネルでは、出力抽出テンプレート・データ・セットの名前および抽出テンプレート処理オプションを指定します。

Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ) (DLI の場合)

FM/IMS が「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルまたは「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルを表示しないようにする場合は、このオプションを選択します。

このオプションを選択せずに、「Region type (領域タイプ)」で「DLI」を選択した場合、「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルまたは「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルが表示されます。



注: 「Region type (領域タイプ)」で「BMP」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Scramble (スクランブル)

関連付けられたテンプレートで定義されているスクランブル・オプションを、抽出されたデータに適用するには、このオプションを選択します。

SDEP in timestamp order (タイム・スタンプ順の SDEP)

順次従属 (SDEP) セグメントを持つ DEDB からデータを抽出し、抽出された SDEP セグメントをデータベースにロードする場合で、ロードされた SDEP セグメントをタイム・スタンプ順にすることが要求される場合に、このオプションを選択します。

このオプションを選択しないと、ルート・セグメントのすべての順次従属セグメントは、抽出されたときとは逆の順序で物理的にロードされます。

DL/I 呼び出しを使用して SDEP セグメントを読み取る場合は、ロードされたデータベースでの SDEP セグメントの順序は、それらをデータベースから抽出したときの順序と同じようになります。ただし、順次従属スキャン・ユーティリティを使用して DEDB を処理する場合は、SDEP セグメントの順序は異なります。



注:

1. このオプションを選択すると、抽出の経過時間と入出力が増加します。
2. 指定されたデータベースが SDEP セグメントを持たない場合、このフィールドは無視されます。

親パネル

- [「Utility Menu \(ユーティリティ・メニュー\)」](#) パネル ページ 457

子パネル

- [「AGN Selection \(AGN 選択\)」](#) パネル ページ 206
- [「Extract Options \(抽出オプション\)」](#) パネル ページ 305
- [「Database Data Set Display \(データベース・データ・セット表示\)」](#) パネル ページ 252
- [「Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)」](#) パネル ページ 254
- [「PCB Selection \(PCB 選択\)」](#) パネル ページ 370
- [「PSB Selection \(PSB 選択\)」](#) パネル ページ 389
- [「Subsystem Selection \(サブシステム選択\)」](#) パネル ページ 432
- [「Criteria Member Selection \(基準メンバー選択\)」](#) パネル ページ 240
- [「Database Selection \(データベース選択\)」](#) パネル ページ 261
- [「Data Set Selection \(データ・セット選択\)」](#) パネル ページ 251
- [「Extract : To Data Set Specification \(抽出 : 受け入れ先データ・セット指定\)」](#) パネル ページ 308

「Extract Options (抽出オプション)」 パネル

「Extract Options (抽出オプション)」 パネルは、「Extract Entry (抽出項目の入力)」 パネルで **「Use key values (キー値の使用)」** または **「Create extract template (抽出テンプレートの作成)」** オプションを選択した場合に、「Extract (抽出)」 ダイアログで表示されます。

このパネルでは、以下の指定を行います。

- 抽出されるレコードのルート・セグメントのキー値を指定するかどうか。
- キー値を指定する場合、抽出で使用するキー値を含むデータ・セットの名前。
- 抽出ファイルにテンプレートを使用するかどうか。
- 抽出ファイルにテンプレートを使用する場合、以下を指定します。
 - 「Extract (抽出)」ダイアログまたは抽出ジョブでテンプレートを作成するかどうか。
 - テンプレートを保管するデータ・セット。
- 「Extract (抽出)」ダイアログでテンプレートを作成する場合、作成後にテンプレートを編集するかどうか。

パネルとフィールドの定義

図 54. 「Extract Options (抽出オプション)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Extract Options	
Database DJ1E		
Key Values:		
	Data set name . . .	_____
	Member	_____
Extract Template:		
	Data set name . . .	'JHELVON.TEMPLATE'
	Member	A05DEX
Processing Options:		
	Template create execution mode	Enter "/" to select option
<u>1</u>	1. Foreground	Use key values
	2. Batch	<u>1</u> Edit extract template
	3. Skip	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
F4=CRetriev	F7=Backward	F8=Forward

Key Values (キー値)

Data set name (データ・セット名)


「Use key values (キー値の使用)」オプションを選択した場合に、抽出するレコードのルート・セグメントのキー値を含むデータ・セットの名前を指定します。



注: 「Use key values (キー値の使用)」オプションを選択しない場合、このフィールドは無視されます。

Member (メンバー)


「Use key values (キー値の使用)」オプションを選択し、抽出で使用するキー値が PDS(E) にある場合、キー値のメンバー名を指定します。「Use key values (キー値の使用)」オプションを選択し、抽出で使用するキー値が順次データ・セットにある場合、このフィールドを空白にします。

 **注:** 「Use key values (キー値の使用)」 オプションを選択しない場合、このフィールドは無視されます。

Extract Template (抽出テンプレート)

データ・セット名


「Template create execution mode (テンプレート作成の実行モード)」で「Foreground (フォアグラウンド)」または「Batch (バッチ)」を選択した場合、抽出テンプレートを保管するデータ・セットの名前を指定します。

 **注:** 「Template create execution mode (テンプレート作成の実行モード)」で「Skip (スキップ)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Member (メンバー)

「Template create execution mode (テンプレート作成の実行モード)」で「Foreground (フォアグラウンド)」または「Batch (バッチ)」を選択し、指定した抽出テンプレートのデータ・セットが PDS(E) である場合、抽出テンプレートのメンバーを指定します。

「Template create execution mode (テンプレート作成の実行モード)」で「Foreground (フォアグラウンド)」または「Batch (バッチ)」を選択し、指定した抽出テンプレートのデータ・セットが順次データ・セットである場合、このフィールドを空白にします。

 **注:** 「Template create execution mode (テンプレート作成の実行モード)」で「Skip (スキップ)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Template create execution mode (テンプレート作成の実行モード)

1.Foreground (フォアグラウンド)

Enter キーを押すと、FM/IMS によってテンプレートが作成されます。

2.Batch (バッチ)

抽出ジョブによって抽出テンプレートが作成されます。抽出ジョブで抽出テンプレートを作成するために必要なキーワードが、FM/IMS によって生成されます。

3.Skip (スキップ)

抽出テンプレートは作成されません。


Use key values (キー値の使用)

このオプションを選択すると、抽出では、キー値の「data set name (データ・セット名)」フィールドおよび「Member (メンバー)」フィールドで指定されたキー値を使用します。

Edit extract template (抽出テンプレートの編集)

「**Template create execution mode (テンプレート作成の実行モード)**」で「Foreground (フォアグラウンド)」を選択し、抽出テンプレートを編集する場合は、このオプションを選択します。

FM/IMS は、テンプレートの編集と保管ができる「Record Type Selection (レコード・タイプ選択)」パネルを表示します。

 **注:** 「**Template create execution mode (テンプレート作成の実行モード)**」で「Batch (バッチ)」または「Skip (スキップ)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

親パネル

- 「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネル ページ 297
- 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネル ページ 254
- 「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネル ページ 252

子パネル

- 「Extract : To Data Set Specification (抽出 : 受け入れ先データ・セット指定)」パネル ページ 308

「Extract : To Data Set Specification (抽出 : 受け入れ先データ・セット指定)」パネル

「Extract : To Data Set Specification panel (抽出 : 受け入れ先データ・セット指定)」パネルは、「Extract (抽出)」ダイアログで表示されます。これを使用して、抽出したデータを保管するデータ・セットの名前を指定します。

パネルとフィールドの定義

図 55. 「Extract : To Data Set Specification (抽出 : 受け入れ先データ・セット指定)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Extract : To Data Set Specification
Extract to:		
Data set name . . .	'FMNUSER.EXTRACT.DJ1E'	
Disposition	NEW	(NEW or OLD)
Volume serial	5	(If not cataloged)
Device type	3390	(Generic unit or device address)
Allocation parameters (if disposition is NEW):		
Management class . . .		(Blank for default management class)
Storage class		(Blank for default storage class)
Data class		(Blank for default data class)
Space units	CYL	(BLK, TRK, CYL, KB or MB)
Primary quantity . . .	5	(in above units)
Secondary quantity . .	1	(in above units)
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
		F8=Forward

Extract to: (抽出先:)

この領域は、抽出データが保管されるデータ・セットを識別します。これは、新規または既存のデータ・セットにすることができます。

データ・セット名

抽出データが保管されるデータ・セットの名前。

Disposition (後処理)**NEW (新規)**

新規**抽出先**データ・セットを割り振る場合。

OLD

後処理が OLD である既存の**抽出先**データ・セットを割り振る場合。

Volume serial (ボリューム通し番号)

抽出先データ・セットに応じて以下ようになります。

- 存在するが、カタログが作成されていない場合には、それが存在するボリューム通し番号を入力します。
- 作成され (後処理が NEW)、それを特定のボリュームに入れたい場合には、そのボリュームを指定します。

Device type (装置タイプ)

データ・セットが入れられる汎用装置。

抽出先データ・セットの後処理が NEW である場合には、以下の割り振りパラメーターを指定します。

Allocation parameters (if disposition is NEW): (割り振りパラメーター (後処理が NEW の場合) :)**管理クラス**

データ・セットの割り振りでデータ管理関連情報 (マイグレーション、バックアップ、保存基準) を取得するために使用される管理クラス。

非 SMS データ・セットを割り振りたい場合で、オプション 0.9 の *“Output Data Set Allocation (出力データ・セット割り振り)”* に管理クラスを指定していないときは、このフィールドをブランクのままにしておきます。

Storage class (ストレージ・クラス)

データ・セットの割り振りでストレージ関連情報を入手するために使用されるストレージ・クラス。

非 SMS データ・セットを割り振りたい場合で、オプション 0.9 の *“Output Data Set Allocation (出力データ・セット割り振り)”* に管理クラスを指定していないときは、このフィールドをブランクのままにしておきます。

Data class (データ・クラス)

データ・セットの割り振りでデータ関連情報 (SPACE または LRECL など) を入手するために使用されるデータ・クラス。

非 SMS データ・セットを割り振りたい場合で、オプション 0.9 の *Output Data Set Allocation* (出力データ・セット割り振り) に 管理クラスを指定していないときは、このフィールドをブランクのままにしておきます。

Space units (スペース単位)

基本数量および 2 次数量が表される単位。

BLK

ブロック

TRK

トラック数

CYL

シリンダー数

KB

キロバイト

MB

メガバイト数

Primary Quantity (1 次数量)

既に指定した **Space units (スペース単位)** での 1 次割り振り数量。

Secondary Quantity (2 次数量)

既に指定した **Space units (スペース単位)** での 2 次割り振り数量。



注: SMS クラスまたはスペース・パラメーターの値をパネルに指定しなかった場合、デフォルトの SMS クラスが使用されます。デフォルトの SMS クラスがセットアップされていない場合、抽出 JCL を実行依頼すると JCL エラーを受け取ります。

親パネル

- [\[Database Data Set Display \(データベース・データ・セット表示\)\]](#) パネル ページ 252
- [\[Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)\]](#) パネル ページ 254
- [\[Extract Entry \(抽出項目の入力\)\]](#) パネル ページ 297
- [\[Extract Options \(抽出オプション\)\]](#) パネル ページ 305

子パネル

- [JCL Submission (JCL 実行依頼)] パネル ページ 357

「Field Attributes (フィールド属性)」パネル - 英数字フィールド

このパネルには、フィールドの形式設定およびデータ作成属性がリストされます。TABL 形式の場合のフィールドの幅、および数値フィールドの先行ゼロ抑制を変更することができます。データ作成属性を指定することもできます。このパネルには2つのタイプがあります。一方は英数字フィールド用で、他方は数値フィールド用です。このセクションでは英数字フィールド版について説明します。

パネルとフィールドの定義

図 56. 「Field Attributes (フィールド属性)」パネル - 英数字フィールド

Process	Options	Help
FM/IMS	Field Attributes	
Fixed Attributes:		
Field name	CONTRACTOR	
Type	AN	
Start	7	
Length	40	
Use Attributes:		
Heading	_____	
Output width	_____	
CCSID	_____	+
Create Attributes:		
Filler	_____	
Action	__	
Start character	-	
Pattern	_____	
Repeat user pattern	__ YES or NO	
Scrambling Options:		
Scramble Type	Enter "/" to select option	
1. Random	Value	Column In _____ Out _____
2. Repeatable Dsn	_____	
3. Translate	_____	
4. Exit	Col	Command
5. ODPP	1	_____ +
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetrie v	F7=Backward
		F8=Forward

選択したフィールドが英数字である場合、「Field Attributes (フィールド属性)」パネルには、以下のフィールドが表示されます。

Fixed attributes (固定属性)

フィールド名、タイプ、長さなどのフィールドの固定属性と、レコード内のフィールドの、ゼロを起点とした開始位置を示します。

これらの属性は、コピーブックの定義または動的テンプレート内のユーザー定義属性によって決定されます。

Use attributes (使用属性)

編集、表示、および印刷機能で使用される特定の表示 (または印刷) 属性を指定するために使用します。英数字フィールドの場合、以下の使用属性を使用できます。

Output width (出力幅)

このフィールドを TABL 表示形式または印刷形式で表示するために、編集、表示、比較、および印刷機能で使用する文字位置の数。英数字フィールドの場合、この値に指定できる範囲は、6 から、30 とフィールド幅 + 10 のうちどちらか大きいほうの値までです。

デフォルトの出力幅は、フィールド見出し (または、見出しが指定されていない場合はフィールド名) の表示に必要な最大文字数と、フィールドの値の表示に必要な文字数です。

Heading (見出し)

表示および報告書上のフィールド名を置き換える代替の見出しです。

CCSID

このフィールドに関連付ける CCSID を指定します。

Length Field (長さフィールド)

セグメント化テンプレートおよび長さが 4 を超えない英数字フィールドの場合にのみ表示されます。

各レイアウトの 1 つのフィールドに、長さフィールドのフラグを立てることができます。これにより、File Manager に、そのフィールドの値に基づいてセグメント長を計算するように通知できます。

次のいずれかの値を入力できます。

ブランク

これは長さフィールドではありません。

1

このフィールド値はセグメント長です。

2

このフィールド値にフィールドの長さを加えると、セグメント長になります。

長さフィールドを指定しない場合、セグメント長は 01 フィールド長とみなされます。

Create attributes (作成属性)

このフィールドを含むレコード用のテスト・データの作成時に、データ作成機能で使用するフィールド固有の属性を定義します。

Filler (充てん文字)

フィールドの作成で、他の操作の前にフィールドの各バイトに置かれる値を指定します。以下の 1 つにすることができます。

char

各バイトに書き込まれる `0` などの文字。

X'cc'

各バイトに書き込まれる `X'FF'` などの 16 進値。

デフォルト値はブランクです。

アクション

レコードごとに、フィールドの内容をどのように変えるかを指定します。以下の1つにすることができます。

FX

フィールドの内容は、固定されたままになります。

RA

フィールドの内容は、指定されたパターンからランダムに選択された文字から生成されます。レコードごとに異なる文字セットが選択されます。

RO

フィールドの内容はロールされます。各レコードで、指定したパターンの最初の非ブランク文字がフィールドの最初のバイトになるまで、そのパターンが左に1バイトだけシフトされます。次に、フィールドの元の位置に戻るまで、各出力レコードで、パターンが右に1バイトだけシフトされます。ROを使用できるのはユーザー提供のパターンだけで、IBM® 提供のパターンでは使用できません。

このパターンはブランクで始まる必要があり、そうでない場合、結果はFXと同じになります。ロールは、パターンの長さ以内でのみ行われます。

RP

フィールドの内容はリップルされます。各レコードで、指定のパターンが左に1バイトだけシフトされ、切り捨てられた文字がパターンの右端に付加されます。

SL

各レコードで、フィールドの内容は左にシフトされます。指定のパターンが左に1文字だけシフトされて、右側にスペースが埋められます。パターンのすべての文字がシフトアウトされると、元のパターンが復元され、処理が繰り返されます。

SR

各レコードで、フィールドの内容は右にシフトされます。指定のパターンが右に1文字だけシフトされて、左側にスペースが埋められます。パターンのすべての文字がシフトアウトされると、元のパターンが復元され、処理が繰り返されます。

TL

各レコードで、フィールドの内容は左側で切り捨てられます。指定のパターンのすべての文字が切り捨てられるまで、一度に1文字だけ左側で切り捨てられます(左端の文字がスペースに置き換えられます)。次に、元のパターンが復元されて、処理が繰り返されます。

TR

各レコードで、フィールドの内容は右側で切り捨てられます。指定のパターンのすべての文字が切り捨てられるまで、一度に 1 文字だけ右側で切り捨てられます (右端の文字がスペースに置き換えられます)。次に、元のパターンが復元されて、処理が繰り返されます。

WV

フィールドの内容はウェーブされます。各レコードで、指定したパターンの最初の実非空白文字がフィールドの最初のバイトになるまで、そのパターンが左に 1 バイトだけシフトされます。次に、元のパターンが復元されて、処理が繰り返されます。WV を使用できるのはユーザー提供のパターンだけで、IBM® 提供のパターンでは使用できません。

このパターンは空白で始まる必要があります、そうでない場合、結果は FX と同じになります。ロールは、パターンの長さ以内でのみ行われます。

Start character (開始文字)

IBM® 提供のパターン (AL、AN、または CO)、またはユーザー提供のパターン (RO、WV、および FX を除く)

を指定するときに使用する開始文字を設定します。指定する文字は、IBM® 提供のパターンまたはユーザー提供のパターンにある文字の 1 つでなければなりません。

デフォルト: IBM® 提供のパターンまたはユーザー提供のパターンの先頭文字です。

Pattern (パターン)

このフィールドのデータを生成するときに使用されるパターンを指定します。IBM® 提供のパターン標識またはユーザー提供のパターンを指定できます。ユーザー提供のパターンは、文字ストリングか 16 進数ストリングのいずれかになります。文字ストリングは引用符で囲み、16 進数ストリングは引用符で囲んでその前に X を付ける必要があります。16 進数ストリングには、有効な偶数の 16 進文字が含まれている必要があります。指定できる IBM® 提供のパターンは、以下のとおりです。

AL

英字 - A から Z の文字 (A と Z を含む)。

AN

英数字 - A から Z (A と Z を含む)、0 から 9 (0 と 9 を含む) の文字。

AX

long 型の 16 進で表示される英数字。

CO

照合シーケンス - X'40' から X'F9' の範囲内にあるすべての印刷可能文字。

RA と RP

以外のアクションで、フィールドより長いユーザー提供パターンを指定すると、まず始めに、パターンの右側が受け入れフィールドに合わせて切り捨てられた後、指定したアクションが実行されます。RA

アクションの場合は、ユーザー提供パターン全体から文字がランダムに選択されます。RP
アクションの場合は、各レコードについて、パターン全体がリップルされてから、受信フィールドに合わせて切り捨てられます。フィールドより短いユーザー提供パターンを指定した場合は、パターンを繰り返してフィールドを埋めるように指定できます。

デフォルト: なし

Repeat user pattern (ユーザー・パターンの繰り返し)

このフィールドより短いユーザー提供パターンを指定し、必要な回数だけそのパターンを繰り返してフィールドを埋めるようにする場合は、YES

を指定します。ユーザー提供のパターンがこのフィールドより短いときには、デフォルトで、File Manager

は、受け取りフィールドを埋め込むために充てん文字を使用します。このオプションは、RA
アクションを指定しているときには無効です。



注: IBM® 提供のパターンは、常に、必要なだけフィールド内で繰り返されます。

デフォルト: NO

Scrambling Options (スクランブル・オプション)

これらのオプションは、テスト・データを生成するためにコピー機能の実行時に使用するフィールドの順序変更を制御します。

Scramble Type (スクランブル・タイプ)

次のいずれかの値を指定します。

空白

スクランブルは実行されません。値または範囲の指定は保管されますが、関連機能では無視されます。

1 (Random (ランダム))

ランダム・スクランブルを実行します。入力値が同じでも、後続の呼び出しでは異なる出力値が生成されます。

2 (Repeatable (反復可能))

反復可能スクランブルを実行します。入力値が同じ場合、後続の呼び出しでは同じ出力値が生成されます。

3 (Translate (変換))

変換を実行します。値データ・セットが検索され、一致する入力値が検出されます。一致する値が検出されると、出力値はその一致したレコードの出力列から取得されます。

4 (Exit (終了))

スクランブル・ユーザー出口を呼び出します。File Manager は、ユーザー出口名およびユーザー出口パラメーターとオプションを指定できるパネルを表示します。

5 (ODPP)

隣接コマンド・フィールドに指定された ODPP

コマンドを使用して、データのスクランブルを実行します。これは、Optim Data Privacy Provider

コマンド入力域です。「Col」フィールドは、左列の位置を示します。これは構文エラーが発生したときに、エラー列の位置を特定するために使用できます。コマンド構文については、「ODPP 構文ガイド」を参照してください。ODPP の「Command」は、スクロール可能フィールドです。左右にスクロールするには、F10 キーと F11

キーを使用します。コマンドを別のウィンドウに展開するには、F4

キーを使用します。このオプションは、ODPP にアクセスするように File Manager がカスタマイズされ、環境が正常に初期化されている場合にのみ使用できます。詳しくは、*File Manager Customization Guide* を参照してください。

値

このオプションを選択すると、出力フィールドの値を指定できます。「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」とともに、関連フィールド(「Column In (入力列)」、「Out (出力)」、および「Dsn」)によって出力値が決定されます。

Column In (入力列)

値データ・セット内での入力フィールド値の開始位置を定義します。入力フィールドと値データ・セットの値を一致するため、コピー操作中に変換プロセスを実行するときに使用されます。フィールドの長さは、コピー処理時にこのフィールドにマップされる入力フィールドの長さに設定されます。



注: この値は、「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」で「Translate (変換)」を選択する場合にのみ必須です。

(Column) Out ((出力) 列)

値データ・セットの出力フィールド値の開始位置を定義します。これは、コピー操作時に以下のように使用されます。

- スクランブル・タイプが **「Translate (変換)」** である場合: 入力フィールド値が値データ・セットで一致すると、対応する出力値が使用されます。
- スクランブル・タイプが **「Random (ランダム)」** または **「Repeatable (反復可能)」** である場合: 入力値は、値データ・セットから出力値をランダムにまたは反復可能なものとして選択するために使用されます。

フィールドの長さは、このパネルに表示される現行フィールド長です。



注: この値は、「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」で **「Translate (変換)」** を選択する場合には必須です。 **「Random (ランダム)」** または **「Repeatable (反復可能)」** を選択し、 **「Value (値)」** も選択すると、値データ・セット名 (**「Dsn」**) を指定してある場合は、デフォルトの開始位置は 1 に設定されます。

Dsn

値データ・セットを定義します。カタログされた順次データ・セット、区分データ・セット、または VSAM

データ・セットを指定でき、コピー処理時の出力フィールド値を決定するために使用されるデータを含みます。

データ・セット名を指定する場合、以下の規則が適用されます。

- 総称データ・セット名では、単一文字を表すパーセント (%) 記号と、任意の数の文字を表すアスタリスク (*) を修飾子内で使用します。2 つのアスタリスク (**) は任意の数の修飾子内の任意の数の文字を表します。
- TSO 接頭部 (ユーザー ID に定義されている) が、引用符で囲まれていない名前の高位修飾子として使用されます。
- パフォーマンスを改善するために、データ・セット名はできるだけ修飾してください。
- データ・セットが区分データ・セットの場合、メンバー名は *dsn(member)* という形式で指定できます。メンバー名を指定しないか、または総称メンバー名を指定すると、メンバーを選択するためのメンバー選択リストが表示されます。

親パネル

子パネル

「Field Attributes (フィールド属性)」パネル - 数値フィールド

このパネルには、フィールドの形式設定およびデータ作成属性がリストされます。TABL 形式の場合のフィールドの幅、および数値フィールドの先行ゼロ抑制を変更することができます。データ作成属性を指定することもできます。このパネルには 2 つのタイプがあります。一方は英数字フィールド用で、他方は数値フィールド用です。このセクションでは数値フィールド版について説明します。

パネルとフィールドの定義

図 57. 「Field Attributes (フィールド属性)」パネル - 数値フィールド

Process	Options	Help
FM/IMS	Field Attributes	
Fixed Attributes:		
Field name	SERIAL-NO	
Type	ZD	
Start	47	
Length	6	
Use Attributes:		
Heading	_____	
Output width	_____	
Leading zeros	NO	YES or NO
Create Attributes:		
Start value	_____	
End value	_____	
Increment	_____	
Cycle	_____	
Scrambling Options:		
Scramble Type	Values	
1. Random	1. Range	Min _____ Max _____
2. Repeatable	2. Value	Column In _____ Out _____
3. Translate	Dsn	_____
4. Exit	Col	Command _____
5. ODPP	1	_____ +
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit F4=CRetrie v F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel

選択したフィールドが数値である場合、選択したフィールドが英数字である場合とは、表示される一部のフィールドが異なります。フィールドが異なる場合、以下の定義が適用されます。

Use attributes (使用属性)

編集、表示、および印刷機能で使用される特定の表示 (または印刷) 属性を指定するために使用します。数値フィールドの場合、以下の使用属性を使用できます。

Heading (見出し)

表示および報告書上のフィールド名を置き換える代替の見出しです。

Output width (出力幅)

このフィールドを TABL

表示形式または印刷形式で表示するために、編集、表示、および印刷機能で使用する文字位置の数。数値フィールドでは、この値の範囲は 6 から 30 までです (符号文字および小数点を含む)。

デフォルトの出力幅は、フィールド見出し (または、見出しが指定されていない場合はフィールド名) の表示に必要な最大文字数と、フィールドの値の表示に必要な文字数です。

Leading zeros (先行ゼロ)

このフィールドを SNGL または TABL

表示または印刷形式で表示または印刷するときに、先行ゼロを表示するかどうかを指定します。

先行ゼロを表示したい場合は、YES

を指定します。先行ゼロをブランクで置き換えたい場合は、NO を指定します。

デフォルト: NO

Length Field (長さフィールド)

セグメント化テンプレートおよび長さが 4 を超えない英数字フィールドの場合にのみ表示されます。

各レイアウトの 1 つのフィールドに、長さフィールドのフラグを立てることができます。これにより、File Manager に、そのフィールドの値に基づいてセグメント長を計算するように通知できます。

次のいずれかの値を入力できます。

blank

これは長さフィールドではありません。

1

このフィールド値はセグメント長です。

2

このフィールド値にフィールドの長さを加えると、セグメント長になります。

長さフィールドを指定しない場合、セグメント長は 01 フィールド長とみなされます。

Create attributes (作成属性)

このフィールドを含むレコード用のテスト・データの作成時に、データ作成機能で使用するフィールド固有の属性を定義します。



注: 仮数は、オプションの符号 (+ または -) と、それに続く 1 から 16 桁の数字で構成されます。仮数は小数点を含むこともできます。指数部は、文字 E、オプションの符号 (+ または 0)、および 1 から 2 桁の数字で構成されます。

開始値

ユーザー指定の増分で調整する前に、フィールドに入れる初期値を指定します。

この値は、適切な数値データ・タイプに変換したときに、そのフィールドが保持できる数値でなければなりません。また、小数点以下の桁のあるフィールドでは、フィールド定義の小数点以下の桁数より多い 10 進数整数を指定してはなりません。負の数値を指定する場合、フィールドが符号なしであっても、その符号は有効です。

フィールドが浮動小数点フィールドの場合、開始値は、仮数と指数部で構成される浮動小数点数 (-1.14579E01 など) として指定できます。

デフォルト: 0

End value (終了値)

フィールドに入れる最大値 (増分が正数の場合) または最小値 (増分が負数の場合) を指定します。

この値は、適切な数値データ・タイプに変換したときに、そのフィールドが保持できる数値でなければなりません。また、小数点以下の桁のあるフィールドでは、フィールド定義の小数点以下の桁数より多い 10 進数整数を指定してはなりません。負の数値を指定する場合、フィールドが符号なしであっても、その符号は有効です。

フィールドが浮動小数点フィールドの場合、終了値は、仮数と指数部で構成される浮動小数点数 (-01.14579E01 など) として指定できます。

デフォルト: フィールドに入れることができる最大の正数または最小の負数。

増やす

正数または負数を指定し、それによって、各レコード (またはレコードのサイクル) について、フィールドの値が調整されます。

増分は、適切な数値データ・タイプに変換したときに、そのフィールドが保持できる数値でなければなりません。また、小数点以下の桁のあるフィールドでは、フィールド定義の小数点以下の桁数より多い 10 進数整数を指定してはなりません。

フィールドが浮動小数点フィールドの場合、増分値は、仮数と指数部で構成される浮動小数点数 (-1.14579E01 など) として指定できます。

最初のレコード (またはレコードのサイクル) については、フィールドは、指定した開始値に設定されます。後続の各レコード (またはレコードのサイクル) については、フィールドの値に増分値が加算されます。このプロセスは、計算されたフィールドの値が、指定した終了値を超えない限り続行されます。

デフォルト: 0

Cycle (サイクル)

フィールド値に増分値を適用する前に生成する出力レコードの数を指定します。例えば、フィールド開始値に 100、増分値に 10、およびサイクル値に 3 を指定した場合、最初の 3 レコードのフィールドは 100、次の 3 レコードは 110、次の 3 レコードは 120 などとなります。

サイクルが 0 の場合、フィールドの値は常に開始値に設定されます。

Scrambling Options (スクランブル・オプション)

これらのオプションは、テスト・データを生成するためにコピー、インポート、またはエクスポート機能の実行時に使用するフィールドの順序変更を制御します。

Scramble Type (スクランブル・タイプ)

次のいずれかの値を指定します。

空白

スクランブルは実行されません。値または範囲の指定は保管されますが、関連機能では無視されます。

1 (Random (ランダム))

ランダム・スクランブルを実行します。入力値が同じでも、後続の呼び出しでは異なる出力値が生成されます。

2 (Repeatable (反復可能))

反復可能スクランブルを実行します。入力値が同じ場合、後続の呼び出しでは同じ出力値が生成されます。

3 (Translate (変換))

変換を実行します。値データ・セットが検索され、一致する入力値が検出されます。一致する値が検出されると、出力値はその一致したレコードの出力列から取得されます。

4 (Exit (終了))

スクランブル・ユーザー出口を呼び出します。File Manager は、ユーザー出口名およびユーザー出口パラメーターとオプションを指定できるパネルを表示します。

5 (ODPP)

隣接コマンド・フィールドに指定された ODPP

コマンドを使用して、データのスクランブルを実行します。これは、Optim Data Privacy Provider

コマンド入力域です。「Col」フィールドは、左列の位置を示します。これは構文エラーが発生したときに、エラー列の位置を特定するために使用できます。コマンド構文については、「ODPP 構文ガイド」を参照してください。ODPP の「Command」は、スクロール可能フィールドです。左右にスクロールするには、F10 キーと F11

キーを使用します。コマンドを別のウィンドウに展開するには、F4

キーを使用します。このオプションは、ODPP にアクセスするように File Manager がカスタマイズされ、環境が正常に初期化されている場合にのみ使用できます。詳しくは、*File Manager Customization Guide* を参照してください。



注: 数値フィールドの場合、「Leading zeros (先行ゼロ)」を「YES (はい)」に設定し、ランダム・スクランブルまたは反復可能スクランブル (「Value (値)」オプションは空白) を要求した場合に、先行ゼロが順序変更されてしまいます。

例:

- 「Leading zeros (先行ゼロ)」を「YES (はい)」に設定した場合、00123 により 56872 が生成されることがあります (ゼロが変更されます)。
- 「Leading zeros (先行ゼロ)」を「NO (いいえ)」に設定した場合、00123 により 00343 が生成されることがあります (ゼロは変更されません)。



反復可能スクランブルの場合、**「Leading zeros (先行ゼロ)」**を「YES (はい)」に設定すると、固有の結果が生成されます。

Values (値)

数値フィールドでは、以下のオプションを指定して、選択したスクランブル・タイプの出力を制御できます。

空白

File Manager は、スクランブル・タイプで指定されるとおりに、入力値に対してランダム・スクランブルまたは反復可能スクランブルを実行して、出力値を決定します。

1 (Range) (範囲)

値の範囲。フィールドに有効な最小値および最大値を指定する必要があります。コピー操作時に、生成されたスクランブル値は、指定した範囲内の数値になります。最小値には、最大値より小さい値を指定する必要があります。指定可能な値の範囲は -2 GB から +2 GB です。

2 (Value) (値)

出力フィールドの値を指定します。「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」とともに、関連フィールド (**「Column In (入力列)」**、**「Out (出力)」**、および **「Dsn」**) によって出力値が決定されます。

Min

最小値。最大値より小さく、かつ、-2 GB 以上の値を指定する必要があります。オプション 1 の **「(Range) (範囲)」** を選択する場合、このフィールドに値を指定する必要があります。

Max

最大値。最小値より大きく、2 GB 以下である必要があります。オプション 1 の **「(Range) (範囲)」** を選択する場合、このフィールドに値を指定する必要があります。

Column In (入力列)

値データ・セット内での入力フィールド値の開始位置を定義します。入力フィールドと値データ・セットの値を一致するため、コピー操作中に変換プロセスを実行するときに使用されます。フィールドの長さは、コピー処理時にこのフィールドにマップされる入力フィールドの長さに設定されます。



注: この値は、「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」で「**Translate (変換)**」を選択する場合にのみ必須です。

(Column) Out ((出力) 列)

値データ・セットの出力フィールド値の開始位置を定義します。これは、コピー操作時に以下のように使用されます。

- スクランブル・タイプが「**Translate (変換)**」である場合: 入力フィールド値が値データ・セットで一致すると、対応する出力値が使用されます。
- スクランブル・タイプが「**Random (ランダム)**」または「**Repeatable (反復可能)**」である場合: 入力値は、値データ・セットから出力値をランダムにまたは反復可能なものとして選択するために使用されます。

フィールドの長さは、このパネルに表示される現行フィールド長です。



注: この値は、「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」で「**Translate (変換)**」を選択する場合には必須です。「**Random (ランダム)**」または「**Repeatable (反復可能)**」を選択し、「**Value (値)**」も選択すると、値データ・セット名(「**Dsn**」)を指定してある場合は、デフォルトの開始位置は1に設定されます。

Dsn

値データ・セットを定義します。カタログされた順次データ・セット、区分データ・セット、または VSAM

データ・セットを指定でき、コピー処理時の出力フィールド値を決定するために使用されるデータを含みます。

「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」で「**Translate (変換)**」を選択した場合、このデータ・セットには、入力列および出力列に指定されている位置の入力値および出力値が含まれている必要があります。

「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」で「**Random (ランダム)**」または「**Repeatable (反復可能)**」を選択した場合、このデータ・セットには、出力列に指定されている位置の出力値が含まれている必要があります。



注: このフィールドは、「Scramble Type (スクランブル・タイプ)」で「**Translate (変換)**」を選択する場合には必須です。「**Random (ランダム)**」または「**Repeatable (反復可能)**」を選択し、さらに、「**Value (値)**」を選択した場合、オプションでデータ・セット名を指定することができます。



す。【Value (値)】を選択し、このフィールドをブランクのままにした場合、テンプレートに保管されている値リストの入力を求めるプロンプトが出されます。

データ・セット名を指定する場合、以下の規則が適用されます。

- 総称データ・セット名では、単一文字を表すパーセント (%) 記号と、任意の数の文字を表すアスタリスク (*) を修飾子内で使用します。2 つのアスタリスク (**) は任意の数の修飾子内の任意の数の文字を表します。
- TSO 接頭部 (ユーザー ID に定義されている) が、引用符で囲まれていない名前の高位修飾子として使用されます。
- パフォーマンスを改善するために、データ・セット名はできるだけ修飾してください。
- データ・セットが区分データ・セットの場合、メンバー名は *dsm(member)* という形式で指定できます。メンバー名を指定しないか、または総称メンバー名を指定すると、メンバーを選択するためのメンバー選択リストが表示されます。

親パネル

- [\[Segment Layout \(セグメント・レイアウト\)\] パネル ページ 399](#)

子パネル

- なし。

「Field Information (フィールド情報)」パネル

このパネルは、FIELD 基本コマンドを入力したときに表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 58. 「Field Information (フィールド情報)」パネル

Process	Options	Help			
FM/IMS		Field Information			
Database	DJ1E				
Segment	SHIRE				
Description					
Field	Characteristics	Start	Length	Type	
**** Top of data ****					
SHIREK	Sequence - Unique	1	20	Character	
**** End of data ****					
Command ==>				Scroll CSR	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=Describe
F7=Backward	F8=Forward	F9=Swap	F12=Cancel		

データベース

現行データベースの名前を示します。

Segment (セグメント)

現行セグメントの名前を示します。

説明

「Template Specification (テンプレート指定)」パネルに入力された通りのセグメントの記述を示します。

Field (フィールド)

フィールドの名前をデータベースの DBD で定義されている通りに示します。

Characteristics (特性)

キー・フィールドのタイプを指示する、以下のいずれかの値を示します。

- Sequence - Unique (シーケンス - 固有)
- Sequence - Multiple (シーケンス - 複数)
- Secondary index source (2 次索引ソース)

このフィールドは、キー・フィールド以外の場合はブランクです。

Start (開始)

フィールドの開始位置を示します。

Length (長さ)

フィールドの長さを示します。

Type (タイプ)

フィールドのデータ・タイプを指示する、以下のいずれかを示します。

- 16 進数
- パック 10 進数
- 文字
- Binary full word (フルワード・バイナリー)
- Binary half word (ハーフワード・バイナリー)

親パネル

- FIELD 基本コマンドを入力することによって表示される、それぞれの機能の「入力」パネルの後のすべてのパネルから呼び出し可能。

子パネル

- なし。

「Field Selection Criteria (フィールド選択基準)」パネル

「Field Selection Criteria (フィールド選択基準)」パネルおよび「Layout Identification Criteria (レイアウト識別基準)」パネルは、「View : Segment Layout (ビュー : セグメント・レイアウト)」パネルまたは「Template : Segment Layout (テンプレート : セグメント・レイアウト)」パネルから、関連する基本コマンドを入力したときに表示される同一(見出しを除く)のパネルです。このパネルは、セグメントに複数のレイアウトがある場合にのみ、テンプレートからアクセスします。このパネルは、「フィールド別」基準を指定するために使用します。

パネルとフィールドの定義

図 59. 「Field Selection Criteria (フィールド選択基準)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Field Selection Criteria	Line 1 of 5
Cmd	Con (Field Name
<->	-	<-----1-----2-----3----->
Op	Value)
<->	<-----1-----2----->	-
***	****	Top of data ****
---	---	SUBURB-STREET
---	AND	SUB-STREET-KEY
---	AND	SUB-STREET-NAME
---	AND	SUFFIX
---	AND	DIRECTION
***	****	End of data ****
Command ==>	Scroll HALF	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F7=Up	F8=Down	F9=Swap
	F4=CRetriev	F5=RFind
	F10=Left	F11=Right
		F6=RunTemp
		F12=Cancel

Cmd (コマンド)

接頭部コマンド域。以下のエディター接頭部コマンドが使用できます。A、B、C、Cn、CC、D、Dn、DD、M、Mn、MM、O、On、OO、R、Rn、RR、RRn。

Con

結合子 - AND/OR

結合子を指定するために使用されます。これらと関係があるのは、セグメント選択式を含む行だけです。デフォルト値は **AND** です。この結合子は、以下の値で上書きすることができます。

入力値

結果の値

AND

AND

&

AND

OR

OR

|

OR



注: 省略形が受け入れられます。例えば、「AND」を「O」で上書きすると、「OR」に変わります。

(

左括弧・括弧は、式を含む行にのみ使用する必要があります。これは、基準をグループ化するために使用されます。左括弧の数は右括弧の数と一致していなければなりません。

Field Name (フィールド名)

オリジナルのコピーブックに定義されたフィールド名を表示する編集不可のフィールド。



注: 画面幅を 115 以上に設定して実行している場合は、「Start (開始)」、「Length (長さ)」、および「Type (タイプ)」フィールドに加えて「Field Name (フィールド名)」フィールドも表示できます。ただし、これより短い幅では、「Field Name (フィールド名)」と、「Start (開始)」、「Length (長さ)」、および「Type (タイプ)」との間で画面を切り替える必要があります。デフォルト表示は「Field Name (フィールド名)」です。表示を切り替えるには、**FLDNAME** コマンドを入力するか、または F11 を押します。

Start (開始)

オリジナルのコピーブックに定義された、フィールドの開始位置を表示する編集不可のフィールド。

Length (長さ)

オリジナルのコピーブックに定義された、フィールドの長さを表示する編集不可のフィールド。

Type (タイプ)

オリジナルのコピーブックに定義された、フィールドのデータ・タイプを表示する編集不可のフィールド。

Op (演算子)

演算子 - 式を作成するために使用されます。有効な演算子は次のとおりです。

=、EQ

項が等しい (数値的または埋め込み時) 場合に真

≠、≠=、/=、NE

項が等しくない (= の反対) 場合に真

>、GT

より大

<, LT

より小

><, <>

より大きいかより小さい (等しくないと同等)

>=, GE

より大か等しい

\<, ¬<

未満でない

<=, LE

より小か等しい

\>, ¬>

以下

==

項が厳密に等しい (同一) 場合に真

\==, ¬==, /==

項が厳密に「等しくない」場合に真 (== の反対)

>>

厳密により大きい

<<

厳密により小さい

>>=

厳密により大きいか等しい

\<<, ¬<<

厳密により小さくない

<<=

厳密により小さいか等しい

RG

範囲 - 値 1 >= フィールド <= 値 2

NR

範囲にない - フィールド < 値 1、またはフィールド > 値 2

CO

指定された値の 1 つを含む

-CO

指定された値の1つを含まない。

NC

数値を含む - 数値が値の1つである

-NC

指定された (1つ以上の) 数値を含まない

Value (値)

このフィールドを使用して、比較で使用する文字または数値定数を式に指定します。演算子が複数の値 (例えば、RG、CO) をサポートする場合は、値を区切るために区切り文字としてコンマを使用します。値を指定するときには、次の規則が適用されます。

16 進数ストリング

16 進数ストリングは 'hhhhh'h'x

の形式でなければなりません。引用符で囲まれた値の文字数は偶数であり、これには、有効な 16 進文字 (0123456789ABCDEF) が含まれていなければなりません。

バイナリー・ストリング

バイナリー・ストリングは 'nnnnnn'b の形式でなければなりません。引用符で囲まれた値は 0 と 1 の組み合わせである必要があります。

数値オペランド

数値フィールド・タイプに指定する値は、有効な数値でなければなりません。引用符付きの値は受け入れられません。

文字ストリング

非数値タイプでは、引用符を指定しない場合、値が自動的に引用符で囲まれます。RG および NR

以外の演算で複数の値を指定した場合は、コンマで区切られたすべての値に引用符を付ける必要があります。

日付ストリング

日付ストリングは d'xxxxxxxx'

の形式でなければなりません。このストリングは、フィールドに定義された出力フォーマットで指定する必要があります。

日付値の例としては、次のようなものがあります。

```
d'Jan 01, 2014'
```

ここで、出力フォーマットは以下のとおりです。

```
Mmm DD, YYYY
```

時刻ストリング

時刻ストリングは 't'xxxxxxxx' の形式でなければなりません。このストリングは、フィールドに定義された出力フォーマットで指定する必要があります。

時刻値の例としては、次のようなものがあります。

```
t'15:30:00.000'
```

ここで、出力フォーマットは以下のとおりです。

```
HH:MI:SS.999
```



注:

1. 日付ストリングと時刻ストリングは、contains 演算子と併用できません。
2. 2つの値を必要とする範囲演算子で使用する場合は、2番目の値を引用符で囲む必要があります。例: d'Jan 01, 2014', 'Dec 01, 2014'。
3. 現在の日付または時刻の値を出力形式で検索するには、d=' または t=' を使用します。

)

右括弧・括弧は、式を含む行にのみ使用する必要があります。これは、基準をグループ化するために使用されます。左括弧の数は右括弧の数と一致していなければなりません。

親パネル

- [「Segment Layout \(セグメント・レイアウト\)」パネル ページ 399](#)

子パネル

- なし。

「IMS™ Catalog Specification (カタログ指定)」パネル

「IMS Catalog Specification (IMS カタログ指定)」パネルは、「Template (テンプレート)」ダイアログ (オプション 4.1) および「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」ダイアログ (オプション 4.4) で表示されます。

このパネルで、関数で使用するデータベース定義 (DBD) が含まれている IMS カタログを指定します。関数を使用するサブシステムを指定することによって、その関数を使用する IMS カタログを識別します。

「Template (テンプレート)」ダイアログ

このパネルは、「Template Entry (テンプレート項目の入力)」パネルで指定されたテンプレートに、DBD ライブラリー・リストではなく IMS カタログ名が保管されており、以下のいずれかが真である場合に、「Template (テンプレート)」ダイアログに表示されます。

- IMS カタログを識別するために使用されるサブシステムの ID が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールに見つからない。
- 指定されたサブシステムが、IMS 管理 ACB を使用しない。
- 関数が使用する DBD の 1 つが IMS カタログ内に見つからない。
- SSID コマンドを「Template Specification (テンプレート指定)」パネルで発行する。

関数は、IMS カタログから、テンプレートを使用するデータベースの DBD を検索し、検出された DBD からデータベースのセグメント・タイプのリストを取得します。新規テンプレートの場合、このリストは、テンプレートのセグメント・リストを作成するために使用されます。既存のテンプレートの場合、テンプレートのセグメント・リストがこのリストと同じでなければ、関数はテンプレートのセグメント・リストを更新して内容を同じにします。

指定したサブシステムの ID は、テンプレートに保管され、後続の更新で使用されます。

SSID コマンドを発行した場合、このパネルには、テンプレートに現在保管されているサブシステムの ID が表示されます。

「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」ダイアログ

このパネルは、「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」ダイアログで「Specify IMS catalog (IMS カタログの指定)」オプションを選択し、「Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)」オプションを選択しなかった場合に表示されます。これらのオプションはどちらも「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」パネルにあります。

このユーティリティは、次の条件の一方または両方が真である場合に、指定された IMS カタログ内の DBD を使用します。

- 「Specify DBDLIB list (DBDLIB リストの指定)」オプションが選択されていない。
- テンプレートのセグメント・リストが前回更新されたときに使用された DBD は、DBD ライブラリーからではなく、IMS カタログからのものである。

上記が当てはまる場合、ユーティリティは指定された IMS カタログから、テンプレートを使用するデータベースの DBD を検索し、検出された DBD からデータベースのセグメント・タイプのリストを取得します。テンプレートのセグメント・リストがこのリストと同じでなければ、ユーティリティはテンプレートのセグメント・リストを更新して内容を同じにします。

テンプレートの更新が成功すると、ユーティリティは指定された IMS カタログの名前をテンプレートに保存します。



注:

1. 「Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)」オプションが選択されておらず、「Specify IMS catalog (IMS カタログの指定)」オプションと「Specify DBDLIB list (DBDLIB リストの指定)」オプションは選択されており、テンプレートのセグメント・リストが前回更新されたときに使用されていた DBD が DBD ライブラリーからのものである場合、ユーティリティは「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネルで指定されたライブラリーの DBD を使用します。



2. 「Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)」、 「Specify IMS catalog (IMS カタログの指定)」、 および 「Specify DBDLIB list (DBDLIB リストの指定)」 のオプションがすべて選択されていない場合、ユーティリティーは、テンプレートに保管されている DBD ライブラリー・リストまたはテンプレートに保管されている IMS カタログのいずれかの DBD を使用します。

パネルとフィールドの定義

図 60. 「IMS Catalog Specification (IMS カタログ指定)」 パネル

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS                               IMS Catalog Specification panel

IMS catalog:
  Subsystem name  . . IFG1

Command ==> _
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F7=Backward  F8=Forward  F9=Swap
F10=Actions  F12=Cancel
    
```

Subsystem name (サブシステム名)

関数による DBD の取得元とする IMS カタログを使用するサブシステムの ID を指定します。

IMS 管理 ACB を使用するサブシステムのみを指定できます。

サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に、「Subsystem Selection

(サブシステム選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるサブシステムのリストから、サブシステムを選択することができます。

親パネル

- [「Template Entry \(テンプレート項目の入力\)」パネル ページ 440](#)
- [「Template Specification \(テンプレート指定\)」パネル ページ 444](#)
- [「Template Update Utility \(テンプレートの更新ユーティリティー\)」パネル ページ 450](#)

IMS™ Subsystem Specification (サブシステム指定) パネル

「IMS Subsystem Specification (IMS サブシステム指定)」パネルは、「View Update Utility (ビューの更新ユーティリティー)」パネルまたは「Criteria Set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティー)」パネルで **Specify subsystem** が選択されている場合に表示されます。

Specify subsystemが選択されている場合、ビューまたは基準セットは、IMS™ カタログまたは DBD ライブラリー内のデータから動的に生成されるテンプレートに基づきます。IMS™ カタログまたは DBD ライブラリー内のデータから動的に生成されるテンプレートは、動的テンプレートと呼ばれます。

このパネルでは、IMS サブシステムを選択することによって、ユーティリティーがデータを取得する場所を指定します。サブシステム名は、更新されたビューおよび基準セットに保管され、それらは動的テンプレートに基づいている基準セットとしてフラグが立てられます。

Specify Template data setと**Specify subsystem**の両方のオプションが選択されている場合、ビューまたは基準セットは、現在動的テンプレートに基づいているとき、動的に生成されたテンプレートのみに基づきます。ビューまたは基準セットが静的テンプレートに基づいている場合、ビューまたは基準セットは、「Template data set name (テンプレート・データ・セット名)」フィールドで指定したデータ・セット内のテンプレートに基づきます。

これらのオプションのいずれも選択されていない場合、ユーティリティーは次のようになります。

- ビューまたは基準セットが動的テンプレートに基づいている場合、ビューまたは基準セットは、ビューまたは基準セットで指定されたサブシステムが使用する IMS カタログまたは DBD ライブラリーのいずれかのデータから動的に生成されるテンプレートに基づきます。
- ビューまたは基準セットが静的テンプレートに基づいている場合、ビューまたは基準セットは、名前がビューまたは基準セットに保管されているテンプレートに基づきます。

パネルとフィールドの定義

図 61. 「IMS Subsystem Specification (IMS サブシステム指定)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	IMS Subsystem Specification panel	
IMS:		
Subsystem name . . IFG1		
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F10=Actions	F12=Cancel	F7=Backward F8=Forward F9=Swap

Subsystem name (サブシステム名)

ユーティリティーがデータを取得する場所を指定する IMS™ サブシステムを選択します。IMS™ が ACB を管理する場合、ユーティリティーは、選択されたサブシステムが使用する IMS™ カタログからデータを取得します。ACB がインストール環境によって管理されている場合、ユーティリティーは、選択されたサブシステムの DBD ライブラリーからデータを取得します。

サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に、「サブシステム選択」パネルが表示されます。そのパネルに表示されているサブシステムのリストから選択することができます。

親パネル

- [「Criteria Set Update Utility \(基準セットの更新ユーティリティ\)」](#) パネル ページ 246
- [「View Update Utility \(ビューの更新ユーティリティ\)」](#) パネル ページ 462

「IMS data (IMS データ)」 パネル

このパネルは、「Database Positioning (データベース位置決め)」または「Key Specification (キー指定)」パネルで、データベース内の開始位置を指定した後、「Browse (ブラウズ)」および「Edit (編集)」ダイアログで表示されます。

パネル・タイトルには、ダイアログ・タイプ (ブラウズまたは編集) とデータベース名が含まれます。このパネルは、指定された開始位置から IMS データベースのデータを表示します。「Edit (編集)」ダイアログでは、このパネルでデータを更新することができます。

IMS データは、CHAR、HEX、LHEX、TABL、または SNGL 形式で表示できます。[図 62: IMS データ・パネル - CHAR 形式 ページ 334](#) から [図 67: IMS データ・パネル - SNGL 形式 ページ 337](#) では、これらのそれぞれの形式のデータを持つパネルを表示しています。

パネルとフィールドの定義

図 62. IMS データ・パネル - CHAR 形式

Process	Options	Help
FM/IMS		Edit : IMS Database DJ1E
CHKPID FM000001	Autosave OFF SHOW SUP ON Scope DB Col 1	Format CHAR
Cmd Level Segment	-----1-----2-----3-----4-----5---	
	**** Top of window ****	
1	SHIRE	DENMARK 130500244.h.....g/.....
2	SHIRENP
2	LINKSUB	DENMARK
2	LINKSUB	DENMARK SHIRE
2	LINKSUB	GOLDEN HILL
2	LINKSUB	HAZELVALE
2	LINKSUB	KENT RIVER
2	LINKSUB	KENTDALE
2	LINKSUB	KENTON
2	LINKSUB	KORDABUP
2	LINKSUB	MOUNT SHADFORTH
2	LINKSUB	PARRY INLET
2	LINKSUB	PARRYVILLE
2	LINKSUB	PEACEFUL BAY
2	LINKSUB	QUARRAM
Command ==>		Scroll CSR
F1=Help	F2=Format	F3=Exit
F7=Up	F8=Down	F9=Swap
	F4=CRetriev	F5=RFind
	F10=Left	F11=Right
		F6=RChange
		F12=Cancel

図 65. IMS データ・パネル - SHOW SUP ON のある TABL 形式

Process	Options	Help
FM/IMS Edit : IMS Database DJ1E		
	CHKPID FM000001 Autosave OFF	SHOW SUP ON Scope DB Format TABL
Cmd Level Segment	SHIRE-NAME #3 AN 1:20 <---+-----1---+-----> - **** Top of window ****	SHIRE-TYPE #4 AN 21:1 SHIRE-CODE1 #5 ZD 22:3 <--> SHIRE-CODE2 #6 ZD 25:5 <---->
1	SHIRE DENMARK	1 305 244
2	SHIRENP No key	
2	LINKSUB Key=DENMARK	
2	LINKSUB Key=DENMARK SHIRE	
2	LINKSUB Key=GOLDEN HILL	
2	LINKSUB Key=HAZELVALE	
2	LINKSUB Key=KENT RIVER	
2	LINKSUB Key=KENTDALE	
2	LINKSUB Key=KENTON	
2	LINKSUB Key=KORDABUP	
2	LINKSUB Key=MOUNT SHADFORTH	
2	LINKSUB Key=PARRY INLET	
Command ==> Scroll CSR		
F1=Help	F2=Format	F3=Exit
F7=Up	F8=Down	F9=Swap
	F4=CRetriev	F5=RFind
	F10=Left	F11=Right
	F6=RChange	F12=Cancel

図 66. IMS データ・パネル - SHOW SUP OFF のある TABL 形式

Process	Options	Help
FM/IMS Edit : IMS Database DJ1E		
	CHKPID FM000001 Autosave OFF	SHOW SUP OFF Scope DB Format TABL
Cmd Level Segment	SHIRE-NAME #3 AN 1:20 <---+-----1---+-----> - **** Top of window ****	SHIRE-TYPE #4 AN 21:1 SHIRE-CODE1 #5 ZD 22:3 <--> SHIRE-CODE2 #6 ZD 25:5 <---->
1	SHIRE DENMARK	1 305 244
2	SHIRENP 1 segment	
2	LINKSUB 18 segments	
1	SHIRE Key=ESPERANCE	Layout=SHIRE
2	SHIRENP 1 segment	
2	LINKSUB 22 segments	
1	SHIRE Key=EXMOUTH	Layout=SHIRE
2	SHIRENP 1 segment	
2	LINKSUB 2 segments	
1	SHIRE Key=FREMANTLE	Layout=SHIRE-CITY
2	SHIRENP 1 segment	
2	LINKSUB 9 segments	
1	SHIRE KALGOORLIE	1 605 0
2	SHIRENP 1 segment	
Command ==> Scroll CSR		
F1=Help	F2=Format	F3=Exit
F7=Up	F8=Down	F9=Swap
	F4=CRetriev	F5=RFind
	F10=Left	F11=Right
	F6=RChange	F12=Cancel

図 67. IMS データ・パネル-SNGL 形式

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS                      Edit : IMS Database DJ1E
                          CHKPID FM000001 Autosave OFF SHOW SUP ON  Scope DB  Format SNGL
Segment  SHIRE                      Level: 1
Concatenated key value:  DENMARK

Current 01: SHIRE-TOWN                      Top Line is 1    of 9
Ref Field      Typ  Len  Data
 3 SHIRE-NAME  AN   20 K DENMARK
 4 SHIRE-TYPE  AN    1  1
 5 SHIRE-CODE1 ZD    3  305
 6 SHIRE-CODE2 ZD    5  244
 7 SHIRE-YEAR  BI    2  6280
 8 SHIRE-BRICK PD    8  606363187610
 9 SHIRE-WOODEN PD    8  2034233224332
10 SHIRE-SCHOOL PD    4  3020312
11 SHIRE-GOLF  BI    2  12608
*** End of record ***

Command ==>
F1=Help      F2=Format    F3=Exit      F4=CRetriev  F5=RFind     F6=RChange
F7=Up        F8=Down      F9=Swap      F10=Left     F11=Right    F12=Cancel
Scroll CSR

```

ヘッダー域のフィールド:**Title (タイトル)**

パネルのタイトル。ブラウザまたは編集しているデータベースの名前が含まれます。

CHKPID

(編集のみ) 最後に行われたチェックポイントのチェックポイント ID。

Autosave (自動保管)

(編集のみ) 自動保管オプションの現在の設定値。

ON

FM/IMS 自動チェックポイント機能がオンになっています。

OFF

FM/IMS 自動チェックポイント機能がオフになっています。

編集セッションでこの設定を変更するには、AUTOSAVE 基本コマンドを使用します。

編集セッションの初期設定を変更するには、「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」パネル (オプション 0.6.4) または「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」パネル (オプション 0.7.2) で、「**Set AUTOSAVE ON (AUTOSAVE ON に設定)**」オプションを選択または選択解除します。

SHOW SUP

(ビューを使用する場合のみ) SHOW SUP

オプションの現在の設定値。この設定は、CHAR、HEX、LHEX、および TABL 形式の場合の抑制されたセグメントの表示に影響があります。

ON

それぞれの抑制されたセグメント・オカレンスごとに、1 行があります。CHAR、HEX、または LHEX 表示形式では、抑制されたセグメントのデータは、抑制されないセグメントの

場合と同じ様に、データ域に表示されます。TABL
形式の場合は、抑制されたセグメントのキーはデータ域に表示されます。

OFF

抑制されたセグメントのデータは表示されません。抑制されたセグメント・オカレンスはグループ化されて、シャドー・ラインによって表されます。シャドー・ラインが1つのセグメント・オカレンスだけを表す場合は、セグメント・オカレンスのキーはデータ域に表示されます。シャドー・ラインが複数のセグメント・オカレンスを表す場合は、シャドー・ラインの表すセグメント・オカレンスの数がデータ域に表示されます。1つのセグメント・タイプに複数のセグメント・レイアウトが指定されている場合は、抑制されたセグメントのレイアウトもシャドー・ラインに表示されます。

編集セッションでこの設定を変更するには、SHOW SUP 基本コマンドを使用します。

編集セッションの初期設定を変更するには、「Editor Options (エディター・オプション)」パネル (オプション 0.5) で、「**Set SHOW SUP ON (SHOW SUP ON に設定)**」オプションを選択または選択解除します。

Scope (範囲)

有効範囲オプションの現在の設定値。有効範囲とは、以下の範囲です。

- コマンドが作動する範囲。
- 表示するためにセグメントを検索する範囲。

有効範囲の値は以下のとおりです。

DB

有効範囲は、データベース全体です。

REC

有効範囲は、現在のデータベース・レコードに制限されます。

編集セッションでこの設定を変更するには、SCOPE 基本コマンドを使用します。

編集セッションの初期設定を変更するには、「Editor Options (エディター・オプション)」パネル (オプション 0.5) で、「**Set SCOPE REC (SCOPE REC に設定)**」オプションを選択または選択解除します。

Col (列)

(CHAR、HEX および LHEX 形式のみ)

現在表示される左端のデータ列。新しい値を入力することによって、特定の列 (左方または右方) にスクロールすることができます。

形式

データの表示形式。CHAR、HEX、LHEX、TABL、または SNGL
のいずれか。表示形式を変更するには、そのフィールドの最初のバイトを必要とする形式の先頭文字で重ね打ちします。

Segment (セグメント)

(SNGL 形式のみ) パネルに表示されるセグメントの名前。

Level (レベル)

(SNGL 形式のみ) データベース内のセグメントの階層レベル。

Concatenated key value (連結キー値)

(SNGL 形式のみ) 表示されるセグメントの連結キーの値。

Current 01 (現行 01)

(SNGL 形式のみ) セグメントのデータを形式設定するために使用するレイアウト。

データ域のフィールド (CHAR、HEX、LHEX、および TABL 形式):

複数のセグメント・オカレンスが表示されます。それぞれのセグメント・オカレンスは、1 行 (CHAR、LHEX、および TABL 形式)、または 3 行 (HEX 形式) で表示されます。それぞれのセグメントごとに、以下のフィールドが表示されます。

Cmd (コマンド)

行コマンド入力フィールド。このパネルは、以下の行コマンドをサポートしています。

D

(編集のみ) セグメント・オカレンスとその従属セグメントをすべて削除します。

FC、FH、および FL

- 行をディスプレイの上部にスクロールします。
- 行がシャドー・ラインの場合、シャドー・ラインに関連する抑制されたセグメントを、現在の形式設定されたセグメント・タイプにします。
- 表示形式を CHAR (FC)、HEX (FH)、または LHEX (FL) に変更します。

FS, FT

(ビューを使用する場合のみ)

- 行をディスプレイの上部にスクロールします。
- 行がシャドー・ラインの場合、シャドー・ラインに関連する抑制されたセグメントを、現在の形式設定されたセグメント・タイプにします。
- 表示形式を SNGL (FS)、または TABL (FT) に変更します。

I, R

(編集のみ) 「Insert Root Segment (ルート・セグメントの挿入)」パネル (ルート・セグメントに対して入力した場合) もしくは「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネル (ルート以外のセグメントに対して入力した場合) を表示します。これらのパネルによって、セグメント・オカレンスをデータベースに挿入することができます。

K

コマンドを入力した先のオカレンスのセグメント・タイプに対して、「Key Specification (キー指定)」パネルを表示します。このパネルによって、データ表示のために、データベース内の新しい開始位置を指定することができます。

RA

(編集のみ) 「Insert Root Segment (ルート・セグメントの挿入)」パネル (ルート・セグメントに対して入力した場合) もしくは 「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネル (ルート以外のセグメントに対して入力した場合) を表示します。このパネルによって、セグメント・オカレンスをデータベースに挿入し、さらにこの新しいオカレンスの下にあり、コマンドが出された先のセグメントの従属セグメントをすべて複写することができます。

V

(ビューを使用する場合のみ) シャドー・ラインに対して入力した場合、シャドー・ラインに関連する抑制されたセグメントを、現在の形式設定されたセグメント・タイプにします。

Level (レベル)

データベース内のセグメントの階層レベル。

Segment (セグメント)

セグメント・タイプ。

データ域のフィールド (SNGL 形式):

単一のセグメント・オカレンスが表示されます。FM/IMS はレイアウトをセグメント・オカレンスに関連付け、データはレイアウトのフィールドに形式設定されます。レイアウトは、使用しているビューで定義されます。レイアウトのフィールドは、ページの下部に表示されます。それぞれのフィールドごとに、以下の詳細がページにまたがって列に表示されます。

CCSID

テンプレート内のフィールドに割り当てられた CCSID (割り当てられている場合)。

「CCSID」列を表示または非表示にするには、CCSID 基本コマンドを使用します。編集セッションの初期設定を変更するには、「Editor Options」パネル (オプション 0.5) で「Show the CCSID」を選択または選択解除します。

Ref

ビューがフィールドに割り当てたフィールド参照番号。

フィールド参照番号を表示したり、非表示にするには、REFS 基本コマンドを使用します。編集セッションの初期設定を変更するには、「Editor Options (エディター・オプション)」パネル (オプション 0.5) で、レコード・フォーマット・オプションの「Field reference number (フィールド参照番号)」を選択または選択解除します。

Field (フィールド)

REDEFINES、配列サイズ、および DEPENDING ON 参照などのその他の属性とともに、レベル番号とフィールド名。

【Field (フィールド)】列の構造情報を表示または非表示にするには、STR 基本コマンドを使用します。編集セッションの初期設定を変更するには、【Editor Options (エディター・オプション)】パネル (オプション 0.5) で、レコード・フォーマット・オプションの【Structure (構造)】を選択または選択解除します。

REDEFINES 情報 (【Field (フィールド)】列の) および再定義されたフィールドを表示または非表示にするには、RDF 基本コマンドを使用します。編集セッションの初期設定を変更するには、【Editor Options (エディター・オプション)】パネル (オプション 0.5) で、レコード・フォーマット・オプションの【Redefined fields (再定義フィールド)】を選択または選択解除します。

Typ (タイプ)

フィールドのデータ・タイプ。

【Type (タイプ)】列を表示または非表示にするには、TYP 基本コマンドを使用します。編集セッションの初期設定を変更するには、【Editor Options (エディター・オプション)】パネル (オプション 0.5) で、レコード・フォーマット・オプションの【Field type and length values (フィールド・タイプおよび長さの値)】を選択または選択解除します。

Start (開始)

フィールドの開始のレイアウト内の位置。

【Start (開始)】列を表示または非表示にするには、SLOC 基本コマンドを使用します。編集セッションの初期設定を変更するには、【Editor Options (エディター・オプション)】パネル (オプション 0.5) で、レコード・フォーマット・オプションの【Start location (開始位置)】を選択または選択解除します。

Len (長さ)

フィールドの長さ。

【Length (長さ)】列を表示または非表示にするには、TYP 基本コマンドを使用します (上記の【Typ】項目を参照)。

Data (データ)

表示形式のフィールドのデータ。

親パネル

- [【Database Positioning \(データベース位置決め\)】](#) パネル ページ 258
- [【Key Specification \(キー指定\)】](#) パネル ページ 358

子パネル

- [「Insert Root Segment \(ルート・セグメントの挿入\)」](#) パネル ページ 347
- [「Insert Segment \(セグメントの挿入\)」](#) パネル ページ 349
- [「Insert : Segment Selection \(挿入 : セグメント選択\)」](#) パネル ページ 355

関連トピックおよび例

- [データベースのアクセス](#) ページ 47
- [RDF 基本コマンド](#) ページ 521
- [REFS 基本コマンド](#) ページ 521
- [SCOPE 基本コマンド](#) ページ 527
- [SLOC 基本コマンド](#) ページ 532
- [STR 基本コマンド](#) ページ 536
- [TYPE 基本コマンド](#) ページ 538

「Initial Load Options (初期ロード・オプション)」パネル

「Initial Load Options (初期ロード・オプション)」パネルは、「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」で「Load type (ロード・タイプ)」に「Initial (初期)」を選択すると表示されます。

このパネルでは、以下の指定を行います。

- データベースにロードするデータを含むデータ・セットの詳細。
- 生成される JCL に、データベース・データ・セットを削除および再定義するジョブ・ステップを組み込むかどうか。
- 生成される JCL に、イメージ・コピー・ジョブを作成して、それを内部読み取りプログラムに実行依頼するジョブ・ステップを組み込むかどうか。
- JCL にイメージ・コピー・ジョブ・ステップを組み込むときに、ジョブ・ステップで使用するイメージ・コピー・スケルトンを含む PDS(E) の名前。

パネルとフィールドの定義

図 68. 「Initial Load Options (初期ロード・オプション)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS Initial Load Options		
Load From:		
Data set name . . .	_____	
Volume serial . . .	_____	(If not cataloged)
Device type	_____	(Generic unit or device address)
Image Copy Skeleton:		
Data set name . . .	_____	
Processing Options:		
Enter "/" to select option		
-	Delete/Define DB data sets	
-	Submit image copy	
Command ==> _____		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
F4=CRetrieve	F7=Backward	F8=Forward

Load From (ロード元)

データ・セット名

データベースにロードするデータを含む順次データ・セットの名前。

ボリューム通し番号

ロード元データ・セットがカタログされていない場合、それが存在するボリューム。

Device type (装置タイプ)

ロード元データ・セットを含むボリュームの装置タイプ。

Image Copy Skeleton (イメージ・コピー・スケルトン)

データ・セット名

【Submit image copy

(イメージ・コピーの実行依頼) オプションを選択する場合、ロードで使用するイメージ・コピー・スケルトンを含む PDS(E) を指定します。



注: 【Submit image copy (イメージ・コピーの実行依頼)】 オプションを選択しない場合、このフィールドは無視されます。

Delete/Define DB data sets (DB データ・セットの削除/定義)

生成される JCL に、データベース・データ・セットを削除および再定義するジョブ・ステップを組み込む場合、このオプションを選択します。

このジョブ・ステップを組み込むと、これは、ロード・ジョブの他のすべてのステップに先行して実行されます。

Submit image copy (イメージ・コピーの実行依頼)

生成される JCL に、GENJCLIC

コマンドを使用してイメージ・コピー・ジョブを生成するジョブ・ステップを組み込む場合、このオプションを選択します。

生成されたイメージ・コピー・ジョブは、内部読み取りプログラムに実行依頼されます。

親パネル

- [Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)] ページ 361
- [Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)] パネル ページ 254
- [Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)] パネル ページ 252

子パネル

- [JCL Submission (JCL 実行依頼)] パネル ページ 357

「Initialize Entry (項目の初期化)」パネル

「Initialize Entry (項目の初期化)」パネルは、「Initialize (初期化)」ダイアログの最初のパネルです。

これは、「Utility Menu (ユーティリティー・メニュー)」パネルでオプション 2 (「Initialize (初期化)」) を選択すると表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 69. 「Initialize Entry (項目の初期化)」パネル

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS              Initialize Entry Panel

IMS:
  Subsystem name . . . IF52
  Database name . . . DJ1E_____

Image Copy Skeleton:
  Data set name . . . _____

Processing Options:
  Fetch DB dsnames from
  1. User profile
  2. DFSMDA members

Enter "/" to select option
_ Delete/Define DB data sets
_ Submit image copy
_ Skip DB data set panel

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit     F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap      F10=Action F12=Cancel
    
```

IMS

Subsystem Name (サブシステム名)

初期化するデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID。

FM/IMS は、指定された名前のサブシステムを、FM/IMS インストール・オプション・モジュールから検索します。

サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に、「サブシステム選択」パネルが表示されます。パネルに表示されるサブシステムのリストから、サブシステムを選択することができます。



注: 指定された IMS サブシステムで静的 PSB または BMP

バッチ処理のみが許可されている場合、「Database

name」フィールドには「Fast Path」または「HALDB

database」のみを指定できます。これは、全機能データベースの初期化には、DL/I

バッチ処理領域で実行されている動的 PSB を使用する必要があるためです。

Database Name (データベース名)

初期化するデータベースの名前。このデータベースが他のデータ・セットと論理的に関連している場合、初期化処理では、論理的に関連しているデータベースも初期化されます。

FM/IMS は、IMS カタログまたは DBD ライブラリーのいずれかで、指定された名前の DBD を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した DBD ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの DBD ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの DBD ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの DBD ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「DBD Data set name (DBD データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した DBD ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する DBD ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 DBD ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった DBD を使用します。

IMS では、指定された少なくとも 1 つの DBD ライブラリー内に、以下の DBD が必要です。

- 指定するデータベースの DBD。
- 指定するデータベースに論理的に関連している各データベースごとの DBD。

データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合は、
「Database Selection
(データベース選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるデータベースのリストから、
データベースを選択することができます。

Image copy skeleton (イメージ・コピー・スケルトン)

データ・セット名

「Submit image copy

(イメージ・コピーの実行依頼) オプションを選択する場合、初期化で使用するイメージ・コピー・スケルトンを含む PDS(E) を指定します。



注: 「Submit image copy (イメージ・コピーの実行依頼)」オプションを選択しない場合、このフィールドは無視されます。

Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元)

HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみではない IMS
サブシステムを選択した場合、以下のいずれかを指定します。

1. ユーザー・プロファイル

初期化では、ユーザー・プロファイルに名前が保管されているデータベース・データ・セットを使用します。

2. DFSMDA メンバー

初期化では、DFSMDA
動的割り振りメンバーに指定されているデータベース・データ・セットを使用します。



注: 以下のいずれかを指定した場合、このフィールドは無視されます。

- HALDB データベース。
- FM/IMS インストール・オプション・モジュールでのみ、動的割り振りとして定義されている IMS サブシステム。

Delete/Define DB data sets (DB データ・セットの削除/定義)

生成される JCL に、データベース・データ・セットを削除および再定義するジョブ・ステップを組み込む場合、このオプションを選択します。このジョブ・ステップを組み込むと、これは、初期化ジョブの他のすべてのステップに先行して実行されます。

Submit image copy (イメージ・コピーの実行依頼)

生成される JCL に、GENJCL.IC

コマンドを使用してイメージ・コピー・ジョブを生成するジョブ・ステップを組み込む場合、このオプションを選択します。生成されたイメージ・コピー・ジョブは、内部読み取りプログラムに実行依頼されます。

Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ)

これを選択すると、FM/IMS は「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」および「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルを表示しません。

親パネル

- [「Utility Menu \(ユーティリティー・メニュー\)」パネル ページ 457](#)

子パネル

- [「Database Data Set Display \(データベース・データ・セット表示\)」パネル ページ 252](#)
- [「Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)」パネル ページ 254](#)
- [「JCL Submission \(JCL 実行依頼\)」パネル ページ 357](#)

関連トピックおよび例

- [空のデータベースの初期化 ページ 162](#)

「Insert Root Segment (ルート・セグメントの挿入)」パネル

編集セッションにおいて、「IMS Data (IMS データ)」パネルで以下のいずれかのコマンドを入力すると、FM/IMS は「Insert Root Segment (ルート・セグメントの挿入)」パネルを表示します。

- REPEAT 基本コマンド、および現行セグメントがルート・セグメントである。
- INSERT 基本コマンド、およびルート・セグメントが INSERT 基本コマンドで指定されているか、または「Insert : Segment Selection (挿入 : セグメント選択)」パネルで選択されている。
- ルート・セグメントに対する I、R、または RA 行コマンド。

このパネルを使用すると、以下の作業を行うことができます。

- ルート・セグメントを挿入する (REPEAT または INSERT 基本コマンド、あるいは I または R 行コマンドによって呼び出された場合)。
- ルート・セグメントを挿入してから、この新しく出現した現行セグメントのすべての従属セグメントを複写する (REPEAT ALL 基本コマンドによって呼び出された場合)。
- ルート・セグメントを挿入してから、この新しい出現のもとで、行コマンドが出されたセグメントのすべての従属セグメントを複写する (RA 行コマンドによって呼び出された場合)。

パネルとフィールドの定義

図 70.

Process		Options		Help	
FM/IMS		Insert Root Segment			
Database	DJ1E	Segment	SHIRE	Insert Format SNGL	

Data				Top Field is 1 of 11	
Ref	Field	Typ	Start	Len	Data
1	1 SHIRE-TOWN	AN	1	53	
2	2 SHIRE-KEY	AN	1	20	K
3	3 SHIRE-NAME	AN	1	20	K
4	2 SHIRE-TYPE	AN	21	1	
5	2 SHIRE-CODE1	ZD	22	3	0
6	2 SHIRE-CODE2	ZD	25	5	0
7	2 SHIRE-YEAR	BI	30	2	0
8	2 SHIRE-BRICK	PD	32	8	0
9	2 SHIRE-WOODEN	PD	40	8	0
10	2 SHIRE-SCHOOL	PD	48	4	0
11	2 SHIRE-GOLF	BI	52	2	0
**** End of record ****					
Command ==>				Scroll PAGE	
F1=Help	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F6=RChange	F7=Up
F8=Down	F9=Swap	F12=Cancel			

このパネルには、ヘッダー域とデータ域があります。

Header area (ヘッダー域)

ヘッダー域には、以下の詳細が表示されます。

データベース

編集するデータベースの名前。

Segment (セグメント)

ルート・セグメントの名前とその後にセグメント記述 (ある場合)。

Insert format (挿入形式)

データ域の表示形式。

FM/IMS は、CHAR、HEX、LHEX、SNGL の 4 つの表示形式をサポートします。SNGL は、ビューが使用されているときにのみサポートされます。

パネルが最初に表示されるときに使用される挿入形式は、「IMS Data (IMS データ)」パネルの現行の表示形式によって異なります。

現行の表示形式が CHAR、HEX、LHEX、または SNGL の場合、挿入形式は現行の表示形式に設定されます。

現行の表示形式が TABL の場合、挿入形式は SNGL に設定されます。

データ域の表示形式を変更するには、このフィールドを更新します。

Data area (データ域)

データ域では、挿入するルート・セグメントのキーとデータを指定します。

これは、スクロール可能域です。データ域をスクロールするには、UP (F7) または DOWN (F8) コマンドを出します。

この領域に最初に表示されるキーとデータは、このパネルを呼び出す際に使用したコマンドによって異なります。

- REPEAT 基本コマンドを使用した場合は、現行セグメントのキーとデータが表示されます。
- R または RA 行コマンドを使用した場合は、行コマンドを入力した相手のセグメントのキーとデータが表示されます。
- INSERT 基本コマンドまたは I 行コマンドを使用した場合は、ビューを使用しているかどうかによって、初期表示は以下のように異なります。
 - ビューを使用しない場合は、キーとデータはスペースに初期化されます。
 - ビューを使用する場合は、FM/IMS は、領域を初期化するときのセグメント・レイアウトを使用します。レイアウト中の数値フィールドはゼロに、非数値フィールドはスペースに設定されます。

I 行コマンドの場合は、FM/IMS は、行コマンドを入力した相手のセグメント・オカレンスのレイアウトを使用します。

INSERT 基本コマンドの場合は、FM/IMS は、選択されたセグメント・タイプのレイアウトを使用します。あるいは、セグメント・タイプに複数のレイアウトがある場合は、選択されたセグメント・レイアウトを使用します。

挿入するルート・セグメントのキーとデータを指定した場合は、「Exit」機能キー (F3) を押して、セグメントを挿入し、「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻ります。

セグメントを挿入せずに「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻るには、「Cancel」機能キー (F12) を押します。

親パネル

- [「IMS data \(IMS データ\)」パネル ページ 334](#)

子パネル

- なし。

「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネル

編集セッションでは、「IMS Data (IMS データ)」パネルで以下のいずれかのコマンドを入力すると、FM/IMS は「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルを表示します。

- REPEAT 基本コマンド、および現行セグメントがルート・セグメントでない。
- INSERT 基本コマンド、およびルート以外のセグメントが INSERT 基本コマンドで指定されているか、または「Insert : Segment Selection (挿入 : セグメント選択)」パネルで選択されている。
- ルート以外のセグメントに対する I、R、または RA 行コマンド。

このパネルを使用すると、以下の作業を行うことができます。

- ルート以外のセグメントを挿入する (REPEAT または INSERT 基本コマンド、あるいは I または R 行コマンドによって呼び出された場合)。
- ルート以外のセグメントを挿入してから、この新しく出現した現行セグメントのすべての従属セグメントを複写する (REPEAT ALL 基本コマンドによって呼び出された場合)。
- ルート以外のセグメントを挿入してから、この新しいオカレンスの下の、行コマンドが出されたセグメントのすべての従属セグメントを複写する (RA 行コマンドによって呼び出された場合)。

パネルとフィールドの定義

図 71. 「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Insert Segment
Database DJ2E	Segment LETRBOX	Insert Format SNGL

Parent Keys		Line 1 of 2
Lvl Segment	Key field name	Type Key value
1 SUBURB		
#2	2 SUBURB-NAME	AN EAST PERTH

Data		Top Field is 1 of 4
Ref Field	Typ Len	Data
1 1 LETTER-BOX	AN 34	
2 2 LETTER-BOX-KEY	AN 4 K	
3 3 POST-CODE	AN 4 K	_____
4 2 LOCATION	AN 30	_____
*** End of record ***		

Command ==>		Scroll CSR
F1=HELP	F3=Exit	F4=CRetriev F5=RFind F6=RChange F7=Up
F8=Down	F9=Swap	F10=Left F11=Right F12=Cancel

このパネルには、ヘッダー域、親キー域、およびデータ域の3つの領域があります。

Header area (ヘッダー域)

ヘッダー域には、以下の詳細が表示されます。

Database (データベース)

編集するデータベースの名前。

Segment (セグメント)

挿入するセグメント・タイプの名前とその後にセグメント記述 (ある場合)。このフィールドの設定は、このパネルを呼び出すコマンドによって異なります。

Insert format (挿入形式)

親キー域とデータ域の表示形式。

FM/IMS は、CHAR、HEX、LHEX、SNGL の 4 つの表示形式をサポートします。SNGL は、ビューが使用されているときにのみサポートされます。

パネルが最初に表示されるときに使用される挿入形式は、「IMS Data (IMS データ)」パネルの現在の表示形式によって異なります。

現在の表示形式が CHAR、HEX、LHEX、または SNGL の場合、挿入形式は現在の表示形式に設定されます。

現在の表示形式が TABL の場合、挿入形式は SNGL に設定されます。

親キー域とデータ域の表示形式を変更するには、このフィールドを更新します。



注: 親キー域の LHEX 表示形式は、現在、サポートされていません。「Insert Format (挿入形式)」で LHEX を指定すると、FM/IMS は親キー域に HEX 表示形式で表示します。

Parent Keys area (親キー域)

親キー域では、挿入するセグメントの親セグメントを指定します。この領域の表示形式は、「Insert Format (挿入形式)」フィールドに指定された値によって異なります。

これは、スクロール可能域です。スクロールするには、領域のデータ部分 (列見出しの下) にカーソルを合わせ、UP (F7) または DOWN (F8) コマンドを出します。

挿入するセグメントへのパス上のそれぞれのセグメントごとに、以下の詳細が表示されます。

Lvl (レベル)

データベース内のセグメント・タイプの階層レベル。

Segment (セグメント)

セグメント・タイプの名前。

Key field name (キー・フィールド名)

SNGL 挿入形式を使用し、セグメント・タイプのキー・フィールドに一致するレイアウトがある場合は、キー・フィールドに一致するセグメント・レイアウトのフィールドの名前が表示されます。キー・フィールドがテンプレートのいくつかのフィールドに分割されている場合は、キー全体を形成するそれぞれのサブフィールドが表示されます。

SNGL 挿入形式を使用しない場合、または FM/IMS がキー・フィールドに一致するレイアウトを検出できない場合は、DBD で指定されたキー・フィールド名が表示されます。それぞれのキーは、キーに関連したフィールドを 1 つだけ持っています。

Type (タイプ)

フィールドのデータ・タイプ。表示されるデータ・タイプは、以下の通りです。

AN

英数字 (英字およびグループ項目を含む)

AX

long 型の 16 進で表示される英数字。

BI

2 進数

BT

ビット

DB

DBCS (PL/I)

FE

浮動小数点数 (外部)

FP

浮動小数点数 (内部)

G

DBCS (COBOL)

PD

パック 10 進数 (内部 10 進数)

VB

可変長ビット

VC

可変長文字

VD

可変長 DBCS (PL/I)

VG

可変長 DBCS (COBOL)

ZA

ゾーン英数字 (COBOL および PL/I 外部編集) ZE
定義に適合しない編集ピクチャー定義。

ZC

Z 文字

ZD

ゾーン 10 進数 (外部 10 進数)

ZE

ゾーン編集 (COBOL および PL/I 外部編集) は、ピクチャー編集文字 +- をサポートします。V 9

ZG

可変長 DBCS ヌル終了 (COBOL)

Z2

可変長 DBCS ヌル終了 (PL/I)

U

不定形式。挿入形式 SNGL を使用していない場合、あるいは、FM/IMS がセグメント・タイプのキー・フィールドに一致するレイアウトを検出できない場合は、データ・タイプは不定形式です。

以下のフィールドを使用して、データベース内でセグメントが挿入される位置を指定します。挿入するセグメントへのパス上のそれぞれのセグメント・タイプごとに、以下のように指定します。

Key value (キー値)

セグメントのキー値。セグメントにキーがない場合は、「No key (キーなし)」と表示され、そのフィールドは保護されます。

Occur (オカレンス)

セグメントのオカレンス番号。セグメント・タイプが非固有キーのとき、またはキーがない場合にのみ表示されます。

Data area (データ域)

データ域では、挿入するセグメントのキーとデータを指定します。この領域の表示形式は、「Insert Format (挿入形式)」フィールドに指定された値によって異なります。

これは、スクロール可能域です。データ域をスクロールするには、親キー域のデータ部分の外側にカーソルを合わせ、UP (F7) または DOWN (F8) コマンドを出します。

この領域に最初に表示されるキーとデータは、このパネルを呼び出す際に使用したコマンドによって異なります。

- REPEAT 基本コマンドを使用した場合は、現行セグメントのキーとデータが表示されます。
- R または RA 行コマンドを使用した場合は、行コマンドを入力した相手のセグメントのキーとデータが表示されます。

- INSERT 基本コマンドまたは I 行コマンドを使用した場合は、ビューを使用しているかどうかによって、初期表示は以下のように異なります。
 - ビューを使用しない場合は、キーとデータはスペースに初期化されます。
 - ビューを使用する場合は、FM/IMS は、領域を初期化するときのセグメント・レイアウトを使用します。レイアウト中の数値フィールドはゼロに、非数値フィールドはスペースに設定されます。

I 行コマンドの場合は、FM/IMS は、行コマンドを入力した相手のセグメント・オカレンスのレイアウトを使用します。

INSERT 基本コマンドの場合は、FM/IMS は、選択されたセグメント・タイプのレイアウトを使用します。あるいは、セグメント・タイプに複数のレイアウトがある場合は、選択されたセグメント・レイアウトを使用します。

挿入するセグメントの親セグメントを親キー域に指定し、セグメントのキーおよびデータをデータ域に指定して、「Exit」機能キー (F3) を押すと、セグメントが挿入され、「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻ります。

セグメントを挿入せずに「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻るには、「Cancel」機能キー (F12) を押します。

親パネル

- [「IMS data \(IMS データ\)」パネル ページ 334](#)

子パネル

- なし。

「Insert Segment Layout Selection (挿入: セグメント・レイアウト選択)」パネル

編集セッションでは、複数のレイアウトを持つセグメント・タイプに対して、INSERT 基本コマンドを発行すると、FM/IMS は「Insert Segment Layout Selection (挿入: セグメント・レイアウト選択)」パネルを表示します。

このパネルを使用すると、挿入するセグメント・タイプのレイアウトを選択できます。

パネルとフィールドの定義

図 72. 「Insert Segment Layout Selection (挿入: セグメント・レイアウト選択)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Insert : Segment Layout Selection
Segment	SHIRE	
Cmd	Segment layout name	Length
	SHIRE	53
	SHIRE-TOWN	53
	SHIRE-CITY	53
	**** End of data ****	
Command ==> _____ Scroll CSR		

親パネル

- ・ [「IMS data \(IMS データ\)」パネル ページ 334](#)

子パネル

- ・ [「Insert Root Segment \(ルート・セグメントの挿入\)」パネル ページ 347](#)
- ・ [「Insert Segment \(セグメントの挿入\)」パネル ページ 349](#)

「Insert : Segment Selection (挿入: セグメント選択)」パネル

編集セッションにおいて、「IMS Data (IMS データ)」パネルで INSERT 基本コマンド (パラメーターなし) を入力すると、FM/IMS は「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルを表示します。

このパネルを使用すると、挿入するセグメント・タイプを選択できます。

パネルとフィールドの定義

図 73. 「Insert : Segment Selection (挿入 : セグメント選択)」パネル

Process	Options	Help			
FM/IMS		Insert : Segment Selection			
Cmd	Level	Segment Description			
—	1	SHIRE			
—	2	SHIRENP			
—	2	LINKSUB			
**** End of data ****					
Command ==>		Scroll PAGE			
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetrieve	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel			

親パネル

- [「IMS data \(IMS データ\)」パネル ページ 334](#)

子パネル

- [「Insert Root Segment \(ルート・セグメントの挿入\)」パネル ページ 347](#)
- [「Insert Segment \(セグメントの挿入\)」パネル ページ 349](#)
- [「Insert Segment Layout Selection \(挿入: セグメント・レイアウト選択\)」パネル ページ 354](#)

「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネル

「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネルは、選択された ISPF パラメーターを表示および変更するために使用します。

パネルとフィールドの定義

図 74. 「ISPF Settings (ISPF 設定)」 パネル

```

Log/List  Function keys  Colors  Environ  Workstation  Identifier  Help
-----
                                ISPF Settings
                                More:      +

Options                          Print Graphics
Enter "/" to select option       Family printer type 2
  _ Command line at bottom       Device name . . . .
  / Panel display CUA mode       Aspect ratio . . . 0
  _ Long message in pop-up
  _ Tab to action bar choices
  / Tab to point-and-shoot fields
  / Restore TEST/TRACE options   General
  _ Session Manager mode        Input field pad . . B
  / Jump from leader dots       Command delimiter . i
  _ Edit PRINTDS Command
  / Always show split line
  _ Enable EURO sign

Terminal Characteristics
Screen format  1  1. Data    2. Std    3. Max    4. Part

Terminal Type  3   1. 3277    2. 3277A  3. 3278    4. 3278A
                5. 3290A    6. 3278T  7. 3278CF  8. 3277KN
                9. 3278KN 10. 3278AR 11. 3278CY 12. 3278HN
                13. 3278HO 14. 3278IS 15. 3278L2 16. BE163
                17. BE190 18. 3278TH 19. 3278CU 20. DEU78
                21. DEU78A 22. DEU90A 23. SW116 24. SW131
                25. SW500

Command ==>

```

このフィールドについての詳細は、「ISPF User Guide Volume 1」を参照してください。

親パネル

- ・「Options (オプション)」プルダウン・メニュー。

子パネル

- ・なし。

「JCL Submission (JCL 実行依頼)」 パネル

これは、FM/IMS 機能によって生成される JCL を表示する、ISPF 編集セッションです。JCL を実行依頼する前に変更できません。

パネルとフィールドの定義

図 75. 「Load JCL Submission (ロード JCL 実行依頼)」 パネル

```

File Edit Edit Settings Menu Utilities Compilers Test Help
-----
EDIT          FMNUSER.SPFTEMP1.CNTL                      Columns 00001 00072
*****      ***** Top of Data *****
000001 //FMNUSER JOB (IMS,PE22),'FM/IMS SUBMITTED JOB',CLASS=A,
000002 //          MSGCLASS=X,MSGLEVEL=(1,1),NOTIFY=&SYSUID,REGION=0M
000003 //*
000004 //*          USED BY THE EXTRACT AND LOAD OPTION
000005 //*
000006 //SORTSTEP EXEC PGM=SORT
000007 //STEPLIB DD DSN=SYS1.SORTLIB,DISP=SHR
000008 //SYSOUT DD SYSOUT=*
000009 //SORTIN DD DSN=FMNUSER.EXTRACT.DJ2E,DISP=SHR
000010 //SORTOUT DD DSN=&&FMN1XTSD,
000011 //          LIKE=FMNUSER.EXTRACT.DJ2E,
000012 //          UNIT=SYSALLDA,
000013 //          DISP=(NEW,PASS)
000014 //SORTWK01 DD UNIT=SYSALLDA,
000015 //          SPACE=(CYL,(10,10)),
000016 //          DISP=(NEW,DELETE,DELETE)
000017 //SORTWK02 DD UNIT=SYSALLDA,

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F5=Rfind      F6=Rchange    Scroll PAGE
F8=Down      F9=Swap       F10=Left     F11=Right     F12=Cancel    F7=Up
    
```

子パネル

- ・なし。

「Key Specification (キー指定)」 パネル

「Key Specification (キー指定)」 パネルは、編集を開始するデータベース内の位置を指定するための「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルの代替パネルです。

このパネルは、以下の場合に表示されます。

- ・「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで、セグメント・タイプの「**Cmd**」フィールドに「**K**」を入力する。
- ・「IMS data (IMS データ)」パネルで、セグメント・オカレンスの「**Cmd**」フィールドに「**K**」を入力する。
- ・「IMS Data (IMS データ)」パネルで、KEY 基本コマンドを入力する。

このパネルを使用して、暗黙的または明示的に選択したセグメント・タイプのキーを指定します。

キー・フィールド値および関係演算子を入力して、データベースのブラウザまたは編集の開始点を指定します。

パネルとフィールドの定義

図 76. 「Key Specification (キー指定)」 パネル

Process	Options	Help			
FM/IMS Edit : Key Specification					
Subsystem IF52 Database DJ1E					
Segment LINKSUB					
Lvl	Segment	Key field name	Type	RO	Key value
1	SHIRE			=	
	#2	2 SHIRE-KEY	AN		
	#3	3 SHIRE-NAME	AN		BROOME
2	LINKSUB			=	
	#1	1 SHIRE-SUBURB	AN		
	#2	2 SHIRE-SUB-KEY	AN		
**** End of data ****					
Command ==>					Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel			

パネル見出し

Subsystem (サブシステム)

「Edit Entry (編集項目の入力)」または「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネルに指定されたサブシステム ID。

データベース

データベース用の DBDGEN の DBD ステートメントに指定された名前。

Segment (セグメント)

前のパネルから選択されたセグメントの名前、および使用可能であればセグメント記述。

Data area (データ域)

Lvl (レベル)

データベース内のセグメント・タイプのレベル。

Segment (セグメント)

選択したセグメントまでのパス内のセグメントの名前。この列には、各セグメントのキー・フィールドの参照番号も含まれています。

Key field name (キー・フィールド名)

ビューを使用している場合のキー・フィールドの名前で、FM/IMS はレイアウトをこのキー・フィールドと突き合わせるすることができます。それ以外の場合には、データベース・フィールド名が表示されます。

Type (タイプ)

フィールドのデータ・タイプ。

AN

英数字

AX

long 型の 16 進で表示される英数字。

BI

2 進数

BT

ビット・ストリング 10 進数 (外部 10 進数)

FP

浮動小数点数 (内部または外部)

PD

パック 10 進数 (内部 10 進数)

VB

可変長 (VARYING) ビット・ストリング

VC

可変長 (VARYING) 文字ストリング

VG

可変長 (VARYING) グラフィック・ストリング

ZC

ヌル終了可変長 (VARYINGZ) 文字ストリング

ZD

ゾーン 10 進数 (外部 10 進数)

ZE

編集済みゾーン 10 進数

ZG

ヌル終了可変長 (VARYINGZ) グラフィック・ストリング

U

不定形式

ビューを使用していない場合、または FM/IMS がキー・フィールドへのレイアウトの付き合わせを行うことができない場合、フィールド・タイプは不定形式になります。

RO

関係演算子。考えられる値は以下のとおりです。

> または GT

より大きい

>=、=> または GE

以上

= または EQ

等しい。

< または LT

より小さい

<=、=< または LE

以下

<>=、=<> または NE

等しくない。

UQ

FM/IMS はこのレベルで非修飾 SSA を使用します (「**Key value (キー値)**」フィールドに値が入っていても、無視されます)。

Key value (キー値)

キー・フィールドの値を入力します。FM/IMS は、比較演算子とキー値によって形成された式と一致した最初のセグメントから表示を開始します。



注: このパネルで使用される関数は、Get Unique です。したがって、比較演算子「>」または「<」を使用して (P)HDAM データベースにアクセスしても、常に予期された結果になるとは限りません。

親パネル

- 「IMS data (IMS データ)」パネル ページ 334 で 「KEY」 コマンドが発行された場合:
 - 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネル ページ 258

子パネル

- 「IMS data (IMS データ)」パネル ページ 334

「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」

「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」パネルは、「Load (ロード)」ダイアログの最初のパネルです。これは、「Utility Menu (ユーティリティー・メニュー)」パネルでオプション 4 (「Load (ロード)」) を選択すると表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 77. 「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」

Process	Options	Help
FM/IMS	Load Entry Panel	
IMS:		
Subsystem name . . .	<u>IF52</u>	PSB name . . . <u>LA19D</u> (If static PSB)
Database name . . .	<u>DJ1E</u>	AGN name . . . _____ (If BMP)
Processing Options:		
PSB type	Region type	Fetch DB dsnames from (if DLI)
<u>1</u> 1. Dynamic	<u>1</u> 1. DLI	<u>1</u> 1. User profile
2. Static	2. BMP	2. DFSMDA members
Load type	Enter "/" to select option	
- 1. No replace	- Skip DB data set panel (if DLI)	
2. Replace	- Do not override insert rules	
3. Initial		
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
F4=CRetriev	F7=Backward	F8=Forward

IMS

Subsystem name (サブシステム名)

ロードするデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID。FM/IMS は、指定された名前のサブシステムを、FM/IMS インストール・オプション・モジュールから検索します。サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に、「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるサブシステムのリストから、サブシステムを選択することができます。

PSB name

「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」を選択した場合、ロードで使用する PSB の名前を指定します。指定する PSB は、ロードするすべてのデータベースの PCB を持っている必要があります。

FM/IMS は、IMS カタログまたは PSB ライブラリーのいずれかで、指定された名前の PSB を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した PSB ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの PSB ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの PSB ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの PSB ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「PSB Data set name (PSB データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した PSB ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する PSB ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 PSB ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった PSB を使用します。

PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力した場合に、「PSB Selection (PSB 選択)」パネルが表示されます。パネルに表示される PSB のリストから、PSB を選択することができます。



注: 「PSB type (PSB タイプ)」で「Dynamic (動的)」を選択した場合、このフィールドは無視されます。

Database name (データベース名)

ロードの基本データベースの名前。

FM/IMS は、IMS カタログまたは DBD ライブラリーのいずれかで、指定された名前の DBD を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した DBD ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの DBD ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの DBD ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの DBD ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「DBD Data set name (DBD データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した DBD ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する DBD ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 DBD ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった DBD を使用します。

以下は、「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Dynamic (動的)」を選択した場合に適用されます。

- データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合は、「Database Selection (データベース選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるデータベースのリストから、データベースを選択することができます。
- 選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - ロードの基本データベースの DBD。
 - ロードの基本データベースに論理的に関連している各データベースごとの DBD。

以下は、「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Static (静的)」を選択した場合に適用されます。

- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネルは、以下のいずれかが該当する場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。

「PCB Selection (PCB 選択)」パネルに表示されたデータベース PCB のリストから、PCB を選択することができます。

- サブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - PSB で指定されたそれぞれのデータベースごとの DBD
 - PSB で指定されたデータベースに論理的に関連しているそれぞれのデータベースごとの DBD

AGN name (AGN 名)

アプリケーション・グループ名 (AGN) は、IMS リソースのグループを示します。指定した名前は、「Region type (領域タイプ)」で「BMP」を選択した場合に、IMS 領域コントローラーに渡されます。

AGN を使用しないサブシステムを選択した場合、AGN 名は入力しないでください。

AGN

を使用するサブシステムを選択した場合、ロードに必要なアクセスを提供し、かつ、使用する権限のある AGN を指定します。(FM/IMS が開始する BMP 領域は、指定された AGN に関連した IMS リソースを使用する許可が与えられているだけです。)

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルは、以下の条件がすべて真の場合に表示されます。

- BMP の領域タイプが選択されている。
- 選択したサブシステムが AGN を使用している。
- 選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている。
- AGN 名が入力されていない。または、AGN 名パターンが入力されており、FM/IMS インストール・オプション・モジュールに、パターンと一致する選択したサブシステム用の AGN が存在する。

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルに表示される AGN のリストから、AGN を選択できます。選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされていない場合は、AGN のフルネームを指定する必要があります。



注: 「Region type

(領域タイプ)」で「DLI」を選択すると、このフィールドは無視されます。

PSB type (PSB タイプ)

ロードでデータベースにアクセスするために使用する PSB のタイプ。以下のタイプがあります。

1.Dynamic (動的)

ロードでは、バッチ・ジョブの開始時に生成する一時的な PSB を使用します。

2.Static (静的)

ロードでは、「PSB name (PSB 名)」フィールドに指定している既存の PSB を使用します。

Region type (領域タイプ)

ロードを実行する領域のタイプ。以下のタイプがあります。

1.DLI

DL/I

バッチ処理領域の場合。データベースがオフラインであるか、またはデータ共有サポートがある場合に、DL/I バッチ処理領域を使用することができます。

2.BMP

BMP 領域の場合。データベースがオンラインの場合に、BMP 領域を使用することができます。

Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元) (DLI の場合)

「Region type (領域タイプ)」に「DLI」を選択し、HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみではない IMS サブシステムを選択した場合、以下のようになります。

1. ユーザー・プロフィール

ロードでは、ユーザー・プロフィールに名前が保管されているデータベース・データ・セットを使用します。

2. DFSMDA メンバー

ロードでは、DFSMDA 動的割り振りメンバーに指定されているデータベース・データ・セットを使用します。



注: 以下のいずれかを指定した場合、このフィールドは無視されます。

- 「**Region type (領域タイプ)**」で「BMP」。
- HALDB データベース。
- FM/IMS インストール・オプション・モジュールでのみ、動的割り振りとして定義されている IMS サブシステム。

Load type (ロード・タイプ)

1. No replace (置換なし)

データベースの既存のセグメントは、ロードでは置き換えられません。このオプションを選択すると、ロードはセグメントの挿入を試行するのみです。挿入呼び出しが II 状況コードを受け取ると、ロードはデータベースにある既存のセグメントをロード・セグメントで置き換えません。

2. Replace (置換)

ロードでは、データベースの既存のセグメントが置き換えられます。このオプションを選択すると、ロードはオプション 1 が選択されたときと同じように、セグメントの挿入を試行します。ただし、挿入呼び出しが II 状況コードを受け取ると、ロードはデータベースにある既存のセグメントをロード・セグメントで置き換えます。



注: セグメントが非固有キーの場合、またはキーを持たない場合、データベースにある既存のセグメントは置き換えられません。ロード・セグメントは、データベース内に同じキーを持つ既存のセグメントがある場合でも、挿入されます。

3. Initial (初期)

ロード PSB (PROCOPT=L) を使用して、セグメントをデータベースにロードします。このオプションは、データベースの初期ロードで使用します。このオプションを選択できるのは、「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Dynamic (動的)」を選択し、「**Region type (領域タイプ)**」で「DLI」を選択した場合のみです。

Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ) (DLI の場合)

FM/IMS が「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルまたは「Database Data Set Display

(データベース・データ・セット表示) パネルを表示しないようにする場合は、このオプションを選択します。

このオプションを選択せず、「**Region type (領域タイプ)**」で「DLI」を選択した場合、「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」または「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルが表示されます。



注: 「**Region type (領域タイプ)**」で「BMP」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Do not override insert rules (挿入規則をオーバーライドしない)

このオプションは、ロードするセグメントの一部に FIRST または HERE の挿入規則があり、これらの挿入規則をロードでオーバーライドしたくない場合に使用します。このオプションを選択した場合、キーのないセグメント、または非固有キーを持つセグメントは、セグメント・タイプの挿入規則に従って挿入されます。

このオプションを選択しない場合、キーのないセグメント、または非固有キーを持つセグメントは、セグメント・タイプの挿入規則とは無関係に、最終オカレンスとして挿入されます。



注: 抽出 (IXB) およびロード (ILB)

を使用して、あるデータベースからデータを抽出して別のデータベースにロードし、ロードされたデータベース内の兄弟セグメントを抽出されたデータベースと同じ順序にしたい場合は、このオプションを選択しないでください。

親パネル

- 「Utility Menu (ユーティリティ・メニュー)」パネル ページ 457

子パネル

- 「AGN Selection (AGN 選択)」パネル ページ 206
- 「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネル ページ 252
- 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネル ページ 254
- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネル ページ 370
- 「PSB Selection (PSB 選択)」パネル ページ 389
- 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル ページ 432
- 「Database Selection (データベース選択)」パネル ページ 261
- 「Initial Load Options (初期ロード・オプション)」パネル ページ 342
- 「Load Options (ロード・オプション)」パネル ページ 367

「Load Options (ロード・オプション)」パネル

パネルとフィールドの定義

図 78. 「Load Options (ロード・オプション)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Load Options
Load From:		
Data set name . . .	_____	
Volume serial . . .	_____	(If not cataloged)
Device type	_____	(Generic unit or device address)
Command ==> _____		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetrieve	F7=Backward
		F8=Forward

Load from (ロード元)

IMS データベースにロードするデータが含まれるデータ・セットが識別されます。

データ・セット名

データベースにロードするデータを含む順次データ・セットの名前。

Volume serial (ボリューム通し番号)

ロード元データ・セットがカタログされていない場合、それが存在するボリューム。

Device type (装置タイプ)

ロード元データ・セットを含むボリュームの装置タイプ。

親パネル

- [「Database Data Set Display \(データベース・データ・セット表示\)」 パネル ページ 252](#)
- [「Database Data Set Specification \(データベース・データ・セット指定\)」 パネル ページ 254](#)
- [「Load Entry Panel \(ロード項目の入力パネル\)」 ページ 361](#)

子パネル

- [「JCL Submission \(JCL 実行依頼\)」 パネル ページ 357](#)

関連トピックおよび例

- [データのロード ページ 183](#)

「Logical Relationship Information (論理関係情報)」パネル

RELATED コマンドは、現行データベースに対して定義された論理関係についての情報を提供します。

パネルとフィールドの定義

図 79. 「Logical Relationship Information (論理関係情報)」パネル

Process	Options	Help					
FM/IMS		Logical Relationship Information					
Database	Segment	Related Database	Related Segment	Key Start	Length	I D R Rules	Relationship
DJ1E	SHIRE			1	20	LLL, LAST	
	SHIRENP					LLL, LAST	
DJ2E	LINKSUB	DJ2E	INSHIRE	1	18		VIRT LOG CHILD
	SUBURB			1	18	LLL, LAST	
	LINKSTR	DJ3E	INSUB	1	28		VIRT LOG CHILD
	NSTREET			1	30	LLL, LAST	
	INSHIRE	DJ1E	LINKSUB	1	20	LLL, LAST	REAL LOG CHILD
	LETRBOX			1	4	LLL, LAST	
Command ==>						Scroll CSR	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F7=Backward	F8=Forward		
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel					

データベース

現行データベースの名前、および現行データベースが物理データベースの場合は論理的に関連しているデータベースの名前です。

Segment (セグメント)

リストされたデータベースのセグメントの名前。

Related Database (関連データベース)

関連セグメントを含んでいるデータベースの名前 (下記参照)。

Related Segment (関連セグメント)

物理データベースの場合、セグメントの論理親の名前。セグメントが論理子ではない場合、このフィールドは空白です。

論理データベースの場合は、論理セグメントを構成する複数の物理セグメントの名前。連結セグメントの場合、2つのセグメント名がリストされます。セグメントの後に現れる 'K' は、SEGM ステートメントの SOURCE= パラメーターで KEY オペランドが指定されたことを示しています。'K' がいない場合には、DATA オペランドが指定されたことを示しています。

Key Start (キー開始)

セグメントのキー・フィールドの開始位置。

Key Length (キー長)

セグメントのキー・フィールドの長さ。

IDR Rules (IDR 規則)

セグメントの挿入、削除、および置き換えの規則。FIRST、HERE、および LAST は、挿入位置の規則を示しています。

Relationship (関係)

セグメントが実論理子であるか仮想論理子であるか。

REAL LOG CHILD

実論理子セグメント

VIRT LOG CHILD

仮想論理子セグメント

親パネル

- [RELATED 基本コマンド ページ 522](#) を参照してください。

子パネル

- なし。

「PCB Selection (PCB 選択)」パネル

「PCB Selection (PCB 選択)」パネルは、機能の入力パネルで以下を指定した場合に表示されます。

- 「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Static (静的)」。
- 以下のいずれかの場合:
 - データベース名を指定せず、PSB に複数のデータベース PCB が存在する。
 - データベース名パターンを指定し、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が 1 つ以上存在する。
 - データベース名を指定し、PSB に指定した名前のデータベースの PCB が複数存在する。

データベース名を指定しなかった場合、指定された PSB 内のすべてのデータベース PCB がパネルに表示されます。データベース名パターンを指定した場合、そのパターンに名前が一致するデータベースのすべての PCB がパネルに表示されません。データベース名を指定した場合、指定した名前のデータベースのすべての PCB がパネルに表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 80. 編集: PCB Selection (Static PSB) (編集: PCB 選択 (静的 PSB))」パネル

Process	Options	Help								
FM/IMS		Edit : PCB Selection (Static PSB)								
PSB name PUPA										
Segments										
Cmd	PCB#	PCB name	DB name	in PCB	in DBD	DB type	Processing OPTS	SEQ	Usability note	
S	1	DBPCB01	DJ1E	3	3	P	A			
	2	DBPCB02	DJ3E	2	2	P	A			
	3	DBPCB03	DJ2E	5	5	P	A			
**** End of data ****										
Command ==>		F2=Split		F3=Exit		F4=CRetriev		F7=Backward		Scroll CSR
F1=Help		F10=Actions		F12=Cancel		F8=Forward				
F9=Swap										

パネルには、指定した PSB の名前、および各 PCB ごとに以下の詳細が表示されます。

PCB#

PSB 内の PCB の位置を示す序数。PSB 内の 1 番目のデータベース PCB を表す「PCB#」は 1、2 番目のデータベース PCB を表す「PCB#」は 2、などとなります。

PCB name

PSBGEN ユーティリティー制御ステートメントに指定された PCB の名前。

DB name (DB 名)

PCB がアクセス権限を付与するデータベースの名前。

Segments in PCB (PCB 内のセグメント)

PCB が依存する DBD 内のセグメント・タイプの数。

Segments in DBD (DBD 内のセグメント)

DBD 内のセグメント・タイプの合計数。

DB type (DB タイプ)

物理データベースの場合は P、論理データベースの場合は L を指定します。

Processing OPTS (処理 OPTS)

PSBGEN PCB ステートメントで指定された処理オプション。

Processing SEQ (処理 SEQ)

PCB が使用する処理シーケンス (PCB が 2 次索引を使用しない場合は ブランク)。

Usability note (使用可能度の注記)

関数が PCB を使用できない場合、このフィールドに使用できない理由が示されます。関数が PCB を使用できる場合、このフィールドはブランクのままです。

以下の理由が示されます。

Invalid PROCPT (PROCPT が無効)

PCB の処理オプションで関数を実行できません。

LIST=NO PCB

PCB で LIST=NO が指定されています。FM/IMS は、LIST=NO が指定された PCB をサポートしません。

Read-only PCB (読み取り専用 PCB)

PCB が読み取り専用です。PCB が読み取り専用の場合、関数を実行できません。

Non-insert PCB (挿入不可の PCB)

PCB でセグメントの挿入が許可されていません。PCB でセグメントの挿入が許可されない場合、関数を実行できません。

Non-replace PCB (置換不可の PCB)

PCB でセグメントの置換が許可されていません。PCB でセグメントの置換が許可されない場合、関数を実行できません。

No index edit (索引の編集不可)

PCB は索引データベース用です。索引データベースの編集はサポートされていません。

No HSAM edit (HSAM の編集不可)

PCB は HSAM データベース用です。HSAM データベースの編集はサポートされていません。

No SHSAM edit (SHSAM の編集不可)

PCB は SHSAM データベース用です。SHSAM データベースの編集はサポートされていません。

No trm MSDB edit (端末関連 MSDB の編集不可)

PCB は端末関連 MSDB 用です。端末関連 MSDB の編集はサポートされていません。

No logical load (論理データベースのロード不可)

PCB は論理データベース用です。論理データベースのロードはサポートされていません。

No index load (索引データベースのロード不可)

PCB は索引データベース用です。索引データベースのロードはサポートされていません。

No alt seq load (代替処理シーケンスのロード不可)

PCB は代替処理シーケンスを指定しています。代替処理シーケンスを使用するロードはサポートされていません。

PCB を選択するには、**【Cmd】** フィールドに「s」を入力し、Enter キーを押します。

関数が PCB を使用できない場合、**【Cmd】** フィールドは保護されます。

親パネル

- 「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウザ項目の入力)」 パネル ページ 208
- 「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」 パネル ページ 215
- 「Browse Entry (ブラウザ項目の入力)」 パネル ページ 229 (静的 PSB)
- 「Edit Entry (編集項目の入力)」 パネル ページ 286 (静的 PSB)
- 「Extract Entry (抽出項目の入力)」 パネル ページ 297
- 「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」 ページ 361
- 「Print Entry (印刷項目の入力)」 パネル ページ 379

子パネル

- 「Batch Browse Options (バッチ・ブラウザ・オプション)」 パネル ページ 215
- 「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」 パネル ページ 215
- 「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」 パネル ページ 252
- 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」 パネル ページ 254
- 「Database Positioning (データベース位置決め)」 パネル ページ 258
- 「Load Options (ロード・オプション)」 パネル ページ 367

Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)

FM/IMS のメニューとパネルは ISPF と同じように動作します。ISPF の場合とまったく同様に、パネルを介してナビゲートします。

「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」は、FM/IMS に入ったときに表示される最初の画面です。この画面を終了するには、**【X】** を選択します (eXit の場合)。

【=】 (等号記号) を使用すると、FM/IMS 内のどこにいても、あたかも「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」にいるように、メニュー選択が解釈されます。したがって、「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネル (オプション 3.6) にいるときにコマンド行で **【=0.5】** を入力すると、FM/IMS には「Editor Options (エディター・オプション)」パネルが表示されます。また、データ・セット (オプション 1) をブラウザしているときに、**【=0.5】** を入力すると、FM/IMS には、引き続き「Editor Options (エディター・オプション)」パネルが表示されます。特に、**【=X】** を入力することによって、FM/IMS 内のどこからでも FM/IMS を終了することができます。

パネルとフィールドの定義

図 81. Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)

① Process Options Help		
②	FM/IMS	③
	Primary Option Menu	
0	Settings	Set processing options
1	Browse	Browse data
2	Edit	Edit data
3	Utilities	Perform utility functions
4	Template	Template/view/criteria set utilities
X	Exit	Terminate FM/IMS
		User ID . . : FMUSER
		System ID : FMD2
		Appl ID . . : FMN1
		Version . . : 15.1.5
		Terminal. . : 3278
		Screen. . . : 1
		Date. . . . : 2018/10/14
		Time. . . . : 09:29
Command ==>		
④	F1=Help	F2=Split
	F9=Swap	F10=Actions
		F3=Exit
		F12=Cancel
		F4=CRetriev
		F7=Backward
		F8=Forward

① アクション・バー

アクション・バーには、多くのプルダウン・メニューがあります。これらのメニューは、FM/IMS のどこでも使用できます。詳細については、[メニュー・バーのプルダウン・メニュー ページ 374](#) を参照してください。

② 基本オプション

FM/IMS 内で使用可能な基本オプションをリストします。オプションを選択すると、関連付けられた機能の入力パネルまたはメニューが表示されます。

③ 状況域

セッション情報を表示します。

④ ファンクション・キー

現行パネルでアクティブな機能キーをリストします。

メニュー・バーのプルダウン・メニュー

アクション・バーには、多くのプルダウン・メニューがあります。これらのメニューは、FM/IMS のどこでも使用できません。

Process (処理)

「Process

(処理)」プルダウン・メニューは、現在のパネルで使用可能なプロセスをリストします。これらのオプションは、表示されているパネルによって異なります。

```

Process  Options  Help
-----
1. Exit FM/IMS      Primary Option Menu
0 Settings          Set processing options
:

```

Options (オプション)

「Options (オプション)」プルダウン・メニューは、「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネルへのアクセスを用意するとともに、「Settings (設定)」メニューから使用可能な選択項目をリストします。

「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネルについての詳細は、「*ISPF ユーザーズ・ガイド 第 1 巻*」を参照してください。

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS
0 Setti
1 Brows
2 Edit
3 Utili
4 Templ
X Exit

  1. Print settings
  2. System settings
  3. Job card specifications
  4. Compiler language selection
  5. COBOL compiler specifications
  6. HLASM compiler specifications
  7. PL/I compiler specifications
  8. Editor options
  9. IMS subsystem settings
 10. Temporary Data Set Allocations
 11. Output Data Set Allocations
 12. Trace options
 13. ISPF settings

ies
User ID . : JHELVON
System ID : FMD2
Appl ID . : FMN1
Version . : 15.1.5
Terminal. : 3278
Screen. . : 1
Date. . . : 2013/10/14
Time. . . : 09:35

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit      F4=CRetriev  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions F12=Cancel

```

Help (ヘルプ)

「Help (ヘルプ)」プルダウン・メニューでは、チュートリアル用ヘルプ・システムに入るためのさまざまな方法をリストしたり、FM/IMS の詳細情報にアクセスしたりできます。

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS
0 Settings  S
1 Browse   B
2 Edit     E
3 Utilities P
4 Templates T
X Exit     T

  1. Help for help...
  2. Extended help...
  3. Keys help...
  4. Help index...
  5. Tutorial...
  6. About...
  7. News about FM/IMS...

ies
User ID . : FMNUSER
System ID : FMD2
Appl ID . : FMN1
Version . : 15.1.5
Terminal. : 3278
Screen. . : 1
Date. . . : 2018/10/14
Time. . . : 11:55

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit      F4=CRetriev  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions F12=Cancel

```

1.Help for help (ヘルプのヘルプ)

チュートリアル用ヘルプ・システムのヘルプ・パネルを表示します。

2.Extended help (全般ヘルプ)

現行の FM/IMS パネルに関連するチュートリアル用ヘルプ・パネルを表示します (FM/IMS パネルから F1 を押すのと同じ)。「Primary Options menu (基本オプション・メニュー)」上では、これは、「Tutorial - Table of Contents (チュートリアル - 目次)」パネルになります。

3.Keys help (キーのヘルプ)

現行の FM/IMS パネル上でアクティブである機能キーについてのヘルプを表示します。

4.フィールドヘルプ

フィールド・ヘルプを表示します。

5.チュートリアル

「Tutorial - Table of Contents (チュートリアル - 目次)」パネルを表示します。

6.About (バージョン情報)

FM/IMS バージョンおよびリリース情報をポップアップ・ウィンドウに表示します。

7.FM/IMS に関するニュース

現在の FM/IMS のリリースに関する一般情報を表示します。

親パネル

ISPF 基本オプション・メニュー。z/OS ISPF User's Guide Vol 1 を参照してください。

子パネル

- [「Browse Entry \(ブラウズ項目の入力\)」パネル ページ 229](#)
- [「Edit Entry \(編集項目の入力\)」パネル ページ 286](#)
- [「Utility Menu \(ユーティリティ・メニュー\)」パネル ページ 457](#)
- [「Settings Menu \(設定メニュー\)」パネル ページ 428](#)
- [「Template/View/Criteria Set Menu \(テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー\)」パネル ページ 456](#)

「Print Audit Trail (監査証跡の印刷)」パネル

「Print Audit Trail (監査証跡の印刷)」パネルは、「Utility Menu (ユーティリティ・メニュー)」でオプション 8 (「Audit trail (監査証跡)」) を選択すると表示されます。

このパネルは、監査証跡報告書の作成、または監査証跡報告書を作成するジョブの JCL の生成に使用されます。

パネルとフィールドの定義

図 82. 「Print Audit Trail (監査証跡の印刷)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Print Audit Trail
Audit Trail:		
Data set name . . . 'FMUSER.IMSAUDIT.D020927.T130548'		
Description 'EDIT THE SUBURB DATABASE'		
Processing Options:		
Enter "/" to select option		
/	Formatted print	Formatted display options
	Print only changed fields	2 1. Hex Format
	Delete data set after printing	2 2. Non-display Hex
/	Browse report	- Highlight changes
	Batch execution	- Show key fields
		- Show committed updates only
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
		F4=CRetrieiv F7=Backward F8=Forward

Audit Trail (監査証跡)

データ・セット名

これは、報告する監査証跡を含むデータ・セットの名前です。このデータ・セットは、File Manager/IMS 機能によって作成されたか、SMF ログ・データ・セットから FM/IMS 監査ログ・レコードを抽出するジョブを実行することによってユーザー自身で作成する必要がある場合があります。これを行うのに役立つように、サンプル・ジョブ FMNSMFX が用意されています。詳しくは、「カスタマイズ・ガイド」を参照してください。

Description (説明)

監査証跡報告書の始めに表示される監査証跡の記述。この記述に組み込みスペースを入れる場合は、引用符で囲む必要があります。

Processing Options (処理オプション)

[/] を入力してオプションを選択します。

Formatted print (定様式印刷)

このオプションを選択するときに、監査証跡データ・セットにテンプレート・レコードが含まれる場合、報告書に印刷される IMS セグメント・データは、テンプレートにしたがって形式設定されます。

このオプションを選択しないか、監査ログ・データ・セットにテンプレート・レコードが含まれない場合、報告書に印刷される IMS セグメント・データは形式設定されません。

Print only Changed Fields (変更されたフィールドのみ印刷)

このオプションおよび「Formatted print (定様式印刷)」オプションを選択した場合、更新される IMS

セグメントについて、変更されたフィールドのみが印刷されます。このオプションを選択しない場合、変更されたかどうかに関係なく、すべてのフィールドの変更前イメージと変更後イメージが印刷されます。



注: FM/IMS は、常に、挿入されたセグメントと削除されたセグメントのすべてのフィールドを印刷します。

Delete data set after Printing (印刷後にデータ・セットを削除)

報告書が作成された後に、監査証跡データ・セットを削除します。

Browse report (報告書のブラウズ)

フォアグラウンド実行の場合のみ、監査報告書が作成された後に自動的に表示します。

Batch execution (バッチ実行)

監査証跡報告書を作成するジョブの JCL を生成します。

Hex Format(16 進形式)

標準フィールド表示の下に UPDOWN 16 進数表示を生成します。

Non-display Hex (非表示 16 進数)

非表示文字 \ を含むフィールドの場合にのみ、標準フィールド表示の下に UPDOWN 16 進数表示を生成します。

Highlight changes (変更の強調表示)

変更したフィールドを強調表示します。フィールドが変更されたことを示すために、変更前データの左側にアスタリスクが表示されます。

Show key fields (キー・フィールドの表示)

「Print only changed fields (変更されたフィールドのみ印刷)」を選択した場合でも、キー・フィールドが表示されます。キー・フィールド名の左側に「K」が表示されます。

Show committed updates only (コミットされた更新のみの表示)

コミットされた更新のみを報告する場合は、このオプションを選択します。このオプションが選択されない場合、監査ログ内のすべての監査イベントが報告されます。更新機能について、チェックポイント、ロールバック、およびコミットされたデータベース更新とコミットされていないデータベース更新の両方 (挿入、削除、置換) が同様に報告されます。このオプションが選択される場合、FM/IMS は、コミットされたデータベース更新 (挿入、削除、および置換) のみを報告します。

親パネル

- [「Utility Menu \(ユーティリティー・メニュー\)」パネル ページ 457](#)

子パネル

- [JCL Submission (JCL 実行依頼)] パネル ページ 357

「Print Entry (印刷項目の入力)」 パネル

「Print Entry (印刷項目の入力)」 パネルは、「Print (印刷)」 ダイアログの最初のパネルです。これは、「Utility Menu (ユーティリティー・メニュー)」 パネルでオプション 5 (「Print (印刷)」) を選択すると表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 83. 「Print Entry (印刷項目の入力)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Print Entry Panel	
IMS:		
Subsystem name . . .	IF52	PSB name . . . LA19D (If static PSB)
Database name . . .	DJ1E	AGN name . . . (If BMP)
View:		
Data set name . . .	_____	
Member	_____	
Processing Options:		
PSB type	Region type	Fetch DB dsnames from (if DLI)
<u>1</u> 1. Dynamic	<u>1</u> 1. DLI	<u>1</u> 1. User profile
2. Static	2. BMP	2. DFSMDA members
View usage	Print format	Enter "/" to select option
<u>3</u> 1. New	- 1. CHAR	/ Skip DB data set panel (if DLI)
2. Existing	2. HEX	Edit view
3. None	3. SNGL	/ Use key values
	4. TABL	
Command ===>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetrieval	F7=Backward
		F8=Forward

IMS

Subsystem name (サブシステム名)

印刷するデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID。FM/IMS は、指定された名前前のサブシステムを、FM/IMS インストール・オプション・モジュールから検索します。サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に、「Subsystem Selection (サブシステム選択)」 パネルが表示されます。パネルに表示されるサブシステムのリストから、サブシステムを選択することができます。

PSB name

「PSB type (PSB タイプ)」 で「Static (静的)」 を選択した場合、印刷で使用する PSB の名前を指定します。指定する PSB は、印刷するデータベースの PCB を持っている必要があります。

FM/IMS は、IMS カタログまたは PSB ライブラリーのいずれかで、指定された名前前の PSB を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した PSB ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの PSB ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの PSB ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの PSB ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「PSB Data set name (PSB データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した PSB ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する PSB ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 PSB ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった PSB を使用します。

PSB 名を入力しなかった場合、または PSB 名パターンを入力した場合に、「PSB Selection (PSB 選択)」パネルが表示されます。パネルに表示される PSB のリストから、PSB を選択することができます。



注: 「PSB type (PSB タイプ)」で「Dynamic (動的)」を選択した場合、このフィールドは無視されます。

Database name (データベース名)

印刷するデータベースの名前。

FM/IMS は、IMS カタログまたは DBD ライブラリーのいずれかで、指定された名前の DBD を検索します。選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかに応じて、これらの 2 つのソースのいずれかが検索されます。

選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用する場合、FM/IMS はサブシステムが使用する IMS カタログを検索します。

そうでない場合、FM/IMS はユーザーまたは管理者が指定した DBD ライブラリーを検索します。検索されるライブラリーは、選択したサブシステムによって異なります。したがって、これらのライブラリーは、選択したサブシステムの DBD ライブラリーと呼ばれます。

選択したサブシステムの DBD ライブラリーは「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルに表示され、FM/IMS 管理者によって修正される場合もあればそうでない場合もあります。

サブシステムの DBD ライブラリーが修正された場合、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルの「DBD Data set name (DBD データ・セット名)」のフィールドは保護され、管理者が指定した DBD ライブラリーを使用する必要があります。そうでない場合、これらのフィールドは保護されず、FM/IMS が検索する DBD ライブラリーのリストは自由に変更できます。

FM/IMS は、指定された順番で各 DBD ライブラリーで検索を行い、指定された名前が最初に見つかった DBD を使用します。

以下は、「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Dynamic (動的)」を選択した場合に適用されます。

- データベース名を入力しなかった場合、またはデータベース名パターンを入力した場合は、「Database Selection (データベース選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるデータベースのリストから、データベースを選択することができます。
- 選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - 印刷するデータベースの DBD。
 - 印刷するデータベースに論理的に関連している各データベースごとの DBD。

以下は、「**PSB type (PSB タイプ)**」で「Static (静的)」を選択した場合に適用されます。

- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネルは、以下のいずれかが該当する場合に表示されます。
 - データベース名が入力されておらず、指定された PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名が入力されており、PSB にデータベースの PCB が複数存在する。
 - データベース名パターンが入力されており、PSB にそのパターンと名前が一致するデータベースの PCB が存在する。

「PCB Selection (PCB 選択)」パネルに表示されたデータベース PCB のリストから、PCB を選択することができます。
- サブシステムが IMS 管理 ACB を使用していない場合、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。
 - PSB で指定されたそれぞれのデータベースごとの DBD
 - PSB で指定されたデータベースに論理的に関連しているそれぞれのデータベースごとの DBD

AGN name (AGN 名)

アプリケーション・グループ名 (AGN) は、IMS リソースのグループを示します。指定した名前は、「Region type (領域タイプ)」で「BMP」を選択した場合に、IMS 領域コントローラーに渡されます。

AGN を使用しないサブシステムを選択した場合、AGN 名は入力しないでください。



注: 「Region type

(領域タイプ)」 で「DLI」を選択すると、このフィールドは無視されます。

AGN

を使用するサブシステムを選択した場合、印刷に必要なアクセスを提供し、かつ、使用する権限のある AGN を指定します。(FM/IMS が開始する BMP 領域は、指定された AGN に関連した IMS リソースを使用する許可が与えられているだけです。)

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルは、以下の条件がすべて真の場合に表示されます。

- BMP の領域タイプが選択されている。
- 選択したサブシステムが AGN を使用している。
- 選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされている。
- AGN 名が入力されていない。または、AGN 名パターンが入力されており、FM/IMS インストール・オプション・モジュールに、パターンと一致する選択したサブシステム用の AGN が存在する。

「AGN Selection (AGN 選択)」パネルに表示される AGN のリストから、AGN を選択できます。選択したサブシステムの AGN が、FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされていない場合は、AGN のフルネームを指定する必要があります。



注: 「Region type

(領域タイプ)」 で「DLI」を選択すると、このフィールドは無視されます。

View (表示)

Data set name (データ・セット名)

「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合、これは印刷で使用するビューを含むデータ・セットの名前です。



注: 「View usage (ビューの使用)」 で「New (新規)」または「None

(なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Member (メンバー)

「View usage (ビューの使用)」で「Existing (既存)」を選択した場合、以下を実行してください。

- 印刷で使用するビューが PDS(E)にある場合、このフィールドにはビュー・メンバー名を指定します。
- 印刷で使用するビューが順次データ・セットにある場合、このフィールドをブランクにします。



注: 「View usage (ビューの使用)」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

PSB type (PSB タイプ)

印刷でデータベースにアクセスするために使用する PSB のタイプ。以下のタイプがあります。

1.Dynamic (動的)

印刷では、バッチ・ジョブの開始時に生成する一時的な PSB を使用します。

2.Static (静的)

印刷では、「PSB name (PSB 名)」フィールドに指定している既存の PSB を使用します。

Region type (領域タイプ)

印刷を実行する領域のタイプ。以下のタイプがあります。

1.DLI

DL/I

バッチ処理領域の場合。データベースがオフラインであるか、またはデータ共用サポートがある場合に、DL/I バッチ処理領域を使用することができます。

2.BMP

BMP 領域の場合。データベースがオンラインの場合に、BMP 領域を使用することができます。

Fetch DB dsnames from (DB DS 名の取り出し元) (DLI の場合)

「Region type (領域タイプ)」に「DLI」を選択し、HALDB 以外のデータベースおよび動的割り振りのみではない IMS サブシステムを選択した場合、以下のようになります。

1.ユーザー・プロファイル

印刷では、ユーザー・プロファイルに名前が保管されているデータベース・データ・セットを使用します。

2.DFSMDA メンバー

印刷では、DFSMDA

動的割り振りメンバーに指定されているデータベース・データ・セットを使用します。



注: 以下のいずれかを指定した場合、このフィールドは無視されます。



- 「**Region type (領域タイプ)**」で「BMP」。
- HALDB データベース。
- FM/IMS インストール・オプション・モジュールでのみ、動的割り振りとして定義されている IMS サブシステム。

View usage (ビューの使用)

印刷で新規ビューを使用するか、既存ビューを使用するか、あるいはビューを使用しないかを指定します。以下のオプションがあります。

1.New (新規作成)

印刷で新規ビューを使用する場合は、このオプションを選択します。

印刷では、指定されたデータベースのテンプレートから一時ビューが作成されます。

FM/IMS

は、テンプレートを、ユーザーまたは管理者が指定したテンプレート・ライブラリーから検索します。FM/IMS が検索を行うテンプレート・ライブラリーは、選択したサブシステムに依存します。

- 指定されたサブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがない場合、FM/IMS は、「**Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)**」パネルで指定されたテンプレート・ライブラリーから検索します。
- サブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがある場合、FM/IMS は、FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されたサブシステムをデフォルトのテンプレート・ライブラリーから検索します。

FM/IMS は、指定された順番で各テンプレート・ライブラリーで検索を行い、指定されたデータベース名が最初に見つかったテンプレートを使用します。

2.既存

印刷で既存ビューを使用する場合は、このオプションを選択します。印刷では、ビューの「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドおよび「**Member (メンバー)**」フィールドで指定されたビューを使用します。

3.None (なし)

印刷でビューを使用しない場合は、このオプションを選択します。

Print format (印刷形式)

印刷するデータに使用する形式。

1.CHAR

データは文字形式で印刷されます。

2.HEX

データは 16 進形式で印刷されます。

3.SNGL

データは単一形式で印刷されます。

4.TABL

データは表形式で印刷されます。

Skip DB data set panel (DB データ・セット・パネルのスキップ) (DLI の場合)

FM/IMS が「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルまたは「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルを表示しないようにする場合は、このオプションを選択します。

このオプションを選択せず、「**Region type (領域タイプ)**」で「DLI」を選択した場合、「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」または「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネルが表示されます。



注: 「**Region type (領域タイプ)**」で「BMP」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Edit view (ビューの編集)

「**View usage (ビューの使用)**」で「Existing (既存)」を選択し、ビューを編集してから、印刷でそれを使用する場合、このオプションを選択します。

このオプションを選択すると、FM/IMS はビューのデータ・セット・フィールドおよびメンバー・フィールドで指定されたビューを編集および保管できる「View (ビュー)」ダイアログを開始します。



注: 「**View usage (ビューの使用)**」で「New (新規)」または「None (なし)」を選択すると、このフィールドは無視されます。

Use key values (キー値の使用)

印刷されるレコードのルート・セグメントのキー値を指定する場合には、このオプションを選択します。

このオプションを選択すると、「Print Options」パネルが表示されます。印刷で使用するキー値を含むデータ・セットの名前を指定します。

親パネル

- 「[Utility Menu \(ユーティリティー・メニュー\)](#)」パネル ページ 457

子パネル

- 「AGN Selection (AGN 選択)」 パネル ページ 206
- 「Data Set Selection (データ・セット選択)」 パネル ページ 251
- 「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」 パネル ページ 252
- 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」 パネル ページ 254
- 「PCB Selection (PCB 選択)」 パネル ページ 370
- 「PSB Selection (PSB 選択)」 パネル ページ 389
- 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」 パネル ページ 432
- 「Database Selection (データベース選択)」 パネル ページ 261
- 「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」 パネル ページ 460
- 「JCL Submission (JCL 実行依頼)」 パネル ページ 357
- 「Print Options (印刷オプション)」 パネル ページ 386

「Print Options (印刷オプション)」 パネル

「Print Options (印刷オプション)」 パネルは、「Print Entry (印刷項目の入力)」 パネルで「Use key values (キー値の使用)」 オプションを選択した場合に、「Print (印刷)」 ダイアログに表示されます。

このパネルでは、以下の指定を行います。

- 印刷されるレコードのルート・セグメントのキー値を指定するかどうか。
- キー値を指定する場合、印刷で使用するキー値を含むデータ・セットの名前。

パネルとフィールドの定義

図 84. 「Print Options (印刷オプション)」 パネル

Process	Options	Help
File Manager	Print Options	
Database	NHRD#3	
Key Values:		
Data set name . . .	'JHELVON.NHRD#3.KEYSLIST'	
Member		
Processing Options:		
Enter "/" to select option		
/ Use key values		
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F10=Actions	F12=Cancel	F7=Backward
		F8=Forward
		F9=Swap

Data set name (データ・セット名)

「Use key values

(キー値の使用)」 オプションを選択した場合に、印刷するレコードのルート・セグメントのキー値を含むデータ・セットの名前を指定します。注: 「Use key values

(キー値の使用)」 オプションを選択しない場合、このフィールドは無視されます。

Member (メンバー)

「Use key values (キー値の使用)」オプションを選択し、印刷で使用するキー値が PDS(E)にある場合、キー値のメンバー名を指定します。「Use key values (キー値の使用)」オプションを選択し、印刷で使用するキー値が順次データ・セットにある場合、このフィールドをブランクにします。



注: 「Use key values (キー値の使用)」オプションを選択しない場合、このフィールドは無視されます。

Use key values (キー値の使用)

このオプションを選択すると、印刷では、キー値の「data set name (データ・セット名)」フィールドおよび「Member (メンバー)」フィールドで指定されたキー値を使用します。

親パネル

- [「Print Entry \(印刷項目の入力\)」パネル ページ 379](#)

子パネル

- なし

「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル

「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルを使用すると、FM/IMS 機能によって使用される PSB および DBD データ・セットの名前を表示および変更できます。

「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」で、このパネルは以下を選択すると表示されます。

- オプション 7
- IMS 管理 ACB を使用しないサブシステム。

「**Subsystem (サブシステム)**」フィールドには、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」で指定した IMS サブシステム ID が表示されます。

パネルには、この IMS サブシステム ID が機能の入力パネルで指定されている場合に、オンライン FM/IMS 機能が使用するデータ・セット名が表示されます。

FM/IMS 管理者が、パネル上に表示されたデータ・セット名の一部またはすべての値を修正している場合があります。データ・セットが修正された場合は、パネル・フィールドが保護され、指定された値を変更できなくなります。

データ・セットが修正されていない場合は、データ・セットに指定された値を変更できます。

パネル上のすべてのデータ・セット名をそのサブシステムのデフォルトにリセットするには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保管してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保管せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 85. 「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		PSB and DBD Data Sets
Subsystem IF52 IF52 - DYNAMIC, all unprotect		
PSB:		
Data set name #1		'FMN.REGTEST.IMS.PSBLIB'
Data set name #2		'FMN.REGTEST.IMS.RFM0712.PSBLIB\$1'
Data set name #3		'FMN.REGTEST.IMS.RFM0712.PSBLIB\$2'
Data set name #4		'FMN.REGTEST.IMS.RFM0712.PSBLIB\$3'
Data set name #5		
Data set name #6		
DBD:		
Data set name #1		'FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB'
Data set name #2		'FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB2'
Data set name #3		'FMN.REGTEST.IMS.RFM0712.DBDLIB\$1'
Data set name #4		'FMN.REGTEST.IMS.RFM0712.DBDLIB\$2'
Data set name #5		'FMN.REGTEST.IMS.RFM0712.DBDLIB\$3'
Data set name #6		'FMN.REGTEST.IMS.RFM0712.DBDLIB\$4'
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit F4=CRetriev F7=Backward F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel

PSB

FM/IMS および IMS が使用するプログラム仕様ブロック (PSB) を含むロード・ライブラリーの名前。静的 PSB を使用する File Manager/IMS 機能を実行すると、指定されたライブラリーは IMS DD に割り振られます。

DBD

FM/IMS および IMS が使用するデータベース定義 (DBD) を含むロード・ライブラリーの名前。File Manager/IMS 機能を実行すると、指定されたライブラリーは IMS DD に割り振られます。

FM/IMS 機能が動的 PSB を使用する場合、IMS では、指定された少なくとも 1 つの DBD ライブラリー内に、以下の DBD が必要です。

- アクセスするデータベースの DBD。
- アクセスするデータベースに論理的に関連している各データベースごとの DBD。

FM/IMS 機能が静的 PSB を使用する場合、IMS では、指定された少なくとも 1 つの DBD ライブラリー内に、以下の DBD が必要です。

- PSB で指定されたそれぞれのデータベースごとの DBD
- PSB で指定されたデータベースに論理的に関連しているそれぞれのデータベースごとの DBD

親パネル

- [「Subsystem Settings Menu \(サブシステム設定メニュー\)」 パネル ページ 435](#)

子パネル

- 「Data Set Selection (データ・セット選択)」 パネル ページ 251

「PSB Selection (PSB 選択)」 パネル

「PSB Selection (PSB 選択)」 パネルは、「Edit Entry (編集項目の入力)」、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」、「Extract Entry (抽出項目の入力)」、「Load Entry (ロード項目の入力)」、「Print Entry (印刷項目の入力)」、「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」、または「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」の各パネルで、以下を指定した場合に表示されます。

- 「PSB type (PSB タイプ)」で「Static (静的)」。
- PSB 名を指定しなかったか、または PSB 名パターンを指定した。

このパネルには 2 つのバージョンがあります。表示されるバージョンは、入力パネルで選択したサブシステムが IMS 管理 ACB を使用するかどうかによって異なります。これらの各バージョンを順に説明します。

サブシステムによる IMS 管理 ACB の使用

PSB 名を指定しなかった場合、選択したサブシステムが使用する IMS カタログ内のすべての PSB がパネルに表示されます。PSB 名パターンを指定した場合、そのパターンに名前が一致する IMS カタログ内のすべての PSB がパネルに表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 86. 「PSB Selection (PSB 選択)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		PSB Selection
Subsystem	IFG1	
Cmd	PSB name	Timestamp
	PAHRD#1	1524414432060
	PAHRD#2	1524414432060
	PAHRD#4	1524414432060
	PATRD#1	1524414432060
	PATRD#2	1524414432060
	PATRD#4	1524414432060
	PAUBD#1	1524414432060
	PAUBD#2	1524414432060
	PAUBD#4	1524414432060
	PA03D#1	1524414432060
	PA03D#2	1524414432060
	PA03DQ#1	1524414432060
	PA05D	1524414432060
	PA07D	1524414432060
Command ==>		Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F4=CRetrieve	F5=RFind	F7=Backward
F8=Forward	F9=Swap	F10=Left
F11=Right	F12=Cancel	

このパネルには、入力パネルで指定したサブシステム名と、各 PSB の以下の詳細情報が表示されます。

PSB name (PSB 名)

PSB の名前。

Timestamp (タイム・スタンプ)

アクティブ ACB ライブラリー内の ACB のタイム・スタンプ。

PSB を選択するには、【Cmd】フィールドに【S】を入力し、Enter キーを押します。

サブシステムが IMS 管理 ACB を使用しない

PSB 名を指定しなかった場合、選択したサブシステムの PSB ライブラリー内のすべての PSB がパネルに表示されます。PSB 名パターンを指定した場合、そのパターンに名前が一致するすべての PSB がパネルに表示されます。

図 87. 【PSB Selection (PSB 選択)】パネル

Process	Options	Help	PSB Selection						Row 00001 of 00456
Name	Prompt	Lib	Alias-of	Size	AC	AM	RM	Attributes	
*	*	*	*		*	*	*	*	
FM/IMS									
DSNAME	FMN.REGTEST	IMS	PSBLIB						
— \$PA19D#7		2		000002C8	00	24	24		
— \$PA21D#7		2		00000378	00	24	24		
— \$PA23D#7		3		00000300	00	24	24		
— \$PA34D#7		4		00000318	00	24	24		
— XYZ00001		1		000000E0	00	24	24		
— XYZ0041		1		00000360	00	24	24		
— GSAPSB		1		000009A8	00	24	24		
— JPSBL		1		00000100	00	24	24		
— LA19D		1		000000F8	00	24	24		
— LA23D#1		1		00000170	00	24	24		
— LA23D#2		1		00000170	00	24	24		
— LA24D#1		1		00000170	00	24	24		
— LA24D#2		1		00000170	00	24	24		
— LA34D		1		00000148	00	24	24		
— LA34D9		1		000000F8	00	24	24		
Command ==>								Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind	F7=Backward				
F8=Forward	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel					

パネルには、各 PSB の名前とその他の属性が表示されます。

PSB を選択するには、【Cmd】フィールドに【S】を入力し、Enter キーを押します。

パネル・フィールドおよび機能の詳細については、「ユーザズ・ガイドおよびリファレンス」の「Member Selection (メンバー選択)」パネルの説明を参照してください。

親パネル

- [【Batch Browse Entry \(バッチ・ブラウズ項目の入力\)】パネル ページ 208](#)
- [【Batch Edit Entry \(バッチ編集項目の入力\)】パネル ページ 215](#)
- [【Browse Entry \(ブラウズ項目の入力\)】パネル ページ 229](#)
- [【Edit Entry \(編集項目の入力\)】パネル ページ 286](#)
- [【Extract Entry \(抽出項目の入力\)】パネル ページ 297](#)
- [【Load Entry Panel \(ロード項目の入力パネル\)】 ページ 361](#)
- [【Print Entry \(印刷項目の入力\)】パネル ページ 379](#)

「Record Type Selection (レコード・タイプ選択)」パネル

「Record Type Selection (レコード・タイプ選択)」パネルは、「Extract Options (抽出オプション)」パネルで以下を選択した場合に表示されます。

- 「**Template create execution mode (テンプレート作成の実行モード)**」で「Foreground (フォアグラウンド)」。
- 「**Edit extract template (抽出テンプレートの編集)**」オプション。

このパネルを使用すると、抽出ダイアログで抽出ファイルに対して作成されるテンプレートを編集して保管することができます。

パネル・フィールドおよび機能の詳細については、「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」の「Record Type Selection (レコード・タイプ選択)」パネルの説明を参照してください。

パネルとフィールドの定義

図 88. 「Record Type Selection (レコード・タイプ選択)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Record Type Selection	Line 1 of 6
Processing Option: _ Template for segmented data		
Cmd SIE	Field Name	Prompt Offset Length
_____	**** Top of data ****	
___ SI	HEADER_DYNAMIC	0 57
___ SI	HEADER1_STATIC	0 84
___ SI	HEADER2_STATIC	0 72
___ SI	A05D_A05SEG1_A05D_ROOT_SEGM	0 95
___ SI	A05D_A05SEG2_A05D_LEV2_SEGM	0 102
___ SI	A05D_A05SEG3_A05D_LEV3_SEGM	0 79
_____	**** End of data ****	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F7=Up	F8=Down	F9=Swap
	F4=CRetriev	F5=RFind
	F12=Cancel	Scroll PAGE
		F6=RunTemp

親パネル

- 「[Extract Options \(抽出オプション\)](#)」パネル ページ 305

子パネル

- 「[Field Selection/Edit \(フィールド選択/編集\)](#)」パネル。詳細については、「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

「Redefines / Range Specifications (再定義/範囲の指定)」パネル

「Template Specification (テンプレート指定)」パネル上のセグメント・タイプに対して、接頭部コマンド・フィールド (Cmd) に X 行コマンドを入力すると、FM/IMS は「Redefines / Range Specifications (再定義/範囲の指定)」パネルを表示します。

パネルとフィールドの定義

図 89. 「Redefines / Range Specifications (再定義/範囲の指定)」パネル

```

Process  Options  Help
S      _____ SHIRE Redefines / Range Specifications _____
F
T
C      Redefines to New Layout:
*      Level . . . . . _ _ Change all matching levels to 01
X      Field name . . . . _____
*      Set offset . . . . _ (Enter "/" to select)
      COBOL level change. _ (Enter "/" to select)

      Source Range:
      From statement . . _____
      To statement . . _____

      From string . . . . _____
      To string . . . . _____

      Command ==> _____
      F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F7=Backward  F8=Forward
      F9=Swap      F12=Cancel

Command ==> _____ Scroll CSR
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetriev  F6=LibList  F7=Up
F8=Down      F9=Swap      F12=Cancel
    
```

Redefines to New Layout (新規レイアウトの再定義)

以下のフィールドを使用して、レベル-1 構造内に多数のレコード定義を含むソースに対して、FM/IMS が複数のレコード・レイアウトを生成するように指示します。

Level (レベル)

新規のレコード・レイアウトの生成に必要な REDEFINES または UNION レベルの文節を識別するのに使用するソース・レベル値。この値は、COBOL の REDEFINES または PL/I の UNION を使用して複数のレイアウトを定義した構造体がある場合に使用します。FM/IMS は、所定のレベルのそれぞれの REDEFINES 文節ごとに、別々のレコード・レイアウトを作成します。FM/IMS は、最初に一致した REDEFINES を検出すると、その後および後続の REDEFINES 文節に対して、同じレベルと同じ開始位置用に、新しいレイアウトを作成します。見出しおよび後書きデータ項目は、それぞれのレコード・レイアウトに含まれています。

Change all matching levels to 01 (すべての突き合わせレベルを 01 に変更)

ソース・レベル (Level (レベル)) を指定する代わりに、"/" を入力することによってこのオプションを選択し、すべての突き合わせレベルを 01 に変更することができます。これによって、すべての突き合わせレベルが 01 に変更されるように、コンパイル前にソースが変更されます。これは、COBOL

のみのオプションであり、意図されたプログラマブル形式から構造が変更されてしまうため、注意して使用する必要があります。

フィールド名

FM/IMS に新規レイアウトの作成を指示するために使用する REDEFINES または UNION ステートメントの識別に用いる REDEFINES 文節のターゲット・フィールド名、または UNION 文節を持つフィールド名を指定します。これは、新規レイアウトの生成に必要な REDEFINES および UNION ステートメントを識別するための別の方法です。【**Level (レベル)**】および【**Field Name (フィールド名)**】の両方に値を指定すると、FM/IMS は新規レイアウトの生成時に両方を検査します。

Set offset (オフセットの設定)

(【/】を入力して) 選択された場合は、FM/IMS は、開始位置が REDEFINES または UNION フィールドの開始位置になるように、それぞれのレイアウトでオフセット値を調整します。このオプションは、レコード・レイアウトが構造内にヘッダー・データ項目を含んでいない場合に使用します。このオプションは、前のフィールドと一緒にのみ指定することができます。

COBOL level change (COBOL レベル変更)

Source Range (ソース範囲)

以下のフィールドを指定して、テンプレートの中にコンパイルされるコピーブックのサブセットを抽出するように FM/IMS に指示します。

From statement (開始ステートメント)

開始ソース行の番号。これによって、抽出の開始ステートメントを FM/IMS に指示します。指定がない場合、デフォルトの開始位置はステートメント 1 です。

To statement (終了ステートメント)

終了ソース行の番号。これによって、抽出の終了ステートメントを FM/IMS に指示します。指定がない場合、デフォルトの終了位置は最後のソース・ステートメントです。

From string (開始ストリング)

FM/IMS は、各ソース・ステートメントから指定されたストリングを検索し、それと一致したストリングを持つ最初のステートメントから抽出プロセスを開始します。【From statement (開始ステートメント)】を指定した場合は、【**From statement (開始ステートメント)**】値に一致する最初のステートメント、または【**From string (検索ストリング)**】値を含む最初のステートメントのいずれかによって、抽出が開始されます。

To string (終了ストリング)

FM/IMS は、各ソース・ステートメントから指定されたストリングを検索し、それと一致したストリングを持つ最初のステートメントで抽出プロセスを終了します。【To statement (終了ステートメント)】を指定した場合は、【**To statement (終了ステートメント)**】値に一致する最初のステートメント、または【**To string**

【置き換えストリング】 値を含む最初のステートメントのいずれかによって、抽出は終了します。

親パネル

- [「Template Specification \(テンプレート指定\)」](#) パネル ページ 444

子パネル

- なし。

「Relationship Criteria (関係基準)」 パネル

編集のために関係基準サブセットを選択すると、FM/IMSには「Relationship Criteria (関係基準)」パネルが表示されます。このパネルでは、論理的に関連したデータベースから抽出されるセグメント・オカレンスの数を除外または制限できます。

パネルとフィールドの定義

図 90. 「Relationship Criteria (関係基準)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Relationship Criteria
Criteria	FMN.IMS.IVP.CRITERIA(SUBURB)	
Template	FMN.IMS.IVP.TEMPLATE(DJ2E)	
Default max relationship occurrences to pursue		(Blank for no limit)
Cmd	Sel	Source DBD segment DBD Relationship type Max occurrences to pursue per DB record
*	DJ2E	LINKSTR DJ3E Bidirectional 2
*	DJ2E	INSHIRE DJ1E Bidirectional 1
	DJ3E	INSUB DJ2E Bidirectional 1
	DJ1E	LINKSUB DJ2E Bidirectional 1
**** End of data ****		
Command ==>		Scroll CSR
F1=Help	F2=Split	F3=Exit F4=CRetriev F6=Describe F7=Backward
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions F12=Cancel

このパネルは、以下のデータベースに定義されているすべての論理関係をリストします。

- 基本データベース
- 論理関係を経由して基本データベースにリンクするデータベース

各関係ごとに、パネルは以下のフィールドを表示します。

Criteria (基準)

編集する基準セットが入っているデータ・セットの名前が表示されます。

Template (テンプレート)

基準セットに関連するテンプレートが入っている区分データ・セットの名前が表示されます。

Default max relationship occurrences to pursue (実行するデフォルトの最大関係オカレンス数)

ソース・データベース・レコードごとに選択するターゲット・データベース・レコードの最大数を入力します。指定された値は、ブランクのままになっている「**Max occurrences to pursue per DB record (DBレコード毎実行最大オカレンス数)**」フィールドで使用されます。

Cmd (コマンド)

関係の「**Cmd**」フィールドには、処理用の関係の選択を切り替えるために **S** を入力します。関係を選択解除した場合には、関連セグメントのオカレンスは抽出されません。

Sel (選択)

関係が処理用に選択されている場合はアスタリスク (*) が入ります。そうでない場合はブランクとなります。

Source DBD (ソース DBD)

関係のソース (または子) セグメントが入っているデータベースの DBD 名。

Source segment (ソース・セグメント)

論理関係の子セグメント。

Target DBD (ターゲット DBD)

論理関係のターゲット (または親) であるデータベースの DBD 名。

Relationship type (関係タイプ)

単一方向 - 論理関係がソースとターゲットのセグメントを 1 つの方向にリンクする場合。

双方向 - 論理関係がソースとターゲットのセグメントを両方の方向にリンクして、両方向パスを確立する場合。

Max occurrences to pursue per DB record (レコードごと実行最大オカレンス数)

ソース・データベース・レコードごとに選択するターゲット・データベース・レコードの最大数を入力します。このフィールドをブランクのままにすると、FM/IMS は「**Default max relationship occurrences to pursue (実行するデフォルトの最大関係オカレンス数)**」フィールドに指定されている値を使用します。

親パネル

- ・ [「Subset Selection \(サブセット選択\)」パネル ページ 430](#)

子パネル

- ・ なし。

「Secondary Index Selection (2 次索引の選択)」 パネル

「Secondary Index Selection (2 次索引の選択)」 パネルは、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」 パネルまたは「Edit Entry (編集項目の入力)」 パネルで、以下を選択した場合に表示されます。

- 「**Secondary index (2 次索引)**」 オプション。
- 「**PSB type (PSB タイプ)**」 で「Dynamic (動的)」。
- 複数の 2 次索引を持つデータベース。

このパネルには、選択したデータベースのすべての 2 次索引が表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 91. 「Edit : 「Secondary Index Selection (2 次索引の選択)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS Edit : Secondary Index Selection		
Subsystem IF32 Database FMDB1		
Cmd	Secondary index	Target segment
	FMIX1	ROOTSEG
	FMIX2	ROOTSEG
	FMIX3	ROOTSEG
	FMIX4	DEPSEGM
S	FMIX5	ROOTSEG
	**** End of data ****	
	Source segment	Search fields
	DEPSEGM	SECURITY
	ROOTSEG	LASTNAME
	DEPSEGM	ENVIRON CLASS
	DEPSEGM	DEPKEY
	ROOTSEG	TOPILSE NERIE
		SNORE TTERE NBAAT
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
	F8=Forward	Scroll CSR

Subsystem (サブシステム)

「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」 パネルまたは「Edit Entry (編集項目の入力)」 パネルに指定されたサブシステム ID。

データベース

「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」 パネルまたは「Edit Entry (編集項目の入力)」 パネルに指定されたデータベースの名前。

Cmd (コマンド)

行コマンド・フィールド。

Secondary index (2 次索引)

2 次索引の名前。

Target segment (ターゲット・セグメント)

索引セグメントが指し示すセグメント。

ソース・セグメント

索引の構成のもととなったソース・フィールドが入っているセグメント。

Search fields (検索フィールド)

2次索引の検索フィールド。

ファースト・パス 2次索引 (FPSI) には、複数の 2次索引セグメントが定義されていることがあります。FPSI に複数の 2次索引セグメントが定義されている場合、各 2次索引セグメントの検索フィールドは別々の行に表示されます。

親パネル

- [Browse Entry (ブラウズ項目の入力)] パネル ページ 229
- [Edit Entry (編集項目の入力)] パネル ページ 286

子パネル

- [Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)] パネル ページ 254
- [Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)] パネル ページ 252
- [Database Positioning (データベース位置決め)] パネル ページ 258

「Segment Information (セグメント情報)」パネル

このパネルは、SEGMENT 基本コマンドを入力したときに表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 92. 「Segment Information (セグメント情報)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Segment Information
Database		DJ1E
Segment		SHIRE
Description		
Number		1
Parent		
Level		1
Dataset Group		DJ1E
Key Start		1
Key Length		20
Segment Length		53 FIXED
Processing Options		A
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
		F8=Forward
		Scroll PAGE

FM/IMS は、「Segment Information (セグメント情報)」パネル上に以下のフィールドを表示します。

データベース

現行データベースの名前を示します。

Segment (セグメント)

現行セグメントの名前を示します。

Description (説明)

「Template Specification (テンプレート指定)」パネルに入力された通りのセグメントの記述を示します。

Number (番号)

これは、データベース内のセグメントを固有に識別するセグメント・コードを示します。

Parent (親)

これは、現行セグメントの直接の親であるセグメントの名前を示します。現行セグメントがルート・セグメントの場合は、このフィールドはブランクです。

Level (レベル)

これは、データベース内のセグメントの階層レベル番号を示します。

Data set Group (データ・セット・グループ)

これは、セグメントが保管されているデータ・セット・グループの DD 名を示します。

Key Start (キー開始)

これは、セグメントのキー・フィールドの開始位置を示します。フィールドがキー付きでない場合には、このフィールドはブランクです。

Key Length (キー長)

セグメントのキー・フィールドの長さを示します。フィールドがキー付きでない場合には、このフィールドはブランクです。

Segment Length (セグメント長)

これは、DBD に定義された通りのセグメント長を示します。FM/IMS は、可変長セグメントの場合は最小長と最大長を表示します。セグメントの形式を示す **FIXED** または **VARIABLE** が表示されます。

Processing Options (処理オプション)

これは、ブラウズ/編集セッションでのセグメントに対する IMS 処理オプションを示します。

「Segment Information (セグメント情報)」パネルで、Enter キーを押して、「Field Information (フィールド情報)」パネルを表示することができます。

親パネル

- を参照してください。 [SEGMENT 基本コマンド ページ 528](#)

子パネル

- [「Field Information \(フィールド情報\)」パネル ページ 324](#)

「Segment Layout (セグメント・レイアウト)」パネル

「Segment Layout (セグメント・レイアウト)」パネルでは、「Template (テンプレート)」、「View (ビュー)」、または「Criteria (基準)」で選択されたセグメント・レイアウトの詳細を編集します。

このパネルは、以下の場合に表示されます。

- 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネル、「Segment Selection (セグメント選択)」パネル、または「Template Specification (テンプレート指定)」パネルで、編集のためにセグメント・タイプを選択し、そのセグメント・タイプのレイアウトが1つのみである。
- 「Segment Layout Selection (セグメント・レイアウト選択)」パネルで、編集のためにセグメント・レイアウトを選択した。

「Template : Segment Layout (基準: セグメント・レイアウト)」パネルを使用して、以下のことができます。

- シーケンス番号を使用したフィールド順序の設定
- レイアウトを識別するための式の指定
- レイアウトのオフセット値の変更
- 01 レイアウトの表示および印刷

「View : Segment Layout (ビュー: セグメント・レイアウト)」パネルまたは「Criteria: Segment Layout (基準: セグメント・レイアウト)」パネルを使用して、以下のことができます。

- 表示のためのフィールドの選択
- フィールド形式属性および作成属性の編集
- レイアウトを識別するための式の指定
- レイアウトのオフセット値の変更
- 01 レイアウトの表示および印刷

パネルとフィールドの定義

図 93. 「Segment Layout (セグメント・レイアウト)」パネル

Process	Options	Help					
FM/IMS	Criteria : Segment Layout	Line 1 of 9					
Criteria New		Subset					
Template FMN. IMS. IVP. TEMPLATE (DJ1E)		Segment SHIRE					
----- Criteria - Enter 1 or 2 to view/specify expression by field -----							
1 Id : #4='0'		+					
2 Sel:		+					
Offset 0							
Cmd	Seq	SHC Ref	Field Name	Picture	Type	Start	Length
			**** Top of data ****				
___	___	1	1 SHIRE		AN	1	53
___	___	2K	2 SHIRE-KEY		AN	1	20
___	___	3K	3 SHIRE-NAME	X(20)	AN	1	20
___	___	4	2 SHIRE-TYPE	X(1)	AN	21	1
___	___	5	2 SHIRE-CODE1	9(3)	ZD	22	3
___	___	6	2 SHIRE-CODE2	9(5)	ZD	25	5
___	___	7	2 SHIRE-ROAD	S9(15)	PD	30	8
___	___	8	2 SHIRE-RIVER	S9(15)	PD	38	8
___	___	9	2 SHIRE-BRIDGE	S9(15)	PD	46	8
Command ===>						Scroll CSR	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=Expand	F5=RFind	F7=Up	F8=Down	
F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel				

Criteria/View (基準/ビュー)

編集する基準セットまたはビューが入っているデータ・セットの名前。(「Template : Segment Layout (テンプレート : セグメント・レイアウト)」パネルには表示されません。)

Subset (サブセット)

基準サブセットを識別するために FM/IMS が割り当てる数または文字 (「Criteria : Segment Layout (基準 : セグメント・レイアウト)」パネルのみ)。

次のいずれかの値が含まれます。

R

関係基準サブセット

1 ~ 255

フィールド基準サブセット。

テンプレート

基礎となるテンプレートを保持する区分データ・セットの名前。

Segment (セグメント)

表示されるセグメントの名前。

Offset (オフセット)

レイアウト内のすべてのフィールドに関する現行のオフセット値。

1 Id

これを使用して、このレイアウトを識別するために File Manager によって使用される識別基準を指定します。(「Template : Segment Layout (テンプレート : セグメント・レイアウト)」パネルで編集することができます。セグメントに複数のレイアウトがあるとき、「View : Segment Layout (ビュー : セグメント・レイアウト)」パネル、または「Criteria : Segment Layout (基準 : セグメント・レイアウト)」パネルに読み取り専用として表示されます。セグメントにレイアウトが 1 つしかないときには表示されません。)

「Template : Segment Layout (テンプレート : セグメント・レイアウト)」パネルで 1 を入力して「Layout Identification Criteria

(レイアウト識別基準)」パネルを表示し、フィールド別基準を指定するか、またはフリー・フォーム REXX 式を隣接するフィールドに入力します。「Right」機能キー (F11) または「Left」機能キー (F10) を使用して、フィールド内を右または左にスクロールできます。あるいは、「Expand」機能キー (F4) を使用してフィールドを拡張できます。

フィールド別基準とフリー・フォーム REXX

式による基準は、一緒に指定することができません。フィールド別基準を入力した場合、隣接するフィールドに入力されたフリー・フォーム REXX 式はすべて、新規の基準で置き換えられ、このフィールドは保護されます。この式は手動で編集できません。レイアウト識別のためのフリー・フォーム REXX 式を作成する機能を復元するには、「Layout Identification Criteria (レイアウト識別基準)」パネルに入力した基準をすべてクリアする必要があります。

2 Sel (または、「1 Id」が表示されていない場合は「1 Sel」)

これを使用して、処理するセグメントを選択するために File Manager によって使用されるセグメント選択基準を指定します(「Template : Segment Layout (テンプレート : セグメント・レイアウト)」パネルでは使用できません。「View : Segment Layout (ビュー : セグメント・レイアウト)」パネルまたは「Criteria : Segment Layout (基準 : セグメント・レイアウト)」パネルでは編集可能です)。

このフィールドを使用して、処理する選択済みレイアウトのセグメントを制限できます。セグメント・タイプに複数のレイアウトがある場合には、レイアウトのフィールド選択基準が論理和演算されて、そのセグメント・タイプのフィールド選択基準が指定されます。データベースのセグメント・タイプについてのフィールド選択基準は、論理積演算されて、表示のためのフィールド選択基準が指定されます。表示のためのフィールド選択基準は次のパネルの「Sel」フィールドの設定値とともに使用されて、セグメント・オカレンスおよびフィールドが処理のために選択されます。セグメント選択基準を指定しない場合、レイアウト自体を処理対象として選択していれば、そのレイアウトのすべてのセグメントが処理対象として選択されます。

2 を入力して (または、「1 Id」が表示されていない場合は 1 を入力して)、「Field Selection Criteria (フィールド選択基準)」パネルを表示し、フィールド別基準を指定するか、またはフリー・フォーム REXX 式を隣接するフィールドに入力します。「Right」機能キー (F11) または「Left」機能キー (F10)

を使用して、フィールド内を右または左にスクロールできます。あるいは、「Expand」機能キー (F4) を使用してフィールドを拡張できます。

フィールド別基準とフリー・フォーム式による基準は、一緒に指定することができません。フィールド別基準を入力した場合、隣接するフィールドに入力されたフリー・フォーム REXX 式はすべて、新規の基準で置き換えられ、このフィールドは保護されます。この式は手動で編集できません。フリー・フォーム REXX 式を作成する機能を復元するには、「Field Selection Criteria (フィールド選択基準)」パネルに入力した基準をすべてクリアする必要があります。

Cmd (コマンド)

接頭部コマンド域-テンプレート・エディター接頭部コマンドを入力するために使用されます。(「Template: Segment Layout (テンプレート:セグメント・レイアウト)」パネルには表示されません。)

複数の「Cmd」フィールドに接頭部コマンドを入力してから、Enter キーを押してすべてのコマンドを一度の操作で実行できます。このパネルで使用可能な行コマンドは、以下のとおりです。

DT (日付/時刻)

「Date/Time Attributes (日付/時刻属性)」パネルを表示します。「Date/Time Attributes (日付/時刻属性)」パネルを使用して、以下を定義または変更できます。

- 日時値を保管するために使用する内部フォーマット。
- 日時処理に使用する代替データ・タイプ。
- 日時値を表示するために使用する出力フォーマット。
- 新規レコードの作成時およびコピーされたレコードの変更時に使用する値。
- コピーしたレコードから日時値をスクランブルするためのオプション。

E (編集)

このフィールドの「Field Attributes (フィールド属性)」パネルを表示します。「Field Attributes (フィールド属性)」パネルを使用して、以下を指定することができます。

- 数値フィールドの場合、フィールドを画面に表示するときに先行ゼロを抑制するのか、あるいは SNGL または TABL 表示または印刷形式を使用して印刷するのか。
- 代替の見出し。
- TABL 形式表示での列の幅。
- データ作成属性。

H (保留)

1 つのフィールドを保留状況に設定するか、またはフィールドがすでに保留状況にある場合は、保留を解除します。

TABL

表示形式での左方または右方へのスクロール時には、フィールドは常に画面の左側に表示されま

す。SNGL

表示形式での上または下へのスクロール時には、フィールドは常に画面の上部に表示されます。

Hn

n個のフィールドを保留状況に設定します。フィールドが既に保留状況になっている場合、その保留状況が解除されます。

HH

保留状況を設定するフィールドのブロックを選択します。フィールドが既に保留状況になっている場合、その保留状況が解除されます。フィールド・ブロックの開始と終了の位置をマークするには、HH 接頭部コマンドを使用します。

S (選択)

処理対象のフィールドを1つ選択するか、またはフィールドがすでに処理対象として選択されている場合は選択解除します。S 接頭部コマンドを使用して複数のフィールドを処理対象に選択した場合、フィールドはパネルに表示される順序で表示されます。

Sn

処理対象のフィールドをn個選択するか、またはフィールドがすでに処理対象として選択されている場合は選択解除します。

S*

処理対象として現行フィールドからリスト末尾までのすべてのフィールドを選択するか、またはすでに処理対象としてフィールドが選択されている場合は選択解除します。一部のフィールドだけを除外する場合は、S* を使用して明示的にすべてのフィールドを選択した後、S を使用して除外するフィールドを選択解除します。

SS

フィールドのブロックを処理対象として選択するか、またはフィールドがすでに処理対象として選択されている場合は選択解除します。フィールド・ブロックの開始と終了の位置をマークするには、SS 接頭部コマンドを使用します。

X

表示タイプを AN (文字) と AX (long 型 16 進数) の間で切り替えます。このコマンドは、非英数字フィールドには影響しません。

Xn

現行フィールドからn個のすべてのフィールドに対して、Xコマンドを実行します。

X*

現行フィールドからリスト末尾までのすべてのフィールドに対して、Xコマンドを実行します。

XX

フィールドのブロックに対して、Xコマンドを実行します。フィールド・ブロックの開始と終了の位置をマークするには、XX 接頭部コマンドを使用します。

Seq

テンプレートに表示されるフィールドの順序を設定します。

SHC

フィールドの状況を示します。

S

フィールドは処理のために選択されています。セグメント・オカレンスを処理するために選択すると、フィールドが処理のために選択されます。

H

フィールドは編集画面またはブラウザ画面で保持するように選択されています。保留フィールドは、画面左端に表モードでシーケンス番号順に表示されます。これらのフィールドの位置は左右にスクロールしても変化しません (非保留フィールドは位置が変わりますが、これらは同じ場所に留まります)。

C

データ作成属性がフィールドに定義されています。(データ作成パターンは、FM/IMS 機能では現在使用されていないことに注意してください。)

Ref

フィールド名に対して FM/IMS によって割り当てられたフィールド参照番号。セグメント・レイアウト内のすべてのフィールドに番号があります。この番号は、レイアウト識別基準およびフィールド選択基準の中でフィールドを参照するために使用します。参照番号の末尾に、以下のキー標識が付いていることがあります。

K

フィールドはキー (またはキーの一部) です。

S (大文字の S)

このフィールドは 2 次索引検索フィールドです。

s (小文字の s)

このフィールドは 2 次索引サブシーケンス・フィールドです。

フィールド名

COBOL または PL/I

のセグメント・レイアウトに指定されたフィールドのレベル番号と名前。再定義、配列サイズなど、他のさまざまな属性も、参照に応じて、名前の一部として表示されます。

Picture (ピクチャー)

COBOL および PL/I の PICTURE 文節を表示します。2 進およびパック フィールドの長さおよびスケール (ゼロ以外の場合) を表示します。また、ビット・フィールドのビット長も示します。

Type (タイプ)

フィールドのデータ・タイプ。

AN

英数字

AX

long 型の 16 進で表示される英数字。

BI

2 進数

BT

ビット・ストリング 10 進数 (外部 10 進数)

DT

日付/時刻

FP

浮動小数点数 (内部または外部)

PD

パック 10 進数 (内部 10 進数)

VB

可変長 (VARYING) ビット・ストリング

VC

可変長 (VARYING) 文字ストリング

VG

可変長 (VARYING) グラフィック・ストリング

ZC

ヌル終了可変長 (VARYINGZ) 文字ストリング

ZD

ゾーン 10 進数 (外部 10 進数)

ZE

編集済みゾーン 10 進数

ZG

ヌル終了可変長 (VARYINGZ) グラフィック・ストリング

Start (開始)

フィールドが開始する桁位置。可変位置フィールドの場合は、開始桁はフィールドの最大長を使用して計算されます。

Length (長さ)

フィールドの長さ。レイアウトが可変長のレベル 01 フィールドの場合は、表示される長さはそのレイアウトの最大長です。

基準セットの場合に、唯一、関係のあるこのパネル上の領域は「**Field Selection Criteria (フィールド選択基準)**」です。これは、抽出されるこのタイプおよびレイアウトのセグメントを指定するために使用します。(「**Cmd**」および「**Seq**」フィールドは基準セットには影響しません。)

親パネル

- [「Database Positioning \(データベース位置決め\)」](#) パネル ページ 258
- [「Segment Layout Selection \(セグメント・レイアウト選択\)」](#) パネル ページ 406
- [「Segment Selection \(セグメント選択\)」](#) パネル ページ 409

子パネル

- [「Field Attributes \(フィールド属性\)」](#) パネル - 英数字フィールド ページ 311
- [「Field Attributes \(フィールド属性\)」](#) パネル - 数値フィールド ページ 317

「Segment Layout Selection (セグメント・レイアウト選択)」

 パネル

「Segment Layout Selection (セグメント・レイアウト選択)」パネルが表示されるのは、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネル、「Segment Selection (セグメント選択)」パネル、または「Template Specification (テンプレート指定)」パネルで、セグメント・タイプが編集のために選択され、そのセグメント・タイプに複数のレイアウトが指定されている場合です。

このパネルで、以下を行うことができます。

- 編集するセグメント・レイアウトの指定
- オフセット値の変更
- レイアウト長および式標識の表示

このパネルには、セグメント・タイプに指定されているレイアウトのリストが表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 94. 「Segment Layout Selection (セグメント・レイアウト選択)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Criteria : Segment Layout Selection	Line 1 of 3
Criteria New		
Template FMN.IMS.IVP.TEMPLATE(DJ1E)		
Subset		
Segment SHIRE		
Cmd	SIE	Segment layout name
		**** Top of data ****
—	SI	SHIRE
—	SI	SHIRE-TOWN
—	SI	SHIRE-CITY
		**** End of data ****
Command ==>		Scroll CSR
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F7=Up	F8=Down	F9=Swap
	F4=CRetriev	F5=RFind
	F12=Cancel	F6=Describe

Criteria/View (基準/ビュー)

編集する基準セットまたはビューが入っているデータ・セットの名前。このフィールド名は、使用している機能によって異なり、テンプレートの編集時には表示されません。

テンプレート

基礎となるテンプレートを保持する区分データ・セットの名前。

Subset (サブセット)*

FM/IMS サブセット ID

を表示します。サブセットの説明テキストは、入力または変更することができます。「Criteria : Segment Layout Selection (基準 : セグメント・レイアウト選択)」パネルのみに適用可能です。

Segment (セグメント)

編集用に選択されているセグメント・タイプの名前。

Cmd (コマンド)

接頭部コマンド域 -

テンプレート・エディター接頭部コマンドを入力するために使用されます。複数の「Cmd」フィールドに接頭部コマンドを入力してから、Enter

キーを押してすべてのコマンドを一度の操作で実行できます。このパネルで使用可能な行コマンドは、以下のとおりです。

S

処理のためにセグメント・レイアウトの選択を切り替えます。

セグメント・レイアウトを選択解除すると、基準セット全体に影響します。サブセット中のセグメント・レイアウトを選択解除した場合は、そのタイプのセグメントは処理されません。

セグメント・タイプが選択解除されている場合でも、そのフィールド選択基準は、階層上の関連セグメントを処理するかどうかを決定するために使用されます。

E

「Segment Layout (セグメント・レイアウト)」パネルを表示して、フィールド選択および式基準を編集できるようにします。

SIE

選択 (S)/識別 (I)/式 (E) を示す列。



注: 「Template Specification

(テンプレート指定)」パネルのこの列には「S」だけが含まれます。これは、テンプレートには識別も選択基準も保持されないためです。

S

セグメント・レイアウトが処理のために選択されていることを表します。

I

セグメント識別式がセグメント・レイアウトに定義されていることを表します。

E

セグメント選択式がセグメント・レイアウトに定義されていることを表します。

Segment layout name (セグメント・レイアウト名)

レベル 01 の項目名。

Prompt (プロンプト)

セグメント・レイアウトが現行セッション内でいつ編集されたかを示します。

Offset (オフセット)

各セグメント・タイプの現在のオフセットを表示します。この列の値を上書きしてセグメント・レイアウトごとのオフセットを変更するか、または OFFSET 基本コマンドを入力して 1 つ以上のレイアウトのオフセット値を変更することができます。

Length (長さ)

フィールドの長さ。レイアウトが可変長のレベル 01 フィールドの場合は、表示される長さはそのレイアウトの最大長です。

親パネル

- [「Database Positioning \(データベース位置決め\)」](#) パネル ページ 258
- [「Segment Selection \(セグメント選択\)」](#) パネル ページ 409
- [「Template Specification \(テンプレート指定\)」](#) パネル ページ 444

子パネル

- [Segment Layout (セグメント・レイアウト)] パネル ページ 399

「Segment Selection (セグメント選択)」 パネル

「Segment Selection (セグメント選択)」 パネルは、以下の場合に表示されます。

- 「View Entry Panel (ビュー項目の入力パネル)」 でビューを編集する。または
- 「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」 パネルで基準セットを編集する。

パネルとフィールドの定義

図 95. 「Segment Selection (セグメント選択)」 パネル

Process	Options	Help		
FM/IMS		View : Segment Selection		
View C	FMN. IMS. IVP. VIEW (DJ1EVJU)			
Template	FMN. IMS. IVP. TEMPLATE (DJ1E)			
Cmd	Sel	Level	Segment	Description
*		1	SHIRE	
*		2	SHIRENP	
*		2	LINKSUB	
**** End of data ****				
Command ==>				Scroll CSR
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind
F7=Up	F8=Down	F9=Swap	F10=RunTemp	F12=Cancel
				F6=Describe

このパネルには、ビューの作成元になったテンプレート内のすべてのセグメント・タイプがリストされます。(テンプレートが変更され、そのテンプレートからのビューを更新していない場合には、そのビューに正しいセグメント・タイプが入っていないことがあります。)

それぞれのセグメント・タイプごとに、以下のフィールドが表示されます。

View (表示)

編集するビューが入っているデータ・セットの名前が表示されます。ビューが保管されたビューから変更された場合には、C (変更) がビュー・データ・セット名の前に表示されます。

Template (テンプレート)

これには、ビューの作成元であるテンプレートが入っている区分データ・セットの名前が表示されます。

C

ビューが変更されて、まだ保管されていないと、見出しの 8 桁目に「C」が表示されます。

Cmd (コマンド)

行コマンド・フィールド。このパネルで使用可能な行コマンドは、以下のとおりです。

Snn

処理のために *Snn* セグメントを選択するか、または処理のためにセグメントがすでに選択されている場合はそれを選択解除します。

S*

処理のために現行セグメントからリスト末尾までのすべてのセグメントを選択するか、またはすでに処理のためにセグメントが選択されている場合はそれを選択解除します。

SS

処理のためにセグメントのブロックを選択するか、または処理のためにセグメントがすでに選択されている場合はそれを選択解除します。

Sel (選択)

アスタリスク (*) は、フィールド選択基準を満たすという条件で、セグメントが表示用に選択されることを示します。フィールドがブランクである場合には、セグメントは表示されません。

Level (レベル)

データベース内のセグメント・タイプの階層レベル。

Segment (セグメント)

セグメントの名前。

説明

[Template Specification (テンプレート指定)] パネルに入力した通りのセグメント記述。

表示のためのセグメントの選択を切り替えるには、そのセグメント・タイプに対応する [Cmd] フィールドに [S] を入力してから、Enter キーを押します。

複数のセグメント・タイプに対応する [S] を入力した場合には、FM/IMS は行ごとにセグメント・タイプの選択を切り替えます。

セグメントを編集するには、そのセグメント・タイプに対応する [Cmd] フィールドに [E] を入力して、Enter キーを押します。すると、FM/IMS は以下のものを表示します。

- セグメント・タイプに複数のレイアウトがある場合、[Segment Layout Selection (セグメント・レイアウト選択)] パネルが表示されます。
- セグメント・タイプに1つのレイアウトがある場合、[Segment Layout (セグメント・レイアウト)] パネルが表示されます。

複数のセグメント・タイプに対応する [E] を入力した場合には、FM/IMS はタグの付けられたそれぞれのセグメント・タイプごとに [Layout Selection (レイアウト選択)] パネルまたは [Layout (レイアウト)] パネルを表示します。

親パネル

- [Subset Selection (サブセット選択)] パネル ページ 430
- [View Entry (ビュー項目の入力)] パネル ページ 458

子パネル

- ・なし。

「Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)」パネル

「Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)」パネルは、「Set Language and Compiler Specifications (言語およびコンパイラ仕様の設定)」メニューでオプション 2 を選択すると表示されます。

このパネルでは、以下を指定できます。

- ・FM/IMS が COBOL コピーブックからテンプレートを構築するときに使用する、選択済み COBOL コンパイラ・オプション。
- ・COBOL コピーブック内で置き換える 5 つまでの疑似テキスト文字ストリング。
- ・置き換える文字ストリングの置換疑似テキスト文字ストリング。
- ・FM/IMS がテンプレートの構築時に COBOL コンパイラから受け入れる最大戻りコード。

パネル上のすべてのオプションをインストールのデフォルトにリセットするには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保存してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保存せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 97. 「Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)」パネル

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS          Set COBOL Processing Options

COBOL Replacing Options:
  From string                To string
1.                          by
2.                          by
3.                          by
4.                          by
5.                          by

COBOL Compiler Options:
  Enter "/" to select option
  _ DBCS                      _ Decimal-point is comma
  _ Arith(extend)              _ Mixed case field names
Additional options -----

Maximum Return Code to be accepted from compiler 04 (0-99)

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetriev  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions   F12=Cancel
    
```

COBOL Replacing Options (COBOL 置換オプション)

COPY コンパイラ指示ステートメントの REPLACING 句の“元”および“宛先”疑似テキスト文字ストリング。

COBOL コピーブックをテンプレートにコンパイルする前に、COBOL コピーブックに除去する文字または他の文字と置き換えたい文字が含まれている場合には、この置換オプションを使用します。

例えば、コンパイルの前に変更するテキストがコピーブックに入っている場合は、`==INREC==` を “From (検索)” スtringとして指定し、`==AUDIT-RECORD==` を対応する “To (置換)” Stringとして指定します。

COPY REPLACING の “From (検索)” Stringおよび “To (置換)” Stringの指定について詳しくは、*IBM COBOL Language Reference* を参照してください。

COBOL Compiler Options (COBOL コンパイラ・オプション)

COBOL コピーブックをテンプレートにコンパイルするときを使用されるコンパイラ・オプション。

DBCS

選択されている場合、DBCS
コンパイラ・オプションを使用します。そうでない場合は、NODBCSを使用します。

小数点はコンマ

COBOL コピーブックのコンパイル時に「Decimal-point is comma (小数点はコンマ)」の SPECIAL-NAMES パラグラフを使用します。

Arith(extend) (Arith(拡張))

COBOL コピーブックをコンパイルする際に Arith(拡張) COBOL
コンパイラ・オプションを使用します。

Mixed case field names (大/小文字混合のフィールド名)

COBOL
コピーブックでコーディングされているとおりに、フィールド名の元の大/小文字を保持します。

追加オプション

テンプレートの作成または更新のために COBOL コンパイルを実行する際に、CBL
ステートメントによって追加された、追加の COBOL
コンパイラ・オプション。これらのオプションは、コンパイル処理中に妥当性検査されます。
コンパイル・エラーを回避するには、構文が正しいこと、および File Manager を呼び出す前に
これらのオプションに必要な追加データ・セットがすべて割り振られていることを確認します。

最大戻りコード

コピーブックのコンパイル時に、コンパイラで受け入れられる最大の警告コードおよび
エラー・コードを設定します。指定より高いコードがあると、ポップアップ・パネルが File
Manager によって表示され、コンパイルを検討し、以降の処理について決定することができま
す。

これらのコンパイラ・オプションの効果について詳しくは、*IBM COBOL Programming Guide for OS/390 & VM* を参照してください。

親パネル

- [「Set Language and compiler specifications \(言語およびコンパイラ仕様の設定\)」](#) パネル ページ 415

子パネル

- なし。

「Set HLASM Processing Options (HLASM 処理オプションの設定)」 パネル

「Set HLASM Processing Options (HLASM 処理オプションの設定)」 パネルは、「Set Language and Compiler Specifications (言語およびコンパイラ仕様の設定)」メニューでオプション 3 を選択すると表示されます。

このパネルでは、以下を指定できます。

- FM/IMS が HLASM コピーブックおよびソースからテンプレートを構築するときに使用する、選択済み HLASM コンパイラ・オプション。
- FM/IMS がテンプレートの構築時に HLASM コンパイラから受け入れる最大戻りコード。

パネル上のすべてのオプションをインストールのデフォルトにリセットするには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保存してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保存せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 98. 「Set HLASM Processing Options (HLASM 処理オプションの設定)」 パネル

```
Process Options Help
-----
FM/IMS                Set HLASM Processing Options

HLASM Compiler Options:
  Enter "/" to select option
  _ DBCS
  _ NOALIGN
Additional options -----
  Maximum Return Code to be accepted from compiler 04 (0-99)

Command ==>
F1=Help      F2=Split    F3=Exit      F4=CRetriev  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions  F12=Cancel
```

HLASM Compiler Options (HLASM コンパイラ・オプション)

以下の HLASM コンパイラ・オプションを選択できます。

DBCS

HLASM コピーブックおよびソースをコンパイルするときに、DBCS HLASM コンパイラー・オプションを使用します。

NOALIGN

HLASM コピーブックおよびソースをコンパイルするときに、NOALIGN HLASM コンパイラー・オプションを使用します。

その他のオプション

テンプレートの作成または更新のためにアセンブラーを実行する際に、*PROCESS ステートメントによって追加された、追加の HLASM コンパイラー・オプション。これらのオプションは、アセンブリー処理中に妥当性検査されません。アセンブリー・エラーを回避するために、構文が正しいことを確認してください。

Maximum Return Code (最大戻りコード)

コピーブックのコンパイル時に、コンパイラーから受け取る最大の警告コードまたはエラー・コード。ここで指定された値より大きなコードを受け取ると、現在の FM 関数は停止します。

親パネル

- [「Set Language and compiler specifications \(言語およびコンパイラー仕様の設定\)」](#) パネル ページ 415

子パネル

- なし。

「Set Language and compiler specifications (言語およびコンパイラー仕様の設定)」 パネル

「Set Language and compiler specifications (言語およびコンパイラー仕様の設定)」メニューは、「Settings Menu (設定メニュー)」でオプション 4 を選択すると表示されます。

このメニューでは、必要なコンパイラー関連設定パネルを選択します。

パネルとフィールドの定義

図 99. 「Set Language and compiler specifications (言語およびコンパイラ仕様の設定)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Set Language and compiler specifications	
1 LANG	Compiler language selection	
2 COBOL	COBOL compiler specifications	
3 HLASM	HLASM compiler specifications	
4 PL/I	PL/I compiler specifications	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
		F8=Forward

親パネル

- [「Settings Menu \(設定メニュー\)」パネル ページ 428](#)

子パネル

- [「Compiler Language Selection \(コンパイラ言語の選択\)」パネル ページ 236](#)
- [「Set COBOL Processing Options \(COBOL 処理オプションの設定\)」パネル ページ 412](#)
- [「Set HLASM Processing Options \(HLASM 処理オプションの設定\)」パネル ページ 414](#)
- [「Set PL/I Processing Options \(PL/I 処理オプションの設定\)」パネル ページ 419](#)

「Set Output Data Set Allocation Options (出力データ・セット割り振りオプション設定)」パネル

「Set Output Data Set Allocation Options (出力データ・セット割り振りオプション設定)」パネルは、「Settings Menu (設定メニュー)」でオプション 8 を選択すると表示されます。

このパネルを使用すると、以下の FM/IMS 出力および作業データ・セットに、選択した割り振りパラメーターを指定できます。

Audit Log (監査ログ)

監査ログ記録が必要であり (またはユーザーによって要求され)、かつ FM/IMS 管理者が監査ログ・レコードがこのデータ・セットに書き込まれることを指定したときに、FM/IMS 機能によって作成されるユーザーの監査ログ・データ・セット。

Print (印刷)

FM/IMS 機能によって作成される印刷出力。

Trace (トレース)

DEBUG ON コマンドの発行時に作成または更新されるトレース・データ・セット。

IMS Log (IMS ログ)

DLI モードで実行されるときに更新インテントがある PSB を使う機能によって使用される IMS ログ・データ・セット。「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネルの IMS ログ・オプションは、「1.Keep (保持)」、「2.Keep when updates (更新時に保持)」、または「3.削除。

Extract Keys (抽出キー)

XKEY コマンドが「ブラウズ」または「編集」の際に発行されたときに作成されるデータ・セット。

Logical Keys (論理キー)

「抽出」機能によって処理される論理的に関連したキーが入った VSAM 作業データ・セット。

Root Keys (ルート・キー)

「抽出」機能によって処理された基本データベースおよび論理的に関連したデータベースのルート・キーが入った VSAM 作業データ・セット。

パネル上のすべてのパラメーターをインストールのデフォルトに再設定するには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保存してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保存せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 100. 「Set Output Data Set Allocation Options (出力データ・セット割り振りオプション設定)」パネル

Process	Options	Help					
FM/IMS Set Output Data Set Allocation Options							
Data set	Space Units	Primary Quantity	Secondary Quantity	Management Class	Storage Class	Data Class	Device Type
Audit Log	CYL	16	8				SYSALLDA
Print	CYL	64	32				SYSALLDA
Trace	TRK						
IMS log	TRK	20	20				SYSALLDA
Extract Keys	CYL	1	1				SYSALLDA
Logical Keys	CYL	10	10				Volume (NonSMS) SYSALLDA
Command ==>							
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F6=Reset	F7=Backward		
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel				

Space Units (スペース単位)

割り振る 1 次および 2 次スペースの単位を定義します。

BLK

平均サイズのブロック。

KB

キロバイト。1 キロバイトは 1024 バイトです。

MB

メガバイト。1 メガバイトは 1048576 バイトです。

TRK

直接アクセス・ストレージ・デバイス (DASD) のトラック。

CYL

DASD のシリンダー。

Primary Quantity (1 次数量)

1 次スペース割り振りに使用する DASD スペースの量。範囲は、指定するスペース単位および DASD 装置タイプによって異なります。

Secondary Quantity (2 次数量)

2 次スペース割り振りに使用する DASD スペースの量。範囲は、指定するスペース単位および DASD 装置タイプによって異なります。

Management Class (管理クラス)

ご使用の Storage Management System (SMS) インストール済み環境で定義される管理クラスの名前。SMS のないシステムに値を入力しないようにしてください。

Storage Class (ストレージ・クラス)

ご使用の Storage Management System (SMS) インストール済み環境で定義されるストレージ・クラスの名前。SMS のないシステムに値を入力しないようにしてください。

Data Class (データ・クラス)

ご使用の Storage Management System (SMS) インストール済み環境で定義されるデータ・クラスの名前。SMS のないシステムに値を入力しないようにしてください。

Device type (装置タイプ)

データ・セットを入れるボリュームの装置タイプを指定します。システムでサポートされている IBM 装置タイプまたは汎用装置名を入力します。

Volume Serial (ボリューム通し番号)

抽出 VSAM 作業データ・セットを入れる予定のボリュームの通し番号。このフィールドは、SMS がこの値を指定変更するため、SMS 制御データ・セットがないサイトにのみ使用してください。

親パネル

- [\[Settings Menu \(設定メニュー\)\]](#) パネル ページ 428

子パネル

- なし。

「Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)」パネル

「Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)」パネルは、「Set Language and Compiler Specifications (言語およびコンパイラ仕様の設定)」メニューでオプション 4 を選択すると表示されます。

このパネルでは、以下を指定できます。

- FM/IMS が PL/I コピーブックからテンプレートを構築するときに使用する、選択済み PL/I コンパイラ・オプション。
- FM/IMS がテンプレートの構築時に PL/I コンパイラから受け入れる最大戻りコード。

パネル上のすべてのオプションをインストールのデフォルトにリセットするには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保存してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保存せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 101. 「Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)」パネル

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS          Set PL/I Processing Options

PL/I Compiler Options:
Enter "/" to select option

  _ GRAPHIC                      _ UNALIGNED
  _ 63 bit binary                _ 31 digit decimal
Additional options
Maximum Return Code to be accepted from compiler 04 (0-99)

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetrieve  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions   F12=Cancel

```

PL/I Compiler Options (PL/I コンパイラ・オプション)

PL/I コピーブックをテンプレートにコンパイルするときに使用されるコンパイラ・オプション。

GRAPHIC

選択されると、GRAPHIC

コンパイラ・オプションを使用します。そうでない場合は、NOGRAPHIC を使用します。

63 bit binary (63 ビット 2 進数)

選択されると、LIMITS(FIXEDBIN(63))

コンパイラ・オプションを使用します。そうでない場合は、LIMITS(FIXEDBIN(31))
を使用します。

UNALIGNED

選択すると、PL/I コピーブックのコンパイル時に、DEFAULT RANGE (*) UNALIGNED
を使用します。これは構造調整用のデフォルトを変更します。

31 digit decimal (31 ビット 10 進数)

選択されると、LIMITS(FIXEDDEC(31))

コンパイラ・オプションを使用します。そうでない場合は、LIMITS(FIXEDDEC(15))
を使用します。

追加オプション

テンプレートの作成または更新のために PL/I コンパイルを実行する際に、*PROCESS
ステートメントによって追加された、追加の PL/I
コンパイラ・オプション。これらのオプションは、コンパイル処理中に妥当性検査されます。
コンパイル・エラーを回避するには、構文が正しいこと、および File Manager を呼び出す前に
これらのオプションで必要な追加データ・セットがすべて割り振られていることを確認します。

最大戻りコード

コピーブックのコンパイル時に、コンパイラで受け入れられる最大の警告コードおよび
エラー・コードを設定します。指定より高いコードがあると、ポップアップ・パネルが File
Manager によって表示され、コンパイルを検討し、以降の処理について決定することができま
す。

これらのコンパイラ・オプションの効果については、*IBM VisualAge PL/I for OS/390 Programming
Guide* を参照してください。

親パネル

- ・ [\[Settings Menu \(設定メニュー\)\] パネル ページ 428](#)

子パネル

- ・ なし。

「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネル

「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネルは、「Settings Menu (設定メニュー)」でオプション 1
を選択すると表示されます。

このパネルを使用すると、File Manager 機能により生成される印刷出力の選択済みオプションを表示および変更することができます。

パネルとフィールドの定義

図 102. 「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」パネル

```

FM/IMS                               Set Print Processing Options

Print Options:
  Output destination      Record length      Enter "/" to select option
  1. SYSPRINT            1. 80              / Page skip
  2. Terminal            2. 132             / Wide print
  3. Data set             / Translate non-printable chars
  4. REXX                 / Uppercase message text
                               / Data prefix
                               / Header page

Data set DISP            Dump format
  1. OLD                  1. Updown
  2. MOD                   2. Across

Data set name . . . JHELVON.FMN.LIST
Output class . . . A
Lines per page . . . 50
Record limits . . . (1,*) (n,m) n=begin column, m=end column

Command ==>
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetrieval  F6=Reset      F7=Backward
F8=Forward   F9=Swap        F10=Actions  F12=Cancel

```

FM/IMS は、以下のタイプの印刷出力を作成できます。

- 監査証跡報告書。
- 抽出報告書。
- ロード報告書。
- データのブラウズまたは編集集中に DPRINT コマンドによって印刷されるデータ。
- 次のユーティリティー機能によって印刷されるデータ: 印刷、バッチ編集、またはバッチ・ブラウズ。

特に指定されない限り、以下のオプションは、すべてのタイプの印刷出力 (ユーティリティー機能を除く) に適用されます。

Output destination (出力宛先)

バッチ実行以外の印刷出力の送信先を指定します。

SYSPRINT

現行の SYSPRINT 割り振りに、印刷出力を送信します。

Terminal (端末)

印刷出力を TSO 端末に送信します。

Data Set (データ・セット)

出力は、「Data set name (データ・セット名)」フィールドに指定される印刷データ・セットに累積されます。このデータ・セットは、PB コマンドを使用してブラウズできます。あるいは、PRINT コマンドを使用して、「Output class (出力クラス)」フィールドにクラスを指定して、ブラウズ中に印刷のために JES スプール・キューに送信することもできます。

REXX

出力を REXX ステム変数に送信します。各行は、FILEM.*nnn* という変数に対応します。FILEM.0 には行数が含まれます。

「Print Browse (印刷ブラウズ)」（オプション 3.9）で PRINT 基本コマンドを使用している場合、または File Manager パネルでバッチ実行を指定している場合は、印刷出力は常に SYSOUT クラスに送信されます。

Record length (レコード長)

印刷出力の行長を指定します。

80

印刷出力の行長は 80 文字で、端末に適しています。

132

印刷出力の行長は 132 文字で、プリンターに適しています。



注: 「Record length (レコード長)」は、以下の場合には適用されません。

- データが TABL 形式で印刷される。または
- 比較出力リスト用に幅の広い形式を指定する。

上記のいずれかの場合にデータを印刷すると、行の長さは、印刷されるフィールドの数とサイズから決定されます。この長さがデータ・セットに指定されたレコード長より大きい場合は、印刷行は切り捨てられます。印刷行の最大長は 32760 文字です。

Data set DISP (データ・セット DISP)

印刷データ・セットの後処理を指定します。

OLD

各印刷操作の前に印刷データ・セットがクリアされ、印刷出力はデータ・セットの先頭から書き込まれます。

MOD

デフォルト設定。印刷出力は、既存の印刷データ・セットに付加されます。

Dump format (ダンプ形式)

16 進の印刷出力の形式を指定します (例えば、**「Print format (印刷形式)」** を「HEX」に設定したときにテープ印刷を使用する場合)。各形式の例については、[表示形式の選択 ページ 63](#)を参照してください。

Across (横方向)

16 進数字は、4 つのフルワードからなる 2 つのグループとなっているため、32 個の 16 進数字となり、16 進表示の右側に EBCDIC 文字表示が続きます。例:

Data prefix (データ接頭部)

これを選択すると、データを CHAR または LHEX 印刷形式で印刷するときに、レコード・ヘッダー情報 (レコード番号や長さなど) が、文字形式の印刷出力に組み込まれます。

これを選択しない場合、DATAHDR=NO を指定して、印刷出力内のデータをヘッダー情報なしで左寄せにすることができます。

Header page (ヘッダー・ページ)

これを選択すると、ヘッダー・ページ (File Manager のタイトル・ページ) が印刷出力に組み込まれます。

「Output destination (出力宛先)」で「2」(端末)を指定した場合、このオプションを選択しても、ヘッダー・ページは印刷出力に組み込まれません。

データ・セット名

「Output destination (出力宛先)」で「3」(データ・セット)を指定した場合、印刷ブラウザ (PB) 機能を実行しているときに PRINT コマンドを入力すると、File Manager は印刷出力をこの一時データ・セットに送信します。

FMN のインストール済み環境で変更を行っていない限り、デフォルトは *userid.File Manager.LIST* です。

Output class (出力クラス)

一時印刷データ・セットをブラウザしているときに PRINT コマンドを発行する場合に使用される JES スプール・キューのクラス。

Lines per page (ページ当たり行数)

印刷出力の各ページに印刷される行数を指定します。1 から 999 までの値が指定できます。デフォルトは 60 です。

Record limits (レコード制限)

データを CHAR または LHEX 印刷形式で印刷するときに、各レコード (または OAM オブジェクト) の印刷出力を制限します。

(1,*)

レコード (またはブロック) の全体が印刷されます。

(n,m)

印刷出力を *n* 桁目 (バイト目) から *m* 桁目 (バイト目) のデータに制限します。*m* にアスタリスク (*) を指定すると、レコードの終わりまでの意味になります。

LVL Segment	Description	Concatenated Key
001	SUBURB	BEACONSFIELD
000000	C2C5C1C3 D6D5E2C6 C9C5D3C4 40404040	4040F6F1 F6F240C2 F2F5F2F0 F0F1F5C6 *BEACONSFIELD 6162 B2520015F*
000020	D9C5D4C1 D5E3D3C5 40404040 40F0F0F2	F3F2F0F4 F1F1F5F4 F6C2C3D5 C6C4 *REMANTLE 002320411546BCNFD *

親パネル

- 「Settings Menu (設定メニュー)」 パネル ページ 428

子パネル

- なし。

「Set Temporary Data Set Allocation Options (一時データ・セット割り振りオプション設定)」 パネル

「Set Temporary Data Set Allocation Options (一時データ・セット割り振りオプション設定)」 パネルは、「Settings Menu (設定メニュー)」でオプション 7 を選択すると表示されます。

このパネルを使用すると、FM/IMS 機能によって作成される一時データ・セットに、選択した割り振りパラメーターを指定することができます。

パネル上のすべてのパラメーターをインストールのデフォルトに再設定するには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保存してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保存せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 103. 「Set Temporary Data Set Allocation Options (一時データ・セット割り振りオプション設定)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Set Temporary Data Set Allocation Options	
Temporary data set allocation defaults:		
Unit	SYSALLDA	leave blank for default
Data class	_____	leave blank for default
Storage class	_____	leave blank for default
Management class	_____	leave blank for default
Default High Level Qualifiers:		
Temporary Data Sets	_____	HLQ (opt. &USER/&PREFIX)
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions
		F4=CRetriev
		F6=Reset
		F7=Backward
		F12=Cancel

Temporary data set allocation defaults (一時データ・セット割り振りデフォルト)

Unit (装置)

以下のいずれかにすることができます。

- 3桁の16進数の装置番号。
- スラッシュ (/) の接頭部が付いた4桁の16進数の装置番号。

- 装置タイプ (総称名)。
- グループ名 (インストール・システム定義のシンボル名)。

Data class (データ・クラス)

ご使用の Storage Management System (SMS)
インストール済み環境で定義されるデータ・クラスの名前。SMS
のないシステムに値を入力しないようにしてください。

Storage class (ストレージ・クラス)

ご使用の Storage Management System (SMS)
インストール済み環境で定義されるストレージ・クラスの名前。SMS
のないシステムに値を入力しないようにしてください。

Management class (管理クラス)

ご使用の Storage Management System (SMS)
インストール済み環境で定義される管理クラスの名前。SMS
のないシステムに値を入力しないようにしてください。

Default High Level Qualifiers (デフォルト高位修飾子)

Temporary Data Sets (一時データ・セット)

任意の複数レベルの修飾子 (作成されたデータ・セットの名前での高位修飾子 (HLQ) として File Manager によって使用される) にすることができます。HLQ の一部として、以下のシンボルを使用することができます。

&USER

ユーザー ID を表します。

&PREFIX

TSO 接頭部を表します。

File Manager のインストール済み環境で変更を行っていない限り、デフォルトは「なし」です。

親パネル

- [「Settings Menu \(設定メニュー\)」 パネル ページ 428](#)

子パネル

- なし。

「Set Trace options (トレース・オプションの設定)」 パネル

「Set Trace options (トレース・オプションの設定)」 パネルは、「Settings Menu (設定メニュー)」でオプション 9 を選択すると表示されます。

このパネルを使用すると、デバッグ・モードで実行されるときに FM/IMS によって生成されるトレース出力を制御するパラメーターを表示および変更できます。

パネル上のすべてのパラメーターをインストールのデフォルトに再設定するには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保存してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保存せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 104. 「Set Trace options (トレース・オプションの設定)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Set Trace options	
Trace Options:		
Trace destination		
3	1. FMNTRC	
	2. Terminal	
	3. Data set	
Data set name	JHELVON.FMN.TRACE	
Output class	. A	
Trace limit	. 500	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F4=CRetriev	F6=Reset	F7=Backward
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions
F12=Cancel		

Trace destination (トレース宛先)

FM/IMS のデバッグ・トレース出力の送信先を指定します。以下のいずれかを指定します。

FMNTRC

トレース出力を現在の FMNTRC 割り振りに送信します。

Terminal (端末)

トレース出力を端末に送信します。

データ・セット

トレース出力を「Data set name (データ・セット名)」フィールドに指定される一時データ・セットに送信します。

データ・セット名

「Trace destination (トレース宛先)」で「Data set (データ・セット)」を選択した場合に、FM/IMS のトレース出力の送信先となる一時トレース・データ・セット。

Output class (出力クラス)

一時トレース・データ・セットの参照中に PRINT コマンドが発行されたときに使用される JES スプール・キューのクラス。

Trace limit (トレース制限)

デバッグ・モードでの実行時には、FM/IMS はトレース出力をバッファーに書き込みますが (通常のデバッグ・モードの場合と同様)、FM/IMS が異常終了した場合は、バッファーはトレース宛先にのみ書き込まれます。

このフィールドは、バッファーに保持されるトレース・ステートメントの数を指定します。この値にゼロを指定すると、バックグラウンド・デバッグ・モードはオフになります。

親パネル

[\[Settings Menu \(設定メニュー\)\]](#) パネル ページ 428

子パネル

なし。

関連トピックおよび例

[Settings Menu (設定メニュー)] パネル

[Settings Menu (設定メニュー)] パネルは、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」でオプション 0 を選択すると表示されます。

このメニューでは、必要な設定パネルを選択します。

パネルとフィールドの定義

図 105. 「Settings (設定)」メニュー

<u>P</u> rocess	<u>O</u> ptions	<u>H</u> elp
FM/IMS		Settings Menu
1	Print	Print settings
2	System	System settings
3	Batch	Job card specifications
4	Compiler	Language and compiler specifications
5	EDIT	Editor options
6	Subsystem	IMS subsystem settings
7	Temporary	Temporary Data Set Allocations
8	Output	Output Data Set Allocations
9	Trace	Trace options
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
F4=CRetriev	F7=Backward	F8=Forward

1 Print (印刷)

「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」 パネルを表示します。

2 System (システム)

「System Settings (システム設定)」 パネルを表示します。

3 Batch (バッチ)

「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」 パネルを表示します。

4 Compiler (コンパイラー)

「Set Language and compiler specifications (言語およびコンパイラー仕様の設定)」 パネルを表示します。

5 EDIT

「Editor Options (エディター・オプション)」 パネルを表示します。

6 Subsystem (サブシステム)

「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」 パネルを表示します。

7 Temporary (一時)

「Set Temporary Data Set Allocation Options
(一時データ・セット割り振りオプション設定)」 パネルを表示します

8 Output (出力)

「Set Output Data Set Allocation Options
(出力データ・セット割り振りオプション設定)」 パネルを表示します。

9 Trace (トレース)

「Set Trace options (トレース・オプションの設定)」 パネルを表示します。

親パネル

- [Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\) ページ 373](#)

子パネル

パネル	Action (アクション)
「Set Print Processing Options (印刷処理オプションの設定)」 パネル ページ 420	オプション 1
「System Settings (システム設定)」 パネル ページ 437	オプション 2
「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」 パネル ページ 411	オプション 3
「Set Language and compiler specifications (言語およびコンパイラー仕様の設定)」 パネル ページ 415	オプション 4
「Editor Options (エディター・オプション)」 パネル ページ 293	オプション 5

パネル	Action (アクション)
[Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)] パネル ページ 435	オプション 6
[Set Temporary Data Set Allocation Options (一時データ・セット割り振りオプション設定)] パネル ページ 425	オプション 7
[Set Output Data Set Allocation Options (出力データ・セット割り振りオプション設定)] パネル ページ 416	オプション 8
[Set Trace options (トレース・オプションの設定)] パネル ページ 426	オプション 9

「Subset Selection (サブセット選択)」 パネル

「Subset Selection (サブセット選択)」 パネルは、以下の場合に表示されます。

- ・ 「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」 パネルで基準セットを編集する。
- ・ 「Extract Entry (抽出項目の入力)」 パネルで、 「Edit Criteria (基準の編集)」 オプションおよび 「Criteria usage (基準の使用)」 に 「Existing (既存)」 を選択するか、あるいは 「Criteria usage (基準の使用)」 に 「New (新規)」 を選択する。

「Subset Selection (サブセット選択)」 パネルは、指定された基準セットの基準サブセットのリストを表示します。

パネルとフィールドの定義

図 106. 「Subset Selection (サブセット選択)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Criteria : Subset Selection
Criteria	FMN.IMS.IVP.CRITERIA(SHIRE)	
Template	FMS.IMS.IVP.TEMPLATE(DJ1E)	
	Sub	
Cmd	Sel	set Criteria subset description
-	*	R Relationship criteria
-	*	1 ccc
-	****	End of data ****
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions
	F4=CRetriev	F6=Describe
	F7=Backward	F12=Cancel
		Scroll PAGE

Criteria (基準)

編集中の基準セットが含まれているデータ・セットの名前を表示します。

テンプレート

これには、テンプレートの作成元であるテンプレートが入っている区分データ・セットの名前が表示されます。

各基準サブセットごとに、以下のフィールドが表示されます。

Sel (選択)

以下の2つの値のいずれかが含まれます。

*

基準サブセットが処理用に選択されていること、すなわち、指定された基準はセグメント・オカレンスを抽出用に選択するために使用されることを示します。

空白

それ以外の場合。

Subset (サブセット)

基準サブセットを識別するために FM/IMS が割り当てる数または文字。次のいずれかの値が含まれます。

R

関係基準サブセットの場合。

1 ~ 255

フィールド基準サブセットの場合。

Criteria subset description (基準サブセットの記述)

フィールド基準サブセットの場合、これは、「Segment Selection (セグメント選択)」パネルに記載された記述です。FM/IMS は、関係基準サブセットに関する記述を提供しません。

Cmd (コマンド)

このパネルで使用可能な行コマンドは、以下の通りです。

s

選択。処理用の基準サブセットを選択または選択解除します。基準サブセットの「Sel」フィールドは、サブセットが選択された場合は * に変更され、選択解除された場合はブランクになります。

e

編集。基準サブセットを編集します。この基準サブセットにある抽出選択基準を編集することができます。関係基準サブセットの場合には、「Relationship Criteria (関係基準)」パネルが表示されます。フィールド基準サブセットの場合には、「Segment Selection (セグメント選択)」パネルが表示されます。

i

挿入。新規のフィールド基準サブセットを作成します。「Segment Selection (セグメント選択)」パネルが表示されます。

d

削除。基準サブセットを抽出基準セットから削除します。

r

繰り返し。基準サブセットを繰り返します。

親パネル

- [「Criteria Set Entry \(基準セットの入力\)」パネル ページ 243](#)
- [「Extract Entry \(抽出項目の入力\)」パネル ページ 297](#)

子パネル

- [「Relationship Criteria \(関係基準\)」パネル ページ 394](#)
- [「Segment Selection \(セグメント選択\)」パネル ページ 409](#)

「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル

「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネルは、以下のパネルでサブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に表示されます。

- [「Browse Entry \(ブラウズ項目の入力\)」パネル](#)
- [「Edit Entry \(編集項目の入力\)」パネル](#)
- [「Delete/Define Entry \(項目の削除/定義\)」パネル](#)
- [「Initialize Entry \(項目の初期化\)」パネル](#)
- [「Extract Entry \(抽出項目の入力\)」パネル](#)
- [「Load Entry Panel \(ロード項目の入力パネル\)」](#)
- [「Print Entry \(印刷項目の入力\)」パネル](#)
- [「Batch Edit Entry \(バッチ編集項目の入力\)」パネル](#)
- [「Batch Browse Entry \(バッチ・ブラウズ項目の入力\)」パネル](#)
- [「Subsystem Settings Menu \(サブシステム設定メニュー\)」パネル](#)

サブシステム名が指定されない場合、FM/IMS インストール・オプション・モジュールに指定されているすべての IMS サブシステムがパネルに表示されます。サブシステム名パターンが指定された場合、FM/IMS インストール・オプション・モジュールに指定された、そのパターンに名前が一致するすべての IMS サブシステムがパネルに表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 107. 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル

Process	Options	Help							
FM/IMS									
Browse : Subsystem Selection									
Cmd	SSID	Status	IMS VER	Read Only	PSB Types	Region Types	AGNs Used	Description	
___	IFA2	ACTIVE	10	N	BOTH	BOTH	N	IFA2 v10 any PSB all unprotect	
___	IFB2	ACTIVE	10	N	BOTH	BOTH	N	IFB2 v10 any PSB	
___	IF32	ACTIVE	10	N	BOTH	BOTH	N	IF32 v10 DYN PSB all unprotect	
___	IF22	ACTIVE	10	N	BOTH	BOTH	N	IF22 v10 STAT PSB all protect	
___	IFC2	INACT.		N	BOTH	BOTH	N	IFC2 v11 any PSB all unprotect	
___	IFD2	INACT.		N	BOTH	BOTH	N	IFD2 v11 any PSB all protect	
___	IFE2	ACTIVE	12	N	BOTH	BOTH	N	IFE2 v12 any PSB all protect	
___	IF52	ACTIVE	9	N	BOTH	BOTH	N	IF52 - BOTH all unprotect	
___	IF42	ACTIVE	9	N	BOTH	BOTH	N	IF42 - BOTH, not protected	
___	IF12	ACTIVE	11	N	BOTH	BOTH	N	IF12 - IMSV11 - DBRC=FORCE	
****			End of data	****					
Command ==>								Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F7=Backward	F8=Forward				
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel							

Cmd (コマンド)

選択入力フィールド

サブシステムを選択するには、**「Cmd」** フィールドに「s」を入力し、Enter キーを押します。以下のものに対してのみ、サブシステムを選択することができます。

- サブシステムが読み取り専用として定義されていない場合の「編集」、「削除/定義」、「初期化」、「ロード」、および「バッチ編集」。
- サブシステムがアクティブであり、DLI モードのみとして定義されていない場合の BMP モードで実行される機能。
- サブシステムが BMP モードのみとして定義されていない場合の DLI モードで実行される機能。
- サブシステムが静的 PSB のみとして定義されていない場合の動的 PSB を使用する機能。
- サブシステムが動的 PSB のみとして定義されていない場合の静的 PSB を使用する機能。
- サブシステムが DLI モードのみとして定義されていない場合の BMP モード設定パネル。
- サブシステムが BMP モードのみとして定義されていない場合の DLI モード設定パネル。



注: サブシステムを選択できない場合、**「Cmd」** フィールドは保護されます。

SSID

IMS サブシステム ID。サブシステムを選択できる場合、サブシステム ID が強調表示されます。

Status (状況)

サブシステムの現在の状況。サブシステムは、ACTIVE でも INACTIVE でも構いません。

IMS VER

サブシステムが実行している IMS のバージョン。バージョン番号が表示されるのは、サブシステムの現在の状況がアクティブである場合だけです。

Read Only (読み取り専用)

FM/IMS

インストール・オプション・モジュールで、サブシステムが読み取り専用として定義されているかどうか (それぞれ、Y または N)。編集、削除/定義、初期化、ロード、およびバッチ編集の場合に、FM/IMS はユーザーが読み取り専用サブシステムを選択できないようにしています。



注: サブシステムは、一方の領域タイプ (DLI または BMP) では読み取り専用として、および他方の領域タイプでは非読み取り専用として定義できます。

PSB Types (PSB タイプ)

サブシステムでデータベースへのアクセスに使用することができる以下の PSB タイプ。

BOTH

動的 PSB および静的 PSB の両方を使用することができます。

STAT

静的 PSB のみを使用することができます。

DYN

動的 PSB のみを使用することができます。

FM/IMS では、以下を選択することはできません。

- 動的 PSB を使用する機能に対する静的 PSB のみのサブシステム。
- 静的 PSB を使用する機能に対する動的 PSB のみのサブシステム。

BMP モードでのサブシステムへのアクセスに使用することができる PSB タイプは、DLI モードでのサブシステムへのアクセスに使用することができる PSB タイプとは異なる場合があります。

Region Types (領域タイプ)

サブシステムでデータベースへのアクセスに使用することができる以下の領域タイプ。

BOTH

BMP 領域および DLI 領域の両方を使用することができます。

BMP

BMP 領域のみを使用することができます。

DLI

DLI 領域のみを使用することができます。

FM/IMS では、以下を選択することはできません。

- DLI モードで実行される機能に対する BMP モードのみのサブシステム。
- DLI モード設定パネルに対する BMP モードのみのサブシステム。

- BMP モードで実行される機能に対する DLI モードのみのサブシステム。
- BMP モード設定パネルに対する DLI モードのみのサブシステム。

AGN Used (AGN の使用)

サブシステムが AGN を使用して従属領域を保護するかどうか (それぞれ、Y または N)。

Description (説明)

FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されたサブシステム記述。

リストされたサブシステムの状況を最新表示するには、REFRESH 基本コマンドを使用します。

親パネル

- 「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」 パネル ページ 208
- 「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」 パネル ページ 215
- 「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」 パネル ページ 435
- 「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」 パネル ページ 229
- 「Delete/Define Entry (項目の削除/定義)」 パネル ページ 271
- 「Edit Entry (編集項目の入力)」 パネル ページ 286
- 「Extract Entry (抽出項目の入力)」 パネル ページ 297
- 「Initialize Entry (項目の初期化)」 パネル ページ 344
- 「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」 ページ 361
- 「Print Entry (印刷項目の入力)」 パネル ページ 379

「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」 パネル

「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」 パネルは、「Settings Menu (設定メニュー)」でオプション 6 を選択すると表示されます。

このメニューで、以下の指定を行います。

- 必要なサブシステム設定パネル。
- 設定する IMS サブシステムの ID。

パネルとフィールドの定義

図 108. 「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS Subsystem Settings Menu		
DLI mode settings		
1 Parameters	Parameters passed to the IMS region controller	
2 Data sets 1	DFSVSAMP, RESLIB and IMS macros data set names	
3 Data sets 2	RECON, ACBLIB and IMS log data set names	
4 Options	Autosave, checkpoint frequencies and PROCOPTs	
BMP mode settings		
5 Parameters	Parameters passed to the IMS region controller	
6 Options	Autosave, checkpoint frequencies and PROCOPTs	
DLI and BMP mode settings		
7 Data sets 1	PSB and DBD data set names	
8 Data sets 2	Template data set names	
IMS Subsystem Name	<u>IF52</u>	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
F4=CRetriev	F7=Backward	F8=Forward

「Command (コマンド)」行には、以下を入力します。

1 (「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネルを使用する場合)

「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネルを使用すると、File Manager/IMS 機能が BMP モードで実行されるときに IMS 領域コントローラーに渡されるパラメーターを表示および変更できます。

2 (「DLI Mode Data Sets 1 (DLI モード・データ・セット 1)」パネルを使用する場合)

「DLI Mode Data Sets 1 (DLI モード・データ・セット 1)」パネルを使用すると、DLI モードで実行されるときに FM/IMS 機能によって使用される、DFSVSAMP、RESLIB、および IMS マクロ・データ・セットの名前を表示および変更できます。

3 (「DLI Mode Data Sets 2 (DLI モード・データ・セット 2)」パネルを使用する場合)

「DLI Mode Data Sets 2 (DLI モード・データ・セット 2)」パネルを使用すると、DLI モードでの実行時に、FM/IMS 機能によって使用される RECON、ACBLIB、および IMS ログ・データ・セットの名前を表示および変更できます。

4 (「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」パネルを使用する場合)

「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」パネルを使用すると、BMP モードで実行されるときに FM/IMS 機能によって使用される選択済みオプションを表示および変更できます。

5 (「BMP Mode Parameters (BMP モード・パラメーター)」パネルを使用する場合)

「BMP Mode Parameters (BMP モード・パラメーター)」パネルを使用すると、File Manager/IMS 機能が BMP モードで実行されるときに IMS 領域コントローラーに渡されるパラメーターを表示および変更できます。

6 (「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」パネルを使用する場合)

「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」パネルを使用すると、BMP モードで実行されるときに FM/IMS 機能によって使用される選択済みオプションを表示および変更できます。

7 (「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルを使用する場合)

「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネルを使用すると、FM/IMS 機能によって使用される PSB および DBD データ・セットの名前を表示および変更できます。

8 (「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネルを使用する場合)

「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネルを使用すると、FM/IMS 機能によって使用されるテンプレート・データ・セットの名前を表示および変更できます。

IMS Subsystem Name (IMS サブシステム名)

設定の対象である IMS サブシステムの ID

を入力します。このフィールドをブランクにするか、またはパターンを入力し、FM/IMS

インストール・オプション・モジュールにこのパターンに一致するサブシステム名がある場合は、

「Subsystem Selection

(サブシステム選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるサブシステムのリストから、サブシステムを選択することができます。

親パネル

- ・ [「Settings Menu \(設定メニュー\)」パネル ページ 428](#)

子パネル

- ・ なし。

「System Settings (システム設定)」パネル

「System Settings (システム設定)」パネルを使用すると、FM/IMS 機能によって使用される選択済みオプションを表示および変更することができます。

このパネルは、「Settings Menu (設定メニュー)」でオプション 2 を選択すると表示されます。

FM/IMS 管理者が、パネル上に表示されたオプションの一部またはすべての値を修正している場合があります。オプションが修正された場合は、パネル・フィールドが保護され、指定された値を変更できなくなります。

オプションが修正されていない場合は、オプションに指定された値を変更できます。

パネル上のすべてのオプションをインストールのデフォルトにリセットするには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保存してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保存せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 109. 「System Settings (システム設定)」パネル

Process	Options	Help			
FM/IMS	System Settings				
Options:					
Enter "/" to select option					
_ Fast PSB validation					
Editor choice for viewing/editing members and output data					
1 1. ISPF editor					
2. File Manager base editor					
Parameters:					
Pad character	_____ (Character or hex value)			
Default CCSID	0_____			
Command ==>					
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F7=Backward	F8=Forward
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel			

オプション:

Fast PSB validation (高速 PSB 検証)

多数の PCB を持つ静的 PSB を使用しており、「Edit Entry (編集項目の入力)」パネル、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネル、「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネル、「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」、「Print Entry (印刷項目の入力)」パネル、「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネル、または「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」パネルで、Enter キーを押したときに応答時間が遅い場合は、このオプションを選択します。

指定する PSB の完全な検証を行うために、FM/IMS では PSB 内の各 PCB ごとに DBD をロードします。これにより応答時間が遅くなる場合があります。

このオプションを選択すると、FM/IMS では、PSB 内の各 PCB ごとに DBD をロードしません。無効な PSB を使用しようとしたときに、このオプションが選択されている場合、IMS への接続時に IMS が異常終了することがあります (このオプションが選択されていない場合は、File Manager/IMS のエラー・メッセージが出されます)。ただし、多くのユーザーは、応答時間の高速化を除くと、2つの設定の違いを意識することはありません。

Editor choice for viewing/editing members and output data

(メンバーおよび出力データの表示/編集のためのエディター選択)

以下の場合に、FM/IMS がエディターを起動します。

- 編集、表示、またはブラウズのためにメンバーを選択する。
- 生成した出力を表示する。

1.ISPF エディター。

FM/IMS は ISPF エディターを起動します。

2.File Manager Base component エディター (editor)

FM/IMS は File Manager Base component エディターを起動します。

Parameter (パラメーター):

Pad character (埋め込み文字)

この値は、ビューを使用していないときに、可変長セグメントの長さを拡張するか新規セグメントを挿入する場合に、セグメントを埋め込むために使用されます。単一文字または 16 進値が可能です (例えば X'00' のように、X と、その後の一重引用符で囲んだ 2 桁の 16 進文字を入力します)。

SNGL または TABL 表示形式では、セグメントには、常に X'00' (ヌル) 文字を埋め込みます。

Default CCSID (デフォルト CCSID)

FM/IMS バッチ印刷機能 IPR のデフォルト CCSID として使用する CCSID を指定します。

親パネル

- [\[Settings Menu \(設定メニュー\)\] パネル ページ 428](#)

子パネル

- なし。

「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネル

「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネルを使用すると、FM/IMS 機能によって使用されるテンプレート・データ・セットの名前を表示および変更できます。

このパネルは、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」パネルでオプション 8 を選択すると表示されず。

「Subsystem (サブシステム)」フィールドには、「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」パネルで指定した IMS サブシステム ID が表示されます。

パネルには、この IMS サブシステム ID が機能の入力パネルで指定されている場合に、オンライン FM/IMS 機能が使用するデータ・セット名が表示されます。

FM/IMS 管理者が、パネル上に表示されたデータ・セット名の一部またはすべての値を修正している場合があります。データ・セットが修正された場合は、パネル・フィールドが保護され、指定された値を変更できなくなります。

データ・セットが修正されていない場合は、データ・セットに指定された値を変更できます。

パネル上のすべてのデータ・セット名をそのサブシステムのデフォルトにリセットするには、RESET コマンドを入力します。

変更内容を保管してパネルを終了するには、EXIT コマンド (F3) を入力します。

変更内容を保管せずにパネルを終了するには、CANCEL コマンド (F12) を入力します。

パネルとフィールドの定義

図 110. 「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Template Data Sets	
Subsystem IF52 IF52 - DYNAMIC, all unprotect		
Template:		
Data set name #1	'FMN.REGTEST.IMS.TEMPLATE.PLI'	
Data set name #2	'FMN.REGTEST.IMS.TEMPLATE.COBOL'	
Data set name #3	'FMN.REGTEST.IMS.TEMPLATE'	
Data set name #4	'FMN.REGTEST.IMS.RFM0712.TEMPL8\$1'	
Data set name #5	'FMN.REGTEST.IMS.RFM0712.TEMPL8\$2'	
Data set name #6	'FMN.REGTEST.IMS.RFM0712.TEMPL8\$3'	
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
	F8=Forward	

Template (テンプレート)

FM/IMS 機能が使用するテンプレートを含むライブラリーの名前。

親パネル

- ・ [「Subsystem Settings Menu \(サブシステム設定メニュー\)」 パネル ページ 435](#)

「Template Entry (テンプレート項目の入力)」 パネル

「Template Entry (テンプレート項目の入力)」 パネルは、「Template (テンプレート)」 ダイアログの最初のパネルです。これは、「Template/View/Criteria Set Menu (テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー)」 でオプション 1 (「Templates (テンプレート)」) を選択すると表示されます。

「Template (テンプレート)」 ダイアログを使用すると、IMS データベースのテンプレートを作成または更新できます。

このパネルでは、以下の指定を行います。

- 更新するテンプレートを含む区分データ・セットの名前、または新規テンプレートを保管する区分データ・セットの名前。
- 更新する既存のテンプレート・メンバーの名前、または新規テンプレートを保管する新規メンバーの名前。
- (新規メンバーを指定する場合) テンプレート関数での DBD の取得元にする IMS カタログまたは DBD ライブラリーのいずれか。



注: IMS データベースのテンプレートを保管できるのは、区分データ・セット (PDS または PDSE) のみです。これは、データベースと同じ名前のメンバーに保管されます。

パネルとフィールドの定義

図 111. 「Template Entry Panel (テンプレート項目の入力パネル)」

Process	Options	Help
FM/IMS		Template Entry Panel
Template:		
Data set name . . . 'FMN.IMS.IVP.TEMPLATE'		
Member		
IMS:		
Subsystem name . . IFG1		
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
F4=CRetrieve	F7=Backward	F8=Forward

Template (テンプレート)

Data set name (データ・セット名)

新規テンプレートを保管する PDS(E) の名前、または更新するテンプレートを含む PDS(E) の名前。

Member (メンバー)

更新する既存のテンプレート・メンバーの名前、またはテンプレート・データ・セットに存在しないメンバーの名前。存在しないメンバーを指定した場合、「Template (テンプレート)」ダイアログでは、指定した名前データベースのテンプレートが作成され、指定した名前の新規メンバー内に保管されます。

メンバー名を入力しなかった場合、またはメンバー名パターンを入力した場合は、「Template Member Selection (テンプレート・メンバー選択)」パネルが表示されます。パネルに表示されるテンプレートのリストから、テンプレートを選択することができます。

Subsystem name (サブシステム名)

存在しないテンプレート・メンバーを指定する場合は、このフィールドを使用して、テンプレート関数での DBD の取得元にする IMS カタログまたは DBD ライブラリーのいずれかを指定します。

IMS 管理 ACB を使用するサブシステムを指定する場合は、この関数は、サブシステムが使用する IMS カタログから DBD を取得します。

IMS 管理 ACB

を使用しないサブシステムを指定すると、この関数は、指定されたサブシステムの DBD ライブラリーを取得し、それらを「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネルに表示します。そのパネルに表示される DBD ライブラリーを使用するか、または必要に応じてリストを更新することができます。

サブシステム名を入力しなかった場合、またはサブシステム名パターンを入力した場合に、「サブシステム選択」パネルが表示されます。パネルに表示されるサブシステムのリストから、サブシステムを選択することができます。



注: 既存のテンプレート・メンバーを指定すると、このフィールドは無視されます。

親パネル

- [「Template/View/Criteria Set Menu \(テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー\)」](#) パネル ページ 456

子パネル

- [「Copybook Library List \(コピーブック・ライブラリー・リスト\)」](#) パネル ページ 238
- [「DBD Library List \(DBD ライブラリー・リスト\)」](#) パネル ページ 269
- [「IMS Catalog Specification \(カタログ指定\)」](#) パネル ページ 330
- [「Template Specification \(テンプレート指定\)」](#) パネル ページ 444

「Template Member Selection (テンプレート・メンバー選択)」パネル

「Template Member Selection (テンプレート・メンバー選択)」パネルは、「Template Entry Panel (テンプレート項目の入力パネル)」、「View Entry (ビュー項目の入力)」パネル、「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネル、または「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」パネルで、テンプレート・メンバー名を指定していないか、またはテンプレート・メンバー・パターンを指定した場合に表示されます。

テンプレート・メンバー名を指定しなかった場合、テンプレート・データ・セット内のすべてのメンバーがパネルに表示されます。テンプレート・メンバー・パターンを指定した場合、そのパターンに名前が一致するすべてのメンバーがパネルに表示されます。

基準メンバーを選択するには、「Cmd」フィールドに「s」を入力し、Enter キーを押します。

「Template Entry Panel (テンプレート項目の入力パネル)」、 「View Entry (ビュー項目の入力)」 パネル、または 「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」 パネルで、このフィールドに選択リストが表示される場合、選択できるメンバーは1つのみです。「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」 パネルで、このフィールドに選択リストが表示される場合、複数のメンバーを選択できます。

このパネルでは、以下を実行することもできます。

- 表示されるメンバー属性を選択する。
- メンバー属性の表示順序を選択する。
- 各メンバー属性を表示する列の幅を指定する。
- 表示されるメンバー属性のいずれかでメンバー・リストをソートする。
- メンバー属性パターンを使用して、メンバー・リストをフィルターに掛ける。
- メンバーをブラウズまたは表示する。

「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」 パネルで、このフィールドに選択リストが表示される場合、テンプレート・エディターを使用して、表示されるテンプレート・メンバーを編集して保管することもできます。

パネル・フィールドおよび機能の詳細については、「ユーザズ・ガイドおよびリファレンス」の『Member Selection panel』を参照してください。

パネルとフィールドの定義

図 112. 「Template Member Selection (テンプレート・メンバー選択)」 パネル

Process		Options		Help		
FM/IMS		Template Member List				Row 00001 of 00134
DSNAME FM.XTEST.TEMPLATE						
Name	Prompt	Typ	Created	Updated	Lang	Ver Descri ▶
*	*	*	*	*	*	*
_____ ABND		TP	2006/04/11	2008/03/16	18:50:20	COBOL 2
_____ AHRD		TP	2009/07/28	2009/07/28	21:47:53	COBOL 2
_____ ATRD		TP	2009/08/12	2009/08/12	14:55:48	COBOL 2
_____ AUBD		TP	2009/03/04	2010/01/20	11:33:28	COBOL 2
_____ AXXD		TP	2008/09/24	2008/09/24	16:35:21	COBOL 2
_____ A00D		TP	2010/05/10	2010/05/10	15:37:52	COBOL 2
_____ A01D		TP	2005/06/22	2008/03/16	18:50:23	COBOL 2
_____ A02D		TP	2005/08/29	2008/03/16	18:50:24	COBOL 2
_____ A03D		TP	2009/10/15	2009/10/15	11:35:43	COBOL 2
_____ A04D		TP	2009/10/08	2009/10/08	16:34:09	PL/I 2
_____ A05D		TP	2006/03/21	2008/10/06	18:18:49	PL/I 2
_____ A08D		TP	2005/10/24	2009/10/08	13:41:39	PL/I 2
_____ A12D		TP	2005/11/30	2008/04/03	09:12:30	COBOL 2
_____ A13D		TP	2005/12/08	2010/05/31	12:57:58	COBOL 2
_____ A14D		TP	2005/12/20	2010/05/31	12:58:00	COBOL 2
_____ A15D		TP	2005/12/20	2010/05/31	12:58:02	COBOL 2
_____ A16D		TP	2006/01/31	2010/05/31	13:09:56	PL/I 2
_____ A17D		TP	2006/02/02	2010/05/31	13:09:57	PL/I 2
_____ A18D		TP	2006/02/09	2008/09/30	17:37:43	PL/I 2
_____ A19D		TP	2006/02/06	2010/05/31	12:58:04	COBOL 2
_____ A23D		TP	2006/03/09	2010/05/31	12:58:08	COBOL 2
_____ A24D		TP	2006/03/09	2009/08/12	16:47:54	COBOL 2
_____ A25D		TP	2006/03/14	2010/05/31	12:58:11	COBOL 2
Command ==>						Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetrieve	F5=RFind	F7=Backward	
F8=Forward	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel		

親パネル

- [「Advanced Member Selection \(拡張メンバー選択\)」](#) パネル ページ 205
- [「Template Update Utility \(テンプレートの更新ユーティリティ\)」](#) パネル ページ 450
- [「Template Entry \(テンプレート項目の入力\)」](#) パネル ページ 440
- [「View Entry \(ビュー項目の入力\)」](#) パネル ページ 458
- [「Criteria Set Entry \(基準セットの入力\)」](#) パネル ページ 243

子パネル

- [「JCL Submission \(JCL 実行依頼\)」](#) パネル ページ 357
- [「Template Specification \(テンプレート指定\)」](#) パネル ページ 444

「Template Specification (テンプレート指定)」 パネル

「Template Specification (テンプレート指定)」 パネルは、「Template Entry (テンプレート項目の入力)」 パネルでテンプレート・データ・セット名およびメンバーを入力した後に表示されます。

存在しないテンプレート・メンバーまたはライブラリー情報を含まない古いバージョンのテンプレートを指定した場合、「Template Specification (テンプレート指定)」 パネルの前に、「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」 パネルおよび「Copybook Library List (コピーブック・ライブラリー・リスト)」 パネルが表示されます。



注: 古いテンプレートは、取り消しが行われない場合、自動的に新しい形式に更新されます。テンプレートで定義されたセグメントが、DBD で定義されたセグメントと一致しない場合は、既存のテンプレートは自動的に更新されません。

「Template Specification (テンプレート指定)」 パネルは、DBD 内のセグメント・タイプのリストと、それに対応するコピーブック (セグメント・レイアウトを定義) を表示します。

このパネルでは、以下を行うことができます。

- 1 つ以上のコピーブックを指定して、任意のセグメントのレイアウトを記述する。
- 与えられた任意のコピーブックに 01 を挿入するかどうかを指定する。
- テンプレートを更新する。
- 与えられたセグメントに合うようにテンプレートを編集する。

パネルとフィールドの定義

図 113. 「Template Specification (テンプレート指定)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Template Specification	
Template FMN. IMS. IVP. TEMPLATE (DJ1F)		
Cmd	RI	Segment
***	****	Top of data
---	I	SHIRE
---	I	SHIRENP
---	I	LINKSUB
***	****	End of data
Layout member	Lib	Segment description
SHIRE	1	
SHIRENP	1	
LINKSUB	1	
01	Field name	
N		
N		
N		
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F8=Forward	F9=Swap	F10=Actions
F4=CRetriev	F6=Describe	F7=Backward
F12=Cancel	Scroll CSR	

各セグメント・タイプごとに、コピーブックのメンバー名、およびオプションとして説明を入力します。

Template (テンプレート)

作成中のテンプレートを保管する区分データ・セットの名前を表示します。

Cmd (コマンド)

接頭部コマンド・フィールド。セグメント・ヘッダーと行は、非ブランクのセグメント値を含んでいる行です。このような行は、削除することも移動することもできません。最初のセグメント・ヘッダー行の前に行を挿入することはできません。使用できるコマンドは以下のとおりです。

E

テンプレートを (必要であれば) 作成し、編集します。

A

データをその後に移動またはコピーする行を識別します。

B

データをその前に移動またはコピーする行を識別します。

C

1行をコピーします。

Cn

n行をコピーします。

CC

行のブロックをコピーします。ブロックの開始と終了にマークを付けます。

D

1 行を削除します。

Dn

n 行を削除します。

DD

行のブロックを削除します。ブロックの開始と終了にマークを付けます。

E

セグメント・レイアウトを編集します。

I

空の 1 行を挿入します。

In

空の *n* 行を挿入します。

M

1 行を移動します。

Mn

n 行を移動します。

MM

行のブロックを移動します。ブロックの開始と終了にマークを付けます。

O

1 行をオーバーレイします。

On

n 行をオーバーレイします。

OO

行ブロックをオーバーレイします。ブロックの開始と終了にマークを付けます。

R

行を 1 回繰り返します。

Rn

行を *n* 回繰り返します。

RR

行のブロックを繰り返します。ブロックの開始と終了にマークを付けます。

RRn

行のブロックを *n* 回繰り返します。ブロックの開始と終了にマークを付けます。

S

コピーブック・メンバーを編集します。(他のライブラリー製品が管理するコピーブックの場合は、ビューに置き換えられます。)これによって、このセグメント・タイプのレイアウト・オカレンスを識別したり、セグメント・タイプのレイアウトを表示する基準を指定することができます。

FM/IMS は、編集するセグメント・タイプに複数のレイアウトがある場合には「Segment Layout Selection

(セグメント・レイアウト選択)」パネルを表示します。セグメント・タイプにレイアウトが1つしかない場合は、FM/IMS は「Segment Layout (セグメント・レイアウト)」パネルを表示します。

U

このコピーブックが属するセグメント・レイアウトの更新と編集を行います。

V

コピーブック・メンバーをビューします。

X

「Redefines / Range Specifications (再定義/範囲の指定)」パネルを表示します。

R

対応するレイアウト・メンバーに対して、再定義または範囲パラメーターを指定した場合は、この列には値“R”が入ります。

I

この列には、以下の値が入っています。

Blank (空白)

テンプレートが新たに作成される場合。

I

テンプレートが作成された場合、以下のいずれかの条件が真の場合、Iの値のみがセグメント見出し行に表示されます。

- そのセグメントに対して、レイアウトは1つのみ指定されている。
- 特定のセグメントの各レイアウトに基準が指定されている。

Segment (セグメント)

これは表示フィールドです。これは、DBD 内のセグメント・タイプの名前です。

Layout member (レイアウト・メンバー)

セグメント・タイプのレイアウト(1つ以上)が入っているコピーブックのメンバー名。

前のパネルで指定した(最大6つの)区分データ・セットの中の連結リストからメンバーを選択するためには、このフィールドにパターンを入力するか、あるいはフィールドをブランクのままにしてください。



ヒント: コピーブック・メンバーとセグメント・タイプが一致する名前を持っている場合には (“クリップボード”をサポートする端末エミュレーターを使用している場合は)、**「Segment (セグメント)」** フィールドで名前を選択し、それらをクリップボードにコピーしてから、それらを **「Layout member (レイアウト・メンバー)」** フィールドに貼り付けてください。

Segment description (セグメント記述)

FM/IMS がセグメント・タイプの名前を表示するほとんどのパネルでは、FM/IMS はこの記述も表示します。記述の入力は任意です。

Lib (ライブラリー)

コピーブックが選択されたライブラリー・リスト内でのライブラリーの 1 から始まるシーケンス番号。

01

COBOL レベル 01 挿入標識。以下の値が可能です。

Y

このコピーブックに 01 を挿入することを File Manager に指示します。COBOL コピーブックの場合、すでに 01 がコピーブックにある場合は、挿入された 01 は無視されます。



注: PL/I コピーブックでは、01 が必要ない場合、コンパイル・エラーを生じることがあります。

N

このコピーブックに 01 を挿入しないことを File Manager に指示します。これは、デフォルトです。

Field name (フィールド名)

コピーブック用に生成される 01 ステートメントに含める名前の入ったオプションのフィールド。名前を指定しない場合は、File Manager は、“FMNnnnn”の形式で名前を生成します。ここで、FMN は定数であり、nnnn は 1 から始まる番号です。

親パネル

- [「Template Entry \(テンプレート項目の入力\)」](#) パネル ページ 440
- [「Template Member Selection \(テンプレート・メンバー選択\)」](#) パネル ページ 442

子パネル

- [「Redefines / Range Specifications \(再定義/範囲の指定\)」](#) パネル ページ 392
- [「Segment Layout \(セグメント・レイアウト\)」](#) パネル ページ 399
- [「Segment Layout Selection \(セグメント・レイアウト選択\)」](#) パネル ページ 406

「Template Update : New Database Segments (テンプレートの更新:新規データベース・セグメント)」パネル

テンプレート作成元の DBD が、新規セグメント・タイプを含むように変更される場合、「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」を使用してテンプレートを更新するときに、以下の情報を指定する必要があります。

- DBD のすべての新規セグメント・タイプの名前。および
- 各新規セグメント・タイプごとに、セグメント・レイアウトを記述するコピーブック・メンバーの名前。

この情報は、「New Database Segments (新規データベース・セグメント)」パネルで指定します。

このパネルは、「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」パネルで「**New database segments (新規データベース・セグメント)**」オプションを選択し、「**Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)**」オプションを選択しなかった場合に表示されます。

パネルとフィールドの定義

図 114. 「Template Update : New Database Segments (テンプレートの更新:新規データベース・セグメント)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS	Template Update : New Database Segments	
	New segment	Layout member
1	SHIRENP	SHIRENP
2	LINKSUB	LINKSUB
3	_____	_____
4	_____	_____
5	_____	_____
6	_____	_____
7	_____	_____
8	_____	_____
9	_____	_____
10	_____	_____
11	_____	_____
12	_____	_____
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
	F8=Forward	

New segment (新規セグメント)

テンプレートを更新するデータベースにあるすべての新規セグメント・タイプの名前。

Layout member (レイアウト・メンバー)

各新規セグメント・タイプごとに、そのレイアウトを記述するコピーブック・メンバーの名前。



注: 新規データベース・セグメント・タイプが 12 個を超える場合は、バッチ実行で、セグメントとコピーブックの対をさらに追加するように変更できる JCL を生成します。

親パネル

- [Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)] パネル ページ 450

子パネル

- [Advanced Member Selection (拡張メンバー選択)] パネル ページ 205
- [JCL Submission (JCL 実行依頼)] パネル ページ 357
- [Template Member Selection (テンプレート・メンバー選択)] パネル ページ 442

[Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)] パネル

[Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)] パネルでは、既存のテンプレートを入力データ・セットまたはオプションの出力データ・セットに更新することができます。

以下を行うことができます。

- コピーブック・フィルターを使用して、指定されたコピーブックまたはコピーブック・パターンを参照するテンプレートのみを選択します。
- テンプレートの作成に使用されるコピーブック・ライブラリー・データ・セットを変更します。
- テンプレートの作成に使用される DBD データ・セットを変更します。
- バッチまたはフォアグラウンドでユーティリティを実行します。

パネルとフィールドの定義

図 115. [Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)] パネル

<u>P</u> rocess	<u>O</u> ptions	<u>H</u> elp
FM/IMS		Template Update Utility
Template:		
	Data set name .	'FMN.IMS.IVP.TEMPLATE'
	Member	
	Copybook filter	
Output Template:		
	Data set name .	
	Member mask . .	
Processing Options:		
	Enter "/" to select option	
-	Batch execution	- Replace member
-	Advanced member selection	- Specify copylib list
-	Skip member list	- Specify DBDLIB list
-	Skip database segment list update	- Specify IMS catalog
-	New database segments	- Check mode - no update
-	Preserve copybook library	- Forced update
Command ==>		Scroll PAGE
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
		F8=Forward

Template (テンプレート)

Data set name (データ・セット名)

(必須) データ・セット (必ず、区分) を特定するための完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名。

総称データ・セット名では、単一文字を表すパーセント (%)

記号と、任意の数の文字を表すアスタリスク (*) を修飾子内で使用します。2つのアスタリスク (**) は任意の数の修飾子内の任意の数の文字を表します。

TSO 接頭部 (ユーザー ID に定義されている) が、引用符で囲まれていない名前の高位修飾子として使用されます。

パフォーマンスを改善するために、データ・セット名はできるだけ修飾してください。

メンバー名とデータ・セット名は、*Data set name(Member)* の形式で組み合わせることが可能です。

Member (メンバー)

区分データ・セットのメンバーの名前。メンバー名を空白のままにするか、メンバー名のパターンを指定すると、FM/IMS

にはメンバー名のリストが表示されます。次に、該当するメンバーの「Select (選択)」フィールドに「S」と入力し、必要なメンバーを選択します。

メンバー名のパターンは、メンバー名で有効な任意の文字と2つの特殊文字パターン、アスタリスク (*) とパーセント記号 (%) で構成されます。

*

任意の数の文字を表します。必要な数のアスタリスクがメンバー名のどこに表示されても構いません。例えば、*a* と入力すると、名前に「d」が含まれるデータ・セットのすべてのメンバーのリストが表示されます。

%

単一の文字を意味するプレースホルダー文字です。パーセント記号は、メンバー名の任意の場所に必要な数だけ指定できます。例えば、次のように入力するとします。**** では、名前の長さが4文字である、データ・セット内のすべてのメンバーのリストが表示されます。

Copybook filter (コピーブック・フィルター)

フィルターとして使用する最大4つのメンバー名またはパターン。これにより、それらのコピーブック、またはメンバー・パターンに一致するコピーブックを参照するテンプレートのみが処理用に選択されるようになります。

Output Template (出力テンプレート)

データ・セット名

(オプション) 出力データ・セット (必ず、区分) を特定するための完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名。このフィールドが指定されないと、更新は入力データ・セットで行われます。

上記のテンプレート・データ・セット名の説明にあるように、パーセント記号 (%) およびアスタリスク (*) を使用して総称データ・セット名を指定できます。

TSO 接頭部 (ユーザー ID に定義されている) が、引用符で囲まれていない名前の高位修飾子として使用されます。パフォーマンスを改善するために、データ・セット名はできるだけ修飾してください。

メンバー名とデータ・セット名は、*Data set name(Member)* の形式で組み合わせることが可能です。

Member mask (メンバー・マスク)

入力区分データ・セットのメンバー名に基づいて、出力区分データ・セットのメンバーを名前変更するパターンを指定します。メンバー名のパターンは、メンバー名で有効な任意の文字と 2 つの特殊文字パターン、アスタリスク (*) とパーセント記号 (%) で構成されます。

*

変更がない複数の文字を表すプレースホルダー文字。マスクに指定するアスタリスクは、1 つのみにしてください。2 つ目以降のアスタリスク文字は、パーセント記号として扱われます。

例えば、次のように入力するとします。

```
ABC*
```

名前変更後のメンバーはすべて ABC で始まり、その後に、古いメンバー名の残りが続きます。

%

変更がない単一文字を表すプレースホルダー文字。パーセント記号は、メンバー名の任意の場所に必要な数だけ指定できます。

例えば、次のように入力するとします。

```
%%A*
```

名前変更後のメンバーの最初の 3 文字は変わらず、4 文字目が文字 [A] に置き換えられ、古いメンバー名の残りは変更されません。

Processing Options (処理オプション):**Batch execution (バッチ実行)**

バッチでこの機能を実行するための JCL を示します。JCL は、編集して実行依頼できます。「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」パネルを使用して、FM/IMS が JCL の生成に使用するデフォルトの JOB カードを書き換えることが可能です。

Advanced member selection (拡張メンバー選択)

メンバー名、作成日、最終変更日、およびそのメンバーを最終更新したユーザー ID に基づいて、どのメンバーを処理するかを指定できます。これらの各基準に対して、マスクまたは値範囲を入力できます。

Skip member list (メンバー・リストのスキップ)

メンバー選択リストを表示せずに実行します。このオプションを使用すると、メンバー・リスト・パネルを表示せずに、該当の全メンバーを処理します。指定されたパラメーターからエラー(重複した出力名など)が発生した場合は、そのエラーが強調表示されてメンバー・リスト・パネルが表示されます。

Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)

テンプレートでのデータベース・セグメントのリスト更新をスキップします。このオプションは、テンプレート作成元の DBD で指定されたセグメント名のリストに変更がない場合に選択します。このオプションを選択すると、テンプレート作成元の DBD のロードや処理が行われず、パフォーマンスが向上します。

New database segments (新規データベース・セグメント)

このオプションは、処理される 1 つ以上のテンプレートの作成元の DBD が、新規セグメントを含む場合に選択します。このオプションが選択されていて、「Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)」オプションが選択されていない場合、「New Database Segments (新規データベース・セグメント)」パネルが表示され、そこで、それぞれの新規セグメントのレイアウト・メンバーを指定できます。

Preserve copybook library (コピーブック・ライブラリーの保持)

コピーブックが、前に検出されたライブラリーにまだ存在し、更新が使用しているリストにそのライブラリーがある場合に、そのコピーブックを使用します。

このオプションを選択しないか、コピーブックが、前に検出されたライブラリーに存在しなくなったか、更新が使用しているリストにそのライブラリーがない場合、ユーティリティーは、リストされた順序でライブラリーを検索し、検出した最初のバージョンのコピーブックを使用します。

Replace member (メンバーの置換)

出力区分データ・セットの同名メンバーを置換します。

Specify copylib list (copylib リストの指定)

このオプションは、ユーティリティーがテンプレートを作成するために使用するコピーブック・ライブラリーを指定する場合に選択します。

このオプションを選択すると、必要なコピーブック・ライブラリーを指定できる「Copybook Library List (コピーブック・ライブラリー・リスト)」パネルが表示されます。コピーブック・ライブラリー・リストは、更新されたテンプレートに保管されます。

このオプションを選択しない場合、ユーティリティーは、テンプレートに保管されているコピーブック・ライブラリー・リストを使用します。

Specify DBDLIB list (DBDLIB リストの指定)

このオプションは、ユーティリティーが DBD を取得する DBD ライブラリーを指定する場合に選択します。

このオプションが選択され、**「Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)」** オプションが選択されていない場合は、「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネルが表示されます。このパネルを使用して、必要な DBD ライブラリーを指定します。DBD ライブラリー・リストは、更新されたテンプレートに保管されます。

「Specify IMS catalog (IMS カタログを指定)」 オプションも選択されている場合、テンプレートのデータベース・セグメント・リストが最後に更新されたときに使用された DBD が DBD ライブラリーから取得されたときのみ、ユーティリティーは指定された DBD ライブラリーから DBD を取得します。IMS™ カタログから取得された場合、ユーティリティーは指定された IMS™ カタログから DBD を取得します。

これらのオプションのいずれも選択されず、テンプレートのデータベース・セグメント・リストが最後に更新されたときに使用された DBD が DBD ライブラリーから取得された場合、ユーティリティーは、テンプレート内の DBD ライブラリー・リストから DBD を取得します。

Specify IMS catalog (IMS カタログの指定)

ユーティリティーが DBD を取得する IMS™ カタログを指定する場合は、このオプションを選択します。

このオプションが選択され、**「Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)」** オプションが選択されていない場合は、「IMS Catalog Specification (IMS カタログ指定)」パネルが表示されます。このパネルを使用して、必要な IMS™ カタログを選択します。選択した IMS™ カタログの SSID は、更新されたテンプレートに保管されます。

「Specify DBDLIB list (DBDLIB

リストを指定)」オプションも選択されている場合、テンプレートのデータベース・セグメント・リストが最後に更新されたときに使用された DBD が IMS™

カタログから取得されたときにのみ、ユーティリティーは指定された IMS カタログから DBD を取得します。DBD ライブラリーから取得された場合、ユーティリティーは、指定された DBD ライブラリーから DBD を取得します。

これらのオプションのいずれも選択されず、テンプレートのデータベース・

セグメント・リストが最後に更新されたときに使用された DBD が IMS™

カタログから取得された場合、ユーティリティーは、SSID がテンプレート内に保管されている IMS™ カタログから DBD を取得します。



注: 「IMS Catalog Specification (IMS カタログ指定)」パネルでは、IMS 管理 ACB を使用するサブシステムのみを指定できます。

Check mode - no update (検査モード - 更新なし)

結果として生成されるメンバーを保管せずに、この機能を実行します。通常、エラーの検査に使用されます。

Forced update (強制更新)

変更が検出されていない場合でも、更新を実行します。



注: 「Skip database segment list update (データベース・セグメントのリスト更新のスキップ)」、**「Specify IMS catalog (IMS カタログの指定)」**、および **「Specify DBDLIB list (DBDLIB リストの指定)」** のオプションがすべて選択されていない場合、ユーティリティーは、テンプレートに保管されている DBD ライブラリー・リストまたはテンプレートに保管されている IMS カタログのいずれかの DBD を使用します。

親パネル

- [「Template/View/Criteria Set Menu \(テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー\)」](#) パネル ページ 456

子パネル

- [「Advanced Member Selection \(拡張メンバー選択\)」](#) パネル ページ 205
- [「DBD Library List \(DBD ライブラリー・リスト\)」](#) パネル ページ 269
- [「IMS Catalog Specification \(カタログ指定\)」](#) パネル ページ 330
- [「JCL Submission \(JCL 実行依頼\)」](#) パネル ページ 357
- [「Template Member Selection \(テンプレート・メンバー選択\)」](#) パネル ページ 442
- [「Template Update : New Database Segments \(テンプレートの更新: 新規データベース・セグメント\)」](#) パネル ページ 449

「Template/View/Criteria Set Menu (テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー)」パネル

「Template/View/Criteria Set Menu (テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー)」パネルは、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」でオプション 4 を選択すると表示されます。このメニューから、テンプレート、ビュー、または基準セット機能を選択します。

パネルとフィールドの定義

図 116. 「Template/View/Criteria Set Menu (テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー)」パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Template/View/Criteria Set Menu
1	Templates	Create or update template
2	Views	Create, edit, or update view
3	Criteria Sets	Create, edit or update criteria set
4	Template update	Update template(s) utility
5	View update	Update view(s) utility
6	Criteria update	Update criteria set(s) utility
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetrieve	F7=Backward
		F8=Forward

1 Templates (テンプレート)

「Template Entry (テンプレート項目の入力)」パネルを表示します。

2 Views (ビュー)

「View Entry (ビュー項目の入力)」パネルを表示します。

3 Criteria Sets (基準セット)

「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネルを表示します。

4 Template update (テンプレートの更新)

「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティー)」パネルを表示します。

5 View update (ビューの更新)

「View Update Utility (ビューの更新ユーティリティー)」パネルを表示します。

6 Criteria update (基準の更新)

「Criteria Set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティー)」パネルを表示します。

親パネル

- [Primary Option Menu \(基本オプション・メニュー\) ページ 373](#)

子パネル

- [Criteria Set Entry (基準セットの入力)] パネル ページ 243
- [Criteria Set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティ)] パネル ページ 246
- [Template Entry (テンプレート項目の入力)] パネル ページ 440
- [Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)] パネル ページ 450
- [View Entry (ビュー項目の入力)] パネル ページ 458
- [View Update Utility (ビューの更新ユーティリティ)] パネル ページ 462

「Utility Menu (ユーティリティ・メニュー)」 パネル

「Utility Menu (ユーティリティ・メニュー)」 パネルは、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」でオプション 3 を選択すると表示されます。このメニューから、File Manager/IMS ユーティリティを選択します。

パネルとフィールドの定義

図 117. 「Utility Menu (ユーティリティ・メニュー)」 パネル

Process	Options	Help
FM/IMS		Utility Menu
1	Delete/Define	Delete/Define database data sets
2	Initialize	Initialize Database
3	Extract	Extract data from database
4	Load	Load database
5	Print	Print data in batch
6	Batch Edit	Edit data in batch
7	Batch Browse	Browse data in batch
8	Audit trail	Print Audit Trail
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetriev	F7=Backward
		F8=Forward

親パネル

- Primary Option Menu (基本オプション・メニュー) ページ 373

子パネル

- [Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)] パネル ページ 208
- [Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)] パネル ページ 215
- [Delete/Define Entry (項目の削除/定義)] パネル ページ 271
- [Extract Entry (抽出項目の入力)] パネル ページ 297
- [Initialize Entry (項目の初期化)] パネル ページ 344
- [Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)] ページ 361

- [「Print Audit Trail \(監査証跡の印刷\)」 パネル ページ 376](#)
- [「Print Entry \(印刷項目の入力\)」 パネル ページ 379](#)

「View Entry (ビュー項目の入力)」 パネル

ビューを作成、更新、または編集するには、「Primary Option Menu (基本オプション・メニュー)」からオプション 4.2 (「Templates (テンプレート)」の後「View (ビュー)」) を選択します。FM/IMS は、「View Entry (ビュー項目の入力)」 パネルを表示します。

パネルとフィールドの定義

図 118. 「View Entry (ビュー項目の入力)」 パネル

```

Process  Options  Help
-----
FM/IMS                               View Entry Panel
CT Create view from template          E  Edit view
CM Create view from model             U  Update view from template

Template:
  Data set name . 'FMN.IMS.IVP.TEMPLATE'
  Member . . . . DJ1E

View:
  Data set name . 'FMN.IMS.IVP.VIEW'
  Member . . . . DJ1EVJU

Model view:
  Data set name .
  Member . . . .

Command ==> ct
F1=Help      F2=Split      F3=Exit      F4=CRetriev  F7=Backward  F8=Forward
F9=Swap      F10=Actions   F12=Cancel
    
```

このパネルを使用するには、使用するコマンドを最初に決定してから、必要なフィールド (各コマンドごとに以下のリストで説明) への入力を行い、その後でコマンド行にコマンドを入力して Enter キーを押します。

CT

新規のビューをテンプレートから作成します。

フィールド

入力する詳細

Template (テンプレート)

ビューの作成に使用するテンプレートを保持する区分データ・セットの名前。

View (表示)

新規ビューを保管する順次データ・セット名、または PDS およびメンバー名。「Data set name (データ・セット名)」フィールドには、メンバー名または名前パターンを括弧に入れて指定することもできます。ここでメンバーを指定する場合は、関連する「Member (メンバー)」フィールドをブランクにする必要があります。

CM

既存の (“モデル”) ビューをコピーすることによって、新規のビューを作成します。

フィールド

入力する詳細

Model view (モデル・ビュー)

コピーするビューの順次データ・セット名、または PDS およびメンバー名 (新規ビューの “モデル” として使用)。「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドには、メンバー名または名前パターンを括弧に入れて指定することもできます。ここでメンバーを指定する場合は、関連する「**Member (メンバー)**」フィールドを空白にする必要があります。

View (表示)

新規ビューを保管する順次データ・セット名、または PDS およびメンバー名。「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドには、メンバー名または名前パターンを括弧に入れて指定することもできます。ここでメンバーを指定する場合は、関連する「**Member (メンバー)**」フィールドを空白にする必要があります。

E

ビューを編集します。

フィールド

入力する詳細

View (表示)

編集するビューの順次データ・セット名、または PDS およびメンバー名。「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドには、メンバー名または名前パターンを括弧に入れて指定することもできます。ここでメンバーを指定する場合は、関連する「**Member (メンバー)**」フィールドを空白にする必要があります。

U

既存のビューを、それが作成されたテンプレートから更新します。

フィールド

入力する詳細

View (表示)

更新する既存のビューの順次データ・セット名、または PDS およびメンバー名。「**Data set name (データ・セット名)**」フィールドには、メンバー名または名前パターンを括弧に入れて指定することもできます。ここでメンバーを指定する場合は、関連する「**Member (メンバー)**」フィールドを空白にする必要があります。



注: このコマンドは、「**Template (テンプレート)**」フィールドで指定されたテンプレートを無視します。代わりに、テンプレートの PDS およびメンバーをビューから取得します。

このコマンドは、ビューを作成したもとなったテンプレートに対して、行った変更が少ない場合に使用してください。

テンプレートに対して大きな変更が行われた場合には、更新処理によって、予想通りの結果が得られない可能性があります。その場合には、**CT** コマンドを使用してテンプレートからビューを再作成してから、**E** コマンドを使用してそれを編集してください。

区分データ・セットの名前を「**View (ビュー)**」、「**Model view (モデル・ビュー)**」または「**Template (テンプレート)**」フィールドに入力して、メンバー名をブランクのままにした (またはパターンを指定した) 場合には、FM/IMS はメンバー選択リストを表示します。

親パネル

- [「Template/View/Criteria Set Menu \(テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー\)」パネル ページ 456](#)

子パネル

- [「Segment Selection \(セグメント選択\)」パネル ページ 409](#)

「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」パネル

「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」パネルは、「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネル、「Edit Entry (編集項目の入力)」パネル、「Print Entry (印刷項目の入力)」パネル、「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネル、「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」パネル、「View Entry (ビュー項目の入力)」パネル、または「View Update Utility (ビューの更新ユーティリティ)」パネルで、ビュー・メンバー名を指定していないか、またはビュー・メンバー・パターンを指定した場合に表示されます。

ビュー・メンバー名を指定しなかった場合、ビュー・データ・セット内のすべてのメンバーがパネルに表示されます。ビュー・メンバー・パターンを指定した場合、そのパターンに名前が一致するすべてのメンバーがパネルに表示されます。

基準メンバーを選択するには、「**Cmd**」フィールドに「s」を入力し、Enter キーを押します。

「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネル、「Edit Entry (編集項目の入力)」パネル、「Print Entry (印刷項目の入力)」パネル、「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネル、「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」パネル、または「View Entry (ビュー項目の入力)」パネルで、このフィールドに選択リストが表示される場合、選択できるメンバーは 1 つのみです。「View Update Utility (ビューの更新ユーティリティ)」パネルで、このフィールドに選択リストが表示される場合、複数のメンバーを選択できます。

このパネルでは、以下を実行することもできます。

- 表示されるメンバー属性を選択する。
- メンバー属性の表示順序を選択する。

- 各メンバー属性を表示する列の幅を指定する。
- メンバー属性パターンを使用して、メンバー・リストをフィルターに掛ける。
- メンバーをブラウズまたは表示する。

「View Update Utility (ビューの更新ユーティリティー)」パネルで、このフィールドに選択リストが表示される場合、ビュー・エディターを使用して、表示されるビュー・メンバーを編集して保管することもできます。

パネル・フィールドおよび機能の詳細については、「ユーザズ・ガイドおよびリファレンス」の『Member Selection panel』を参照してください。

パネルとフィールドの定義

図 119. 「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」パネル

Process		Options		Help					
FM/IMS		View Member List				Row 00001 of 00122			
DSNAME	FM.XTEST.VIEW	Name	Prompt	Typ	Created	Updated	Lang	Ver	Descri ▶
*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
_____	#TEST1			VW	2008/07/07	2009/03/17 09:15:07	COBOL	2	
_____	#TEST2			VW	2008/07/07	2009/03/17 09:15:07	COBOL	2	
_____	#TEST3			VW	2008/07/07	2009/03/17 09:15:07	COBOL	2	
_____	#TEST4			VW	2008/07/07	2009/03/17 09:15:07	COBOL	2	
_____	@@@			VW	2006/03/09	2006/03/14 16:06:28	COBOL	2	
_____	@@@@			VW	2009/07/24	2009/08/15 15:05:45	COBOL	2	
_____	AHRD#VJU			VW	2009/07/28	2009/07/28 21:47:53	COBOL	2	
_____	AHRD#1V			VW	2008/07/02	2009/03/16 10:03:39	PL/I	2	
_____	AHRD#236			VW	2008/07/02	2008/07/07 18:31:50	PL/I	2	
_____	ANLIM1			VW	2001/11/01	2001/11/01 09:06:22	COBOL	1	
_____	ATRD#SS1			VW	2008/07/02	2008/07/07 18:32:32	PL/I	2	
_____	ATRD#SS2			VW	2008/07/02	2008/07/07 18:32:32	PL/I	2	
_____	ATRD#SS3			VW	2008/07/02	2008/07/07 18:32:32	PL/I	2	
_____	ATRD#SS4			VW	2008/07/02	2008/07/07 18:32:32	PL/I	2	
_____	ATRD#V1			VW	2008/07/02	2008/07/07 18:32:32	PL/I	2	
_____	ATRD#V3			VW	2008/07/02	2008/07/07 18:32:32	PL/I	2	
_____	ATRD#V91			VW	2008/07/02	2008/07/07 18:32:32	PL/I	2	
_____	ATRD#V92			VW	2008/07/02	2008/07/07 18:32:32	PL/I	2	
_____	ATRD#4VX			VW	2008/07/02	2009/06/29 16:57:06	PL/I	2	
_____	ATRDV99			VW	2009/08/12	2009/08/12 14:55:48	COBOL	2	
_____	AUBD#V1			VW	2008/07/07	2010/01/20 11:30:50	COBOL	2	
_____	AUBD#V2			VW	2008/07/07	2010/01/20 11:30:50	COBOL	2	
_____	AUBD#V3			VW	2008/07/02	2010/07/02 13:02:26	PL/I	2	
Command ==>								Scroll PAGE	
F1=Help	F2=Split	F3=Exit	F4=CRetriev	F5=RFind			F7=Backward		
F8=Forward	F9=Swap	F10=Left	F11=Right	F12=Cancel					

親パネル

- 「Advanced Member Selection (拡張メンバー選択)」パネル ページ 205
- 「View Entry (ビュー項目の入力)」パネル ページ 458
- 「View Update Utility (ビューの更新ユーティリティー)」パネル ページ 462
- 「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネル ページ 229
- 「Edit Entry (編集項目の入力)」パネル ページ 286
- 「Print Entry (印刷項目の入力)」パネル ページ 379
- 「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネル ページ 215
- 「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」パネル ページ 208

子パネル

- [「JCL Submission \(JCL 実行依頼\)」 パネル ページ 357](#)

「View Update Utility (ビューの更新ユーティリティー)」 パネル

「View Update Utility (ビューの更新ユーティリティー)」 パネルでは、既存のビューを入力データ・セットまたはオプションの出力データ・セットに更新することができます。

以下を行うことができます。

- テンプレート・フィルターを使用して、指定されたテンプレート、またはパターンに一致するテンプレートに基づくビューのみを選択します。
- ビューの更新に使用されるテンプレート・データ・セットを変更します。
- バッチまたはフォアグラウンドでユーティリティーを実行します。

パネルとフィールドの定義

図 120. 「View Update Utility (ビューの更新ユーティリティー)」 パネル

<u>P</u> rocess	<u>O</u> ptions	<u>H</u> elp
FM/IMS		View Update Utility
View:		
Data set name . . .	'FMN. IMS. IVP. VIEW'	
Member	DJ1E*	
Template filter . .		
Output View:		
Data set name . . .		
Member mask		
Template:		
Data set name . . .		
Processing Options:		
Enter "/" to select option		
- Batch execution		- Replace member
- Advanced member selection		- Specify Template data set
- Skip member list		- Check mode - no update
- Forced update		- Specify subsystem
Command ==>		
F1=Help	F2=Split	F3=Exit
F9=Swap	F10=Actions	F12=Cancel
	F4=CRetrieve	F7=Backward
		F8=Forward

View (表示)

Data set name (データ・セット名)

(必須) データ・セット (必ず、区分) を特定するための完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名。

総称データ・セット名では、単一文字を表すパーセント (%)

記号と、任意の数の文字を表すアスタリスク (*) を修飾子内で使用します。2つのアスタリスク

(**) は任意の数の修飾子内の任意の数の文字を表します。

TSO 接頭部 (ユーザー ID に定義されている) が、引用符で囲まれていない名前の高位修飾子として使用されます。

パフォーマンスを改善するために、データ・セット名はできるだけ修飾してください。

メンバー名とデータ・セット名は、*Data set name(Member)* の形式で組み合わせることが可能です。

Member (メンバー)

区分データ・セットのメンバーの名前。メンバー名を空白のままにするか、メンバー名のパターンを指定すると、FM/IMS

にはメンバー名のリストが表示されます。次に、該当するメンバーの「Select (選択)」フィールドに「S」と入力し、必要なメンバーを選択します。

メンバー名のパターンは、メンバー名で有効な任意の文字と 2 つの特殊文字パターン、アスタリスク (*) とパーセント記号 (%) で構成されます。

*

任意の数の文字を表します。必要な数のアスタリスクがメンバー名のどこに表示されても構いません。例えば、`*a*` と入力すると、名前に「d」が含まれるデータ・セットのすべてのメンバーのリストが表示されます。

%

単一の文字を意味するプレースホルダー文字です。パーセント記号は、メンバー名の任意の場所に必要な数だけ指定できます。例えば、次のように入力するとします。`****` では、名前の長さが 4 文字である、データ・セット内のすべてのメンバーのリストが表示されます。

Template filter (テンプレート・フィルター)

最大 4

つのテンプレート・メンバー名またはパターンを入力し、選択および処理を、指定するテンプレートの 1 つに基づくビュー、または指定するパターンの 1 つに一致するテンプレートに限定します。



注: テンプレート・メンバー名はデータベース名と同じであるため、これは、データベース・フィルターでもあります。

Output View (出力ビュー)

Data set name (データ・セット名)

(オプション) 出力データ・セット (必ず、区分) を特定するための完全修飾データ・セット名または総称データ・セット名。このフィールドが指定されないと、更新は入力データ・セットで行われます。

上記のビュー・データ・セット名の説明にあるように、パーセント記号 (%) およびアスタリスク (*) を使用して総称データ・セット名を指定できます。

TSO 接頭部 (ユーザー ID に定義されている) が、引用符で囲まれていない名前の高位修飾子として使用されます。パフォーマンスを改善するために、データ・セット名はできるだけ修飾してください。

メンバー名とデータ・セット名は、*Data set name(Member)* の形式で組み合わせることが可能です。

Member mask (メンバー・マスク)

入力区分データ・セットのメンバー名に基づいて、出力区分データ・セットのメンバーを名前変更するパターンを指定します。メンバー名のパターンは、メンバー名で有効な任意の文字と 2 つの特殊文字パターン、アスタリスク (*) とパーセント記号 (%) で構成されます。

*

変更がない複数の文字を表すプレースホルダー文字。マスクに指定するアスタリスクは、1 つのみにしてください。2 つ目以降のアスタリスク文字は、パーセント記号として扱われます。

例えば、次のように入力するとします。

```
ABC*
```

名前変更後のメンバーはすべて ABC で始まり、その後に、古いメンバー名の残りが続きます。

%

変更がない単一文字を表すプレースホルダー文字。パーセント記号は、メンバー名の任意の場所に必要な数だけ指定できます。

例えば、次のように入力するとします。

```
%%%A*
```

名前変更後のメンバーの最初の 3 文字は変わらず、4 文字目が文字「A」に置き換えられ、古いメンバー名の残りは変更されません。

Template (テンプレート)

Data set name (データ・セット名)

このフィールドは、**「Specify Template data set (テンプレート・データ・セットの指定)」** オプションが選択されている場合にのみ使用されます。このオプションが選択された場合、(各ビューで参照されるテンプレートではなく) 指定されたデータ・セット内のテンプレートを使用してビューを更新し、更新が正常終了した場合、ユーティリティーによって、ビュー内のテンプレート・データ・セット名が、指定されたデータ・セット名に変更されます。

Processing Options (処理オプション):**Batch execution (バッチ実行)**

バッチでこの機能を実行するための JCL を示します。JCL は、編集して実行依頼できます。「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」パネルを使用して、FM/IMS が JCL の生成に使用するデフォルトの JOB カードを書き換えることが可能です。

Advanced member selection (拡張メンバー選択)

メンバー名、作成日、最終変更日、およびそのメンバーを最終更新したユーザー ID に基づいて、どのメンバーを処理するかを指定できます。これらの各基準に対して、マスクまたは値範囲を入力できます。

Skip member list (メンバー・リストのスキップ)

メンバー選択リストを表示せずに実行します。このオプションを使用すると、メンバー・リスト・パネルを表示せずに、該当の全メンバーを処理します。指定されたパラメーターからエラー(重複した出力名など)が発生した場合は、そのエラーが強調表示されてメンバー・リスト・パネルが表示されます。

Forced update (強制更新)

変更が検出されていない場合でも、更新を実行します。

Replace member (メンバーの置換)

出力区分データ・セットの同名メンバーを置換します。

Specify template data set (テンプレート・データ・セットの指定)

ユーティリティーがビューの更新に使用するテンプレート・データ・セットを指定できます。

ビューが「Template data set name (テンプレート・データ・セット名)」フィールドで指定したデータ・セット内のテンプレートに基づくようにする場合、このオプションを選択します。指定されたテンプレート・データ・セット名は、更新されたビューに保管され、静的テンプレートに基づいてフラグが立てられます。

「Specify subsystem (サブシステムの指定)」オプションも選択されている場合、静的テンプレートに基づくビューのみがこの方法で更新されます。動的テンプレートに基づく基準セットは、「Specify subsystem (サブシステムの指定)」オプションのヘルプの説明に従って更新されます。

これらのオプションのいずれも選択されておらず、ビューが静的テンプレートに基づいている場合、ビューは、ビューに名前が格納されているテンプレートに基づきます。

Specify subsystem (サブシステムの指定)

ビューを動的テンプレートに基づくようにする場合にこのオプションを選択します。これらは、IMS™ カタログまたは DBD ライブラリー内のデータから動的に生成されるテンプレートです。

このオプションを選択すると、「IMS Subsystem Specification (IMS サブシステム指定)」パネルが表示されます。このパネルを使用して、テンプレートの生成元のデータ・ソースを指定します。データ・ソースの名前は更新されたビューに保管され、それらは動的テンプレートに基づいているビューとしてフラグが立てられます。

「Specify Template data set (テンプレート・データ・セットの指定)」オプションも選択されている場合は、動的テンプレートに基づくビューのみがこの方法で更新されます。静的テンプレートに基づく基準セットは、「Specify Template data set (テンプレート・データ・セットの指定)」オプションのヘルプ・パネルの説明に従って更新されます。

どちらのオプションも選択されず、ビューが動的テンプレートに基づいている場合、ビューは、ビューに指定されているデータ・ソースから生成されたテンプレートに基づきます。

Check mode - no update (検査モード - 更新なし)

結果として生成されるメンバーを保管せずに、この機能を実行します。通常、エラーの検査に使用されます。

親パネル

- [「Template/View/Criteria Set Menu \(テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー\)」](#) パネル ページ 456

子パネル

- [「Advanced Member Selection \(拡張メンバー選択\)」](#) パネル ページ 205
- [「JCL Submission \(JCL 実行依頼\)」](#) パネル ページ 357
- [「View Member Selection \(ビュー・メンバー選択\)」](#) パネル ページ 460

第 11 章. コマンド

この章では、さまざまな FM/IMS パネルで使用する、基本コマンドと行コマンドの構文、パラメーター、および操作について説明します。各コマンドの説明では、コマンドを使用できるパネルおよび機能をリストします。パネルによって機能が異なるコマンドについては、そのコマンドが各コンテキストでどのように作動するかを説明します。

基本コマンドは、パネルのコマンド行に入力します。一部の基本コマンドには同等の機能キーが用意されており、該当する場合は、これらのキーのデフォルト設定がリストされています。ただし、キー・リストは ISPF を介してカスタマイズすることができるため、ご使用の機能キーの設定が本書の説明内容と異なる場合があります。

構文で複数オペランドの指定が可能な場合には、オペランド間の区切り文字にブランクまたはコンマを使用できます。

例えば、次は、両方とも正しいコマンドの指定です。

```
SORT NAME LIB  
SORT NAME,LIB
```

ABOUT 基本コマンド

ABOUT コマンドは、現在の File Manager のバージョン番号と File Manager IMS コンポーネントの PTF 番号をウィンドウに表示します。また、このポップアップには、著作権情報と、製品と一緒に出荷されたメモがあれば、それも表示されません。

構文

▶ ABOUT ◀

使用箇所

- すべてのパネル上で使用可能

関連作業および例

- [VER 基本コマンド ページ 541](#)
- [ご使用の FM/IMS バージョンの検査 ページ 28](#)

AUTOSAVE 基本コマンド (編集のみ)

AUTOSAVE 基本コマンドは、FM/IMS の自動チェックポイント機能をオンまたはオフにします。

構文

▶ AUTosave { ON / OFF } ◀

ON

AUTOSAVE がオンの場合、アクション・キー (例えば、Enter、F8 や F7 などのスクロール・キーなど) を押し、データの変更が要求されるたびに、FM/IMS はカウントを 1 ずつ増やします。カウンターの値が「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」パネル (オプション 0.6.4) または「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」パネル (オプション 0.7.2) の「Edit Checkpoint Frequency (EDIT チェックポイント頻度)」フィールドで指定された値に達したとき、または CHANGE ALL コマンドの結果として生じた変更数が「Change All Checkpoint Frequency (CHANGE ALL チェックポイント頻度)」フィールドで指定された値に達したときに、編集の変更はデータベースに自動的にコミットされます。

OFF

編集の変更は作業中はメモリーに保管されていますが、SAVE コマンドを実行するまで、または「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを終了するまで、あるいはバッファが満杯になるまで、データベースにはコミットされません。

AUTOSAVE ON または OFF は、「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」パネル (オプション 0.6.4) または「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」パネル (オプション 0.7.2)、およびインストール・マクロ FMN1POPI において設定することができます。



注: AUTOSAVE ON がデフォルトです。

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」パネル ページ 334](#)

関連作業および例

- [データベースへの変更内容のコミット ページ 138](#)
- [「Editor Options \(エディター・オプション\)」パネル ページ 293](#)

BOTTOM 基本コマンド

「IMS Data (IMS データ)」パネルで CHAR、HEX、LHEX、TABL 表示モードを使用すると、BOTTOM 基本コマンドは、データベース内の最後のセグメント (または、ビューを使用している場合は、データベース内の最後に選択されたセグメント) までスクロールします。その他のパネルでは、BOTTOM コマンドは表示が画面の上下幅を超えると、現行パネルの一番下までスクロールします。BOTTOM コマンドは短縮可能です。

構文

▶▶ Bottom ▶▶

「Edit (編集)」または「Browse (ブラウズ)」複数セグメント表示モード (CHAR、HEX、LEX、または TABL) では、これによってスライディング・ウィンドウが移動することがあります。つまり、TOP コマンドを入力してスライディング・ウィン

ドウの一番上へ移動してから、BOTTOM コマンドを入力し、もう一度 TOP を入力すると、スライディング・ウィンドウの一番上は、以前と同じセグメントの位置ではなくなることがあります。

使用箇所

- 表示が 1 ページを超えるすべてのパネル上。

関連作業および例

- [データを表示するためのスクロール ページ 71](#)
- [スライディング・ウィンドウのスクロールおよびデータベース位置への影響 ページ 74](#)

CANCEL 基本コマンド

CANCEL 基本コマンド (F12) は、パネル変数の変更を保管せずに現行パネルを終了します。

編集の際に CANCEL 基本コマンドを「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで使用すると、処理済みであっても、SAVE コマンドまたは AUTOSAVE 機能によってデータベースにまだコミットされていない編集上の変更は、いずれも破棄されます。

編集の際に CANCEL 基本コマンドを「IMS Data (IMS データ)」パネルで使用した場合は、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルに戻りますが、変更内容は破棄されません。編集の変更を破棄するには、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルから CANCEL を使用する必要があります。このとき、変更内容を破棄するかどうかの確認メッセージが表示されます。

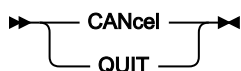


注:

1. データに対する変更は、Enter キーを押すか、またはコマンドを出した場合のみ、処理されます。一部のデータを上書きしても、CANCEL する前にまだ Enter キーを押していないか、あるいはそれ以外のコマンドはいずれも出していない場合は、「IMS Data (IMS データ)」パネルを終了する際に、変更は処理されずに破棄されます。
2. 「IMS Data (IMS データ)」パネルが表示されている間に、変更をバックアウトするには、UNDO コマンドを使用します。

QUIT は CANCEL の同義語です。

構文



「Database Positioning (データベース位置付け)」パネルで CANCEL コマンドを発行すると、最後のチェックポイント以降の編集したすべての変更がバックアウトされます。これは、BMP モードで編集しているか、または DLI モードで編集しているときに、以下の条件が満たされると提供されます。

- 「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネルの IMS ログ・オプションは、「1.Keep (保持)」、
「2.Keep when updates (更新時に保持)」、または「3.削除」。
- 「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネルの「Dynamic Backout (動的バックアウト)」オプションが選択されます。
- 編集は、動的 PSB または IO PCB を持つ静的 PSB のいずれかを使用します。

DLI モードで編集しており、これらの条件の 1 つ以上が真でない場合、FM/IMS はエラー・メッセージを出します。

ENTER を押した場合 (取り消し要求を確認するために)、FM/IMS は以下を実行します。

- 最後のチェックポイント以降の変更をバックアウトする ROLB 呼び出しを実行します。
- 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを終了します。

END または EXIT コマンドを入力した場合、FM/IMS は「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルに戻りません。



注: SAVE 基本コマンドを実行しない限り、「Database Positioning (データベースの位置決め)」パネルを終了するまで、FM/IMS はデータを保管しません。

使用箇所

- すべてのパネル。

関連作業および例

- [END 基本コマンド ページ 487](#)
- [QUIT 基本コマンド ページ 520](#)
- [SAVE 基本コマンド \(編集のみ\) ページ 527](#)
- [UNDO 基本コマンド ページ 539](#)
- [FM/IMS の終了 ページ 30](#)

CAPS 基本コマンド

CAPS または CAPS ON コマンドは、後続のデータ変更の際には、フィールドまたはセグメントを大文字に変換するように、FM/IMS に指示します。変更が影響する対象は、現在の表示形式によって異なり、以下のように、変更が入力されたフィールド、もしくはセグメント全体のいずれかになります。

- CHAR、HEX、または LHEX 表示形式では、セグメント全体が英大文字に変換されます。
- SNGL または TABL 表示形式では、現行フィールドのみが英大文字に変換されます。

CAPS コマンドは、「Edit/Browse Options (編集/ブラウズ・オプション)」パネルの「**Translate data in data area to uppercase on input (入力時のデータ域のデータの大文字への変換)**」フィールドの現行の設定値を一時的にオーバーライドします。

構文



ON

現行編集セッションの「大文字への変換」機能をオンにします。

OFF

現行編集セッションの「大文字への変換」機能をオフにします。

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」](#) パネル ページ 334
- [「Database Positioning \(データベース位置決め\)」](#) パネル ページ 258
- [「Key Specification \(キー指定\)」](#) パネル ページ 358
- [「Insert Segment \(セグメントの挿入\)」](#) パネル ページ 349

関連作業および例

- [「Editor Options \(エディター・オプション\)」](#) パネル ページ 293

CCSID 基本コマンド

エディター・セッションでは、CCSID コマンドは、SNGL 表示形式の使用時に、各フィールドに割り当てられた CCSID の表示のオン/オフを切り替えます (該当する場合)。

構文

☒ 121. Syntax

▶▶ CCSID ◀◀

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」](#) パネル ページ 334

関連作業および例

- [表示形式の選択](#) ページ 63
- [「Editor Options \(エディター・オプション\)」](#) パネル ページ 293

CE (エラー検出) 基本コマンド

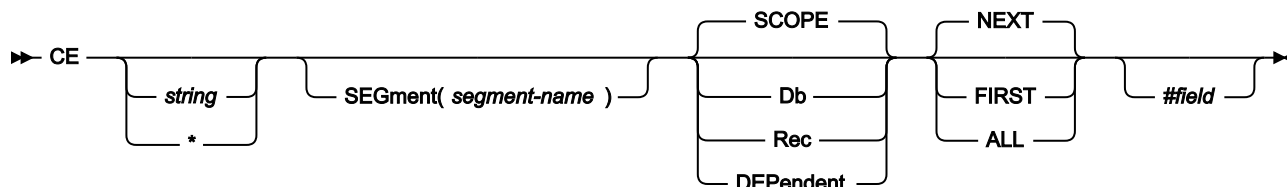
CE (エラー変更) 基本コマンドを使用すると、エラーのフラグが立てられた数値フィールド (フィールド表示ではすべてアスタリスク) を特定の数値に変更することができます。

CE コマンドの検索引数はエラーのある数値フィールドであると想定されています。

CE コマンドは、編集または表示においては、SNGL または TABL 表示形式の場合にのみ有効です。

CE コマンドで検索する列、フィールド、またはレコードの制限については、[FIND または CHANGE での検索の制限ページ 147](#)を参照してください。

構文



ストリング

無効な数値を置換する数値。

* (アスタリスク)

置き換えストリングの代わりに使用される場合、直前の CE または CHANGE コマンドで指定された置き換えストリングを使用します。置き換えストリングが指定された CE または CHANGE に続く、パラメーターのない CE は、`CE *` と同じ働きをします。

segment-name

SEGMENT パラメーターを指定すると、検索はセグメント・タイプ *segment-name* のオカレンスに制限されます。このパラメーターは、SHOW SUP がオンの場合、またはビューを使用しない場合にのみ許可されます。

SCOPE

検索範囲は現行の有効範囲です。

DB

データベース全体を検索します。

REC

検索は現行のデータベース・レコードに制限されます。

DEPENDENT

検索は現行セグメントの従属セグメントに制限されます。このパラメーターは、SHOW SUP がオンの場合、またはビューを使用しない場合にのみ許可されます。

進む

カーソル位置 (カーソルが画面のデータ部分内にある場合) から、または画面に表示された最上部のレコードの先頭から、無効な数値フィールドの次のオカレンスを前方に検索します。

ストリングの次のオカレンスが除外レコード内にあり、検索を非除外レコードに制限しない場合は、このストリングを含む最初の除外レコードのみが表示されます。

FIRST

データの先頭から無効な数値フィールドの最初のおカレンスを検索します。

ALL

データの先頭から順方向に検索します。ALL

では、検索したレコード内の無効な数値フィールドの合計数も表示されますが、これ以外は FIRST と同じです。

#field

検索に組み込むフィールドを指定するフィールド参照。例: #3。

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」 パネル ページ 334](#)

関連作業および例

- [無効データの検出 ページ 144](#)

CHANGE 基本コマンド (編集のみ)

CHANGE 基本コマンドは、文字ストリング (またはフィールド値) の 1 つ以上のおカレンスを編集されるデータから検索し、変更します。

1 つ以上のストリングのおカレンスが見つかったら、FM/IMS は、最初のおカレンスの直後にカーソルを合わせます。必要に応じて、データがスクロールされ、ストリングがビュー内に取り込まれます。

ビューで定義された出力フォーマットを使用して表示されている日時フィールドについては、FM/IMS は表示された値から *string1* を検索し、検出された場合には、表示されている値の中の *string1* を *string2* に置き換えます。

ビューを使用する場合は、SHOW SUP コマンドの設定値が検索されるセグメントに影響します。SHOW SUP OFF を用いると、現行セグメント・タイプおよびレイアウトに一致するセグメントのみが検索されます。SHOW SUP ON を用いると、検索は現行セグメント・タイプおよびレイアウトに限定されません。

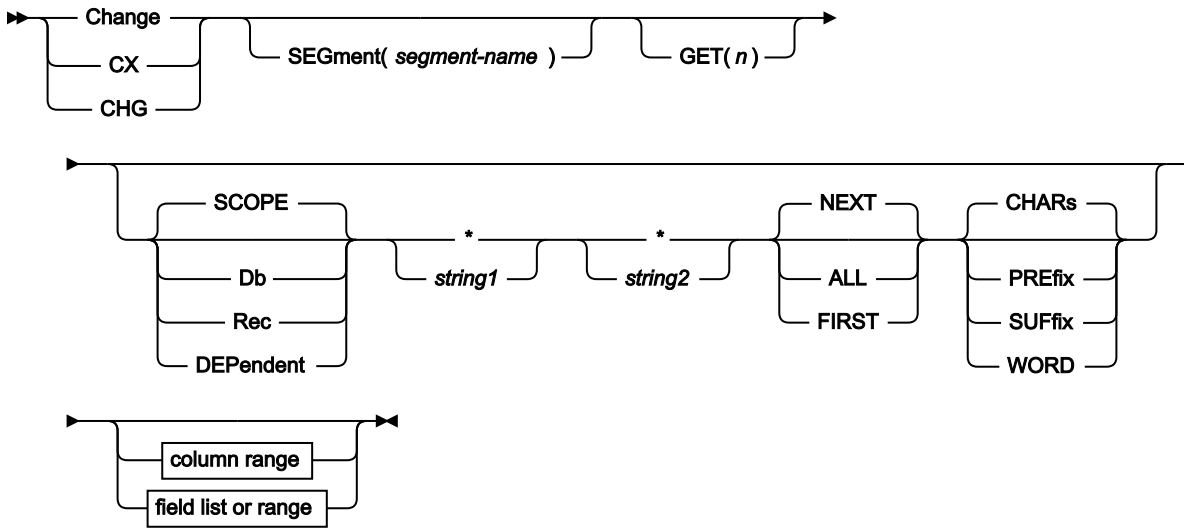
CHANGE 基本コマンドは、ストリングのいずれかの部分がセグメントのキー・フィールドにある場合は、ストリングのおカレンスを変更しません。

FM/IMS は、ストリングの最初のおカレンスの直後にカーソルを合わせます。必要に応じて、データがスクロールされ、ストリングがビュー内に取り込まれます。

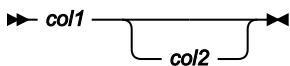
CX コマンドは、「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」パネルを表示します。このパネルでは、コマンド行に収まらない可能性のある長い引数も入力できます。

構文

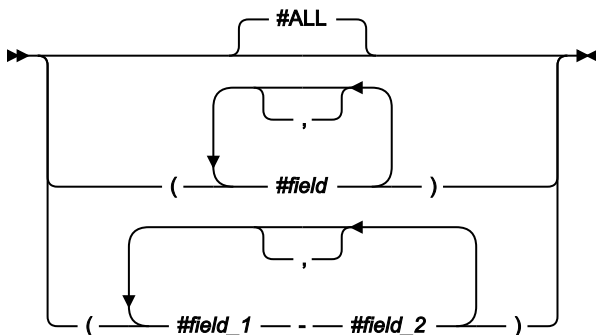
図 122. CHANGE syntax in edit



column range (CHAR, HEX, and LHEX formats only)



field list or range (SNGL or TABL display format)



パラメーターは、任意の順序で指定できます。

segment-name

SEGMENT パラメーターを指定すると、検索はセグメント・タイプ *segment-name* のオカレンスに制限されます。このパラメーターは、SHOW SUP がオンの場合、またはビューを使用しない場合にのみ許可されます。

GET(n)

検索するセグメントの数を *n* に制限します。

SCOPE

検索範囲は現行の有効範囲です。

DB

データベース全体を検索します。

REC

検索は現行のデータベース・レコードに制限されます。

DEPENDENT

検索は現行セグメントの従属セグメントに制限されます。このパラメーターは、SHOW SUP がオンの場合、またはビューを使用しない場合にのみ許可されます。

*** (アスタリスク)**

検索ストリングの代わりに使用された場合、検索ストリングとして、直前の CHANGE コマンドで指定された検索ストリングを使用します。

置き換えストリングの代わりに使用された場合、置き換えストリングとして、直前の CHANGE コマンドで指定された置き換えストリングを使用します。

CHANGE の場合、*

の位置が重要になります。ストリングの前にある場合は、直前の検索引数を示します。つまり、最初のストリングとして扱われます。* の前にストリングがある場合は、2 番目のストリング (変更引数) として扱われ、直前の CHANGE コマンドの変更引数を使用します。直前の検索ストリングと直前の変更ストリングの両方を使用するには、CHANGE * * と指定します。

string1

検索するストリングで、最大文字長は 100 文字です。

ストリングは以下のいずれかが可能です。

- 引用符で開始または終了せず、空白またはコンマを含まない文字ストリング。ストリングの大/小文字は無視されます。同一文字の英大文字表記と小文字表記は一致します。

例:

```
CHANGE before after
```

“before”、“Before”、および“BEFORE”というストリングを変更します。

- 一重引用符で囲まれた文字ストリング。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。ストリングの大/小文字は無視されます。ストリングはヌル・ストリング () であっても構いません。string1 がヌル・ストリングの場合には、string2 が現在の桁位置に挿入されます。
- 「C」と、その後に引用符で囲まれた文字ストリング (C'Frog')、または、引用符で囲まれた文字ストリングと、その後に「c」('Frog'C)。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。ストリングは (大文字/小文字も含めて) 完全に一致しなければなりません。

• P

が前または後に付いている単一引用符または二重引用符で囲まれた、文字そのものではなく検索対象のストリングのタイプを表すピクチャー・ストリング。それ自体を表すブランク、英字、および数字、あるいは、それぞれ文字のクラスを表す下記の任意の特殊文字を含めることができます。

=

任意の文字。

@

英字。

#

数字。

\$

特殊文字。

& notsym;

非ブランク文字。

.

無効文字。

-

非数値文字。

<

小文字英字。

>

大文字英字。

この表記が使用される場合、数字、ビット、およびユニコードのフィールド (SNGL および TABL 表示形式) は、検索処理から除外されます。

- 「X」と、一重引用符で囲まれた 16 進ストリング (x'c1c2')。
- 数値 (SNGL または TABL 表示形式のみ)。string1
 の代数値は数値フィールドの代数値と一致する必要があります。string1 および数値フィールドの長さ (桁数) による影響はありません。同様に、数値フィールドのデータ・タイプも意味がありません。例えば、ストリング 123 は、00123 が入っているパック 10 進数フィールドまたは 1.230E+02 が入っている浮動小数点フィールドと一致します。string1 内の符号なしの値は正と見なされます。
- DBCS ストリングまたは DBCS と非 DBCS の混合ストリング。シフトアウト (x'0E') が引数の先頭文字である場合は、ストリングの検索前に除去されます。シフトイン (x'0F') が引数の末尾文字である場合は、ストリングの検索前に除去されます。

string2

string1 を置き換えるために使用するストリングで、最大文字長は 100 文字です。

ストリングは以下のいずれかが可能です。

- 引用符で開始または終了せず、空白またはコンマを含まない文字ストリング。CAPS ON または CASE UPPER が有効になっていると、string2 は大文字に変換されます。
- 一重引用符で囲まれた文字ストリング。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。CAPS ON が有効でない限り、大/小文字が反映されて保存されます。CAPS ON が有効の場合は、string2 は大文字に変換されます。ストリングはヌル・ストリング (␣) であっても構いません。
- 「C」と、その後に引用符で囲まれた文字ストリング (C'Frog')、または、引用符で囲まれた文字ストリングと、その後に 「c」 ('Frog'C)。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。大/小文字の区別は考慮され、保持されます。ストリングはヌル・ストリング (c'') であっても構いません。
- DBCS ストリング、または DBCS と非 DBCS の混合ストリング。ストリングの先頭と末尾にあるシフトアウト (X'0E') とシフトイン (X'0F') は、DBCS データの安全性が損なわれないような方法で調整されます。
- P
が前または後に付いている単一引用符または二重引用符で囲まれた、実行する変更内容を表すピクチャー・ストリング。大文字から小文字に、または小文字から大文字に文字を変更するか、あるいは下記のストリングの特殊文字を使用してフィールドをそのままにしておくことができます。

```
=
  任意の文字。
<
  小文字英字。
>
  大文字英字。
```

CHANGE コマンドで使用されるピクチャー・ストリングの例:

```
c p'. ' x'00'
```

次の無効文字を 16 進数 x'00' に変更します。

```
c p'###' 100
```

次の 3 桁の数字を 100 に変更します。

```
c all 73 80 p'=" "
```

73 桁目から 80 桁目に空白を入力します。

```
c all p'-' 1 10 "0"
```

1 桁目から 10 桁目のすべての非数値文字を文字「0」に変更します。

```
c p'<' p'>'
```

すべての小文字を大文字に変更します。

```
c p'a>' p'=<'
```

文字 a と直後の大文字を、文字 a と小文字に変更します。

```
c p'>' 'ㄱ'
```

大文字は「not 記号」に変更します (注: 「not 記号」には「to」ストリングの特殊な意味がありません)。

```
c p'<#' p'>=#'
```

小文字と直後の数字を、大文字と検出された数字に変更します。

この表記が使用される場合、数字、ビット、およびユニコードのフィールド (SNGL および TABL 表示形式) は、検索処理から除外されます。

- 「X」と、一重引用符で囲まれた 16 進ストリング (x'c1c2')。CAPS ON が有効な場合は、英小文字の 16 進表記はすべて同等の英大文字に変換されます。
- 数値 (SNGL または TABL 表示形式のみ)。
- DBCS ストリングまたは DBCS と非 DBCS の混合ストリング。ストリングの先頭と末尾にあるシフトアウト (X'0E') とシフトイン (X'0F') は、DBCS データの安全性が損なわれないような方法で調整されます。

進む

CHANGE コマンドは、ストリング *string1* の次のオカレンスを検索します。検索範囲は、カーソル位置 (カーソルがディスプレイのデータ部分内にある場合)、あるいは表示されたページの先頭 (カーソルがディスプレイのデータ部分の外側にある場合) から始まる範囲です。

string1 が検出された場合は、FM/IMS はそれを *string2* に変更し、カーソルを *string2* の直後に合わせます。

string1

が検索範囲の最後までに検出されなかった場合、あるいはカーソル位置が検索範囲の最後のセグメントの後にあった場合、FM/IMS は検索範囲の終りわに到達したことを示すメッセージを表示し、検索前に表示されていたページを再表示します。検索範囲の先頭から検索を再開するには、RFIND (F5) 基本コマンドまたは RCHANGE (F6) 基本コマンドを使用します。

FIRST

CHANGE コマンドは、検索範囲の最初のセグメントの先頭から始まる検索範囲で、ストリング *string1* の最初のオカレンスを検索します。

string1 が検出された場合は、FM/IMS はそれを *string2* に変更し、カーソルを *string2* の直後に合わせます。

string1 が検索範囲で検出されなかった場合、FM/IMS はストリングが見つからなかったことを示すメッセージを表示し、検索前に表示されていたページを再表示します。

ALL

CHANGE コマンドは、検索範囲の最初のセグメントの先頭から始まり、検索範囲の終わりまで続く検索範囲で、ストリング *string1* のすべてのオカレンスを検索します。

string1 が 1 回以上検出された場合、FM/IMS は以下のようにします。

- *string1* のすべてのオカレンスを *string2* に変更します。
- カーソルを最初に変更したオカレンスの直後に合わせます。
- ストリングの変更された回数を示すメッセージを表示します。

string1 が検索範囲で検出されなかった場合、FM/IMS はストリングが見つからなかったことを示すメッセージを表示し、検索前に表示されていたページを再表示します。

CHARS

データ内の任意の場所で、その検索ストリングに突き合わせます。

PREFIX

データ内の接頭部として出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。接頭部にするには、一致したテキストの前に非英数字が付くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの先頭である必要があり、その後英数字が続く必要があります。

SUFFIX

データ内の接尾部として出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。接尾部にするには、一致したテキストの前に英数字が付く必要があり、後に非英数字が続くか、一致したテキストが行またはフィールドの終端である必要があります。

WORD

データ内のワードとして出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。ワードにするには、一致したテキストの前に非英数字が付くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの先頭である必要があり、その後非英数字が続くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの終端である必要があります。

col1

検索の開始桁。col2 を指定せずに col1 を指定した場合、*string1* が検出されるためには開始位置が col1 である必要があります。col1 と col2 の両方を指定した場合には、*string1* が指定した桁の範囲内に完全に入っていることが必要です。



注: 桁の範囲を指定して、データが SNGL または TABL 形式で表示されると、検索がデータの発生順に実行されます



(これはフィールドの表示順ではないことがあります)。数値フィールド値はこのタイプの検索では考慮されません。

桁範囲を指定すると、ストリング比較が実行されます。これは数値フィールドに対しても実行されます。

col2

検索の終了桁。col2 がセグメント・サイズより大きい場合には、セグメント・サイズが使用されます。

#ALL

各フィールドが、テンプレート属性に従って検索されます。

#field

現行セグメント・タイプのレイアウトにおけるフィールドのフィールド参照番号。検索を現在表示されているセグメント・タイプの1つ以上の指定のフィールドに制限するために、SNGL または TABL 形式で使用されます。

複数のフィールド参照を指定する場合は、フィールド参照を括弧で囲む (オプションとしてコンマで区切る) か、あるいはコンマで区切る必要がありますが、スペースを入れることはできません。例えば、(#17 #22)、(#17,#22)、および #17,#22 は、有効なフィールド参照の指定です。

英数字フィールドの場合に、指定のフィールドのいずれかにストリングが完全に含まれていれば、そのストリングが検出されます。例: `CHANGE DB ALL xxxxx yyyy #5,#6` では、フィールド参照が #5 および #6 のフィールドのいずれかの中に「xxxx」が含まれている、現行タイプのすべてのセグメントが検出されて、変更されます。

数値フィールドの場合、数値フィールドのいずれかの値が、ストリングで指定する値に等しいときに検出されます。

フィールド参照番号は、変更操作中に検索されるセグメントのレイアウトに関係があります。そのため、フィールド参照番号を使用し、SHOW SUP ON が有効である (セグメントがグループ化されていない) 場合、指定のフィールドがレイアウト間で共通でないと、フィールド内のデータに予期しない変更が行われる場合があります。

例えば、`CHANGE DB ALL 123 256 #8,#9` では、以下の現行 (数値または文字) タイプのすべてのセグメントが検出されて、変更されます。

- フィールド参照が #8 および #9 の数値フィールドのいずれかに値 123 が含まれている
- フィールド参照が #8 および #9 の文字フィールドのいずれかにストリング 123 が含まれている

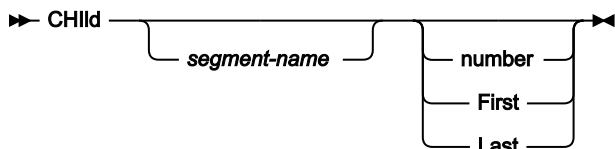
引数が DBCS

ストリングの場合は、シフトアウトおよびシフトイン間のデータだけが突き合わせのために検索されます。例えば、検索ストリングが `X'0E40400F'` (つまり、シフトイン、ブランク、ブランク、シフトアウト) であった場合は、CHANGE コマンドは非 DBCS データの連続する2つのブランクを検出しません。

CHILD 基本コマンド

CHILD 基本コマンドでは、データベース内の位置を現行セグメントから、現行セグメントの任意の従属セグメントに変更することができます。

構文



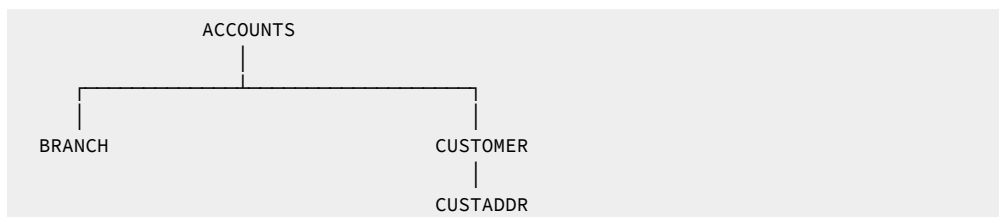
segment-name

スクロール先のセグメント・タイプの名前。このセグメント・タイプは、現行セグメント・タイプに階層的に従属するものと DBD で定義されているセグメント・タイプのいずれかでなければなりません。



注:

1. FM/IMS が DBD 内で *segment-name* との完全一致を検出しない場合は、DBD 内のセグメントのリストを検索して、入力された値がセグメント名に含まれているかどうかを判別します。一致が含まれている最初のセグメント名が、CHILD コマンドで使用されます。例:



「CHILD CUST」と入力すると、データベース内で次に出現する CUSTOMER セグメントの位置が見つかりますが、CUSTADDR セグメントは検出されません。ただし、「CHILD ADDR」と入力でき、これによりデータベース内で次に出現する CUSTADDR セグメントが検索されます。

2. 指定されたセグメント・オカレンスが見つからない場合は、現行データベース位置は変更されず、次のメッセージが表示されます: **セグメント名が無効**

segment name を指定しない場合、または * と指定した場合、スクロールは、現行セグメントの下の最初の階層子セグメントに制限されます。

number

正の整数である必要があります。指定された、子セグメント・タイプのオカレンスまでスクロールします。*segment-name* パラメーターとともに使用して、スクロールを特定セ

グメント・タイプの指定されたオカレンスまでに制限できます。指定された従属セグメントのオカレンスが *number* より少ない場合には、エラー・メッセージが表示されます。

First

指定の従属セグメント・タイプの最初のオカレンスまでのスクロールを要求します。

Last

指定の従属セグメント・タイプの最後のオカレンスまでのスクロールを要求します。

ビューを使用するときは、CHILD コマンドは、ビューで使用可能なセグメントのみを操作します。指定されたセグメントが見つかった場合には、現行レイアウトが新しい現行セグメントと一致するように変更されます。

指定されたセグメントが見つからない場合は、メッセージが出され、データベース位置は変更されません。

使用箇所

- 「IMS data (IMS データ)」パネル ページ 334
- ZOOM モードでは非アクティブ。

DBD 基本コマンド

DBD 基本コマンドは、現在アクセス中のデータベースおよびセグメントに関する情報を表示します。

構文

▶▶ DBD ◀◀

「DBD Information (DBD 情報)」パネルで、Enter キーを押して、「Logical Relationship Information (論理関係情報)」パネルを表示することができます。

使用箇所

- 「Browse (ブラウズ)」、「Edit (編集)」、「Utility (ユーティリティ)」(「Audit trail (監査証跡)」を除く)、および「Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)」ダイアログ内のすべてのパネル (各機能の初期入力パネルを除く)。

DBDLIST 基本コマンド

DBDLIST コマンドを使用して、編集集中のテンプレートに指定された DBD ライブラリー・リストを表示および変更することができます。テンプレートが IMS カタログではなく DBD ライブラリー・リストを指定している場合、このコマンドは「Template Specification (テンプレート指定)」パネルで使用できます。

このコマンドを発行すると、FM/IMS によって「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネルが表示されます。

構文

▶▶ DBDLIST ◀◀

使用箇所

- [「Template Specification \(テンプレート指定\)」](#) パネル ページ 444.

DELETE 基本コマンド (編集のみ)

DELETE 基本コマンドは、データベースから、現行セグメントおよびそのすべての従属セグメントを削除します。

構文

▶▶ DELete ▶▶

セグメントおよびその子孫を削除すると、階層シーケンスで次のセグメントが現行セグメントになります。

使用箇所

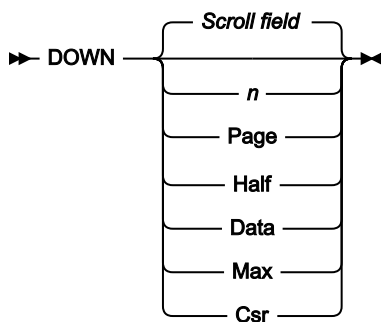
- [「IMS data \(IMS データ\)」](#) パネル ページ 334
- ZOOM モードでは非アクティブ。

DOWN 基本コマンド

DOWN 基本コマンドは、データベース内のセグメントを前方にスクロールします (複数セグメント表示の場合)。

DOWN 基本コマンドは、現行セグメントのデータを前方にスクロールします (単一セグメント表示の場合)。

構文



Scroll field

「Scroll (スクロール)」フィールドに指定した値だけスクロールダウンします。

num_lines

指定された行数だけスクロールダウンします。

Page (ページ)

1 画面ページだけスクロールダウンします。

Data (データ)

1 画面ページ分のデータより 1 行少なくスクロールダウンします。

Half (ハーフ)

1 画面ページ分のデータの半分だけスクロールダウンします。

Max (最大値)

データベースの終わりまでスクロールします。

Csr

カーソルが「IMS Data (IMS データ)」パネルのデータ域内にある場合はそのカーソル位置までスクロールダウンし、それ以外の場合は 1 画面ページだけスクロールします。

使用箇所

- 表示が 1 ページを超えるすべてのパネル上。

関連作業および例**例**

DOWN 8

8 行だけスクロールダウンします。

DOWN

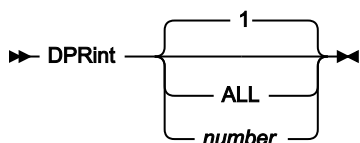
「Scroll (スクロール)」フィールドに指定した行数分上へスクロールします。

DOWN M

データの最後のページまでスクロールダウンします。

DPRINT 基本コマンド

DPRINT 基本コマンドは、ブラウザ・セッションまたは編集セッションに使用可能なデータベース・セグメント内のデータを印刷します。データ印刷機能の出力は、印刷オプションの現在の設定によって決まります。

構文**1**

現在位置のセグメントを印刷します。

ALL

データベース内の現在位置からデータベースの終わりまでのすべてのセグメントを印刷します。

number

データベース内の現在位置から次の *number* セグメントを印刷します。

印刷出力の形式は、現行表示形式によって決まります。

CHAR

セグメントは文字モードで印刷されます。

HEX

セグメントは 3 行に印刷されます。

LHEX

SET DUMP オプションによって、データの印刷方法が決まります。ACROSS の値によってシステム・ダンプ形式が作成されます。UPDOWN の値では、2 つの 16 進数行の上に 1 つの文字行がくる File Manager/IMS の HEX 形式が作成されます。

TABL

FM/IMS は、フィールドまたは見出し名を持つ列内のセグメントをフィールド・タイプに従って形式設定された列見出しおよびデータとして表示します。この形式での表示は、現行印刷幅に応じて切り捨てられることがあります。

SNGL

印刷出力の左側には、フィールドまたは見出し名が入ります。右側には、フィールド・タイプに従って形式設定されたフィールド値が入ります。

ビューとデータベースが関連付けられている場合には、印刷するセグメントの選択時にセグメント選択基準が適用されません。

DPRINT は、現行パネルがズームされているかどうかを考慮しません。したがって、ズームされた SNGL 形式を表示していても、それはズームされた TABL 形式と同じであるため、DPRINT は引き続き TABL 形式を使用して印刷します。また、DPRINT は、現在の SHOW ([SHOW \(REC\) 基本コマンド ページ 531](#)) の設定も考慮しません。このことは、DPRINT の出力に、現在「IMS Data (IMS データ)」パネルに表示されていないセグメントも含まれる場合があることを意味します。

形式が TABL または SNGL である場合には、DPRINT はビュー情報を使用して、フィールドを形式設定し、組み込みまたは除外します。

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」パネル ページ 334](#)

関連作業および例

- [印刷 \(IPR\) ページ 619](#)

EDIT 基本コマンド

EDIT 基本コマンドは、指定されたコピーブックから作成されたテンプレートを編集します。変更が行われた場合は、コンパイルおよび更新が実行されます。

EDIT 基本コマンドは、現行のディスプレイ上で最初のセグメントに対して、E 接頭部コマンドを使用するのと同様です。

構文

▶ EDIT ◀

使用箇所

- [図 113: 「Template Specification \(テンプレート指定\)」 パネル ページ 445](#)

END 基本コマンド

END 基本コマンドは、現行パネルを終了して、メモリー内のデータに対して行われた編集の変更およびパネル値に対して行われた変更(データ・セットの名前、オプションの選択など)を ISPF プロファイルに保管します。現行パネルを終了してデータ・セットの編集が完了する場合には、END コマンドは、その変更をファイルにも保管します。例えば、「IMS Data (IMS データ)」パネルで END コマンドを使用すると、変更はいずれもファイルに保管されます。しかしながら、「ネストされた」テンプレートの編集パネル(「Field Attributes (フィールド属性)」パネルなど)で END を使用した場合は、変更はメモリーに保管されます(これらの変更はテンプレートの編集セッション全体を終了するまで、ファイルには書き込まれません)。

END コマンドは EXIT コマンドの同義語です。

構文

▶ END ◀
▶ EXIT ◀

使用箇所

すべてのパネル上で使用可能。

関連作業および例

- [FM/IMS でのナビゲート ページ 31](#)

FE (エラー検出) 基本コマンド

FE (Find Error) 基本コマンドは、編集またはブラウズ中のデータ内に存在する、「エラーのあるフィールド」の次のオカレンスを検出します。

構文

▶ FE ◀

SEGment(*segment-name*)

SCOPE

Db

Rec

DEPendent

NEXT

FIRST

#field

segment-name

検索が制限されるセグメント・タイプの名前。SEGMENT
オペランドが指定されない場合には、すべてのセグメント・タイプが検索されます。

SCOPE

検索範囲は現行の有効範囲です。

DB

データベース全体を検索します。

REC

検索は現行のデータベース・レコードに制限されます。

DEPENDENT

検索は現行セグメントの従属セグメントに制限されます。

NEXT

検索は、現在のカーソル位置で始まり、許可されない値の次のオカレンスを検出するまで正方向に進められます。

FIRST

検索は、スライディング・ウィンドウの先頭で始まり、許可されない値の最初のオカレンスまで正方向に進められます。

#field

検索に組み込むフィールドを指定するフィールド参照。例: #3。

FE は、該当する COBOL または PL/I PICTURE 文節に準拠していないフィールド値を検索します。数値フィールドの場合には、フィールドのデータ・タイプに準拠していない値はすべて許可されません。

FE は、現行形式とは無関係に、現行の定様式セグメントまたはシャドー・セグメント内の許可されない値を検索します。

使用箇所

- FE はビューを使用しているときのみアクティブになります。

FIELD 基本コマンド

FIELD 基本コマンドは、指定のセグメントについて DBD に定義されている各フィールドに関する情報を表示します。

構文

FIELD *segment-name* →
FLD

使用箇所

- 表示が 1 ページを超えるすべてのパネル上。
- 「Segment Information (セグメント情報)」パネルで、カーソルをセグメント名の先頭文字上に置き、Enter キーを押す。

FIND 基本コマンド

FIND 基本コマンドは、編集またはブラウズ中のデータにおける文字ストリング (またはフィールド値) の次のオカレンス、最初のオカレンス、または前のオカレンスを検出し、表示します。

ストリングのオカレンスが検出されると、FM/IMS はそのストリングの先頭にカーソルを合わせます。必要に応じて、データがスクロールされ、ストリングがビュー内に取り込まれます。表示されるページ上のストリングのオカレンスはすべて強調表示されます。

ビューで定義された出力形式を使用して表示される日時フィールドについては、FM/IMS は、表示された値から、FIND コマンドで指定されたストリングを検索します。

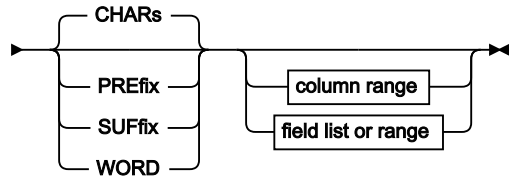
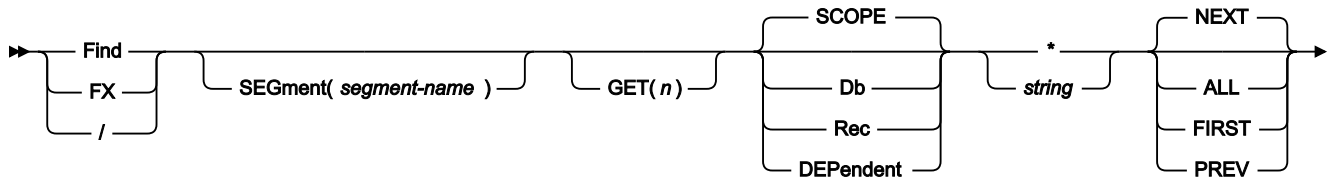
ビューを使用する場合は、SHOW SUP コマンドの設定値が検索されるセグメントに影響します。SHOW SUP OFF を用いると、現行セグメント・タイプおよびレイアウトに一致するセグメントのみが検索されます。SHOW SUP ON を用いると、検索は現行セグメント・タイプおよびレイアウトに限定されません。

同じパラメーターを指定した FIND を繰り返すには、「RFind」機能キー (F5) を押すか、あるいは RFIND 基本コマンドを入力します。

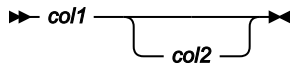
`FIND *` と入力すると、同じストリング引数を使用して FIND が繰り返されますが、他のすべてのパラメーターはデフォルト値に設定されます。必要であれば、`FIND * PREFIX` のように、特定のパラメーター値を指定することができます。

FX コマンドは、「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」パネルを表示します。このパネルでは、コマンド行に収まらない可能性のある長い引数も入力することができます。

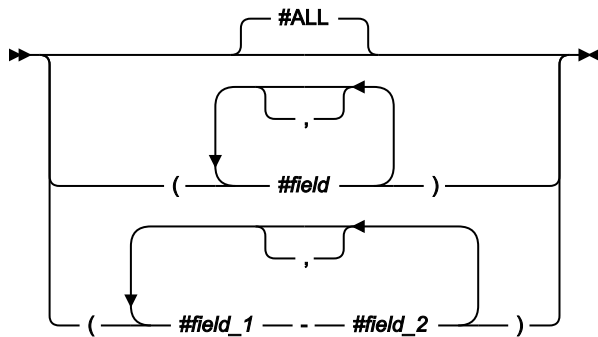
構文



column range (CHAR, HEX, and LHEX formats only)



field list or range (SNGL or TABL display format)



パラメーターは、任意の順序で指定できます。

segment-name

SEGMENT パラメーターを指定すると、検索はセグメント・タイプ `segment-name` のオカレンスに制限されます。このパラメーターは、SHOW SUP がオンの場合、またはビューを使用しない場合にのみ許可されます。

GET(n)

検索するセグメントの数を `n` に制限します。

SCOPE

検索範囲は現行の有効範囲です。

DB

データベース全体を検索します。

REC

検索は現行のデータベース・レコードに制限されます。

DEPENDENT

検索は現行セグメントの従属セグメントに制限されます。このパラメーターは、SHOW SUP がオンの場合、またはビューを使用しない場合にのみ許可されます。

*** (アスタリスク)**

検索ストリングとして、直前の FIND コマンドに指定した検索ストリングを使用します。

string

検索中のストリング。ストリングは以下のいずれかが可能です。

- FX (Find Extended) が使用されない場合は 50 文字の以下の長さ、FX (Find Extended) が使用された場合は 100 文字以下の長さ。
- 空のストリング (指定しない)。直前の FIND または CHANGE コマンドに指定した検索ストリングは、検索ストリングとして使用されます。



注: 検索ストリングの指定のない FIND ALL は、RESET FIND と同じ機能になりますが、直前の FIND または CHANGE コマンドで強調表示されてもそれをオフにします。

- 引用符で開始または終了せず、空白またはコンマを含まない文字ストリング。ストリングの大/小文字は無視されます。同一文字の英大文字表記と小文字表記は一致します。例えば、Mixed は MIXED と一致します。
- 一重引用符で囲まれた文字ストリング。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。ストリングの大/小文字は無視されます。
- 「C」と、その後引用符で囲まれた文字ストリング (C'Frog')、または、引用符で囲まれた文字ストリングと、その後「c」('Frog'C)。このストリングには、空白とコンマを入れることができます。ストリングは (大文字/小文字も含めて) 完全に一致しなければなりません。
- P
が前または後に付いている単一引用符または二重引用符で囲まれた、文字そのものではなく検索対象のストリングのタイプを表すピクチャー・ストリング。それ自体を表す空白、英字、および数字、あるいは、それぞれ文字のクラスを表す下記の任意の特殊文字を含めることができます。

=

任意の文字。

@

英字。

#

数字。

\$

特殊文字。

& notsym;

非ブランク文字。

.

無効文字。

-

非数値文字。

<

小文字英字。

>

大文字英字。

FIND コマンドで使用されるピクチャー・ストリングの例:

```
find p'.' 73 80
```

73 桁目から 80 桁目の無効文字を検索します。

```
find p'###'
```

3 桁の数字 (例えば、101 は該当しますが、99 は該当しません) を検索します。

```
find '@1'p 1
```

1 桁目のラベル a1、b1、c1 などを検索します。

```
find p'<'
```

小文字英字を検索します。

```
find p'~' 72
```

72 桁目の非ブランク文字を検索します。

この表記が使用される場合、数字、ビット、およびユニコードのフィールド (SNGL および TABL 表示形式) は、検索処理から除外されます。

- 「X」と、一重引用符で囲まれた 16 進ストリング (x'c1c2')。
- 数値 (SNGL または TABL 表示形式のみ)。string
の代数值は数値フィールドの代数值と一致する必要があります。string および数値フィールドの長さ (桁数) による影響はありません。同様に、数値フィールドのデータ・タイプも意味がありません。例えば、ストリング 123 は、00123 が入っているパック 10 進数フィールドまたは 1.230E+02 が入っている浮動小数点フィールドと一致します。string 内の符号なしの値は正と見なされます。

NEXT

FIND コマンドは、文字列 *string* の次のオカレンスを検索します。検索範囲は、カーソル位置 (カーソルがディスプレイのデータ部分内にある場合)、あるいは表示されたページの先頭 (カーソルがディスプレイのデータ部分の外側にある場合) から始まる範囲です。

string

が検索範囲の最後までに検出されなかった場合、あるいはカーソル位置が検索範囲の最後のセグメントの後にあった場合、FM/IMS

は検索範囲の終わりに到達したことを示すメッセージを表示し、検索前に表示されていたページを再表示します。検索範囲の先頭から検索を再開するには、RFIND (F5) 基本コマンドを使用します。

FIRST

FIND コマンドは、検索範囲の最初のセグメントの先頭から始まる検索範囲で、文字列 *string* の最初のオカレンスを検索します。

string が検索範囲で検出されなかった場合、FM/IMS は文字列が見つからなかったことを示すメッセージを表示し、検索前に表示されていたページを再表示します。

ALL

FIND コマンドは、検索範囲の最初のセグメントの先頭から始まり、検索範囲の終わりまで続く検索範囲で、文字列 *string* のすべてのオカレンスを検索します。

string が 1 回以上検出された場合は、FM/IMS は最初のオカレンスの先頭にカーソルを合わせ、その文字列が検出された回数を示すメッセージを表示します。

string が検索範囲で検出されなかった場合、FM/IMS は文字列が見つからなかったことを示すメッセージを表示し、検索前に表示されていたページを再表示します。

PREV

FIND コマンドは、文字列 *string* の前のオカレンスを検索します。検索範囲は、カーソル位置 (カーソルがディスプレイのデータ部分内にある場合)、あるいは表示される最初のセグメントの前のセグメントの終わり (カーソルがディスプレイのデータ部分の外側にある場合) から始まる範囲です。

検索範囲の先頭がスライディング・ウィンドウの中にある場合は、FIND コマンドは検索範囲の先頭まで検索します。検索範囲の先頭がスライディング・ウィンドウの中にある場合は、FIND コマンドはウィンドウの先頭まで検索するだけです。



注: 検索範囲の先頭またはウィンドウの先頭に到達した場合、RFIND (F5) コマンドは検索範囲の最後から検索を再開することはありません。

CHARS

データ内の任意の場所で、その検索文字列に突き合わせます。

PREFIX

データ内の接頭部として出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。接頭部にするには、一致したテキストの前に非英数字が付くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの先頭である必要があります、その後英数字が続く必要があります。

SUFFIX

データ内の接尾部として出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。接尾部にするには、一致したテキストの前に英数字が付く必要があります、後に非英数字が続くか、一致したテキストが行またはフィールドの終端である必要があります。

WORD

データ内のワードとして出現する場所で、その検索ストリングに突き合わせます。ワードにするには、一致したテキストの前に非英数字が付くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの先頭である必要があります、その後非英数字が続くか、あるいは一致したテキストが行またはフィールドの終端である必要があります。

col1

検索の開始位置。col2 を指定せずに col1 を指定した場合、string が検出されるためには開始位置が col1 である必要があります。col1 と col2 の両方を指定した場合には、string が指定した桁の範囲内に完全に入っていることが必要です。



注:

1. データが CHAR、HEX、または LHEX 形式のときにのみ桁の範囲を指定できます。桁の範囲は、データが TABL または SNGL 形式を使用して形式設定されているときには指定できません。
2. 桁の範囲を指定して、データが SNGL または TABL 形式で表示されると、検索がデータの発生順に実行されます (これはフィールドの表示順ではないことがあります)。数値フィールド値はこのタイプの検索では考慮されません。

桁範囲を指定すると、ストリング比較が実行されます。これは数値フィールドに対しても実行されます。

col2

検索の終了位置を示します。



注: col2 がセグメント・サイズより大きい場合には、セグメント・サイズが使用されます。

#ALL

各フィールドが、テンプレート属性に従って検索されます。

#field

レイアウトにおけるフィールドのフィールド参照番号。これは、TABL および SNGL 形式に適用されます。

複数のフィールド参照を指定する場合は、フィールド参照を括弧で囲む (オプションとしてコンマで区切る) か、あるいはコンマで区切る必要がありますが、スペースを入れることはできません。例えば、(#17 #22)、(#17, #22)、および #17,#22 は、有効なフィールド参照の指定です。

英数字フィールドの場合に、指定のフィールドのいずれかにストリングが完全に含まれていれば、そのストリングが検出されます。例: **FIND ALL xxx #5,#6** では、フィールド参照が #5 および #6 のフィールドのいずれかの中に「xxx」の含まれている現行の定様式タイプのすべてのセグメントが検出されます。

数値フィールドの場合、数値フィールドのいずれかの値が、ストリングで指定する値に等しいときに検出されます。

例えば、**FIND ALL 123 #8,#9** では、現在形式設定されている (数値または文字) タイプの、以下のすべてのセグメントが検出されます。

- フィールド参照が #8 および #9 の数値フィールドのいずれかに値 123 が含まれている
- フィールド参照が #8 および #9 の文字フィールドのいずれかにストリング 123 が含まれている

#field_1

フィールドの範囲の最初のフィールド参照。添え字にすることはできません。#field_1 フィールド参照値が最低の表示フィールド参照値より小さい場合は、最低の表示フィールド参照値が使用されます。

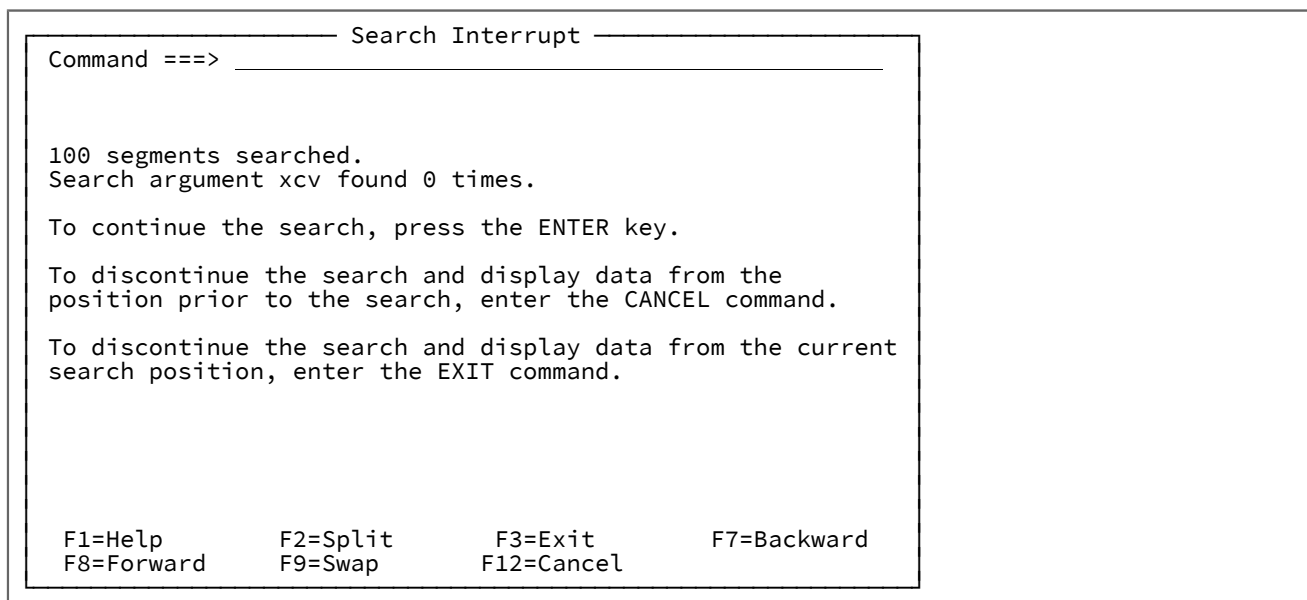
#field_2

フィールドの範囲の最後のフィールド参照。添え字にすることはできません。#field_2 フィールド参照値が最高の表示フィールド参照値より大きい場合は、最高の表示フィールド参照値が使用されます。

#field_1 と #field_2 のフィールド参照値はハイフン (-) によって区別する必要があります。ハイフンとフィールド参照値の間にスペースを使用することができます。

#field_1 が #field_2 より大きい値の場合、検索処理ではオペランドが逆になります。

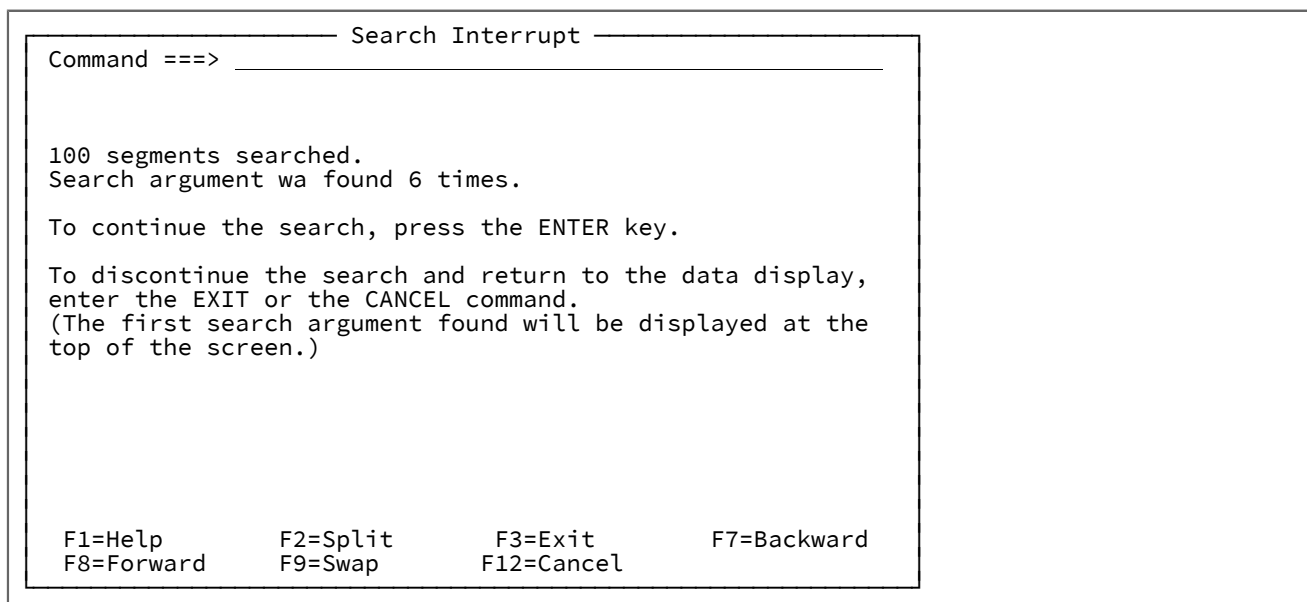
図 125. 「Search Interrupt (検索割り込み)」ウィンドウ - 検索ストリングが検出されない場合



FIND...ALL 要求の場合、検索指数の1つのインスタンスが検出されても、検索は終了しません。

図 126: 「Search Interrupt (検索割り込み)」ウィンドウ - 検索ストリングが検出された場合 ページ 497 は、検索指数のインスタンスがすでに検出されている場合に表示されるウィンドウです。検索指数のインスタンスが既に検出されている場合に検索を中止する選択を行った場合は、FM/IMS は、検索を完了するまで実行したときのように、検索指数の最初のインスタンスの位置からデータを表示します。

図 126. 「Search Interrupt (検索割り込み)」ウィンドウ - 検索ストリングが検出された場合



使用箇所

- 「IMS data (IMS データ)」パネル ページ 334

関連作業および例

FIND コマンドは、コマンドの省略形 (例: F または FI) を使用するか、またはスラッシュ ([/]) 文字を入力することにより指定することができます。

図 124: 連続する入力行を示す FIND コマンドの「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネル ページ 496 は、FIND コマンドの「Extended Command Entry (拡張コマンド入力)」ポップアップ・パネルを示しています。この例では、FM/IMS は長いストリングの前のオカレンスを検索します。

FMAP 基本コマンド

FMAP コマンドを使用すると、別のテンプレートを使用して、レコード内のフィールドを編集または表示できます。マップするフィールドがテンプレート・マッピングより短い場合は、データが変更されると警告メッセージが出され、マップ・フィールドの終わりを越えたデータはすべて無視されます。マップするフィールドのデータ・タイプは無視されます。

マップするフィールドを含むレコードを画面の最上部に置く必要があります。あるいは、FMAP コマンドの実行時にカーソルをレコードに置くこともできます。レコードは選択したレコードでなければなりません。

フィールド ID パラメーターが指定されておらず、カーソルがフィールドに置かれている場合は、そのフィールドが使用されます。カーソルがフィールドに置かれていない場合は、「Field List Selection (フィールド・リスト選択)」パネルが表示されます。

テンプレート名が指定されていない場合は、この情報を指定できるパネルが表示されます。

構文

図 127. Syntax



field#

マップするフィールドの参照番号。

field_name

マップするフィールドの名前。名前は修飾することができます。

template_name

フィールドのマッピングに使用するテンプレートの名前。部分的または完全に修飾されたデータ・セット名を、メンバー名とともに指定できます。

使用箇所

- 「IMS data (IMS データ)」パネル ページ 334

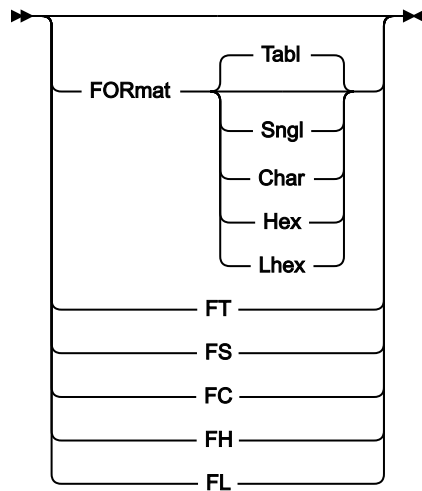
関連作業および例

- [表示形式の選択 ページ 63](#)
- [「Editor Options \(エディター・オプション\)」パネル ページ 293](#)

FORMAT 基本コマンド

FORMAT 基本コマンドを使用して、**「FORMAT (形式)」** フィールドを上書きせずに現行表示形式を変更します。

構文



TABL, FT

形式を TABL モードに変更します。ビューが使用されていたときにのみ使用できます。

SNGL, FS

形式を SNGL モードに変更します。ビューが使用されていたときにのみ使用できます。

CHAR, FC

形式を CHAR モードに変更します。

HEX, FH

形式を HEX モードに変更します。

LHEX, FL

形式を LHEX モードに変更します。

使用箇所

FORMAT 基本コマンドの省略形も行コマンドとして使用できます。ターゲット形式のデフォルト値は、現行の表示モードによって異なります。SNGL 形式の場合、デフォルトは TABL モードです。TABL 形式の場合、デフォルトは SNGL モードです。

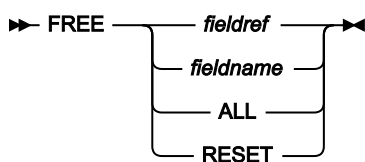
表示されているセグメント・オカレンスに対する行コマンドとして上記のいずれかを使用した場合、その効果は、その行のビューを出して (その行が現行レイアウト以外の場合)、表示の先頭までそのセグメントをスクロールし、形式を変更することと同じです。

FREE 基本コマンド

FREE コマンドは、セグメント・レイアウトの 1 つ以上のフィールドに対するスクロール・ロックを削除します。表示形式が SNGL または TABL の場合は、「IMS data (IMS データ)」パネルでコマンドを発行できます。

HOLD エディター基本コマンドによって、またはテンプレート・エディターの H 接頭部コマンドによって、スクロール・ロックを設定することができます。

構文



fieldref

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲

(例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド指定は #*n* です。*n* は正整数であり、処理対象のテンプレート内のフィールド数を超えることはできません。

fldname

テンプレートのフィールドの名前。オプションで、前にポンド記号 (#)

が付きます。コマンド・キーワードの構文上のあいまいさを避けるには、#ALL および #RESET を使用します。

ALL

すべてのスクロール・ロックを解除します。

RESET

すべてのスクロール・ロックを解除します。

使用箇所

[「IMS data \(IMS データ\)」パネル ページ 334](#) 現行表示形式が、SNGL または TABL の場合。

関連作業および例

- [HOLD 基本コマンド ページ 504](#)
- [ORDER 基本コマンド ページ 516](#)

GE 基本コマンド

GE 基本コマンドが「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルに追加され、指定されたキー値の検索に「より大きいか等しい」という位置決め論理を使用できます。

構文

▶ GE ◀

GE コマンドを使用すると、位置決め論理に「より大きいか等しい」を使用して指定のキー値を検索することを指定できます。「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで Enter キーを押した場合、このコマンドは等しいキーの検索を行います。



注: 位置決めパネルのキー・リストは、機能キー 5 が GE コマンドに関連付けられるように変更されました。

HDAM データベースの場合、同等モードでは、常にルート・キー値が検索されます。

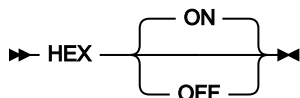
使用箇所

- 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネル ページ 258

HEX 基本コマンド

HEX 基本コマンドは、16 進数表示形式を設定またはリセットします。

構文



(パラメーターなし)

正しい 16 進数表示状況を切り替えます。つまり、16 進数表示が現在 OFF の場合は ON に切り替え、16 進数表示が現在 ON の場合は OFF に切り替えます。

ON

データの 16 進数表記を縦方向に表示します (1 バイト当たり 3 行)。

OFF

データを文字形式で表示します。

使用箇所

- 「IMS data (IMS データ)」パネル ページ 334
- 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネル ページ 258

関連作業および例

HEX コマンドを出す効果は、以下に示すように、 コマンドを出すときの現行の表示形式によって異なります。

- 現行表示形式が、CHAR、HEX、または LHEX の場合は、以下の通りです。

HEX ON

表示形式が HEX に変わります。「Format (形式)」フィールドに HEX と入力するのと同じです。

HEX OFF

表示形式が CHAR に変わります。「Format (形式)」フィールドに CHAR と入力するのと同じです。

- 現行表示形式が、SNGL または TABL の場合は、以下の通りです。

HEX ON

各フィールドの表示が変わり、定様式フィールドのすぐ下に、各フィールドの縦方向の 16 進数表記を 2 行で表示するようになります。

HEX OFF

表示が、16 進数表記のない標準の SNGL または TABL 形式に戻ります。

例えば、TABL 表示形式でデータを参照している場合、表示は次のようになります。

Shire Name	Type	Code1	Code2	SHIRE-ROAD
#3	#4	#5	#6	#7
AN 1:20	AN 21: ZD 22: ZD 25:			PD 30:8
<---+-----1----->	-	<-->	<---+>	<---+-----1----->
SHARK BAY	0	804	139	2322240304
WYALKATCHEM	0	431	124	100110022

コマンド HEX ON を出すと、次のような 16 進数表記が表示されます。

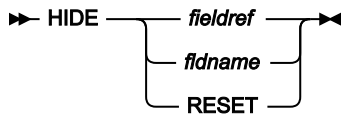
Shire Name	Type	Code1	Code2	SHIRE-ROAD
#3	#4	#5	#6	#7
AN 1:20	AN 21: ZD 22: ZD 25:			PD 30:8
<---+-----1----->	-	<-->	<---+>	<---+-----1----->
SHARK BAY	0	804	139	2322240304
ECCDD4CCE444444	F	FFF	FFFF	00032434
281920218000000	0	804	00139	0022200C
WYALKATCHEM	0	431	124	100110022
EEDDCECCCD4444	F	FFF	FFFF	00010102
681321338540000	0	431	00124	0000102C

HIDE 基本コマンド

HIDE コマンドは、データ表示から 1 つ以上のフィールドを削除します。表示形式が SNGL または TABL の場合は、「IMS data (IMS データ)」パネルでコマンドを発行できます。

隠しフィールドは、SHOW (FLD) エディター基本コマンドを使用するか、またはテンプレート・エディターで S 接頭部コマンドを使用して表示できます。

構文



fieldref

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲 (例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド指定は #*n* です。*n* は正整数であり、処理対象のテンプレート内のフィールド数を超えることはできません。

fldname

テンプレートのフィールドの名前。オプションで、前にポンド記号 (#) が付きます。コマンド・キーワードの構文上のあいまいさを避けるには、#RESET を使用します。

RESET

すべてのフィールドを表示します。

使用箇所

[\[IMS data \(IMS データ\)\] パネル ページ 334](#) 現行表示形式が、SNGL または TABL の場合。

関連作業および例

[SHOW \(FLD\) 基本コマンド ページ 530](#)

HIERARCH 基本コマンド

HIERARCH 基本コマンドは、編集またはブラウズ中のデータベースの構造のグラフィカル表現を表示します。

構文

► Hierarch ◄

使用箇所

- 「Browse (ブラウズ)」、「Edit (編集)」、「Utility (ユーティリティー)」（「Audit trail (監査証跡)」を除く)、および「Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)」ダイアログ内のすべてのパネル (各機能の初期入力パネルを除く)。

関連作業および例

[\[Database Hierarchy \(データベース階層\)\] パネル](#)で、セグメントの1つにタブで移動して Enter キーを押すと、「Segment Information (セグメント情報)」パネルが表示されます。

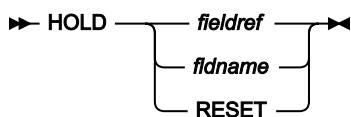
HOLD 基本コマンド

HOLD コマンドは、セグメント・レイアウトの1つ以上のフィールドにスクロール・ロックを設定します。TABL 表示形式では、左方または右方にスクロールするときに、保持フィールドがテンプレートで指定された順序で左方に固定されます。非構造化 SNGL 表示形式では、上方または下方にスクロールするときに、保持フィールドがテンプレートで指定された順序で一番上に固定されます。

表示形式が SNGL または TABL の場合は、「IMS data (IMS データ)」パネルでコマンドを発行できます。

FREE エディター基本コマンドによって、またはテンプレート・エディターの H 接頭部コマンドによって、スクロール・ロックを解除することができます。

構文



fieldref

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲 (例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド指定は #*n* です。*n* は正整数であり、処理対象のテンプレート内のフィールド数を超えることはできません。

fldname

テンプレートのフィールドの名前。オプションで、前にポンド記号 (#) が付きます。コマンド・キーワードの構文上のあいまいさを避けるには、#RESET を使用します。

RESET

すべてのスクロール・ロックを解除します。

使用箇所

[「IMS data \(IMS データ\)」パネル ページ 334](#) 現行表示形式が、SNGL または TABL の場合。

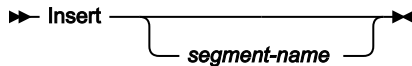
関連作業および例

- [FREE 基本コマンド ページ 500](#)
- [ORDER 基本コマンド ページ 516](#)

INSERT 基本コマンド (編集のみ)

INSERT 基本コマンドは、セグメント・タイプの1つのオカレンスをデータベースに挿入します。

構文



segment-name

挿入するセグメント・タイプ。このパラメーターを指定しない場合は、FM/IMS は「Insert : Segment Selection (挿入 :

セグメント選択)」パネルで選択されている。このパネルに表示されるセグメント・タイプのリストからセグメント・タイプを選択することができます。

INSERT 基本コマンドが出され、指定されたセグメント・タイプの挿入が許可される場合は、FM/IMS は「Insert Root Segment (ルート・セグメントの挿入)」パネル (指定されたセグメントがルート・セグメントの場合) もしくは「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネル (指定されたセグメントがルート以外のセグメントの場合) を表示します。

「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルで、親キー域の「**Key value (キー値)**」フィールドが、現行セグメントの親のキー (親が現行セグメントのパス上にある場合)、または低い値 (親が現行セグメントのパス上にない場合) のいずれかを伴って表示されます。

ビューを使用しない場合は、「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルまたは「Insert Root Segment (ルート・セグメントの挿入)」パネルで、データ域のフィールドはスペースに初期化されます。ビューを使用する場合は、FM/IMS は、データ域を初期化するときのセグメント・レイアウトを使用します。レイアウト中の数値フィールドはゼロに、非数値フィールドはスペースに設定されます。

挿入するセグメントで必要とする値で、キーおよびデータ・フィールドを更新します。FM/IMS:

- IMS を呼び出して、指定されたセグメント・オカレンスを挿入します。
- 「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻り、前に表示されていたページを再表示します。

セグメント・オカレンスを挿入せずに「IMS Data (IMS データ)」に戻るには、「Cancel」キー (F12) を押します。

以下の場合、セグメントを挿入できません。

- データベースの編集に使用する PCB が、セグメントを挿入するのに必要な処理オプションを持っていない。
- データベースの編集に使用する PCB が 2 次索引を使用しており、かつ、セグメントが 2 次索引のターゲット、もしくはターゲット・セグメントの親になっている。
- セグメントが連結セグメントであり、論理子および宛先親の両方に対してデータ機密性を持っていない。
- 挿入によって固有の 2 次索引で重複セグメントを生じる場合があり、重複セグメントが U0828 異常終了を引き起こす。

上記のいずれかの条件が現行のセグメント・タイプに対して当てはまる場合は、INSERT コマンドは、診断を実行し、「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルまたは「Insert Root Segment (ルート・セグメントの挿入)」パネルを表示しません。

使用箇所

- 編集のみ
- [「IMS data \(IMS データ\)」 パネル ページ 334](#) (ZOOM モードの場合を除く)

JUST 基本コマンド

ブラウザまたは編集セッションで、このコマンドは、SNGL 表示モードのときに一時的に数値フィールドを左寄せに設定します。

構文

▶▶ JUST ▶▶

JUST

SNGL 表示モードのときに数値フィールドを左寄せまたは右寄せに設定する切り替えコマンド。

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」 パネル ページ 334](#)

関連作業および例

- [表示形式の選択 ページ 63](#)
- [「Editor Options \(エディター・オプション\)」 パネル ページ 293](#)

KEY 基本コマンド

KEY 基本コマンドは、「Key Specification (キー指定)」パネルを表示します。このパネルで、セグメントのキー値を入力し、それによってデータベース内の現在位置を変更します。

「Key Specification (キー指定)」パネルには、現行階層パスとセグメント位置を基にしてキー値が表示されます。パネルは、現行階層パス内のセグメントのキー値を使用して初期化されます。階層パス内のそれらのセグメントのキー値は変更できます。

「Key Specification (キー仕様)」パネルの処理が完了すると、FM/IMS は、KEY コマンドが入力された「IMS Data (IMS データ)」パネルを再表示します。「Key Specification (キー指定)」パネルで入力されたキー値を満たしているセグメントが、現行セグメントになります。

構文

▶▶ KEY segment-name ▶▶

使用箇所

segment-name

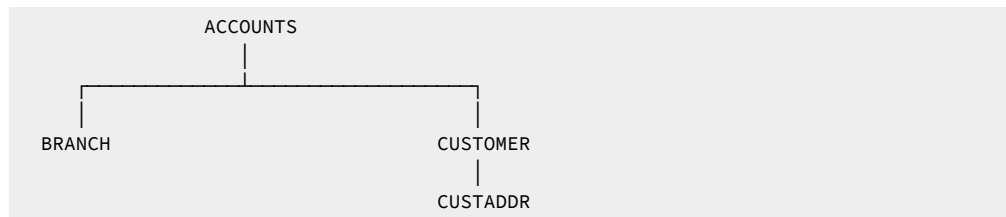
「Key Specification

(キー指定)」パネルで表示するセグメント・タイプの名前。このセグメント・タイプは、現行セグメントの階層パス (親または子) として DBD に定義されているセグメント・タイプの 1 つである必要があります。また、これは * と指定することもできます。その場合、このパラメーターを指定しないことを意味します。

segment name を指定しない場合 (または * と指定した場合)、スクロールは、現行セグメントの下の最初の階層子セグメントに制限されます。



1. FM/IMS が DBD 内で *segment-name* との完全一致を検出しない場合は、DBD 内のセグメントのリストを検索して、入力された値がセグメント名に含まれているかどうかを判別します。一致が含まれている最初のセグメント名が、KEY コマンドで使用されます。例:



「KEY CUST」と入力すると、「Key Specifications (キー指定)」パネルに CUSTOMER セグメントが表示されますが、CUSTADDR セグメントは検出されません。ただし、「KEY ADDR」と入力でき、これによりデータベース内で次に出現する CUSTADDR セグメントが検索されます。

2. 指定されたセグメント・オカレンスが見つからない場合は、現行データベース位置は変更されず、次のメッセージが表示されます: **Invalid segment name (セグメント名が無効です)**

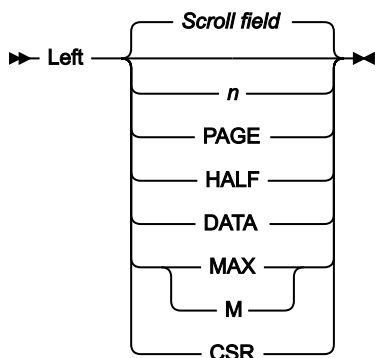
- 「IMS data (IMS データ)」パネル ページ 334
- 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネル ページ 258
- ZOOM モードでは非アクティブ。

LEFT 基本コマンド

複数セグメント表示で LEFT 基本コマンドを実行すると、表示されているセグメントのデータの先頭に向けてスクロールされます。

LEFT 基本コマンドは SNGL 形式ではアクティブではありません。

構文



n

左に *n* 桁だけスクロールします。

CSR

左にカーソル位置までスクロールします。

DATA

TABL 表示形式では **PAGE** と同じように機能します。他の表示形式では 1 ページ分のデータより 1 列少なく左にスクロールします。

HALF

半ページ分のデータだけ左にスクロールします。

MAX

CHAR、HEX、または LHEX 表示形式では、左端の列までスクロールします。TABL 表示形式では、左端のフィールドまでスクロールします。

PAGE

1 ページ分のデータだけ左にスクロールします。

Scroll field

[Scroll

(スクロール)] フィールドに指定した移動量だけ左にスクロールします。パラメーターを使用しない場合は、これがデフォルトです。[Scroll (スクロール)] フィールドに MAX 以外のパラメーターを入力すると、[Scroll (スクロール)] フィールドのデフォルトが変更されます。MAX を入力すると、コマンドの実行後に [Scroll (スクロール)] フィールドが以前の設定に戻ります。

使用箇所

- 表示が 1 ページ幅を超えるすべてのパネル上。

関連作業および例

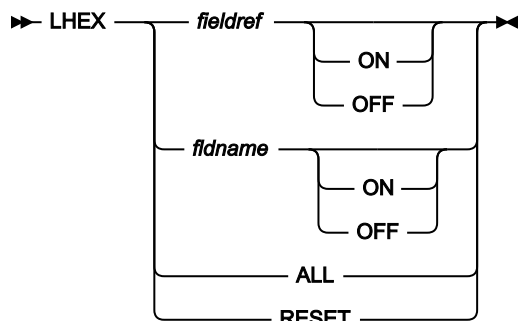
[RIGHT 基本コマンド ページ 525](#)

LHEX 基本コマンド

LHEX コマンドは、long 型 16 進数形式の 1 つ以上のフィールドのデータを表示します。LHEX 形式では、文字はそれぞれ、左から右に表示される 2 つの 16 進文字として示されます。例えば、「1」は LHEX 形式では「F1」と表示されます。文字フィールドのみが影響を受けます。

表示形式が SNGL または TABL の場合は、「IMS data (IMS データ)」パネルでコマンドを発行できます。

構文



fieldref

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲 (例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド指定は #*n* です。*n* は正整数であり、処理対象のテンプレート内のフィールド数を超えることはできません。

fldname

テンプレートのフィールドの名前。オプションで、前にポンド記号 (#) が付きます。コマンド・キーワードの構文上のあいまいさを避けるには、#ALL および #RESET を使用します。

OFF | ON

LHEX 形式をオンまたはオフにします。このパラメーターを省略すると、LHEX コマンドは切り替えとして機能します。フィールドの現在の LHEX 表示状況は逆になります。

ALL

すべてのフィールドを long 型 16 進数形式で表示します。

リセット

デフォルト形式ですべてのフィールドを表示します。

使用箇所

[「IMS data \(IMS データ\)」パネル ページ 334](#) 現行表示形式が、SNGL または TABL の場合。

関連作業および例

- [HEX 基本コマンド ページ 501](#)

LIBLIST 基本コマンド

LIBLIST コマンドを使用して、編集中のテンプレートに指定されたコピーブック・ライブラリー・リストを表示および変更することができます。

このコマンドを発行すると、FM/IMS によって [Copybook Library List (コピーブック・ライブラリー・リスト)] パネルが表示されます。

テンプレート関数 (オプション 4.1) は、「Template Specification (テンプレート指定)」パネルに指定されたレイアウト・メンバーを、指定されたライブラリーで検索します。

指定したコピーブック・ライブラリー・リストは、テンプレートに保管され、後続の更新で使用されます。

構文

▶ LIBLIST ◀

使用箇所

- [\[Template Specification \(テンプレート指定\)\] パネル ページ 444](#)

関連作業および例

[テンプレートの作成 ページ 86](#)

LOCATE 基本コマンド

LOCATE 基本コマンドを使用して、以下のことを行います。

- スクロール可能な定様式表示を、指定された [field-name] に一致するフィールドに位置付けます。表示は、指定された文字列を含むフィールドに位置付けられます。
- メンバー選択パネルで、現行の基本ソート順序列で突き合わせ文字列を検索します。

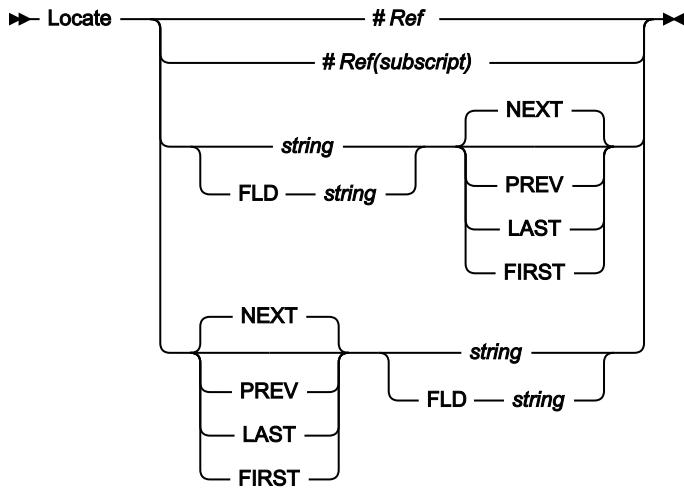
スクロール可能な形式設定されたデータを伴う LOCATE コマンド

SNGL 形式では、一致するフィールドがスクロール可能域に表示される最初のフィールドになるまで、表示がスクロールダウンされます。

TABL 形式では、一致するフィールドがスクロール可能域に表示される左端のフィールドになるまで、表示が右方へスクロールされます。

指定されたセグメントまたはフィールドまでスクロールします。

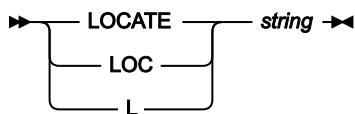
構文



「Member selection (メンバー選択)」パネルでの LOCATE コマンド

「Member selection (メンバー選択)」パネルでは、LOCATE コマンドは現行の基本ソート順序列で、コマンドによって入力したストリングに一致するストリングを検索します。LOCATE コマンドは、等しい列の値または最も近い列の値 (ソート順序によってより小さいか、より大きい値) のいずれかをディスプレイの上部に配置します。

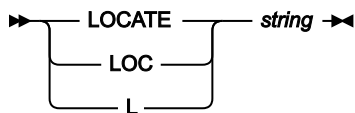
図 128. Syntax in Member Selection List



「Template Specification (テンプレート指定)」パネルでの LOCATE コマンド

「Template Specification (テンプレート指定)」で、LOCATE コマンドはセグメント名のリストおよび入力されたストリングに一致する最初のセグメント名に対する位置を検索します。

図 129. Syntax in the Template Specification panel



#Ref

見付けたいフィールドのフィールド参照番号。フィールドが配列の項目ではないときに適用されます。例:

```
L #3
```

SNGL または TABL 表示形式でのみ使用できます。

#Ref(subscript)

見付けたいフィールドのフィールド参照番号およびオカレンス。フィールドが配列の項目であるときに適用されます。見付けたいオカレンスを示すために、括弧の中に添え字を指定する必要があります。フィールドが多次元配列の一部の場合、配列の次元ごとに添字を指定しなければなりません。例:

```
L #7(5)
```

```
L #9(2,3)
```

SNGL または TABL 表示形式でのみ使用できます。

ストリング

探し出したいフィールドの名前 (または名前の一部)。このストリングには、フィールド名の任意の部分を指定できます。例:

```
L SAL
```

または

```
L ARY
```

“SALARY”という名前のフィールドの位置を見つけます。

SNGL または TABL 表示形式でのみ使用できます。

FLD string

FLD キーワードの後に続くストリングが、探しているフィールドの名前または名前的一部分であることを FM/IMS

に示します。これは、フィールド名とその他のコマンド・パラメーターとの区別があいまいである可能性がある場合に、それを解決するために使用されます。例えば、フィールド名に # 記号が含まれている場合 (例えば、#Items)、コマンド `L #Items` は、FM/IMS が # 記号に数値のフィールド参照番号が続くことを予期しているため、エラーになります。コマンド `L FLD #Items` を使用すると、この問題が解決されます。

SNGL または TABL 表示形式でのみ使用できます。

NEXT

カーソル位置から右の方向に (TABL 表示) または下の方向に (SNGL 表示)

フィールド名の次の出現箇所を検索します。string または FLD string とともに使用する必要があります (任意の順序でかまいません)。例:

```
L NEXT SAL
```

または

```
L SAL NEXT
```

SNGL または TABL 表示形式でのみ使用できます。

PREV

カーソル位置から左の方向に (TABL 表示) または上の方向に (SNGL 表示)

フィールド名の直前の出現箇所を検索します。string または FLD string とともに使用する必要があります (任意の順序でかまいません)。例:

```
L PREV SAL
```

または

```
L SAL PREV
```

SNGL または TABL 表示形式でのみ使用できます。

LAST

カーソル位置に関係なく、フィールド名の最後の出現箇所を検索します。 *string* または FLD *string* とともに使用する必要があります (任意の順序でかまいません)。例:

```
L LAST SAL
```

または

```
L SAL LAST
```

SNGL または TABL 表示形式でのみ使用できます。

FIRST

カーソル位置に関係なく、フィールド名の最初の出現箇所を検索します。 *string* または FLD *string* とともに使用する必要があります (任意の順序でかまいません)。例:

```
L FIRST SAL
```

または

```
L SAL FIRST
```

SNGL または TABL 表示形式でのみ使用できます。

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」 パネル ページ 334](#)
- [「Database Positioning \(データベース位置決め\)」 パネル ページ 258](#)
- メンバー選択パネル。

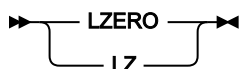
LZEROプライマリコマンド

LZERO 基本コマンドは、テンプレートのグローバル先行ゼロ設定を切り替えます。

グローバル先行ゼロが ON に設定されている場合、適用可能な数値フィールドのデフォルトの先行ゼロ設定は YES で、現行パネルに状況インジケータ **LZERO** が表示されます。

グローバル先行ゼロが OFF に設定されている場合、適用可能な数値フィールドのデフォルトの先行ゼロ設定は NO で、状況インジケータはクリアされます。

構文



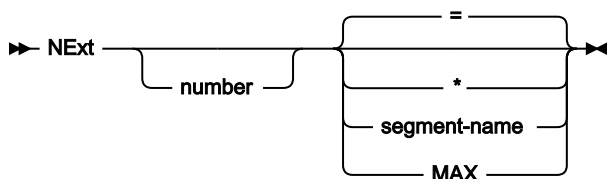
使用箇所

- [「Segment Layout \(セグメント・レイアウト\)」 パネル ページ 399](#) (テンプレートまたはビューについて)

NEXT 基本コマンド

NEXT 基本コマンドは、指定されたパラメーターを使用して、現行データベース位置をセグメント・タイプの次のオカレンスまでスクロールします。

構文



number

前方に移動するセグメント・オカレンスの数 (*number*)。

=

動作は、現在の SHOW コマンドの設定によって異なります。

現在の設定が **SHOW SUP OFF** の場合、FM/IMS は、同じセグメントおよびレイアウト・タイプ (現在の定様式セグメント・タイプ) の *n* 番目のオカレンスまで前方にスクロールします。

現在の設定が **SHOW SUP ON** の場合、FM/IMS は、レイアウト・タイプに関係なく、現行セグメントと同じセグメント・タイプの *n* 番目のオカレンスまで前方にスクロールします。



注: 「Editor Options (エディター・オプション)」 パネル (オプション 0.5) の **「Use * (any segment type) as default on NEXT and PREVIOUS commands (NEXT および PREVIOUS コマンドにデフォルトとして * (任意のセグメント・タイプ) を使用)」** フィールドが選択されていない限り、= がデフォルトです。

*

現在の SHOW コマンドの設定を無視して、セグメント・タイプにかかわらず、*number* の数だけセグメント・オカレンスを前方に移動します。



注: 「Editor Options (エディター・オプション)」 パネル (オプション 0.5) の **「Use * (any segment type) as default on NEXT and PREVIOUS commands (NEXT および PREVIOUS**



コマンドにデフォルトとして「***(任意のセグメント・タイプ)を使用)**」フィールドを選択すると、これをデフォルトの動作に設定できます。

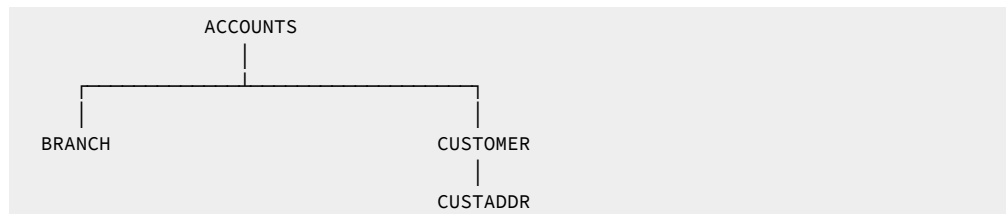
segment-name

指定されたセグメント・タイプの n 番目のオカレンスまで前方へ移動します。



注:

1. FM/IMS が DBD 内で *segment-name* との完全一致を検出しない場合は、DBD 内のセグメントのリストを検索して、入力された値がセグメント名に含まれているかどうかを判別します。一致が含まれている最初のセグメント名が、NEXT コマンドで使用されます。例:



「NEXT CUST」と入力すると、データベース内で次に出現する CUSTOMER セグメントの位置が見つかりますが、CUSTADDR セグメントは検出されません。ただし、「NEXT ADDR」と入力でき、これによりデータベース内で次に出現する CUSTADDR セグメントが検索されます。

2. 指定されたセグメント・オカレンスが見つからない場合は、現行データベース位置は変更されず、次のメッセージが表示されます: **セグメント名が無効**

MAX

最後のセグメントまでスクロールします。また、スクロール・フィールドに MAX と入力し、次に NEXT コマンドを入力することもできます。



注: スクロール・フィールドによって、デフォルトが MAX に変更されることはありません。

使用箇所

- 「IMS data (IMS データ)」パネル ページ 334

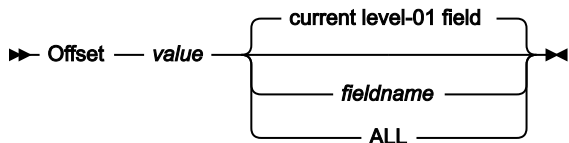
関連作業および例

PREVIOUS 基本コマンド ページ 518

OFFSET 基本コマンド

オフセットがテンプレートに既に指定されている場合に OFFSET 基本コマンドが適用されると、そのオフセット値が、テンプレートに指定されたオフセット値を上書きします。

構文



value

オフセット値。

fieldname

オフセットの適用先となるレベル 1 のフィールド名。

デフォルトでは、現在表示されているレベル 01 フィールドです。

ALL

現在ロードされているテンプレートに記述されているすべてのレイアウトに適用されるオフセット値。

使用箇所

- Offset 基本コマンドは、複数レイアウト時のテンプレート編集にのみ適用されます。

コメント

なし。

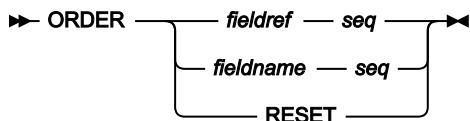
ORDER 基本コマンド

ORDER コマンドは、TABL および SNGL 表示フォーマットでの 1 つ以上のフィールドの表示順序を設定します。

保持フィールドは、他の保持フィールドに関連して順序付けされます。保持されていないフィールドは、その他の保持されていないフィールドに関連して順序付けされます。

また、テンプレート・エディターを使用して、SEQ 列に数値を入力することによって、表示順序を指定することもできます。

構文



fieldref

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲 (例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド指定は #*n* です。*n* は正整数であり、処理対象のテンプレート内のフィールド数を超えることはできません。

fldname

テンプレートのフィールドの名前。オプションで、前にポンド記号 (#) が付きます。コマンド・キーワードの構文上のあいまいさを避けるには、#RESET を使用します。

seq

他の順序付けフィールドとの間でのフィールドの相対順序を示す正整数。

RESET

デフォルト順ですべてのフィールドを表示します。

使用箇所

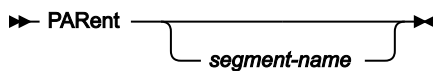
[IMS data (IMS データ)] [パネル ページ 334](#) 現行表示形式が、SNGL または TABL の場合。

関連作業および例

- [FREE 基本コマンド ページ 500](#)
- [HOLD 基本コマンド ページ 504](#)

PARENT 基本コマンド

PARENT 基本コマンドは、データベース内の位置を、現行セグメントから、現行セグメントの階層パス内のその他のセグメント・オカレンスに変更します。

構文**segment-name**

位置指定先のセグメント・タイプの名前。このセグメント・タイプは、現行セグメント・タイプの親でなければなりません。直接の親である必要はありません。

segment-name を指定しない場合には、PARENT コマンドは、現行セグメントの直接の親に位置指定します。

PARENT コマンドが実行されても、現行セグメントがルート・セグメントのときは、FM/IMS はメッセージを表示し、現行セグメント位置を変更しません。

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」 パネル ページ 334](#)
- ZOOM モードでは非アクティブ。

関連作業および例

[ROOT 基本コマンド ページ 526](#)

PIC 基本コマンド

ブラウザまたは編集セッションで、このコマンドは、SNGL 表示モードのときにピクチャー文節を一時的にオンまたはオフに設定します。2 進数およびパック 10 進数フィールドの長さおよびスケール (ゼロ以外の場合) と、ビット・フィールドの長さも示します。

構文

▶▶ PIC ◀◀

PIC

SNGL 表示モードでピクチャー文節情報を表示または非表示にする切り替えコマンド。

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」 パネル ページ 334](#)

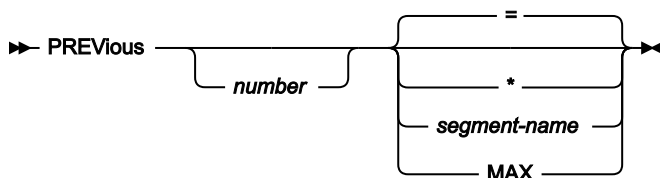
関連作業および例

- [表示形式の選択 ページ 63](#)
- [「Editor Options \(エディター・オプション\)」 パネル ページ 293](#)

PREVIOUS 基本コマンド

PREVIOUS 基本コマンドは、指定されたパラメーターを使用して、現行データベース位置をセグメント・タイプの前のオカレンスまでスクロールします。

構文



number (数)

後方に移動するセグメント・オカレンス数 *number*。

=

動作は、現在の SHOW コマンドの設定によって異なります。

現在の設定が **SHOW SUP OFF** の場合、FM/IMS は、現行データベース位置 (つまり現在の定様式セグメント・タイプ) から、同じセグメント・タイプの nnnn 番目のオカレンスまで後方にスクロールします。

現在の設定が **SHOW SUP ON** の場合、FM/IMS は、セグメント・タイプにかかわらず、*number* の数だけセグメント・オカレンスを後方にスクロールします。

*

* は、現在の SHOW コマンドの設定を無視して、セグメント・タイプにかかわらず、*number* の数のセグメント・オカレンスだけ 後方に移動します。



注: オプション 0.5 (エディター・オプション) で、オプション「Use * (any segment type) as default on NEXT and PREVIOUS commands (NEXT および PREVIOUS コマンドにデフォルトとして * (任意のセグメント・タイプ) を使用)」が設定されていない限り、= がデフォルトです。

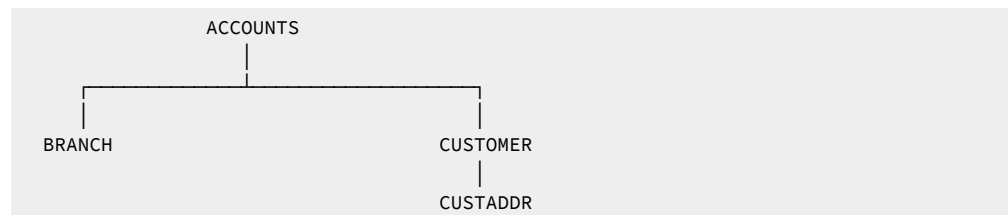
segment-name

指定されたセグメント・タイプの n 番目のオカレンスまで後方へ移動します。



注:

1. FM/IMS が DBD 内で *segment-name* との完全一致を検出しない場合は、DBD 内のセグメントのリストを検索して、入力された値がセグメント名に含まれているかどうかを判別します。一致が含まれている最初のセグメント名が、PREV コマンドで使用されます。例:



「PREV CUST」と入力すると、データベース内の 1 つ前にある CUSTOMER セグメントの位置が見つかりますが、CUSTADDR セグメントは検出されません。ただし、「PREV ADDR」と入力でき、これによりデータベース内で 1 つ前にある CUSTADDR セグメントが検索されます。

2. 指定されたセグメント・オカレンスが見つからない場合は、現行データベース位置は変更されず、次のメッセージが表示されます: **セグメント名が無効**



3. スライディング・ウィンドウを使用している場合、次のメッセージが表示されます。**セグメントがウィンドウに表示されない**
4. 編集/ブラウザ表示にスライディング・ウィンドウを使用していた場合、ウィンドウの現在の先頭が、PREVIOUS コマンドがデータベース位置を移動できる限度になります。

MAX

最初のセグメントまでスクロールします。また、スクロール・フィールドに MAX と入力し、次に NEXT コマンドを入力することもできます。



注: スクロール・フィールドによって、デフォルトが MAX に変更されることはありません。

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」 パネル ページ 334](#)

関連作業および例

[NEXT 基本コマンド ページ 514](#)

QUIT 基本コマンド

QUIT コマンドは CANCEL コマンドの同義語です。

RCHANGE 基本コマンド

RCHANGE 基本コマンドは、直前の CHANGE 基本コマンドによって実行された変更を繰り返します。

元の CHANGE コマンドに指定されたすべてのオプション (CHILD、SEGMENT、GET(n) など) が、引き続き RCHANGE に適用されます。GET(n) を使用した場合、新しいレコード範囲が RCHANGE コマンドで開始されます。

構文

▶ RCHANGE ◀

使用箇所

RCHANGE は、CHANGE が ALL パラメーターを指定して入力されている場合は適用されません。

関連作業および例

- [CHANGE 基本コマンド \(編集のみ\) ページ 473](#)

RDF 基本コマンド

ブラウザまたは編集セッションでは、このコマンドは再定義情報を表示または非表示にします。

構文

▶ RDF ◀

RDF

SNGL 表示モードでの情報の再定義および再定義フィールドの表示または非表示と、TABL 表示モードでの再定義フィールドの表示または非表示を切り替えるコマンド。

使用箇所

- [\[IMS data \(IMS データ\)\] パネル ページ 334](#)

関連作業および例

- [表示形式の選択 ページ 63](#)
- [\[Editor Options \(エディター・オプション\)\] パネル ページ 293](#)

REFRESH 基本コマンド

メンバー選択パネルで、REFRESH 基本コマンドはディレクトリーを再読み取りして、現行のメンバー・リストを表示します。

構文

▶ REFRESH ◀

使用箇所

- [ライブラリー・データ・セットの指定 ページ 32](#)

REFS 基本コマンド

REFS 基本コマンドは、SNGL 表示モードで、フィールド参照の列の表示をオンまたはオフにします。

構文

▶ REFS ◀

REFS

SNGL 表示モードでフィールド参照の列を表示または非表示にする切り替えコマンド。

使用箇所

- [\[IMS data \(IMS データ\)\] パネル ページ 334](#)

関連作業および例

- [表示形式の選択 ページ 63](#)
- [「Editor Options \(エディター・オプション\)」パネル ページ 293](#)

RELATED 基本コマンド

RELATED 基本コマンドは、現行データベースについて定義されている論理関係に関する情報を表示します。

構文

▶▶ RELated ◀◀

使用箇所

- 「Browse (ブラウズ)」、 「Edit (編集)」、 「Utility (ユーティリティー)」（「Audit trail (監査証跡)」を除く)、 および 「Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)」 ダイアログ内のすべてのパネル (各機能の初期入力パネルを除く)。


関連作業および例

- [「Logical Relationship Information \(論理関係情報\)」パネル ページ 369](#)

REPEAT 基本コマンド (編集のみ)

REPEAT 基本コマンドは、単一セグメント・オカレンスまたは副構造全体をデータベースに挿入します。

構文

▶▶ REPeat 

パラメーターを指定せずに REPEAT コマンドを使用して、現行セグメント・タイプの単一オカレンスをデータベースに挿入します。

REPEAT ALL コマンドを使用して、現行セグメント・タイプのオカレンスをデータベースに挿入し、この新規オカレンスの下にある現行セグメントの従属セグメントをすべて複写します。

REPEAT または REPEAT ALL コマンドが出され、かつ、現行セグメント・タイプの挿入が許可されている場合は、FM/IMS は「Insert Root Segment (ルート・セグメントの挿入)」パネル (現行セグメントがルート・セグメントの場合) もしくは「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネル (現行セグメントがルート以外のセグメントの場合) を表示します。

「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルで、親キー域の「**Key value (キー値)**」フィールドが、現行セグメントの親のキーを伴って表示されます。

「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルおよび「Insert Root Segment (ルート・セグメントの挿入)」パネルで、現行セグメントのキーおよびデータがデータ域に表示されます。

挿入するセグメントに必要な値で、キーおよびデータ・フィールドを更新してから、「Exit」機能キー (F3) を押しません。FM/IMS:

- IMS を呼び出して、指定されたセグメント・オカレンスを挿入します。
- REPEAT ALL の場合、新規オカレンスの下の現行セグメントの従属セグメントをすべて複写します。
- 「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻り、前に表示されていたページを再表示します。

セグメント・オカレンスを挿入せずに「IMS Data (IMS データ)」に戻るには、「Cancel」キー (F12) を押しします。

以下の場合には、セグメントを挿入できません。

- データベースの編集に使用する PCB が、セグメントを挿入するのに必要な処理オプションを持っていない。または、
- データベースの編集に使用する PCB が 2 次索引を使用しており、かつ、セグメントが 2 次索引のターゲット、もしくはターゲット・セグメントの親になっている。または、
- セグメントが連結セグメントであり、論理子および宛先親の両方に対してデータ機密性を持っていない。または、
- 挿入によって固有の 2 次索引で重複セグメントを生じる場合があり、重複セグメントが U0828 異常終了を引き起こす。

上記のいずれかの条件が現行のセグメント・タイプに対して当てはまる場合は、REPEAT コマンドは、診断を実行し、「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルまたは「Insert Root Segment (ルート・セグメントの挿入)」パネルを表示しません。

使用箇所

- 編集のみ
- 「IMS data (IMS データ)」パネル ページ 334 (ZOOM モードの場合を除く)

関連作業および例

- [INSERT 基本コマンド \(編集のみ\) ページ 504](#)
- [「Insert Root Segment \(ルート・セグメントの挿入\)」パネル ページ 347](#)
- [「Insert Segment \(セグメントの挿入\)」パネル ページ 349](#)

RESET 基本コマンド

RESET コマンドは、表示されたデータを“クリーンアップ”します。

構文

☒ 130. Syntax (for Browse)



図 131. Syntax (for Edit)

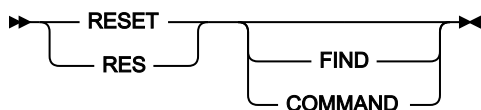


図 132. Syntax (for member selection panels)

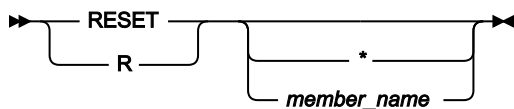


図 133. Syntax (for options panels)

▶ RESET ◀

COMMAND

保留中のすべての行コマンドをリセットします。

FIND

FIND コマンドによって検出されたストリングまたは数値から強調表示を除去します。

*

リスト内のすべてのメンバーを選択解除するよう指定します。

member_name

名前付きメンバーを選択解除するように指定します。名前の一致するすべてのメンバーが選択解除されるように、メンバー名のパターンでも構いません。

パラメーターを指定しないで RESET コマンドを入力すると、すべてがリセットされます。

「Member Selection (メンバー選択)」パネルでの RESET コマンド

メンバー選択パネルで、RESET コマンドは、まだ処理されていない接頭部域、および「Prompt (プロンプト)」フィールドに入力された値をリセットします。メンバー名またはメンバー・パターンを指定して、コマンドの有効範囲を一致するメンバー名に制限することができます。メンバー名またはパターンをいずれも指定しなかった場合は、すべての接頭部コマンドが除去されます。

オプション・パネルでは、RESET コマンドによって、パネルに表示されたオプションが、File Manager オプション・モジュールで定義されているデフォルト・オプションにリセットされます。

使用箇所

- [「BMP Mode Options \(BMP モード・オプション\)」パネル ページ 224](#)
- [「BMP Mode Parameters \(BMP モード・パラメーター\)」パネル ページ 227](#)
- [「DLI Mode Data Sets 1 \(DLI モード・データ・セット 1\)」パネル ページ 274](#)
- [「DLI Mode Data Sets 2 \(DLI モード・データ・セット 2\)」パネル ページ 276](#)
- [「DLI Mode Options \(DLI モード・オプション\)」パネル ページ 279](#)

- [「DLI Mode Parameters \(DLI モード・パラメーター\)」](#) パネル ページ 282
- [「Set Print Processing Options \(印刷処理オプションの設定\)」](#) パネル ページ 420
- [「Set Temporary Data Set Allocation Options \(一時データ・セット割り振りオプション設定\)」](#) パネル ページ 425
- [「System Settings \(システム設定\)」](#) パネル ページ 437

RFIND 基本コマンド

RFIND 基本コマンドは、直前の FIND 基本コマンドによって実行された検索を繰り返します。

元の FIND コマンドに指定されたすべてのオプション (CHILD、SEGMENT、GET(n) など) が、引き続き RFIND に適用されます。GET(n) を使用した場合、新しいレコード範囲が RFIND コマンドで開始されます。

構文

▶▶ RFIND ◀◀

使用箇所

RFIND は、カーソル位置から機能します。「RFIND」機能キー (F5) を使用すると、カーソルはデータの本体に残り、このキーを押すことでストリングの次の出現に簡単に移動することができます。ただし、コマンド行に RFIND コマンドを入力した場合、ストリングの次の出現を検索するには、ストリングの最後の出現にカーソルを位置変更してから Enter キーを押す必要があります。

関連作業および例

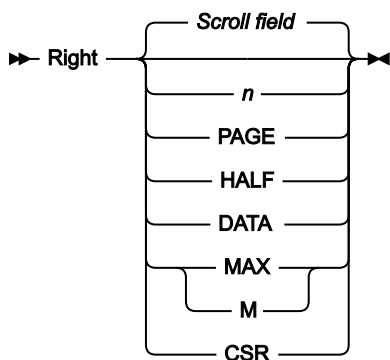
- [FIND 基本コマンド ページ 489](#)

RIGHT 基本コマンド

(複数セグメント表示では) RIGHT 基本コマンドは、表示されているセグメントのデータの終わりに向けてスクロールします。

(SNGL 形式では) RIGHT 基本コマンドは非アクティブです。

構文



Scroll field

「Scroll

(スクロール)」フィールドに指定した移動量だけ右にスクロールします。パラメーターを使用しない場合は、これがデフォルトです。「Scroll (スクロール)」フィールドに MAX 以外のパラメーターを入力すると、「Scroll (スクロール)」フィールドのデフォルトが変更されます。MAX を入力すると、コマンドの実行後に「Scroll (スクロール)」フィールドが以前の設定に戻ります。

number

右へ *number* 桁スクロールします。

PAGE

1 画面ページだけ右方へスクロールします。

DATA

1 画面ページ分のデータより 1 桁少なく右方へスクロールします。TABL モードの場合は、これは PAGE と同じです。

HALF

1 画面ページ分のデータの半分だけ右方へスクロールします。

MAX

CHAR、HEX、または LHEX 表示形式では、右端の列までスクロールします。TABL 表示形式では、右端のフィールドまでスクロールします。

CSR

カーソルがデータの範囲内にあればそのカーソル位置まで右方へスクロールし、そうでなければ、1 画面ページだけスクロールします。

使用箇所

- 表示が 1 ページ幅を超えるすべてのパネル上。

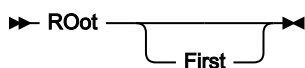
関連作業および例

[LEFT 基本コマンド ページ 507](#)

ROOT 基本コマンド

ROOT 基本コマンドは、データベース内の位置を現行セグメントから、現行階層パス内のルート・セグメントか、またはデータベース内の最初のルート・セグメントに変更します。

構文



FIRST オペランドを指定した場合には、ROOT コマンドはデータベース内の最初のルート・セグメントに位置変更します。それ以外の場合には、ROOT コマンドは現行階層パス内のルート・セグメントに位置を指定します。

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」 パネル ページ 334](#)
- ZOOM モードでは非アクティブ。

関連作業および例

- [PARENT 基本コマンド ページ 517](#)

SAVE 基本コマンド (編集のみ)

SAVE 基本コマンドは、FM/IMS に即時にチェックポイント (CHKP) 呼び出しを実行させます。チェックポイント呼び出しは、現在バッファの中にあるすべてのセグメント更新をデータベース・データ・セットに書き込むよう要求します。

構文

▶▶ SAve ◀◀

データベースの編集に IO PCB のない静的 PSB を使用する場合、SAVE コマンドはアクティブではありません。

使用箇所

- 編集のみ。

関連作業および例

- [AUTOSAVE 基本コマンド \(編集のみ\) ページ 467](#)

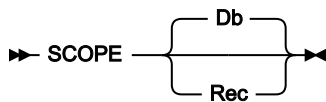
SCOPE 基本コマンド

編集またはブラウザ・セッションでは、「scope (有効範囲)」とは以下の範囲のことです。

- コマンドが作動する範囲。
- 表示するためにセグメントを検索する範囲。

SCOPE 基本コマンドによって、有効範囲を、現行のデータベース・レコードまたはデータベース・レコード全体のいずれかに変更することができます。

構文



DB

コマンド操作の有効範囲は、データベース全体です。複数セグメントのディスプレイでは、データベースの終わりまでスクロールします。

REC

コマンド操作の有効範囲は、現行のデータベース・レコードに制限されます。複数セグメントのディスプレイでは、データベース・レコードの終わりまでスクロールするだけです。

このオプションがアクティブの場合は、ルート・セグメントに対して出された NEXT 基本コマンドと TWIN 基本コマンドによってのみ、別のデータベース・レコードへまたがることができます。これらのコマンドの場合、データベース・レコード境界に到達すると、ポップアップ・パネルが表示されます。ポップアップ・パネルでは、別のデータベース・レコードに移動するか、コマンドを取り消すかのオプションを選択できます。

編集またはブラウザ・セッションの有効範囲の初期設定を変更するには、「Editor Options (エディター・オプション)」パネル (オプション 0.5) で、「Set SCOPE REC (SCOPE REC に設定)」オプションを選択または選択解除します。

使用箇所

- [\[Database Positioning \(データベース位置決め\)\]](#) パネル ページ 258
- [\[Key Specification \(キー指定\)\]](#) パネル ページ 358
- [\[IMS data \(IMS データ\)\]](#) パネル ページ 334 (ZOOM モードの場合を除く)

SEGMENT 基本コマンド

SEGMENT 基本コマンドは、現行データベースの一部として定義されているセグメントについての情報を表示します。

構文

▶ SEGment — *segment-name* ▶

使用箇所

- それぞれの機能の「入力」パネルの後のすべてのパネル。
- ZOOM モードでは非アクティブ。

使用箇所

- ・「Browse (ブラウズ)」、「Edit (編集)」、「Utility (ユーティリティー)」（「Audit trail (監査証跡)」を除く）、および「Template/View/Criteria Set (テンプレート/ビュー/基準セット)」ダイアログ内のすべてのパネル (各機能の初期入力パネルを除く)。

SEGSTATS 基本コマンド

SEGSTATS 基本コマンドは、現在のエディター・セッションに含まれるレコードの統計をリストします。

構文

▶ SEGStats ◀

使用箇所

- ・「IMS data (IMS データ)」パネル ページ 334

関連作業および例

- ・現行ブラウズまたは編集セッションの統計リスト ページ 84

SELECT ALL 基本コマンド

SELECT ALL 基本コマンドは、「Database Positioning (データベース位置決め)」、「Segment Selection (セグメント選択)」、および「Segment Layout (セグメント・レイアウト)」パネルのすべてのセグメントを選択または選択解除するために使用します。

構文

▶ SElect ALL { ON / OFF } ◀

ON

処理のためにすべてのセグメントを選択します。

OFF

処理のためにすべてのセグメントを選択解除します。



注: すべてのフィールドが「View: Segment Layout (ビュー: セグメント・レイアウト)」パネルまたは「Field Selection/Edit (フィールド選択/編集)」パネルで選択解除された場合、FM/IMS はデフォルトの動作で機能します。つまり、すべての基本項目が選択されているものとみなします。

使用箇所

- 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネル ページ 258
- 「Segment Layout Selection (セグメント・レイアウト選択)」パネル ページ 406
- 「Segment Selection (セグメント選択)」パネル ページ 409

SHOW (FLD) 基本コマンド

SHOW (FLD) コマンドは、1 つ以上の非表示フィールドをデータ表示に追加します。

表示形式が SNGL または TABL の場合は、「IMS data (IMS データ)」パネルでコマンドを発行できます。

HIDE エディター基本コマンドを使用するか、テンプレート・エディターで S 接頭部コマンドを使用すると、表示からフィールドを隠すことができます。

構文



fieldref

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲

(例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド指定は #*n* です。*n* は正整数であり、処理対象のテンプレート内のフィールド数を超えることはできません。

fldname

テンプレートのフィールドの名前。オプションで、前にポンド記号 (#)

が付きます。コマンド・キーワードの構文上のあいまいさを避けるには、#RESET を使用します。

RESET

すべてのフィールドを表示します。

使用箇所

「IMS data (IMS データ)」パネル ページ 334 現行表示形式が、SNGL または TABL の場合は、

関連作業および例

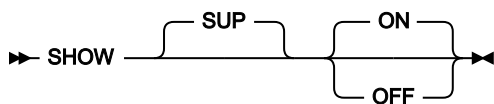
- [HIDE 基本コマンド ページ 502](#)
- [SHOW \(REC\) 基本コマンド ページ 531](#)

SHOW (REC) 基本コマンド

SHOW 基本コマンドは、ビューがデータベースと関連付けられている場合に、いろいろなセグメント・タイプを表示する「IMS Data (IMS データ)」パネルに適用されます。このコマンドは、以下のようなセグメントの行の表示を制御します。

- 抑制 (現行の定様式セグメント・タイプではない)
- 一致しない (セグメント・レイアウトの選択基準を満たしているが、長さがセグメント・レイアウトと異なる)

構文



SUP

これは、抑制セグメントと関係します。

OFF

抑制セグメントをシャドー行として表示します。

ON

現在表示されているセグメントに加えて、指定したセグメントのタイプを表示します。

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」パネル ページ 334](#) (ZOOM モードの場合を除く)

SHOWCOB 基本コマンド

SHOWCOB コマンドでは、現在使用されている COBOL コンパイラを示す詳細が表示されます。

構文

▶▶ SHOWCOB ◀◀

使用箇所

すべてのパネル上で使用可能

関連作業および例

- [使用している COBOL コンパイラの確認 ページ 29](#)

SLOC 基本コマンド

ブラウザまたは編集セッションで、このコマンドは、SNGL 表示モードのときにそれぞれのフィールドの開始位置を一時的に表示または非表示にします。

構文

▶ SLOC ◀

SLOC

SNGL 表示モードで、それぞれのフィールドの開始位置を表示または非表示にする切り替えコマンド。

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」パネル ページ 334](#)

関連作業および例

- [表示形式の選択 ページ 63](#)
- [「Editor Options \(エディター・オプション\)」パネル ページ 293](#)

SORT 基本コマンド

SORT コマンドは、表示しているデータの順序を変更します。これは、「Member selection (メンバー選択)」パネルで使用することができます。

「Member selection (メンバー選択)」パネルでの SORT コマンド

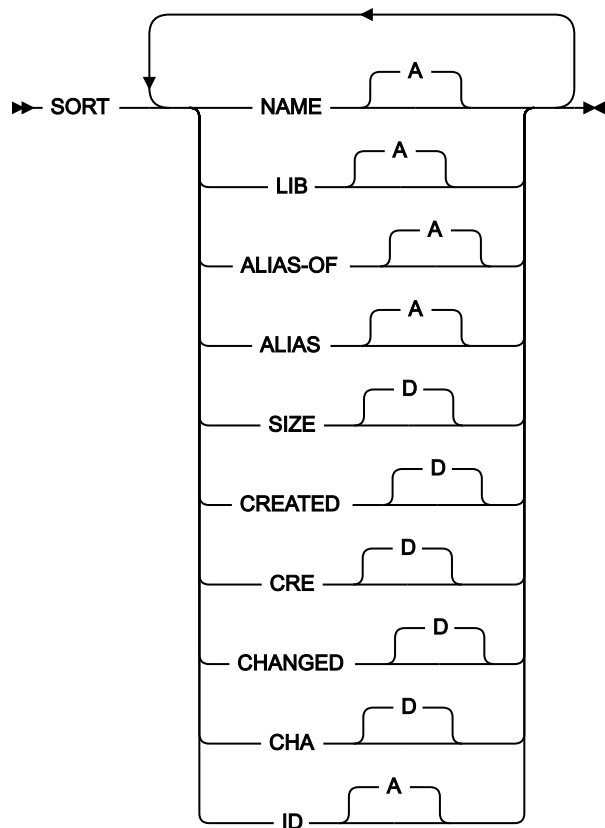
メンバー選択パネルでは、SORT 基本コマンドは表示されたメンバーを、(行コマンド・フィールドおよび「**Prompt (プロンプト)**」フィールドの他に) メンバー・リストに表示された任意の 2 つのフィールド順にソートします。有効なソート・フィールドは、メンバー・リスト統計フィールドの列見出しにあります。



注: CARMA ディレクトリー・リストの場合、名前と LIB 列のみがサポートされます。

次の SORT コマンドの構文は、定様式レコードを持つ PDS に適用されます。

図 134. Syntax: member selection panels, formatted records

**NAME (名前)**

メンバー名順によるソート。

LIB

ライブラリー・ディレクトリー番号順によるソート。

ALIAS-OF

別名順によるソート。

ALIAS

別名順によるソート。

SIZE (サイズ)

ISPF 統計を伴って保管されているメンバーの場合、メンバーのステートメント数順によるソート。

CREATED

作成日順によるソート。

CRE

作成日順によるソート。

CHANGED

メンバーの最終変更日時順によるソート。

CHA

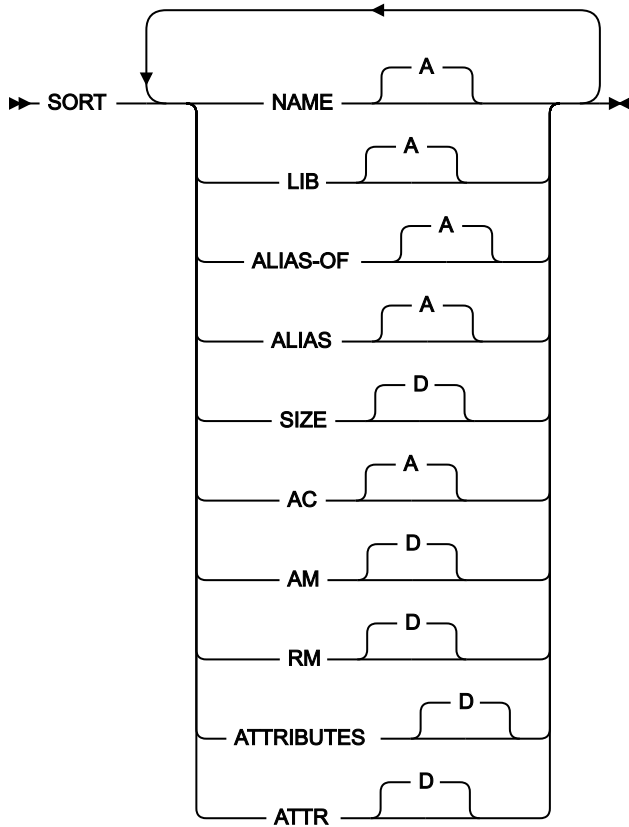
メンバーの最終変更日時順によるソート。

ID

ユーザー ID 順によるソート。

次の SORT コマンドの構文は、ロード・ライブラリーなど、不定形式レコード (RECFM=U) を持つ PDS に適用されます。

図 135. Syntax: member selection panels, unformatted records



NAME

メンバー名順によるソート。

LIB

ライブラリー・ディレクトリー番号順によるソート。

ALIAS-OF

別名順によるソート。

ALIAS

別名順によるソート。

SIZE

ロード・モジュールの 16 進値順によるソート。

AC

許可コード順によるソート。

AM

AMODE バインダー値順によるソート。

RM

RMODE バインダー値順によるソート。

ATTRIBUTES

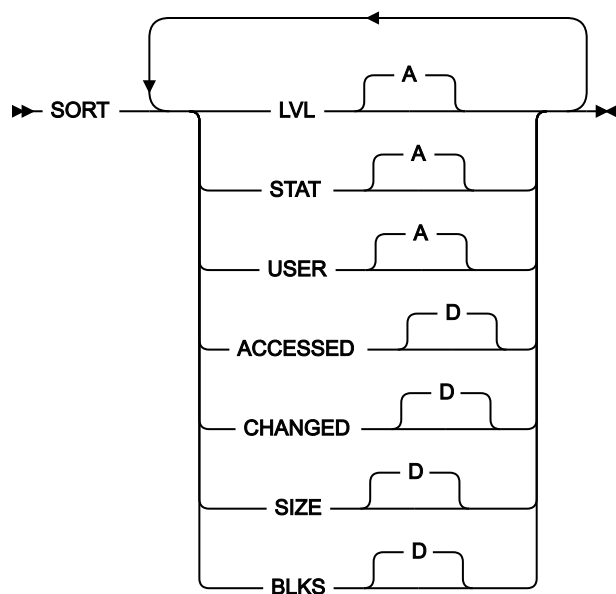
バインダーにより決定される属性値順によるソート。

ATTR

バインダーにより決定される属性値順によるソート。

次の SORT コマンドの構文は、PANVALET メンバーに適用されます。

図 136. Syntax: member selection panels, PANVALET members

**LVL**

メンバー・レベル順によるソート。

STAT

メンバー状況順によるソート。

USER (ユーザー)

ユーザー・コード順によるソート。

ACCESSED

最終アクセス日付順によるソート。

CHANGED

最終変更日順によるソート。

SIZE

ステートメント数順によるソート。

BLKS

ブロック数順によるソート。

関連作業および例

- ・ [ライブラリー・データ・セットの指定 ページ 32](#)

使用箇所

- ・ [「PSB Selection \(PSB 選択\)」 パネル ページ 389](#)

SSID 基本コマンド

SSID コマンドを使用して、編集中のテンプレートに指定された IMS カタログを表示および変更することができます。テンプレートが DBD ライブラリー・リストではなく IMS カタログを指定している場合、このコマンドは「Template Specification (テンプレート指定)」パネルで使用できます。

このコマンドを発行すると、FM/IMS によって「IMS Catalog Specification (IMS カタログ指定)」パネルが表示されます。

▶▶ SSID ◀◀

使用箇所

- ・ [「Template Specification \(テンプレート指定\)」 パネル ページ 444.](#)

STR 基本コマンド

ブラウザまたは編集セッションで、このコマンドは、SNGL 表示モードのときにテンプレート構造情報(フィールド/エレメント・レベル)を一時的に表示または非表示にします。

構文

▶▶ STR ◀◀

STR

SNGL

表示モードで、それぞれのフィールドのテンプレート構造情報を表示または非表示にする切り替えコマンド。

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」 パネル ページ 334](#)

関連作業および例

- [表示形式の選択 ページ 63](#)
- [「Editor Options \(エディター・オプション\)」 パネル ページ 293](#)

TOP 基本コマンド

TOP 基本コマンドは、データベースの選択された「ビュー」の先頭までスクロールします。CHAR モードの場合、TOP コマンドはセグメントをページ送りして、画面の先頭からセグメントを表示します (データベースの先頭であるとは限りません)。SNGL モードの場合、TOP コマンドは表示セグメントの先頭位置を表示します。

構文

▶ TOP ◀

使用箇所

- 表示が 1 ページを超えるすべてのパネル上。

TPRINT 基本コマンド

TPRINT 基本コマンドは、編集中のテンプレートまたはビューの現行セグメント・レイアウトを印刷します。

構文

▶ TPrint ◀

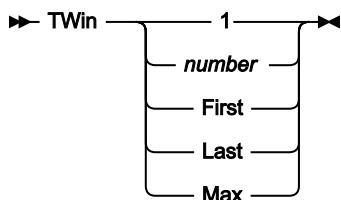
使用箇所

- [「Segment Layout \(セグメント・レイアウト\)」 パネル ページ 399](#) (テンプレートまたはビューについて)

TWIN 基本コマンド

TWIN 基本コマンドは、同じ親の下の現行セグメント・タイプのおカレンスに位置変更します。

構文



number

これは、現行の親の下にある現行セグメント・タイプの次の *number* オカレンスをスキップすることによる位置変更を要求するために使用される正整数であることが必要です。

number が現行セグメント・タイプの残りのオカレンスの数より大きい場合には、以下のメッセージが表示されます。

```
"SEGMENT TWIN BOUNDARY"
```

そして、階層の境界に位置変更されます。

First

これは、現行の親の下にある現行セグメント・タイプの最初のオカレンスに位置変更するよう要求します。

Last

これは、現行の親の下にある現行セグメント・タイプの最後のオカレンスに位置変更するよう要求します。

Max

これも、現行の親の下にある現行セグメント・タイプの最後のオカレンスに位置変更するよう要求します。

使用箇所

- [\[IMS data \(IMS データ\)\] パネル ページ 334](#) (ZOOM モードの場合を除く)

TYPE 基本コマンド

ブラウザまたは編集セッションで、このコマンドは、SNGL 表示モードのときに「Type (タイプ)」列と「Length (長さ)」列を一時的に表示または非表示にします。

構文

▶ TYPE ◀

TYPE

SNGL 表示モードで、それぞれのフィールドの「Type (タイプ)」列と「Length (長さ)」列を表示または非表示にする切り替えコマンド。

使用箇所

- [\[IMS data \(IMS データ\)\] パネル ページ 334](#)

関連作業および例

- [表示形式の選択 ページ 63](#)
- [「Editor Options \(エディター・オプション\)」パネル ページ 293](#)

UNDO 基本コマンド

UNDO 基本コマンドを使用して、最後のチェックポイント以降の編集したすべての変更をロールバックできます。

構文

▶▶ UNDO ◀◀

IMS データ・パネルで UNDO コマンドを発行すると、最後のチェックポイント以降の編集したすべての変更がバックアウトされます。これは、BMP モードで編集しているか、または DLI モードで編集しているときに、以下の条件が満たされると提供されます。

- 「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネルの IMS ログ・オプションは、「1.Keep (保持)」、
「2.Keep when updates (更新時に保持)」、または「3.削除」。
- 「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネルの「Dynamic Backout (動的バックアウト)」オプションが選択されます。
- 編集は、動的 PSB または IO PCB を持つ静的 PSB のいずれかを使用します。

DLI モードで編集しており、これらの条件の 1 つ以上が真でない場合、FM/IMS はエラー・メッセージを出します。

使用箇所

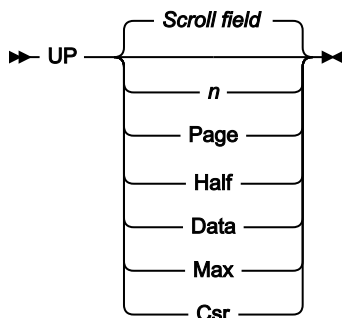
- [「IMS data \(IMS データ\)」パネル ページ 334](#)

UP 基本コマンド

(複数セグメント表示では) UP 基本コマンドは、データベース内のセグメント全体を後方にスクロールします。

(単一セグメント表示では) UP 基本コマンドは、現行セグメントのデータ全体を後方にスクロールします。

構文



nnnn

nnnn 行だけスクロールアップします。

Csr

カーソル位置まで上方へスクロールします。

Data (データ)

1 ページ分のデータより 1 行少なくスクロールアップします。

Half (ハーフ)

データの半ページ分上方へスクロールします。

Max (最大値)

ファイルの先頭までスクロールします。TOP コマンドと同じ効果があります。

Page (ページ)

データの 1 ページ分上方へスクロールします。

Scroll field

「**Scroll (スクロール)**」フィールドに指定した移動量だけ上方へスクロールします。パラメーターを使用しない場合は、これがデフォルトです。

使用箇所

表示が 1 ページを超えるすべてのパネル上で選択可能。

関連作業および例

UP 15

15 行、スクロールアップします。

U

「**Scroll (スクロール)**」フィールドに指定した行数分上へスクロールします。

UP DATA

1 ページ分のデータより 1 行少なくスクロールアップします。

UPDATE 基本コマンド

UPDATE 基本コマンドは、指定されたコピーブックをコンパイルし、さらに、既存のテンプレートを更新するか、もしくは新規テンプレートを作成します。

構文

▶ UPDATE ◀

使用箇所

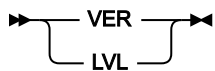
- [図 113: 「Template Specification \(テンプレート指定\)」 パネル ページ 445](#)
- [「Template Specification \(テンプレート指定\)」 パネル ページ 444](#)

VER 基本コマンド

VER コマンドは File Manager のリリースと PTF レベルを表示し、FM/IMS が APF 許可であるかどうかを示します。

VER コマンドがご使用のサイトの ISPF コマンド・テーブルに既に存在する場合は、LVL 同義語を使用して同じタスクを実行することができます。

構文



使用箇所

すべてのパネル上で使用可能

関連作業および例

- [ABOUT 基本コマンド ページ 467](#)
- [ご使用の FM/IMS バージョンの検査 ページ 28](#)

VIEW 基本コマンド

VIEW 基本コマンドは、表示を 1 つのセグメント・タイプから別のセグメント・タイプに変更します。現行セグメント (ページの最上部にあるセグメント) を変更するか、または変更する必要があるセグメント上にカーソルを置いて Enter キーを押すかのいずれかを行うことができます。

構文

▶ VIEW ◀

使用箇所

ビューの使用時にすべてのデータベース表示パネル上で使用可能です。

関連作業および例

[テンプレートおよびビューの操作 ページ 86](#)

VSAVE 基本コマンド

VSAVE 基本コマンドを、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルまたは「Data Display (データ表示)」パネルから実行して、現行ビューを保存することができます。これが新しいビューの場合、データ・セットおよびメンバー名のプロンプトを出すウィンドウが表示されます。

構文

▶ VSAVE ▶

使用箇所

- 「IMS data (IMS データ)」パネル ページ 334
- 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネル ページ 258

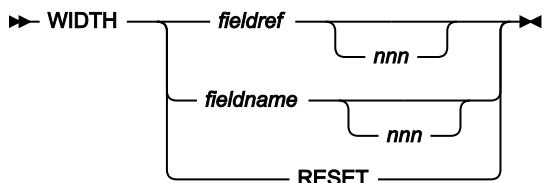
WIDTH 基本コマンド

WIDTH コマンドは、TABL 表示フォーマットにおける 1 つ以上のフィールドの表示幅を設定します。

表示形式が TABL の場合は、IMS データ・パネルでコマンドを発行できます。

表示幅の指定は、テンプレート・エディターで、フィールド属性パネルの出力幅フィールドに値を指定することによって行うこともできます。フィールド属性パネルにアクセスするには、E 接頭部コマンドを使用します。

構文



fieldref

単一フィールド参照 (例えば、#1)、範囲 (例えば、#2-#5)、またはスペースで区切った単一フィールド参照/範囲のリスト (例えば、#1 #4 #6-#7)。単一フィールド指定は #*n* です。*n* は正整数であり、処理対象のテンプレート内のフィールド数を超えることはできません。

fldname

テンプレートのフィールドの名前。オプションで、前にポンド記号 (#) が付きます。コマンド・キーワードの構文上のあいまいさを避けるには、#RESET を使用します。

nnn

フィールドに望ましい表示幅を表す正整数。このパラメーターが省略されると、表示幅はデフォルト値にリセットされます。*nnn* の最小値は 6 です。*nnn* の最大値は、データ・タイプによって異なります。

データ・タイプ	の最大値 <i>nnn</i>
2 進整数	30
2 進浮動小数点	35
パック 10 進数	45
他のデータ・タイプ	表示長の値が 20 より小さい場合、 <i>nnn</i> の最大値は 30 です。その他の場合、 <i>nnn</i> の最大値は、表示幅に 10 を加えた値です。

RESET

すべてのフィールドの表示幅をデフォルト値にリセットします。

使用箇所

「IMS data (IMS データ)」パネル ページ 334 表示形式が TABL の場合。

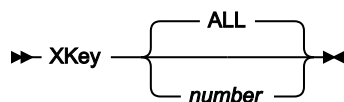
関連作業および例

- 「Field Attributes (フィールド属性)」パネル-英数字フィールド ページ 311
- 「Field Attributes (フィールド属性)」パネル-数値フィールド ページ 317

XKEY 基本コマンド

XKEY 基本コマンドは、現在位置からのすべてのルート・セグメントのキーが入ったデータ・セットを作成します。このデータ・セットを「Extract (抽出)」(オプション 3.3) パネルで使用してセグメントを抽出できます。

構文



ALL

現在位置とファイルの終わりの間のすべてのルート・セグメントのキーが、キー抽出ファイルへの出力となります。

number

現在位置とファイルの終わりの間の *number* ルート・セグメントごとのキーが、キー抽出ファイルへの出力となります。

XKEY コマンドによって作成されるデータ・セットの割り振り属性は、「Output Data Set Allocation (出力データ・セット割り振り)」(オプション 0.9) パネルで定義されます。

XKEY データ・セットの名前の形式は、以下の通りです。

```
userid.XKEY.Dyymmdd.Thhmmss.dbd_name.
```

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」 パネル ページ 334](#)

関連作業および例

- [データの抽出 ページ 166](#)

ZOOM 基本コマンド

(CHAR、HEX、および LHEX 表示形式では) ZOOM 基本コマンドは、表示を 1 つのセグメントにのみ制限して、左または右へスクロールせずに、そのセグメント内のすべてのデータを表示します。

(SNGL 表示形式および TABL 表示形式では) ZOOM 基本コマンドは、ズームインを行うと、ビューによって選択されたフィールドだけでなく、SNGL 表示形式で表されたセグメント内のすべてのフィールドが表示されます。

現行セグメント (ページの最上部にあるセグメント) にズームインするか、またはズームインする必要があるセグメント上にカーソルを置いて Enter キーを押すかのいずれかを行うことができます。

ズームインする前の現行表示形式にズームアウトして戻るには、ZOOM コマンドをもう一度入力してください。

構文

▶ ZOOM ◀

使用箇所

- [「IMS data \(IMS データ\)」 パネル ページ 334](#)

基本コマンドの使用

ブラウザ時

データをブラウザ または 編集している場合は、「IMS Data (IMS データ)」パネルのコマンド行で基本コマンドを入力して、以下の機能を実行することができます。

アクション

コマンド

データをスクロールする

[BOTTOM 基本コマンド ページ 468](#)

[DOWN 基本コマンド ページ 484](#)

[LEFT 基本コマンド ページ 507](#)

[NEXT 基本コマンド ページ 514](#)

[PREVIOUS 基本コマンド ページ 518](#)

[RIGHT 基本コマンド ページ 525](#)

[TOP 基本コマンド ページ 537](#)

[UP 基本コマンド ページ 539](#)

特定のセグメント番号またはテキストにスクロール

[LOCATE 基本コマンド ページ 510](#)

ストリングを検索する

[FIND 基本コマンド ページ 489](#)

[RFIND 基本コマンド ページ 525](#)

検出ストリングの強調表示をオフにする

[RESET 基本コマンド ページ 523](#)

エラーのあるフィールドを検索する

[FE \(エラー検出\) 基本コマンド ページ 487](#)

シャドー行を表示

[SHOW \(REC\) 基本コマンド ページ 531](#)

1つのセグメントのすべてを見るためにズームインする

[ZOOM 基本コマンド ページ 544](#)

抑制セグメントを表示する

[VIEW 基本コマンド ページ 541](#)

データを 16 進形式で表示する

[HEX 基本コマンド ページ 501](#)

フィールド参照を表示する

[REFS 基本コマンド ページ 521](#)

テンプレート構造情報を表示する

[STR 基本コマンド ページ 536](#)

フィールド・タイプを表示する

[TYPE 基本コマンド ページ 538](#)

データベースおよびすべてのスクロール・コマンド内の位置を調整する

[CHILD 基本コマンド ページ 482](#)

[KEY 基本コマンド ページ 506](#)

[PARENT 基本コマンド ページ 517](#)

[ROOT 基本コマンド ページ 526](#)

[TWIN 基本コマンド ページ 537](#)

データベースを表示および印刷する

[DBD 基本コマンド ページ 483](#)

[DPRINT 基本コマンド ページ 485](#)

[FIELD 基本コマンド ページ 488](#)

[HIERARCH 基本コマンド ページ 503](#)

[SEGMENT 基本コマンド ページ 528](#)

[SEGSTATS 基本コマンド ページ 529](#)

ROLB 呼び出しを実行する

[CANCEL 基本コマンド ページ 469](#)

[QUIT 基本コマンド ページ 520](#)

[UNDO 基本コマンド ページ 539](#)

一時ビューを保管する

[HEX 基本コマンド ページ 501](#)

選択または選択解除する

[SELECT ALL 基本コマンド ページ 529](#)

位置決め論理を指定する

[GE 基本コマンド ページ 501](#)

現行表示形式を変更する

[FORMAT 基本コマンド ページ 499](#)

すべてのルート・セグメントのキーを持つデータ・セットを作成する

[XKEY 基本コマンド ページ 543](#)

編集の場合

データを編集する場合には、「IMS Data (IMS データ)」パネルのコマンド行で基本コマンドを入力すると、以下の機能を実行することができます。

Action (アクション)

コマンド

ストリングの検索および置換を行う

[CHANGE 基本コマンド \(編集のみ\) ページ 473](#)

[RCHANGE 基本コマンド ページ 520](#)

[FE \(エラー検出\) 基本コマンド ページ 487](#)

セグメントを削除および挿入する

[DELETE 基本コマンド \(編集のみ\) ページ 484](#)

[INSERT 基本コマンド \(編集のみ\) ページ 504](#)

[REPEAT 基本コマンド \(編集のみ\) ページ 522](#)

論理関係に関する情報を表示する

[RELATED 基本コマンド ページ 522](#)

保留中の行コマンドを取り消し、検索強調表示を除去する[RESET 基本コマンド ページ 523](#)[SAVE 基本コマンド \(編集のみ\) ページ 527](#)**編集時と表示時の基本コマンドの相違**

ブラウザと編集の両方で使用可能な以下の基本コマンドには、編集の場合には次の追加機能があります。

CANCEL、END、および QUIT

ブラウザの場合は、CANCEL、END、および QUIT は同義です。編集の場合は、END は編集セッションを終了する前に変更内容を自動的に保管するのに対して、CANCEL および QUIT は変更内容を保管しないで編集セッションを終了します。何らかの変更を行った場合は、FM/IMS はメッセージ・ボックスを表示して、それらの変更内容の破棄について確認を要求します。

行コマンド

この節は、FM/IMS のブラウザおよび編集機能の中で使用可能な行コマンドを説明しています。これらのコマンドは、複数セグメント表示からのみ使用することができます。

D (削除 - 編集のみ)

D 行コマンドは、セグメントとそのすべての従属セグメントを削除します。

FC、FH、FL、FS、FT (形式)

表示されているセグメント・オカレンスに対する行コマンドとして上記のいずれかを使用した場合、その効果は、その行のビューを出して (その行が現行レイアウト以外の場合)、表示の先頭までそのセグメントをスクロールし、形式を変更することと同じです。

I (挿入 - 編集のみ)

I 行コマンドによって、コマンドを入力した行に表示されているセグメント・タイプのオカレンスを挿入できます。

FM/IMS は「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルを表示します。そこで、挿入されるセグメントの階層パス内のセグメントのキー値を入力することができます。「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルは、選択されたセグメントの階層パスにあるセグメントのキー値を使用して初期化されます。

セグメントの挿入が完了した後、FM/IMS は、「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻り、前に表示されていたページを再表示します。

K (キー)

K 行コマンドによって、データベース内の現在位置を別のセグメント・オカレンスに変更できます。

FM/IMS は、「Key Specification (キー指定)」パネルを表示します。そこで、K 行コマンドを入力したセグメントへの階層パス内の各セグメントのキー値を入力することができます。「Key Specification (キー指定)」パネルは、階層パス内のセグメントのキー値を使用して初期化されます。

位置変更できるのは、K コマンドを入力したセグメントと同じセグメント・タイプの別のオカレンスにだけです。

「Key Specification (キー仕様)」パネルが処理された後に、FM/IMS は、「Key Specification (キー仕様)」パネルで入力された連結キーと一致するセグメントに位置付けられた「IMS Data (IMS データ)」パネルを再表示します。

R (繰り返し - 編集のみ)

R 行コマンドによって、コマンドを入力した行に表示されていたセグメント・タイプのオカレンスを繰り返すことができます。

FM/IMS は「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルを表示します。そこで、繰り返されるセグメントの階層パス内のセグメントのキー値を入力することができます。「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルは、選択されたセグメントを含めたそのセグメントまでの階層パス内のセグメントのキー値を使用して初期化されます。

セグメントがデータベースに挿入された後、FM/IMS は、「IMS Data (IMS データ)」パネルに戻り、前に表示されていたページを再表示します。

RA (すべて繰り返し - 編集のみ)

RA 行コマンドによって、データベース内の階層副構造を繰り返すことができます。RA コマンドを入力した行に表示されるセグメントは、繰り返す副構造の親です。

FM/IMS は「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルを表示します。そこで、副構造の親であるセグメントの階層パス内のセグメントのキー値を入力することができます。「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネルは、副構造の親を含めたその親までの階層パス内のセグメントのキー値を使用して初期化されます。また、新規副構造の親となるセグメントのデータも入力できます。新規副構造内の子セグメントのデータは、RA 行コマンドが入力されたセグメントの下の子からコピーされます。すべての変更を行ってから、「Exit」機能キー (F3) を入力すると、新規セグメントが挿入されます。IMS 規則に違反すると、該当する状況コードがポップアップ・パネルに示されます。

新しい親とその副構造がデータベースに挿入された後、FM/IMS は、「IMS data (IMS データ)」パネルに戻り、前に表示されていたページを再表示します。

V (ビュー)

ビューとデータベースを関連付けると、FM/IMS は 1 つのレイアウトのセグメントを表示します。表示が抑制されているセグメントに対応する V 行コマンドを入力することができ、そのセグメント (および同じレイアウト・タイプのすべてのセグメント) が表示されます。それらは、現行の定様式セグメントになります。その他すべてのセグメントは、シャドー行になります。

第 12 章. バッチ参照

この章では、FM/IMS のバッチ関数について説明します。FM/IMS には、次のことを行うバッチ関数があります。

- テンプレートを更新する
- ビューを更新する
- 基準セットを更新する
- IMS データベースからデータを抽出する
- IMS データベースをロードする
- IMS データベースからデータを印刷する
- IMS データベースのデータを編集する (バッチ編集)
- IMS データベースのデータを表示する (バッチ・ブラウズ)
- IMS データベースを初期化する

このリファレンス章の使用方法

本章では、FM/IMS のバッチ関数をリストします。

必要に応じて、各関数について以下のサブセクションがあります。

目的

この関数で実行できることの概要。

使用上の注意

関数の詳しい説明。

Return Codes (戻りコード)

関数に固有の戻りコードのリスト。

関連機能

なんらかの方法で関連するその他の関数。

構文

構文図と、それに続くパラメーター・リスト。パラメーター・リストでは、パラメーターを説明し、(必要に応じて) その最大値とデフォルト値を示します。

関数に関係のないパラメーターを指定すると、FM/IMS はそれを無視します。同じパラメーターを 2 度以上指定すると、FM/IMS は最初に指定した値を使用します。

構文図の読み方については、[構文図の見方 ページ xi](#)を参照してください。

バッチ例

サンプル・バッチ・ジョブのリスト。

レポート

バッチ JCL によって作成される報告書のサンプル・リスト。

IMS テンプレートの更新 (ITU)

目的

このユーティリティーを使用すると、以下を行うことができます。

- テンプレートを最新のコピーブックまたは DBD 定義で更新します。
- 既存のテンプレートを基にして新規テンプレートを作成します。

使用上の注意

- 処理のために選択したテンプレート・メンバーは、コピーブック名またはマスクを指定してフィルタリングすることができるため、それらのコピーブックを参照するテンプレートのみが組み込まれます。

関連機能

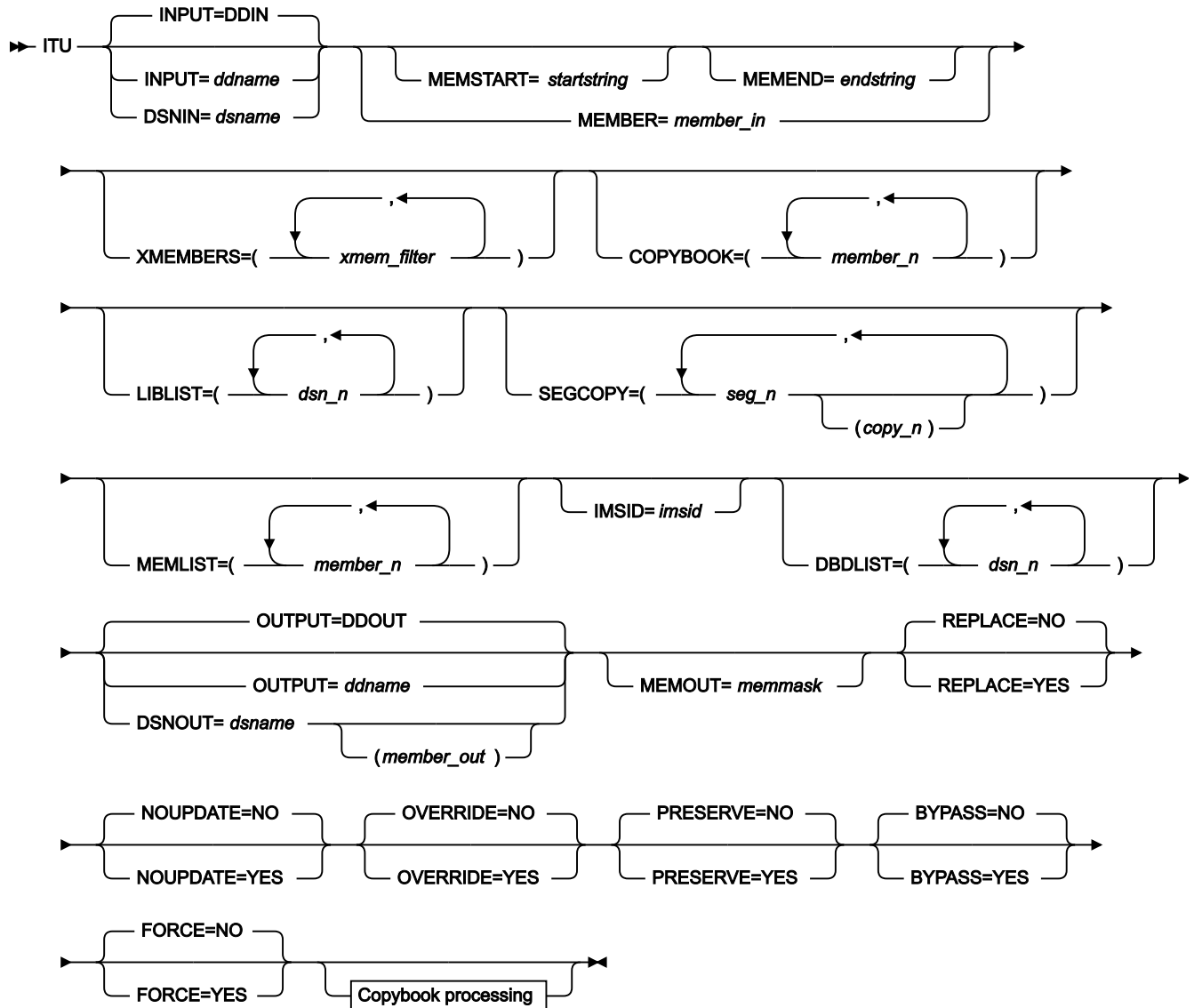
ICU

IMS Criteria sets update (IMS 基準セットの更新)

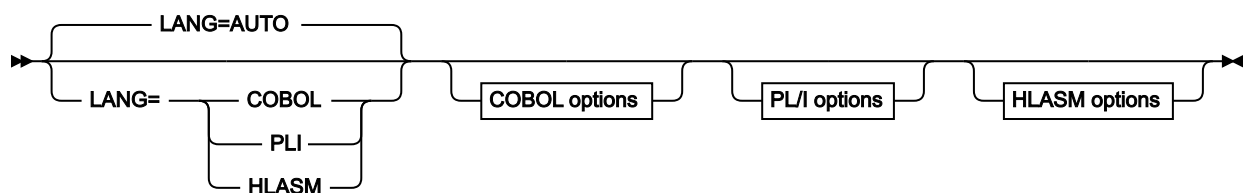
IVU

IMS Views update (IMS ビューの更新)

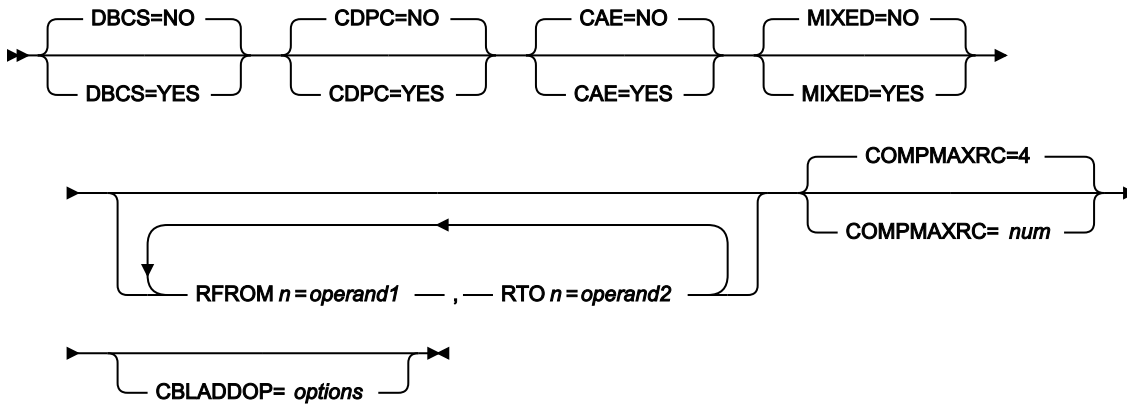
図 137. Syntax



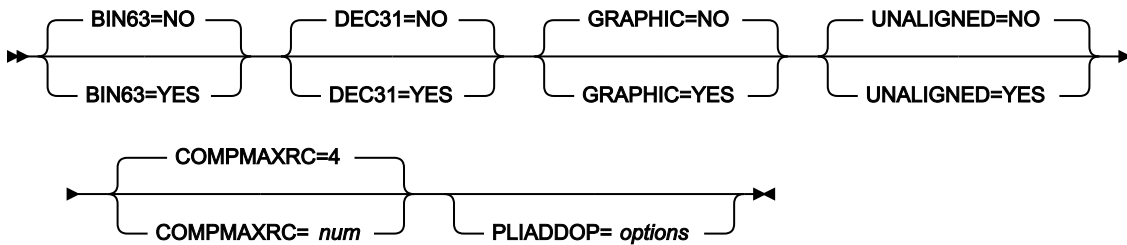
Copybook processing



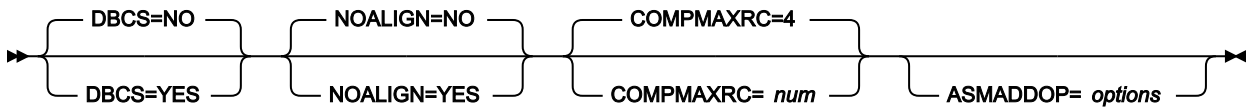
COBOL options



PL/I options



HLASM options



INPUT=ddname

ユーティリティーが処理するテンプレートを含むデータ・セットの DD ステートメントを指定します。PDS(E) または連結された PDS(E) を指定することができます。INPUT パラメーターおよび DSNIN パラメーターを指定しない場合は、デフォルト DD 名の DDIN が使用されます。

OUTPUT パラメーターおよび DSNOUT

パラメーターが指定されない場合、ユーティリティーは、指定されたデータ・セットの選択されたメンバーを更新します。

DSNIN=dsname

ユーティリティーが処理するテンプレートを含むデータ・セットの名前。

MEMBER=member_in

ユーティリティーが処理する入力テンプレート・データ・セットのメンバーを指定します。メンバー名 (ユーティリティーが処理するメンバーが1つのみの場合)、または入力テンプレート・データ・セットの1つ以上のメンバーを示すメンバー名パターンを指定することができます。

メンバー名パターンは、メンバー名に有効な任意の文字と 2 つの特殊パターン文字 (アスタリスク (*) およびパーセント記号 (%)) から構成することができます。

*

任意の数の文字を表します。必要な数のアスタリスクを、メンバー名パターンの任意の場所に使用することができます。例えば、メンバー名パターンとして `*d*` を入力すれば、名前に「d」が含まれる、PDS 内のすべてのメンバーが処理されます。

%

単一文字を表すプレースホルダー文字。パーセント記号は、メンバー名パターンの任意の場所に必要な数だけ指定できます。例えば、メンバー名パターンとして `****` を入力すれば、名前の長さが 4 文字である、PDS 内のすべてのメンバーが処理されます。

MEMSTART=*startstring*

組み込まれるメンバー名の範囲の開始を指定するために使用されます。MEMSTART が指定されたが MEMEND は省略された場合、PDS(E) 内の *startstring* 値以降の全メンバーが組み込まれます。*startstring* では、MEMBER キーワードの *member-in* パラメーターに関して、ワイルドカードを含め、同じ値を持つことができます。

MEMEND=*endstring*

組み込まれるメンバー名の範囲の終了を指定するために使用されます。MEMEND が指定されたが MEMSTART は省略された場合、PDS(E) 内の *endstring* 値までの全メンバーが組み込まれます。*endstring* では、MEMBER キーワードの *member_in* パラメーターに関して、ワイルドカードを含め、同じ値を持つことができます。

XMEMBERS

MEMSTART、MEMEND、および MEMBER

オプションを使用して、処理するライブラリー・メンバーから除外し、それ以外が選択される方法を提供します。

xmem_filter

処理から除外する 1 つ以上のメンバーを識別するメンバー名フィルター。フィルターには、複数のメンバーを表すメンバー名パターンを指定できます。

小文字を含むメンバー名フィルターを指定するには、`c'string'` 形式で文字ストリングを使用します。フィルター値は、`x'hex-digits'` 形式で 16 進ストリングとして指定することもできます。

COPYBOOK

このパラメーターが指定されると、ユーティリティーによって、処理されるテンプレートが、このパラメーターで指定するコピーブックを含むテンプレートに限定されます。コピーブック・メンバー名およびコピーブック・メンバー・パターンを含むリストを指定することができます。テンプレートは、リストで指定されたコピーブック、またはリストで指定されたコピーブック・メンバー・パターンと一致するコピーブックのいずれかを含んでいる場合にのみ処理されます。

member_n

コピーブック・メンバー名またはコピーブック・メンバー・パターン。総称名マスクは使用できません。

LIBLIST

ユーティリティで使用するコピーブックを含む最大 12 個のコピーブック・ライブラリーのリストを指定することができます。

LIBLIST

パラメーターが指定されると、ユーティリティは、(テンプレートで参照されるコピーブック・ライブラリー内のレイアウト・メンバーではなく)

指定されたコピーブック・ライブラリーにあるレイアウト・メンバーを使用して、テンプレートを作成します。このため、更新エラーが発生しないようにするために、ユーティリティが更新するすべてのテンプレートで参照されるすべてのレイアウト・メンバーが、指定するライブラリーで必ず使用可能になるようにしてください。指定されたコピーブック・ライブラリーを使用した更新が正常に終了すると、ユーティリティは、テンプレート内のコピーブック・ライブラリー・リストを指定されたライブラリー・リストに変更します。

dsn_n

検索されるコピーブック・ライブラリーの名前。総称名マスクは使用できません。

SEGCOPY

テンプレートの作成元の DBD が、新規セグメント・タイプを含むように変更される場合、以下の情報を SEGCOPY パラメーターに指定する必要があります。

- DBD のすべての新規セグメント・タイプの名前。および
- 各新規セグメント・タイプごとに、セグメント・レイアウトを記述するコピーブック・メンバーの名前。

seg_n

テンプレートを更新するデータベースにあるすべての新規セグメント・タイプの名前。

copy_n

各新規セグメント・タイプごとに、そのレイアウトを記述するコピーブック・メンバーの名前。

MEMLIST

メンバー名のリストと、オプションで、関連付けられる出力テンプレート名を指定できます。関連付けられるテンプレート名を指定しないと、FM/IMS は、入力メンバー名、または MEMOUT マスク *memmask* によって識別される名前を使用します。

member_n

処理されるメンバーの名前。総称名マスクは使用できます。

template_n

出力データ・セットにコピーされた後のテンプレート名。指定されない場合、出力テンプレートは名前変更されません。

IMSID

ユーティリティで使用するデータベース定義 (DBD) を含む IMS カタログを指定できます。関数が使用するサブシステムを指定することによって、その関数が使用する IMS カタログを識別します。

このユーティリティは、BYPASS=YES が指定されておらず、次の条件の一方または両方が真である場合に、指定された IMS カタログ内の DBD を使用します。

- DBDLIST パラメーターが指定されていない。
- テンプレートのセグメント・リストが前回更新されたときに使用された DBD は、DBD ライブラリーからではなく、IMS カタログからのものである。

上記が当てはまる場合、ユーティリティは指定された IMS カタログから、テンプレートを使用するデータベースの DBD を検索し、検出された DBD からデータベースのセグメント・タイプのリストを取得します。テンプレートのセグメント・リストがこのリストと同じでなければ、ユーティリティはテンプレートのセグメント・リストを更新して内容を同じにします。

テンプレートの更新が成功すると、ユーティリティは指定された IMS カタログの名前をテンプレートに保存します。



注: DBDLIST パラメーター、IMSID パラメーター、および BYPASS

パラメーターが指定されていない場合、ユーティリティは、テンプレートに保管されている DBD ライブラリー・リストまたはテンプレートに保管されている IMS カタログの、いずれかの DBD を使用します。

DBDLIST

ユーティリティで使用するデータベース定義 (DBD) を含む最大 6 個の DBD ライブラリーのリストを指定することができます。

このユーティリティは、BYPASS=YES が指定されておらず、次の条件の一方または両方が真である場合に、指定された DBD ライブラリー内の DBD を使用します。

- IMSID パラメーターが指定されていない。
- テンプレートのセグメント・リストが前回更新されたときに使用された DBD は、IMS カタログからではなく、DBD ライブラリーからのものである。

上記が当てはまる場合、ユーティリティは指定されたライブラリーから、テンプレートを使用するデータベースの DBD を検索し、検出された DBD からデータベースのセグメント・タイプのリストを取得します。テンプレートのセグメント・リストがこのリストと同じでなければ、ユーティリティはテンプレートのセグメント・リストを更新して内容を同じにします。

テンプレートの更新が成功すると、ユーティリティーは指定された DBD ライブラリー・リストをそのテンプレートに保存します。



注: DBDLIST パラメーター、IMSID パラメーター、および BYPASS

パラメーターが指定されていない場合、ユーティリティーは、テンプレートに保管されている DBD ライブラリー・リストまたはテンプレートに保管されている IMS カタログの、いずれかの DBD を使用します。

DSNOUT=*dsname*

更新済みテンプレートを保管するデータ・セットの名前を指定します。指定するデータ・セットは PDS(E) である必要があります。以下のようにして、このデータ・セットをさらに修飾することができます。

(*member-out*)

member-out は、更新済みテンプレートを保管する、指定された PDS(E) のメンバーです。

MEMOUT=*memmask*

入力メンバーの数を指定している場合、出力テンプレートにメンバー名パターンを指定することができます。これによって、テンプレートが作成されたときに、その名前を変更できます。メンバー名パターンは、メンバー名に有効な任意の文字と、アスタリスク (*) およびパーセント記号 (%) の 2 つの特殊パターン文字で構成することができます。

アスタリスク (*)

アスタリスクは、変更がない複数の文字を表すプレースホルダー文字です。マスクに指定するアスタリスクは、1 つのみにしてください。2 つ目以降のアスタリスク文字は、パーセント記号として扱われます。例えば、次のように入力するとします。

```
ABC*
```

名前変更後のメンバーはすべて ABC で始まり、その後、古いメンバー名の残りが続きます。

パーセント記号 (%)

パーセント記号は、変更がない単一文字を表すプレースホルダー文字です。パーセント記号は、メンバー名の任意の場所に必要な数だけ指定できます。例えば、次のように入力するとします。

```
%%%A*
```

名前変更後のメンバーの最初の 3 文字は変わらず、4 文字目が文字「A」に置き換えられ、古いメンバー名の残りは変更されません。

REPLACE

FM/IMS が、出力 PDS(E) の同名テンプレートを置き換えるかどうかを指定します。

NO

出力 PDS(E) の同名テンプレートを置き換えません。

YES

出力 PDS(E) の同名テンプレートを置き換えます。

NOUPDATE

FM/IMS が更新をデータ・セットに書き戻すかどうかを指定します。

NO

更新をデータ・セットに書き戻します。

YES

更新をデータ・セットに書き戻しません。

OVERRIDE

FM/IMS がパラメーター・リスト内で検出されたコンパイラー・オプションを使用してテンプレート内で検出されたコンパイル・オプションをオーバーライドするかどうかを指定します。

NO

テンプレート内のコンパイル・オプションは、パラメーター・リスト内のコンパイラー・オプションで上書きされません。

YES

テンプレート内のコンパイル・オプションは、パラメーター・リスト内のコンパイラー・オプションで上書きされます。

PRESERVE

FM/IMS が、現行バージョンのコピーブックを使用するかどうかを指定します。

NO

FM/IMS は、最初のバージョンのコピーブックを検索します。

YES

FM/IMS は、現行バージョンのコピーブックが、以前に検出されたライブラリーにまだ存在し、更新処理が使用しているリストにそのライブラリーがある場合は、そのコピーブックを使用します。

FM/IMS は、以下のいずれかの条件が当てはまる場合、ライブラリーがリストされる順序で最初のバージョンのコピーブックを検索します。

- このオプションに NO が指定された
- コピーブックが、前に検出されたライブラリーにもう存在しない
- 更新処理が使用しているリストに、そのライブラリーがない

強制

セグメント・リストまたはセグメント・レイアウトへの変更が検出される場合に、FM/IMS がテンプレートを更新するかどうかを指定します。

NO

更新処理中に、セグメント・リストまたはセグメント・レイアウトに対する変更が検出されない場合、更新は行われません。

YES

FM/IMS は、セグメント・リストまたはセグメント・レイアウトに対する変更が検出されない場合でも、テンプレートを更新します。

BYPASS

FM/IMS が、DBD

でセグメント名前リストへの変更の有無を調べるかどうかを指定します。更新するテンプレートがあるデータベースの DBD

に、最後にテンプレートが更新されてから追加または除去されたセグメント・タイプがない場合は、BYPASS=NO を指定できます。

NO

FM/IMS は、DBD でセグメント名前リストへの変更の有無を調べません。

YES

FM/IMS は、DBD

でセグメント名前リストへの変更の有無を調べ、変更がある場合は、それらの変更を反映するようにテンプレートを更新します。

コンパイラ・オプション

FM/IMS は、OVERRIDE=YES が指定されている場合、以下のオプションを使用します。

LANG

FM/IMS が、コピーブックの言語を自動的に検出するか、言語を COBOL、PL/I、または HLASM として解釈するかを決定します。

AUTO

コピーブックの言語が COBOL であるか、PL/I であるかを自動検出し、該当のコンパイラを起動します。コンパイルの戻りコードが 4 を超えた場合は、もう一方の言語のコンパイラを起動します。2 番目のコンパイルでも戻りコードが 4 を超えた場合は、最初のコンパイラを再試行し、コンパイル・エラーを報告します。FM/IMS が (コンパイル・エラーがあっても) 正常にテンプレートを作成する場合は、そのテンプレートで処理を続行します。

COBOL

COBOL

コンパイラを起動して、コピーブックからテンプレートを作成します。(COBOL のコンパイルでエラーが発生しても、PL/I コンパイラは起動しません。)

PLI

PL/I

コンパイラを起動して、コピーブックからテンプレートを作成します。(PL/I のコンパイルでエラーが発生しても、COBOL コンパイラは起動しません。)

HLASM

HLASM コンパイラーを起動して、コピーブックからテンプレートを作成します。

COBOL オプション

次のオプションは、COBOL コピーブックをテンプレートにコンパイルするために使用します。

DBCS=YES

DBCS コンパイラー・オプションを使用します。

DBCS=NO

NODBCS コンパイラー・オプションを使用します。

DBCS および NODBCS コンパイラー・オプションの効果の詳細については、*IBM COBOL Programming Guide for OS/390 & VM* を参照してください。

CDPC=NO

COBOL SPECIAL-NAMES パラグラフ「Decimal-point is comma (小数点はコンマ)」を使用しません。

CDPC = YES

COBOL SPECIAL-NAMES パラグラフ「Decimal-point is comma (小数点はコンマ)」を使用します。

CAE=NO

COBOL コンパイル・オプション ARITH(EXTEND) を使用しません。

CAE = YES

COBOL コンパイル・オプション ARITH(EXTEND) を使用します。

MIXED = NO

フィールド名は大文字でテンプレートに保管されます。

MIXED = YES

フィールド名は COBOL コピーブックでコーディングされているとおりに、元の大/小文字でテンプレートに保管されます。

RFROM1 RT01 ... RFROM5 RT05

COBOL REPLACE コンパイラー指示ステートメントの「From (検索)」および「To (置換)」疑似テキスト文字ストリングの最大 5 つの対。

COBOL コピーブックをテンプレートにコンパイルする前に、COBOL コピーブックに除去する文字または他の文字と置き換えたい文字が含まれている場合には、この置換オプションを使用します。

例えば、コピーブックに、コンパイル前に除去したいコロン文字 (:) が含まれている場合は、「'===:'」を *operand1* として、さらに「'====:'」を *operand2* として指定してください。

COBOL REPLACE の「From (検索)」および「To (置換)」のSTRINGの指定について詳しくは、*IBM COBOL Language Reference* を参照してください。

COMPMAXRC

コピーブックをコンパイルするために、許容できる最大の戻りコードを設定します。指定したレベルを超える戻りコードによって機能は停止します。デフォルトは 4 です。

CBLADDOP

COBOL コピーブックのコンパイル時に CBL ステートメントに組み込まれる追加の COBOL コンパイラ・オプション。

PL/I オプション

以下のオプションを使用して、PL/I コピーブックをテンプレートにコンパイルします。

BIN63=YES

LIMITS(FIXEDBIN(63)) コンパイラ・オプションを使用します。

BIN63=NO

LIMITS(FIXEDBIN(31)) コンパイラ・オプションを使用します。

DEC31=YES

LIMITS(FIXEDDEC(31)) コンパイラ・オプションを使用します。

DEC31=NO

LIMITS(FIXEDDEC(15)) コンパイラ・オプションを使用します。

GRAPHIC=YES

GRAPHIC コンパイラ・オプションを使用します。

GRAPHIC=NO

NOGRAPHIC コンパイラ・オプションを使用します。

UNALIGNED=YES

DEFAULT RANGE (*) UNALIGNED

言語ステートメントを使用して、デフォルトの位置合わせを変更します。

UNALIGNED=NO

PL/I のデフォルトを使用します。

COMPMAXRC

コピーブックをコンパイルするために、許容できる最大の戻りコードを設定します。指定したレベルを超える戻りコードによって機能は停止します。デフォルトは 4 です。

PLIADDOP

PL/I コピーブックのコンパイル時に *PROCESS
ステートメントに組み込まれる追加の PL/I コンパイラー・オプション。

これらのコンパイラー・オプションの効果については、*IBM VisualAge PL/I for OS/390 Programming Guide* を参照してください。

HLASM オプション

以下のオプションを使用して、アセンブラー・コピーブックをテンプレートにコンパイルします。

DBCS=YES

DBCS コンパイラー・オプションを使用します。

DBCS=NO

NODBCS コンパイラー・オプションを使用します。

NOALIGN=YES

NOALIGN コンパイラー・オプションを使用します。

NOALIGN=NO

ALIGN コンパイラー・オプションを使用します。

COMPMAXRC

コピーブックをコンパイルするために、許容できる最大の戻りコードを設定します。指定したレベルを超える戻りコードによって機能は停止します。デフォルトは 4 です。

ASMADDOP

COPY メンバーおよび MACRO メンバーのコンパイル時に *PROCESS
ステートメントに組み込まれる追加の HLASM コンパイラー・オプション。

これらのコンパイラー・オプションの効果については、*HLASM V1R6 Programmer's Guide* を参照してください。

バッチ例

```
//FMBAT EXEC PGM=FMNIMS
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//IDIOPTS DD DSN=FMN.IDIOPTS,DISP=SHR
//FMNIMSIN DD *
$$$FILEM ITU DSNIN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE,
```

```

$$$FILEM MEMBER=DJ%E,
$$$FILEM MEMLIST=(DJ1E,
$$$FILEM      DJ2E),
$$$FILEM DBDLIST=(FMN.IMS.IVP.DBDLIB),
$$$FILEM DSNOUT=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE.MORE,
$$$FILEM REPLACE=YES
    
```

更新報告書

IBM File Manager for z/OS IMS Component

Template Update Report

Template	New name	Type	Status
DJ1E		Template	Replaced
DJ2E		Template	Old template requires LIBLIST

FMN1495I 2 members read 0 Updated 0 Not changed 1 Replaced 1 Errors

報告書のフィールド

テンプレート

これは、テンプレートの名前です。

Lib (ライブラリー)

複数の入力ライブラリーがある場合、この列には、テンプレートの作成元のライブラリー番号が表示されます。この列は、複数のテンプレート入力ライブラリーがある場合にのみ存在します。

New name (新しい名前)

これは、更新処理中にテンプレートが名前変更された場合の、新規出力テンプレート名です。

状況

状況表の値。表 2: バッチの更新状況とアクション ページ 562 を参照してください。

表 2. バッチの更新状況とアクション

状況	説明	アクション
更新済み	テンプレートは正常に更新されました。	なし
Not Replaced	テンプレートが出力データ・セットに存在し、replace オプションが NO です。	必要に応じて、置換を指定して再実行してください。
置換済み	テンプレートが出力データ・セットに存在し、replace オプションが YES で正常に更新されました。	なし。
Compile Error	テンプレートに関連付けられたコピーブックをコンパイルできません。	オプション 4.4 を使用して、失敗したテンプレートについてフォアグラウンドで再実行し、生成されるコンパイル・リストを確認してください。

表 2. バッチの更新状況とアクション (続く)

状況	説明	アクション
Corrupt Template	テンプレートの内部フォーマットが破壊されています。これは、テンプレートが File Manager の外部で変更されたために発生した可能性があります。	これは内部エラーです。テンプレートが変更されていない場合は、そのコピーを取り、IBM® サポートに連絡してください。
SYSLIB not found <i>syslib</i>	テンプレートで参照された <i>syslib</i> が見つかりませんでした。	変更可能な SYSLIB をリストするオプション 4.1 を使用して、フォアグラウンドで更新を再実行してください。あるいは、LIBLIST=(dsn1,dsn2...) パラメーターを指定して、コピーブックの現行の場所を示してください。
SYSLIB invalid attrs <i>syslib</i>	テンプレートで参照された <i>syslib</i> に、このテンプレートの言語タイプに関する無効な属性があります。	オプション 4.1 または LIBLIST パラメーターを使用して、 <i>syslib</i> 参照を変更してください。
Copybook not found name	コピーブック名が現行ライブラリーに見つかりません。	4.1 または LIBLIST パラメーターを使用して、参照されるコピーブックを含むデータ・セットを指定してください。
Storage exhausted	File Manager が処理中にストレージ不足になりました。	領域サイズを増やしてください。
No copybooks in libraries	テンプレートまたはオーバーライドから提供されたライブラリー・リストに、コピーブックがありません。	変更可能な SYSLIB をリストするオプション 4.1 を使用して、フォアグラウンドで更新を再実行してください。あるいは、LIBLIST=(dsn1,dsn2...) パラメーターを指定して、コピーブックの現行の場所を示してください。
Not a valid template	テンプレートのタイプが、更新処理には無効です。	これは、発生してはならない内部エラーです。IBM® サポートに連絡してください。
Duplicate name (重複名)	出力テンプレート名は、更新中に他のテンプレートによって既に参照されています。	保管される重複名がないように、パラメーターを訂正してください。
Not found	参照されたテンプレート・メンバーが、入力データ・セットに見つかりません。	正しいデータ・セットまたはメンバー名を指すように入力パラメーターを訂正してください。
Save error	更新されたテンプレートを保管できませんでした	通常、スペースの問題です。出力データ・セット (出力データ・セットが提供されなかった場合は入力データ・セット) を確認し、サイズを増やしてください。

表 2. バッチの更新状況とアクション (続く)

状況	説明	アクション
Update check successful	NOUPDATE=YES を指定して実行しなければ、更新は成功していました。更新が行われなかったことを意味します。	なし。
Updating of criteria failed	基準で前に参照されたフィールドが現行バージョンのコピーブックに見つからなかったため、更新は実行されませんでした。	オプション 4.1 を使用して、フォアグラウンドで更新を再実行してください。これにより、コピーブック変更の結果として無効にされた式を訂正できるようになります。
Segment without layouts	与えられたセグメントに対応するコピーブックが、レイアウトを生成しませんでした。	オプション 4.1 を使用して、フォアグラウンドで更新を再実行してください。これにより、各セグメントのコピーブックを表示し、データ・レイアウトを含まないコピーブックを判別することができます。
Old template requires liblist	更新しようとしているテンプレートは、古いテンプレートで、更新処理に必要なコピーブック・ライブラリーを含んでいません。	コピーブック・データ・セットを指定するために、バッチの LIBLIST パラメーターを指定してください。オプション 4.4 を使用すると、入力パネルでコピーブック・データ・セットを指定できます。
DBD initialization failed	テンプレートで参照された DBD を適切にロードできませんでした。DBD データ・セットおよびメンバーの名前が、状況と共にリストされます。	メッセージにリストされた DBD データ・セットおよびメンバーが誤りである理由を調べてください。DBDLIST またはオプション 4.1 をオンラインで使用し、テンプレートによって参照される DBD ライブラリーを変更してください。
Template allocate error	ビューまたは基準に対応するテンプレート・データ・セットを更新処理に割り振れませんでした。	データ・セット名を確認してください。TPLIST パラメーターまたはオプション 4.2/4.3/4.4 を使用して、元のテンプレート・データ・セットを更新してください。
DBD not found <i>member_name</i>	このテンプレートの DBD が、指定された DBD ライブラリーに見つかりませんでした。	DBD <i>member_name</i> が、指定されている場合には DBDLIST ライブラリーに、またはこのテンプレートに関連付けられた DBD ライブラリーにあることを確認してください。

表 2. バッチの更新状況とアクション (続く)

状況	説明	アクション
Template not found <i>member_name</i>	このビューまたは基準セットのテンプレートが、指定されたテンプレート・ライブラリーに見つかりませんでした。	テンプレート <i>member_name</i> が、指定されている場合には TPLIST ライブラリーに、あるいは、ビューまたは基準セットの作成に使用された元のテンプレート・データ・セットにあることを確認してください。

IMS View Update (IMS ビューの更新) (IVU)

目的

このユーティリティを使用すると、以下を行うことができます。

- 1 つ以上のビューを更新します。
- 既存のビューを基にしてビューを作成します。

使用上の注意

- 処理のために選択したビューは、元のテンプレート・メンバー名またはマスクの指定によってフィルタリングすることができます。

関連機能

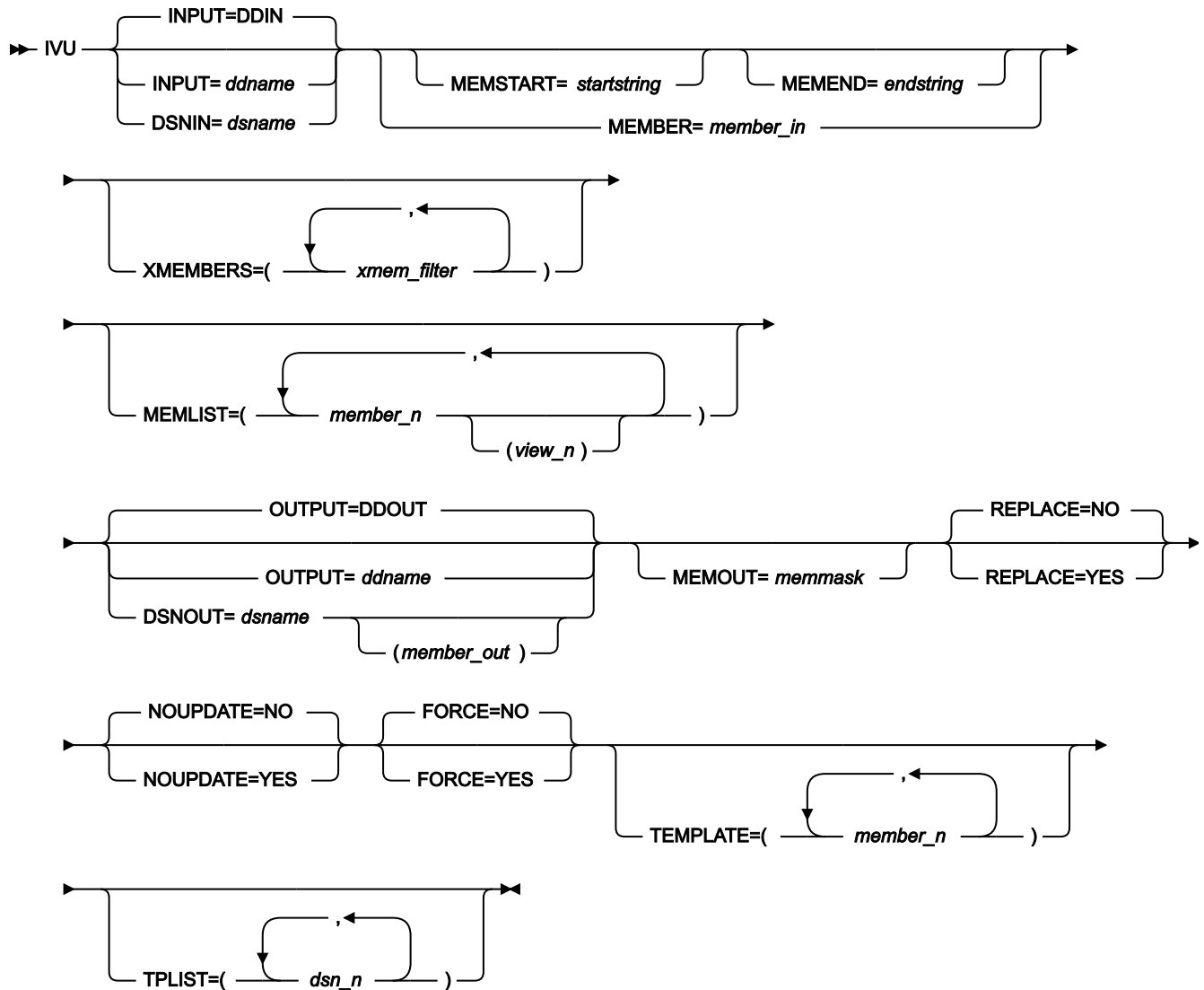
ITU

IMS Template Update (IMS テンプレートの更新)

ICU

IMS Criteria sets Update (IMS 基準セットの更新)

図 138. Syntax



INPUT=ddname

ユーティリティーが処理するビューを含むデータ・セットの DD ステートメントを指定します。PDS(E)、連結された PDS(E)、または順次データ・セットを指定することができます。INPUT パラメーターおよび DSNIN パラメーターを指定しない場合は、デフォルト DD 名の DDIN が使用されます。OUTPUT パラメーターおよび DSNOUT パラメーターが指定されていない場合、ユーティリティーは、指定されたデータ・セットまたは指定された順次データ・セットの、選択されたメンバーを更新します。

DSNIN=dsname

ユーティリティーが処理するビュー (複数可) を含んでいるデータ・セットの名前。

MEMBER=member_in

入力ビュー・データ・セットが PDS(E)、または連結された PDS(E) である場合に、ユーティリティーが処理するデータ・セットのメンバーを指定します。メンバー名 (ユーティリティーが処理するメンバーが 1 つのみの場合)、または入力ビュー・データ・セットの 1 つ以上のメンバーを示すメンバー名パターンを指定することができます。

メンバー名パターンは、メンバー名に有効な任意の文字と 2 つの特殊パターン文字 (アスタリスク (*) およびパーセント記号 (%)) から構成することができます。

*

任意の数の文字を表します。必要な数のアスタリスクを、メンバー名パターンの任意の場所に使用することができます。例えば、メンバー名パターンとして `*d*` を入力すれば、名前に「d」が含まれる、PDS 内のすべてのメンバーが処理されます。

%

単一文字を表すプレースホルダー文字。パーセント記号は、メンバー名パターンの任意の場所に必要な数だけ指定できます。例えば、メンバー名パターンとして `****` を入力すれば、名前の長さが 4 文字である、PDS 内のすべてのメンバーが処理されます。

データ・セットが PDS(E) ではない場合、`member_in` は無視されます。

MEMSTART=startstring

組み込まれるメンバー名の範囲の開始を指定するために使用されます。MEMSTART が指定されたが MEMEND は省略された場合、PDS(E) 内の `startstring` 値以降の全メンバーが組み込まれます。`startstring` では、MEMBER キーワードの `member-in` パラメーターに関して、ワイルドカードを含め、同じ値を持つことができます。

MEMEND=endstring

組み込まれるメンバー名の範囲の終了を指定するために使用されます。MEMEND が指定されたが MEMSTART は省略された場合、PDS(E) 内の `endstring` 値までの全メンバーが組み込まれます。`endstring` では、MEMBER キーワードの `member_in` パラメーターに関して、ワイルドカードを含め、同じ値を持つことができます。

XMEMBERS

MEMSTART、MEMEND、および MEMBER

オプションを使用して、処理するライブラリー・メンバーから除外し、それ以外が選択される方法を提供します。

xmem_filter

処理から除外する 1 つ以上のメンバーを識別するメンバー名フィルター。フィルターには、複数のメンバーを表すメンバー名パターンを指定できます。

小文字を含むメンバー名フィルターを指定するには、`c'string'` 形式で文字ストリングを使用します。フィルター値は、`x'hex-digits'` 形式で 16 進ストリングとして指定することもできます。

MEMLIST

メンバー名のリストを指定できます (関連付けられた XML 出力テンプレート名も任意に指定できます)。関連付けられるビュー名を指定しないと、FM/IMS は、入力メンバー名、または MEMOUT マスク *memmask* によって識別される名前を使用します。

member_n

処理されるメンバーの名前。総称名マスクは使用できます。

view_n

出力データ・セットにコピーされた後のテンプレート名。指定されない場合、出力ビューは名前変更されません。

OUTPUT=ddname

更新済みのビューを保管するデータ・セットの DD ステートメントを指定します。指定するデータ・セットは、PDS(E) または順次データ・セットである必要があります。このパラメーターは、連結データ・セットをサポートしません。OUTPUT パラメーターと DSNOUT パラメーターが指定されていない場合、ユーティリティーは、更新済みのビューを、INPUT パラメーターまたは DSNIN パラメーターで指定されたデータ・セットに保管します。

DSNOUT=dsname

更新済みビューを保管するデータ・セットの名前を指定します。指定するデータ・セットは、PDS(E) または順次データ・セットである必要があります。PDS(E) である場合、以下のようにして、このデータ・セットをさらに修飾することができます。

(*member-out*)

member-out は、更新済みビューを保管する、指定された PDS(E) のメンバーです。

MEMOUT=*memmask*

多数の入力メンバーが指定されている場合、出力ビューにメンバー名パターンを指定することができます。これにより、作成時にビューを名前変更することができます。メンバー名パターンは、メンバー名に有効な任意の文字と、アスタリスク (*) およびパーセント記号 (%) の 2 つの特殊パターン文字で構成することができます。

アスタリスク (*)

アスタリスクは、変更がない複数の文字を表すプレースホルダー文字です。マスクに指定するアスタリスクは、1 つのみにしてください。2 つ目以降のアスタリスク文字は、パーセント記号として扱われます。例えば、次のように入力するとします。

```
ABC*
```

名前変更後のメンバーはすべて ABC で始まり、その後、古いメンバー名の残りが続きます。

パーセント記号 (%)

パーセント記号は、変更がない単一文字を表すプレースホルダー文字です。パーセント記号は、メンバー名の任意の場所に必要な数だけ指定できます。例えば、次のように入力するとします。

```
%%A*
```

名前変更後のメンバーの最初の3文字は変わらず、4文字目が文字「A」に置き換えられ、古いメンバー名の残りは変更されません。

REPLACE

FM/IMS が、出力 PDS(E) の同名ビューを置き換えるかどうかを指定します。

NO

出力 PDS(E) の同名ビューを置き換えません。

YES

出力 PDS(E) の同名ビューを置き換えます。

NOUPDATE

FM/IMS が更新をデータ・セットに書き戻すかどうかを指定します。

NO

更新をデータ・セットに書き戻します。

YES

更新をデータ・セットに書き戻しません。

FORCE (強制)

ビューの作成元であったテンプレートが変更されなかった場合に、FM/IMS がビューを更新するかどうかを指定します。

NO

ビューの作成元であったテンプレートが変更されなかった場合、更新は行われません。

YES

FM/IMS ビューの作成元であったテンプレートに変更が行われなくても、ビューを更新します。

TEMPLATE

このパラメーターが指定されると、ユーティリティーによって、処理されるビューが、このパラメーターで指定するテンプレートから作成されるビューに限定されます。テンプレート・メンバー名およびテンプレート・メンバー・パターンを含むリストを指定することができます。ビューは、リストで指定されたテンプレート・メンバー、またはリストで指定されたテンプレート・メンバー・パターンと一致するテンプレート・メンバーのいずれかから作成される場合にのみ処理されます。

member_n

テンプレート・メンバー名またはテンプレート・メンバー・パターン。

TPLIST

このパラメーターが指定されると、(各ビューで参照されるテンプレートではなく) 指定されたデータ・セット内のテンプレートを使用してビューを更新し、更新が正常終了した場合、ユーティリティーによって、

ビュー内のテンプレート・データ・セット名が、ユーティリティーによって使用されたテンプレートを含むデータ・セットの名前に変更されます。

dsn_n

ユーティリティーが使用するテンプレート・データ・セットの名前。総称名マスクは使用できません。

バッチ例

```
//FMBAT EXEC PGM=FMNIMS
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//IDIOPTS DD DSN=FMN.IDIOPTS,DISP=SHR
//FMNIMSIN DD *
$$$FILEM IVU DSNIN=FMN.IMS.IVP.VIEW,
$$$FILEM MEMBER=D*,
$$$FILEM MEMLIST=(DJ2EVJU),
$$$FILEM TPLIST=(FMN.IMS.IVP.TEMPLATE.MORE),
$$$FILEM DSNOUT=FMN.IMS.IVP.VIEW.MORE,
$$$FILEM REPLACE=YES
```

更新報告書

```
IBM File Manager for z/OS IMS Component

      Template Update Report

Template      New name    Type      Status
-----
DJ2EVJU              View      Updated

FMN1494I 1 members read 1 Updated 0 Not changed 0 Not replaced 0 Errors
```

報告書のフィールド

テンプレート

これは、ビューの名前です。

Lib (ライブラリー)

複数の入力ライブラリーがある場合、この列には、ビューの作成元のライブラリー番号が表示されます。この列は、複数のビュー入力ライブラリーがある場合にのみ存在します。

New name (新しい名前)

これは、更新処理中にビューが名前変更された場合の、新規出力ビュー名です。

Status (状況)

状況表 (表 2: バッチの更新状況とアクション ページ 562 を参照) の値。

Criteria set update (基準セットの更新) (ICU)

ICU (IMS Criteria set Update) (IMS 基準セットの更新) 関数を使用すると、バッチ処理で基準セットを更新することができます。

目的

このユーティリティーを使用すると、以下を行うことができます。

- 1つ以上の基準セットを更新する。
- 既存の基準セットを基にして基準セットを作成する。

使用上の注意

- 処理のために選択した基準セットは、元のテンプレート・メンバー名またはマスクの指定によってフィルタリングすることができます。

関連機能

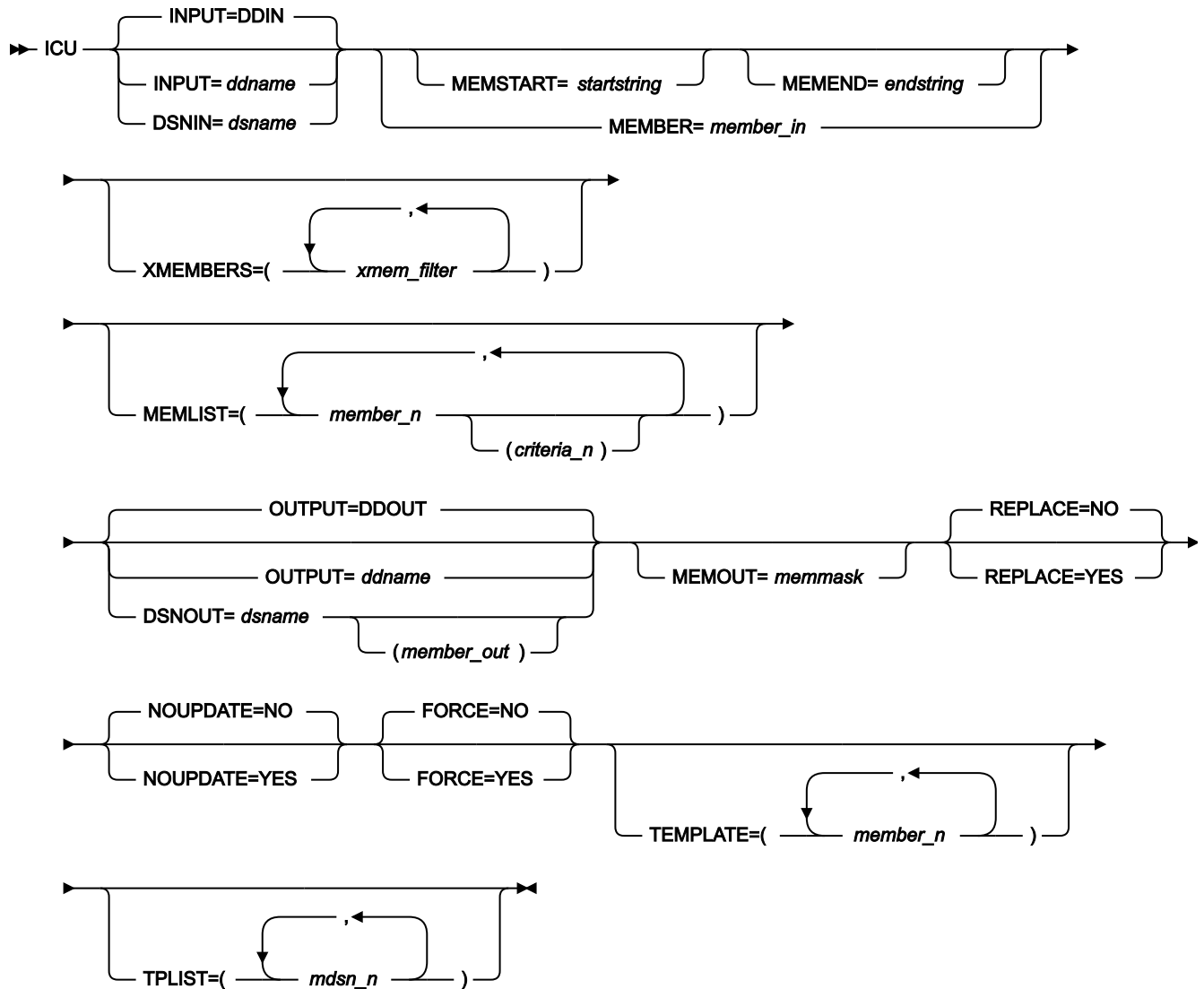
ITU

IMS Template Update (IMS テンプレートの更新)

IVU

IMS Views Update (IMS ビューの更新)

図 139. Syntax



INPUT=ddname

ユーティリティーが処理する基準セットを含むデータ・セットの DD ステートメントを指定します。PDS(E)、連結された PDS(E)、または順次データ・セットを指定することができます。INPUT パラメーターおよび DSNIN パラメーターを指定しない場合は、デフォルト DD 名の DDIN が使用されます。OUTPUT パラメーターおよび DSNOUT パラメーターが指定されていない場合、ユーティリティーは、指定されたデータ・セットまたは指定された順次データ・セットの、選択されたメンバーを更新します。

DSNIN=dsname

ユーティリティーが処理する基準セット (複数可) を含んでいるデータ・セットの名前。

MEMBER=member_in

入力基準データ・セットが PDS(E)、または連結された PDS(E) である場合に、ユーティリティーが処理するデータ・セットのメンバーを指定します。メンバー名 (ユーティリティーが処理するメンバーが 1 つのみの場合)、または入力基準データ・セットの 1 つ以上のメンバーを示すメンバー名パターンを指定することができます。

メンバー名パターンは、メンバー名に有効な任意の文字と 2 つの特殊パターン文字 (アスタリスク (*) およびパーセント記号 (%)) から構成することができます。

*

任意の数の文字を表します。必要な数のアスタリスクを、メンバー名パターンの任意の場所に使用することができます。例えば、メンバー名パターンとして `*d*` を入力すれば、名前に「d」が含まれる、PDS 内のすべてのメンバーが処理されます。

%

単一文字を表すプレースホルダー文字。パーセント記号は、メンバー名パターンの任意の場所に必要な数だけ指定できます。例えば、メンバー名パターンとして `****` を入力すれば、名前の長さが 4 文字である、PDS 内のすべてのメンバーが処理されます。

データ・セットが PDS(E) ではない場合、`member_in` は無視されます。

MEMSTART=startstring

組み込まれるメンバー名の範囲の開始を指定するために使用されます。MEMSTART が指定されたが MEMEND は省略された場合、PDS(E) 内の `startstring` 値以降の全メンバーが組み込まれます。`startstring` では、MEMBER キーワードの `member-in` パラメーターに関して、ワイルドカードを含め、同じ値を持つことができます。

MEMEND=endstring

組み込まれるメンバー名の範囲の終了を指定するために使用されます。MEMEND が指定されたが MEMSTART は省略された場合、PDS(E) 内の `endstring` 値までの全メンバーが組み込まれます。`endstring` では、MEMBER キーワードの `member_in` パラメーターに関して、ワイルドカードを含め、同じ値を持つことができます。

XMEMBERS

MEMSTART、MEMEND、および MEMBER

オプションを使用して、処理するライブラリー・メンバーから除外し、それ以外が選択される方法を提供します。

xmem_filter

処理から除外する 1 つ以上のメンバーを識別するメンバー名フィルター。フィルターには、複数のメンバーを表すメンバー名パターンを指定できます。

小文字を含むメンバー名フィルターを指定するには、`c'string'` 形式で文字ストリングを使用します。フィルター値は、`x'hex-digits'` 形式で 16 進ストリングとして指定することもできます。

MEMLIST

メンバー名のリストと、オプションで、関連付けられる出力基準セット名を指定できます。関連付けられる基準セット名を指定しないと、FM/IMS は、入力メンバー名、または MEMOUT マスク *memmask* によって識別される名前を使用します。

member_n

処理されるメンバーの名前。総称名マスクは使用できます。

criteria_n

出力データ・セットにコピーされた後の基準セットの名前。指定されない場合、出力基準セットは名前変更されません。

OUTPUT=ddname

更新済みの基準セットを保管するデータ・セットの DD ステートメントを指定します。指定するデータ・セットは、PDS(E) または順次データ・セットである必要があります。このパラメーターは、連結データ・セットをサポートしません。OUTPUT パラメーターと DSNOUT パラメーターが指定されていない場合、ユーティリティは、更新済みの基準セットを、INPUT パラメーターまたは DSNIN パラメーターで指定されたデータ・セットに保管します。

DSNOUT=dsname

更新済み基準セットを保管するデータ・セットの名前を指定します。指定するデータ・セットは、PDS(E) または順次データ・セットである必要があります。PDS(E) である場合、以下のようにして、このデータ・セットをさらに修飾することができます。

(*member-out*)

member-out は、更新済み基準セットを保管する、指定された PDS(E) のメンバーです。

MEMOUT=*memmask*

多数の入力メンバーが指定されている場合、出力基準セットにメンバー名パターンを指定することができます。これにより、作成時に基準セットを名前変更することができます。メンバー名パターンは、メンバー名に有効な任意の文字と、アスタリスク (*) およびパーセント記号 (%) の 2 つの特殊パターン文字で構成することができます。

アスタリスク (*)

アスタリスクは、変更がない複数の文字を表すプレースホルダー文字です。マスクに指定するアスタリスクは、1 つのみにしてください。2 つ目以降のアスタリスク文字は、パーセント記号として扱われます。例えば、次のように入力するとします。

```
ABC*
```

名前変更後のメンバーはすべて ABC で始まり、その後、古いメンバー名の残りが続きます。

パーセント記号 (%)

パーセント記号は、変更がない単一文字を表すプレースホルダー文字です。パーセント記号は、メンバー名の任意の場所に必要な数だけ指定できます。例えば、次のように入力するとします。

```
%%A*
```

名前変更後のメンバーの最初の3文字は変わらず、4文字目が文字「A」に置き換えられ、古いメンバー名の残りは変更されません。

REPLACE

FM/IMS が、出力 PDS(E) の同名基準セットを置き換えるかどうかを指定します。

NO

出力 PDS(E) の同名基準セットを置き換えません。

YES

出力 PDS(E) の同名基準セットを置き換えます。

NOUPDATE

FM/IMS が更新をデータ・セットに書き戻すかどうかを指定します。

NO

更新をデータ・セットに書き戻します。

YES

更新をデータ・セットに書き戻しません。

FORCE

ビューの作成元であったテンプレートが変更されなかった場合に、FM/IMS が基準セットを更新するかどうかを指定します。

NO

基準セットの作成元であったテンプレートが変更されない場合、更新は行われません。

YES

FM/IMS 基準セットの作成元であったテンプレートに変更が行われなくても、基準セットを更新します。

TEMPLATE

このパラメーターが指定されると、ユーティリティーによって、処理される基準セットが、このパラメーターで指定するテンプレートから作成される基準セットに限定されます。テンプレート・メンバー名およびテンプレート・メンバー・パターンを含むリストを指定することができます。基準セットは、リストで指定されたテンプレート・メンバー、またはリストで指定されたテンプレート・メンバー・パターンと一致するテンプレート・メンバーのいずれかから作成される場合にのみ処理されます。

member_n

テンプレート・メンバー名またはテンプレート・メンバー・パターン。

TPLIST

このパラメーターが選択された場合、(各基準セットで参照されるテンプレートではなく) 指定されたデータ・セット内のテンプレートを使用して 基準セットを更新し、更新が正常終了した場合、ユーティリティーに

よって、基準セット内のテンプレート・データ・セット名が、ユーティリティーが使用したテンプレートを
含むデータ・セットの名前に変更されます。

dsn_n

ユーティリティーが使用するテンプレート・データ・セットの名前。総称名マスクは使用できません。

バッチ例

以下の例では、基準セットが更新され、セグメントが DBD から除去されます。

```
//FMBAT EXEC PGM=FMNIMS
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//IDIOPTS DD DSN=FMN.IDIOPTS,DISP=SHR
//FMNIMSIN DD *
$$$FILEM ICU DSNIN=FMN.IMS.IVP.CRITERIA,
$$$FILEM MEMBER=DJ1E*,
$$$FILEM MEMLIST=(DJ1ESS),
$$$FILEM TPLIST=(FMN.IMS.IVP.TEMPLATE.LESS),
$$$FILEM DSNOUT=FMN.IMS.IVP.CRITERIA.LESS,
$$$FILEM REPLACE=YES
```

更新報告書

```
Update report

IBM File Manager for z/OS IMS Component

          Template Update Report

Template      New name   Type      Status
-----
DJ1ESS              Criteria  Replaced

FMN1494I 1 members read 0 Updated 1 Not changed 1 Replaced 0 Errors
```

報告書のフィールド

テンプレート

これは、基準セットの名前です。

Lib (ライブラリー)

複数の入力ライブラリーがある場合、この列には、基準セットの作成元のライブラリー番号が表示されます。
この列は、複数の基準セット入力ライブラリーがある場合にのみ存在します。

New name (新しい名前)

これは、更新処理中に基準セットが名前変更された場合の、新規出力基準セット名です。

Status (状況)

状況表 ([表 2: バッチの更新状況とアクション ページ 562](#) を参照) の値。

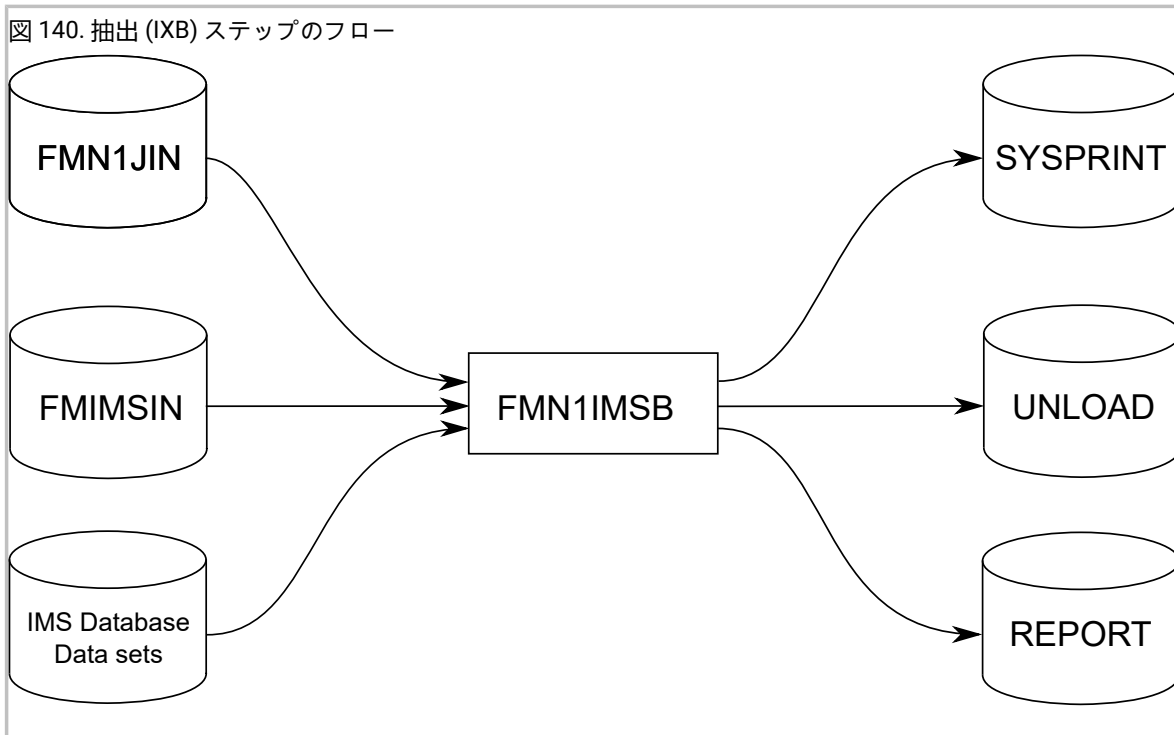
抽出 (IXB)

目的

抽出ダイアログは、抽出 (IXB) 関数を実行する JCL を生成します。この関数は、データベースからすべてのセグメントまたは選択したセグメントを抽出して、それを順次データ・セットに保管します。この JCL および IXB 入力パラメーターを編集してから、ジョブの実行依頼を行うことができます。または、抽出関数を実行する独自のバッチ・ジョブを作成することもできます。

使用上の注意

FM/IMS によって生成される抽出 JCL のフローは、以下のとおりです。



FMN1JIN

FM/IMS スケルトン・ライブラリーを指します。この DD ステートメントは、HALDB データベースからデータを抽出するときだけに使用されます。

FMNIMSIN

抽出の制御ステートメントが入っています。この制御ステートメントについては、以下で詳しく説明します。

REPORT

データベース抽出要約報告書の出力データ・セットを定義します。

IMS データベース・データ・セット

DLI モードでは、抽出される IMS データベースに関連付けられた各 IMS データベース・データ・セットの DD が FM/IMS に組み込まれます。データベースに論理関係がある場合は、論理的に関係があるデータベースのデータ・セットも組み込む必要があります。

UNLOAD

関数が抽出する IMS

セグメントの出力データ・セットを定義します。ファイル・レイアウトについては、[データ・レイアウトの抽出 ページ 603](#)を参照してください。

SYSPRINT

「Extract (抽出)」が発行するメッセージの出力データ・セットを定義します。

FMNIMSIN 制御ステートメント

FMNIMSIN 制御ステートメントを使用して、以下を指定します。

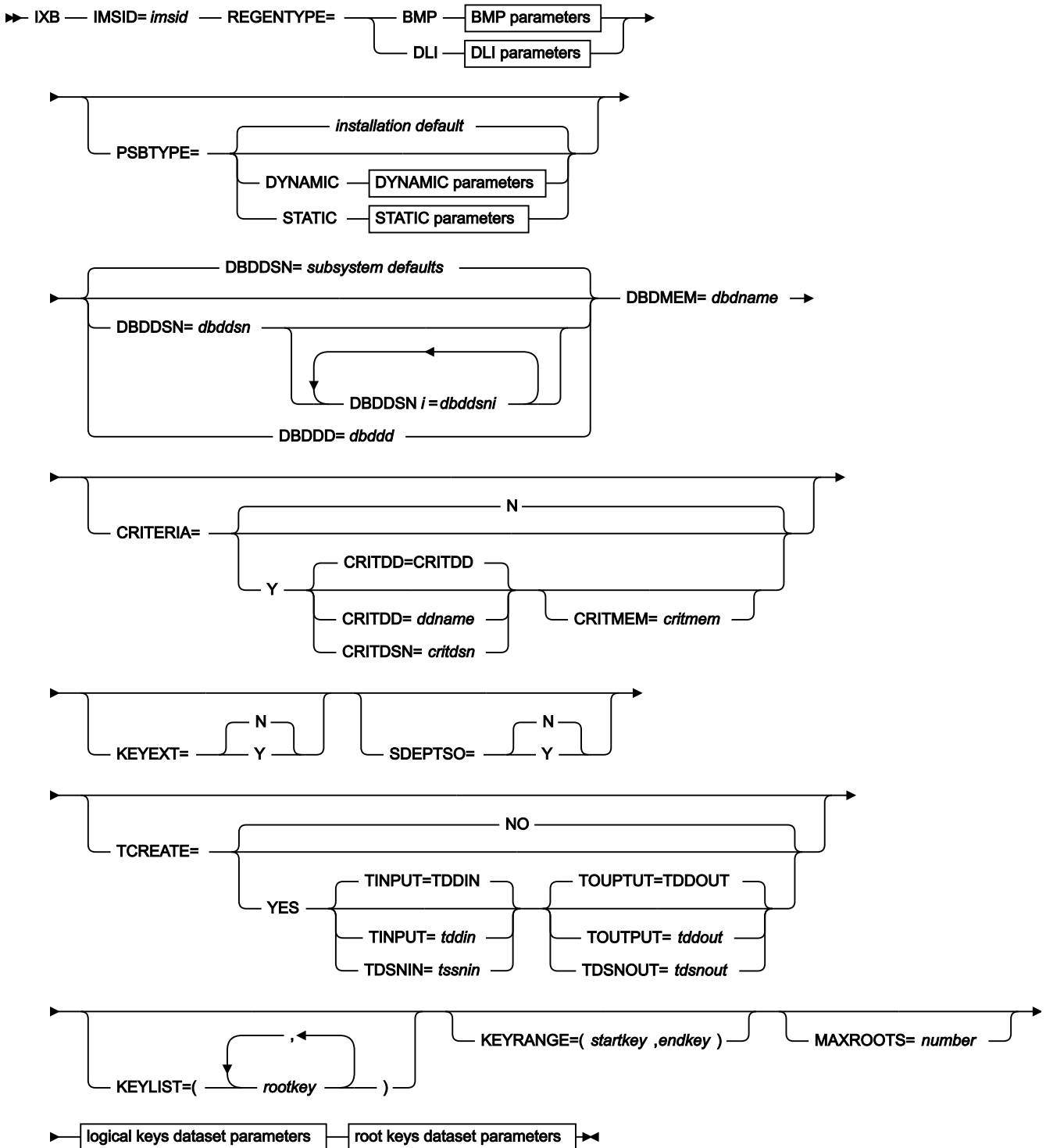
- 抽出を BMP 領域で実行するか、DLI 領域で実行するか。
- 静的 PSB を使用するか、あるいは FM/IMS が動的 PSB を生成して IMS データを抽出するか。
- 部分的抽出の実行にキー・ファイルが使用されるか。
- 部分的抽出の実行に選択基準が指定されているか。

データベースが論理関係を含む場合、基準を使用して、追跡する論理関係を決定することができます。

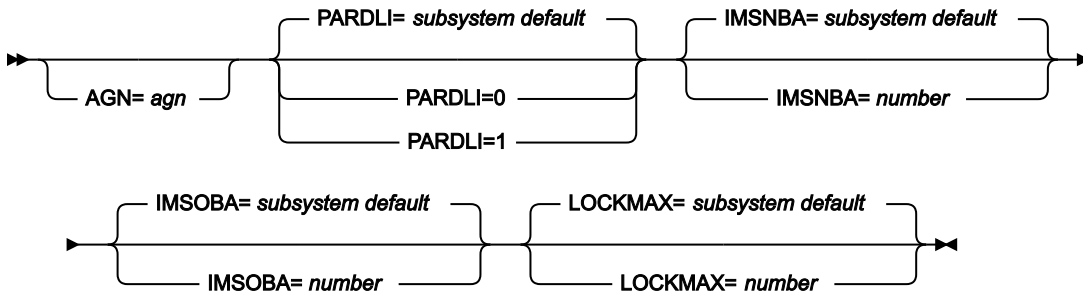
FMNIMSIN 内の各行は \$\$FILEM で始まり、最初の行には、FM/IMS によって抽出が実行されることを指定するパラメータ - IXB が含まれます。

```
$$FILEM IXB REGNTYPE=DLI,  
$$FILEM PSBTYPE=DYNAMIC,  
$$FILEM DBDDSN=FMN.IMS.IVP.DBDLIB,  
...  
...
```

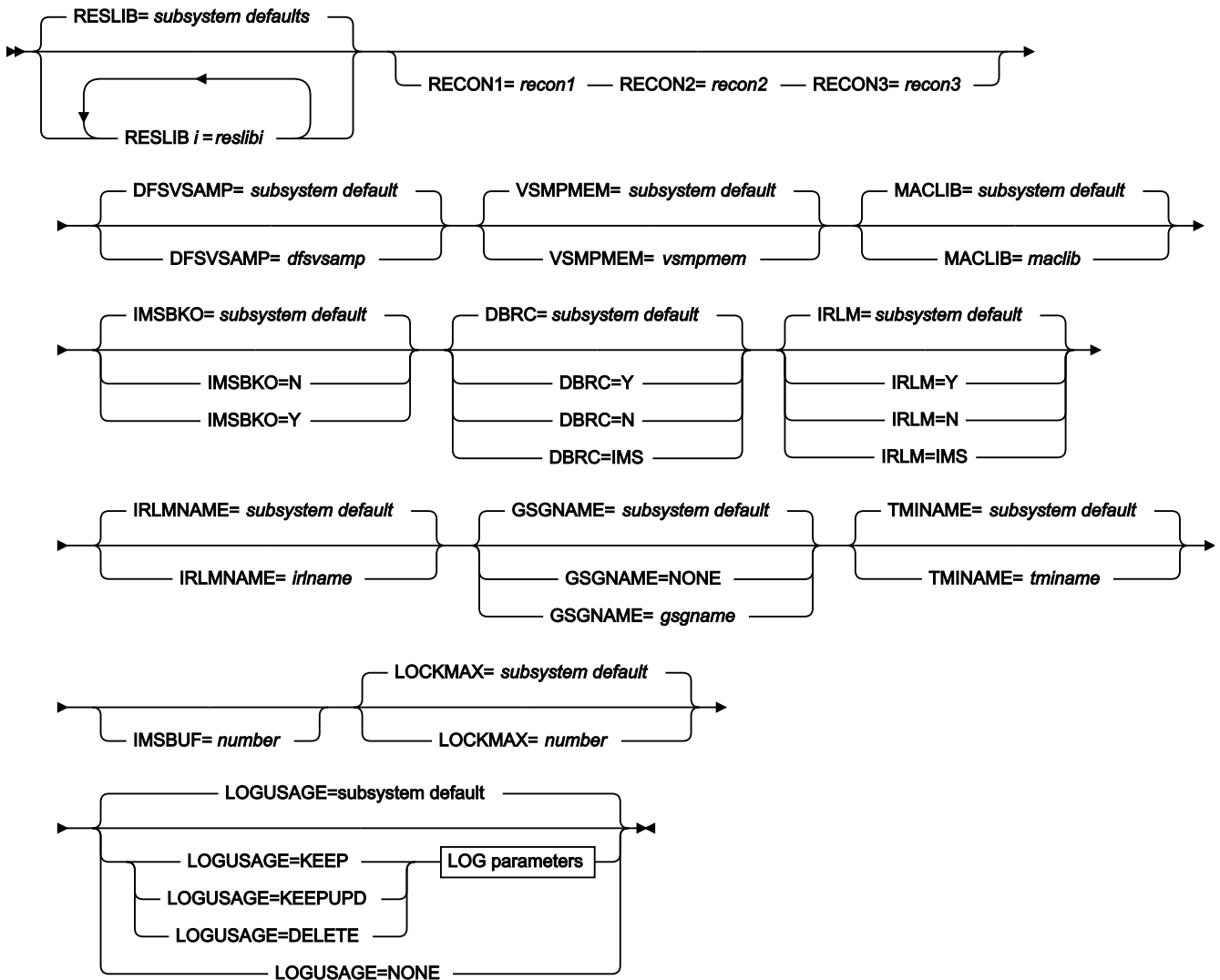
☒ 141. Syntax



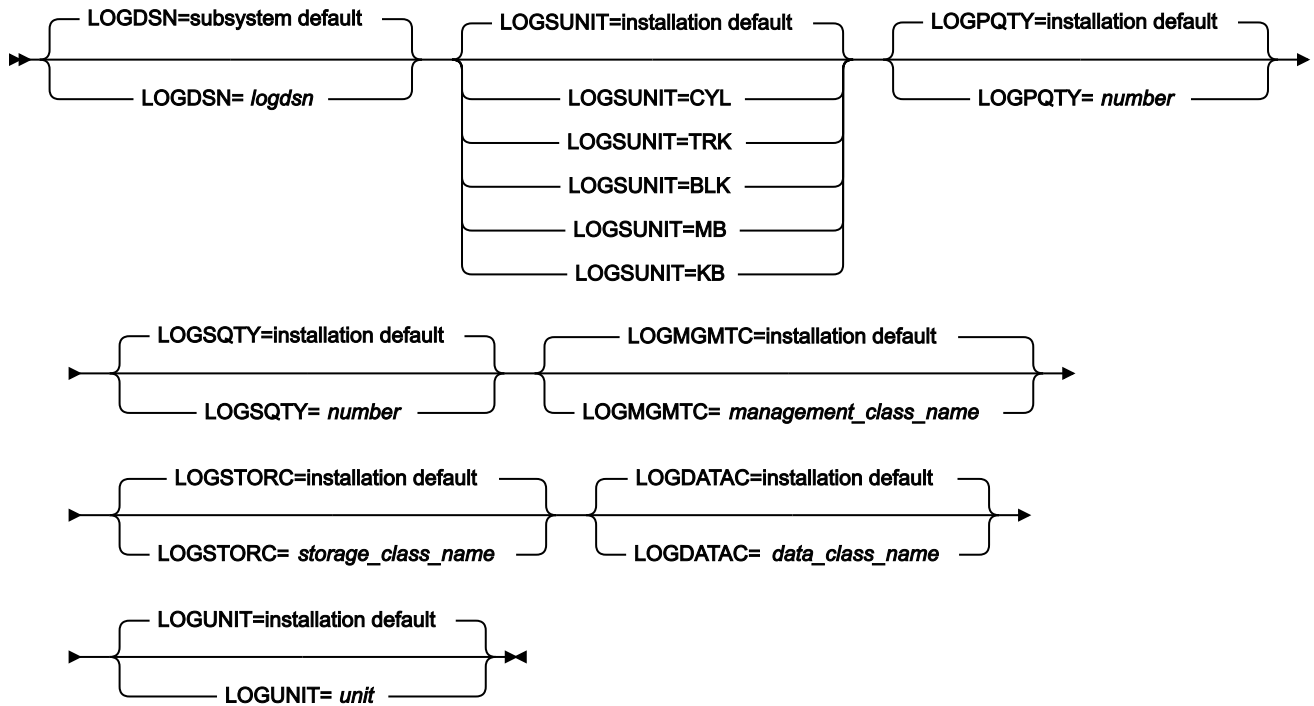
BMP parameters



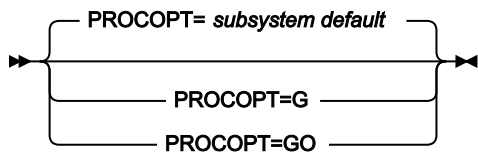
DLI parameters



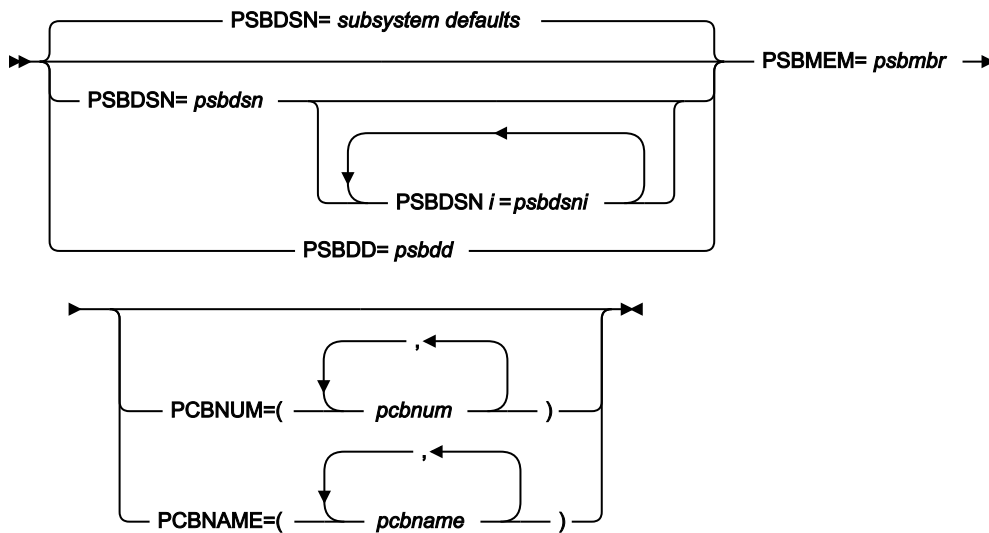
LOG parameters



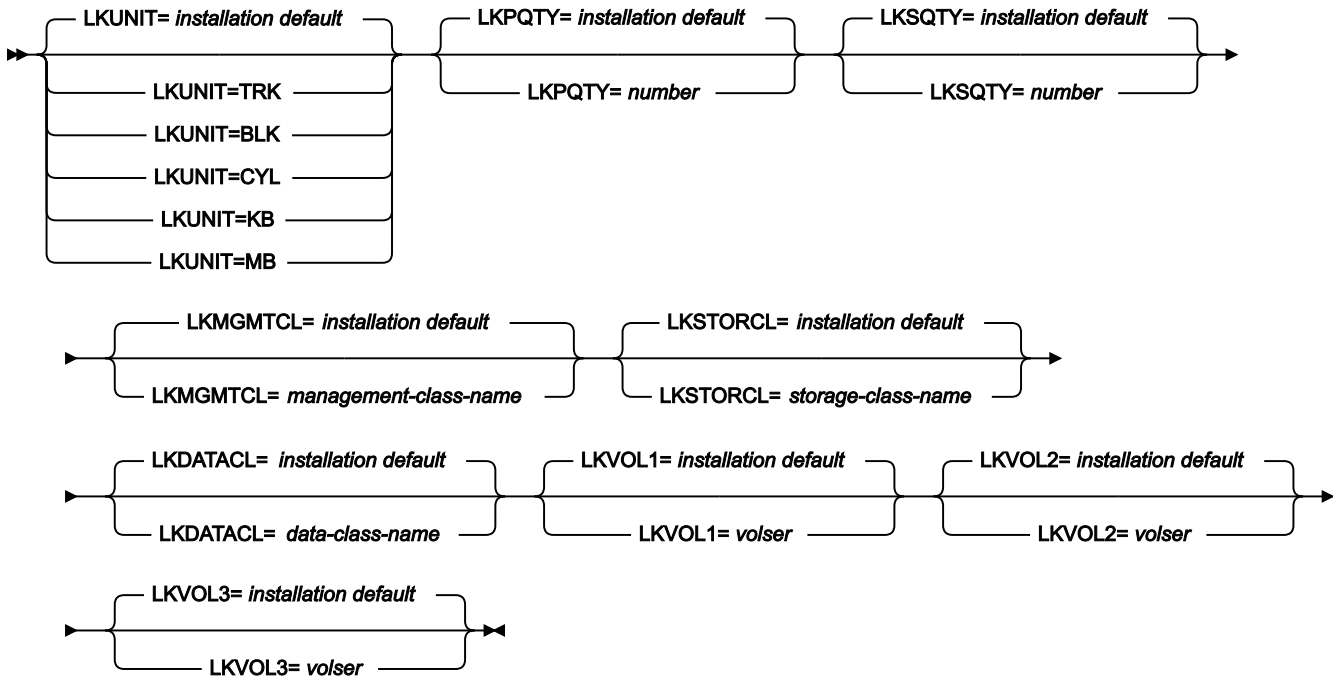
DYNAMIC parameters



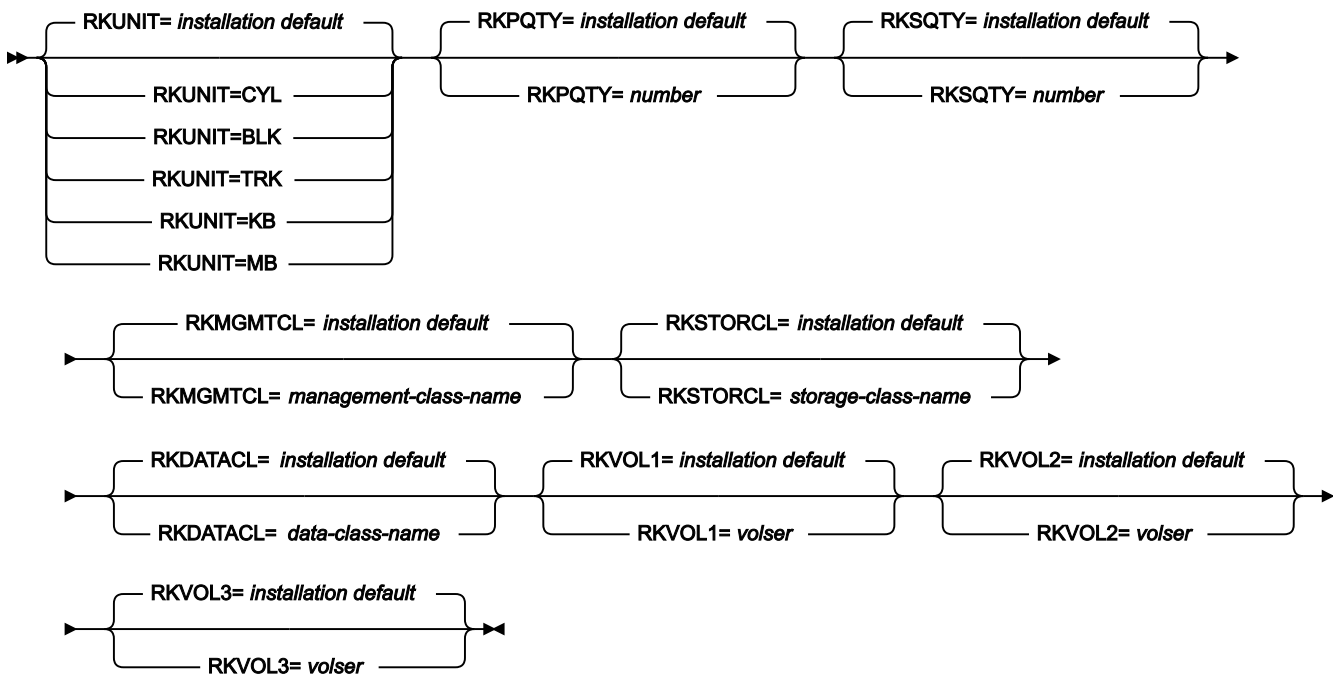
STATIC parameters



Logical keys dataset parameters



Root keys dataset parameters



IMSid=imsid

アクセスするデータベースが定義されている IMS サブシステムの 4 文字の ID。



注: REGNTYPE=DLI が指定され、FM/IMS インストール・オプション・モジュールで COMPAT=Y が指定されている場合は、オプション・パラメーターです。それ以外の場合、必須パラメーターです。

REGNTYPE

必須パラメーター。関数を実行する領域のタイプを指定します。

BMP

BMP 領域の場合。データベースがオンラインの場合に、BMP 領域を使用することができます。

DLI

DL/I

バッチ処理領域の場合。データベースがオフラインであるか、またはデータ共用サポートがある場合に、DL/I バッチ処理領域を使用することができます。

PSBTYPE

オプション・パラメーター。関数がデータベースにアクセスするために使用する PSB のタイプを指定します。

このパラメーターを指定しない場合、FM/IMS は、FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されている *installation* デフォルトを使用します。インストール時に FM/IMS 管理者が、インストール・デフォルトを指定します。

DYNAMIC

関数は、開始時に生成されて終了時に削除される一時 PSB を使用します。

STATIC

関数は、データベース管理者が生成した既存の PSB を使用します。使用する PSB の詳細は、STATIC パラメーターで指定する必要があります。

DBDDSN=dbdsn および DBDDSNi=dbddsni (i は 2 から 6)

DBDDSN パラメーターは、IMS 管理 ACB を使用しないサブシステムを IMSID パラメーターが指定するときに使用されます。

オプション・パラメーター。関数が使用するデータベース定義 (DBD) を含むロード・ライブラリーの名前。指定したライブラリーは IMS DD に割り振られます。

PSBTYPE=DYNAMIC が指定されると、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。

- DBDMEM パラメーターで指定されたデータベース用の DBD。
- DBDMEM パラメーターで指定されたデータベースに論理的に関連するデータベースごとの DBD。

PSBTYPE=STATIC が指定されると、IMS では、指定された DBD ライブラリーの少なくとも 1 つに、以下の DBD が必要です。

- PSB で指定されたそれぞれのデータベースごとの DBD
- PSB で指定されたデータベースに論理的に関連しているそれぞれのデータベースごとの DBD

i の値は 2 から始まり、最大値 6 まで 1 ずつ増加していなければなりません。したがって、

```
DBDDSN2=dbddsn2 DBDDSN3=dbddsn3 DBDDSN4=dbddsn4
```

は可能ですが、

```
DBDDSN2=dbddsn2 DBDDSN4=dbddsn4
```

は許されません。値“3”がないためです。



注: IMSID パラメーターが IMS 管理 ACB

を使用するサブシステムを指定すると、この関数は、サブシステムが使用する IMS カタログから DBD を取得し、これらのパラメーターは無視されます。

DBDDSN パラメーターを指定しない場合、FM/IMS は以下を使用します。

- パラメーターのサブシステム・デフォルト (IMSID パラメーターを指定した場合)
- パラメーターのインストール・デフォルト (IMSID パラメーターを指定していない場合)。

インストール時に FM/IMS 管理者が、サブシステム・デフォルトおよびインストール・デフォルトを指定します。

DBDDD=dbddd

IMS 管理 ACB を使用しないサブシステムを IMSID パラメーターが指定するときには、**DBDDD** パラメーターを使用します。

DBDDD パラメーターは、関数が使用する DBD ライブラリーを指定する代替方法を提供します。

オプション・パラメーター。この関数に使用させる DBD ライブラリーを割り振る DD ステートメントの名前。実行依頼する JCL にこの DD ステートメントを組み込みます。FM/IMS で使用するために予約されている IMS を除き、有効な任意の DD 名を指定できます。



注: IMSID パラメーターが IMS 管理 ACB

を使用するサブシステムを指定すると、この関数は、サブシステムが使用する IMS カタログから DBD を取得し、**DBDDD** パラメーターを無視します。

DBDMEM=dbdname

必須パラメーター。関数の基本データベース名。

CRITERIA

オプション・パラメーター。抽出が選択基準を使用するかどうかを指定します。

N

抽出は選択基準を使用しません。

Y

抽出は選択基準を使用します。Yを指定する場合は、以下の CRITDD、CRITDSN、および CRITMEM の項目で示すように、抽出が使用する基準セットを指定する必要があります。

CRITDD=ddname

抽出が使用する基準を含む順次データ・セットまたは PDS(E) およびメンバー用の DD ステートメントを指定します。デフォルトは、CRITDD です。

CRITDSN=critdsn

抽出で使用する基準を含んでいるデータ・セットの名前。順次データ・セットまたは PDS(E) が指定できます。PDS(E) を指定した場合は、パラメーターでは括弧でメンバー名も含めることができます。

CRITMEM=critmem

CRITDSN または CRITDD パラメーターで PDS(E) を指定し、メンバーを指定しない場合は必須です。抽出で使用する基準を含んでいる PDS(E) のメンバーを指定します。



注: パラメーター DSNCRIT および MEMCRIT は、後方互換性のために引き続きサポートされます。

KEYEXT

オプション・パラメーター。抽出をキー値データ・セットで指定されているレコードに制限するかどうかを指定します。

N

抽出で、キー値データ・セットを使用しません。

Y

抽出で、キー値データ・セットを使用します。キー値データ・セットには、抽出するレコードのルート・セグメントのキー値が含まれています。

キー値データ・セットは、KEYSFILE DD ステートメントで指定します。順次データ・セットまたは PDS(E) メンバーを指定できます。

SDEPTSO

このオプションは、順次従属 (SDEP) セグメントを持つ DEDB にのみ適用できます。FM/IMS が SDEP タイム・スタンプをアンロード・ファイルに書き込むかどうかを指定します。

N

デフォルト値。ルート・セグメントのすべての順次従属セグメントが、抽出プロセス時に読み取られたのとは逆の順序で物理的にロードされます。これによ

て、DLI 呼び出しを使用して読み取られるときに、そのデータベースが同じに見えるように SDEP セグメントが復元されます。ただし、順次従属スキャン・ユーティリティーを使用して DEDB データベースを処理する場合、そのセグメントの順序が異なる可能性があります。

Y

FM/IMS は SDEP タイム・スタンプをアンロード・ファイルに書き込みます。DEDB データベースをロードする際に、順次従属セグメントは元の入力シーケンスの順序で復元されません。これによって、抽出ジョブの経過時間と I/O が増加します。

TCREATE

バッチ抽出プロセス中に、抽出テンプレートを作成するかどうかを指定します。

N

バッチ抽出プロセス中に、テンプレートを作成しません。

Y

バッチ抽出プロセス中に、テンプレートを作成します。

TINPUT=tddin

DBDMEM パラメーターで指定されたデータベース用のテンプレート、および DBDMEM パラメーターで指定されたデータベースに論理的に関連付けられたすべてのデータベース用のテンプレートを含む PDS(E) または連結された PDS(E) の DD ステートメントを指定します。

TDSNIN=tdsnin

DBDMEM パラメーターで指定されたデータベース用のテンプレート、および DBDMEM パラメーターで指定されたデータベースに論理的に関連付けられたすべてのデータベース用のテンプレートを含む PDS(E) の名前を指定します。

TOUTPUT=tddout

抽出テンプレートを保管する順次データ・セットまたは PDS(E) メンバーのいずれかの DD ステートメントを指定します。

TDSNOUT=tdsnout

抽出テンプレートを保管する順次データ・セットまたは PDS(E) メンバーのいずれかの名前を指定します。

KEYLIST(rootkey1,rootkey2,...)

オプション・パラメーター。抽出したいデータベース・レコードのルート・セグメント・キー値のリストを指定します。ルート・キー値の長さがルート・セグメントのキー長より短い場合、関数はそれをキーの最初の部分と見なし、部分キー値に一致するルート・キー値を持つデータベース・レコードをすべて抽出します。

KEYRANGE(startkey,endkey)

オプション・パラメーター。ルート・キー値の範囲の始まりと終わりを指定します。関数は、指定された範囲内のルート・キー値を持つデータベース・レコードを抽出します。

startkey

ルート・キー値の範囲の始まり。 *startkey*

値の長さがルート・セグメントのキー長より短い場合、関数は指定された値に low value (X'00') を付加します。

endkey

ルート・キー値の範囲の終わり。 *endkey*

値の長さがルート・セグメントのキー長より短い場合、関数は指定された値に high value (X'FF') を付加します。

MAXROOTS=number

オプション・パラメーター。関数によって抽出されるデータベース・レコード数を制限します。このパラメーターを指定すると、関数は、抽出したデータベース・レコード数をカウントし、指定された限度に達すると終了します。

BMP parameters (BMP パラメーター)

BMP パラメーターは、関数を BMP モードで実行するときに使用します (REGNTYPE=BMP)。

指定されている場合、パラメーターを省略すると、FM/IMS は以下を使用します。

- パラメーターのサブシステム・デフォルト (IMSID パラメーターを指定した場合)
- パラメーターのインストール・デフォルト (IMSID パラメーターを指定していない場合)

インストール時に FM/IMS 管理者が、サブシステム・デフォルトおよびインストール・デフォルトを指定します。

AGN=agn

IMSID パラメーターで指定されているサブシステムが AGN

を使用する場合、必須パラメーター。それ以外の場合、このパラメーターは指定しないでください。関数に必要なアクセスを提供し、かつ、使用する権限のある AGN を指定します。(FM/IMS が開始する BMP 領域は、指定された AGN に関連した IMS リソースを使用する許可が与えられているだけです。)

PARDLI

オプション・パラメーター。関数を使用する並列 DL/I オプションを指定します。

0

DL/I 処理は BMP 領域で実行されます。

1

BMP のすべての DL/I 処理は、IMS 制御領域で実行されます。

PARDLI=1 は、BMP 領域のシステム X22

異常終了の結果生じる制御領域のシステム 113

異常終了を防ぎます。ただし、PARDLI=1 の場合、並列 DL/I

は使用不可になります。これによって、パフォーマンスが低下する場合があります。

IMSNBA=number

オプション・パラメーター。ファースト・パス領域がアクティブにされているときに、共通サービス域で使用可能にされるファースト・パス・データベース・バッファの数を指定します。指定された数は、ファースト・パス・データベースにアクセスするときに関数によって使用されます。指定する数は、1 から 9999 の範囲内である必要があります。

IMSOBA=number

オプション・パラメーター。通常割り当て (IMSNBA パラメーターで指定される) が使用されるときに、ファースト・パス領域に対して使用可能にされる追加のページ固定バッファの数を指定します。指定された数は、ファースト・パス・データベースにアクセスするときに関数によって使用されます。指定する数は、1 から 9999 の範囲内である必要があります。

LOCKMAX=number

オプション・パラメーター。関数が一度に保持することを許可されるロックの最大数 (1000 の単位) を指定します。指定する数は、0 から 32767 の範囲内である必要があります。0 を指定すると、関数が一度に保持できるロックの数には制限がなくなります。

DLI parameters (BMP パラメーター)

DLI パラメーターは、関数を DLI モードで実行するときに使用します (REGNTYPE=DLI)。

指定されている場合、パラメーターを省略すると、FM/IMS は以下を使用します。

- パラメーターのサブシステム・デフォルト (IMSID パラメーターを指定した場合)
- パラメーターのインストール・デフォルト (IMSID パラメーターを指定していない場合)

インストール時に FM/IMS 管理者が、サブシステム・デフォルトおよびインストール・デフォルトを指定します。

RESLIB*i*=reslib*i* (i は 1 から 6)

IMS SVC モジュール、DFSMDA 動的割り振りモジュール、および IMS 出口ルーチンが含まれているデータ・セットの名前を指定します。指定したデータ・セットは TASKLIB DD に割り振られ、APF 許可されたデータ・セットは DFSRESLB DD に割り振られます。オプション・パラメーター。

i の値は 1 から始まり、最大値 6 まで 1 ずつ増加していなければなりません。したがって、

```
RESLIB1=reslib1 RESLIB2=reslib2 RESLIB3=reslib3
```

は可能ですが、

```
RESLIB1=reslib1 RESLIB3=reslib3
```

は許されません。値“2”がないためです。

RECON1=recon1

オプション・パラメーター。IMS で DBRC RECON データ・セットを動的に割り振る場合は、このパラメーターを指定しないでください。IMS は、必要とされるときに、DFSMDA 動的割り振りモジュールで指定された RECON データ・セットを割り振ります。FM/IMS で DBRC RECON データ・セットを割り振る場合は、IMS で使用する 1 次 DBRC RECON データ・セットの名前を指定します。FM/IMS は、必要とされるときに、指定されたデータ・セットを RECON1 DD に割り振ります。RECON1 パラメーターを指定する場合は、RECON2 および RECON3 パラメーターも指定しなければなりません。

RECON2=recon2

オプション・パラメーター。IMS で DBRC RECON データ・セットを動的に割り振る場合は、このパラメーターを指定しないでください。IMS は、必要とされるときに、DFSMDA 動的割り振りモジュールで指定された RECON データ・セットを割り振ります。FM/IMS で DBRC RECON データ・セットを割り振る場合は、IMS で使用する 2 次 DBRC RECON データ・セットの名前を指定します。FM/IMS は、必要とされるときに、指定されたデータ・セットを RECON2 DD に割り振ります。RECON2 パラメーターを指定する場合は、RECON1 および RECON3 パラメーターも指定しなければなりません。

RECON3=recon3

オプション・パラメーター。IMS で DBRC RECON データ・セットを動的に割り振る場合は、このパラメーターを指定しないでください。IMS は、必要とされるときに、DFSMDA 動的割り振りモジュールで指定された RECON データ・セットを割り振ります。FM/IMS で DBRC RECON データ・セットを割り振る場合は、IMS で使用するスペア DBRC RECON データ・セットの名前を指定します。FM/IMS は、必要とされるときに、指定されたデータ・セットを RECON3 DD に割り振ります。RECON3 パラメーターを指定する場合は、RECON1 および RECON2 パラメーターも指定しなければなりません。

DFSVSAMP=dfsvsamp

オプション・パラメーター。OSAM および VSAM データ・セット用に IMS バッファ・サブプールを定義するパラメーターが含まれているデータ・セットの名前を指定します。指定したデータ・セットは DFSVSAMP DD に割り振られます。指定したデータ・セットが区分データ・セットの場合は、必要なメンバーを VSMPMEM パラメーターで指定してください。

VSMPMEM=vsmpmem

オプション・パラメーター。関数が使用する DFSVSAMP データ・セットが PDS(E) の場合は、OSAM および VSAM データ・セット用に IMS

バッファ・サブプールを定義するパラメーターが含まれているデータ・セットのメンバーを VSMPMEM で指定します。指定したメンバーは DFSVSAMP DD に割り振られます。DFSVSAMP が順次データ・セットの場合は、このパラメーターを指定しないでください。

MACLIB=maclib

オプション・パラメーター。IMS マクロ・ライブラリーの名前を指定します。FM/IMS は、動的 PSB を生成するときに、指定されたライブラリーの IMS マクロを使用します。

IMSBKO

オプション・パラメーター。IMS 疑似アベンドが発生したときに、動的バックアウトを実行するかどうかを指定します。

N

IMS 疑似アベンドが発生したときに、動的バックアウトを実行しません。

Y

IMS 疑似アベンドが発生したときに、動的バックアウトを実行します。

このパラメーターは、関数を IMS ログ・データ・セットで実行している場合のみ有効です。

DBRC

オプション・パラメーター。関数がデータベース・リカバリー管理 (DBRC) を使用するかどうかを指定します。

Y

DBRC を使用します。

N

DBRC を使用しません。

IMS

DBRC は、インストール・デフォルト・モジュール DFSIDEF0 の DBRC パラメーターに従って設定されます。DFSIDEF0 モジュールが DBRC=YES または DBRC=FORCE を指定した場合、あるいは DFSIDEF0 モジュールがサブシステムの RESLIB データ・セットにない場合、この関数は DBRC を使用します。DFSIDEF0 モジュールが DBRC=NO を指定している場合、この関数は DBRC を使用しません。

IRLM

オプション・パラメーター。関数が内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) を使用するかどうかを指定します。

Y

IRLM を使用します。

N

IRLM を使用しません。

IMS

IRLM は、IMSCTRL マクロ・ステートメントの IRLM パラメーターと IRLMNM パラメーターに従って設定されます。以下のいずれかの条件が当てはまる場合、この関数は IRLM を使用します。

- IMSCTRL マクロ・ステートメントで IRLM=Y を指定する。
- IMSCTRL マクロ・ステートメントで IRLMNM を指定し、IRLM=N を指定しない。

以下のいずれかの条件が当てはまる場合、この関数は IRLM を使用しません。

- IMSCTRL マクロ・ステートメントで IRLM=N を指定する。
- IMSCTRL マクロ・ステートメントで、IRLM および IRLMNM の値を指定しない。

IRLMNAME=*irlm_name*

オプション・パラメーター。内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) に割り振られている 4 バイトの z/OS サブシステム名を指定します。IRLM=Y または IRLM=IMS が指定されている場合、関数は、この名前を IMS 領域コントローラーに渡します。

RSR

FM/IMS ではもう使用しませんが、互換性のために残されています。FM/IMS は、RSR=Y または RSR=N を受け入れます。

GSGNAME

IMS サブシステム *imsid* がリモート・サイト・リカバリー (RSR) 複合システムの一部であり、IMSCTRL マクロ・ステートメントまたは FM/IMS インストール・オプション・モジュールで GSGNAME を指定せず、関数が実行するすべての活動を RSR で追跡する場合は、RSR 複合システムの Global Service Group (GSG) 名を指定します。

IMS サブシステムが RSR 複合システムの一部であり、IMSCTRL マクロ・ステートメントまたは FM/IMS インストール・オプション・モジュールで GSGNAME を指定し、関数が実行する活動を追跡しない場合は、NONE を入力します。

それ以外の場合、このパラメーターは指定しないでください。

TMINAME=*tminame*

オプション・パラメーター。IMS サブシステムがリモート・サイト・リカバリー (RSR) 複合システムの一部であり、関数が実行する活動を RSR で追跡する場合は、関数が使用する Transport Manager Instance (TMI) 名を指定します。

IMSBUF=number

オプション・パラメーター。OSAM プールのサイズを計算するときに使用する 1K ブロックの数を指定します。このフィールドに指定した値は、DFSVSAMP データ・セットに IOBF 制御ステートメントが含まれない場合にのみ使用されます。

LOCKMAX=number

オプション・パラメーター。関数が一度に保持することを許可されるロックの最大数 (1000 の単位) を指定します。指定する数は、0 から 32767 の範囲内である必要があります。0 を指定すると、関数が一度に保持できるロックの数には制限がなくなります。

LOGUSAGE

オプション・パラメーター。関数が更新インテントのある PSB を使う場合は、このパラメーターを使用して、関数が IMS ログを使用するかどうかを指定し、IMS ログを使用する場合には、関数が終了するときにログを保持するかどうかを指定します。

KEEP

IMS ログを使用します。機能の終了時にログを保持します。

KEEPUPD

IMS ログを使用します。機能によりデータベースが更新されるか機能が正常に終了しないときに、ログを保持します。

DELETE (削除)

IMS ログを使用します。関数が正常に終了しない場合にのみ、ログを保持します。

NONE

IMS ログを使用しません。

LOG parameters

LOG パラメーターは、以下の条件のすべてが当てはまる場合に使用されます。

- 関数が、更新インテントのある PSB を使用することになっている。
- LOGUSAGE パラメーターが KEEP、KEEPUPD、または DELETE に設定されている。
- パラメーターが FM/IMS 管理者により固定されていない。
- ジョブ・ステップに IEFORDER DD が含まれていないか、FM/IMS 管理者が UIEFORDER を N に設定している。

パラメーターを省略すると、FM/IMS は FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されたインストール・デフォルトを使用します (LOGDSN パラメーターを除く)。

LOGDSN

オプション・パラメーター。関数が、動的に割り振る IMS ログ・データ・セットの名前を生成するために使用する名前パターンを指定します。

このパラメーターを指定しない場合、FM/IMS は、そのパラメーターに対してサブシステム・デフォルト (IMSID パラメーターを指定した場合)、またはパラメーターのインストール・デフォルト (IMSID パラメーターを指定しなかった場合) を使用します。インストール時に FM/IMS 管理者が、サブシステム・デフォルトおよびインストール・デフォルトを指定します。

名前パターンは、最大で 5 つの修飾子で構成できます。修飾子ごとに、必要な文字ストリングまたはシンボルのいずれかを指定できます。データ・セット名は、名前パターン内のシンボルをそのランタイム値と置き換えることで生成されます。

このパラメーターは、以下のシンボルをサポートします。

&&DBNAME.

この関数がアクセスする 1 次データベースの名前。

&&PREFIX.

TSOPREFIX パラメーターで指定された値 (指定されている場合)、または NULL (指定されていない場合)。

&&FUNCOD.

この関数のコード。以下に、このパラメーターをサポートする関数のコードを示します。

DIB

初期化

IXB

抽出

ILB

ロード

IPR

Print (印刷)

IEB

バッチ編集

IBB

バッチ・ブラウズ

&&HHMMSS.

Thhmmss。ここで hhmmss は、IMS ログが作成された時刻を表し、時 (HH)、分 (MM)、および秒 (SS) で表されます。

&&SSID.

機能がアクセスする対象の IMS サブシステムの名前。

&&UID.

&&PREFIX.(値が NULL でない場合) またはユーザー ID (値が NULL である場合) のいずれか。

&&USER.

ユーザー ID

&&YMMDD.

Dyymmdd。ここで yymmdd は、IMS ログが作成された日付を表し、2桁の年 (YY)、月 (MM)、および日 (DD) で表されます。

LOGSUNIT

1次 (LOGPQTY) および 2次 (LOGSQTY) スペース割り振りの単位:

CYL

スペースをシリンダー単位で割り振るように指定します。

TRK

スペースをトラック単位で割り振るように指定します。

BLK

スペースをブロック単位で割り振るように指定します。

MB

スペースをメガバイト単位で割り振るように指定します。

KB

スペースをキロバイト単位で割り振るように指定します。

LOGPQTY

IMS ログ・データ・セットの 1次スペース割り振り。

LOGSQTY

IMS ログ・データ・セットの 2次スペース割り振り。

LOGMGMTC

IMS ログ・データ・セットの管理クラス。

LOGSTORC

IMS ログ・データ・セットのストレージ・クラス。

LOGDATAC

IMS ログ・データ・セットのデータ・クラス。

LOGUNIT

IMS ログ・データ・セットが置かれるボリュームの装置タイプ。

DYNAMIC パラメーター

DYNAMIC パラメーターは、関数が動的 PSB を使用する場合に使用します (PSBTYPE=DYNAMIC)。

PROCOPT

オプション・パラメーター。動的 PSB がデータベースの読み取りに使用する PSB 処理オプション (PROCOPT) を指定します。

G

関数は整合性を保持して読み取ります。

GO

関数は整合性を保持せずに読み取ります。

このパラメーターを省略すると、FM/IMS は以下を使用します。

- パラメーターのサブシステム・デフォルト (IMSID パラメーターを指定した場合)
- パラメーターのインストール・デフォルト (IMSID パラメーターを指定していない場合)

インストール時に FM/IMS 管理者が、サブシステム・デフォルトおよびインストール・デフォルトを指定します。

STATIC parameters (BMP パラメーター)

STATIC パラメーターは、関数が静的 PSB を使用する場合に使用します (PSBTYPE=STATIC)。

PSBDSN=*psbdsn* および PSBDSN*i*=*psbdsni* (*i* = 2 から 6)

PSBDSN パラメーターは、IMS 管理 ACB を使用しないサブシステムを IMSID パラメーターが指定するときに使用されます。

オプション・パラメーター。関数を使用するプログラム仕様ブロック (PSB) を含むロード・ライブラリーの名前。指定したライブラリーは IMS DD に割り振られます。PSBDSN パラメーターを指定し、PSBDSN*n* パラメーターを指定しない場合、PSBDSN パラメーターにメンバー名を括弧に入れて指定することもできます。

i の値は 2 から始まり、最大値 6 まで 1 ずつ増加していなければなりません。したがって、

```
PSBDSN2=psbdsn2 PSBDSN3=psbdsn3 PSBDSN4=psbdsn4
```

は可能ですが、

```
PSBDSN2=psbdsn2 PSBDSN4=psbdsn4
```

は許されません。値“3”がないためです。



注: IMSID パラメーターが IMS 管理 ACB

を使用するサブシステムを指定すると、この関数は、サブシステムが使用する IMS カタログから PSB を取得し、これらのパラメーターは無視されます。

このパラメーターを省略すると、FM/IMS は以下を使用します。

- パラメーターのサブシステム・デフォルト (IMSID パラメーターを指定した場合)
- パラメーターのインストール・デフォルト (IMSID パラメーターを指定していない場合)

インストール時に FM/IMS 管理者が、サブシステム・デフォルトおよびインストール・デフォルトを指定します。

PSBDDD=*psbdd*

IMS 管理 ACB を使用しないサブシステムを IMSID パラメーターが指定するときには、**PSBDD** パラメーターを使用します。

PSBDD パラメーターは、関数が使用する PSB ライブラリーを指定する代替方法を提供します。

オプション・パラメーター。この関数に使用させる PSB ライブラリーを割り振る DD ステートメントの名前。実行依頼する JCL にこの DD ステートメントを組み込みます。有効な DD 名を指定できます。



注: IMSID パラメーターが IMS 管理 ACB

を使用するサブシステムを指定すると、この関数は、サブシステムが使用する IMS カタログから PSB を取得し、**PSBDD** パラメーターを無視します。

PSBMEM=*psbmb*

PSBDSN パラメーターでメンバー名を指定しなかった場合、必須。関数が使用する PSB の名前。

指定する PSB は、DBDMEM パラメーターで指定されたデータベースの PCB を持っている必要があります。



注:



1. 抽出で PSB が使用され、抽出で論理関係を追跡する場合、PSB は、DBDMEM パラメーターで指定されたデータベースに論理的に関連するデータベースごとの PCB も持っている必要があります。
2. PSB がロードに使用される場合、PSB は、ロードするすべてのデータベースの PCB を持っている必要があります。

PCBNUM=*pcbnum*

指定された PSB が、DBDMEM パラメーターで指定されたデータベースに対する複数の PCB を持っている場合、関数を使用する PCB をこのパラメーターに指定します。これを行うには、PSB 内の PCB の位置を示す序数を指定します。つまり、関数によって PSB 内の最初のデータベース PCB が使用されるようにする場合は、1 を指定します。関数によって PSB 内の 2 番目のデータベース PCB が使用されるようにする場合は、2 を指定し、以降は同様に指定します。



注: PSB が抽出またはロード用であり、DBDMEM パラメーターで指定されたデータベースに論理的に関連付けられている 1 つ以上のデータベースに対して複数の PCB がある場合、これらの論理的に関連付けられたデータベースにアクセスするときに、関数を使用する PCB も指定する必要があります。

PCBNAME=*pcbname*

関数を使用する PCB を指定する代替方法として、このパラメーターを使用できます。このパラメーターで、関数を使用する PCB の名前を指定します。

論理キー・データ・セット・パラメーター

論理キー・データ・セットは、抽出が処理する論理的に関連したセグメントのキーの VSAM 作業データ・セットです。以下のオプション・パラメーターを使用して、このデータ・セットの割り振りパラメーターを指定できます。

パラメーターを省略すると、FM/IMS は FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されたインストール・デフォルトを使用します (LOGDSN パラメーターを除く)。

LKUNIT

1 次および 2 次スペース割り振りの単位を定義します。

TRK

スペースをトラック単位で割り振るように指定します。

BLK

スペースをブロック単位で割り振るように指定します。

CYL

スペースをシリンダー単位で割り振るよう指定します。

KB

スペースをキロバイト単位で割り振るよう指定します。

MB

スペースをメガバイト単位で割り振るよう指定します。

LKPQTY

データ・セットの1次スペース割り振りを指定します。

LKSQTY

データ・セットの2次スペース割り振りを指定します。

LKMGMTCL

データ・セットの管理クラスを指定します。SMS
のないシステムでは、このパラメーターを指定しないでください。

LKSTORCL

データ・セットのストレージ・クラスを指定します。SMS
のないシステムでは、このパラメーターを指定しないでください。

LKDATACL

データ・セットのデータ・クラスを指定します。SMS
のないシステムでは、このパラメーターを指定しないでください。

LKVOL n

(n は、1から3の数値。)データ・セットがあるボリュームの通し番号を指定します。SMS
のないシステムで使用します。

ルート・キー・データ・セット・パラメーター

ルート・キー・データ・セットは、抽出によって処理されている基本データベースおよび論理的に関連したデータベースのルート・キーのVSAM
作業データ・セットです。以下のオプション・パラメーターを使用して、このデータ・セットの割り振りパラメーターを指定できます。

パラメーターを省略すると、FM/IMSはFM/IMS
インストール・オプション・モジュールで指定されたインストール・デフォルトを使用します (LOGDSN
パラメーターを除く)。

RKUNIT

1次および2次スペース割り振りの単位を定義します。

TRK

スペースをトラック単位で割り振るよう指定します。

BLK

スペースをブロック単位で割り振るように指定します。

CYL

スペースをシリンダー単位で割り振るように指定します。

KB

スペースをキロバイト単位で割り振るように指定します。

MB

スペースをメガバイト単位で割り振るように指定します。

RKPQTY

データ・セットの1次スペース割り振りを指定します。

RKSQTY

データ・セットの2次スペース割り振りを指定します。

RKMGMTCL

データ・セットの管理クラスを指定します。SMS
のないシステムでは、このパラメーターを指定しないでください。

RKSTORCL

データ・セットのストレージ・クラスを指定します。SMS
のないシステムでは、このパラメーターを指定しないでください。

RKDATACL

データ・セットのデータ・クラスを指定します。SMS
のないシステムでは、このパラメーターを指定しないでください。

RKVOL n

(n は、1から3の数値。)データ・セットがあるボリュームの通し番号を指定します。SMS
のないシステムで使用します。

データベース抽出要約報告書

図 142. データベース抽出要約

IBM File Manager for z/OS IMS Component		Page 1
Database Extract Summary		Date: 2013-05-27
		Time: 15.36.25
Extract from		
IMS subsystem:	IFA2	
Primary database:	DJ2E	
Extract to data set:	FMN.IMS.EXTRACT.DJ2E	
Processing Options		
PSB type:	Static	
Region type:	DLI	
Use criteria:	Y	
Use key values:	Y	
Criteria set:	FMN.IMS.CRITERIA(DJ2E#CRT)	
Key values data set:	FMN.XKEY.DJ2E	
Key Value Counts		
Number read:	6	
Number not found:	0	
PSB name:	PUPA	
PSB library:	FMN.IMS.IVP.PSBLIB	
DBD		
Data set name 1:	FMN.IMS.IVP.DBDLIB	
Data set name 2:	IMSV1210.FMI.DBDLIB	
Databases Data Sets		
DBD name	DD name	Data set name

DJ2E	DJ2E	FMN.IMS.IVP.DB.DJ2E
DJ2F	DJ2F	FMN.IMS.IVP.DB.DJ2F
DJ3E	DJ3E	FMN.IMS.IVP.DB.DJ3E
DJ3F	DJ3F	FMN.IMS.IVP.DB.DJ3F
DJ1E	DJ1E	FMN.IMS.IVP.DB.DJ1E
DJ1F	DJ1F	FMN.IMS.IVP.DB.DJ1F

IMS subsystem (IMS サブシステム)

データベースが定義されている IMS サブシステムの名前。

Primary Database (基本データベース)

抽出の基本データベースの名前。

Extract to data set (データ・セットに抽出)

抽出されたデータが保管されているデータ・セットの名前。

PSB type (PSB タイプ)

抽出でデータベースにアクセスするために使用された PSB のタイプ。以下のタイプがあります。

Dynamic (動的)

バッチ・ジョブの開始時に生成された一時 PSB が抽出で使用されました。

Static (静的)

既存の PSB が抽出で使用されました。

Region type (領域タイプ)

抽出が実行された領域のタイプ。

DLI

抽出は DLI バッチ処理領域で実行されました。

BMP

抽出は BMP 領域で実行されました。

Use criteria (基準を使用)

抽出で基準セットが使用されたかどうか。

Use key values (キー値の使用)

抽出が指定のルート・キー値またはルート・キー範囲に限定されていたかどうか。

SDEP timestamp order (SDEP タイム・スタンプ順序)

基本データベースに順次従属 (SDEP) セグメントがある場合に、SDEP セグメントのタイム・スタンプがその抽出レコードに含まれるかどうか。

Criteria set (基準セット)

抽出で使用された基準セットを含むデータ・セットの名前。

Key values data set (キー値データ・セット)

抽出されたレコードのルート・セグメントのキー値を含むデータ・セットの名前。

Key value counts (キー値件数)**Number read (読み込んだ数)**

キー値データ・セットと KEYLIST パラメーターのいずれかまたは両方で指定されたキーの数。

Number not found (見つからなかった数)

ルート・セグメントが見つからなかった、指定されたキーの数。SYSPRINT 出力に、見つからなかったキー値がリストされます。

PSB name

(PSB タイプが静的の場合) 抽出で使用された PSB の名前。

PSB library (PSB ライブラリー)

(PSB タイプが静的の場合) 抽出で使用された PSB を含むライブラリーの名前。

DBD Data set names (DBD データ・セット名)

抽出で使用された DBD ライブラリーの名前。

Database Data Sets (データベース・データ・セット)

(領域タイプが DLI の場合) 抽出で使用されたデータベース・データ・セット。

DBD name

この列には、基本データベースの名前と、基本データベースに論理的に関連するデータベースの名前が含まれます。

DD name

DBD 名列で指定された各データベースの DD 名。

Data set name (データ・セット名)

指定された DD 名に割り振られたデータ・セット。

データベース抽出統計報告書

図 143. Database Extract Statistics (データベース抽出統計)

Database Extract Statistics Report								
Database	Segment	Level	-Segm Length-		--Number of Segments Extracted--		Total	Logically Related DB
			Min	Max	Phase 1	Phase 2		
DJ2E	SUBURB	01	62	62	6	77	83	
	LINKSTR	02	28	28	509	3517	4026	DJ3E
	NSTREET	02	30	30	3	28	31	
	INSHIRE	02	20	20	6	77	83	DJ1E
	LETRBOX	02	34	34	2	28	30	
Subtotal	DJ2E				526	3727	4253	
DJ3E	STREET	01	32	32	0	3048	3048	
	INSUB	02	18	18	0	4026	4026	DJ2E
Subtotal	DJ3E				0	7074	7074	
DJ1E	SHIRE	01	53	53	0	10	10	
	SHIRENP	02	11	11	0	10	10	
	LINKSUB	02	18	18	0	85	85	DJ2E
Subtotal	DJ1E				0	105	105	
Grand total					526	10906	11432	

Phase 1 = Extract using keys Phase 2 = Resolution of logical relationships
 *** End of IMS Extract Report ***

以下は、この報告書の各列の説明です。

データベース

この列には、基本データベースの名前と、基本データベースに論理的に関連するデータベースの名前が含まれます。

Segment (セグメント)

この列には、基本データベースおよび論理的に関連するデータベース内のセグメント数が含まれます。

Level (レベル)

セグメントのレベル。

Segm Length (セグメント長)

Min

DBD で定義されたセグメントの最小長。

最大値

DBD で定義されたセグメントの最大長。

固定長セグメントでは、最小長と最大長は同一になります。

Number of Segments Extracted (抽出されたセグメント数)

Phase 1 (フェーズ 1)

抽出のフェーズ 1 で抽出されたセグメント・オカレンスの数。フェーズ 1 は、論理関係の解決 (または追跡) に先行する抽出の一部分です。

Phase 2 (フェーズ 1)

論理関係の解決 (または追跡) 時に抽出されたセグメント・オカレンスの数。

合計

抽出されたセグメント・オカレンスの総数。

Logically Related DB (論理関連 DB)

このセグメントの論理親があるデータベース。

以下は、この報告書の行の説明です。

Subtotal (小計)

これらの行には、各データベースの合計が含まれます。

Phase 1 (フェーズ 1)

フェーズ 1 でデータベースから抽出されたセグメント・オカレンスの総数。

Phase 2 (フェーズ 1)

フェーズ 2 でデータベースから抽出されたセグメント・オカレンスの総数。

合計

データベースから抽出されたセグメント・オカレンスの総数。

Grand total (総合計)

この行には、リストされたデータベースの合計が含まれます。

Phase 1 (フェーズ 1)

フェーズ 1 でリストされたデータベースから抽出されたセグメント・オカレンスの総数。

Phase 2 (フェーズ 1)

フェーズ 2 でリストされたデータベースから抽出されたセグメント・オカレンスの総数。

合計

リストされたデータベースから抽出されたセグメント・オカレンスの総数。

データ・レイアウトの抽出

IMS から抽出されたデータは、以下のレイアウト特性と一緒にフラット・ファイルに書き込まれます。

Header record (ヘッダー・レコード)

ヘッダーは、データの再ロード時に FM/IMS で必要な情報を保管します。これは、動的 PSB ヘッダー・レコードと静的 PSB ヘッダー・レコードの 2 つの形式になります。

動的 PSB ヘッダー・レコード

このレコードは抽出ファイルの最初の行で、以下の形式になります。

表 3. 動的 PSB ヘッダー・レコードの構造

列	フィールド	説明
1 ~ 8	Sort field (ソート・フィールド)	ファイルをソートすると、ヘッダー・レコードが最初のレコードのままになるように、すべての桁が小さい値 (x'00') に設定されます。
9 ~ 15	Product code (製品コード)	「FM/IMS」 に設定されます
16 ~ 25	バージョン番号	FM/IMS の現行バージョンに設定されます
26	予約済み	
27 ~ 28	Extract record prefix length (抽出レコードの接頭部の長さ)	これは、抽出レコード・フォーマットで次のように計算されます。 x=33+max_ckeylen-1
29 ~ 30	Maximum concatenated key length (連結キーの最大長)	
31 ~ 46	Date/time (日時)	抽出ファイルが作成された日時
47	EOR	レコードの終わり - 予約済み

Static PSB header record(s) (静的 PSB ヘッダー・レコード)

抽出プロセスで静的 PSB を使用する場合は、作成されたヘッダー・レコードが数行にまたがる場合があります。これらのヘッダー・レコードは、論理順序番号フィールド (桁 1 から 2) に 0 があることで、セグメント・レコードと区別します。最初のヘッダー・レコードの形式は、以下のようになります。

表 4. 動的 PSB の最初のヘッダー・レコードの構造

列	フィールド	説明
1 ~ 9	Sort field (ソート・フィールド)	ファイルをソートすると、ヘッダー・レコードが最初のレコードのままになるように、すべての桁が小さい値 (x'00') に設定されます (これは、動的ヘッダー・フィールドのソート・フィールドより 1 バイト長くなります)。
10 ~ 16	Product code (製品コード)	「FM/IMS」 に設定されます

表 4. 動的 PSB の最初のヘッダー・レコードの構造 (続く)

列	フィールド	説明
17 ~ 26	バージョン番号	FM/IMS の現行バージョンに設定されます
27	予約済み	
28 ~ 29	Extract record prefix length (抽出レコードの接頭部の長さ)	これは、抽出レコード・フォーマットで次のように計算されます。 $x=34+\text{max_ckeylen}-1$
30 ~ 31	Maximum concatenated key length (連結キーの最大長)	
32 ~ 47	Date/time (日時)	抽出ファイルが作成された日時
48 ~ 59	PSB Type (PSB タイプ)	「STATIC PSB (静的 PSB)」に設定されます。
60 ~ 73	Index (索引)	PSB が 2 次索引を使用しなかった場合は、このフィールドはブランクになります。それ以外の場合は、INDEX という語の後に索引の DBD 名が付きます。
74	EOR	レコードの終わり - 予約済み

最初のヘッダー・レコードの後に、静的 PSB の抽出では、抽出中に使用された PSB に関する情報を保管するための追加のヘッダー・レコードがあります。各レコードには、抽出で組み込まれたデータベースごとの SENSEG のリストが入っています。これらのレコードの形式は、以下のようになります。

表 5. 静的 PSB の後続のヘッダー・レコードの構造

列	フィールド	説明
1 ~ 2	Sort field (ソート・フィールド)	ファイルをソートすると、ヘッダー・レコードが最初のレコードのままになるように、すべての桁が小さい値 (x'00') に設定されます。
3 ~ 4	Header sequence number (ヘッダー・シーケンス番号)	ソート中に追加のヘッダー・レコードの順序を決めるためのものです。
5 ~ 8	予約済み	小さい値 (x'00') に設定されます。
9 ~ 16	Header DBD name (ヘッダーの DBD 名)	抽出で使用されたデータベースの 1 つの DBD
17-??	SENSEG list (SENSEG リスト)	可変長 (senseg あたり 8 バイト)

IMS segment record (IMS セグメント・レコード)

IMS セグメント・レコードの形式は、以下のようになります。

表 6. IMS セグメント・レコードの構造

列	フィールド	説明
1 ~ 2	Logical number order (論理番号順)	論理子が論理親の後に挿入されるように、ファイルをソートするために使用されます。これは、通常のセグメントでは「01」、論理子およびどちらかの従属セグメントでは「02」になります。
3 ~ 4	Database number (データベース番号)	データを抽出するために使用される PCB 番号。論理関係では、「Extract (抽出)」パネルで指定された基本データベースの値は 1 になります。論理的に関連するデータベースの値は、2、3、などになります。
5 ~ 8	Extract order (抽出順序)	IMS セグメントが FM/IMS によって抽出された順序
9 ~ 16	DBD name (DBD 名)	抽出で使用されたデータベースの 1 つの DBD
17 ~ 18	セグメント・コード	
19 ~ 26	セグメント名	
27 ~ 28	予約済み	小さい値 (x'00') に設定されます。
29 ~ 32	Concatenated key length (連結キーの長さ)	このセグメントの実際の連結キーの長さ
33-??	Concatenated key (連結キー)	
??-??	IMS segment data (IMS セグメント・データ)	これは、33+Max 連結キーの長さから始まります。

例

キー値と基準を使用した抽出の例を以下に示します。抽出は、DLI モードで実行され、静的 PSB を使用します。

```
//FMNIXTRT 'Static PSB extract'
//*
//FILEMAN EXEC PGM=FMN1IMSB
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*,RECFM=FBA,LRECL=133
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//FMN1JIN DD DISP=SHR,DSN=FMN.SFMNSLIB
//FMNIMSIN DD *
$$$FILEM IXB REGNTYPE=DLI,
$$$FILEM PSBTYPE=STATIC,
$$$FILEM PSBDSN=FMN.IMS.IVP.PSBLIB,
$$$FILEM PSBMEM=PUPA,
$$$FILEM PCBNUM=(3,2,1),
$$$FILEM DBDDSN=FMN.IMS.IVP.DBDLIB,
```

```

$$$FILEM DBDDSN2=IMSV1210.FMI.DBDLIB,
$$$FILEM DBDMEM=DJ2E,
$$$FILEM CRITERIA=Y,
$$$FILEM IMSID=IFA2,
$$$FILEM RESLIB1=IMSA10.IFA2.SDFSRESL,
$$$FILEM RESLIB2=IMSA10.IFA2.USERLIB,
$$$FILEM DBRC=IMS,
$$$FILEM IRLM=N,
$$$FILEM DFSVSAMP=IMSA10.IFB2.PROCLIB,
$$$FILEM VSMPMEM=DFSVMDB,
$$$FILEM LKUNIT=CYL,
$$$FILEM LKPQTY=20,
$$$FILEM LKSQTY=20,
$$$FILEM RKUNIT=CYL,
$$$FILEM RKPQTY=20,
$$$FILEM RKSQTY=20,
$$$FILEM KEYEXT=Y
/*
//REPORT DD SYSOUT=*
//KEYSFILE DD DSN=FMN.XKEY.DJ2E,DISP=SHR
//UNLOAD DD DSN=FMN.IMS.EXTRACT.DJ2E,
// DISP=(,CATLG,DELETE),
// SPACE=(CYL,(1,1,0),RLSE),
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=00150,BLKSIZE=0)
/* -----
/* -- Database data sets --
/* -----
//DJ2E DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ2E,DISP=SHR
//DJ2F DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ2F,DISP=SHR
//DJ3E DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ3E,DISP=SHR
//DJ3F DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ3F,DISP=SHR
//DJ1E DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ1E,DISP=SHR
//DJ1F DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ1F,DISP=SHR

```

ロード (ILB)

目的

「Load」ダイアログは、ロード (ILB) 関数を実行する JCL を生成します。この関数は、順次データ・セットから抽出済みのデータをデータベースにロードします。この JCL および ILB 入力パラメーターを編集してから、ジョブの実行依頼を行うことができます。または、ILB 関数を実行する独自のバッチ・ジョブを作成することもできます。

使用上の注意

FM/IMS によって生成されるロード JCL は、選択したパラメーターに応じていくつかのステップから構成されます。以下のステップが実行されます。

- データベース・データ・セットの削除/定義注 [1 ページ 608](#) を参照。
- HALDB データベースを初期化する DBRC ステップ。データベースが HALDB である場合にのみ組み込まれます。注 [1 ページ 608](#) および注 [2 ページ 608](#) を参照。
- DBD 論理および 2 次索引情報を取得する IMS PREREORG ステップ。注 [1 ページ 608](#) および注 [2 ページ 608](#) を参照。
- ロード・データを正しい順序にソートするステップ。

- IMS データをロードする FM/IMS ステップ。これについては、以下で詳しく説明します。
- 論理関係および 2 次索引の IMS ポインターを解決する IMS 接頭部解決ステップ。注 1 ページ 608 および注 2 ページ 608 を参照。
- IMS 2 次索引アンロード・ステップ。注 1 ページ 608 および注 2 ページ 608 を参照。
- IMS 2 次索引再ロード・ステップ。注 1 ページ 608 および注 2 ページ 608 を参照。
- IMS 接頭部更新ステップ。注 1 ページ 608 および注 2 ページ 608 を参照。

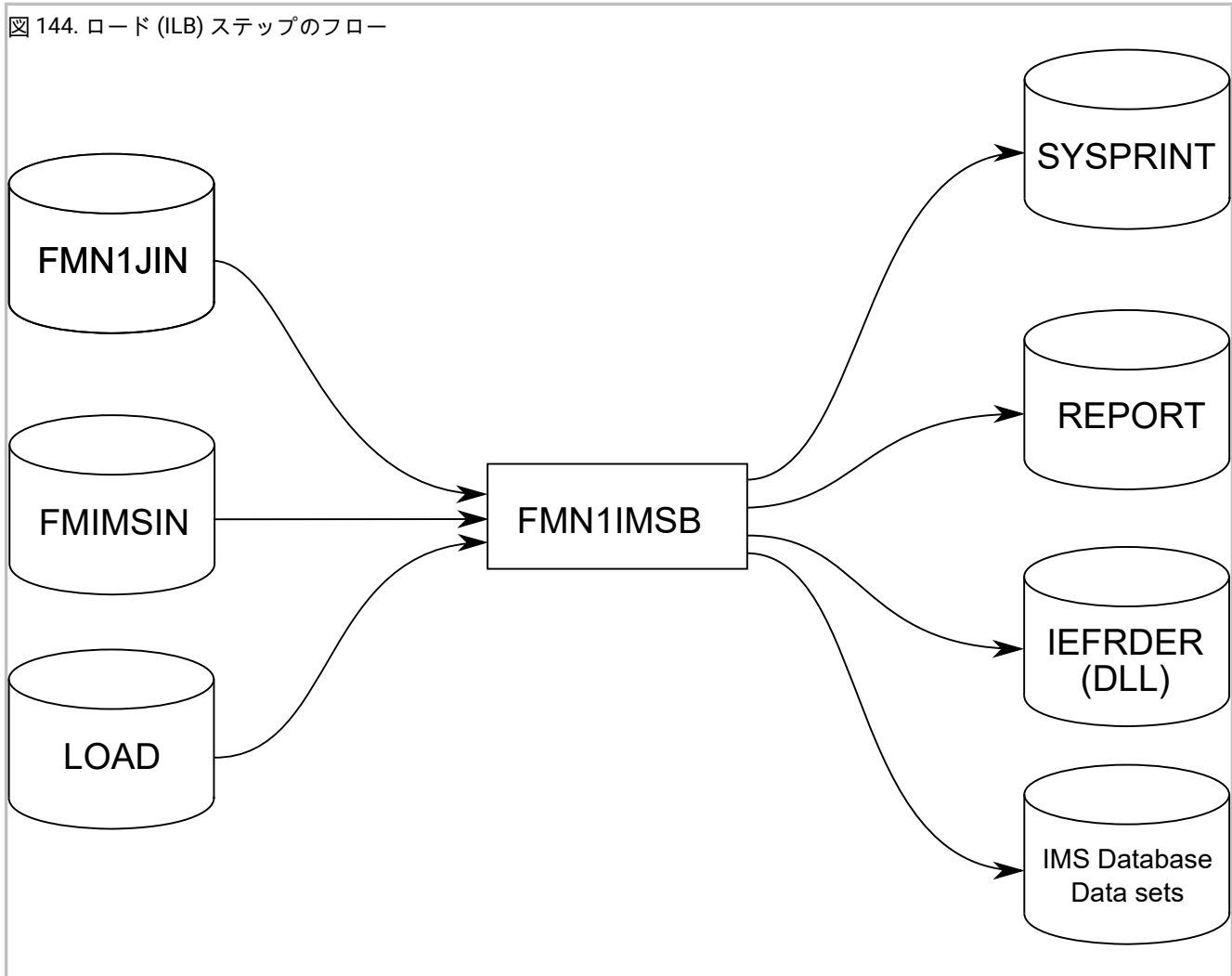
 注:

1. DLI モードで動的 PSB を使用してロードし、ロード・タイプが「Insert-Load PSB (If DLI (挿入 - ロード PSB (DLI の場合)))」で、「Load options (ロード・オプション)」パネルで「Delete/Define IMS data sets (IMS データ・セットの削除/定義)」を指定している場合にのみ、このステップが含まれます。
2. このステップについて詳しくは、*IMS Utilities Reference: Database and Transaction Manager* を参照してください。

FM/IMS ロード・ステップの説明

FM/IMS ロード・ステップのフローは、以下の通りです。

図 144. ロード (ILB) ステップのフロー

**FMN1JIN**

FM/IMS スケルトン・ライブラリーを指します。この DD ステートメントは、HALDB データベースにデータをロードするときだけに使用されます。

FMNIMSIN

ロードの制御ステートメントが入っています。この制御ステートメントについては、以下で詳しく説明します。

REPORT

データベース・ロード要約報告書の出力データ・セットを定義します。

IMS データベース・データ・セット

DLI モードでは、ロードされる IMS データベースに関連付けられた各 IMS データベース・データ・セットの DD が FM/IMS に組み込まれます。データベースに論理関係がある場合は、論理的に関係があるデータベースのデータ・セットを組み込む必要があります。

LOAD

関数によってロードされる IMS セグメントが含まれます。FM/IMS によって生成されたジョブでは、これは、ソート・ステップによって作成された一時データ・セットです。

SYSPRINT

以下の出力データ・セットを定義します。

- ロードで発行されたメッセージ。
- ロードできなかった IMS セグメントをリストするロード診断報告書。

IEFRDER

ロードが使用する IMS ログ・データ・セットを定義します。DLI モードで実行する場合にだけ必須です。

FMNIMSIN 制御ステートメント

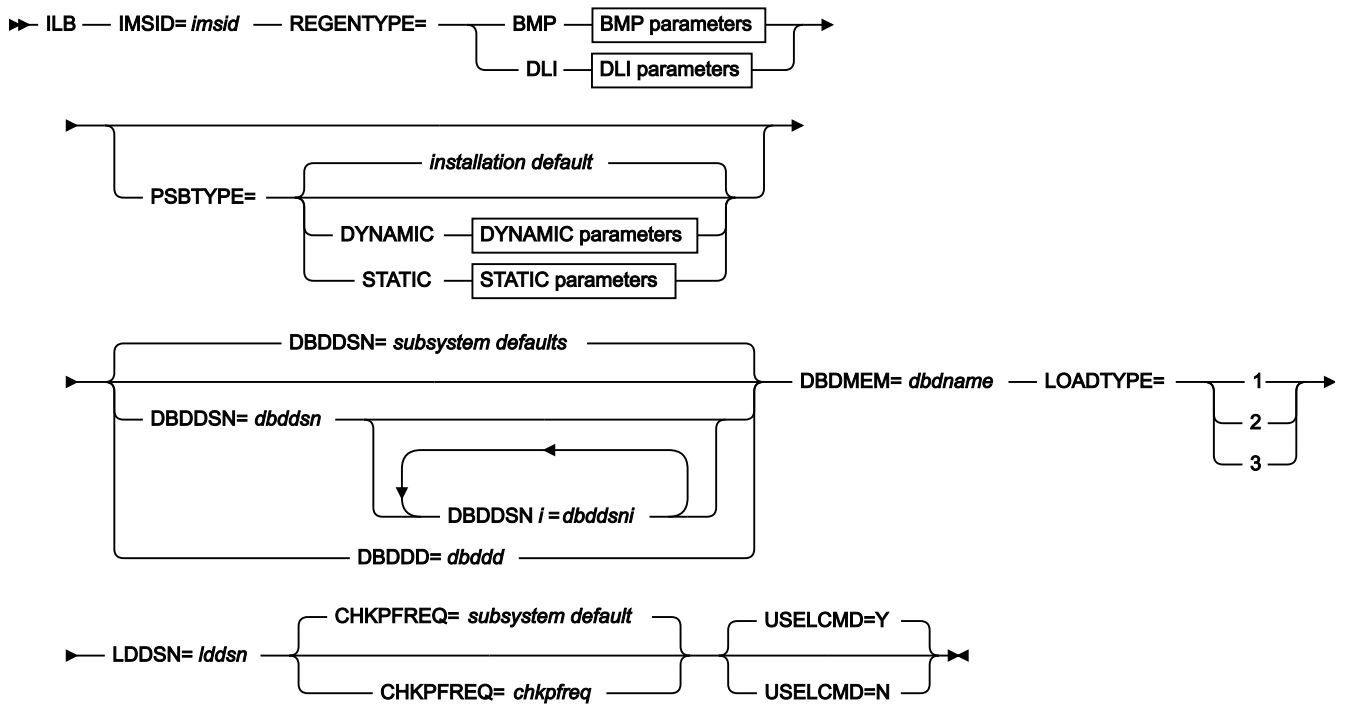
FMNIMSIN 制御ステートメントを使用して、以下を指定します。

- ロードを BMP 領域で実行するか、DLI 領域で実行するか。
- 静的 PSB を使用するか、あるいは FM/IMS が動的 PSB を生成して IMS データをロードするか。
- データのロード方法。
- LOAD チェックポイント頻度。

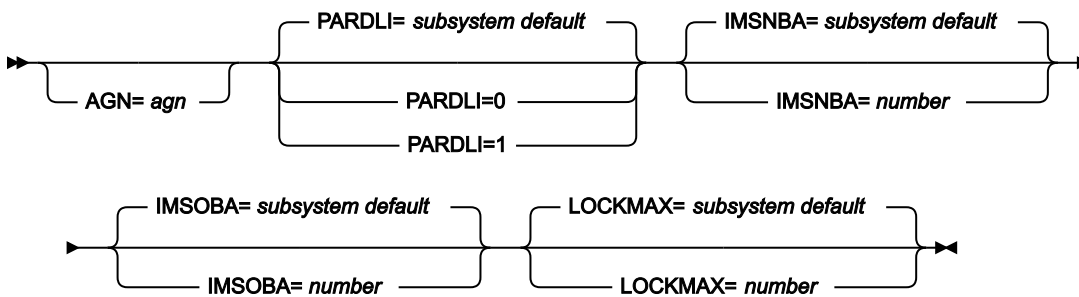
FMNIMSIN 内の各行は \$\$FILEM で始まり、最初の行には、FM/IMS によってロードが実行されることを指定するパラメータ ILB が含まれます。

```
$$FILEM ILB REGNTYPE=DLI,  
$$FILEM PSBTYPE=DYNAMIC,  
$$FILEM DBDDSN=FMN.IMS.IVP,DBDLIB,  
. . .  
. . .
```

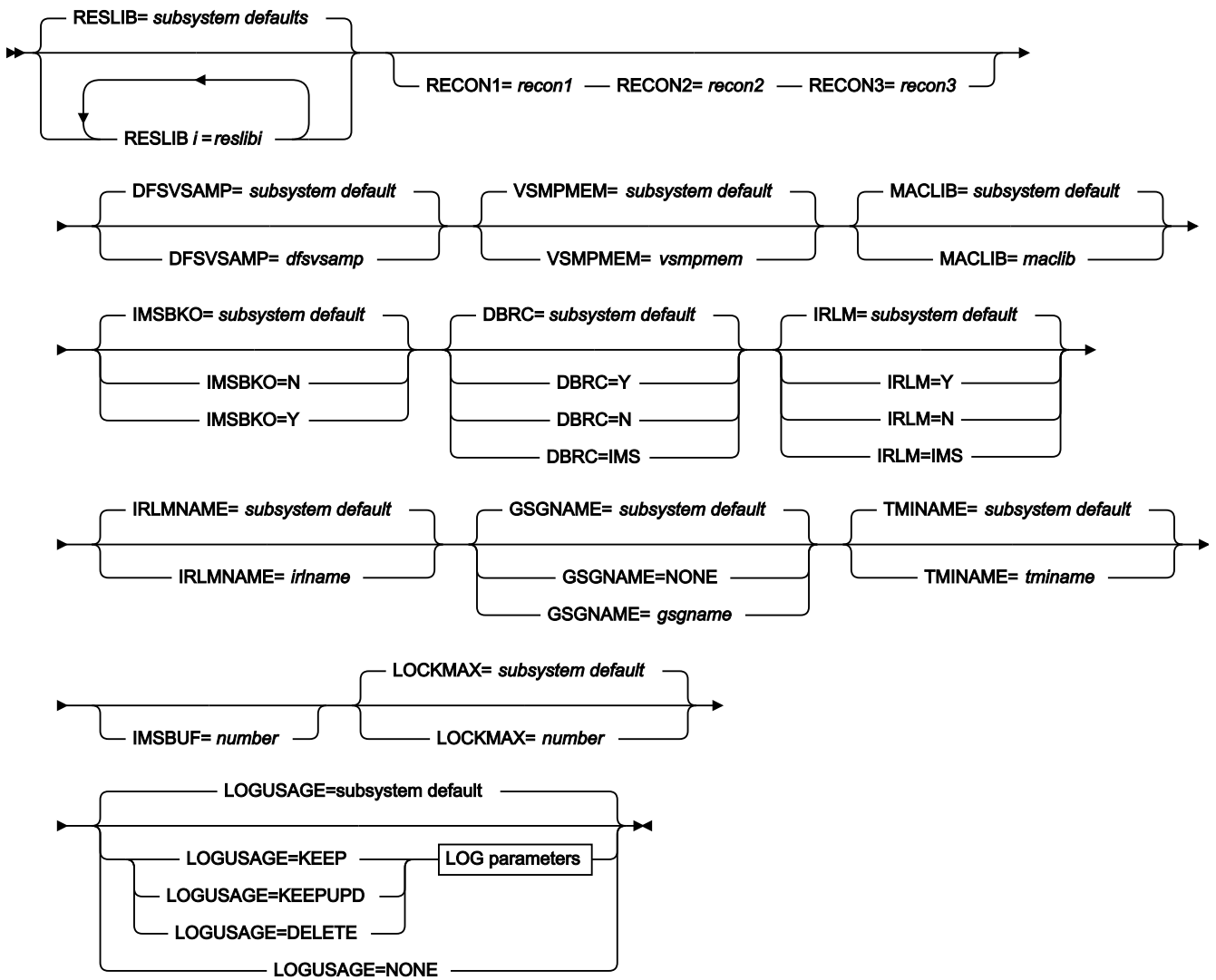
☒ 145. Syntax



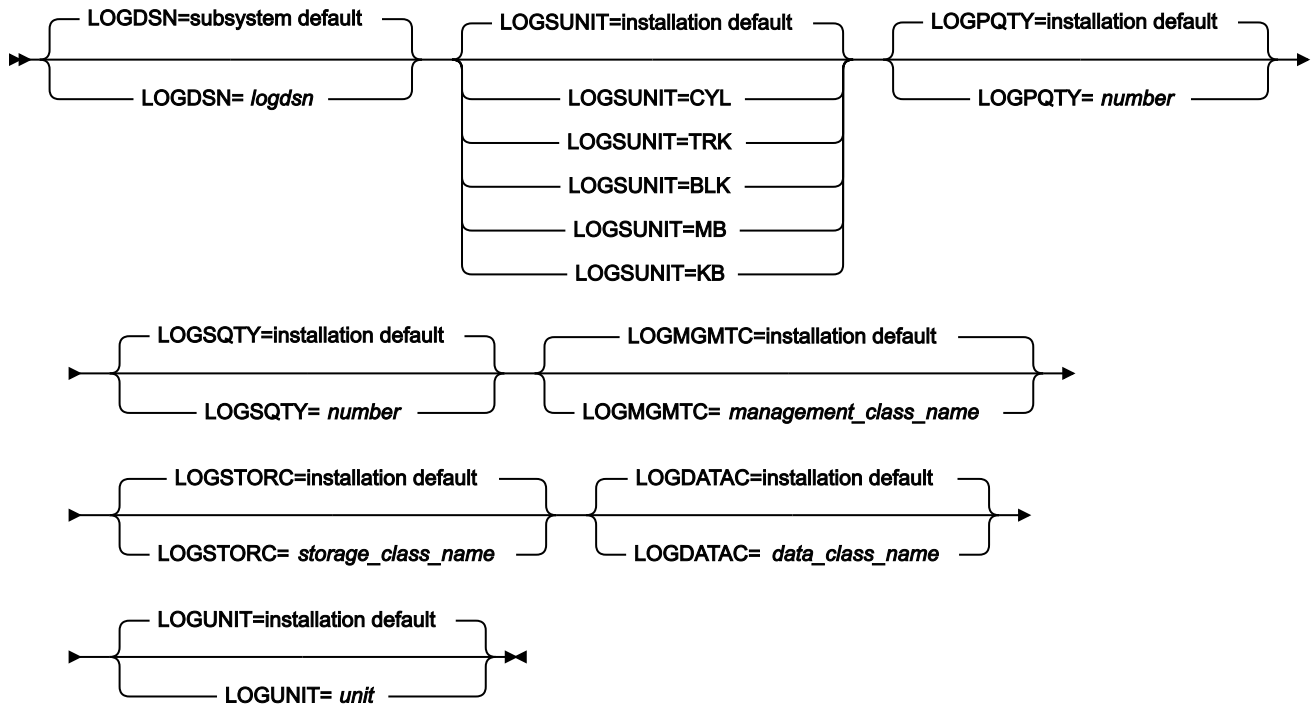
BMP parameters



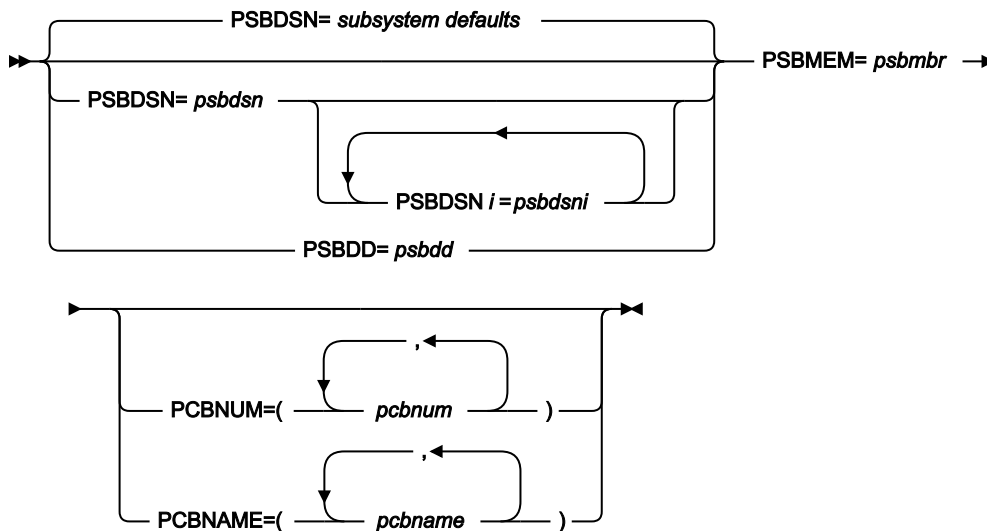
DLI parameters



LOG parameters



STATIC parameters



ここでは、LOADTYPE、LDDSN、CHKPFREQ、および USELCMD の各パラメーターについて説明します。この構文図のその他のパラメーターはすべて、抽出 (IXB) 関数でも指定されます。これらの共通パラメーターについては、[抽出 \(IXB\) ページ 577](#)を参照してください。

LOADTYPE

必須パラメーター。以下を指定します。

- データベースの既存のセグメントをロードで置き換えるかどうか。
- ロードでロード PCB を使用するかどうか。

1

データベースの既存のセグメントをロードで置き換えないことを指定します。このオプションを選択すると、ロードはセグメントの挿入を試行するだけです。挿入呼び出しが II 状況コードを受け取ると、ロードはデータベースにある既存のセグメントをロード・セグメントで置き換えません。

2

データベースの既存のセグメントをロードで置き換えることを指定します。このオプションを選択すると、ロードはオプション 1 が選択されたときと同じように、セグメントの挿入を試行します。ただし、挿入呼び出しが II 状況コードを受け取ると、ロードはデータベース内の既存セグメントをロード・セグメントで置き換えます。セグメントが非固有キーの場合、またはキーを持たない場合、データベースにある既存のセグメントは置き換えられないので注意してください。ロード・セグメントは、データベース内に同じキーを持つ既存のセグメントがある場合でも、挿入されます。

3

ロード PCB (PROCOPT=L/LS)

を使用してセグメントをデータベースにロードすることを指定します。このオプションは、データベースの初期ロードで使用します。



注: このオプションは、PSBTYPE=DYNAMIC および REGNTYPE=DLI を指定した場合のみ、使用可能です。

LDDSN=lddsn

必須パラメーター。ロードするデータを含むデータ・セットの名前。

CHKPFREQ

オプション・パラメーター。ロード中の自動保管機能の頻度 (LOAD チェックポイント頻度) を指定します。FM/IMS:

- ロードがセグメントを挿入または置換するたびに、カウントを 1 つインクリメントする。
- カウントが「ロード」チェックポイント頻度と等しいときに、チェックポイントを発行します。

有効な範囲は 1 から 99999 です。

このパラメーターを指定しない場合、FM/IMS は以下を使用します。

- パラメーターのサブシステム・デフォルト (IMSID パラメーターを指定した場合)
- パラメーターのインストール・デフォルト (IMSID パラメーターを指定していない場合)

インストール時に FM/IMS 管理者が、サブシステム・デフォルトおよびインストール・デフォルトを指定します。

USELCMD

オプション・パラメーター。このオプションは、ロードするセグメントの一部に FIRST または HERE の挿入規則がある場合にのみ適用されます。ロードがこれらの挿入規則をオーバーライドするかどうかを指定します。

Y

キーのないセグメント、または非固有キーを持つセグメントが、セグメント・タイプの挿入規則とは無関係に、最終オカレンスとして挿入されます。

N

キーのないセグメント、または非固有キーを持つセグメントが、セグメント・タイプの挿入規則に従って挿入されます。



注: 抽出 (IXB) およびロード (ILB)

を使用して、あるデータベースからデータを抽出して別のデータベースにロードし、ロードされたデータベース内の兄弟セグメントを抽出されたデータベースと同じ順序にしたい場合は、USELCMD=Y を指定してください。

データベース・ロード統計報告書

図 146. データベース・ロード統計

IBM File Manager for z/OS IMS Component		Page 1	
Database Load Diagnostic Report		Date: 2004-03-24	Time: 12.56.51
Error Message/Concatenated Key	① DBD	② Segment	③ Level
Error when inserting segment - status code II FREMANTLE CDCDCDEDC4444444444 ⑤ 695415335000000000	DJ2E	SUBURB	1 ④
Error when inserting segment - status code II FREMANTLE FREMANTLE BRIDGE CDCDCDEDC4444444444CDCDCDEDC4CDCCCC44444444444444 ⑤ 6954153350000000006954153350299475000000000000000	DJ2E	NSTREET	2 ④

以下は、この報告書の列の説明です。

①

ロードされた各データベースの DBD 名。

基本データベースが先頭にリストされます。

②

データベース階層中のセグメント・タイプのレベル。

③

セグメントの名前。

4

診断メッセージ。

診断メッセージは、メッセージ・コード、簡単な説明テキスト、および IMS 状況コードから構成されます。

5

この診断メッセージが出されたセグメント・オカレンスの連結キー。

「Database Load Summary (データベース・ロード要約)」報告書

図 147. Database Load Summary (データベース・ロード要約)

IBM File Manager for z/OS IMS Component		Database Load Summary	Page 1
			Date: 2013-05-27
			Time: 16.05.12
Load from:	FMNUSER.EXTRACT.DJ2E		
Load			
IMS subsystem:	IFA2		
Primary database:	DJ2E		
Processing Options			
PSB type:	Dynamic		
Region type:	DLI		
Load type:	Replace		
IMS log:	Keep		
DBD			
Data set name 1:	FMN.IMS.IVP.DBDLIB		
Database Data Sets			
DBD name	DD name	Data set name	
DJ2E	DJ2E	FMN.IMS.IVP.DB.DJ2E	
DJ2F	DJ2F	FMN.IMS.IVP.DB.DJ2F	
DJ3E	DJ3E	FMN.IMS.IVP.DB.DJ3E	
DJ3F	DJ3F	FMN.IMS.IVP.DB.DJ3F	
DJ1E	DJ1E	FMN.IMS.IVP.DB.DJ1E	
DJ1F	DJ1F	FMN.IMS.IVP.DB.DJ1F	

Load from (ロード元)

ロードされたデータが含まれているデータ・セットの名前。

IMS subsystem (IMS サブシステム)

データベースが定義されている IMS サブシステムの名前。

Primary Database (基本データベース)

ロードの基本データベースの名前。

PSB type (PSB タイプ)

ロードでデータベースにアクセスするために使用された PSB のタイプ。以下のタイプがあります。

Dynamic (動的)

バッチ・ジョブの開始時に生成された一時 PSB がロードで使用されました。

Static (静的)

既存の PSB がロードで使用されました。

Region type (領域タイプ)

ロードが実行された領域のタイプ。

DLI

ロードは DLI バッチ処理領域で実行されました。

BMP

ロードは BMP 領域で実行されました。

Load Type (ロード・タイプ)**No replace (置換なし)**

ロードによってデータベースの既存セグメントが置き換えられませんでした。

Replace (置換)

ロードによって既存セグメントがロード・セグメントで置き換えられました。

Initial (初期)

ロード PSB (PROCOPT=L) がロードで使用されました。

IMS Log (IMS ログ)

(領域タイプが DLI の場合)

None (なし)

IMS ログ・データ・セットがロードで使用されませんでした。

Keep (保持)

IMS ログ・データ・セットがロードで使用され、このデータ・セットは保存されました。

Delete (削除)

IMS ログ・データ・セットがロードで使用されましたが、ロードが正常に終了した場合、このデータ・セットは削除されました。

PSB name

(PSB タイプが静的の場合) ロードで使用された PSB の名前。

PSB library (PSB ライブラリー)

(PSB タイプが静的の場合) ロードで使用された PSB を含むライブラリーの名前。

DBD Data set names (DBD データ・セット名)

ロードで使用された DBD ライブラリーの名前。

Database Data Sets (データベース・データ・セット)

(領域タイプが DLI の場合) ロードで使用されたデータベース・データ・セット。

DBD name

この列には、基本データベースの名前と、基本データベースに論理的に関連するデータベースの名前が含まれます。

DD name

DBD 名列で指定された各データベースの DD 名。

Data set name (データ・セット名)

指定された DD 名に割り振られたデータ・セット。

データベース・ロード診断報告書

図 148. Database Load Diagnostic Report (データベース・ロード診断報告書)

IBM File Manager for z/OS IMS Component		Page 1	
Database Load Diagnostic Report		Date: 2004-03-24	
		Time: 12.56.51	
Error Message/Concatenated Key	① DBD	② Segment	③ Level
Error when inserting segment - status code II FREMANTLE CDCDCDEDC4444444444 695415335000000000	DJ2E	SUBURB	1 ④
⑤ CDCDCDEDC4444444444 695415335000000000			
Error when inserting segment - status code II FREMANTLE FREMANTLE BRIDGE CDCDCDEDC4444444444CDCDCDEDC4CDCDC44444444444444 695415335000000000695415335029947500000000000000	DJ2E	NSTREET	2 ④

①

ロードされた各データベースの DBD 名。

基本データベースが先頭にリストされます。

②

データベース階層中のセグメント・タイプのレベル。

③

セグメントの名前。

④

診断メッセージ。

診断メッセージは、メッセージ・コード、簡単な説明テキスト、および IMS 状況コードから構成されます。

⑤

この診断メッセージが出されたセグメント・オカレンスの連結キー。

例

以下は、静的 PSB を使用した DLI モードでの IMS データベースのロードの例です。

```
//FMNLOAD 'Static PSB load'
//*
//FILEMAN EXEC PGM=FMN1IMSB
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*,RECFM=FBA,LRECL=133
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//FMNIJIN DD DISP=SHR,DSN=FMN.SFMNSLIB
//FMNIMSIN DD *
$$$FILEM ILB REGNTYPE=DLI,
$$$FILEM PSBTYPE=STATIC,
$$$FILEM PSBDSN=IMSV1210.FMI.PSBLIB,
$$$FILEM PSBMEM=PUPA,
$$$FILEM PCBNUM=(3,2,1),
$$$FILEM LOADTYPE=2,
$$$FILEM LDDSN=FMN.IMS.EXTRACT.DJ2E,
$$$FILEM DBDDSN=FMN.IMS.IVP.DBDLIB,
```

```

$$FILEM      DBDDSN2=IMSV1210.FMI.DBDLIB,
$$FILEM      DBDMEM=DJ2E,
$$FILEM      IMSID=IF42
/*
//LOAD       DD DSN=&&FMN1XTSD,DISP=SHR
//IEFRDER    DD DSN=FMN.IMSLOG.D060713.T120159.DJ2E,
//           UNIT=SYSALLDA,
//           SPACE=(TRK,(20,150),RLSE),
//           DCB=(RECFM=VB,LRECL=6140,BLKSIZE=6144),
//           DISP=(NEW,DELETE,CATLG)
//* -----
//* -- Database data sets --
//* -----
//DJ2E DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ2E,DISP=OLD
//DJ2F DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ2F,DISP=OLD
//DJ3E DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ3E,DISP=OLD
//DJ3F DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ3F,DISP=OLD
//DJ1E DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ1E,DISP=OLD
//DJ1F DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ1F,DISP=OLD
//ENDRC      ENDIF
//*

```

印刷 (IPR)

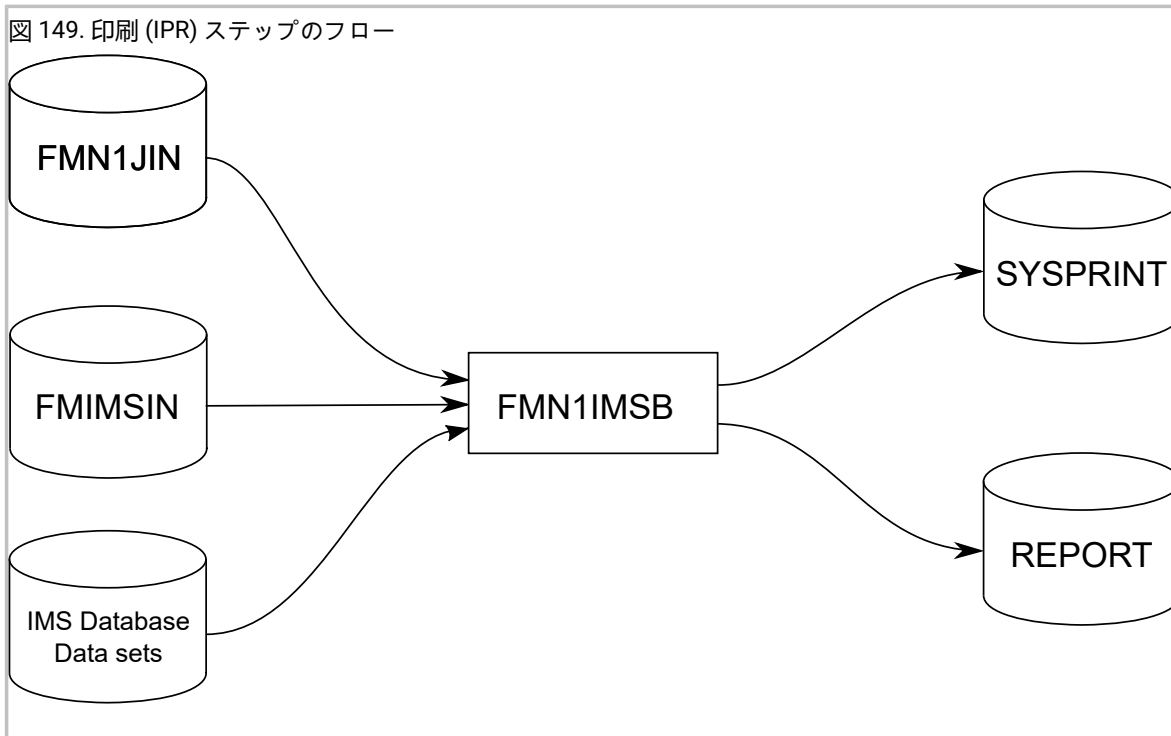
目的

IMS

データベース内のすべてのセグメントか、または指定するビューによって選択されるセグメントのみを印刷します。CHAR、HEX、SNGL、または TABL 形式 (ISPF の下の FM/IMS エディターの表示形式と類似) でセグメントを印刷できます。

使用上の注意

FM/IMS によって生成される印刷 JCL のフローは、以下の通りです。



FMN1JIN

FM/IMS スケルトン・ライブラリーを指します。この DD ステートメントは、HALDB データベースからデータを印刷するときだけに使用されます。

FMNIMSIN

印刷の制御ステートメントが入っています。この制御ステートメントについては、以下で詳しく説明します。

IMS データベース・データ・セット

DLI モードでは、印刷される IMS データベースに関連付けられた各 IMS データベース・データ・セットの DD が FM/IMS に組み込まれます。データベースに論理関係がある場合は、論理的に関係があるデータベースのデータ・セットを組み込む必要があります。

SYSPRINT

以下の出力データ・セットを定義します。

- 印刷で発行されたメッセージ。
- 印刷された IMS セグメント。

REPORT

データベース印刷要約報告書とデータベース印刷統計報告書の出力データ・セットを定義します。

FMNIMSIN 制御ステートメント

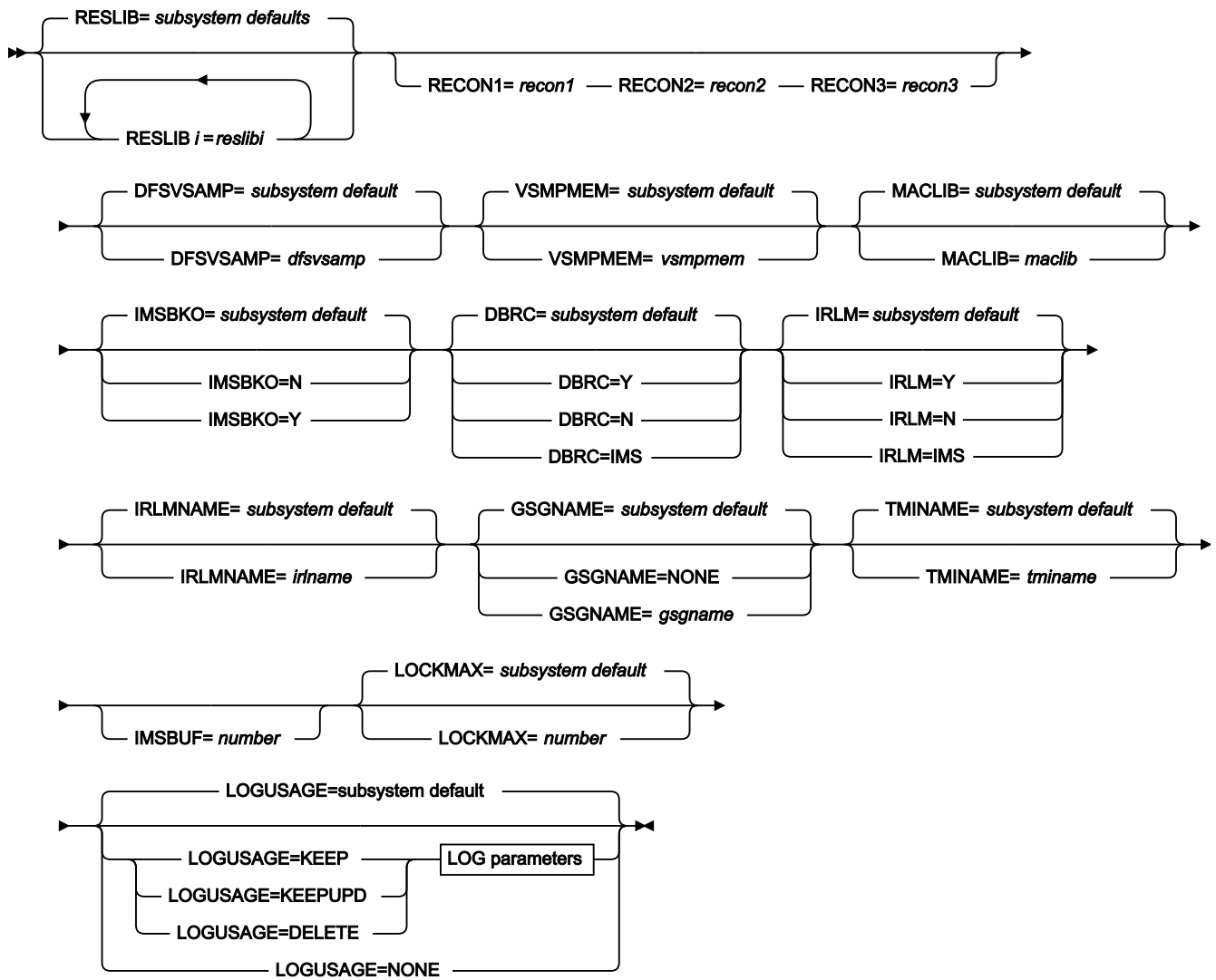
FMNIMSIN 制御ステートメントを使用して、以下を指定します。

- 印刷を BMP 領域で実行するか、DLI 領域で実行するか。
- 静的 PSB を使用するか、あるいは FM/IMS が動的 PSB を生成して IMS データを印刷するか。
- IMS セグメントが印刷される形式 (CHAR、HEX、SNGL、または TABL)。
- IMS セグメントの印刷時に使用される FM/IMS ビュー。選択基準 (指定された場合) を使用して、印刷される IMS セグメントが決まります。SNGL または TABL 形式で印刷する場合、FM/IMS はそのフィールドを使用して IMS セグメントを形式設定します。

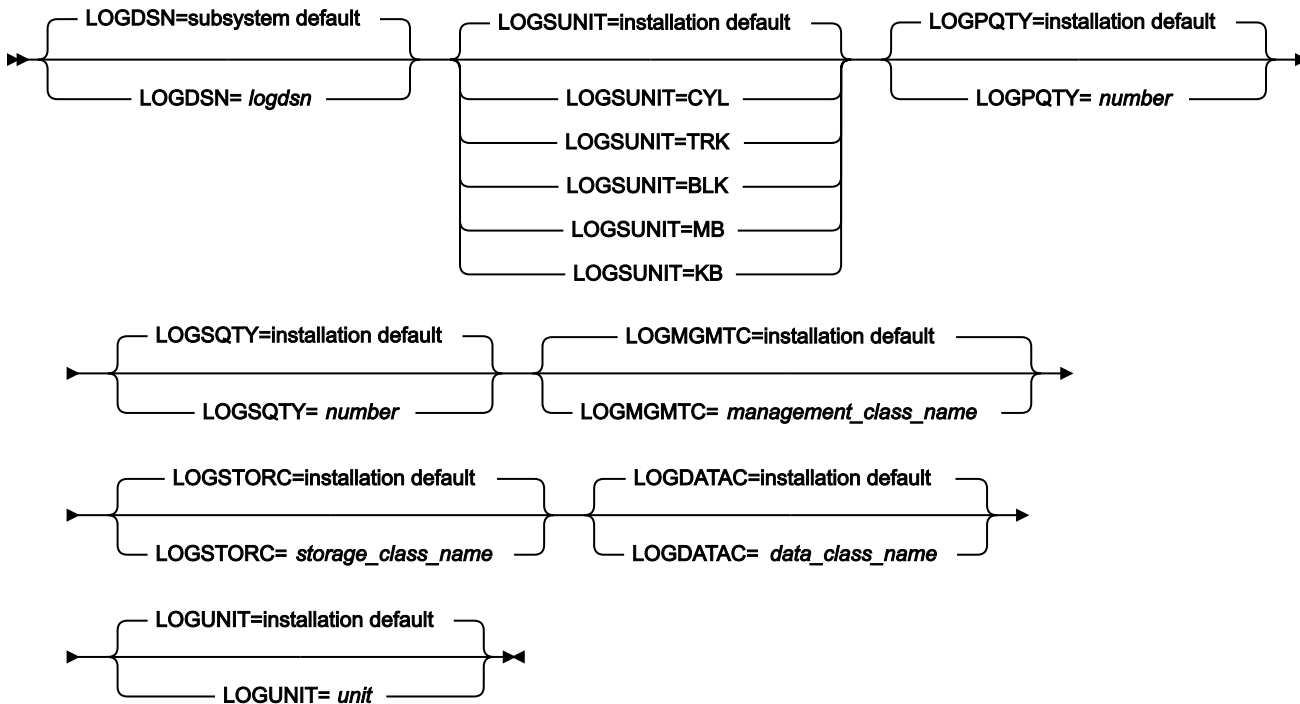
FMNIMSIN 内の各行は \$\$FILEM で始まり、最初の行には、FM/IMS によって印刷が実行されることを指定するパラメータ IPR が含まれます。

```
$$FILEM IPR REGNTYPE=DLI,  
$$FILEM PSBTYPE=DYNAMIC,  
$$FILEM DBDDSN=FMN.IMS.IVP.DBDLIB,  
. . .
```

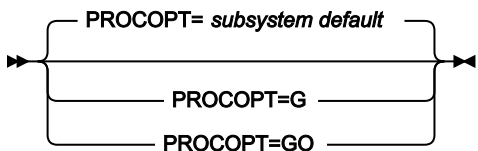

DLI parameters



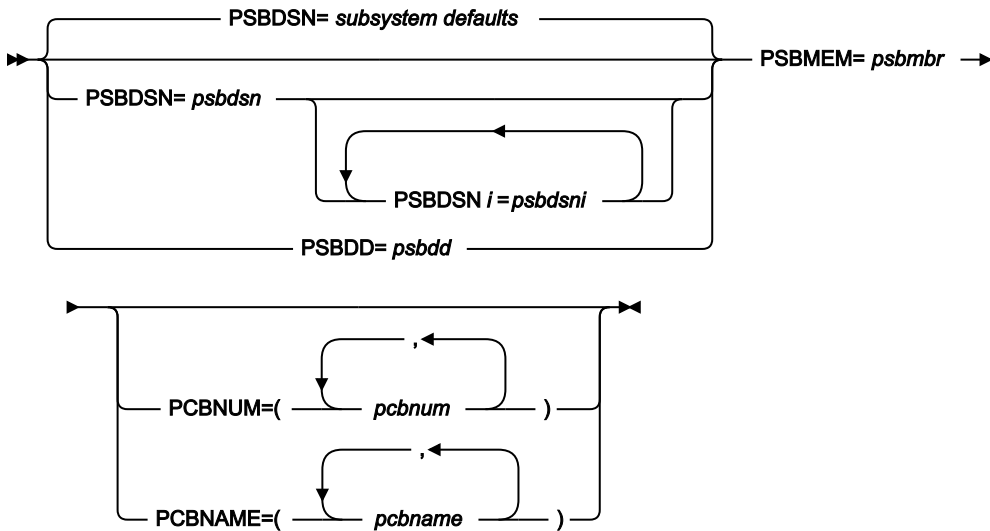
LOG parameters



DYNAMIC parameters



STATIC parameters



ここでは、VIEW、VIEWDD、VIEWDSN、VIEWMEM、および PRTFORM パラメーターについて説明します。この構文図のその他のパラメーターはすべて、抽出 (IXB) 関数でも指定されます。これらの共通パラメーターの詳細については、[抽出 \(IXB\) ページ 577](#)を参照してください。

View (ビュー)

オプション・パラメーター。印刷がビューを使用するかどうかを指定します。

N

印刷はビューを使用しません。

Y

印刷はビューを使用します。Y を指定する場合は、以下の VIEWDD、VIEWDSN、および VIEWMEM の項目で示すように、使用するビューを指定する必要があります。

VIEWDD=ddname

印刷が使用するビューを含む順次データ・セットまたは PDS(E) およびメンバー用の DD ステートメントを指定します。デフォルトは、VIEWDD です。

VIEWDSN=viewdsn

印刷で使用するビューを含んでいるデータ・セットの名前。順次データ・セットまたは PDS(E) が指定できます。PDS(E) を指定した場合は、パラメーターでは括弧でメンバー名も含めることができます。

VIEWMEM=viewmem

VIEWDSN または VIEWDD パラメーターで PDS(E) を指定し、メンバーを指定しない場合は必須です。印刷で使用するビューを含んでいる PDS(E) のメンバーを指定します。

PRTFORM

必須パラメーター。データが印刷される形式を指定します。

CHAR

データを文字形式で印刷します。

HEX

データを 16 進「上下」形式で印刷します。この形式では、それぞれのバイトの文字用、ゾーン用、および数字用に別々の行を使用します。

SNGL

データを SNGL 形式で印刷します。この形式は、データをフィールドに分割し、フィールドごとに別の行を使用します。使用できるのは、ビューを使用するときだけです。

TABL

データを表形式で印刷します。データをフィールドに分割し、フィールドを列に配置します。使用できるのは、ビューを使用するときだけです。

KEYPRT

オプション・パラメーター。印刷をキー値データ・セットで指定されているレコードに制限するかどうかを指定します。

N

印刷はキー値データ・セットを使用しません。

Y

印刷はキー値データ・セットを使用します。キー値データ・セットには、印刷するレコードのルート・セグメントのキー値が含まれています。

キー値データ・セットは、KEYSFILE DD ステートメントで指定します。

順次データ・セットまたは PDS(E) とメンバーを指定できます。

KEYLIST(*rootkey1,rootkey2,...*)

オプション・パラメーター。印刷したいデータベース・レコードのルート・セグメント・キー値のリストを指定します。ルート・キー値の長さがルート・セグメントのキー長より短い場合、関数はそれをキーの最初の部分と見なし、部分キー値に一致するルート・キー値を持つデータベース・レコードをすべて印刷します。

KEYRANGE(*startkey,endkey*)

オプション・パラメーター。ルート・キー値の範囲の始まりと終わりを指定します。関数は、指定された範囲内のルート・キー値を持つデータベース・レコードを印刷します。

startkey

ルート・キー値の範囲の始まり。 *startkey*
値の長さがルート・セグメントのキー長より短い場合、関数は指定された値に low value (X'00') を付加します。

endkey

ルート・キー値の範囲の終わり。 *endkey*
値の長さがルート・セグメントのキー長より短い場合、関数は指定された値に high value を付加します。

MAXROOTS=*number*

オプション・パラメーター。関数によって印刷されるデータベース・レコード数を制限します。このパラメーターを指定すると、関数は、印刷したデータベース・レコード数をカウントし、指定された限度に達すると終了します。

データベース印刷要約

```

Print from
  IMS subsystem:   IFA2
  Database:       DJ2E
Processing Options
  PSB type:       Static
  Region type:    DLI
  Print format:   TABL
  Use view:       Y
  Use key values: Y
View data set:    FMN.IMS.VIEW(DJ2E#V1)
Key values data set: FMN.XKEY.DJ2E
Key Value Counts
  Number read:    6
  Number not found: 0
PSB name:        PUPA
PSB library:     FMN.IMS.IVP.PSBLIB
DBD
  Data set name 1: FMN.IMS.IVP.DBDLIB
  Data set name 2: IMSV1210.FMI.DBDLIB
Database Data Sets:
  DBD name  DD name  Data set name
-----
  DJ2E      DJ2E      FMN.IMS.IVP.DB.DJ2E
  DJ2F      DJ2F      FMN.IMS.IVP.DB.DJ2F
  DJ3E      DJ3E      FMN.IMS.IVP.DB.DJ3E
  DJ3F      DJ3F      FMN.IMS.IVP.DB.DJ3F
  DJ1E      DJ1E      FMN.IMS.IVP.DB.DJ1E
  DJ1F      DJ1F      FMN.IMS.IVP.DB.DJ1F

```

IMS subsystem (IMS サブシステム)

データベースが定義されている IMS サブシステムの名前。

Database (データベース)

印刷されたデータベースの名前。

PSB type (PSB タイプ)

印刷でデータベースにアクセスするために使用された PSB のタイプ。以下のタイプがあります。

動的

バッチ・ジョブの開始時に生成された一時 PSB が印刷で使用されました。

静的

既存の PSB が印刷で使用されました。

Region type (領域タイプ)

印刷が実行された領域のタイプ。

DLI

印刷は DLI バッチ処理領域で実行されました。

BMP

印刷は BMP 領域で実行されました。

Print format (印刷形式)**CHAR**

データは文字形式で印刷されます。

印刷不能文字はスペースとして印刷されます。

HEX

データは 16 進形式で印刷されます。

SNGL

データは SNGL 表示形式で印刷されます。

TABL

データは TABL 表示形式で印刷されます。

Use view (ビューの使用)

印刷でビューを使用するかどうか。

Use key values (キー値の使用)

印刷が指定のルート・キー値またはルート・キー範囲に限定されていたかどうか。

View data set (データ・セットの表示)

印刷で使用されたビューを含むデータ・セットの名前。

Key values data set (キー値データ・セット)

印刷されたレコードのルート・セグメントのキー値を含むデータ・セットの名前。

Key value counts (キー値件数)

Number read (読み込んだ数)

キー値データ・セットと KEYLIST パラメーターのいずれかまたは両方で指定されたキーの数。

Number not found (見つからなかった数)

ルート・セグメントが見つからなかった、指定されたキーの数。SYSPRINT 出力に、見つからなかったキー値がリストされます。

PSB name (DBD 名)

(PSB タイプが静的の場合) 印刷で使用された PSB の名前。

PSB library (PSB ライブラリー)

(PSB タイプが静的の場合) 印刷で使用された PSB を含むライブラリーの名前。

DBD Data set names (DBD データ・セット名)

印刷で使用された DBD ライブラリーの名前。

Database Data Sets (データベース・データ・セット)

(領域タイプが DLI の場合) 印刷で使用されたデータベース・データ・セット。

DBD name (DBD 名)

この列には、印刷されたデータベースの名前と、印刷されたデータベースに論理的に関連するデータベースの名前が含まれます。

DD name (DBD 名)

DBD 名列で指定された各データベースの DD 名。

Data set name (データ・セット名)

指定された DD 名に割り振られたデータ・セット。

データベース印刷統計報告書

Database Print Statistics Report					
Database	Segment	Level	-Segm Length-		Segments Printed
			Min	Max	
DJ2E	SUBURB	01	62	62	6
	LINKSTR	02	28	28	509
	NSTREET	02	30	30	3
	INSHIRE	02	20	20	6
	LETRBOX	02	34	34	2
Grand total DJ2E					526

以下は、この報告書の各列の説明です。

データベース

この列には、印刷されたデータベースの名前が含まれます。

Segment (セグメント)

この列には、印刷されたデータベース内のセグメント数が含まれます。

Level (レベル)

セグメントのレベル。

Segm Length (セグメント長)**Min**

DBD で定義されたセグメントの最小長。

最大値

DBD で定義されたセグメントの最大長。

固定長セグメントでは、最小長と最大長は同一になります。

Segments Printed (印刷されたセグメント)

機能によって印刷されたセグメント・オカレンスの数。

Grand total は、印刷されたセグメント・オカレンスの総数です。

例

キー値とビューを使用した印刷の例を以下に示します。印刷は、DLI モードで実行され、静的 PSB を使用します。セグメントは TABL 形式で印刷されます。

```
//FMNIPRNT 'Static PSB Print'
/*
//FILEMAN EXEC PGM=FMN1IMSB
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*,RECFM=FBA,LRECL=133
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//FMN1JIN DD DISP=SHR,DSN=FMN.SFMNSLIB
//FMNIMSIN DD *
$$$FILEM IPR REGNTYPE=DLI,
$$$FILEM PSBTYPE=STATIC,
$$$FILEM PSBDSN=FMN.IMS.IVP.PSBLIB,
$$$FILEM PSBMEM=PUPA,
$$$FILEM PCBNUM=(3,2,1),
$$$FILEM DBDDSN=FMN.IMS.IVP.DBDLIB,
$$$FILEM DBDDSN2=IMSV1210.FMI.DBDLIB,
$$$FILEM DBDMEM=DJ2E,
$$$FILEM IMSID=IFA2,
$$$FILEM RESLIB1=IMSVA10.IFA2.SDFSRESL,
$$$FILEM RESLIB2=IMSVA10.IFA2.USERLIB,
$$$FILEM DBRC=IMS,
$$$FILEM IRLM=N,
$$$FILEM DFSVSAMP=IMSVA10.IFB2.PROCLIB,
$$$FILEM VSMPMEM=DFSVSMDB,
$$$FILEM VIEW=Y,
$$$FILEM KEYPRT=Y,
$$$FILEM PRTFORM=TABL
/*
//VIEWDD DD DSN=FMN.IMS.VIEW(DJ2E#V1),DISP=SHR
//REPORT DD SYSOUT=*
//KEYSFILE DD DSN=FMN.XKEY.DJ2E,DISP=SHR
/* -----
/* -- Database data sets --
/* -----
//DJ2E DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ2E,DISP=SHR
//DJ2F DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ2F,DISP=SHR
//DJ3E DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ3E,DISP=SHR
//DJ3F DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ3F,DISP=SHR
//DJ1E DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ1E,DISP=SHR
//DJ1F DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ1F,DISP=SHR
```

バッチ編集 (IEB)

目的

標準 REXX ステートメントと以下の FM/IMS バッチ関数の両方を含む REXX プロシーチャーを実行します。

DELIMS

IMS セグメントを削除します。

GETIMS

IMS セグメントを取り出します。

ISRTIMS

IMS セグメントを挿入します。

PRINT

IMS セグメントを印刷します。

REPLIMS

IMS セグメントを更新します。

SAVEIMS

データを IMS データベースにコミットし、IMS リソースを解放します。SAVEIMS を発行した後、データベース内のその位置は失われます。

SETRC

ジョブ・ステップの戻りコードを設定します。

VIEWIMS

後で使用するビューを作成するか、既存ビュー (セグメントを取り出す GETIMS 関数で使用できる) をロードします。

VIEWPOSN

IMS セグメントに位置設定し、次の GETIMS (USING_VIEW を指定) でこのポイントからセグメントを取り出すようにします。

使用上の注意

REXX 関数は、IEB で使用する REXX プロシージャーでのみ使用可能です。

これらの関数の一部は、次の REXX 変数へ値を渡したり、それから値を読み取ったりします。

INREC, OUTREC

GETIMS 関数はセグメントを取り出し、このセグメントの内容を INREC と OUTREC の両方に渡します。INREC を参照変数としてのみ使用し、更新しないようにします。OUTREC を更新し、これを ISRTIMS 関数で挿入する新規セグメントの内容として使用するか、これを REPLIMS 関数で使用して既存セグメントの内容を置き換えることができます。

FMSTATUS

直前の DELIMS、GETIMS、ISRTIMS、または REPLIMS 関数呼び出しからの DL/I 状況コードが含まれます。DL/I 状況コードの値の説明については、「IMS メッセージおよびコード」を参照してください。

FMCONKEY, FMSEGNM

直前の DELIMS、GETIMS、ISRTIMS、または REPLIMS 関数呼び出しによって削除、取得、挿入、置換されたセグメントの連結キー (FMCONKEY) または名前 (FMSEGNM) が含まれます。

FMNDBDNM

DBD 名が含まれます。(ただし、この変数は、DELIMS、GETIMS、ISRTIMS、または REPLIMS 関数を呼び出すまではヌルです。)

REXX 関数 EXECIO を使用する場合は、EXECIO の前に「ADDRESS MVS」をコーディングするようにしてください。そうしないと、REXX の実行で RC-3 を受け取ることになります。

これらの REXX 変数名はすべて大文字で指定する必要があります。

すべての IEB 関数の場合:

各 IEB 関数文のキーワード・ストリングおよびキーワード値は、単一引用符で囲む必要があります。複数行を必要とする文では、各行を単一引用符で囲み、終了引用符の後に、次の行へ続くことを示すコンマを続けます。

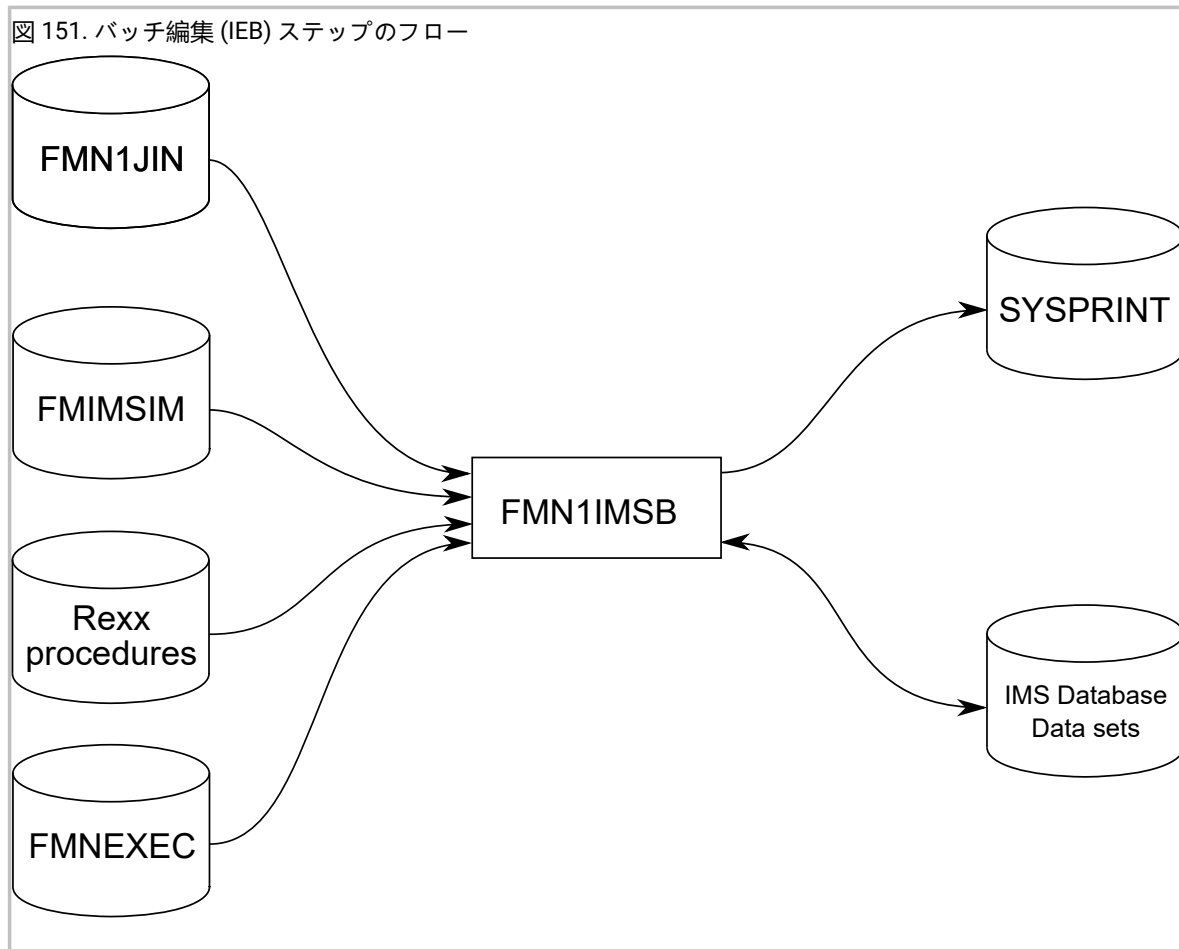
IEB 関数 DELIMS、GETIMS、ISRTIMS、および REPLIMS:

#*field_name* または #*field_ref* キーワードに *field_value* 変数を指定する場合、*field_value* 変数は、単一引用符または二重引用符で囲むか、引用符なしで指定することができます。

IEB 関数 VIEWIMS:

フィールド *selection_criteria* は REXX 式として指定します。*selection_criteria* 式を単一引用符または二重引用符で囲む必要はありません。

FM/IMS によって生成されるバッチ編集 JCL のフローは、以下の通りです。



FMN1JIN

FM/IMS スケルトン・ライブラリーを指します。この DD ステートメントは、HALDB データベースを編集するときだけに使用されます。

FMNIMSIN

バッチ編集の制御ステートメントが入っています。この制御ステートメントについては、以下で詳しく説明します。

IMS データベース・データ・セット

DLI モードでは、保守される IMS データベースに関連付けられた各 IMS データベース・データ・セットの DD が FM/IMS に組み込まれます。データベースに論理関係がある場合は、論理的に関係があるデータベースのデータ・セットを組み込む必要があります。

SYSPRINT

これには、IEB REXX プロシージャーの実行中に FM/IMS によって出された FM/IMS メッセージが含まれます。

REXX プロシージャー

IMS データベースをバッチで保守するために実行される REXX exec。この exec は、ユーザーによる IMS セグメントの読み取りおよび更新を可能にする FM/IMS IEB 呼び出しと組み合わせた標準 REXX ステートメントから構成されます。

FMNIMSIN において、REXX プロシージャーに PROC=* が指定された場合、REXX プロシージャーは、PROC=* パラメーターの後にインストリームで指定されます。

FMNIMSIN において、PROC=<member> が指定された場合、FMNEXEC ライブラリー内の REXX プロシージャー <member> が実行されます。

FMNEXEC

これには、PROC=<member> が FMNIMSIN パラメーターで指定された場合に実行されるメンバーが含まれます。

FMNIMSIN 制御ステートメント

FMNIMSIN 制御ステートメントを使用して、以下を指定します。

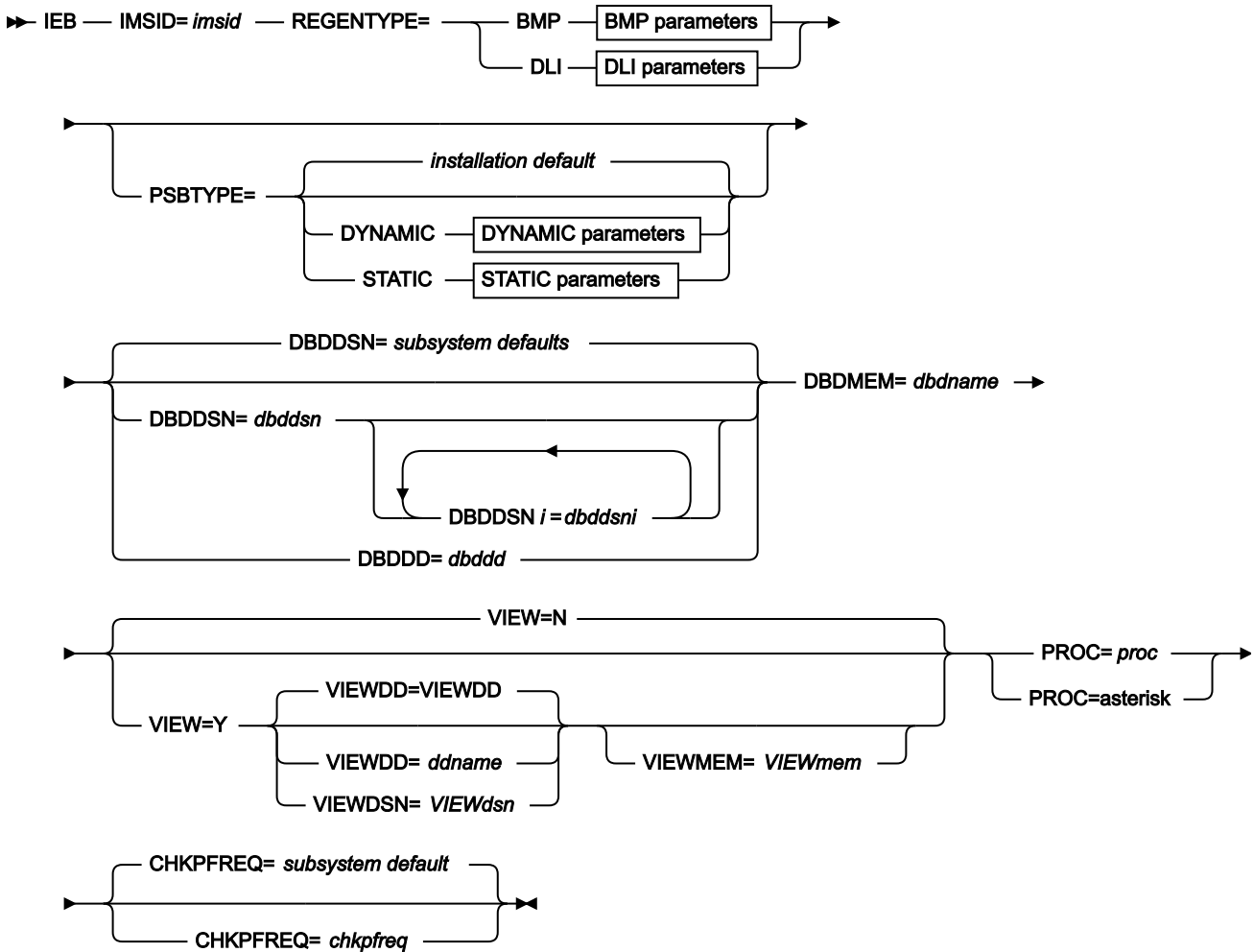
- バッチ編集を BMP 領域で実行するか、DLI 領域で実行するか。
- 静的 PSB を使用するか、あるいは FM/IMS が動的 PSB を生成して IMS データを保守するか。
- 実行される IEB REXX プロシージャーがインストリームか (PROC=*)、または FMNEXEC DD で指定されたライブラリーにあるか。

FMNIMSIN 内の各行は \$\$FILEM で始まり、最初の行には、FM/IMS によってバッチ編集が実行されることを指定するパラメーター IEB が含まれます。

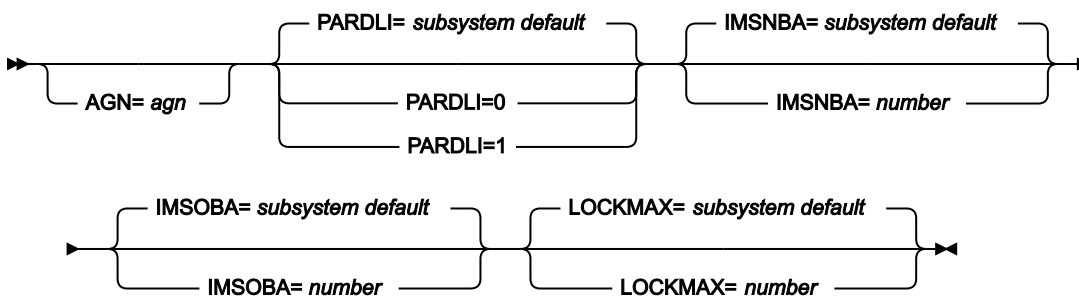
```
$$FILEM IEB REGNTYPE=DLI,
$$FILEM PSBTYPE=DYNAMIC,
```

```
$$$FILEM DBDDSN=FMN. IMS. IVP. DBDLIB,
. . .
```

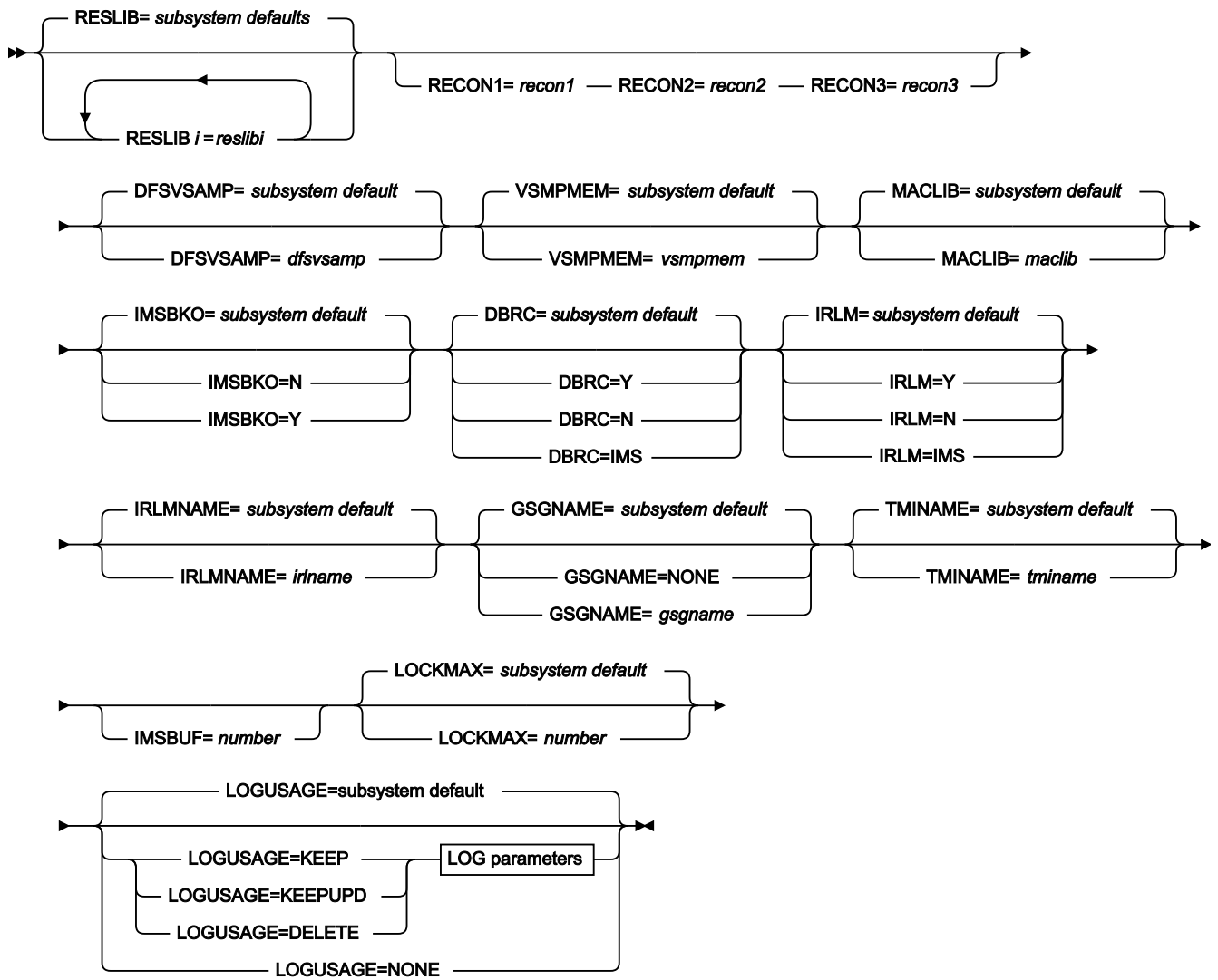
図 152. Syntax



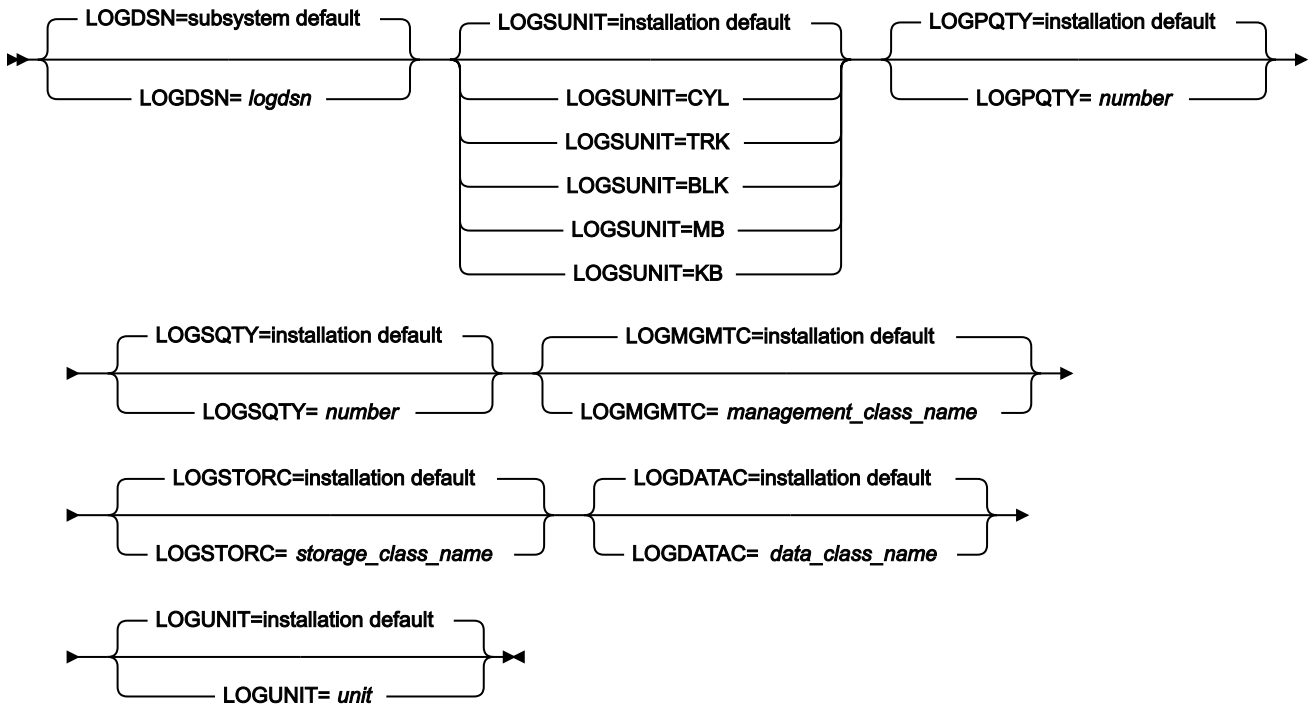
BMP parameters



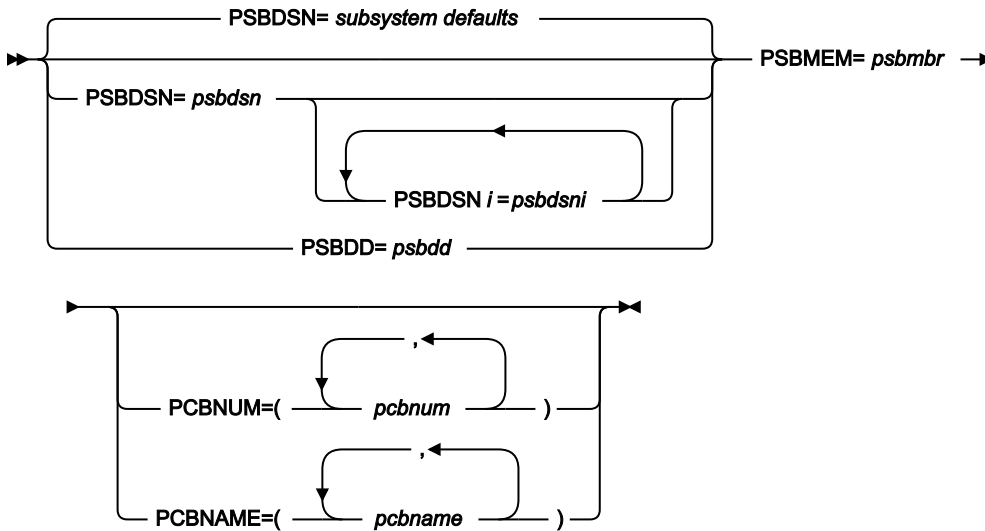
DLI parameters



LOG parameters



STATIC parameters



ここでは、VIEW、VIEWDD、VIEWDSN、VIEWMEM、CHKPFREQ、および PROC パラメーターについて説明します。この構文図のその他のパラメーターはすべて、抽出 (IXB) 関数でも指定されます。これらの共通パラメーターについては、[抽出 \(IXB\) ページ 577](#)を参照してください。

CHKPFREQ=chkpfreq

オプション・パラメーター。バッチ編集中の自動保管機能の頻度 (BATCH EDIT チェックポイント頻度) を指定します。FM/IMS:

- バッチ編集でセグメントを挿入、削除、または置換するたびに、カウントを1つインクリメントする。
- カウントが「バッチ編集」チェックポイント頻度と等しいときに、チェックポイントを発行します。

有効な範囲は1から99999です。

VIEW

オプション・パラメーター。バッチ編集がビューを使用するかどうかを指定します。

N

バッチ編集でビューを使用しません。

Y

バッチ編集でビューで使用します。Yを指定する場合は、以下のVIEWDD、VIEWDSN、およびVIEWMEMの項目で示すように、使用するビューを指定する必要があります。

VIEWDD=ddname

バッチ編集で使用するビューを含む順次データ・セットまたはPDS(E)およびメンバーのDDステートメントを指定します。デフォルトは、VIEWDDです。

VIEWDSN=viewdsn

バッチ編集で使用するビューを含んでいるデータ・セットの名前。順次データ・セットまたはPDS(E)が指定できます。PDS(E)を指定した場合は、パラメーターでは括弧でメンバー名も含めることができます。

VIEWMEM=viewmem

VIEWDSNまたはVIEWDDパラメーターでPDS(E)を指定し、メンバーを指定しない場合は必須です。バッチ編集で使用するビューを含んでいるPDS(E)のメンバーを指定します。

PROC=proc

必須パラメーター。有効な値は、以下のとおりです。

PDS(E) メンバーの名前

バッチ編集で使用するREXXプロシージャーが含まれているPDS(E)メンバーの名前。

このメンバーが含まれているPDS(E)をFMNEXEC DDステートメントで指定します。バッチ編集のJCLにはこのDDステートメントを含める必要があります。

アスタリスク (*)

REXXプロシージャーがインラインであることを示します。

プロシージャーは、FMNIMSIN制御ステートメントの直後に続くSYSINから読み取られます。インライン・プロシージャーは、1から2桁目にスラッシュと正符号(/+)が入っているレコードによって終了されます。

REXX IEB 呼び出し

FM/IMS が起動する REXX プロシージャは、標準の TSO/E REXX を使用します。

一方、IMS セグメントを検索、更新、および印刷できる IEB 関数を呼び出すことができます。また、IEB プロシージャで使用する File Manager/IMS ビューの作成も可能です。

REXX プロシージャでは、GETIMS 呼び出しを使用して IMS データベースからセグメントを取り出します。以下の方法を使用するオプションがあります。

- USING_VIEW 節を使用した GETIMS 呼び出し (ビューを使用した検索)。

FM/IMS は、ビューで指定された選択基準を使用して関連セグメントを検索します。

- USING_VIEW 節を使用しない GETIMS 呼び出し (ビューを使用しない検索)。

関連セグメントを検索するために、GETIMS 呼び出しを発行してデータベースをナビゲートする必要があります。この方法は、プログラムでの IMS 呼び出しの発行に類似しています。セグメントの検索方法を決定する必要があります。

しかし、FM/IMS では、同じ REXX プロシージャ内で、USING_VIEW 節を使用して GETIMS 呼び出しを使用したり、USING_VIEW 節を使用せずに GETIMS 呼び出しを使用したりすることはできないようになっています。

ビューを使用した検索

ビューを使用してデータベースを処理する場合、以下の IEB 呼び出しが使用可能です。

DELIMS 呼び出し (IMS セグメントの削除)

この IEB 呼び出しでは、現行セグメントを削除します。その前に、USING_VIEW パラメーターを指定した GETIMS 関数呼び出しが必要です。

▶▶ DELIMS — (SEGMENT= *delsegm*) ▶▶

delsegm

削除するセグメントの名前。

FM/IMS で使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域が検出された場合、DELIMS 関数は戻りコード 8 を受け取り、ISPF 変数 FMSTATUS は、以下の IMS 状況コードを示します。

FH

使用不可の DEDB 領域

BA

使用不可の HALDB 区画

正常に行われればゼロを戻し、そうでなければゼロ以外を戻します。DELIMS が正常に行われなかった場合には、FMSTATUS REXX 変数の DL/I 状況コードを検査して、障害の原因を判別することができます。

IEB の DELIMS 使用例

```

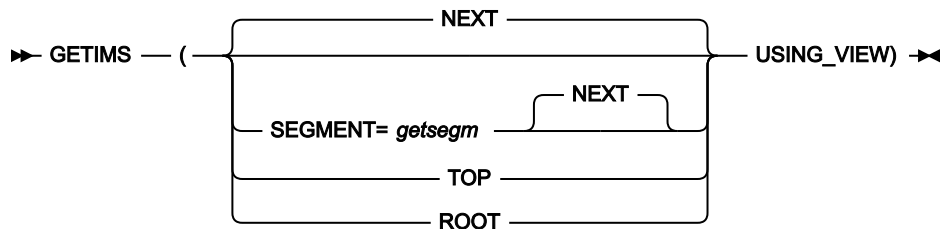
:
$$FILEM IEB
:
$$FILEM PROC=*
filerc = VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE')
/* Delete Segment at the current position */
filerc = GETIMS('SEGMENT=NSTREET NEXT')
filerc = DELIMS('SEGMENT=NSTREET')...

```

GETIMS 呼び出し (IMS セグメントの検索)

この IEB 呼び出しでは、ビューによって選択された次のセグメントを検索し、ビューによって選択されていないその間のセグメントはすべてスキップします。

図 153. Syntax (using a view)



getsegm

検索するセグメントの名前。CHILD も指定した場合には、GETIMS はこの名前を持つ階層的に従属した次のセグメントを検索します。指定しない場合のデフォルト値は NEXT であり、GETIMS は階層とは無関係に、この名前を持つ次のセグメントを検索します。

NEXT

データベースで、ビューに指定された基準に一致する次のセグメントを検索します。

ROOT

現行セグメントの階層パス内のルート・セグメントを検索します。ROOT を USING_VIEW とともに指定し、ルート・セグメントがビューによって選択されていない場合には、ROOT はそのルート・セグメントの後の、選択されている最初のセグメントを検索します。

TOP

USING_VIEW を指定しないと、TOP によってデータベース内の最初のルート・セグメントが検索されます。USING_VIEW を指定すると、TOP では、ビューによって選択されたデータベース内の最初のセグメントが検索されますが、これは必ずしもルート・セグメントではありません。

USING_VIEW

GETIMS をビューによって選択されたセグメントの検索に制限します。ビューは、この GETIMS の呼び出しの前に、VIEWIMS 関数の呼び出しによってすでにロードされている必要があります。

正常に行われればゼロを戻し、そうでなければゼロ以外を戻します。戻りコード 4 は、GETIMS('NEXT USING_VIEW') がデータベースの末尾に達したことを示します。

FM/IMS で使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域が検出された場合、GETIMS 関数は戻りコード 8 を受け取り、ISPF 変数 FMSTATUS は、以下の IMS 状況コードを示します。

FH

使用不可の DEDB 領域

BA

使用不可の HALDB 区画

4 でないゼロ以外の戻りコードの場合には、FMSTATUS REXX 変数の DL/I 状況コードを検査して、障害の原因を判別してください。

正常に行われた場合には、GETIMS は検索されたセグメントの内容を INREC および OUTREC REXX 変数に渡します。

GETIMS は、ビューを使用してもしなくても、使用できます。ビューを使用すると、GETIMS は、ビューによって選択されたセグメントだけを検索します。例えば、GETIMS('NEXT USING_VIEW') では、ビューによって選択された次のセグメントが検索され、ビューによって選択されていないその間のセグメントはすべてスキップされます。

IEB の GETIMS USING_VIEW 使用例

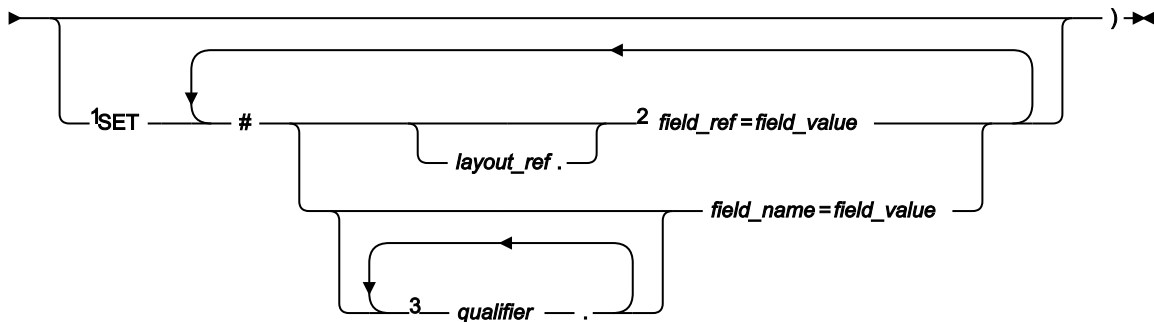
```
⋮  
$$FILEM IEB  
⋮  
$$FILEM PROC=*  
filerc = VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE')  
/* Retrieve the next IMS segment from the view */  
filerc = GETIMS('NEXT USING_VIEW')
```

ISRTIMS 呼び出し (IMS セグメントの挿入)

この IEB 呼び出しでは、IMS セグメントを挿入します。

図 154. Syntax

▶ ISRTIMS — (SEGMENT= *inssegm* →



注:

¹ *field_ref* または *field_name* を使用するには、この関数呼び出しの前の VIEWIMS の呼び出しによって、ビューがすでにロードされている必要があります。

² *layout_ref* の修飾がない *field_ref* を指定した場合、*field_ref* は *inssegm* セグメントの最初のレイアウトに関連付けられます。

³ *field_name* を完全修飾するには、指定する最初の *qualifier* をレイアウト名にする必要があります。レイアウト名が指定されていない場合、FM/IMS は、グループ修飾子と *field_name* が見つかるまで、相対順序ですべてのレイアウトから *inssegm* セグメントを検索します。見つからない場合、エラー・メッセージが表示され、処理が終了します。

field_name

フィールド名。

field_ref

レイアウト内のフィールドのフィールド参照番号。VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

field_value

field_ref または *field_name* に指定したフィールドの値。

inssegm

挿入するセグメントの名前。これは、現行セグメントの子である必要があります。

layout_ref

セグメント内のレイアウトの相対番号。VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷することで取得できます。

qualifier

フィールド名 (*field_name*) を特定する 1 つ以上の修飾子。最初の修飾子はセグメント・レイアウト名です。後続の修飾子 (ある場合)

は、指定したフィールド名を特定するために使われるグループ・フィールドです。レイアウト名またはグループ・フィールドを省略すると、FM/IMS は指定された修飾子とフィールド名をセグメント・レイアウトから検索します。



注: レイアウト名とグループ・フィールドは、VIEWIMS DESCRIBE

文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

正常に行われればゼロを戻し、そうでなければゼロ以外を戻します。

FM/IMS で使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域が検出された場合、DELIMS 関数は戻りコード 8 を受け取り、ISPF 変数 FMSTATUS は、以下の IMS 状況コードを示します。

FH

使用不可の DEDB 領域

BA

使用不可の HALDB 区画

OUTREC を新規セグメントの内容として使用するには、SET 文節を省略します。可変長セグメントを挿入する場合には、OUTREC の最初の 2 バイトでセグメントの長さを指定する必要があります。それ以外の場合には、SET 文節を使用して、新規セグメントのフィールド値を指定します。

IEB の ISRTIMS 使用例

```

:
$$FILEM IEB
:
$$FILEM PROC=*
filerc = VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE')
filerc = GETIMS('SEGMENT=SUBURB NEXT USING_VIEW')

/* Insert using OUTREC */
OUTREC = "FLOREAT RESERVE"
filerc = ISRTIMS('SEGMENT=NSTREET')

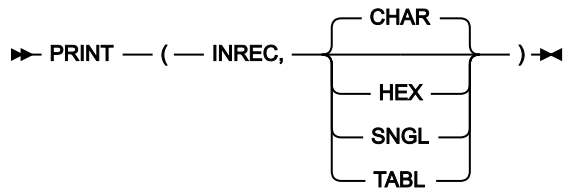
/* Insert using SET */

filerc = ISRTIMS('SEGMENT=NSTREET ',
                ' SET #2=FLOREAT PARK ')

```

PRINT 呼び出し (IMS セグメントの印刷)

この関数では、指定された形式で現行セグメントを印刷します。



正常に行われればゼロを戻し、そうでなければゼロ以外を戻します。

INREC 変数に保管されたセグメントの内容を以下の 1 つの形式で印刷します。

CHAR

セグメントを IMS データベースに保管されたままの状態です印刷します。

HEX

3 行のデータを印刷します。最初の行には、それぞれのバイトの文字表現が示されます。2 行目と 3 行目には、それぞれのバイトの 16 進値が示されます。

SNGL

セグメントを個々のフィールドに縦方向に分割して、報告書に印刷します。

TABL

セグメントを個々のフィールドに横方向に分割して、報告書に印刷します。

INREC 変数には、現行セグメントのデータが入ります。

SNGL または TABL 形式で印刷するには、この関数呼び出しの前の VIEWIMS の呼び出しによって、ビューがすでにロードされている必要があります。

IEB の PRINT 使用例

```

:
$$FILEM IEB
:
$$FILEM PROC=*

filerc = VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE')

filerc = GETIMS('SEGMENT=SUBURB ',
               ' WHERE SEGMENT=SUBURB #SUBURB-NAME=CITY BEACH')
PRINT(INREC,CHAR)
PRINT(INREC,HEX)
PRINT(INREC,SNGL)
PRINT(INREC,TABL)
/+
:

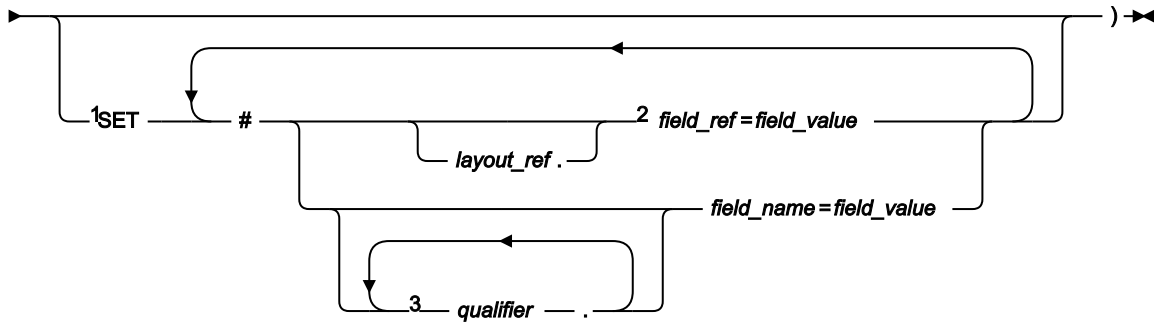
```

REPLIMS 呼び出し (IMS セグメントの置換)

この IEB 呼び出しでは、現行セグメントを置換します。その前に、USING_VIEW パラメーターを指定した GETIMS 関数呼び出しが必要です。

図 155. Syntax

▶ REPLIMS — (SEGMENT= *repsegm* →



注:

- ¹ *field_ref* または *field_name* を使用するには、この関数呼び出しの前の VIEWIMS の呼び出しによって、ビューがすでにロードされている必要があります。
- ² *layout_ref* の修飾がない *field_ref* を指定した場合、*field_ref* は *repsegm* セグメントの現在のレイアウトに関連付けられます。
- ³ フィールド名を完全修飾するには、指定する最初の *qualifier* をレイアウト名にする必要があります。レイアウト名が指定されていない場合、FM/IMS は、置き換えられる *repsegm* セグメントを現在のレイアウトから検索します。グループ修飾子とフィールド名が見つからない場合、FM/IMS は、グループ修飾子とフィールド名が見つかるまで、相対順序ですべてのレイアウトから *repsegm* セグメントを検索します。見つからない場合、エラー・メッセージが表示され、処理が終了します。

field_name

フィールド名。

field_ref

レイアウト内のフィールドのフィールド参照番号。VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

field_value

field_ref または *field_name* に指定したフィールドの値。

layout_ref

セグメント内のレイアウトの相対番号。VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷することで取得できます。

qualifier

フィールド名 (*field_name*) を特定する 1 つ以上の修飾子。最初の修飾子はセグメント・レイアウト名です。後続の修飾子 (ある場合は、指定したフィールド名を特定するために使われるグループ・フィールドです。レイアウト名またはグループ・フィールドを省略すると、FM/IMS は指定された修飾子とフィールド名を現在の *repsegm* セグメント・

レイアウトから検索します。見つからない場合、すべての *repsegm* セグメント・レイアウトから、指定された修飾子とフィールド名を検索します。



注: レイアウト名とグループ・フィールドは、VIEWIMS DESCRIBE

文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

repsegm

置換するセグメントの名前。

正常に行われればゼロを戻し、そうでなければゼロ以外を戻します。

FM/IMS で使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域が検出された場合、DELIMS 関数は戻りコード 8 を受け取り、ISPF 変数 FMSTATUS は、以下の IMS 状況コードを示します。

FH

使用不可の DEDB 領域

BA

使用不可の HALDB 区画

セグメントの現在の内容を OUTREC 変数の内容で置き換えるには、SET 文節を省略します。可変長セグメントを置換する場合には、OUTREC の最初の 2 バイトでセグメントの長さを指定する必要があります。それ以外の場合には、SET 文節を使用して、セグメントの置換フィールド値を指定します。

OUTREC を使用すると、セグメントの内容全体が置き換えられます。SET 文節を使用すると、指定したフィールド値だけを置き換えることができます。他のフィールド値は変更されないまま残されます。

IEB の REPLIMS 使用例

```

:
$$FILEM IEB
:
$$FILEM PROC=*
filerc = VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE')
filerc = GETIMS('SEGMENT=SUBURB NEXT USING_VIEW')

/* Replace a segment using OUTREC */
OUTREC = OVERLAY('6168',outrec,19)
filerc = REPLIMS('SEGMENT=SUBURB')

/* Replace a segment using SET */
rtrc=REPLIMS('SEGMENT=SUBURB ',
            'SET #POST-CODE=6168')
```

SETRC 呼び出し (ジョブ・ステップ戻りコードの設定)

この IEB 呼び出しでは、ジョブ・ステップ戻りコードを指定値に設定します。これにより、FM/IMS が REXX プロシージャを終了することはありません。呼び出しの形式は次のとおりです。

図 156. Syntax

▶ SETRC (*rc*) ◀

rc

戻りコード。

IEB の SETRC 使用例

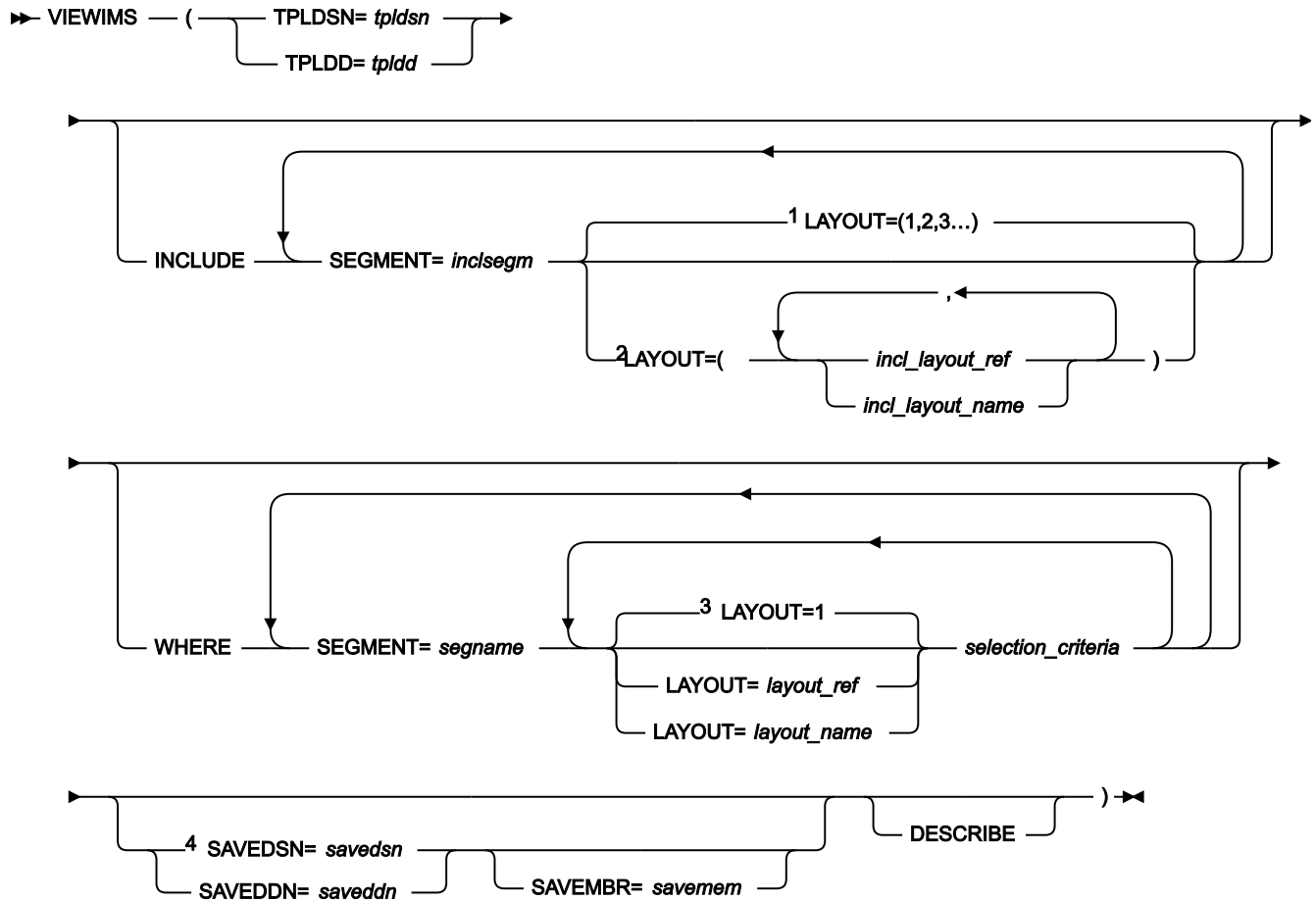
```
RTRC=GETIMS(USING_VIEW)
IF RTRC<>0 THEN DO
  SETRC(21)
  EXIT
END
```

VIEWIMS 呼び出し (ビューのロードまたは作成)

図 157. Syntax (to load an existing view or template)

▶ VIEWIMS ((VIEWDSN= *viewdsn*) (VIEWWDD= *viewdd*) (VIEWWMBR= *viewmem*) (TPLDSN= *tpldsn*) (TPLDD= *tpldd*))) ◀

図 158. Syntax (to create a new view from an existing template)



注:

- ¹ レイアウト・パラメーターが指定されていない場合、*inclsegm* のすべてのレイアウトが選択されます。
- ² *incl_layout_ref* または *incl_layout_name* を 1 つだけ指定する場合、括弧は必要ありません。
- ³ レイアウト・パラメーターが指定されていない場合、選択基準は *segname* セグメントの最初のレイアウトに適用されます。
- ⁴ 古い形式の SAVE は引き続きサポートされます (SAVE DSN=*savedsn* または SAVE DDN=*savedd* とオプションの MBR=*savembr*)。

DESCRIBE パラメーターを指定すると、VIEWWIMS は、データベース内の各セグメント用のビューまたはテンプレートの構造を示す報告書を印刷します。

incl_layout_name

ビューで選択される *inclsegm* セグメント・レイアウトの名前。VIEWWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

incl_layout_ref

ビューで選択される *inclsegm* セグメント内のレイアウトの相対番号。VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷することで取得できます。

inclsegm

ビューに組み込むセグメントの名前。

USING_VIEW パラメーターを指定して GETIMS

関数を呼び出した場合には、ビューに組み込まれるセグメントだけが検索されます。INCLUDE 文節を完全に省略した場合には、すべてのセグメントがビューに組み込まれます。

layout_name

選択基準を適用する *segname* セグメント内のレイアウトの名前。VIEWIMS

文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

layout_ref

選択基準を適用するセグメント内のレイアウトの相対番号。VIEWIMS DESCRIBE

文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷することで取得できます。

saveddn

ビューを保管するデータ・セットが含まれている DDNAME。データ・セットが PDS

である場合、SAVEMBR=*savemem* パラメーターも指定する必要があります。

savedsn

ビューを保管するデータ・セットの名前。データ・セットが PDS である場合、MBR=*savemem* パラメーター

も指定する必要があります。

savemem

DSN、SAVEDSN、DDN、または SAVEDDN パラメーターで指定されている、ビューを保管する PDS のメンバー。

segname

フィールド選択基準を指定するセグメントの名前。

selection_criteria

segname セグメントのフィールド選択基準。USING_VIEW パラメーターを指定した GETIMS 関数の呼び出しによって検索されるセグメントのオカレンスを決定します。

フィールド選択基準の指定について詳しくは、[フィールド選択基準の指定 ページ 122](#)を参照してください。

tpldd

ビューを作成するための基準として使用されるテンプレート・データ・セットが含まれている

DDNAME。DBD のテンプレートは、既に FM/IMS にオンラインで作成されている必要があります。

tpldsn

ビューを作成するための基準として使用されるテンプレートが含まれているデータ・セットの名前。DBD のためのテンプレートは、既に FM/IMS でオンラインで作成されているはずでず。

viewdd

以下のいずれかを含む DDNAME。

- ビューを含む順次データ・セット。
- ビューを含む PDS。次に、メンバー名を *viewmem* に指定します。

viewsdn

以下の1つ。

- ビューが含まれている順次データ・セットの名前。
- ビューが含まれている PDS の名前。(次に、メンバー名を *viewmem* に指定します。)

viewmem

ビューのメンバー名。

IEB の VIEWIMS 使用例

```

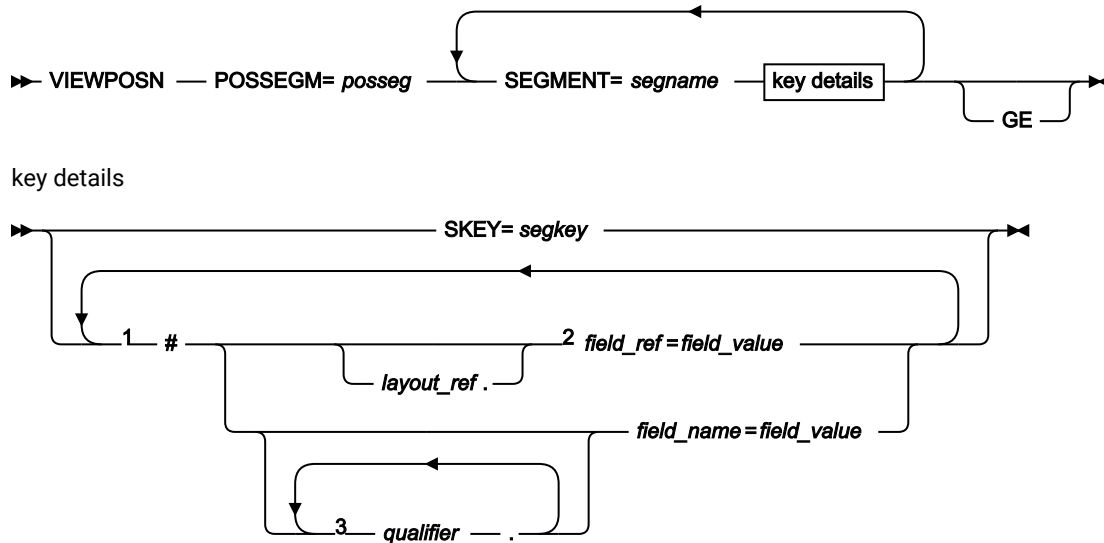
:
$$FILEM IEB
:
$$FILEM PROC=*
rtrc=VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE ',
'SAVE DSN=FMN.IMS.IVP.VIEW MBR=ZZ999 ',
'INCLUDE SEGMENT=SUBURB ',
' SEGMENT=LINKSTR ',
'WHERE SEGMENT=SUBURB substr(#2,1,1)=F ',
' SEGMENT=LINKSTR #4=ST ',
'DESCRIBE')
/+
:

```

VIEWPOSN 呼び出し (IMS セグメントへの位置設定)

この IEB 呼び出しでは、IMS セグメントに位置設定し、次の GETIMS (USING_VIEW を指定) でこのポイントからセグメントを取り出すようにします。

図 159. Syntax



注:

- ¹ *field_ref* または *field_name* を使用するには、この関数呼び出しの前の VIEWIMS の呼び出しによって、ビューがすでにロードされている必要があります。
- ² *layout_ref* の修飾がない *field_ref* を指定した場合、*field_ref* は *segname* セグメントの最初のレイアウトに関連付けられます。
- ³ *field_name* を完全修飾するには、指定する最初の *qualifier* をレイアウト名にする必要があります。レイアウト名が指定されていない場合、FM/IMS は、グループ修飾子と *field_name* が見つかるまで、相対順序ですべてのレイアウトから *segname* セグメントを検索します。見つからない場合、エラー・メッセージが表示され、処理が終了します。

field_name

フィールド名。

field_ref

レイアウト内のフィールドのフィールド参照番号。VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

field_value

field_ref または *field_name* に指定したフィールドの値。

layout_ref

セグメント内のレイアウトの相対番号。VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷することで取得できます。

posseg

位置設定先のセグメントの名前。

qualifier

フィールド名 (*field_name*) を特定する 1 つ以上の修飾子。最初の修飾子はセグメント・レイアウト名です。後続の修飾子 (ある場合は、指定したフィールド名を特定するために使われるグループ・フィールドです。レイアウト名またはグループ・フィールドを省略すると、FM/IMS は指定された修飾子とフィールド名をセグメント・レイアウトから検索します。



注: レイアウト名とグループ・フィールドは、VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

segname

位置設定するセグメントの階層パス内のセグメントの名前。

正常に行われればゼロを戻し、そうでなければゼロ以外を戻します。

FM/IMS で使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域が検出された場合、DELIMS 関数は戻りコード 8 を受け取り、ISPF 変数 FMSTATUS は、以下の IMS 状況コードを示します。

FH

使用不可の DEDB 領域

BA

使用不可の HALDB 区画

セグメントの現在の内容を OUTREC 変数の内容で置き換えるには、SET 文節を省略します。可変長セグメントを挿入する場合には、OUTREC の最初の 2 バイトでセグメントの長さを指定する必要があります。

IEB の VIEWPOSN 使用例

```

:
$$FILEM IEB
:
$$FILEM PROC=*
filerc = VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE')
filerc = VIEWPOSN('POSSEGM=NSTREET ',
                  'SEGMENT=SUBURB #SUBURB-NAME=CITY BEACH ',
                  'SEGMENT=NSTREET #2=FLOREAT BEACH ')

filerc = GETIMS(NEXT USING_VIEW)

```

ビューを使用しない検索

ビューを使用せずにデータベースを処理する場合、以下の呼び出しが使用可能です。

WHERE 文節でキー・フィールドを指定できるようにしたり、データベースを SNGL または TABL 形式で印刷したりするためにビューをロードできますが、GETIMS 呼び出しは USING_VIEW パラメーターなしで発行されます。

DELIMS 呼び出し (IMS セグメントの削除)

この IEB 呼び出しでは、現行セグメントを削除します。

目的

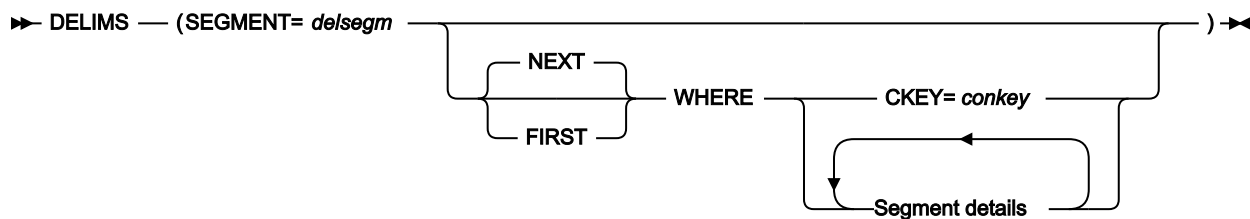
IMS セグメントを削除します。

使用上の注意

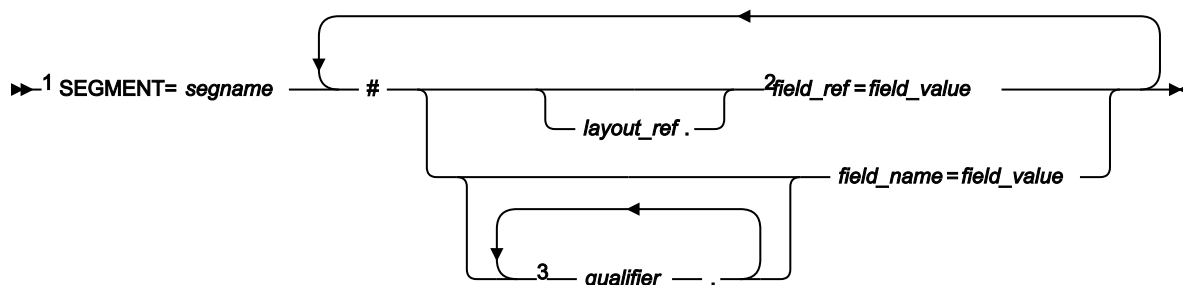
DELIMS 組み込み FM/IMS REXX 関数は、以下の目的で使用することができます。

- 現行セグメントを削除する。
- where 文節を指定して特定のセグメントを削除する。

図 160. Syntax



Segment details



注:

¹ `field_ref` または `field_name` を使用するには、この関数呼び出しの前の VIEWIMS の呼び出しによって、ビューがすでにロードされている必要があります。

² `layout_ref` の修飾がない `field_ref` を指定した場合、`field_ref` は `delsegm` セグメントの最初のレイアウトに関連付けられます。

³ `field_name` を完全修飾するには、指定する最初の `qualifier` をレイアウト名にする必要があります。レイアウト名が指定されていない場合、FM/IMS は、グループ修飾子と `field_name` が見つかるまで、相対順序ですべてのレイアウトから `delsegm` セグメントを検索します。見つからない場合、エラー・メッセージが表示され、処理が終了します。

conkey

削除するセグメントの連結キー。

すでに削除したセグメントの連結キーを指定した場合には、DELIMS はゼロ以外の戻りコードを生成し、セグメントを削除しません。

delsegm

削除するセグメントの名前。

field_name

テンプレートまたはビューに指定した、*segname* セグメント内のキー・フィールドの名前。

field_ref

テンプレートまたはビューに指定した、*segname* セグメント内のキー・フィールドの参照番号。VIEWIMS DESCRIBE

文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

field_value

field_ref または *field_name* によって指定したキー・フィールドの値。

FIRST

データベース内の WHERE 文節を満たす最初のセグメントを削除します。

layout_ref

segname セグメント内のレイアウトの相対番号。VIEWIMS DESCRIBE

文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷することで取得できます。

NEXT

データベース内の WHERE 文節を満たす現行セグメントの後の次のセグメントを削除します。

qualifier

フィールド名 (*field_name*) を特定する 1

つ以上の修飾子。最初の修飾子はセグメント・レイアウト名です。後続の修飾子 (ある場合)

は、指定したフィールド名を特定するために使われるグループ・フィールドです。レイアウト名またはグループ・フィールドを省略すると、FM/IMS は指定された修飾子とフィールド名をセグメント・レイアウトから検索します。



注: レイアウト名とグループ・フィールドは、VIEWIMS DESCRIBE

文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

segname

削除するセグメントの階層パス内のセグメントの名前。

FM/IMS で使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域が検出された場合、DELIMS 関数は戻りコード 8 を受け取り、ISPF 変数 FMSTATUS は、以下の IMS 状況コードを示します。

FH

使用不可の DEDB 領域の場合。

BA

使用不可の HALDB 区画。

正常に行われればゼロを戻し、そうでなければゼロ以外を戻します。DELIMS が正常に行われなかった場合には、FMSTATUS REXX 変数の DL/I 状況コードを検査して、障害の原因を判別することができます。

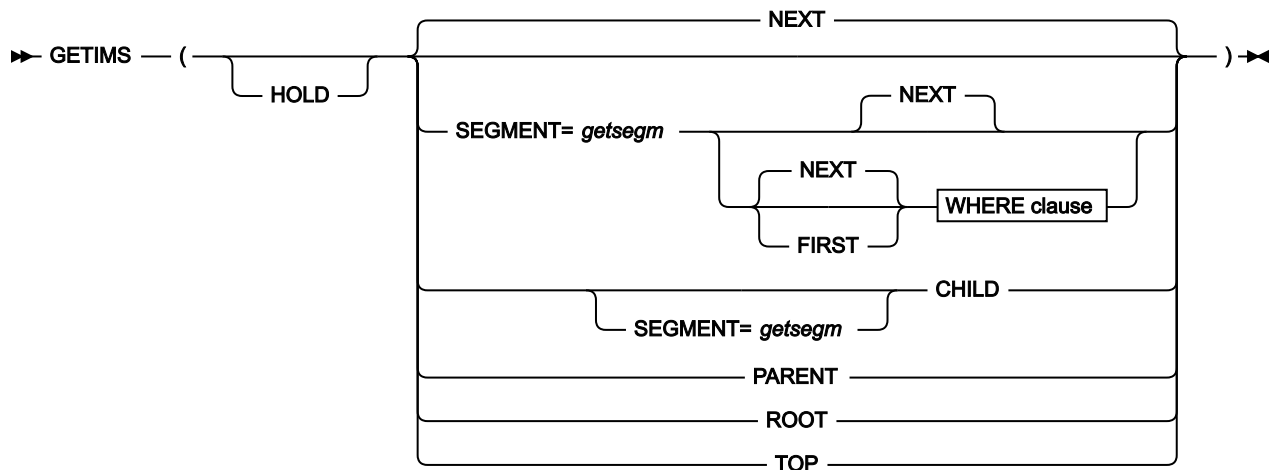
現行セグメントを削除するには、WHERE 文節を省略します。それ以外の場合には、WHERE 文節を使用して、削除するセグメントを識別します。

IEB の DELIMS 使用例

```
⋮
$$FILEM IEB
⋮
$$FILEM PROC=*
filerc = VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE')
/* Delete Segment at the current position */
filerc = GETIMS('SEGMENT=NSTREET NEXT')
filerc = DELIMS('SEGMENT=NSTREET')
/* Delete Segment using a where Clause */
filerc = DELIMS('SEGMENT=NSTREET ',
               ' WHERE SEGMENT=SUBURB #SUBURB-NAME=CITY BEACH',
               'SEGMENT=NSTREET #2=FLOREAT BEACH ')
/+
⋮
```

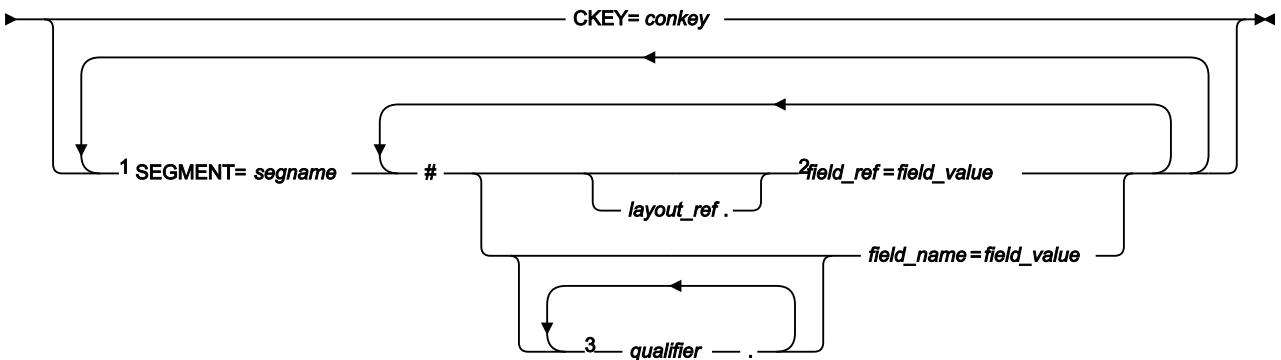
GETIMS 呼び出し (IMS セグメントの検索)

図 161. Syntax (without a view)



WHERE clause

➤ WHERE ➔



注:

¹ *field_ref* または *field_name* を使用するには、この関数呼び出しの前の VIEWIMS の呼び出しによって、ビューがすでにロードされている必要があります。

² *layout_ref* の修飾がない *field_ref* を指定した場合、*field_ref* は *segname* セグメントの最初のレイアウトに関連付けられます。

³ *field_name* を完全修飾するには、指定する最初の *qualifier* をレイアウト名にする必要があります。レイアウト名が指定されていない場合、FM/IMS は、グループ修飾子と *field_name* が見つかるまで、相対順序ですべてのレイアウトから *segname* セグメントを検索します。見つからない場合、エラー・メッセージが表示され、処理が終了します。

CHILD

現行セグメントの階層パス内の次のセグメントを検索します。SEGMENT=*getsegm*

も指定した場合には、GETIMS は現行セグメントの階層パスの中でその名前の次のセグメントを検索します。

conkey

検索するセグメントの連結キー。

field_name

テンプレートまたはビューに指定した、segname セグメント内のキー・フィールドの名前。VIEWIMS DESCRIBE

文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

field_ref

レイアウト内のフィールドのフィールド参照番号。VIEWIMS DESCRIBE

文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

field_value

field_ref または *field_name* によって指定したキー・フィールドの値。

FIRST

データベース内の WHERE 文節を満たす最初のセグメントを検索します。

getsegm

検索するセグメントの名前。CHILD も指定した場合には、GETIMS

はこの名前を持つ階層内の次の従属セグメントを検索します。指定しない場合のデフォルト値は NEXT であり、GETIMS は階層とは無関係に、この名前を持つ次のセグメントを検索します。

HOLD

ホールドを持つセグメントを検索します。このパラメーターは、GETIMS

呼び出しの後に、WHERE 文節のない REPLIMS 呼び出しが続くか、WHERE 文節のない DELIMS 呼び出しが続く場合にコーディングします。

このセグメントまたはそのいずれかの親が非固有のキーを持つか、キーを持たない場合、このパラメーターは必須です。これがないと、REPLIMS 呼び出しまたは DELIMS

呼び出しは失敗します。このセグメントおよびその親が固有キーを持つ場合は REPLIMS 呼び出しまたは DELIMS 呼び出しは失敗しませんが、このパラメーターをコーディングすると、EXEC での DL/I 呼び出しの実行回数が減り、EXEC が効率的に実行されるようになります。

layout_ref

segname セグメント内のレイアウトの相対番号。VIEWIMS DESCRIBE

文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷することで取得できます。

NEXT

データベース内の現行セグメントの後の次のセグメントを検索します。

PARENT

現行セグメントの親セグメントを検索します。

現行セグメントがルート・セグメントである場合には、GETIMS はその同じセグメントを検索します。この状況がループするのを防ぐために、FMSEGNM REXX 変数を使用して、現行セグメントの名前を検査することができます。

qualifier

フィールド名 (*field_name*) を特定する 1 つ以上の修飾子。最初の修飾子はセグメント・レイアウト名です。後続の修飾子 (ある場合) は、指定したフィールド名を特定するために使われるグループ・フィールドです。レイアウト名またはグループ・フィールドを省略すると、FM/IMS は指定された修飾子とフィールド名をセグメント・レイアウトから検索します。



注: レイアウト名とグループ・フィールドは、VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

ROOT

現行セグメントの階層パス内のルート・セグメントを検索します。

segname

検索するセグメントの階層パス内のセグメントの名前。

TOP

データベース内の最初のルート・セグメントを検索します。

正常に行われればゼロを戻し、そうでなければゼロ以外を戻します。4 の戻りコードは、以下の 1 つの理由によってセグメントが見つからなかったことを示します。

- WHERE 文節によって指定されたセグメントが存在しません。
- GETIMS('NEXT') がデータベースの終わりに達しました。
- GETIMS('CHILD') が階層パスの終わりに達しました (現行セグメントには子がありません)。

FM/IMS で使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域が検出された場合、GETIMS 関数は戻りコード 8 を受け取り、ISPF 変数 FMSTATUS は、以下の IMS 状況コードを示します。

FH

使用不可の DEDB 領域。

BA

使用不可の HALDB 区画。

4 でないゼロ以外の戻りコードの場合には、FMSTATUS REXX 変数の DL/I 状況コードを検査して、障害の原因を判別してください。

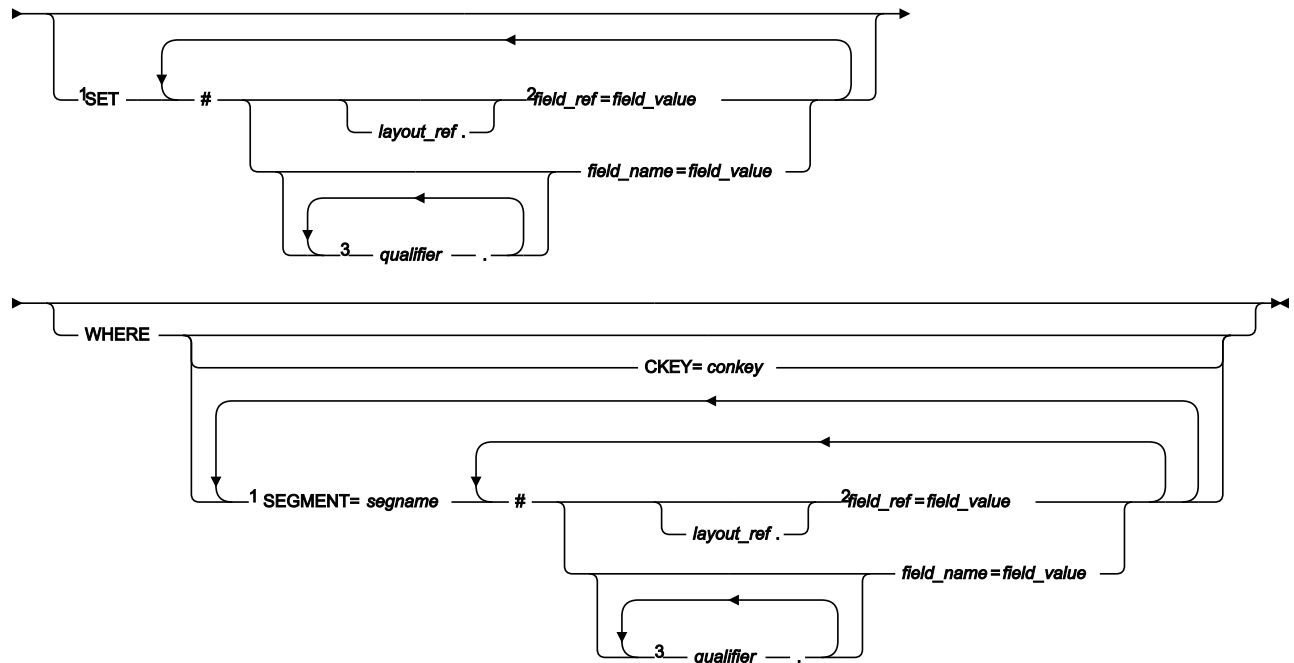
正常に行われた場合には、GETIMS は検索されたセグメントの内容を INREC および OUTREC REXX 変数に渡します。

IEB の GETIMS 使用例

```
:  
$$FILEM IEB  
:  
$$FILEM PROC=*  
filerc = VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE')  
  
filerc = GETIMS('NEXT')  
filerc = GETIMS()  
  
filerc = GETIMS('SEGMENT=NSTREET ',  
                ' WHERE SEGMENT=SUBURB #SUBURB-NAME=CITY BEACH ',  
                'SEGMENT=NSTREET #2=FLOREAT BEACH ')  
  
filerc = GETIMS('SEGMENT=NSTREET ',  
                ' WHERE CKEY=CITY BEACH          FLOREAT BEACH ')  
  
/ +  
:
```

ISRTIMS 呼び出し (IMS セグメントの挿入)

図 162. Syntax

▶ ISRTIMS — (SEGMENT= *inssegm* →

注:

¹ *field_ref* または *field_name* を使用するには、この関数呼び出しの前の VIEWIMS の呼び出しによって、ビューがすでにロードされている必要があります。

² *layout_ref* の修飾がない *field_ref* を指定した場合、SET 文節で指定されていれば、*field_ref* は、*inssegm* セグメントの最初のレイアウトに関連付けられ、WHERE 文節で指定されていれば *segname* セグメントの最初のレイアウトに関連付けられます。

³ *field_name* を完全修飾するには、指定する最初の *qualifier* をレイアウト名にする必要があります。レイアウト名が指定されていない場合、FM/IMS は、グループ修飾子と *field_name* が見つかるまで、相対順序ですべてのレイアウトからセグメントを検索します。見つからない場合、エラー・メッセージが表示され、処理が終了します。

conkey

挿入するセグメントの親の連結キー。

field_name

フィールド名。

field_ref

レイアウト内のフィールドのフィールド参照番号。VIEWIMS DESCRIBE

文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

field_value

field_ref または *field_name* に指定したフィールドの値。

inssegm

挿入するセグメントの名前。これは、WHERE 文節に指定したセグメントの子であるか、あるいは WHERE 文節を省略した場合は、現行セグメントの子でなければなりません。

layout_ref

segname セグメント内のレイアウトの相対番号。VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷することで取得できます。

qualifier

フィールド名 (*field_name*) を特定する 1 つ以上の修飾子。最初の修飾子はセグメント・レイアウト名です。後続の修飾子 (ある場合は、指定したフィールド名を特定するために使われるグループ・フィールドです。レイアウト名またはグループ・フィールドを省略すると、FM/IMS は指定された修飾子とフィールド名をセグメント・レイアウトから検索します。



注: レイアウト名とグループ・フィールドは、VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

segname

挿入するセグメントの親の階層パス内のセグメントの名前。

正常に行われればゼロを戻し、そうでなければゼロ以外を戻します。

FM/IMS で使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域が検出された場合、ISRTIMS 関数は戻りコード 8 を受け取り、ISPF 変数 FMSTATUS は、以下の IMS 状況コードを示します。

FH

使用不可の DEDB 領域。

BA

使用不可の HALDB 区画。

現行セグメントの下に新規子セグメントを挿入するには、WHERE 文節を省略します。それ以外の場合には、WHERE 文節を使用して、挿入する新規の子セグメントの親を識別します。

OUTREC を新規セグメントの内容として使用するには、SET 文節を省略します。可変長セグメントを挿入する場合には、OUTREC の最初の 2 バイトでセグメントの長さを指定する必要があります。

それ以外の場合には、SET 文節を使用して、新規セグメントのフィールド値を指定します。

IEB の ISRTIMS 使用例


```

:
$$FILEM IEB
:
$$FILEM PROC=*

filerc = VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE')

filerc = GETIMS('NEXT')
filerc = GETIMS('SEGMENT=SUBURB ',
                ' WHERE SEGMENT=SUBURB #SUBURB-NAME=CITY BEACH')

/* Insert using OUTREC */

OUTREC = "FLOREAT RESERVE"
filerc = ISRTIMS('SEGMENT=NSTREET')

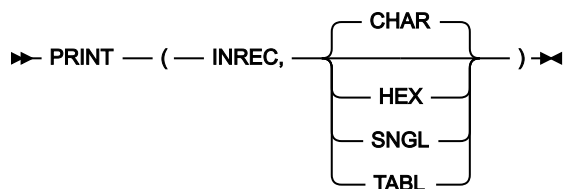
/* Insert using SET */

filerc = ISRTIMS('SEGMENT=NSTREET ',
                ' SET #2=FLOREAT RESERVE ',
                ' WHERE SEGMENT=SUBURB #SUBURB-NAME=CITY BEACH')

/+
:

```

PRINT 呼び出し (IMS セグメントの印刷)



正常に行われればゼロを戻し、そうでなければゼロ以外を戻します。

INREC 変数に保管されたセグメントの内容を以下の 1 つの形式で印刷します。

CHAR

セグメントを IMS データベースに保管されたままの状態です印刷します。

HEX

3 行のデータを印刷します。最初の行には、それぞれのバイトの文字表現が示されます。2 行目と 3 行目には、それぞれのバイトの 16 進値が示されます。

SNGL

セグメントを個々のフィールドに縦方向に分割して、報告書に印刷します。

TABL

セグメントを個々のフィールドに横方向に分割して、報告書に印刷します。

INREC 変数には、現行セグメントのデータが入ります。

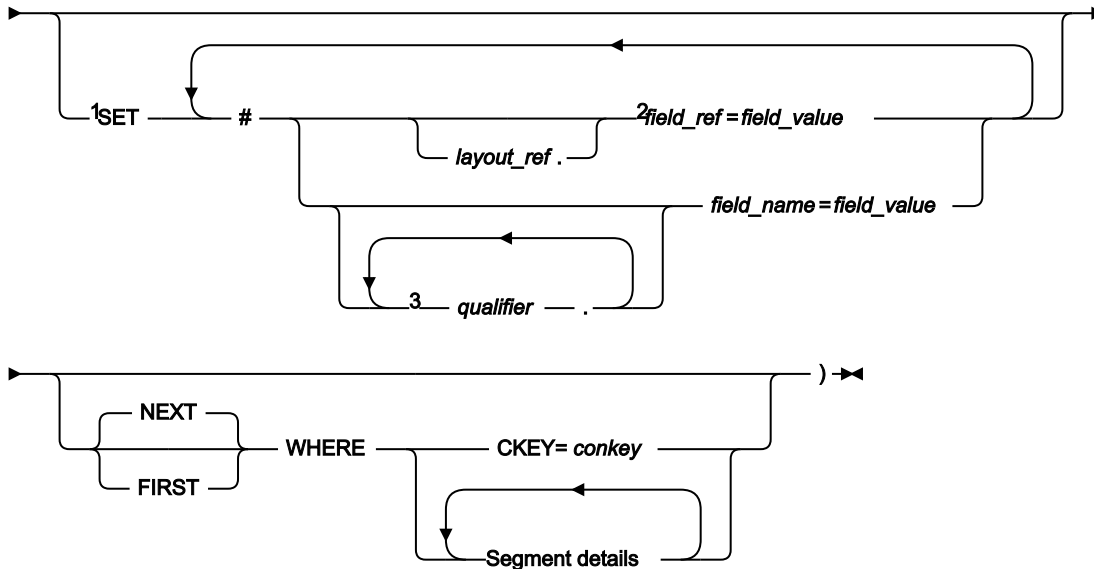
SNGL または TABL 形式で印刷するには、この関数呼び出しの前の VIEWIMS の呼び出しによって、ビューがすでにロードされている必要があります。

IEB の PRINT 使用例

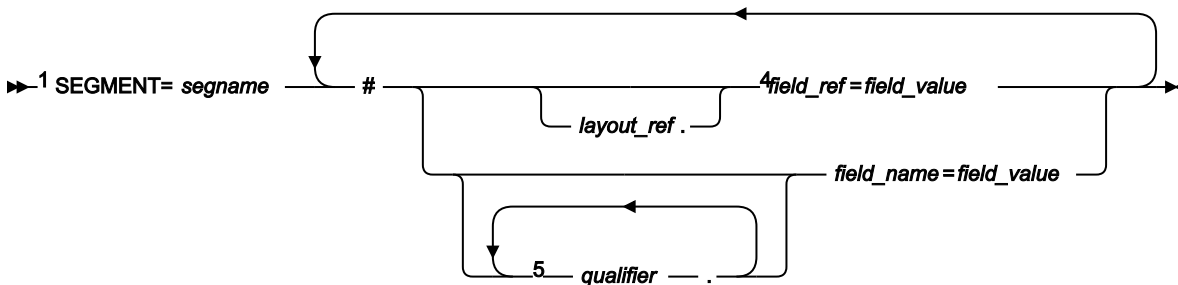
```
:  
$$FILEM IEB  
:  
$$FILEM PROC=*  
  
filerc = VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE')  
  
filerc = GETIMS('SEGMENT=SUBURB ',  
               ' WHERE SEGMENT=SUBURB #SUBURB-NAME=CITY BEACH')  
PRINT(INREC,CHAR)  
PRINT(INREC,HEX)  
PRINT(INREC,SNGL)  
PRINT(INREC,TABL)  
/+  
:
```

REPLIMS 呼び出し (IMS セグメントの置換)

図 163. Syntax

▶▶ REPLIMS — (SEGMENT= *repsegm* →

Segment details



注:

¹ *field_ref* または *field_name* を使用するには、この関数呼び出しの前の VIEWIMS の呼び出しによって、ビューがすでにロードされている必要があります。

² *layout_ref* の修飾がない *field_ref* を指定した場合、*field_ref* は、置き換えられる *repsegm* セグメントの現在のレイアウトに関連付けられます。

³ フィールド名を完全修飾するには、指定する最初の *qualifier* をレイアウト名にする必要があります。レイアウト名が指定されていない場合、FM/IMS は、置き換えられる *repsegm* セグメントを現在のレイアウトから検索します。グループ修飾子とフィールド名が見つからない場合、FM/IMS は、グループ修飾子とフィールド名が見つかるまで、相対順序ですべてのレイアウトから *repsegm* セグメントを検索します。見つからない場合、エラー・メッセージが表示され、処理が終了します。

⁴ *layout_ref* の修飾がない *field_ref* を指定した場合、*field_ref* は *segname* セグメントの最初のレイアウトに関連付けられます。

⁵ フィールド名を完全修飾するには、指定する最初の *qualifier* をレイアウト名にする必要があります。レイアウト名が指定されていない場合、FM/IMS は、グループ修飾子とフィールド名が見つかるまで、相対順序ですべてのレイアウトから *segname* セグメントを検索します。見つからない場合、エラー・メッセージが表示され、処理が終了します。

conkey

更新するセグメントの連結キー。

field_name

フィールド名。

field_ref

レイアウト内のフィールドのフィールド参照番号。VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

field_value

field_ref または *field_name* に指定したフィールドの値。

FIRST

データベース内の WHERE 文節を満たす最初のセグメントを置き換えます。

layout_ref

segname セグメント内のレイアウトの相対番号。VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷することで取得できます。

NEXT

データベース内の WHERE 文節を満たす現行セグメントの後の次のセグメントを置き換えます。

qualifier

フィールド名 (*field_name*) を特定する 1 つ以上の修飾子。最初の修飾子はセグメント・レイアウト名です。後続の修飾子 (ある場合) は、指定したフィールド名を特定するために使われるグループ・フィールドです。

レイアウト名またはグループ・フィールドを省略すると、FM/IMS は次のように処理します。

- SET 文節の場合、指定された修飾子とフィールド名を現在の *repsegm* セグメント・レイアウトから検索します。見つからない場合、すべての *repsegm* セグメント・レイアウトから、指定された修飾子とフィールド名を検索します。
- WHERE 文節の場合、指定された修飾子とフィールド名をすべての *segname* セグメント・レイアウトから検索します。



注: レイアウト名とグループ・フィールドは、VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

repsegm

更新するセグメントの名前。

segname

更新するセグメントの階層パス内のセグメントの名前。

正常に行われればゼロを戻し、そうでなければゼロ以外を戻します。

FM/IMS で使用不可の HALDB 区画または DEDB 領域が検出された場合、REPLIMS 関数は戻りコード 8 を受け取り、ISPF 変数 FMSTATUS は、以下の IMS 状況コードを示します。

FH

使用不可の DEDB 領域。

BA

使用不可の HALDB 区画。

現行セグメントの内容を更新するには、WHERE 文節を省略します。それ以外の場合には、WHERE 文節を使用して、更新するセグメントを識別します。

セグメントの現在の内容を OUTREC 変数の内容で置き換えるには、SET 文節を省略します。可変長セグメントを挿入する場合には、OUTREC の最初の 2 バイトでセグメントの長さを指定する必要があります。

それ以外の場合には、SET 文節を使用して、セグメントの置換フィールド値を指定します。

OUTREC を使用すると、セグメントの内容全体が置き換えられます。SET 文節を使用すると、指定したフィールド値だけを置き換えることができます。他のフィールド値は変更されないまま残されます。

IEB の REPLIMS 使用例

```

:
$$FILEM IEB
:
$$FILEM PROC=*

filerc = VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE')

filerc = GETIMS('SEGMENT=SUBURB ',
               ' WHERE SEGMENT=SUBURB #SUBURB-NAME=CITY BEACH')

/* Replace a segment using OUTREC */
/* or */
OUTREC = OVERLAY('6168',outrec,19)
filerc = REPLIMS('SEGMENT=SUBURB')
/* or */
/* Replace a segment using SET */

rtrc=REPLIMS('SEGMENT=SUBURB ',
            'SET #POST-CODE=6168',
            ' WHERE SEGMENT=SUBURB #SUBURB-NAME=CITY BEACH')

/+
:

```

SAVEIMS 呼び出し (IMS 変更のコミット)

図 164. Syntax

▶▶ SAVEIMS() ◀◀

注:

正常に行われればゼロを戻し、そうでなければゼロ以外を戻します。

IEB の SAVEIMS 使用例

```
:  
$$FILEM IEB  
:  
$$FILEM PROC=*  
  
filerc = GETIMS('SEGMENT=SUBURB NEXT',  
  
OUTREC = OVERLAY('1968',outrec,19)  
filerc = REPLIMS('SEGMENT=SUBURB')  
filerc = SAVEIMS()  
:
```

SETRC 呼び出し (ジョブ・ステップ戻りコードの設定)

この IEB 呼び出しでは、ジョブ・ステップ戻りコードを指定値に設定します。これにより、FM/IMS が REXX プロシージャを終了することはありません。

呼び出しの形式は次のとおりです。

図 165. Syntax

▶▶ SETRC(*rc*) ◀◀

rc

戻りコード。

IEB の SETRC 使用例

```
RTRC=GETIMS(USING_VIEW)  
IF RTRC<>0 THEN DO  
  SETRC(21)  
  EXIT  
END
```

VIEWIMS 呼び出し (ビューのロードまたは作成)

図 166. Syntax (to load an existing view or template)

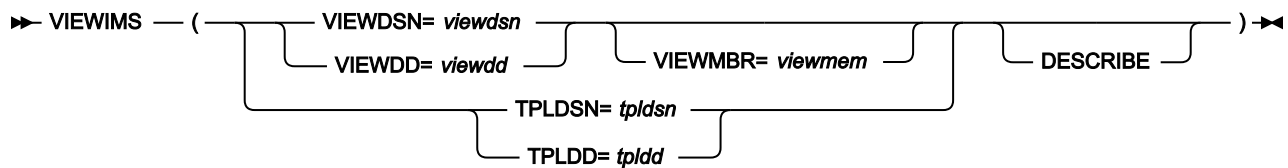
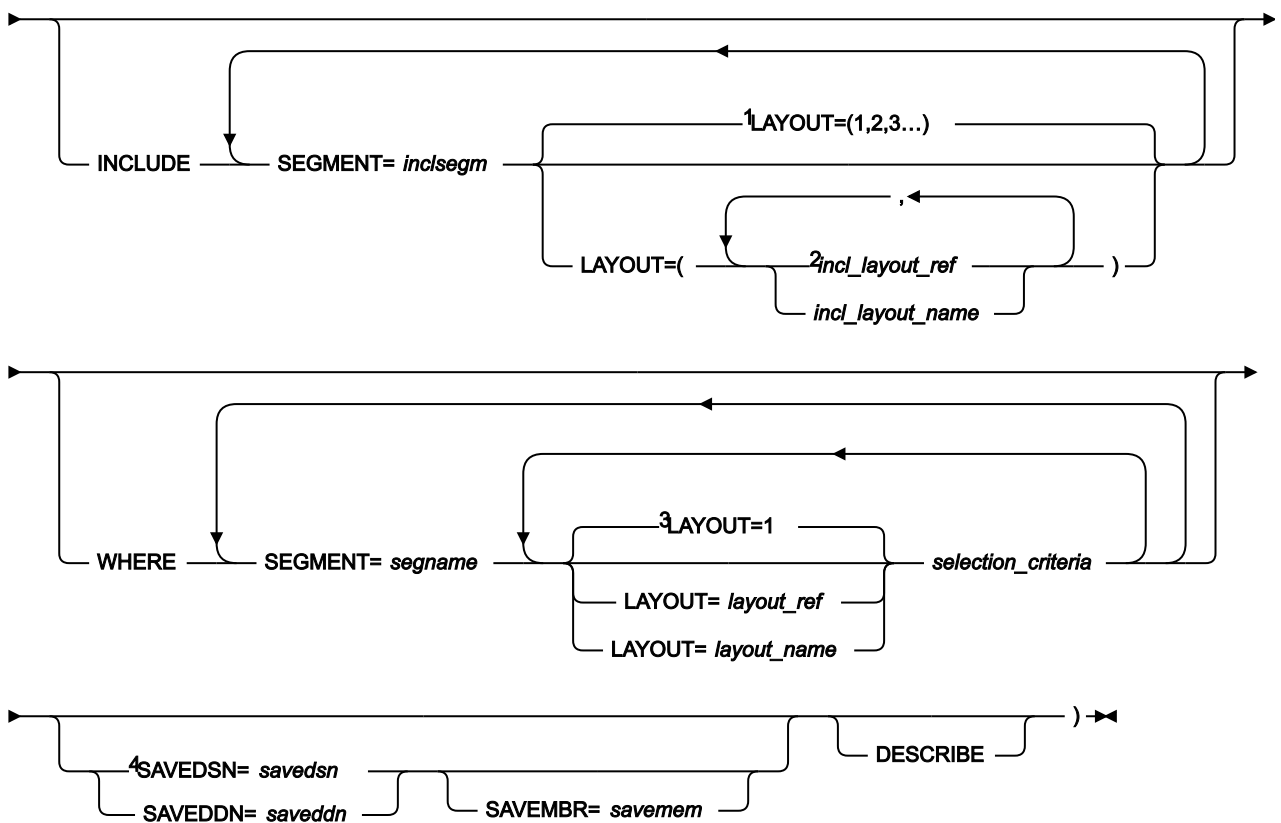


図 167. Syntax (to create a new view from an existing template)



注:

¹ レイアウト・パラメーターが指定されていない場合、`inclsegm` のすべてのレイアウトが選択されます。

² `incl_layout_ref` または `incl_layout_name` を 1 つだけ指定する場合、括弧は必要ありません。

³ レイアウト・パラメーターが指定されていない場合、選択基準は `segname` セグメントの最初のレイアウトに適用されます。

⁴ 古い形式の `SAVE` は引き続きサポートされます (`SAVE DSN=savedsn` または `SAVE DDN=saveddn` とオプションの `MBR=savemem`)。

DESCRIBE パラメーターを指定すると、VIEWIMS は、データベース内の各セグメント用のビューまたはテンプレートの構造を示す報告書を印刷します。

incl_layout_name

ビューで選択される *inclsegm* セグメント・レイアウトの名前。VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

incl_layout_ref

ビューで選択される *inclsegm* セグメント内のレイアウトの相対番号。VIEWIMS DESCRIBE 文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷することで取得できます。

inclsegm

ビューに組み込むセグメントの名前。

USING_VIEW パラメーターを指定して GETIMS

関数を呼び出した場合には、ビューに組み込まれるセグメントだけが検索されます。INCLUDE 文節を完全に省略した場合には、すべてのセグメントがビューに組み込まれます。

layout_name

選択基準を適用する *segname* セグメント内のレイアウトの名前。VIEWIMS

文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷するか、ビューまたはテンプレートをオンラインでブラウズすることで取得できます。

layout_ref

選択基準を適用するセグメント内のレイアウトの相対番号。VIEWIMS DESCRIBE

文節を使用してビューまたはテンプレートを印刷することで取得できます。

savedd

ビューを保管するデータ・セットが含まれている DDNAME。データ・セットが PDS である場合、SAVEMBR=*savemem* パラメーターも指定する必要があります。

savedsn

ビューを保管するデータ・セットの名前。データ・セットが PDS である場合、MBR=*savemem* パラメーターも指定する必要があります。

savemem

DSN、SAVEDSN、DDN、または SAVEDDN パラメーターで指定されている、ビューを保管する PDS のメンバー。

segname

フィールド選択基準を指定するセグメントの名前。

selection_criteria

segname セグメントのフィールド選択基準。USING_VIEW パラメーターを指定した GETIMS 関数の呼び出しによって検索されるセグメントのオカレンスを決定します。

フィールド選択基準の指定について詳しくは、[フィールド選択基準の指定 ページ 122](#)を参照してください。

tpldd

ビューを作成するための基準として使用されるテンプレート・データ・セットが含まれている DDNAME。DBD のためのテンプレートは、既に FM/IMS でオンラインで作成されているはずで

tpldsn

ビューを作成するための基準として使用されるテンプレートが含まれているデータ・セットの名前。DBD のためのテンプレートは、既に FM/IMS でオンラインで作成されているはずで

viewdd

以下のいずれかを含む DDNAME。

- ビューを含む順次データ・セット。
- ビューを含む PDS。次に、メンバー名を *viewmem* に指定します。

viewdsn

以下の1つ。

- ビューが含まれている順次データ・セットの名前。
- ビューが含まれている PDS の名前。(次に、メンバー名を *viewmem* に指定します。)

viewmem

ビューのメンバー名。

IEB の VIEWIMS 使用例

```

:
$$FILEM IEB
:
$$FILEM PROC=*
rtrc=VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE ',
'SAVE DSN=FMN.IMS.IVP.VIEW MBR=ZZ999 ',
'INCLUDE SEGMENT=SUBURB ',
' SEGMENT=LINKSTR ',
'WHERE SEGMENT=SUBURB substr(#2,1,1)=F ',
' SEGMENT=LINKSTR #4=ST ',
'DESCRIBE')
/+
:

```

例

以下は、静的 PSB を使用した DLI モードでの IMS データベースの保守の例です。

```

//FMNIEDIT 'Static PSB edit'
//*
//FILEMAN EXEC PGM=FMN1IMSB
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*,RECFM=FBA,LRECL=133
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*

```

```
//FMN1JIN DD DISP=SHR,DSN=FMN.SFMNSLIB
//FMNIMSIN DD *
$$FILEM IEB REGNTYPE=DLI,
$$FILEM PSBTYPE=STATIC,
$$FILEM PSBDSN=IMSV1210.FMI.PSBLIB,
$$FILEM PSBMEM=PUPA,
$$FILEM PCBNUM=(3,2,1),
$$FILEM DBDDSN=FMN.IVS.IVP.DBDLIB,
$$FILEM DBDDSN2=IMSV1210.FMI.DBDLIB,
$$FILEM DBDMEM=DJ2E,
$$FILEM IMSID=IF42,
$$FILEM PROC=*
filerc = VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IVS.IVP.TEMPLATE')
filerc = VIEWPOSN('POSSEGM=NSTREET ',
                  'SEGMENT=SUBURB #SUBURB-NAME=CITY BEACH ',
                  'SEGMENT=NSTREET #2=FLOREAT BEACH ')

filerc = GETIMS(NEXT USING_VIEW)

/* Insert an NSTREET segment using SET */
filerc = ISRTIMS('SEGMENT=NSTREET ',
                ' SET #2=FLOREAT PARK ')

/+
/*
/** -----
/** -- Database data sets --
/** -----
//DJ2E DD DSN=FMN.IVS.IVP.DB.DJ2E,DISP=SHR
//DJ2F DD DSN=FMN.IVS.IVP.DB.DJ2F,DISP=SHR
//DJ3E DD DSN=FMN.IVS.IVP.DB.DJ3E,DISP=SHR
//DJ3F DD DSN=FMN.IVS.IVP.DB.DJ3F,DISP=SHR
//DJ1E DD DSN=FMN.IVS.IVP.DB.DJ1E,DISP=SHR
//DJ1F DD DSN=FMN.IVS.IVP.DB.DJ1F,DISP=SHR
```

IEB および IBB で定義された REXX 関数を使用する際の一般的ヒント

各関数の説明でこの情報を繰り返さないために、以下にいくつかの一般的ヒントを示します。

「現行」セグメントとはなにか？

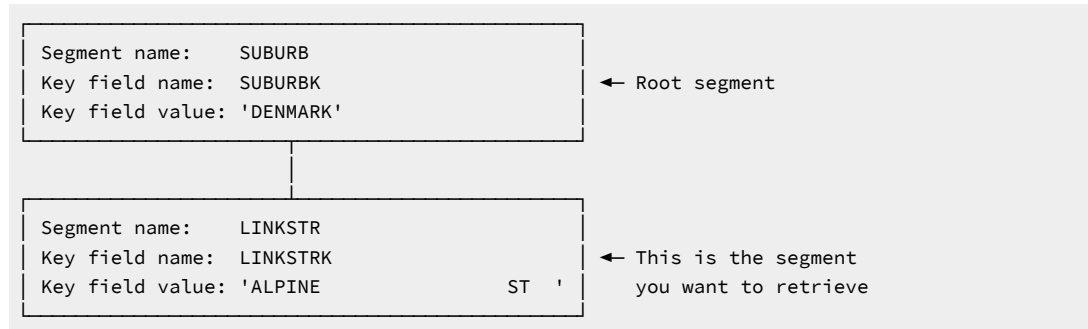
複数の関数の説明で「現行」セグメントについて言及されています。これは、GETIMS、ISRTIMS、または REPLIMS 関数によって検索、挿入、または置換された最新のセグメントを意味します。

キー値の指定によるセグメントの探索

DELIMS、GETIMS、ISRTIMS、および REPLIMS 関数では、WHERE 文節を使用して、キー値に従ってセグメントを探索することができます。WHERE 文節で、以下のいずれかを指定できます。

- 単一パラメーターとしての完全な連結キーである CKEY。
- 目的のセグメントの階層パスにおける 1 つ以上のレベルのセグメント名およびキー・フィールド (別個のパラメーターとして)。

例えば、以下のセグメント階層があるとします。



この場合は、以下のように指定します。

```
GETIMS('SEGMENT=LINKSTR ',
      'WHERE SEGMENT=SUBURB #SUBURBK=DENMARK ',
      'SEGMENT=LINKSTR #LINKSTRK=ALPINE          ST')
```

階層パス内のすべてのセグメントを指定する必要はありません。例えば、データベース全体で、「ALPINE ST」のキーを持つ LINKSTR セグメントが 1 つのみ存在する場合、以下のように指定できます。

```
GETIMS('SEGMENT=LINKSTR',
      'WHERE SEGMENT=LINKSTR #LINKSTRK=ALPINE          ST')
```

「ALPINE ST」が DENMARK のキーを持った SUBURB セグメントの下の最初または唯一の LINKSTR セグメントである場合は、以下のように指定できます。

```
GETIMS('SEGMENT=LINKSTR',
      'WHERE SEGMENT=SUBURB #SUBURBK=DENMARK')
```

フィールドは、フィールド名 (前の例のように) か、それらの参照番号 (#1, #2 など) のいずれかを使用して指定することができます。フィールド値は、等号 (=) 記号の直後か、= 記号の後の引用符内に置くことができます。フィールド値に先行スペースまたは後続スペースが含まれる場合は、引用符が必要です。これ以外のスペースは無視されます。次のように、

```
GETIMS('SEGMENT=LINKSTR',
      'WHERE SEGMENT=LINKSTR #LINKSTRK=ALPINE          ST')
```

および

```
GETIMS('SEGMENT=LINKSTR',
      'WHERE SEGMENT=LINKSTR #LINKSTRK=  ALPINE          ST  ')
```

は、同一のものと評価されますが、

```
GETIMS('SEGMENT=LINKSTR',
      'WHERE SEGMENT=LINKSTR #LINKSTRK="  ALPINE          ST  "')
```

は、別のものと評価されます。

これらの参照番号をリストするには、この DBD のテンプレートを表示する FM/IMS ISPF パネル、または IEB を指定した VIEWIMS DESCRIBE REXX 関数を使用することができます。

同じ WHERE 文節で、フィールド名と参照番号を混在させることができます。

このタイプの WHERE 文節を使用する前に、VIEWIMS 関数を呼び出し、使用する DBD に一致するテンプレートまたはビューをロードする必要があります。これによって、WHERE 文節で、フィールド名または参照番号と、IMS セグメント内の該当するフィールドを一致させることができます。

GETIMS、DELIMS、または REPLIMS 呼び出しに WHERE 文節がある場合、この前に FIRST パラメーターまたは NEXT パラメーターを指定することができます。FIRST パラメーターを指定する場合、呼び出しは、データベース内の WHERE 文節を満たす最初のセグメントを探索します。NEXT パラメーターを指定する場合、呼び出しは、データベース内の WHERE 文節を満たす現行セグメントの後の次のセグメントを探索します。デフォルトは、NEXT です。

WHERE 文節が ISRTIMS 呼び出しにある場合、呼び出しは、データベース内の WHERE 文節を満たす最初のセグメントを探索します。

直前の現行セグメントの参照

FMCONKEY REXX 変数には、直前の DELIMS、GETIMS、ISRTIMS、または REPLIMS 関数呼び出しによって削除、取得、挿入、置換されたセグメントの連結キーが含まれます。同じように、FMSEGNM REXX 変数にはそのセグメントの名前が含まれます。

後で FMCONKEY および FMSEGNM

値を使用する必要がある場合は、それらを独自に定義した変数に保管することができます。これらのユーザー定義変数は、SEGMENT および CKEY パラメーターとともに使用することができます。

filerc 変数の使用

「filerc」と呼ばれる変数は、いくつかの例で使用されます。この方式は、テストに使用できる REXX 戻りコードを取得する際に使用します。変数を任意の有効な REXX 名で呼ぶことができます。異なる文に異なる名前を使用することができます。また、戻りコードを使用しない場合は変数を使用する必要は全くありません。

この変数は DL/I 状況コードを保持しません。この目的では FMSTATUS が設定されています。

バッチ・ブラウズ (IBB)

目的

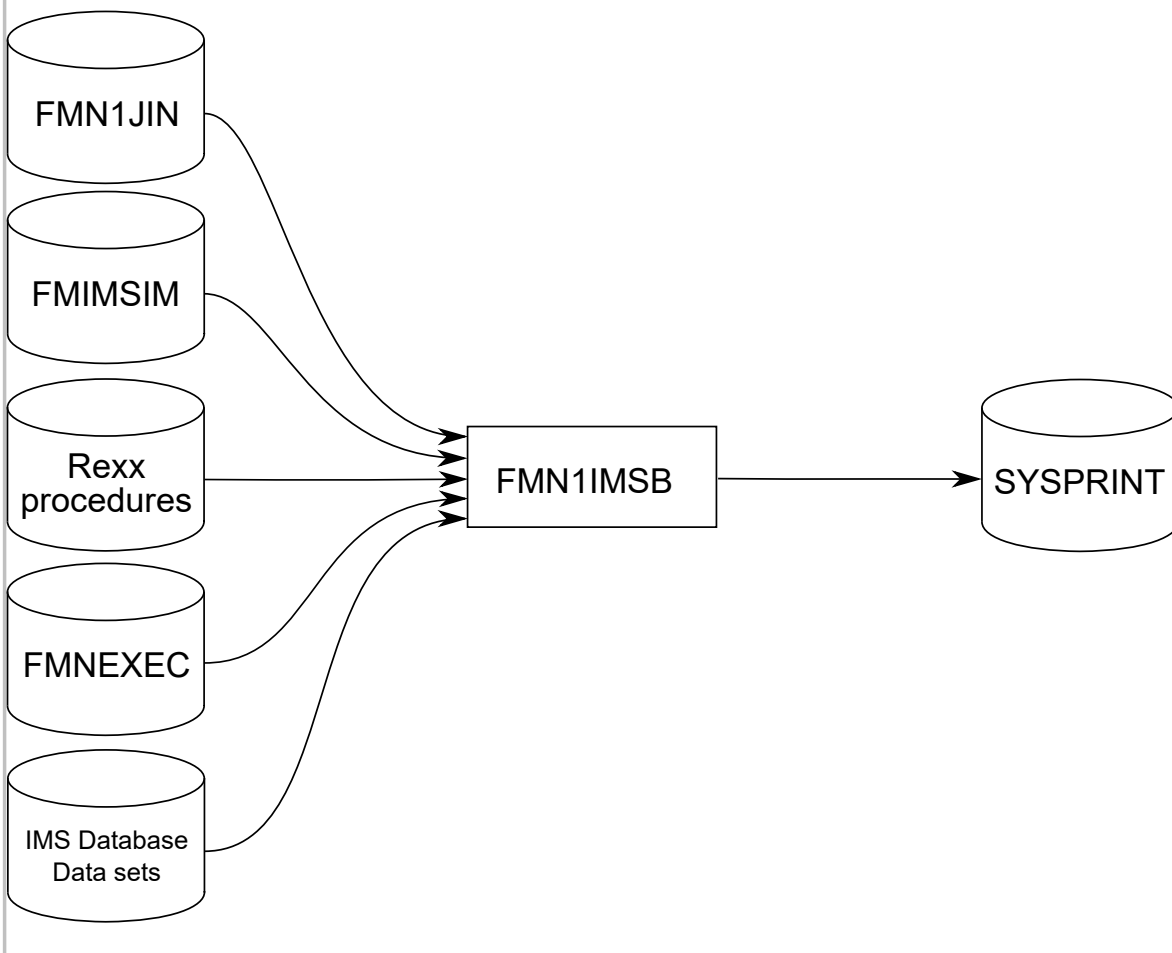
データベースのセグメントを表示または印刷することができる REXX プロシージャを実行します。このプロシージャで他の任意の有効な REXX を使用する以外に、IBB は、セグメントの検索や印刷、またはビューの作成に使用できるいくつかの新規の REXX 関数を定義します。

使用上の注意

IBB を使用する一般的なヒントについては、[IEB および IBB で定義された REXX 関数を使用する際の一般的なヒント ページ 670](#)を参照してください。filerc 変数の使用に関する注意点については、[filerc 変数の使用 ページ 672](#)を参照してください。

FM/IMS によって生成されるバッチ・ブラウズ JCL のフローは、以下の通りです。

図 168. バッチ・ブラウズ (IBB) ステップのフロー

**FMN1JIN**

FM/IMS スケルトン・ライブラリーを指します。この DD ステートメントは、HALDB データベースをブラウズするときだけに使用されます。

FMNIMSIN

バッチ・ブラウズの制御ステートメントが入っています。この制御ステートメントについては、以下で詳しく説明します。

IMS データベース・データ・セット

DLI モードでは、保守される IMS データベースに関連付けられた各 IMS データベース・データ・セットの DD が FM/IMS に組み込まれます。データベースに論理関係がある場合は、論理的に関係があるデータベースのデータ・セットを組み込む必要があります。

SYSPRINT

これには、IEB REXX プロシージャの実行中に FM/IMS によって出された FM/IMS メッセージが含まれます。

REXX プロシージャ

IMS データベースをバッチで表示するために実行される REXX exec。この exec は、IMS セグメントの読み取りを可能にする FM/IMS IEB 呼び出しと組み合わせた標準 REXX ステートメントから構成されます。

FMNIMSIN において、PROC=* が指定された場合、REXX プロシージャは、PROC=* パラメーターの後にインストリームで指定されます。

FMNIMSIN において、PROC=<member> が指定された場合、FMNEXEC ライブラリー内の REXX プロシージャ <member> が実行されます。

FMNEXEC

これには、PROC=<member> が FMNIMSIN パラメーターで指定された場合に実行されるメンバーが含まれます。

FMNIMSIN 制御ステートメント

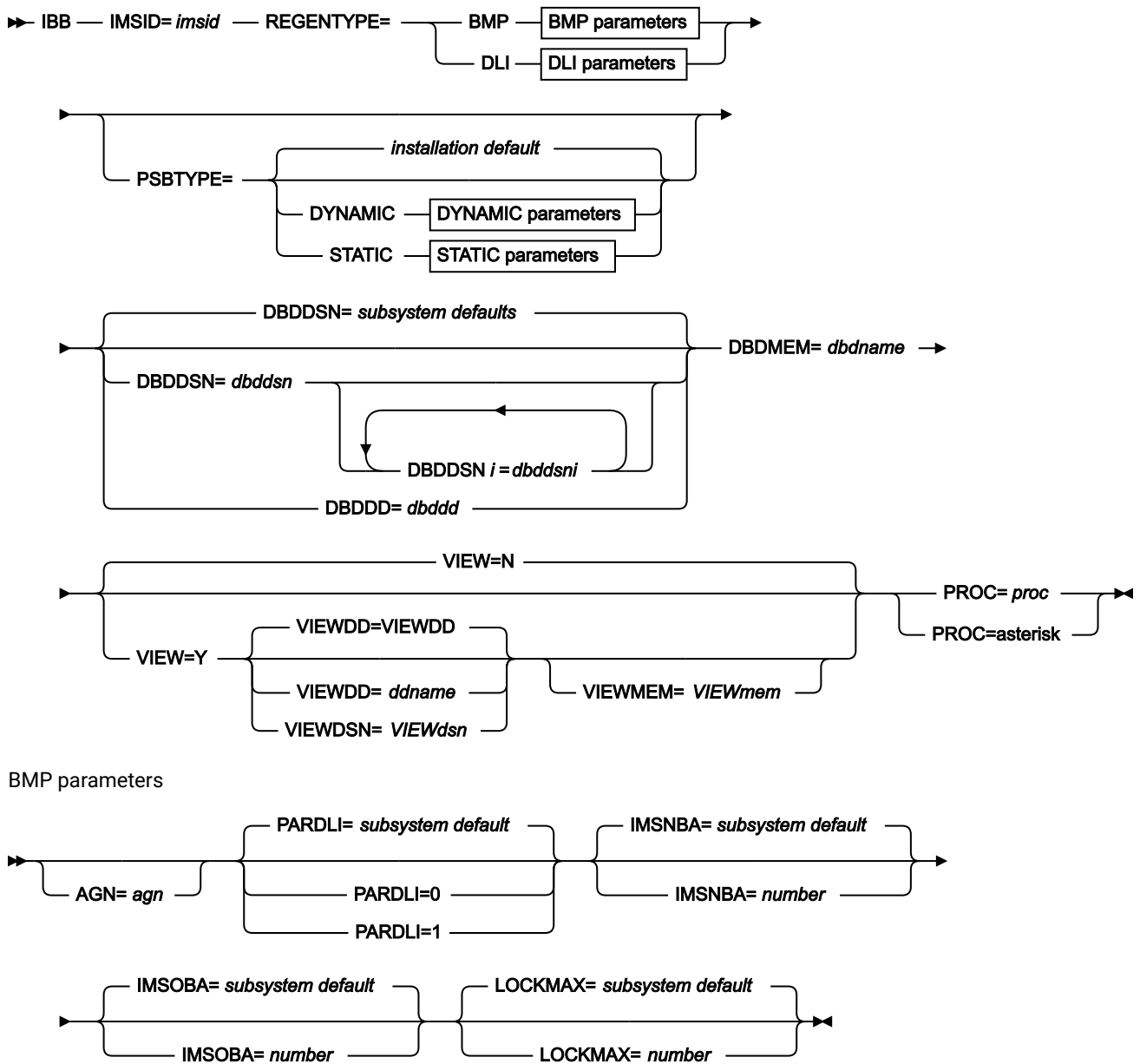
FMNIMSIN 制御ステートメントを使用して、以下を指定します。

- バッチ・ブラウズを BMP 領域で実行するか、DLI 領域で実行するか。
- 静的 PSB を使用するか、あるいは FM/IMS が動的 PSB を生成して IMS データを表示するか。
- 実行される IBB REXX プロシージャがインストリームか (PROC=*)、または FMNEXEC DD で指定されたライブラリーにあるか。

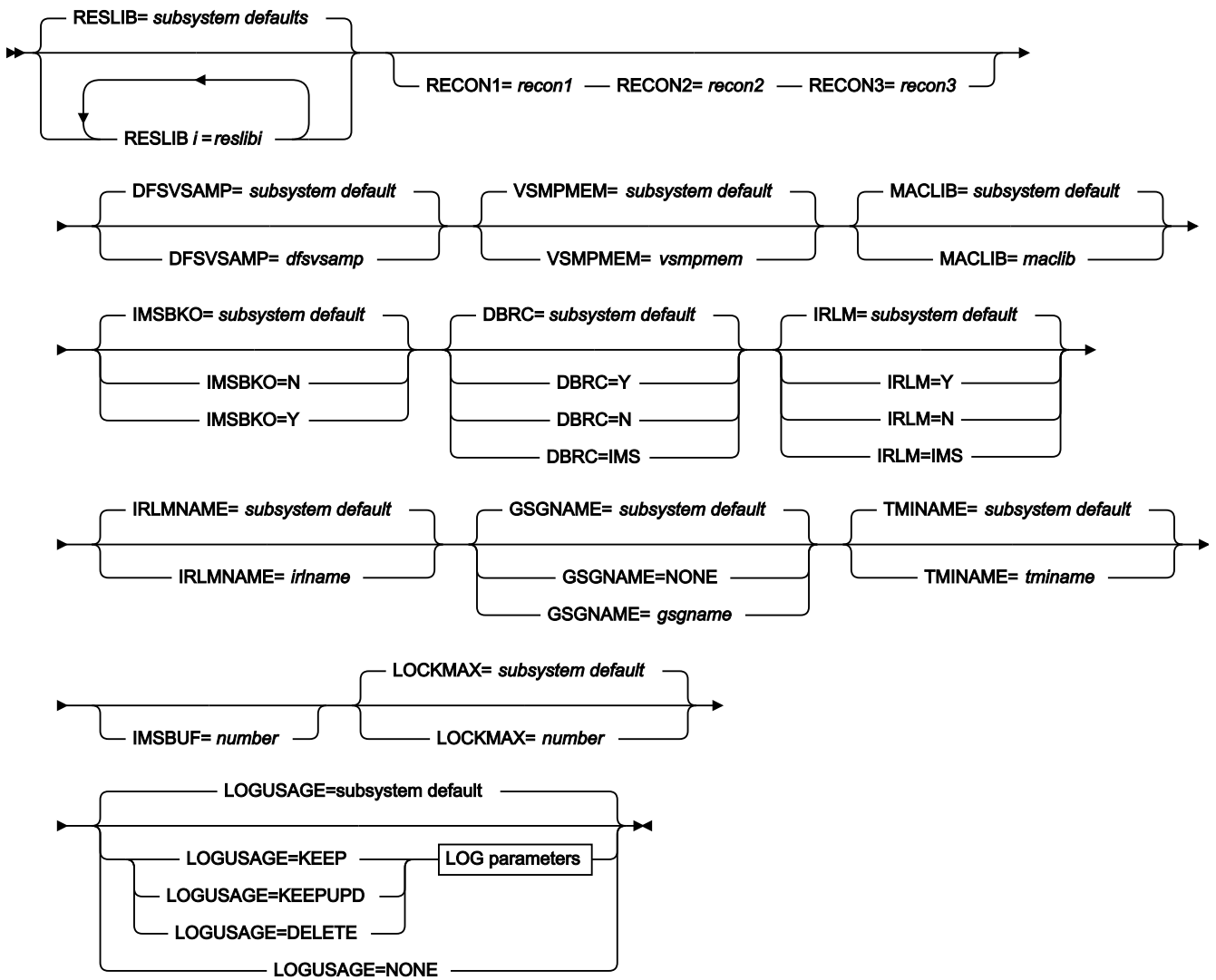
FMNIMSIN 内の各行は \$\$FILEM で始まり、最初の行には、FM/IMS によってバッチ・ブラウズが実行されることを指定するパラメーター IBB が含まれます。

```
$$FILEM IBB REGNTYPE=DLI,  
$$FILEM PSBTYPE=DYNAMIC,  
$$FILEM DBDDSN=FMN.IMS.IVP.DBDLIB,  
. . .
```

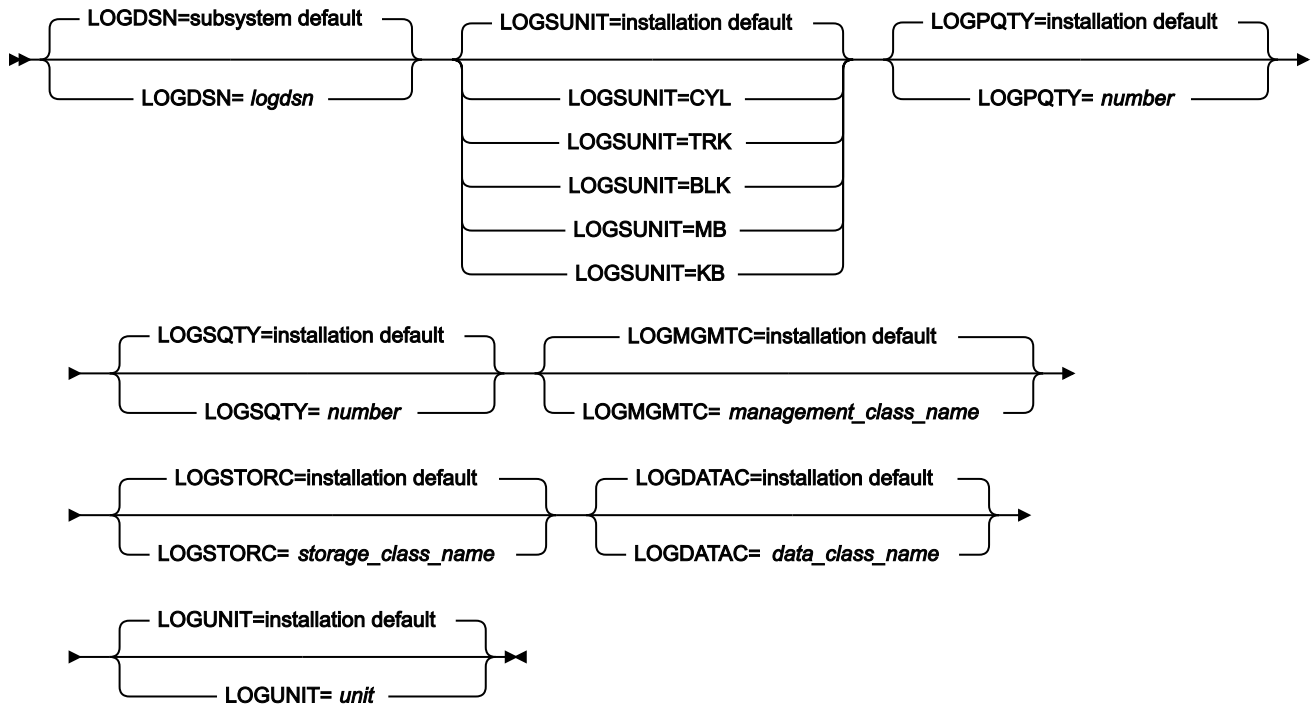
☒ 169. Syntax



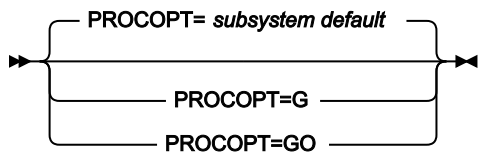
DLI parameters



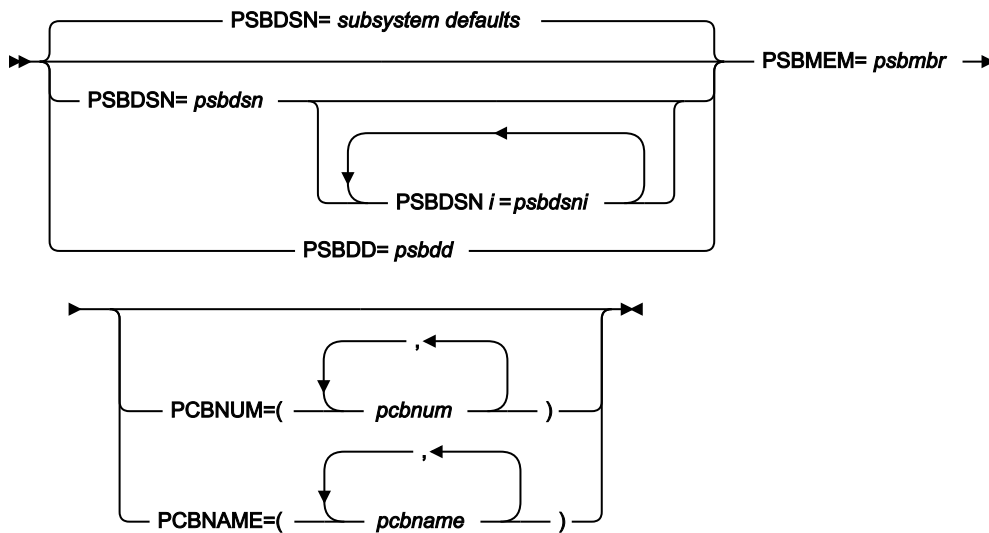
LOG parameters



DYNAMIC parameters



STATIC parameters



ここでは、VIEW、VIEWDD、VIEWDSN、VIEWMEM、および PROC パラメーターについて説明します。この構文図のその他のパラメーターはすべて、抽出 (IXB) 関数でも指定されます。これらの共通パラメーターについては、[抽出 \(IXB\) ページ 577](#) を参照してください。

View (ビュー)

オプション・パラメーター。バッチ・ブラウズがビューを使用するかどうかを指定します。

N

バッチ・ブラウズはビューを使用しません。

Y

バッチ・ブラウズはビューを使用します。Y を指定する場合は、以下の VIEWDD、VIEWDSN、および VIEWMEM の項目で示すように、使用するビューを指定する必要があります。

VIEWDD=*ddname*

バッチ・ブラウズで使用するビューを含む順次データ・セットまたは PDS(E) およびメンバーの DD ステートメントを指定します。デフォルトは、VIEWDD です。

VIEWDSN=*viewdsn*

バッチ・ブラウズが使用するビューを含んでいるデータ・セットの名前。順次データ・セットまたは PDS(E) が指定できます。PDS(E) を指定した場合は、パラメーターでは括弧でメンバー名も含めることができます。

VIEWMEM=*viewmem*

VIEWDSN または VIEWDD パラメーターで PDS(E) を指定し、メンバーを指定しない場合は必須です。バッチ・ブラウズで使用するビューを含んでいる PDS(E) のメンバーを指定します。

PROC=*proc*

必須パラメーター。有効な値は、以下のとおりです。

PDS(E) メンバーの名前

バッチ・ブラウズで使用する REXX プロシージャが含まれている PDS(E) メンバーの名前。

このメンバーが含まれている PDS(E) を FMNEXEC DD ステートメントで指定します。バッチ編集の JCL にはこの DD ステートメントを含める必要があります。

アスタリスク (*)

REXX プロシージャがインラインであることを示します。

プロシージャは、FMNIMSIN 制御ステートメントの直後に続く SYSIN から読み取られます。インライン・プロシージャは、1 から 2 桁目にスラッシュと正符号 (/+) が入っているレコードによって終了されます。

REXX IBB 呼び出し

FM/IMS が起動する REXX プロシージャは、標準の TSO/E REXX を使用します。

一方、IMS セグメントの検索および印刷が可能な IBB 関数を呼び出すことができます。また、IBB REXX プロシージャで使用する FM/IMS ビューの作成も可能です。

この REXX プロシージャを実行し、IBB 関数を呼び出す際には、File Manager/IMS ビューを使用するか、または IMS 呼び出しを発行することによって、データベースを処理します。FM/IMS では、ビューの使用と不使用を切り替えることはできません。

IBB VIEWIMS 関数を使用するビューを**参照または作成**し、USING_VIEW パラメーターを指定して GETIMS を発行することによって、FM/IMS は、ビューで指定された選択基準を使用して関連セグメントを検索します。

ビューを使用しない場合、GETIMS 呼び出しを発行して関連セグメントを検索することによって、データベースをナビゲートする必要があります。この方法は、プログラムでの IMS 呼び出しの発行と同様です。セグメントの検索方法を決定する必要があります。

ビューを使用した検索

ビューを使用してデータベースを処理する場合、以下の IBB 呼び出しが使用可能です。構文はバッチ編集と同様です。

GETIMS 呼び出し (IMS セグメントの検索)

[GETIMS 呼び出し \(IMS セグメントの検索\) ページ 639](#) を参照してください。

PRINT 呼び出し (IMS セグメントの印刷)

[PRINT 呼び出し \(IMS セグメントの印刷\) ページ 642](#) を参照してください。

SETRC 呼び出し (ジョブ・ステップ戻りコードの設定)

[SETRC 呼び出し \(ジョブ・ステップ戻りコードの設定\) ページ 646](#) を参照してください。

VIEWIMS 呼び出し (ビューのロードまたは作成)

[VIEWIMS 呼び出し \(ビューのロードまたは作成\) ページ 646](#) を参照してください。

VIEWPOSN 呼び出し (IMS セグメントへの位置設定)

[VIEWPOSN 呼び出し \(IMS セグメントへの位置設定\) ページ 649](#) を参照してください。

ビューを使用しない検索

ビューを使用せずにデータベースを処理する場合、以下の IBB 呼び出しが使用可能です。特に説明する場合を除いて、構文はバッチ編集と同様です。

WHERE 文節でキー・フィールドを指定できるようにしたり、データベースを SNGL または TABL 形式で印刷したりするためにビューをロードできますが、GETIMS 呼び出しは USING_VIEW パラメーターなしで発行されます。

GETIMS 呼び出し (IMS セグメントの検索)

HOLD パラメーターが使用不可であることを除いて、バッチ編集と同様です。[GETIMS 呼び出し \(IMS セグメントの検索\) ページ 655](#) を参照してください。

PRINT 呼び出し (IMS セグメントの印刷)

[PRINT 呼び出し \(IMS セグメントの印刷\) ページ 661](#) を参照してください。

SETRC 呼び出し (ジョブ・ステップ戻りコードの設定)

[SETRC 呼び出し \(ジョブ・ステップ戻りコードの設定\) ページ 666](#) を参照してください。

VIEWIMS 呼び出し (ビューのロードまたは作成)

[VIEWIMS 呼び出し \(ビューのロードまたは作成\) ページ 667](#) を参照してください。

例

以下は、静的 PSB を使用した DLI モードでの IMS データベースの保守の例です。

```

FMNIBRWS 'Static PSB browse'
/*
//FILEMAN EXEC PGM=FMN1IMSB
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*,RECFM=FBA,LRECL=133
//FMNTSPRT DD SYSOUT=*
//FMN1JIN DD DISP=SHR,DSN=FMN.SFMNSLIB
//FMNIMSIN DD *
$$FILEM IBB REGNTYPE=DLI,
$$FILEM PSBTYPE=STATIC,
$$FILEM PSBDSN=IMSV1210.FMI.PSBLIB,
$$FILEM PSBMEM=PUPA,
$$FILEM PCBNUM=(3,2,1),
$$FILEM DBDDSN=FMN.IMS.IVP.DBDLIB,
$$FILEM DBDDSN2=IMSV1210.FMI.DBDLIB,
$$FILEM DBDMEM=DJ2E,
$$FILEM IMSID=IF42,
$$FILEM PROC=*
filerc = VIEWIMS('TPLDSN=FMN.IMS.IVP.TEMPLATE')
filerc = VIEWPOSN('POSSEGM=NSTREET ',
                 'SEGMENT=SUBURB #SUBURB-NAME=CITY BEACH ',
                 'SEGMENT=NSTREET #2=FLOREAT BEACH ')

Do while filerc=0
  filerc = GETIMS(NEXT USING_VIEW)
  PRINT(INREC,TABL)
END

/+
/*
/** -----
/** -- Database data sets --
/** -----
//DJ2E DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ2E,DISP=SHR
//DJ2F DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ2F,DISP=SHR
//DJ3E DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ3E,DISP=SHR
//DJ3F DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ3F,DISP=SHR
//DJ1E DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ1E,DISP=SHR
//DJ1F DD DSN=FMN.IMS.IVP.DB.DJ1F,DISP=SHR

```

初期化 (DIB)

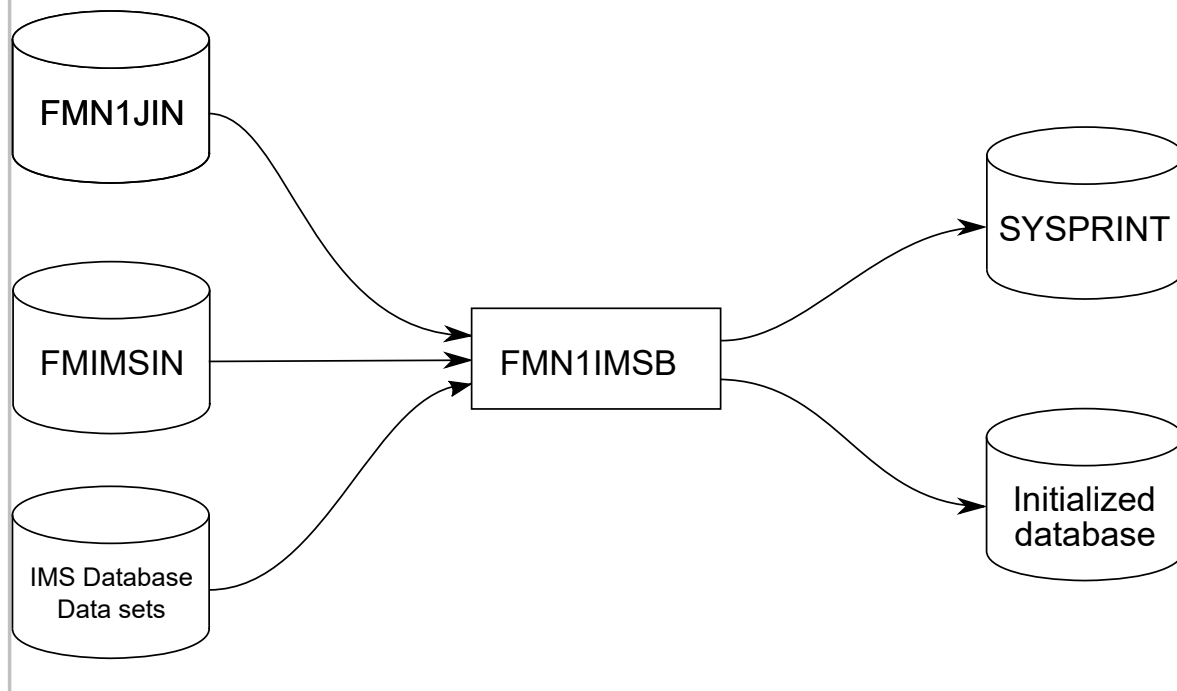
目的

「Initialize (初期化)」ダイアログは、初期化 (DIB) 関数を実行する JCL を生成します。初期化関数は、データベースを初期化します。

使用上の注意

FM/IMS によって作成されるバッチ・データベース初期化 JCL のフローは、以下の通りです。

図 170. 初期化 (DIB) ステップのフロー



FM/IMS は、IMS データベースに関連付けられた IMS データベース・データ・セットを初期化できます。

「Initialize Entry (項目の初期化)」パネルで「Delete/Define IMS data sets (IMS データ・セットの削除/定義)」を選択すると、FM/IMS は、「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルにリストされたデータ・セットのデータ・セット情報を検索し、これらのデータ・セットを削除または定義する JCL を作成します。

Initialize ユーティリティーは、以下のタイプの IMS データベースに実行することができます。

完全な機能

- HDAM、階層直接アクセス方式
- HIDAM、階層索引直接アクセス方式
- HISAM、階層索引順次アクセス方式
- SHISAM、単純階層索引順次アクセス方式
- HSAM、階層順次アクセス方式
- SHSAM、単純階層順次アクセス方式

完全機能データベースの初期化処理は、データベースが2次索引または論理関係を持っているか、またはどちらも持っていないかによって異なります。

完全機能データベースを初期化する最も単純な手順は以下のとおりです。

1. データベースの初期化、ダミー・セグメントの挿入。
2. ダミー・セグメントの削除。

データベースが論理関係を持つ場合の手順は以下のとおりです。

1. 作業データ・セットの削除。
2. IMS Preorganisation ユーティリティ (DFSURPRO)。
3. データベースの初期化、ダミー・セグメントの挿入。
4. IMS データベース接頭部解決ユーティリティ (DFSURG10)。
5. IMS データベース接頭部更新ユーティリティ (DFSURGP0)。
6. ダミー・セグメントの削除。
7. 作業データ・セットの削除。

データベースが2次索引を持つ場合の手順は以下のとおりです。

1. 1. 作業データ・セットの削除。
2. IMS Preorganisation ユーティリティ (DFSURPRO)。
3. データベースの初期化、ダミー・セグメントの挿入。
4. IMS データベース接頭部解決ユーティリティ (DFSURG10)。
5. HISAM 再編成アンロード・ユーティリティ (DFSURUL0)。
6. HISAM 再編成ロード・ユーティリティ (DFSURRL0)。
7. ダミー・セグメントの削除。
8. 作業データ・セットの削除。

ファースト・パス

- DEDB、データ入力データベース (ファースト・パス)

DEDB の場合は、領域の初期化に IMS ユーティリティ DBFUMIN0 が使用されます。

HALDB

- PHDAM、区画に分割された階層直接アクセス方式 (HALDB)
- PHIDAM、区画に分割された階層索引直接アクセス方式 (HALDB)

HALDB データベースの場合は、データベースを初期化するステップは次のようになります。

1. 作業データ・セットの削除。
2. マスター HALDB データベースを PINIT に設定する (DSPURX00)。
3. 次の HALDB 区画を初期化する: IMS Preorganisation ユーティリティ (DFSURPRO)。

4. 「Submit image copy」が選択されている場合にのみ IMS イメージ・コピーを生成 (DSPURX00)。イメージ・コピーが実行されるまで HALDB 区画は使用できないことに注意してください。
5. 作業データ・セットの削除。

FMNIMSIN

初期化の制御ステートメントが入っています。この制御ステートメントについては、以下で詳しく説明します。

IMS データベース・データ・セット

DLI モードでは、印刷される IMS データベースに関連付けられた各 IMS データベース・データ・セットの DD が FM/IMS に組み込まれます。データベースに論理関係がある場合は、論理的に関係があるデータベースのデータ・セットを組み込む必要があります。

SYSPRINT

これには、印刷された IMS セグメントとともに、IMS データの抽出中に FM/IMS によって出された FM/IMS メッセージが含まれます。

FMN1JIN

FM/IMS スケルトン・ライブラリーを指します。この DD ステートメントは、HALDB データベースを初期化するときだけに使用されます。

FMNIMSIN 制御ステートメント

FMNIMSIN 制御ステートメントを使用して、関数で初期化するデータベースを指定します。この関数は DLI モードでのみ実行可能で、常に動的 PSB を使用します。

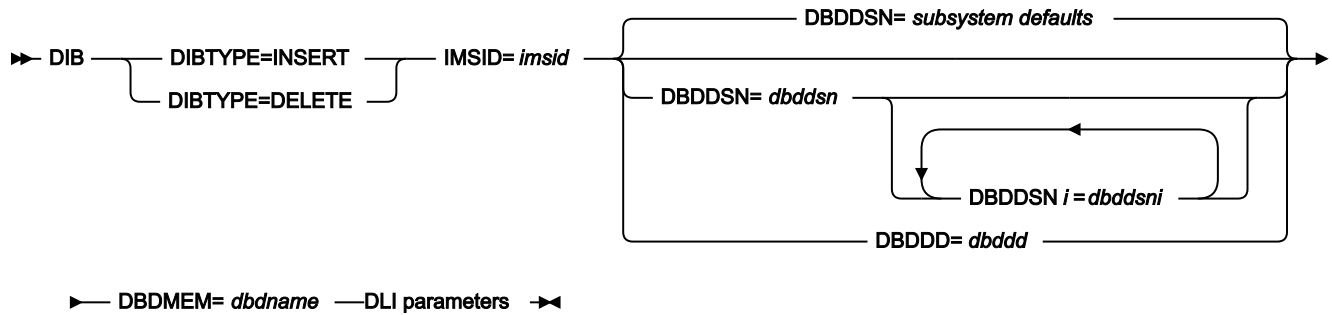
FMNIMSIN 内の各行は \$\$FILEM で始まり、最初の行には、FM/IMS がデータベースを初期化することを指定するパラメータ DIB が含まれます。

```

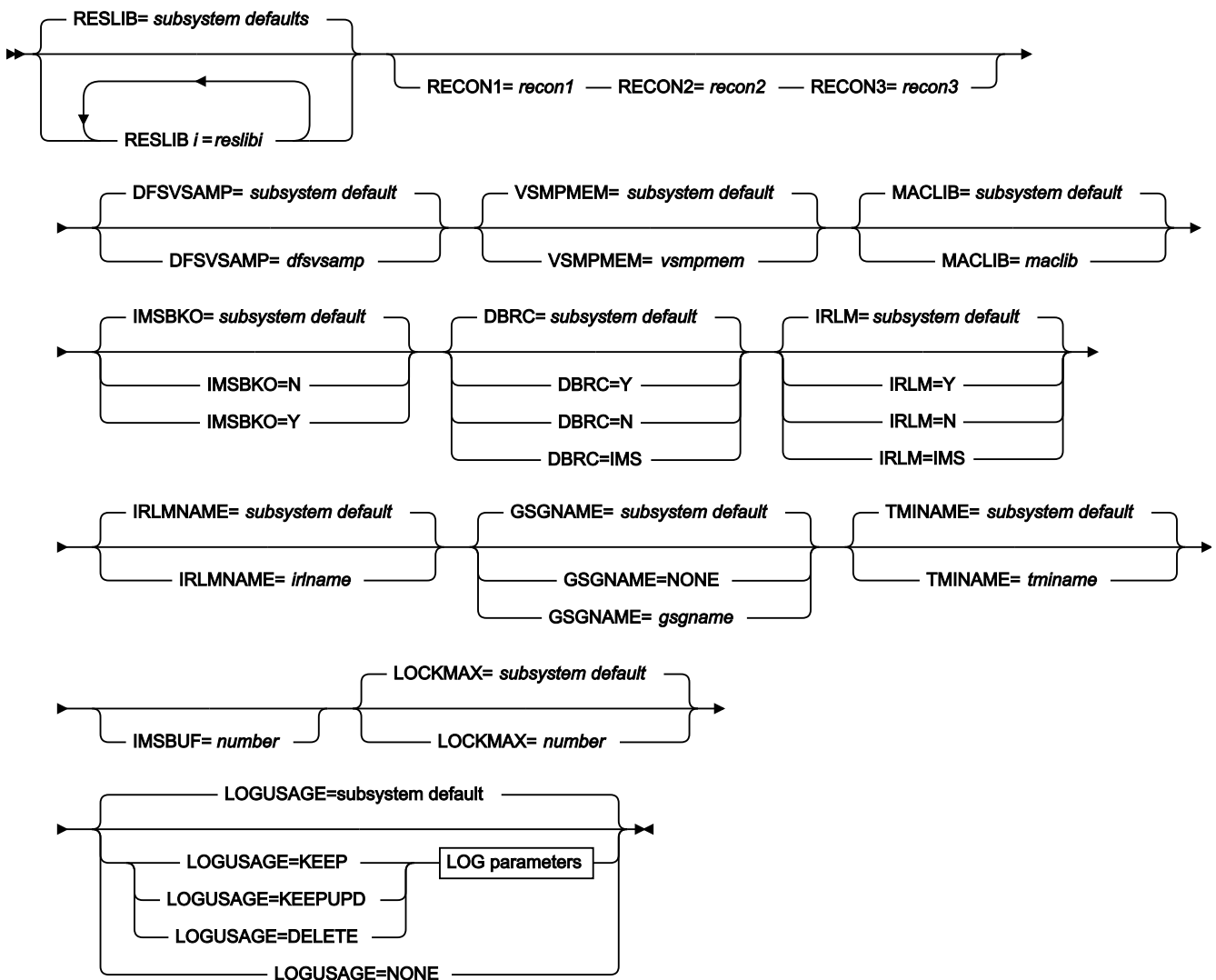
$$FILEM DIB REGNTYPE=DLI,
  $$FILEM      DBDDSN=FMN.IMS.IVP.DBDLIB,
. . .

```

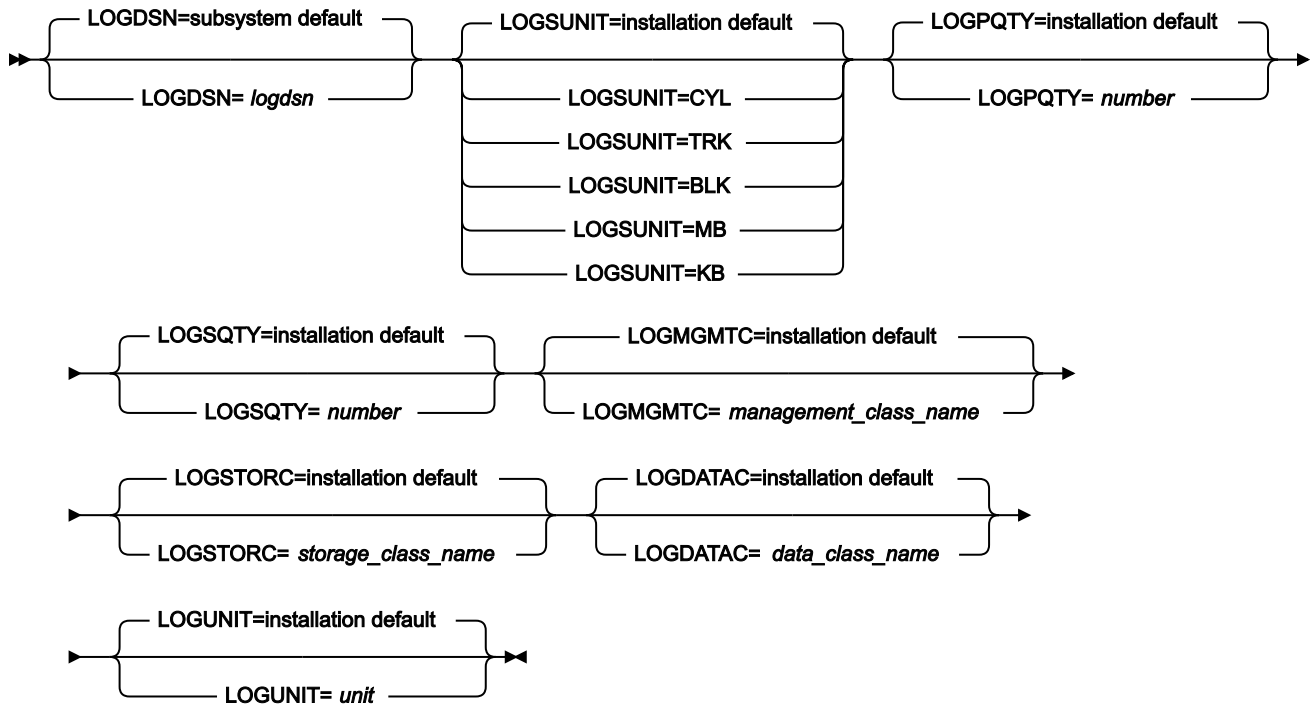
図 171. Syntax



DLI parameters



LOG parameters



ここでは、DIBTYPE パラメーターについて説明します。この構文ダイアグラムのその他の共通パラメーターの説明については、[抽出 \(IXB\) ページ 577](#) を参照してください。

DIBTYPE

実行する初期化ステップ。

INSERT (挿入)

データベースにダミー・セグメントを挿入するステップを指定します。

DELETE (削除)

データベースからダミー・セグメントを削除するステップを指定します。



注: 初期化 (DIB) バッチ関数を正常に実行するには、指定した IMS サブシステムで動的 PSB と DL/I バッチ処理領域の両方が使用できることが必要です。

例

論理関係または 2 次索引を使用しないで HDAM/OSAM データベースを初期化するために、生成された JCL の例があります。また、論理関係または 2 次索引を使用しないでデータベースを初期化することもできます。その場合は、必要なすべての JCL が生成されます。

```

/* -----
/*
/*      Delete/Define Database Data Sets
/*

```

```

/** -----
/**
/**PSDELETE EXEC PGM=IEFBR14
/**HDOU DD DSN=FMN.IMS.HDOU,
/**      DISP=(OLD,DELETE)
/**
/**PSALLOC EXEC PGM=IEFBR14
/**HDOU DD DSN=FMN.IMS.HDOU,
/**      DISP=(NEW,CATLG,DELETE),
/**      SPACE=(TRK,(1,1)),
/**      DCB=(RECFM=FBS,LRECL=2048,BLKSIZE=2048),
/**      DSORG=PS,
/**      MGMTCLAS=MCFM,
/**      UNIT=3390,
/**      STORCLAS=SCFM
/**
/**
/** -----
/**
/**      LOAD - INSERT DUMMY RECORDS
/**
/** -----
/**
/**TESTRC  IF (RC LE 4) THEN
/**FILEMAN EXEC PGM=FMN1IMSB
/**STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
/**SYSPRINT DD SYSOUT=*,RECFM=FBA,LRECL=133
/**FMNTSPRT DD SYSOUT=*
/**FMN1JIN DD DSN=FMN.SFMNSLIB,DISP=SHR
/**SYSTEM  DD SYSOUT=*
/**FMNIMSIN DD *
$$$FILEM DIB DIBTYPE=INSERT,
$$$FILEM  DBDDSN=FMN.IMS.IVP.DBDLIB,
$$$FILEM  DBDMEM=HDOU,
$$$FILEM  IMSID=IF52
/**
/**IEFRDER DD DUMMY
/** -----
/** -- Database datasets --
/** -----
/**HDOU DD DSN=FMN.IMS.HDOU,DISP=SHR
/**ENDRC  ENDIF
/**
/** -----
/**
/**      DELETE DUMMY RECORDS
/**
/** -----
/**
/**TESTRC  IF (RC LE 4) THEN
/**FILEMAN EXEC PGM=FMN1IMSB
/**STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
/**SYSPRINT DD SYSOUT=*,RECFM=FBA,LRECL=133
/**FMNTSPRT DD SYSOUT=*
/**FMN1JIN DD DSN=FMN.SFMNSLIB,DISP=SHR
/**SYSTEM  DD SYSOUT=*
/**FMNIMSIN DD *
$$$FILEM DIB DIBTYPE=DELETE,

```

```

$$$FILEM   DBDDSN=FMN.IMS.IVP.DBDLIB,
$$$FILEM   DBDMEM=HDOU,
$$$FILEM   IMSID=IF52
/*
//IEFRDTER DD DSN=&&LOGD,
//         UNIT=SYSALLDA,
//         SPACE=(TRK,(20,20),RLSE),
//         DCB=(RECFM=VB,LRECL=6140,BLKSIZE=6144),
//         DISP=(NEW,DELETE,DELETE)
//* -----
//* -- Database data sets --
//* -----
//HDOU DD DSN=FMN.IMS.HDOU,DISP=SHR
//*
//ENDRC     ENDIF

```

Print Audit Report (AUD)

目的

監査証跡報告書を作成します。

使用上の注意

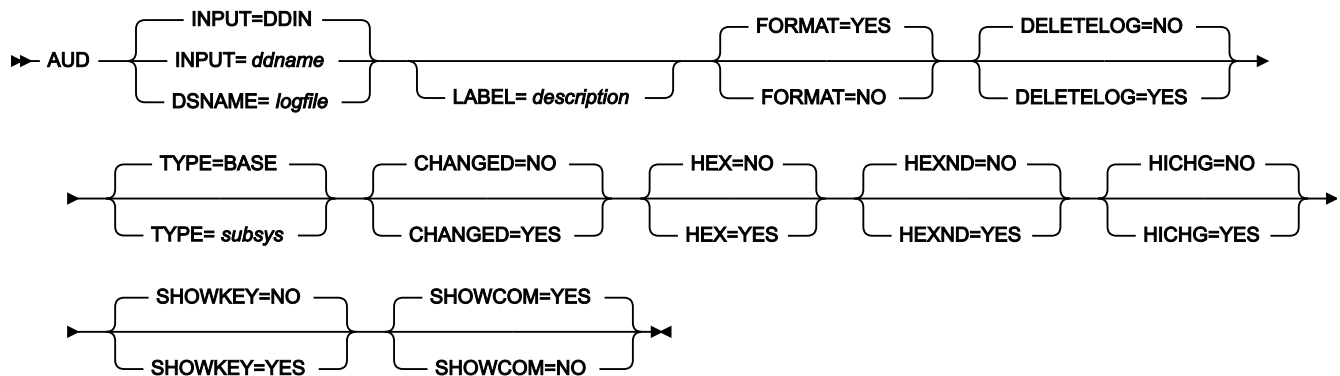
報告書の生成元となる監査証跡データ・セットの名前を指定する必要があります。

オプション

不定形式の報告書を印刷することを選択でき、監査対象の関数がテンプレートを使用した場合は、使用したテンプレートに従って形式設定された報告書を印刷することを選択できます。印刷後に監査証跡データ・セットを削除するかどうかも指定できます。監査証跡報告書を特定するのに役立つ説明を入力することもできます。

関連機能

なし。



INPUT=ddname

入力データ・セットまたは HFS ファイルの DD または TSO ALLOC ステートメントに対する参照を定義します。デフォルトは、DDIN です。

DSNAME=logfile

監査証跡データ・セットの名前を指定します。

LABEL=Description

監査証跡の記述 (オプション)。指定されたテキストは、報告書の始めに表示されます。マスクに空白が含まれている場合は、引用符で囲みます。

FORMAT

監査証跡報告書の形式設定を決定します。

YES

デフォルト。監査ログ・データ・セットにテンプレート・レコードが含まれる場合、報告書に印刷される IMS セグメント・データは、テンプレートにしたがって形式設定されます。監査ログ・データ・セットにテンプレート・レコードが含まれない場合、報告書に印刷される IMS セグメント・データは形式設定されません。

NO

報告書に印刷される IMS セグメント・データは形式設定されません。

DELETEDLOG

印刷後に監査証跡データ・セットを削除するかどうかを決定します。DD ステートメントを使用して割り振られたログ・データ・セットに対して、DELETEDLOG は使用できません。

NO

デフォルト。監査証跡データ・セットは削除されません。

YES

報告書が印刷された後に、監査証跡データ・セットが削除されます。

TYPE

常に IMS を指定します。

CHANGED

NO

デフォルト。更新された IMS セグメントのすべてのフィールドが印刷されます。

YES

変更された IMS セグメント・フィールドのみが印刷されます。

HEX=YES

標準フィールド表示の下に、UPDOWN 16 進数表示が生成されます。

HEXND=YES

非表示文字を含むフィールドに対してのみ、標準フィールド表示の下に、UPDOWN 16 進数表示が生成されます。

HICHG=YES

変更されたフィールドを強調表示します。フィールドが変更されたことを示すアスタリスクが、「変更前」データの左側に付けられます。

SHOWKEY=YES

CHANGED=YES

が選択されていても、キー・フィールドを表示します。キー・フィールド名の左側に「K」が表示されます。KSDS

データ・セットの場合、キー・フィールドは、キー域と交差する、またはキー域に含まれる基本フィールドです。



注: Db2® 監査報告書には使用しないでください。

SHOWCOM

コミットされていない更新、チェックポイント、およびロールバックが報告されるかどうかを制御します。

NO

監査ログ内のすべての監査イベントが報告されます。更新機能について、チェックポイント、ロールバック、およびコミットされたデータベース更新とコミットされていないデータベース更新の両方 (挿入、削除、置換) が報告されます。

YES

FM/IMS は、コミットされたデータベース更新 (挿入、削除、および置換) のみを報告します。

例

注: 次の 2 つの例は、同じ監査証跡の報告書です。

例 1: 監査ログ内のすべての監査イベントが報告される (SHOWCOM=NO)、不定形式監査報告書

```
//FMBAT EXEC PGM=FILEMGR
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//IDIOPTS DD DSN=FMN.IDIOPTS,DISP=SHR
//SYSIN DD *
$$$FILEM AUD ,
$$$FILEM TYPE=IMS,
$$$FILEM FORMAT=NO,
$$$FILEM SHOWCOM=NO,
$$$FILEM LABEL='EDIT THE SUBURB DATABASE',
$$$FILEM DSNNAME='FMNUSER.IMSAUDIT.D101104.T121752'
```

図 172. 監査ログ内のすべての監査イベントが報告される不定形式監査報告書 (パート 1/2)

```

IBM File Manager for z/OS IMS Component      Audit Trail Report
                                           Audit Trail Number 1

Subsystem: IF52
Database:  DJ2E

Audit Trail:
Data set name:  FMNUSER.IMSAUDIT.D101104.T121752
Description:    EDIT THE SUBURB DATABASE

0Audit trail number 1:
Function:       Edit
User ID:        FMNUSER
MVS system ID: FMD2
IMS subsystem:  IF52
Database:       DJ2E
DBD library:    FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB
PSB type:       Dynamic
Region type:    DLI
Template:       FMN.REGTEST.IMS.TEMPLATE.PLI(DJ2E)

0Event number 1:  DL/I batch processing program started on 10/11/0

0Event number 2:  Checkpoint FM00001 taken on 10/11/04 at 12.17.5
                  Updates since audit event 1 have been committed.

0Event number 3:  Segment replaced on 10/11/04 at 12.18.59
                  Segment name:  SUBURB Level: 1
                  Concatenated key: KORRELOCKING

0          Segment          1          2          3          4
Status  Start Length 123456789012345678901234567890123456789012345678
-----
0BEFORE    1      62 KORRELOCKING      6485 K6420174WYALKATCHEM 010
          DDDDCDDCDDC444444FFFF4DFFFFFFFEECDCECCD444FFF
          269953632957000000648502642017468132133854000010
          CHANGED *****-----*****

0AFTER          KORRELOCKING      6399 K6420174WYALKATCHEM 010
          DDDDCDDCDDC444444FFFF4DFFFFFFFEECDCECCD444FFF
          269953632957000000639902642017468132133854000010
          CHANGED *****-----*****

0Event number 4:  Segment deLeted on 10/11/04 at 12.19.52
                  Segment name:  LETRBOX Level: 2
                  Concatenated key: KORRELOCKING      6967

0          Segment          1          2          3          4
Status  Start Length 123456789012345678901234567890123456789012345678
-----

```


例 2: コミットされた更新のみが報告される (SHOWCOM=YES)、定様式監査報告書

```
//FMBAT EXEC PGM=FILEMGR
//STEPLIB DD DSN=FMN.SFMNMOD1,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//IDIOPTR DD DSN=FMN.IDIOPTR,DISP=SHR
//SYSIN DD *
$$$FILEM AUD ,
$$$FILEM TYPE=IMS,
$$$FILEM FORMAT=YES,
$$$FILEM HICHG=YES,
$$$FILEM SHOWCOM=YES,
$$$FILEM LABEL='EDIT THE SUBURB DATABASE',
$$$FILEM DSNAME='FMNUSER.IMSAUDIT.D101104.T121752'
```

図 174. コミットされた更新のみが報告される定様式監査報告書 (パート 1/2)

```
IBM File Manager for z/OS IMS Component      Audit Trail Report
                                           Audit Trail Number 1

Subsystem: IF52
Database:  DJ2E

Audit Trail:
Data set name:  FMNUSER.IMSAUDIT.D101104.T121752
Description:    EDIT THE SUBURB DATABASE

@Audit trail number 1:
Function:       Edit
User ID:        FMNUSER
MVS system ID:  FMD2
IMS subsystem:  IF52
Database:       DJ2E
DBD library:    FMN.REGTEST.IMS.DBDLIB
PSB type:       Dynamic
Region type:    DLI
Template:       FMN.REGTEST.IMS.TEMPLATE.PLI(DJ2E)

@Event number 1:  DL/I batch processing program started on 10/11/0

@Event number 2:  Segment replaced on 10/11/04 at 12.18.59
Segment name:     SUBURB Level: 1
Concatenated key: KORRELOCKING

@
Segment          1          2          3          4
Status  Start Length 123456789012345678901234567890123456789012345678
-----
1 SUBURB                AN    62
2 SUBURB_NAME           AN    18  KORRELOCKING
2 POST_CODE             ZD    4*  6485
2 SUBURB_TYPE           AN     1
2 PUBLIC_PHONE          AN     4  K642
2 DISTANCE_2_PERTH      ZD     4   174
2 CLOSEST_CENTRE        AN    14  WYALKATCHEM
2 DISTANCE_2_CENTRE     ZD     3   10
2 MAP_REFERENCE         AN     9
3 LATITUDE_DEGREE       ZD     2   31
3 LATITUDE_MINUTE       ZD     2   12
3 LONGITUDE_DEGREE      ZD     3  117
3 LONGITUDE_MINUTE      ZD     2   28
2 ACRONYM               AN     5  KORRE
```


図 175. コミットされた更新のみが報告される定様式監査報告書 (パート 2/2)

```

0** End of Segment Structure - Length = 62

0Event number 3:      Segment deleted on 10/11/04 at 12.19.52
  Segment name:      LETRBOX Level: 2
  Concatenated key:  KORRELOCKING      6967

0      Segment          1      2      3      4
Status  Start Length 123456789012345678901234567890123456789012345678
-----
1 LETTER_BOX          AN      34
2 KEY                 AN      34
3 POST_CODE          AN      4 6967
3 LOCATION           AN     30 WAY OUT IN THE BUSH

0** End of Segment Structure - Length = 34

IBM File Manager for z/OS IMS Component      Audit Trail Report
                                              Audit Trail Number 1

Subsystem: IF52
Database:  DJ2E

0Event number 4:      DL/I batch processing program ended on 10/11/04

0Audit trail number 1 statistics:
  Segments replaced:  1
  Segments inserted:  0
  Segments deleted:   1
  Total DB changes:   2
  Records skipped:    0

0End of audit trail number 1

-Audit trail report summary:
  No. of audit trails: 1
  Print format:        FORMATTED
  Lines per page:      60
  Changed fields only: NO

```

Appendix A. メッセージ

FM/IMSが発行するメッセージには、次の形式で一意的英数字 ID が付きます。

`FMNxannn`

各部の意味は以下のとおりです。

x

I または B。

a

英字。

nnn

3桁の数字。

バッチ機能でメッセージが発行される場合、ID はメッセージ・テキストの前に印刷されます。

オンライン機能でメッセージが発行される場合、メッセージとともに ID が表示されることはありません。ただし、コマンド行で `MSGID` と入力して Enter キーを押すことで、メッセージの ID を取得することができます。このコマンドは、画面に表示されている、最後に発行されたメッセージのメッセージ ID を表示します。

オンライン・メッセージの多くは、短メッセージと長メッセージで構成されています。短メッセージは、パネルの右上隅に表示されます。長メッセージは、短メッセージが表示されたときに F1 キーを押した場合にのみ表示されます。

この節では、FMNIannn 形式のメッセージの一部を英数字順にリストします。FMNBannn 形式のメッセージの詳細については、「File Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」の『File Manager メッセージ』の章を参照してください。

メッセージごとに、次の情報が示されます。

- メッセージ ID。
- メッセージ・テキスト。
- メッセージの説明
- 必要なユーザー応答

メッセージが短メッセージと長メッセージで構成されている場合、2つのメッセージ・テキストがハイフンで区切られています。メッセージには、1つ以上の変数が含まれていることがあります。変数の前にはアンパーサンド (&) が付いていません。

File Manager IMS メッセージ

FMNIA005

DFSMDA dynamic allocation member for database &DBNAME not found in the RESLIB data sets for subsystem &SSID.

説明 サブシステム &SSID の RESLIB データ・セットで、データベース &DBNAME の DFSMDA 動的割り振りメンバーが見つかりませんでした。ダイアログ入力パネルで指定したサブシステムが動的割り振りのみとして定義されている場合、メッ

セージはダイアログ入力パネルに表示されます。それ以外の場合、メッセージは「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネルに表示されます。

ユーザーの応答 データベース管理者にサブシステム &SSID の動的割り振りメンバーを含んでいるデータ・セットの名前を問い合わせ、[DLI Mode Data Sets 1 (DLI モード・データ・セット 1)] パネル(オプション 0.6.2) でこのデータ・セット名をサブシステム &SSID の RESLIB データ・セットのリストに含めてください。RESLIB データ・セット名フィールドが保護されている場合、FM/IMS 管理者に連絡して、このデータ・セット名をサブシステムの FMN1POPI マクロ・ステートメントに追加し、FM/IMS インストール・オプション・モジュールの再アセンブルとリンク・エディットを行うように依頼してください。または、サブシステムが動的割り振りのみとして定義されておらず、使用するデータベース・データ・セットの名前がわかっている場合は、「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」ペインにデータベース・データ・セット名を入力し、Enter キーを押すこともできます。

FMNIA006

DB data set &DSN dynamic allocation error; DYNALLOC reason code is X'&RSN'.

説明 データベース・データ・セット &DSN を割り振ろうとしましたが、失敗しました。X'&RSN' は、DYNALLOC マクロが返したエラー理由コードです。

ユーザーの応答 DYNALLOC エラー理由コードの説明については、*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide* を参照してください。この情報を使用して、データ・セットの割り振りができなかった原因を判別してください。

FMNIA010

Key change ignored - One or more key fields were overtyped.All changes on those lines have been ignored.

説明 REPL DL/I 呼び出しは、セグメントのキー・フィールド修正をサポートしていません。そのため、キー・フィールドが上書きされた場合、エディターはその変更を無視します。エディターは、その行に対するその他の変更もすべて無視して、上書きされる前の状態に復元します。

ユーザーの応答 上書きされた行を確認し、必要な場合、今度はキー・フィールドを上書きせずに必要な変更を再入力してください。

FMNIA011

Not VSAM - The DBD specifies VSAM for the access method.

説明 指定されたデータ・セットは非 VSAM データ・セットですが、DBD でアクセス方式として VSAM が指定されているため、VSAM データ・セットを指定する必要があります。

ユーザーの応答 データベース管理者に、正しいデータベース・データ・セット名を問い合わせてください。

FMNIA012

Not OSAM - The DBD specifies OSAM for the access method.

説明 指定されたデータ・セットは非 OSAM データ・セットですが、DBD でアクセス方式として OSAM が指定されているため、OSAM データ・セットを指定する必要があります。

ユーザーの応答 データベース管理者に、正しいデータベース・データ・セット名を問い合わせてください。

FMNIA013

Assembly of dynamic PSB failed with return code &RC.

説明 バッチ関数が生成していた動的 PSB の PSBGEN のアセンブリー・ステップは、戻りコード &RC で失敗しました。

ユーザーの応答

JCL に次の DD ステートメントを追加し、ジョブを再実行してください。

```
//FMN1PRT1 DD SYSOUT=*
```

ジョブ出力には PSBGEN アセンブリー・リストが含まれます。アセンブリー・リストを使用して、問題の原因を判別してください。

FMNIA014

Bind of dynamic PSB failed with return code &RC.

説明 バッチ関数が生成していた動的 PSB の PSBGEN のバインド・ステップは、戻りコード &RC で失敗しました。

ユーザーの応答

JCL に次の DD ステートメントを追加し、ジョブを再実行してください。

```
//FMN1PRT2 DD SYSOUT=*
```

ジョブ出力には PSBGEN バインド・リストが含まれます。バインド・リストを使用して、問題の原因を判別してください。

FMNIA015

IMS read failed - An attempt to read an IMS segment has failed.The function has been terminated.

説明 IMS セグメントを取り出そうとしましたが、失敗しました。失敗の原因は、IMS 異常終了、または入出力要求の実行中に発生したシステム入出力エラー、またはセキュリティー・エラーでした。

ユーザーの応答 失敗の原因の詳細については、このメッセージの前に発行されたメッセージを参照してください。

FMNIA016

IMS status code AI - A data management open error occurred.

説明 FM/IMS が発行した DL/I 呼び出しが、AI の状況コードを受け取りました。これは、データ管理のオープン・エラーが発生したことを示します。

ユーザーの応答

IMS Utilities Reference: Database and Transaction Manager の AI 状況コードの説明をお読みください。メッセージ DFS0730I が発行された場合、これがオープン失敗の原因を示します。以下のいずれかで、このメッセージを検索してください。

- 失敗したジョブのジョブ・ログ出力 (関数が、DLI モードで実行されたバッチ関数の場合)
- TSO/E セッションのジョブ・ログ (関数が、DLI モードで実行されたオンライン関数の場合)
- 制御領域または DLI/SAS 領域のジョブ・ログ (関数が、BMP モードで実行された場合)
- z/OS システム・ログ (BMP または DLI モードで実行されたバッチまたはオンライン関数の場合)

メッセージ DFS0730I で示される理由コードの説明については、「*IMS Messages and Codes Vol 1*」で、このメッセージの説明を参照してください。

FMNIA017

Invalid DBD - Member &DBNAME of DBD library &DSN does not contain a valid DBD for database &DBNAME.

説明 FM/IMS は、指定されたデータベース (&DBNAME) 用に DBD を必要とします。FM/IMS は、DBD を、ユーザーまたは管理者が指定した DBD ライブラリーから検索します。FM/IMS が検索する DBD ライブラリーは、選択したサブシステムに応じて異なります。FM/IMS が検索する DBD ライブラリーは、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) 上にリストされます。FM/IMS は、リストされている順番でこれらのライブラリーで検索を行い、指定されたデータベース名 (&DBNAME) が最初に見つかったメンバーを使用します。FM/IMS は、DBD ライブラリー &DSN でメンバー &DBNAME を見つけましたが、そのメンバーにデータベース &DBNAME 用の有効な DBD が含まれていないため、そのメンバーを使用できません。

ユーザーの応答 DBD ライブラリー &DSN 内のメンバー &DBNAME をデータベース &DBNAME 用の DBD と置き換えるか、または有効な DBD を含んだ DBD ライブラリーのみを組み込むように「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル上の DBD ライブラリーのリストを更新します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合のみ、このリストを更新することができます。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、「DBD Data Set Name (PSB データ・セット名)」パネルのフィールドは保護され、FM/IMS 管理者のみがこのリストを更新することができます。

FMNIA018

Invalid PSB - Member &PSBNAME of PSB library &DSN does not contain a valid PSB.

説明 FM/IMS 指定された名前 (&PSBNAME) の PSB を、ユーザーまたは管理者が指定した PSB ライブラリーから検索します。FM/IMS が検索する PSB ライブラリーは、選択したサブシステムに応じて異なります。FM/IMS が検索する PSB ライブラリーは、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) 上にリストされます。FM/IMS は、リストされている順番でこれらのライブラリーで検索を行い、指定された PSB 名 (&PSBNAME) が最初に見つかったメンバーを使用します。FM/IMS は、PSB ライブラリー &DSN でメンバー &PSBNAME を見つけましたが、そのメンバーに有効な PSB が含まれていないため、そのメンバーを使用できません。

ユーザーの応答 PSB ライブラリー &DSN 内のメンバー &PSBNAME を有効な PSB と置き換えるか、または有効な PSB を含んだ PSB ライブラリーのみを組み込むように「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル上の PSB ライブラリーのリストを更新します。サブシステムに固定の PSB ライブラリーがない場合のみ、このリストを更新することができます。サブシステムに固定の PSB ライブラリーがある場合、「PSB Data Set Name (PSB データ・セット名)」パネルのフィールドは保護され、FM/IMS 管理者のみがこのリストを更新することができます。

FMNIA019

Not a loadlib - The data set must be a load library.

説明 メッセージのとおりです。

ユーザーの応答 ロード・ライブラリーを指定してください。

FMNIA020

Edit of an index database is not supported.

説明 指定されたデータベースは、索引データベースです。FM/IMS では、分離したデータベースとして索引を編集することはサポートされていません。

ユーザーの応答 索引データベースを表示するだけの場合は、ブラウザ関数を使用してください。

FMNIA021

Template for database not in data set &DSN.

説明 (VIEWIMS 呼び出しの) TPLDSN パラメーターで指定された、または (こちらも VIEWIMS 呼び出しの) TPLDD パラメーターで指定された DD に割り振られたテンプレート・ライブラリー (&DSN) に、バッチ関数がアクセスするデータベースのテンプレートがありません。

ユーザーの応答 オプション 4.1 を使用してデータベースのテンプレートを作成し、データ・セット &DSN に保存するか、データベースのテンプレートがある別のテンプレート・ライブラリーを指定してください。

FMNIA023

Not an IMS template/view/criteria set - Basetemplate/DB2 template/view/criteria set/unknown object in this member/data set - not an IMS template/view/criteria set as is required.

説明 メッセージのとおりです。

ユーザーの応答 必要なオブジェクトが含まれているメンバーまたはデータ・セットを指定してください。

FMNIA024

No secondary indexes - There are no secondary indexes defined for this database.

説明 2次索引からデータベースへのアクセスを要求しましたが、このデータベースには2次索引がありません。

ユーザーの応答 「Secondary index (2次索引)」オプション・フィールドをブランクにしてください。

FMNIA026

IMS access denied - The IMS Initialization Exit has denied you access to the requested IMS resources.

説明 要求された IMS リソースにアクセスする権限がありません。IMS 初期化出口がアクセスを拒否しました。

ユーザーの応答 IMS リソースへのアクセス権限を得ることが正当であると思われる場合は、FM/IMS セキュリティー管理者に、必要なアクセス権限を要求してください。

FMNIA027

Access denied - The Database Data Set Allocation Exit denied your access to this database data set.

説明 このデータベース・データ・セットにアクセスする権限がありません。データベース・データ・セット割り振り出口がアクセスを拒否しました。

ユーザーの応答 このデータベース・データ・セットへのアクセス権限を得ることが正当であると思われる場合は、FM/IMS セキュリティー管理者に、必要なアクセス権限を要求してください。

FMNIA029

IMS log data set &DSN dynamic allocation error; DYNALLOC reason code=X'&RSN'.

説明 IMS ログ・データ・セット &DSN を割り振ろうとしましたが、失敗しました。X'&RSN' は、DYNALLOC マクロが返したエラー理由コードです。

ユーザーの応答 DYNALLOC エラー理由コードの説明については、*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide* を参照してください。この情報を使用して、データ・セットの割り振りができなかった原因を判別してください。

FMNIA030

DFSVSAMP data set &DSN dynamic allocation error; DYNALLOC reason code=X'&RSN'.

説明 DFSVSAMP データ・セット &DSN を割り振ろうとしましたが、失敗しました。X'&RSN' は、DYNALLOC マクロが返したエラー理由コードです。

ユーザーの応答 DYNALLOC エラー理由コードの説明については、*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide* を参照してください。この情報を使用して、データ・セットの割り振りができなかった原因を判別してください。

FMNIA031

There is aBasetemplate/IMS template/DB2 template/view/criteria set/unknown object in &DSN/&DSN(&MBR) - not an IMS template/view/criteria set as is required.

説明

印刷、抽出、バッチ編集、およびバッチ・ブラウズの関数が、このメッセージを発行します。印刷関数がメッセージを発行した場合、データ・セット &DSN またはデータ・セットとメンバー &DSN(MBR) は、VIEWDSN および VIEWMEM パラメーターまたは VIEWDD DD ステートメントで指定されています。抽出関数がメッセージを発行した場合、データ・セット &DSN またはデータ・セットとメンバー &DSN(MBR) は、CRITDSN および CRITMEM パラメーターまたは CRITDD DD ステートメントで指定されています。バッチ編集またはバッチ・ブラウズ関数がメッセージを発行した場合、データ・セット &DSN またはデータ・セットとメンバー &DSN(&MBR) は、以下のような場所で指定されています。

- IMS テンプレートを要求した場合、データ・セット &DSN は VIEWIMS 呼び出しの TPLDSN パラメーター、または TPLDD DD ステートメントで指定されています。
- ビューを要求した場合、データ・セット &DSN またはデータ・セットとメンバー &DSN(&MBR) は VIEWIMS 呼び出しの VIEWDSN および VIEWMEM パラメーター、FMNIMSIN 入力の VIEWDSN および VIEWMEM パラメーター、または VIEWDD DD ステートメントで指定されています。

ユーザーの応答 必要なオブジェクトが含まれているデータ・セットまたはデータ・セットとメンバーを指定してください。

FMNIA032

Create failed - Create failed because DBDLIB &DSN is not a PDS(E).Use option 4.1 or option 4.4 to update the DBDLIBS specified in the template.

説明 テンプレートで指定されている DBDLIB データ・セット (&DSN) が PDS(E) でないため、CT コマンド (テンプレートからのビュー/基準セットの作成) が失敗しました。

ユーザーの応答 オプション 4.1 またはオプション 4.4 を使用して、テンプレートで指定されている DBDLIB ライブラリー・リストを訂正してください。

FMNIA033

Create failed - Create failed because DBDLIB &DSN is not a load library.Use option 4.1 or option 4.4 to update the DBDLIBS specified in the template.

説明 テンプレートで指定されている DBDLIB データ・セット (&DSN) がロード・ライブラリーでないため、CT コマンド (テンプレートからのビュー/基準セットの作成) が失敗しました。

ユーザーの応答 オプション 4.1 またはオプション 4.4 を使用して、テンプレートで指定されている DBDLIB ライブラリー・リストを訂正してください。

FMNIA034

Create failed - Create failed because DBDLIB &DSN was not found in the catalog. Use option 4.1 or option 4.4 to update the DBDLIBs specified in the template.

説明 テンプレートで指定されている DBDLIB データ・セット (&DSN) がカタログで見つからなかったため、CT コマンド (テンプレートからのビュー/基準セットの作成) が失敗しました。

ユーザーの応答 オプション 4.1 またはオプション 4.4 を使用して、テンプレートで指定されている DBDLIB ライブラリー・リストを訂正してください。

FMNIA035

Invalid template - Found member &DBNAME in Template library &DSN. Expected it to be a template for database &DBNAME, but it was a Basetemplate/DB2 template/view/criteria set/unknown object.

説明 「View usage (ビューの使用)」または「Criteria usage (基準の使用)」で「New (新規)」を選択したため、この関数は、指定されたデータベース (&DBNAME) のテンプレートからのビューまたは基準セットの作成を試みます。FM/IMS は、テンプレートを、ユーザーまたは管理者が指定したテンプレート・ライブラリーから検索します。FM/IMS が検索するテンプレート・ライブラリーは、選択したサブシステムに応じて異なります。FM/IMS が検索するテンプレート・ライブラリーは、「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネル (オプション 0.6.8) 上にリストされます。FM/IMS は、指定された順番でこれらのライブラリーで検索を行い、指定されたデータベース名 (&DBNAME) が最初に見つかったメンバーを使用します。FM/IMS 指定されたデータベース名のメンバーを見つけましたが、そのメンバーがテンプレートではないため、そのメンバーを使用することができません。

ユーザーの応答 テンプレート・ライブラリー &DSN 内のメンバー &DBNAME をデータベース &DBNAME 用のテンプレートと置き換えるか、または有効なテンプレートを含んだテンプレート・ライブラリーのみを組み込むように「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネル上のテンプレート・ライブラリーのリストを更新します。サブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがない場合のみ、このリストを更新することができます。サブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがある場合、「Template Data Set Name (テンプレート・データ・セット名)」パネルのフィールドは保護され、FM/IMS 管理者のみがこのリストを更新することができます。

FMNIA036

RESLIB &DSN allocate error - DYNALLOC rc = X'&RSN'. (RESLIB specified in FMN1POPI macro).

説明 RESLIB データ・セット &DSN を割り振ろうとしましたが、失敗しました。X'&RSN' は、DYNALLOC マクロが返したエラー理由コードです。このメッセージは、BMP 領域タイプが選択されているときにだけ発行されます。この場合、FM/IMS は RESLIB データ・セット名を FM/IMS インストール・オプション・モジュールから取得します。

ユーザーの応答 DYNALLOC エラー理由コードの説明については、*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide* を参照してください。この情報を使用して、データ・セットの割り振りができなかった原因を判別してください。関数が使用する RESLIB データ・セットのリスト名を変更する必要がある場合は、FM/IMS 管理者に連絡して、サブシステムの FMN1POPI マクロ・ステートメントに必要な変更を加え、インストール・オプション・モジュールの再アSEMBルとリンク・エディットを行うように依頼してください。

FMNIA037

RESLIB &DSN allocate error - DYNALLOC rc = X'&RSN'. (RESLIB specified in option 0.6.2)

説明

RESLIB データ・セット &DSN を割り振ろうとしましたが、失敗しました。X'&RSN' は、DYNALLOC マクロが返したエラー理由コードです。このメッセージは、DLI 領域タイプが選択されているときにだけ発行されます。この場合、FM/IMS は RESLIB データ・セット名を以下のいずれかから取得します。

- 「DLI Mode Data Sets 1」パネルの RESLIB データ・セット名フィールド (関数が編集またはブラウズの場合)
- FMNIMSIN 入力で指定された RESLIB パラメーター (関数がバッチ関数で、RESLIB パラメーターが FMNIMSIN 入力で指定されている場合)
- FM/IMS インストール・オプション・モジュール (関数がバッチ関数で、RESLIB パラメーターが FMNIMSIN 入力で指定されていない場合)

ユーザーの応答 DYNALLOC エラー理由コードの説明については、*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide* を参照してください。この情報を使用して、データ・セットの割り振りができなかった原因を判別してください。関数が使用する RESLIB データ・セットのリスト名を変更する必要がある場合は、次のようにしてください。

- 「DLI Mode Data Set 1 (DLI モード・データ・セット 1)」パネルで RESLIB データ・セット名を変更する (編集またはブラウズ関数)
- FMNIMSIN 入力の RESLIB パラメーターを変更する (バッチ関数)

FMNIA038

No database PCBs - The PSB cannot be used because it does not have any database PCBs.

説明 データベース PCB がない PSB を指定しました。関数が使用できるのは、データベース PCB がある PSB だけです。

ユーザーの応答 1 つ以上のデータベース PCB がある PSB を指定してください。

FMNIA039

No PCBs for database - The PSB does not have any PCBs for database &DBNAME.

説明 指定された PSB にデータベースの PCB がないため、この PSB を使用してデータベース &DBNAME にアクセスできません。

ユーザーの応答 データベース &DBNAME にアクセスするには、このデータベースの PCB がある PSB を指定してください。

FMNIA040

View saved - The view has been saved in the specified data set.

説明 メッセージのとおりです。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA041

View created - View created and saved in the specified view data set.

説明 メッセージのとおりです。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA043

Invalid options module - Invalid FM/IMS installation options module - no IMS subsystems were found in the module.

説明 メッセージのとおりです。

ユーザーの応答 この問題を FM/IMS 管理者に報告してください。

FMNIA044

No matches - No subsystems in the FM/IMS installation options module match the specified pattern.

説明 「IMS Subsystem Name (IMS サブシステム名)」フィールドにパターンを指定しましたが、FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されているサブシステムに、このパターンと一致するものではありません。

ユーザーの応答 FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されているすべてのサブシステムのリストを表示するには、「IMS subsystem name (IMS サブシステム名)」フィールドを空白にして、Enter キーを押してください。

FMNIA045

Subsystem not found - The requested subsystem was not found in the FM/IMS installation options module.

説明 指定されたサブシステムは、FM/IMS インストール・オプション・モジュールに含まれていません。

ユーザーの応答 FM/IMS 関数でこのサブシステムにアクセスするには、FM/IMS 管理者に連絡して、サブシステムを FM/IMS インストール・オプション・モジュールに追加するように依頼してください。

FMNIA046

Subsystem not active - The requested subsystem is not currently active.

説明 指定されたサブシステムがアクティブでないため、BMP モードでアクセスできません。

ユーザーの応答 システム管理者に、サブシステムがアクティブでない理由を問い合わせてください。または、許可されている場合は、DLI モードでサブシステムにアクセスしてください。

FMNIA047

Invalid value for parameter AGN.Patterns are not permitted.

説明 AGN パラメーターでパターンが指定されています。このパラメーターは、パターンをサポートしません。

ユーザーの応答 REGNTYPE が BMP に設定され、IMSID パラメーターで指定されているサブシステムが AGN を使用する場合は、使用権限があり、必要なアクセスをバッチ関数に提供する AGN を指定してください。それ以外の場合は、FMNIMSIN 入力から AGN パラメーターを除去してください。

FMNIA048

Invalid value for parameter IMSID.Patterns are not permitted.

説明 IMSID パラメーターでパターンが指定されています。このパラメーターは、パターンをサポートしません。

ユーザーの応答 アクセスするデータベースが定義されている IMS サブシステムの ID を指定してください。

FMNIA049

IMS subsystem &SSID is not active.

説明 IMSID パラメーターで指定されたサブシステム (&SSID) がアクティブでないため、BMP モードでアクセスできません。

ユーザーの応答 システム管理者に、サブシステムがアクティブでない理由を問い合わせてください。または、許可されている場合は、DLI モードでサブシステムにアクセスしてください。

FMNIA051

AGN required - The IMS subsystem uses AGNs and AGNs for the subsystem are not listed in the FM/IMS installation options module. So you must enter an AGN name.

説明 AGN 選択は、サブシステムの AGN が FM/IMS インストール・オプション・モジュールにリストされているときにだけ使用可能です。

ユーザーの応答 使用権限があり、必要なアクセスを関数に提供する AGN を指定してください。

FMNIA052

No subsystem selected - No subsystem was selected on the Subsystem Selection panel.

説明 「IMS Subsystem Name (IMS サブシステム名)」は必須フィールドですが、サブシステムが選択されていません。

ユーザーの応答 ダイアログの先に移動するには、「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネルでサブシステムを選択するか、「IMS Subsystem Name (IMS サブシステム名)」フィールドでサブシステムを指定してください。

FMNIA053

Status refreshed - The status of the listed IMS subsystems has been refreshed.

説明 FM/IMS リストされた IMS サブシステムの状況を再確認し、画面上の状況フィールドを最新表示しました。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA054

AGNs not used - The subsystem does not use AGNs. Leave field blank.

説明 AGN が指定されていますが、このサブシステムは AGN を使用しません。

ユーザーの応答 「AGN」フィールドをブランクにする (オンライン関数) か、FMNIMSIN 入力の AGN パラメーターを除去してください (バッチ関数)。

FMNIA055

AGN pattern not allowed - AGNs for the subsystem are not listed in the FM/IMS installation options module. So you must enter the full AGN name.

説明 メッセージのとおりです。

ユーザーの応答 使用権限があり、必要なアクセスを関数に提供する AGN を指定してください。

FMNIA056

View not replaced - The view was not saved and the existing data was not replaced.

説明 「View Replace (ビューの置換)」ポップアップ・パネルで EXIT または CANCEL キーを押したため、ビューは保管されず、既存のデータは置き換えられませんでした。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA057

DBD &DBNAME not found - Logically related DBD &DBNAME not found in the DBD libraries for subsystem (&SSID)

説明

FM/IMS 指定されたサブシステム &SSID の少なくとも 1 つの DBD ライブラリー内に、以下の DBD が必要です。

- 指定したデータベースの DBD。
- 指定したデータベースに論理的に関連している各データベースごとの DBD。

データベース &DBNAME は、指定したデータベースに論理的に関連していますが、その DBD がサブシステム &SSID の DBD ライブラリー内にありませんでした。

ユーザーの応答 サブシステム &SSID の DBD ライブラリーは、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) 上に指定されます。データベース &DBNAME の DBD をそのパネル上にリストされている DBD ライブラリーの 1 つに組み込むか、またはデータベース &DBNAME の DBD を含んだ DBD ライブラリーを組み込むようにこのリストを更新します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合にのみ、このリストを更新することができます。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、「DBD Data Set Name (DBD データ・セット名)」パネルのフィールドは保護され、FM/IMS 管理者のみがこのリストを更新することができます。

FMNIA058

IMS MACLIB &DSN dynamic allocation error - DYNALLOC reason code is X'&RSN'.

説明 IMS MACLIB &DSN を割り振ろうとしましたが、失敗しました。X'&RSN' は、DYNALLOC マクロが返したエラー理由コードです。

ユーザーの応答 DYNALLOC エラー理由コードの説明については、*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide* を参照してください。この情報を使用して、データ・セットの割り振りができなかった原因を判別してください。

FMNIA061

Data set in use - Allocation of data set failed because data set is in use by another user or job.

説明 このデータベース・データ・セットを割り振ろうとしましたが、失敗しました。データ・セットは別のユーザーまたはジョブに割り振られ、その使用属性が要求と競合するため、動的割り振り要求は失敗しました。

ユーザーの応答 データ・セットに割り振られているジョブとユーザーのリストを表示するには、データ・セットの編集を試行し (ISPF オプション 2 「Edit (編集)」または ISPF オプション 3.4 「Data Set List Utility (データ・セット・リスト・ユーティリティ)」) を使用、ISPF がメッセージ 「Data set in use (データ・セットが使用中)」を発行したときに HELP コマンド (F1) を 2 回入力してください。必要な情報が 「Data Set Contention (データ・セット競合)」パネルに表示されます。

FMNIA062

Load of DBD &DBNAME failed with abend code &CC and reason code &RSN.

説明 DBD &DBNAME をロードしようとしたましたが、失敗しました。&CC は、エラー・リカバリーがない場合に発行される異常終了コードです。&RSN は、異常終了コードに関連付けられている理由コードです。

ユーザーの応答 異常終了コードおよび関連理由コードの説明については、*z/OS MVS System Codes* を参照してください。この情報を使用して、DBD をロードできなかった原因を判別してください。

FMNIA063

Load of PSB &PSBNAME failed with abend code &CC and reason code &RSN.

説明 PSB &PSBNAME をロードしようとしたましたが、失敗しました。&CC は、エラー・リカバリーがない場合に発行される異常終了コードです。&RSN は、異常終了コードに関連付けられている理由コードです。

ユーザーの応答 異常終了コードおよび関連理由コードの説明については、*z/OS MVS System Codes* を参照してください。この情報を使用して、PSB をロードできなかった原因を判別してください。

FMNIA064

Database mismatch - Found member &DBNAME1 in Template library &DSN. Expected it to be a template for database &DBNAME1, but it was a template for database &DBNAME2. You cannot use this template to browse/edit/extract/ or print database &DBNAME1.

説明 「View usage (ビューの使用)」または「Criteria usage (基準の使用)」で「New (新規)」を選択したため、この関数は、指定されたデータベース (&DBNAME1) のテンプレートからのビューまたは基準セットの作成を試みます。FM/IMS は、テンプレートを、ユーザーまたは管理者が指定したテンプレート・ライブラリーから検索します。FM/IMS が検索するテンプレート・ライブラリーは、選択したサブシステムに応じて異なります。FM/IMS が検索するテンプレート・ライブラリーは、「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネル (オプション 0.6.8) 上にリストされます。FM/IMS は、指定された順番でこれらのライブラリーで検索を行い、指定されたデータベース名 (&DBNAME1) が最初に見つかったメンバーを使用します。FM/IMS 指定されたデータベース名 (&DBNAME1) のメンバーを見つけましたが、そのメンバーがデータベース &DBNAME1 のテンプレートではないため、そのメンバーを使用することができません。

ユーザーの応答

以下のいずれかを実行します。

- テンプレート・ライブラリー &DSN からメンバー &DBNAME1 を削除してから、オプション 4.1 を使用してデータベース &DBNAME1 のテンプレートを作成し、そのテンプレートをテンプレート・ライブラリー &DSN に保管する。
 - 有効なテンプレートを含んだテンプレート・ライブラリーのみを組み込むように「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネル上のテンプレート・ライブラリーのリストを更新する。サブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがない場合にのみ、このリストを更新することができます。サブシステムに固定のテンプレート・ライブラリーがある場合、「Template Data Set Name (テンプレート・データ・セット名)」パネルのフィールドは保護され、FM/IMS 管理者のみがこのリストを更新することができます。
-

FMNIA066

Create/Edit failed - Create/Edit failed because DBD &DBNAME was not found in the DBD libraries specified in the template/view/criteria set.

説明 以下のいずれかの失敗が発生しました。

1. テンプレートで指定されている DBD ライブラリーでデータベース &DBNAME (すなわち、テンプレートの対象となるデータベース) の DBD が見つからなかったため、CT コマンド (テンプレートからのビュー/基準セットの作成) が失敗しました。
2. モデル・ビュー/基準セットで指定されている DBD ライブラリーでデータベース &DBNAME (すなわち、モデル・ビュー/基準セットの対象となるデータベース) の DBD が見つからなかったため、CM コマンド (モデルからのビュー/基準セットの作成) が失敗しました。
3. ビュー/基準セットで指定されている DBD ライブラリーでデータベース &DBNAME (すなわち、ビュー/基準セット用のデータベース) の DBD が見つからなかったため、ビュー/基準セットの編集が失敗しました。

ユーザーの応答 失敗 1 の場合は、失敗 2 および失敗 3 とは異なる応答が必要です。失敗 1 の場合、まず、テンプレートで指定されている DBD ライブラリーを判別する必要があります。これを判別するには、オプション 4.1 を使用します。「Template Entry (テンプレート項目の入力)」パネルでテンプレート・データ・セット名およびメンバーを指定して Enter キーを押した場合は、「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネルが表示されます。このパネルには、テンプレートで指定されている DBD ライブラリーのリストが表示されます。ここから先に進むには、2 とおりの方法があります。以下のいずれかです。

1. データベース &DBNAME の DBD をそのパネル上にリストされている DBD ライブラリーの 1 つに組み込む。
2. データベース &DBNAME の DBD を含んだ DBD ライブラリーを組み込むようにこのリストを更新する。

テンプレートを保管するには、Enter キーを押してから、Exit (終了) キーを押す。上記のいずれの処置でもこの問題は解決します。このテキストの残りの部分では、失敗 2 と失敗 3 に対する応答について説明します。失敗 2 の場合、ビュー/基準セットはモデル・ビュー/基準セットを示します。失敗 3 の場合、ビュー/基準セットは、下記のように、編集を試みたビュー/基準セットを示します。

- ビュー/基準セットを、基となっているテンプレートから更新します。ビューを更新するには、「View Entry (ビュー項目の入力)」パネル (オプション 4.2) で U コマンドを使用します。基準セットを更新するには、「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネル (オプション 4.3) で U コマンドを使用します。ビュー/基準セットが最新バージョンのテンプレートに基づいていた場合、FM/IMS は、メッセージ FMNIA083 [Update not required - View/Criteria set did not require any updates from the template it was created from.The template is in data set member &DSN.] を出します。そうでない場合、FM/IMS は、ビュー/基準セットを更新し、メッセージ FMNIA082/FMNIA131 [View /Criteria set updated - View/Criteria set has received updates from the template it was created from.The template is in data set member &DSN.] を出します。これらのメッセージに指定されているテンプレート・データ・セット名およびメンバー (&DSN) に注意してください。
- 更新が必要とされた場合は、その更新により問題が解決された可能性があります。問題が解決されたかどうかを調べるためには、CM または E コマンドを再発行します。
- 問題が引き続き存続する場合は、ビュー/基準セットの基となっているテンプレートで指定されている DBD ライブラリーを判別する必要があります。このテンプレートは、&DSN 内のテンプレートです。これを判別するには、オプション 4.1 を使用します。「Template Entry (テンプレート項目の入力)」パネルでテンプレート・データ・セット名およびメンバーを指定して Enter キーを押した場合は、「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネルが表示されます。このパネルには、テンプレートで指定されている DBD ライブラリーのリストが表示されます。

ここから先に進むには、2 とおりの方法があります。データベース &DBNAME の DBD をそのパネル上にリストされている DBD ライブラリーの 1 つに組み込むか、または以下を行います。

- データベース &DBNAME の DBD を含んだ DBD ライブラリーを組み込むようにこのリストを更新する。
- テンプレートを保管するには、Enter キーを押してから、Exit (終了) キーを押す。次に、前にしたように、テンプレートからビュー/基準セットを更新します。

上記のいずれの処置でもこの問題は解決します。

FMNIA067

Create/Edit failed - Create/Edit failed because member &DBNAME of DBDLIB &DSN does not contain a valid DBD for database &DBNAME.

説明 以下のいずれかの失敗が発生しました。

1. CT コマンド (テンプレートからのビュー/基準セットの作成) が失敗しました。
2. CM コマンド (モデルからのビュー/基準セットの作成) が失敗しました。
3. E コマンド (ビュー/基準セットの編集) が失敗しました。

- 失敗 1 の場合、&DBNAME はテンプレートの対象となるデータベースの名前であり、&DSN はテンプレートで指定されている DBD ライブラリーです。FM/IMS は、テンプレートで指定されている DBD ライブラリーから、メンバー &DBNAME を検索します。このメンバーは DBD ライブラリー &DSN で検出されますが、そのメンバーにデータベース &DBNAME 用の有効な DBD が含まれていないため、このコマンドは失敗します。
- 失敗 2 の場合、&DBNAME はモデル・ビュー/基準セットの対象となるデータベースの名前であり、&DSN はモデル・ビュー/基準セットで指定されている DBD ライブラリーです。FM/IMS は、モデル・ビュー/基準セットで指定されている DBD ライブラリーから、メンバー &DBNAME を検索します。このメンバーは DBD ライブラリー &DSN で検出されますが、そのメンバーにデータベース &DBNAME 用の有効な DBD が含まれていないため、このコマンドは失敗します。
- 失敗 3 の場合、&DBNAME はビュー/基準セットの対象となるデータベースの名前であり、&DSN はビュー/基準セットで指定されている DBD ライブラリーです。FM/IMS は、ビュー/基準セットで指定されている DBD ライブラリーから、メンバー &DBNAME を検索します。このメンバーは DBD ライブラリー &DSN で検出されますが、そのメンバーにデータベース &DBNAME 用の有効な DBD が含まれていないため、このコマンドは失敗します。

ユーザーの応答 このメンバーをデータベース &DBNAME 用の有効な DBD と置き換えるか、または以下を行います。

- 失敗 1 の場合は、オプション 4.1 またはオプション 4.4 を使用して、テンプレートで指定されている DBD ライブラリー・リストを訂正します。

このテキストの残りの部分では、失敗 2 と失敗 3 に対する応答について説明します。失敗 2 の場合、ビュー/基準セットはモデル・ビュー/基準セットを示します。失敗 3 の場合、ビューまたは基準セットは、下記のように、編集を試みたビューまたは基準セットを示します。

- ビューまたは基準セットを、基となっているテンプレートから更新します。ビューを更新するには、「View Entry (ビュー項目の入力)」パネル (オプション 4.2) で U コマンドを使用します。基準セットを更新するには、「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネル (オプション 4.3) で U コマンドを使用します。ビューまたは基準セットが最新バージョンのテンプレートに基づいていた場合、FM/IMS はメッセージ「FMNIA083」 ([FMNIA083 ページ 709](#)) を出します。そうでない場合、FM/IMS はビューまたは基準セットを更新し、メッセージ「FMNIA082」 ([FMNIA082 ページ 709](#)) またはメッセージ「FMNIA131」 ([FMNIA131 ページ 716](#)) を出します。これらのメッセージに指定されているテンプレート・データ・セット名およびメンバー (&DSN) に注意してください。
- 更新が必要とされた場合は、その更新により問題が解決された可能性があります。問題が解決されたかどうかを調べるためには、CM または E コマンドを再発行します。
- 問題が引き続き存続する場合は、「Template Entry (テンプレート項目の入力)」パネル (オプション 4.1) でテンプレート・データ・セット名およびメンバー (&DSN) を指定し、Enter キーを押します。「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネルが表示されます。このパネルには、テンプレートで指定されている DBD ライブラリーのリストが表示されます。
 - 有効な DBD を含んだ DBD ライブラリーのみを組み込むように、このリストを更新する。
 - テンプレートを保管するには、Enter キーを押してから、Exit (終了) キーを押す。次に、前にしたように、テンプレートからビューまたは基準セットを更新します。

上記の処置により、この問題は解決します。

FMNIA068

&PARM data set &DSN is not partitioned.

説明 パラメーター &PARM で指定されているデータ・セット &DSN は、区分データ・セットではありません。このパラメーターには、PDS(E) を指定する必要があります。

ユーザーの応答 PDS(E) を指定してください。

FMNIA069

The ACBGEN that builds the blocks for the dynamic PSB failed with return code &RC.

説明 バッチ関数が生成していた動的 PSB の ACBGEN は、戻りコード &RC で失敗しました。

ユーザーの応答 ジョブ SYSPRINT 出力には ACBGEN リストが含まれます。ACBGEN リストを使用して、問題の原因を判別してください。

FMNIA070

No dynamic PSB available - All the dynamic PSB names available to this BMP are currently in use.

説明 BMP モードで実行されている並行 FM/IMS 関数が使用できる動的 PSB 名 の数は限られています。現在、これらの名前はすべて使用中です。

ユーザーの応答 後でもう一度実行してください。このメッセージが頻繁に出される場合は、FM/IMS 管理者に通知してください。

FMNIA071

ATTACH of IMS control region program failed with return code &RC.

説明 IMS 領域コントローラーに接続しようとして、戻りコード &RC で失敗しました。

ユーザーの応答 ATTACH マクロ戻りコードの説明については、*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide* を参照してください。z/OS システム・ログで、ATTACH マクロの処理中に発行されたエラー・メッセージを確認してください。

FMNIA072

Segment not found - No &SEGNAME segment occurrence with the specified key values was found.

説明 FM/IMS &SEGNAME セグメント・オカレンスに対して GU 呼び出しを発行しましたが、その呼び出しは GE 状況コードを受け取りました。IMS は、呼び出しで指定されているセグメント検索索引数 (SSA) を満たすセグメントを見つけることができないときにこの状況コードを返します。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA073

Call to DL/I failed with status code &SC.

説明 DL/I データベース検索呼び出しが、状況コード &SC を受け取りました。

ユーザーの応答 状況コードの説明については、*IMS Messages and Codes Vol 4* を参照してください。この情報を使用して、検索呼び出しが正常でない状況コードを受け取った原因を判別してください。

FMNIA075

RECON1/RECON2/RECON3 data set &DSN dynamic allocation error; DYNALLOC reason code='X'&RSN'.

説明 ビュー/基準セットの更新を要求しましたが、更新は、不要であったため実行されませんでした。更新が実行されるのは、ビュー/基準セットの作成元であったテンプレートが変更された場合のみです。ビューの作成元であったテンプレートは、データ・セット・メンバー &DSN 内にあります。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA084

Criteria not replaced - The criteria set was not saved and the existing data was not replaced.

説明 「Criteria Replace (基準の置換)」ポップアップ・パネルで EXIT または CANCEL キーを押したため、基準セットは保管されず、既存のデータは置き換えられませんでした。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA085

&PARM data set &DSN is not a load library.

説明 パラメーター &PARM で指定されているデータ・セット &DSN は、ロード・ライブラリーではありません。このパラメーターには、ロード・ライブラリーを指定する必要があります。

ユーザーの応答 ロード・ライブラリーを指定してください。

FMNIA086

&PARM data set &DSN was not found in the catalog.

説明 パラメーター &PARM で指定されているデータ・セット &DSN は、カタログ内にはありませんでした。カタログ式データ・セットを指定する必要があります。

ユーザーの応答 カタログ式データ・セットを指定してください。

FMNIA087

DBDMEM member &MBR was not found in the specified DBD libraries.

説明 パラメーター DBDMEM に指定されているメンバー &MBR は、DBDDSN、DBDDSN2、DBDDSN3、DBDDSN4、DBDDSN5、および DBDDSN6 パラメーターで指定されている DBD ライブラリー内にはありませんでした。

ユーザーの応答 必要な DBD メンバーを含んでいる DBD ライブラリーを指定してください。

FMNIA093

Criteria set created - Criteria set created and saved in the specified criteria data set.

説明 メッセージのとおりです。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA094

Only 255 criteria subsets are allowed

説明 新しいフィールド基準サブセットを作成しようとして、または既存のフィールド基準サブセットを繰り返そうとして、失敗しました。原因は、基準セットがフィールド基準サブセットに許可される最大数を超えるためです。基準セットに許可されるフィールド基準サブセットの最大数は、255 です。

ユーザーの応答 なし。

FMNIA095

Criteria set saved - Criteria set has been saved in the criteria data set.

説明 メッセージのとおりです。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA100

Load of a logical database is not supported.

説明 指定されたデータベースは、論理データベースです。FM/IMS は論理データベースのロードをサポートしません。

ユーザーの応答 データを物理データベースにロードしてください。

FMNIA101

Load of an index database is not supported.

説明 指定されたデータベースは、索引データベースです。IMS では、分離したデータベースとして索引をロードすることはサポートされていません。

ユーザーの応答 データを索引データベースにロードしてください。索引は、IMS が作成します。

FMNIA102

Invalid for Fast Path - Fast Path databases can only be processed in a BMP region.

説明 指定されたデータベースは、ファースト・パス・データベースです。ファースト・パス・データベースは、DL/I バッチ領域で処理できません。

ユーザーの応答 「Region type (領域タイプ)」で「BMP」を選択します。

FMNIA103

No segment layout selected

説明 選択されたセグメントには複数のセグメント・レイアウトがあるため、「Segment Layout Selection (セグメント・レイアウト選択)」パネルが表示されました。そのパネルで、セグメント・レイアウトが選択されませんでした。

ユーザーの応答 選択したセグメントを挿入するには、挿入で使用するセグメント・レイアウトを選択する必要があります。

FMNIA104

Load of an MSDB database is not supported.

説明 指定されたデータベースは、MSDB データベースです。FM/IMS は MSDB データベースのロードをサポートしません。

ユーザーの応答 MSDB 保守ユーティリティー (DBFDBMA0) を使用して、MSDB データベースの初期ロードに使用する z/OS 順次データ・セットを作成します。これを行う方法については、「*IMS Utilities Reference: Database and Transaction Manager*」を参照してください。

FMNIA105

The Load file does not contain a valid header record.

説明 メッセージのとおりです。

ユーザーの応答 ヘッダー・レコードをロード・ファイルに組み込んだか確認します。組み込んだ場合は、このレコード内のデータが正しくフォーマットされているか確認します。ヘッダー・レコードのレイアウトについては、[データ・レイアウトの抽出 ページ 603](#)を参照してください。あるいは、抽出ダイアログまたは抽出ジョブで、ロード・ファイルのテンプレートを作成することができます。テンプレートは、ヘッダー・レコードの正しいレイアウトを提供します。ヘッダー・レコードを編集するときにこのテンプレートを使用すると、データのフォーマットに必要な作業が削減されます。

FMNIA109

DSPURX00 call failed to obtain the ddnames and data set names for DB &DBNAME.The DBRC command received return code &RC.

説明

実行したバッチ関数は、データベース・リカバリー管理ユーティリティー (DSPURX00) を呼び出して、以下に使用する DD 名およびデータ・セット名を取得します。

- 指定された HALDB データベース
- 指定された HALDB データベースに論理的に関連したすべての HALDB データベース

データベース &DBNAME の DD 名およびデータ・セット名の取得を試みていた呼び出しが、戻りコード &RC で失敗しました。

ユーザーの応答 JCL に次の DD ステートメントを追加し、ジョブを再実行してください。

```
//FMN1DPRT DD SYSOUT=*
```

ジョブ出力には DBRC リストが含まれます。リストを使用して、問題の原因を判別してください。

FMNIA111

Press ENTER to confirm usage of the specified data set(s).

説明 メッセージのとおりです。

ユーザーの応答 表示されたデータベース・データ・セット名を確認してください。関数で使用するデータ・セットである場合は、Enter キーを押してください。

FMNIA112

Recall failed - Data set is migrated or archived and the recall of the data set failed.

説明 指定したデータ・セットは、マイグレーションされているか、またはアーカイブされています。FM/IMSはこのデータ・セットの再呼び出しを試みましたが、再呼び出しは失敗しました。

ユーザーの応答 失敗の原因の詳細については、このメッセージの前に発行された DFHSM (または同等製品の) メッセージを参照してください。

FMNIA114

Edit/Browse active - FM/IMS supports only one Edit/Browse dialog per user.

説明 編集ダイアログまたはブラウズ・ダイアログを選択しましたが、既に別の論理画面で、編集ダイアログまたはブラウズ・ダイアログを実行中です。FM/IMSは、1ユーザーにつき1つの編集/ブラウズ・ダイアログだけをサポートします。

ユーザーの応答 アクティブな編集/ブラウズ・ダイアログを終了し、再試行してください。どの論理画面にもアクティブな編集/ブラウズ・ダイアログがないときにこのメッセージが表示された場合は、ログオフしてログオンし直してください。

FMNIA115

Extract dialog active - FM/IMS supports only one Extract dialog per user.

説明 抽出ダイアログを選択しましたが、既に別の論理画面で、抽出ダイアログを実行中です。FM/IMSは、1ユーザーにつき1つの抽出ダイアログだけをサポートします。

ユーザーの応答 アクティブな抽出ダイアログを終了し、再試行してください。どの論理画面にもアクティブな抽出ダイアログがないときにこのメッセージが表示された場合は、ログオフしてログオンし直してください。

FMNIA116

Load dialog active - FM/IMS supports only one Load dialog per user.

説明 ロード・ダイアログを選択しましたが、既に別の論理画面で、ロード・ダイアログを実行中です。FM/IMSは、1ユーザーにつき1つのロード・ダイアログだけをサポートします。

ユーザーの応答 アクティブなロード・ダイアログを終了し、再試行してください。どの論理画面にもアクティブなロード・ダイアログがないときにこのメッセージが表示された場合は、ログオフしてログオンし直してください。

FMNIA117

Template dialog active - FM/IMS supports only one Template dialog per user.

説明 テンプレート・ダイアログを選択しましたが、既に別の論理画面で、テンプレート・ダイアログを実行中です。FM/IMSは、1ユーザーにつき1つのテンプレート・ダイアログだけをサポートします。

ユーザーの応答 アクティブなテンプレート・ダイアログを終了し、再試行してください。どの論理画面にもアクティブなテンプレート・ダイアログがないときにこのメッセージが表示された場合は、ログオフしてログオンし直してください。

FMNIA118

View dialog active - FM/IMS supports only one View dialog per user.

説明 ビュー・ダイアログを選択しましたが、既に別の論理画面で、ビュー・ダイアログを実行中です。FM/IMS は、1 ユーザーにつき 1 つのビュー・ダイアログだけをサポートします。

ユーザーの応答 アクティブなビュー・ダイアログを終了し、再試行してください。どの論理画面にもアクティブなビュー・ダイアログがないときにこのメッセージが表示された場合は、ログオフしてログオンし直してください。

FMNIA119

Criteria dialog active - FM/IMS supports only one Criteria dialog per user.

説明 基準セット・ダイアログを選択しましたが、既に別の論理画面で、基準セット・ダイアログを実行中です。FM/IMS は、1 ユーザーにつき 1 つの基準セット・ダイアログだけをサポートします。

ユーザーの応答 アクティブな基準セット・ダイアログを終了し、再試行してください。どの論理画面にもアクティブな基準セット・ダイアログがないときにこのメッセージが表示された場合は、ログオフしてログオンし直してください。

FMNIA121

XKEY data set &DSN created.

説明 IMS データ・パネルで XKEY コマンドを発行しました。これは、データベースの現在位置と末尾との間のすべてのルート・セグメントのキー、またはデータベースの現在位置と末尾との間の n 番目ごとのルート・セグメントのキーを含むデータ・セットを作成するための要求です。このメッセージは、XKEY データが正常に作成されるときに発行されます。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA122

Edit of a logical database with KEY-only segments is not supported.

説明 論理データベースを指定しました。その DBD は、連結セグメントの論理子と宛先親の両方の KEY 機密性、または非連結セグメントの KEY 機密性を指定しています。FM/IMS は、このようなセグメントを含んだ論理データベースの編集をサポートしません。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA123

REPEAT/INSERT not allowed - REPEAT/INSERT of a concatenated segment is only supported when DATA sensitivity has been specified for both the logical child and the destination parent.

説明 論理データベースへの連結セグメントの挿入が要求されました。しかし、DBD は連結セグメントの論理子と宛先親の両方に対してデータ機密性を指定していないため、FM/IMS はこのセグメントの挿入を試みませんでした。DBD が連結セグメントの両方にデータ機密性を指定する場合にのみ、IMS は連結セグメントの挿入をサポートします。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA124

No logical relationships - No relationship criteria exist because the database has no logical relationships.

説明 関係基準サブセットに対して E 行コマンドを発行しました。これは、関係基準を編集するための要求です。しかし、関係基準がないため、この要求を受け入れることができません。論理関係を持つデータベースのみに関係基準があり、このデータベースには論理関係がありません。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA125

IMS log data set deleted - The IMS log data set &DSN has been deleted.

説明 編集セッションで使用された IMS ログ・データ・セット (&DSN) が削除されました。データ・セットが削除されるのは、編集セッションが正常に終了し、「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルの IMS ログ・オプションで「Delete (削除)」を選択した場合です。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA126

IMS log data set kept - The IMS log data set &DSN has been kept.

説明 編集セッションで使用された IMS ログ・データ・セット (&DSN) が保持されました。データ・セットは、「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルの IMS ログ・オプションで「Keep (保持)」を選択した場合に保持されます。データ・セットは、編集セッションが正常に終了しない場合も保持されます。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA127

Chkpt &ID taken - A checkpoint with ID &ID was written to the IMS log.

説明 このメッセージは、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで SAVE コマンドを発行したときに出されます。このメッセージは、FM/IMS が編集セッションの開始時にチェックポイントをとる場合 (これは通常行われることです) に「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルが最初に表示されるときにも出されます。1 つだけ例外として、チェックポイント・メッセージは IMS データ・パネルでは出されません。CHKPT フィールドのチェックポイント ID は、チェックポイントがとられるときに値が増えます。そのため、これらのメッセージは、そのパネルでは必要とされません。この例外が生じるのは、チェックポイントが Change All (すべて変更) または Repeat All (すべて繰り返し) の操作時にとられる場合です。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA128

Delete unsuccessful - The Delete was unsuccessful because the GET HOLD call failed to retrieve the segment.

説明

D 行コマンドを発行しましたが、GET HOLD 呼び出しが失敗したため、その行のセグメントを削除する試みが正常に行われませんでした。GET HOLD 呼び出しが受け取る状況コードに応じて、FM/IMS は、ポップアップ・パネルを表示するか、またはこのメッセージを出す前に別のメッセージを出します。

- GET HOLD 呼び出しが GE 状況コードを受け取る場合は、「Segment Update/Delete Warning (セグメント更新/削除の警告)」ポップアップ・パネルが表示されます。
- GET HOLD 呼び出しが FH または BA 状況コードを受け取る場合は、「Unavailable Segment Warning (使用不可セグメントの警告)」ポップアップ・パネルが表示されます。
- それ以外では、GET HOLD 呼び出しが受け取った状況コードをユーザーに示すメッセージが出されます。

ユーザーの応答 この失敗の原因については、前のメッセージ・ポップアップ・パネルを参照してください。

FMNIA129

No segments selected - View must have at least one segment selected

説明 セグメントがすべて選択解除されているビューの保管または使用が試みられました。セグメントがすべて選択解除されているビューは、セグメントを返すことはありません。そのため、FM/IMSにより、ユーザーはこの処理を行うことができません。

ユーザーの応答 少なくとも1つのセグメントを選択してください。

FMNIA130

Invalid command syntax - The DEPENDENT, SEGMENT and REC parameters are not supported in ZOOM mode.

説明 ZOOM モードのときに DEPENDENT、SEGMENT、または REC パラメーターを指定した FIND または CHANGE コマンドを発行しました。DEPENDENT、SEGMENT、および REC パラメーターは、ZOOM モードではサポートされていません。

ユーザーの応答 ZOOM モードから出てから、このコマンドを再発行してください。ZOOM モードから出るには、EXIT キーまたは CANCEL キーを押すか、または ZOOM コマンドを発行します。

FMNIA131

Criteria set updated - Criteria set received updates from the template it was created from. The template is in data set member &DSN.] を出します。

説明 基準セットの作成元であったテンプレートは、基準セットの最終更新が行われたため変更されました。そのため、基準セットは要求どおりに更新されています。基準セットの作成元であったテンプレートは、データ・セット・メンバー &DSN 内にあります。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA132

Checkpoint &ID taken. Uncommitted changes made during this Edit session have been saved.

説明 この編集セッション中に行ったデータベース変更の一部は、EXIT キーを使用して「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルを終了したときにコミットされていませんでした。EXIT キーを押したため、コミットされていない変更が保管されました。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA133

DBD member not found - The DBD for database &DBNAME not found in the DBD libraries for subsystem &SSID.

説明 FM/IMS 指定されたデータベース (&DBNAME) の DBD を必要としますが、この DBD は、指定されたサブシステム (&SSID) の DBD ライブラリー内にありませんでした。

ユーザーの応答 サブシステム &SSID の DBD ライブラリーは、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) 上に指定されます。データベース &DBNAME の DBD をそのパネル上にリストされている DBD ライブラリーの1つに組み込むか、またはデータベース &DBNAME の DBD を含んだ DBD ライブラリーを組み込むようにこのリストを更新します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合にのみ、このリストを更新することが

できます。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、「DBD Data Set Name (DBD データ・セット名)」パネルのフィールドは保護され、FM/IMS 管理者のみがこのリストを更新することができます。

FMNIA134

No segments selected - Criteria subset must have at least one segment selected.

説明 セグメントがすべて選択解除されている基準サブセットを終了しようとした。セグメントがすべて選択解除されているサブセットは、セグメントを返すことはありません。そのため、FM/IMS により、ユーザーはこの処理を行うことができません。

ユーザーの応答 CANCEL キーを押すと、終了することはできますが、サブセットに対して行った変更は保管されません。終了時に変更を保管したい場合は、少なくとも 1 つのセグメントを選択してから、EXIT キーを押してください。

FMNIA135

No layouts selected - Criteria subset must have at least one segment layout selected.

説明 セグメント・レイアウトがすべて選択解除された基準サブセットを終了しようとした。セグメント・レイアウトがすべて選択解除されているサブセットは、セグメントを返すことはありません。そのため、FM/IMS により、ユーザーはこの処理を行うことができません。

ユーザーの応答 CANCEL キーを押すと、終了することはできますが、サブセットに対して行った変更は保管されません。終了時に変更を保管したい場合は、少なくとも 1 つのセグメント・レイアウトを選択してから、EXIT キーを押してください。

FMNIA136

The PCB you are using does not allow segment insertion.

説明 INSERT 基本コマンドを発行しましたが、使用している PCB では、セグメントの挿入が許可されていません。

ユーザーの応答 セグメントの挿入を許可する PCB を使用してください。

FMNIA137

Missing segments - Database &DBNAME has segments that are not defined in the template.

説明 このテンプレートの基となっている DBD には、このテンプレートで定義されていないセグメントがあります。テンプレートを更新するとこのことが修正されます。FM/IMS により、このテンプレートを更新するまで、このテンプレートを使用してビューまたは基準セットを作成することはできません。

ユーザーの応答 オプション 4.1 またはオプション 4.4 を使用して、テンプレートを更新してください。

FMNIA138

Missing segments - Database &DBNAME has segments that are not defined in the view/criteria set. Update the view/criteria set and, if this fails to remedy the problem, update the template &DSN that the view/criteria set was created from then update the view/criteria set again.

説明 &DBNAME は、ビューまたは基準セットの対象となるデータベースの名前です。このデータベースの DBD には、ビューまたは基準セットで定義されていないセグメント・タイプが含まれています。

ユーザーの応答 「View update (ビューの更新)」 (オプション 4.5) を使用して、ビューの作成元である IMS テンプレートでビューを更新してください。正常に完了した後も IMS セグメントが欠落している場合は、「Templates (テンプレート)」 (オプション 4.1) を使用して新しい IMS セグメントを含めるように IMS テンプレート &DSN を更新してください。「View update (ビューの更新)」 (オプション 4.5) を使用してビューを更新するプロセスを繰り返してください。

FMNIA139

警告: The view/criteria set was not based on the latest version of the template it was created from.

説明 バッチ関数は、ビュー/基準セットが作成元のテンプレートの最新バージョンに基づいていないと判断したときにこの警告メッセージを出します。バッチ関数はこのエラーを無視し、処理を続行します。

ユーザーの応答 ジョブの出力を確認します。ビュー/基準セットを更新します。ビューを更新するには、オプション 4.2 またはオプション 4.5 を使用してください。基準セットを更新するには、オプション 4.3 またはオプション 4.6 を使用してください。

FMNIA149

CANCEL not active - The CANCEL command is not active because no IMS log data set was allocated at the start of the Edit session.

説明 この編集セッション中に行ったデータベース変更の一部は、コミットされていませんでした。「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで CANCEL コマンドを発行しました。これは、これらの変更をバックアウトする必要があることを示します。しかし、IMS ログが編集セッションの開始時に割り振られなかったため、IMS はこれらの変更をバックアウトすることができません。

ユーザーの応答 DLI モードでの編集時にコミットされていない変更を破棄するオプションが必要な場合は、「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルの IMS ログ・オプションで「Keep (保持)」または「Delete (削除)」を選択する必要があります。

FMNIA150

CANCEL not active - The CANCEL command is not active because your Edit session did not request dynamic backout.

説明 この編集セッション中に行ったデータベース変更の一部は、コミットされていませんでした。「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで CANCEL コマンドを発行しました。これは、これらの変更をバックアウトする必要があることを示します。しかし、編集セッションで動的バックアウトが要求されなかったため、IMS はこれらの変更をバックアウトすることができません。

ユーザーの応答 DLI モードでの編集時にコミットされていない変更を破棄するオプションが必要な場合は、「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネルで「Dynamic backout (動的バックアウト)」オプションを選択する必要があります。このパネルで指定している内容が「Dynamic backout (動的バックアウト)」オプションのサブシステム設定であるため、その設定がその設定を必要とするサブシステムごとに選択されるようにしてください。

FMNIA152

RESLIB &DSN not found. Correct the RESLIBx parameter for subsystem &SSID in FMN1POPT.

説明 この関数は、サブシステム &SSID のデフォルトの RESLIB データ・セットを使用しようとしていました。しかし、これらのデータ・セット (&DSN) の 1 つが見つかりませんでした。デフォルトの RESLIB データ・セットは、FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されています。

ユーザーの応答 サブシステム &SSID の FM/IMS マクロ・ステートメントの RESLIB パラメーターを修正してから、FMN1POPI インストール・オプション・モジュールの再アSEMBルとリンク・エディットを行うように、FM/IMS 管理者に依頼してください。

FMNIA153

RESLIB &DSN not a loadlib. Correct the RESLIBx parameter for subsystem &SSID in FMN1POPT.

説明 この関数は、サブシステム &SSID のデフォルトの RESLIB データ・セットを使用しようとしてしました。しかし、これらのデータ・セット (&DSN) の 1 つはロード・ライブラリーではありません。デフォルトの RESLIB データ・セットは、FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されています。

ユーザーの応答 サブシステム &SSID の FM/IMS マクロ・ステートメントの RESLIB パラメーターを修正してから、FMN1POPI インストール・オプション・モジュールの再アSEMBルとリンク・エディットを行うように、FM/IMS 管理者に依頼してください。

FMNIA154

RESLIB &DSN for &SSID not found. Correct the data set name on the DLI Mode Data Sets 1 panel.

説明 この関数は、サブシステム &SSID の RESLIB データ・セットを使用しようとしてしました。このデータ・セットは、「DLI Mode Data Sets 1 (DLI モード・データ・セット 1)」パネルで指定されています。しかし、これらのデータ・セット (&DSN) の 1 つが見つかりませんでした。

ユーザーの応答 「DLI Mode Data Sets 1 (DLI モード・データ・セット 1)」パネル (オプション 0.6.2) のデータ・セット名を修正してください。

FMNIA155

DOPT ACBLIB &DSN not found. Correct the DYNACB parameter for subsystem &SSID in FMN1POPT.

説明 この関数は、サブシステム &SSID の DOPT ACBLIB データ・セット (&DSN) を使用しようとしてしました。しかし、このデータ・セットが見つかりませんでした。DOPT ACBLIB データ・セットは、FM/IMS インストール・オプション・モジュールで指定されています。

ユーザーの応答 サブシステム &SSID の FM/IMS マクロ・ステートメントの DYNACB パラメーターを修正してから、FMN1POPI インストール・オプション・モジュールの再アSEMBルとリンク・エディットを行うように、FM/IMS 管理者に依頼してください。

FMNIA156

CANCEL not active - The CANCEL command is not active because the PSB that your Edit is using has no IO PCB.

説明 この編集セッション中に行ったデータベース変更の一部は、コミットされていませんでした。「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで CANCEL コマンドを発行しました。これは、これらの変更をバックアウトする必要があることを示します。しかし、編集セッションで使用している PSB に IO PCB が含まれていないため、IMS はこれらの変更をバックアウトすることができません。

ユーザーの応答 DLI モードでの編集時にコミットされていない変更を破棄するオプションが必要な場合は、IO PCB を含んでいる PSB を使用する必要があります。

FMNIA158

No PCB selected - A PCB is required and no PCB has been selected.

説明 PCB を選択せずに「PCB Selection (PCB 選択)」パネルの処理を中断しました。

ユーザーの応答 指定した PSB を使用する場合は、「PCB Selection (PCB 選択)」パネルに表示されているいずれかの PCB を選択するか、または PSB によりユーザーがアクセスできるデータベースの名前を「Database name (データベース名)」フィールドに指定する必要があります。

FMNIA159

DBD &DBNAME not found - This PSB has a PCB for the database &DBNAME and its DBD was not found in the DBD libraries for subsystem &SSID.

説明 FM/IMS PSB で指定されている各データベースの DBD が、指定されたサブシステム (&SSID) の DBD ライブラリー内にあることを必要とします。PSB にはデータベース &DBNAME の PCB が含まれていますが、データベース &DBNAME の DBD はサブシステム &SSID の DBD ライブラリー内にありませんでした。

ユーザーの応答 サブシステム &SSID の DBD ライブラリーは、「PSB and DBD Data Sets (PSB および DBD データ・セット)」パネル (オプション 0.6.7) 上に指定されます。データベース &DBNAME の DBD をそのパネル上にリストされている DBD ライブラリーの 1 つに組み込むか、またはデータベース &DBNAME の DBD を含んだ DBD ライブラリーを組み込むようにこのリストを更新します。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがない場合のみ、このリストを更新することができます。サブシステムに固定の DBD ライブラリーがある場合、「DBD Data Set Name (DBD データ・セット名)」パネルのフィールドは保護され、FM/IMS 管理者のみがこのリストを更新することができます。

FMNIA162

Not a DLI region PSB - PSB cannot be used in DLI mode because it has a PCB for a Fast Path database.

説明 「Region type (領域タイプ)」で「DLI」を選択しました。しかし、指定した PSB は、Fast Path データベースの PCB を含んでいるため、この関数が DL/I バッチ処理領域で実行されるときは使用できません。

ユーザーの応答 「Region type (領域タイプ)」で「BMP」を選択するか、または別の PSB を使用してください。

FMNIA163

PSB &PSBNAME has only one DB PCB and the PCB is read-only; the function cannot be performed with a read-only PCB.

説明 指定した PSB (&PSBNAME) には、DB PCB が 1 つだけ含まれています。使用している関数は、データベースに対する更新アクセスを必要とし、この PCB は読み取りアクセスしか提供しないため、PCB を使用することはできません。

ユーザーの応答 この関数に処理させたいデータベースに対する更新アクセスを提供する PCB を含む PSB を使用してください。

FMNIA170

PCB for database &DBNAME has PROCOPT=&OPT; the function cannot be performed with a read-only PCB.

説明 指定した PSB には、指定したデータベース (&DBNAME) の PCB が 1 つだけ含まれています。使用している関数は、このデータベースに対する更新アクセスを必要とし、この PCB は読み取りアクセスしか提供しないため、PCB を使用することはできません。

ユーザーの応答 このデータベースに対する更新アクセスを提供する PCB を含む PSB を使用してください。

FMNIA171

SAVE not active - the SAVE command is not active because the PSB that your Edit is using has no IO PCB.

説明 SAVE コマンドを発行しました。これは、コミットされていないすべてのデータベース変更を保管するための要求です。これを行うために、FM/IMS はチェックポイント呼び出しを発行します。しかし、編集セッションで使用している PSB に IO PCB が含まれていないため、チェックポイントをとることができません。

ユーザーの応答 変更は、「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルに戻るときに保管されます。これは、PSB に IO PCB が含まれていないときに変更を保管できる唯一の方法です。DLI モードでの編集時に SAVE コマンドを使用したい場合は、IO PCB を含んでいる PSB を使用する必要があります。

FMNIA172

&CMD not active - &CMD command is not active when in ZOOM mode.

説明 ZOOM モードになっており、発行したコマンド (&CMD) は ZOOM モードではサポートされません。

ユーザーの応答 ZOOM モードから出てから、このコマンドを再発行してください。ZOOM モードから出るには、EXIT キーまたは CANCEL キーを押すか、または ZOOM コマンドを発行します。

FMNIA173

Segment not a parent - The segment name specified in the PARENT command must be the name of a parent of the current segment type.

説明 PARENT コマンドを発行しました。PARENT コマンドは、位置を、現行セグメント・オカレンスから現行セグメント・オカレンスの親に変更します。しかし、PARENT コマンドで指定したセグメント名は、現行セグメント・タイプの親の名前ではありません。

ユーザーの応答 現行セグメント・タイプの親の名前を指定してください。

FMNIA174

Child not found - The requested child segment occurrence was not found.

説明 CHILD コマンドを発行しました。CHILD コマンドにより、位置を、現行セグメント・オカレンスからその従属セグメント・オカレンスのいずれかに変更することができます。しかし、FM/IMS は、ユーザーが要求した子セグメント・オカレンスを検出できませんでした。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA176

Segment not found - No segment was found that has keys greater than or equal to the specified key values.

説明 FM/IMS 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで選択したセグメントに対して GU 呼び出しを発行しましたが、その呼び出しは GE 状況コードを受け取りました。IMS は、この呼び出しで指定されているセグメント検索指数 (SSA) を満たすセグメントを見つけることができないときにこの状況コードを返します。以下では、この呼び出しで使用される SSA について説明します。

- 選択されたセグメントについて 1 つの SSA、およびその親のそれぞれについて 1 つの SSA がありました。
- そのように定義されているパス内のセグメントの「Key Value (キー値)」フィールドにスペースまたは最小値が含まれていた場合は、非修飾 SSA はそのレベルで使用されました。
- ルート・セグメントの「Key Value (キー値)」フィールドにスペースまたは最小値が含まれておらず、2 次索引を使用してデータベースにアクセスしている場合は、ルート・レベルの SSA には、2 次索引キー・フィールド、より大きいか等しい関係演算子、および指定されたキー値を示す修飾ステートメントが含まれています。
- そうでない場合は、SSA には、セグメントのキー・フィールド、より大きいか等しい関係演算子、および指定されたキー値を示す修飾ステートメントが含まれています。

これらの SSA は GE (より大きいか等しい) キーを押すときに使用され、データベースのルート・セグメントはキー・シーケンスまたは 2 次処理シーケンスにあります。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA177

Segment not found - No segment was found that has a root key equal to the specified root key value and dependent segment keys greater than or equal to the specified dependent segment key values.

説明 FM/IMS 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで選択した従属セグメントに対して GU 呼び出しを発行しましたが、その呼び出しは GE 状況コードを受け取りました。IMS は、この呼び出しで指定されているセグメント検索索引数 (SSA) を満たすセグメントを見つけることができないときにこの状況コードを返します。以下では、この呼び出しで使用される SSA について説明します。

- 選択されたセグメントについて 1 つの SSA、およびその親のそれぞれについて 1 つの SSA がありました。
- そのように定義されているパス内のセグメントの「Key Value (キー値)」フィールドにスペースまたは最小値が含まれていた場合は、非修飾 SSA はそのレベルで使用されました。
- ルート・セグメントの「Key Value (キー値)」フィールドにスペースまたは最小値が含まれていなかった場合は、ルート・レベルの SSA には、ルート・キー・フィールド、等しい関係演算子、および指定されたキー値を示す修飾ステートメントが含まれています。
- 従属セグメントの「Key Value (キー値)」フィールドにスペースまたは最小値が含まれていなかった場合は、従属セグメントの SSA には、セグメントのキー・フィールド、より大きいか等しい関係演算子、および指定されたキー値を示す修飾ステートメントが含まれています。

これらの SSA は GE (より大きいか等しい) キーを押すときに呼び出しで使用され、データベースのルート・セグメントはキー・シーケンスまたは 2 次処理シーケンスにはありません。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA178

Segment not found - No segment was found with the specified key values.

説明 FM/IMS 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで選択したセグメントに対して GU 呼び出しを発行しましたが、その呼び出しは GE 状況コードを受け取りました。IMS は、この呼び出しで指定されているセグメント検索索引数 (SSA) を満たすセグメントを見つけることができないときにこの状況コードを返します。以下では、この呼び出しで使用される SSA について説明します。

- 選択されたセグメントについて 1 つの SSA、およびその親のそれぞれについて 1 つの SSA がありました。
- そのように定義されているパス内のセグメントの「Key Value (キー値)」フィールドにスペースまたは最小値が含まれていた場合は、非修飾 SSA はそのレベルで使用されました。
- ルート・セグメントの「Key Value (キー値)」フィールドにスペースまたは最小値が含まれておらず、2 次索引を使用してデータベースにアクセスしている場合は、ルート・レベルの SSA には、2 次索引キー・フィールド、等しい関係演算子、および指定されたキー値を示す修飾ステートメントが含まれています。
- そうでない場合は、SSA には、セグメントのキー・フィールド、等しい関係演算子、および指定されたキー値を示す修飾ステートメントが含まれています。

これらの SSA は、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで Enter キーを押すときに呼び出しで使用されます。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA179

Segment not found - No root segment was found with the specified key value.FM/IMS did not search for a root segment with a key greater than or equal to the specified key value because the root segments are not in key sequence.

説明 FM/IMS は「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで選択したルート・セグメントに対して GU 呼び出しを発行しましたが、その呼び出しは GE 状況コードを受け取りました。IMS は、この呼び出しで指定されているセグメント検索指数 (SSA) を満たすセグメントを見つけることができないときにこの状況コードを返します。以下では、この呼び出しで使用される SSA について説明します。

- ルート・セグメントの「Key Value (キー値)」フィールドにスペースまたは最小値が含まれていた場合は、非修飾 SSA はそのルート・レベルで使用されました。
- そうでない場合は、ルート・レベルの SSA には、セグメントのルート・キー・フィールド、等しい関係演算子、および指定されたキー値を示す修飾ステートメントが含まれています。

このメッセージが発行されるのは、ルート・セグメントを選択し、GE (より大きいか等しい) キーを押し、さらにデータベースのルート・セグメントがキー・シーケンスまたは 2 次処理シーケンスにない場合に限られます。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA181

EDIT not active - The Edit line command is only active when the Edit or Browse is using a view.

説明 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで E (編集) 行コマンドを発行しました。これは、編集セッションまたはブラウズ・セッションで使用しているビューでセグメントを編集するための要求です。しかし、編集セッションまたはブラウズ・セッションでビューを使用していないため、ユーザーの要求を受け入れることができません。

ユーザーの応答 編集/ブラウズ・セッションでビューを使用したい場合は、「Edit/Browse Entry (編集/ブラウズ項目の入力)」パネルに戻り、「View usage (ビューの使用)」で「New (新規)」または「Existing (既存)」を選択してください。

FMNIA184

SELECT not active - The SELECT command is only active when the Edit or Browse is using a view.

説明 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルで SELECT 基本コマンドまたは行コマンドを発行しました。これは、編集セッションまたはブラウズ・セッションで使用しているビューでセグメントを選択または選択解除するための要求です。しかし、編集セッションまたはブラウズ・セッションでビューを使用していないため、ユーザーの要求を受け入れることができません。

ユーザーの応答 編集/ブラウズ・セッションでビューを使用したい場合は、「Edit/Browse Entry (編集/ブラウズ項目の入力)」パネルに戻り、「View usage (ビューの使用)」で「New (新規)」または「Existing (既存)」を選択してください。

FMNIA185

UNDO not active - The UNDO command is not active because no IMS log data set was allocated at the start of the Edit session.

説明 UNDO コマンドを発行しました。これは、最終チェックポイント以後に行ったすべてのデータベース変更をバックアウトするための要求です。しかし、IMS ログ・データ・セットが編集セッションの開始時に割り振られなかったため、IMS はこれらの変更をバックアウトすることができません

ユーザーの応答 DLI モードでの編集時に UNDO コマンドを使用したい場合は、「Edit Entry (編集項目の入力)」パネルの IMS ログ・オプションで「Keep (保持)」または「Delete (削除)」を選択する必要があります。

FMNIA186

No updates - You issued the UNDO command but you have not made any database changes since the last checkpoint or rollback, so FM/IMS did not issue a rollback call.

説明 UNDO コマンドを発行しました。これは、最終のチェックポイントまたはロールバック以後に行ったすべてのデータベース変更をバックアウトするための要求です。これを行うために、FM/IMS はロールバック (ROLB) 呼び出しを発行しません。しかし、最終のチェックポイントまたはロールバック以後にデータベース変更はなかったため、FM/IMS は ROLB 呼び出しを発行しませんでした。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIA187

UNDO not active - The UNDO command is not active because your Edit session did not request dynamic backout.

説明 UNDO コマンドを発行しました。これは、最終チェックポイント以後に行ったすべてのデータベース変更をバックアウトするための要求です。しかし、編集セッションで動的バックアウトが要求されなかったため、IMS はこれらの変更をバックアウトすることができません。

ユーザーの応答 DLI モードでの編集時に UNDO コマンドを使用したい場合は、「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネルで「Dynamic backout (動的バックアウト)」オプションを選択する必要があります。このパネルで指定している内容が「Dynamic backout (動的バックアウト)」オプションのサブシステム設定であるため、その設定がその設定を必要とするサブシステムごとに選択されるようにしてください。

FMNIA188

UNDO not active - The UNDO command is not active because the PSB that your Edit is using has no IO PCB.

説明 UNDO コマンドを発行しました。これは、最終チェックポイント以後に行ったすべてのデータベース変更をバックアウトするための要求です。しかし、編集セッションで使用している PSB に IO PCB が含まれていないため、IMS はこれらの変更をバックアウトすることができません。

ユーザーの応答 DLI モードでの編集時に UNDO コマンドを使用したい場合は、IO PCB を含んでいる PSB を使用する必要があります。

FMNIA189

VSAVE not active - The VSAVE command is only active when the Edit or Browse is using a view.

説明 VSAVE コマンドを発行しました。これは、編集セッションまたはブラウズ・セッションで使用しているビューを保管するための要求です。しかし、編集セッションまたはブラウズ・セッションでビューを使用していないため、ユーザーの要求を受け入れることができません。

ユーザーの応答 編集/ブラウズ・セッションでビューを使用したい場合は、「Edit/Browse Entry (編集/ブラウズ項目の入力)」パネルに戻り、「View usage (ビューの使用)」で「New (新規)」または「Existing (既存)」を選択してください。

FMNIA415

Create/Edit failed - Create/Edit failed because DBDLIB &DSN is not a PDS(E). Use option 4.1 or option 4.4 to update the DBDLIBs specified in the template that the view/criteria set was created from, then update the view/criteria set.

説明 モデル・ビュー/基準セットで指定されている DBDLIB データ・セット (&DSN) が PDS(E) でないため、CM コマンド (モデルからのビュー/基準セットの作成) が失敗しました。または、ビュー/基準セットで指定されている DBDLIB データ・セット (&DSN) が PDS(E) でないため、E コマンド (ビュー/基準セットの編集) が失敗しました。

ユーザーの応答 オプション 4.1 またはオプション 4.4 を使用して、ビュー/基準セットの作成元であるテンプレートで指定されている DBDLIB データ・セット名を訂正し、オプション 4.2 または 4.3 を使用して、ビュー/基準セットを更新してください。

FMNIA416

Create/Edit failed - Create/Edit failed because DBDLIB &DSN. is not a loadlib.Use option 4.1or option 4.4 to update the DBDLIBs specified in the template that the view/criteria set was created from, then update the view/criteria set.

説明 モデル・ビュー/基準セットで指定されている DBDLIB データ・セット (&DSN) が loadlib でないため、CM コマンド (モデルからのビュー/基準セットの作成) が失敗しました。または、ビュー/基準セットで指定されている DBDLIB データ・セット (&DSN) が loadlib でないため、E コマンド (ビュー/基準セットの編集) が失敗しました。

ユーザーの応答 オプション 4.1 またはオプション 4.4 を使用して、ビュー/基準セットの作成元であるテンプレートで指定されている DBDLIB データ・セット名を訂正し、オプション 4.2 または 4.3 を使用して、ビュー/基準セットを更新してください。

FMNIA417

Create/Edit failed - Create/Edit failed because DBDLIB &DSN was not found in the catalog.Use option 4.1 or option 4.4 to update the DBDLIBs specified in the template that the view/criteria set was created from, then update the view/criteria set.

説明 モデル・ビュー/基準セットで指定されている DBDLIB データ・セット (&DSN) がカタログで見つからないため、CM コマンド (モデルからのビュー/基準セットの作成) が失敗しました。または、ビュー/基準セットで指定されている DBDLIB データ・セット (&DSN) がカタログで見つからないため、E コマンド (ビュー/基準セットの編集) が失敗しました。

ユーザーの応答 オプション 4.1 またはオプション 4.4 を使用して、ビュー/基準セットの作成元であるテンプレートにある DBDLIB データ・セット名を訂正し、オプション 4.2 または 4.3 を使用して、ビュー/基準セットを更新してください。

FMNIA453

Not partitioned - Member name specified, but the data set is not partitioned.

説明 区分データ・セットでないのに、メンバー名が指定されました。

ユーザーの応答 メンバー名を削除してください。または、データ・セットが正しく指定され、正しく割り振られていることを確認してください。

FMNIA454

Member &MBR. specified, but &PARM data set &DSN is not partitioned.

説明 &PARM パラメーターで指定されているデータ・セットは区分データ・セットではありませんが、(&PARM パラメーターまたは関連付けられているメンバー・パラメーターで) そのデータ・セットのメンバー名が指定されました。

ユーザーの応答 &PARM パラメーターからメンバー名を削除するか、FMNIMSIN 入力からメンバー・パラメーターを削除してください。または、データ・セットが正しく指定され、正しく割り振られていることを確認してください。

FMNIA455

Not partitioned - The data set must be partitioned.

説明 メッセージのとおりです。

ユーザーの応答 PDS(E) を指定してください。

FMNIA458

Member &MBR. was not found in &PARM data set &DSN.

説明 メンバー &MBR は、&PARM パラメーターで指定されているデータ・セット (&DSN) のディレクトリーで見つかりませんでした。

ユーザーの応答 データ・セットのディレクトリーにあるメンバーを指定してください。

FMNIA459

&PARM data set &DSN is partitioned.You must specify a member.

説明 &PARM パラメーターで指定されているデータ・セットは区分データ・セットですが、メンバーが指定されませんでした。

ユーザーの応答 データ・セット名の後ろに括弧で囲むか、関連付けられているメンバー・パラメーターで、メンバー名を指定してください。または、データ・セットが正しく指定され、正しく割り振られていることを確認してください。

FMNIA460

Member not found - Member &MBR was not found in data set &DSN.

説明 メッセージのとおりです。

ユーザーの応答 データ・セットにあるメンバーを指定してください。

FMNIA999

File Manager problem - message &MSG not found in table

説明 File Manager は、メッセージ表の中でメッセージ番号 nnnn を見つけることができません。これは、おそらく File Manager エラーです。

ユーザーの応答 システム・サポート担当者に連絡してください。

FMNIB283

Segment not found - The segment was not found using the specified key values and occurrence numbers.

説明 キー指定パネルで指定されたキー値と出現番号から、FM/IMS は IMS データベースのセグメントを見つけることができませんでした。

ユーザーの応答 必要な IMS セグメントを取り出せるように、キー値と出現番号を変更してください。

FMNIB290

PREV limited due to scope - The scope of the PREVIOUS command is limited to the beginning of the current database record

説明 「Edit Options (編集オプション)」(オプション 0.5)の「Set SCOPE REC (SCOPE REC に設定)」フィールドの設定、またはブラウズ/編集セッションでの「SCOPE REC」または「SCOPE DBREC」の発行によって、レコードの有効範囲が、単ルート・セグメント(データベース・レコード)のセグメントだけを表示するように制限されています。そのため、PREVIOUS コマンドを使用してスクロールアップするときに、ルート・セグメントまたは表示されているデータベース・レコードの最初のセグメントより前にスクロールアップすることができません(セグメントが除外されている場合)。

ユーザーの応答 前に表示されていたレコードに位置付けるには、必要なセグメントに位置付ける KEY コマンドを使用してください。

FMNIB291

Top of window reached

説明 PREVIOUS コマンドが入力され、現在、データベースの先頭に位置しています。または、「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルにキー値が入力され、IMS データベースの開始位置に戻りました。後方スクロールはできません。

ユーザーの応答 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルにキー値を入力した場合で、新しい開始位置を指定したい場合は、ブラウズ/編集セッションで「Database Positioning (データベース位置決め)」パネルに戻るか、KEY コマンドを入力してください。

FMNIB292

End of database reached

説明 NEXT コマンドが入力され、現在、データベースの末尾に位置しています。前方スクロールはできません。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIB293

Non-replace PCB - The function, which requires Replace permission, cannot be performed with the PCB's PROCOPT.

説明 アクセスする IMS データベースに対して、静的 PSB の PCB には PCB の PROCOPT パラメーターで指定されている置換権限がありません。この静的 PSB を使用する関数は、IMS セグメントを更新できません。

ユーザーの応答 IMS セグメントを更新する必要がある場合は、同じ静的 PSB または別の静的 PSB で、必要な権限を持つこの IMS データベース用の別の PCB を指定してください。可能な場合は、関数で動的 PSB を使用して IMS データベースにアクセスすると、FM/IMS が必要な権限を持つ PSB を生成します。動的 PSB を使用するには、「System settings (システム設定)」(オプション 0.2)の「PSB type (PSB タイプ)」で「Dynamic (動的)」を指定します。

FMNIB294

Load error: The load file includes a record for index database &DBD ; records for indexes should not be included.

説明 ロード・ファイルに、IMS 索引データベースから抽出されたレコードがあります。IMS 索引データベースは、FM/IMS にロードできません。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIB295

DELIMS/REPLIMS failed with segment &SEGM because PCB &PCBN of PSB &PSB has PROCOPT &POPT.

説明 静的 PSB &PSB の &PCB PCB に、PCB の PROCOPT パラメーターで指定されている IMS データベースに対する削除権限 (DELIMS) または置換権限 (REPLIMS) がないため、バッチ IEB ジョブの DELIMS または REPLIMS 関数呼び出しが失敗しました。

ユーザーの応答 IMS データベースに対して必要な権限を持つ PCB (PCBNUM) と静的 PSB (PSBMEM) を指定するように、バッチ IEB ジョブを変更してください。可能な場合は、バッチ IEB ジョブで動的 PSB を使用して IMS データベースを更新してください。

FMNIB296

PSB &PSBMBR. has multiple PCBs for related database &DBD ; specify the PCB you want used in PCBNUM or PCBNAME parameter.

説明 IMS データベース抽出 (IXB) は、論理的に関連したデータベース &DBD に対する複数の PCB が含まれる静的 PSB を使用しますが、IMS データベース &DBD を参照する FMNIMSIN 制御カードの PCBNUM または PCBNAME パラメーターの PCB が指定されていません。

ユーザーの応答 IMS データベース &DBD を参照するように、FMNIMSIN 制御カードの PCBNUM または PCBNAME パラメーターを更新してください。これらのパラメーターの詳細については、[抽出 \(IXB\) ページ 577](#)を参照してください。

FMNIB297

PSB &PSBMBR has multiple PCBs for primary database &DBD ; specify the PCB you want used in PCBNUM or PCBNAME parameter.

説明 IMS データベース抽出 (IXB) は、基本データベース &DBD に対する複数の PCB が含まれる静的 PSB を使用しますが、IMS データベース &DBD を参照する FMNIMSIN 制御カードの PCBNUM または PCBNAME パラメーターの PCB が指定されていません。

ユーザーの応答 IMS データベース &DBD を参照するように、FMNIMSIN 制御カードの PCBNUM または PCBNAME パラメーターを更新してください。これらのパラメーターの詳細については、[抽出 \(IXB\) ページ 577](#)を参照してください。

FMNIB298

Load using an alternate processing sequence is not supported.

説明 静的 PSB を使用してロードされる DBD の PCB で、2 次索引が指定されています (PSB の PROCSEQ)。IMS データベースをロードするとき、代替処理シーケンス (2 次索引) は許可されません。

ユーザーの応答 ロードする IMS データベース (論理的に関連したデータベースを含む) の 2 次索引 (PSB の PROCSEQ) を指定しない静的 PSB/PCB を指定してください。

FMNIB532

Function terminated because auditing to SMF failed, BPX1SMF call returned RC=&RC Reason Code=&RC(Dec)

説明 FM/IMS は、現行機能に関する監査レコードを SMF に書き込むようにセットアップされています。監査レコードを SMF に書き込もうとしたときに、障害が発生しました。BPX1SMF 呼び出しを行った結果、戻りコード &RC および理由コード &RC が返されました。どちらのコードも 10 進数で表記されています。現行機能は終了する可能性があります。

ユーザーの応答

このエラーは通常、セットアップの問題を示しています。SMF に対する監査失敗については、以下の原因が考えられません。

1. ユーザー ID に、SAF FACILITY クラス・プロファイル BPX.SMF に対する読み取り権限がある。
2. FMN1POPT モジュールで、SMFNO パラメーターに有効な番号が指定されていない。

システム・プログラマーに、エラーの原因を解決するための支援を要請してください。

FMNIB835

&CMD not allowed - The &CMD of this segment is not allowed because it may cause a U0828 abend (duplicate segments in a unique secondary index). The &CMD of this segment is allowed when the dynamic backout option on the DLI Mode Settings panel is selected and you use an IMS log.

説明 挿入/繰り返し (&CMD) は許可されません。2 次索引のソースである IMS セグメントを挿入しようとしており、これは重複索引項目を作成する可能性があるためです。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIB836

&CMD not allowed - The &CMD of this segment is not allowed because it is the target of the secondary index that your Edit is using.

説明 削除/挿入/繰り返し (&CMD) は許可されません。2 次索引のターゲットまたは物理親の 1 つである IMS ルート・セグメントを挿入または削除しようとしており、これは重複索引項目を作成する可能性があるためです。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

FMNIB837

&CMD not allowed - The &CMD of this segment is not allowed because it is a physical parent of the target of the secondary index that your Edit is using.

説明 削除/挿入/繰り返し (&CMD) は許可されません。2 次索引のターゲットまたは物理親の 1 つである IMS 非ルート・セグメントを挿入または削除しようとしており、これは重複索引項目を作成する可能性があるためです。

ユーザーの応答 アクションは不要です。

Appendix B. サポート・リソース

これらのリソースを使用して、製品の詳細、フィックス、サポートを検索できます。

知識ベースの検索

- プログラム・ディレクトリーのダウンロード:
 - [Program Directory for Application Delivery Foundation for z/OS Common Components](#)
 - [Program Directory for IBM File Manager for z/OS](#)
 - [Program Directory for IBM Fault Analyzer for z/OS](#)
- 以下の製品のインストール、カスタマイズ、使用に関する最新の詳細を入手できます。
 - [Application Delivery Foundationの z/OS Common Components カスタマイズ・ガイドおよびユーザーズ・ガイド](#)
 - [Fault Analyzer ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス](#)
 - [File Manager カスタマイズ・ガイド](#)
 - [File Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス](#)
 - [File Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス \(DB2 用\)](#)
 - [File Manager ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス \(CICS 用\)](#)
 - [IMSのFile Managerユーザーズガイドおよびリファレンス](#)

最新の PTF の取得

- [ADFz Common Components](#)
- [Fault Analyzer for z/OS](#)
- [File Manager for z/OS](#)
- [z/OS Debugger](#)
- [IBM Developer for z/OS Enterprise Edition](#)
- [Application Performance Analyzer for z/OS](#)

診断データの収集

サポートに連絡する前に、これらの質問に答えられるようにしましょう:

- どのソフトウェア・バージョンを実行しているのか?
- 当該の問題に関連したログ、トレース、メッセージがあるか?
- 問題を再現できるか? 再現できる場合、どのように当該の問題を再現するのか?
- ハードウェア、オペレーティング・システム、ネットワーキング・ソフトウェアを変更したか?
- 当該の問題の回避策はあるか?

サポートへの連絡

<https://www.ibm.com/mysupport> でケースをオープンしたり、サポートとチャットしたり、リソースとコミュニティに接続したりすることができます。

特記事項

IBM File Manager for z/OS License Materials - Property of IBM Corp. and HCL Technologies Ltd. © Copyright IBM Corporation 2000, 2016. © Copyright HCL Technologies Limited 2017, 2024

本書は米国内で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

IBM® では、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品およびサービスについては、日本の IBM 担当者にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラム、またはサービスの操作の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。ライセンスについてのお問い合わせは、書面にて下記宛に送ることができます。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

2 バイト文字セット (DBCS) 情報についてのライセンスに関するお問い合わせは、お住まいの国の IBM Intellectual Property Department に連絡するか、書面にて下記宛先にお送りください。

Intellectual Property Licensing
Legal and Intellectual Property Law
IBM Japan Ltd.
19-21, Nihonbashi-Hakozakicho, Chuo-ku
Tokyo 103-8510, Japan

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様自身の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信じる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用できますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

本書に記載されているパフォーマンスデータは、特定の動作および環境条件下で得られたものです。実際の結果は異なる場合もあります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、IBM 以外の製品に関するパフォーマンス、互換性、またはその他の要求の精度については検証できません。IBM 以外の製品の機能に関する質問は、それらの製品の供給者にお問い合わせください。

IBM File Manager for z/OS の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれています。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれらを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプルプログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることを暗示したり、保証したりできません。これらのサンプルプログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプルプログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負わないものとします

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (your company name) (year).

Portions of this code are derived from IBM Corp. and/or

HCL Ltd. sample programs.

© Copyright IBM Corp. 2000, 2016. © Copyright HCL Ltd. 2017, 2024.

プログラミング・インターフェース情報

本書には、プログラムを作成するユーザーが File Manager のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

IBM®/IBM® ロゴおよび ibm.com® は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM® または各社の商標である場合があります。現時点での IBM® の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml の「著作権と商標情報」をご覧ください。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用条件

IBM® Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製できます。ただし、IBM® の明示的な承諾を得ずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を配布（頒布、送信を含む）、表示（上映を含む）、または作成することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示できます。ただし、IBM® の明示的な承諾をえずに、これらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示したりすることはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM® の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM® はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を完全に遵守するものとします。

IBM® は、これらの資料の内容についていかなる保証も行いません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品「ソフトウェア・オファリング」では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が個人情報の収集を可能にする場合、オファリングによる Cookie に関する具合的な情報を以下に記載します。

この「ソフトウェア・オファリング」では、個人情報を収集するために Cookie またはその他のテクノロジーを使用することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie などの各種テクノロジーの使用については、「IBM オンラインでのプライバシー・ステートメントのハイライト」(<http://www.ibm.com/privacy/jp/ja/>)、「IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント」(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>)の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』というタイトルのセクション、および「IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement」(<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>)を参照してください。

用語集

本書は、米国規格協会 (ANSI) および国際標準化機構 (ISO) による定義を含んでいます。この資料は、Computer and Business Equipment Manufacturers Association による [American National Dictionary for Information Processing] (copyright 1977、そのコピーは米国規格協会 (American National Standards Institute: 1430 Broadway, New York, New York 10018) で購入可能) から複製されたものです。

以下の用語は、本書で使用されているため定義してあります。探している用語が見つからない場合は、索引または「IBM Dictionary of Computing」を参照してください。

ANSI による定義にはアスタリスクが前に付いています。

A

対比形式 (across format)

システム・ダンプに似ている FM/IMS のダンプ形式。この形式のリストを選択するには、SET DUMP=ACROSS 処理オプションを使用する。

アクション・バー

ウィンドウの上部にある選択項目を含んだ領域であり、これによってそのウィンドウで選択可能な項目にアクセスすることができる。

ASCII

* 情報交換用米国標準コード。7 ビットのコード化文字 (パリティ検査を含めると 8 ビット) から構成されるコード化文字セットを使用した標準コードであり、データ処理システム、データ通信システムおよび関連した装置の間での情報交換に使用される。ASCII セットは制御文字と図形文字から成っている。

B

バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム (batch message processing (BMP) program)

オンラインのデータベースおよびメッセージ・キューにアクセスできる IMS バッチ処理プログラム。

ブロック (block)

* 1 つの単位として記録された連続するレコードの集まり。ブロックはブロック間ギャップで区切られ、各ブロックは、1 つ以上の論理レコードを持つことができる。

ブロックとは物理レコードのことであるが、複数の連続した論理レコードまたは論理レコードの部分から構成することができる。

ブロック化 (blocking)

複数の論理レコードを結合して、1 つのブロックにする処理。

BMP

バッチ・メッセージ処理 (*batch message processing*)

境界 (bounds)

編集およびブラウズ機能で、コマンドがその内部だけを操作する、デフォルトの桁範囲。編集機能では、境界は、BOUNDS コマンドを使用して、変更できる。ブラウズ機能では、範囲は、レコード全体である。

バッファ (buffer)

入出力データを一時的に保持するために使用されるストレージの部分。

C**カード (card)**

バッチ・ジョブでの行。

カタログ (catalog)

* ファイルやライブラリーの位置を示すディレクトリー。カタログには、ファイルの格納されている装置のタイプ、パスワード、およびブロック化因数など、その他の情報も含めることができる。* ファイルまたはライブラリーに関する情報をカタログに入力すること。

列の範囲 (column range)

編集およびブラウズ機能で、どのデータが編集コマンドで処理されるかを制御する、左右の桁位置。いくつかの編集およびブラウズ・コマンドでは、境界を指定変更する桁範囲を指定できる。

Common User Access® (CUA®) アーキテクチャー

人とワークステーションまたは端末間の対話についての指針。

コンソール (console)

オペレーター・コンソールを参照。

制御インターバル (control interval)

VSAM

がレコードを記憶し、分散フリー・スペースを作成する、直接アクセス・ストレージの固定長区域。また、キー順データ・セットまたはファイルにおいて、シーケンス・セット索引レコードの項目で指されるレコードのセット。制御インターバルは、VSAM が直接アクセス・ストレージと送受信する情報の単位。制御インターバルは、常に、整数個の物理レコードで構成される。

コピーブック

一般に、コピーブックとは、コンパイル時にソース・プログラムに含まれるコードのシーケンスを含んでいるファイルのこと。FM/IMS では、“コピーブック”という用語は、特に、レコード構造の記述が入っているファイルのことを指す。

シリンダー (cylinder)

アクセス機構を位置変更せずにアクセスできるディスク・ストレージ・デバイスのトラック。

D

データ定義 (DD) ステートメント (data definition (DD) statement)

特定のジョブ・ステップに関連したデータ・セットを記述するジョブ制御ステートメント。

データ定義名 (DD 名) (data definition name (ddname))

同じ名前が入っているデータ制御ブロックに対応する、データ定義 (DD) ステートメントの名前。

仮想域内データのデータ・セット (data-in-virtual data set)

中断しないデータの連続ストリームとみなされるデータ・セット。

DBCS

2 バイト文字セット (Double-byte character set)。

DBD

データベース記述 (Database description)。

非ブロック化 (deblocking)

ブロックのそれぞれの論理レコードを処理できるようにするプロセス。ブロック化と対比。

E**EBCDIC**

* 拡張 2 進化 10 進コード (Extended Binary-Coded Decimal Interchange Code)。8 ビットのコード化文字から構成されるコード化文字セット。

除外レコード (excluded record)

編集機能で、EXCLUDE 基本コマンド または X 行コマンド を使用して表示から除外されたレコードのこと。

全般ヘルプ (extended help)

機能やパネル全体に適用されるヘルプ・テキスト。フィールド・ヘルプと対比。

エクステント

特定のデータ・セット、データ・スペース、またはファイルで占められている、または予約されているディスク上の連続スペース。

F**フィールド・ヘルプ (field help)**

特定の入力フィールド、パラメーター、または用語に適用されるヘルプ・テキスト。全般ヘルプと対比。

フィールド・マッピング (field mapping)

“元”データ・セットのフィールドと“宛先”データ・セットのフィールド間の関係。フィールド・マッピングは、“元”データ・セットのどのフィールドが“宛先”データ・セットのどのフィールドにコピーされるかを定義する。フィールド・マッピングは、テンプレート・ワークベンチを使用して定義される。

フィールド範囲 (field range)

データが TABL 表示形式または SNGL 表示形式で表示されるとき、どのフィールドに対してエディター・コマンドが動作するのかを指定する。

ファイル、テープ (file, tape)

テープ・ファイルを参照。

fill (充てん)

文字充てんを参照。

I

IMS

情報管理システム (Information Management System)

対話式 (処理) (interactive (processing))

照会システムあるいは航空座席予約システムなどのように、入力するたびにシステムまたはプログラムからの応答を要求するアプリケーションに関する用語。対話式システムは会話型であり、連続的な対話がユーザーとシステムとの間に存在する。

K

KSDS

キー順データ・セット。

L

ラベル (label)

テープまたはディスクのボリュームを識別するレコード、あるいはボリュームのファイルを識別するレコード。

行コマンド

フルスクリーン・モードで、リスト項目の先頭に入力することで、リスト・パネルのどこにでも入力できるコマンド。

線形データ・セット (linear data set)

名前の付いた線形のストリング・データで、4096 バイト単位で検索や更新ができるように保管されている。

リスト・パネル (list panel)

フルスクリーン・モードで、データ・セット、メンバー、またはオブジェクトなどの項目のリストを表示し、項目の1つ以上の機能の実行を可能にさせるパネル。

論理レコード (logical record)

物理属性ではなく、その内容、機能、使用の観点から見たレコード。すなわち、入っている属性によって定義されるレコード。VSAM

では、通常、単一の対象に関連する情報の単位。すなわち、論理レコードは、データ管理機能に要求する、または与えられるユーザー・レコード。

N**非選択レコード (not-selected record)**

レコード ID 基準またはレコード選択基準に合わないため、機能による処理のために選択されなかったレコード。

object (オブジェクト)

OAM では、最大 15 メガバイトまでの任意の長さのバイトの連続したストリームから構成されるデータ。オブジェクトの内容と内部構造は、それを使用するアプリケーションによって定義される。オブジェクトは、イメージ処理や他の高機能なアプリケーションの領域での使用が増加しつつある。

オブジェクト・コレクション (object collection)

ユーザー定義のオブジェクトのコレクション。

オペレーター・コンソール (operator console)

コンピューターのオペレーターとコンピューターとの間のコミュニケーションに使用される装置を含む機能単位。

O**OAM**

オブジェクト・アクセス方式 (Object Access Method)。

P**パラメーター・ストリング (parameter string)**

コンマまたは空白で区切られた複数のパラメーター。

PDS

区分データ・セット。

物理レコード (physical record)

格納、検索、および移動の方法または形式によってその特性が異なるレコード。物理レコードには、1 つ以上の論理レコードの全体またはその一部が入る。

行コマンド (line commands)

フルスクリーン・モードで、パネルの接頭部域に入力できるコマンド。行コマンドは、FM/IMS 編集機能で使用される。

基本コマンド (primary command)

フルスクリーン・モードで、コマンド行に入力できるコマンド。FM/IMS では、ある範囲の機能にわたって使用可能である共通基本コマンドや、編集コマンドおよびブラウズ・コマンドのように、機能固有の基本コマンドが用意されている。

Q

QSAM

待機順次アクセス方式 (Queued Sequential Access Method)。順次データ・セットのためのアクセス方式。

S**SAF**

システム許可機能 (System Authorization Facility)。セキュリティのためのシステム機能。

シャドール行 (shadow line)

編集およびブラウズ機能で、表示から除外されたレコードの位置を示す行。

シフトアウト/シフトイン (shift-out/shift-in)

2 バイト文字セットのデータの始まりと終わりを示す文字。シフトアウト文字は X'0E' で、シフトイン文字は X'0F' である。

SMS

ストレージ管理サブシステム (Storage Management Subsystem)。

T**テンプレート (template)**

データベースにおけるセグメントの形式、異なるセグメント・タイプの識別方法、処理のために選択するセグメントとフィールド、および表示または印刷時におけるフィールドの表示方法を記述する情報のセット。

U**上下形式 (updown format)**

データを 16 進で表す FM/IMS のダンプ形式であり、文字、ゾーン、および数値の 3 行で表現する。この形式のリストを選択するには、SET DUMP=UPDOWN 処理オプションを使用する。

ユーティリティー・プログラム (utility program)

コンピューター処理における一般のサポートを行うコンピューター・プログラムであり、例としては診断プログラム、トレース・プログラム、ソート・プログラムなどがある。

V**ビュー (view)**

詳細化されたテンプレート。1 つのテンプレートを使用していくつかのビューを定義できる。ビューにおいて、フィールドの表示幅の変更、表示するフィールドの選択、数値フィールドでの先行ゼロの表示、コピーブックでフィールド名に代わりに使用するフィールド見出しの指定、および表示するセグメントの選択を実行できる。

ボリューム (volume)

テープ・ボリューム: 磁気テープのリール。ディスク・ボリューム: ディスク・パックまたはディスク・ストレージ・モジュールの一部。

ボリューム通し番号 (volser) (volume serial number (volser))

ボリューム・ラベルの番号で、システムで使用するために用意された時点で割り当てられる。

ボリューム目録 (VTOC) (volume table of contents (VTOC))

直接アクセス・ボリュームにあるテーブルで、ボリューム上のそれぞれのファイルを記述する。

VSAM

仮想ストレージ・アクセス方式 (Virtual Storage Access Method)。

索引

記号

- ?、FIND コマンドの同義語 489
- 「Advanced Member Selection (拡張メンバー選択)」パネル 205
- 「AGN Selection (AGN 選択)」パネル 206
- 「Batch Browse Entry (バッチ・ブラウズ項目の入力)」パネル 208
- 「Batch Browse Options (バッチ・ブラウズ・オプション)」パネル 215
- 「Batch Edit Entry (バッチ編集項目の入力)」パネル 215
- 「Batch Edit Options (バッチ編集オプション)」パネル 222
- 「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」パネル 224
- 「BMP Mode Parameters (BMP モード・パラメーター)」パネル 227
- 「Browse : IMS Database (ブラウズ : IMS データベース)」パネル
 - see 「IMS data (IMS データ)」パネル
- 「Browse Entry (ブラウズ項目の入力)」パネル 229
- 「Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択)」パネル 236
- 「Copybook Library List (コピーブック・ライブラリー・リスト)」パネル 238
- 「Criteria Member Selection (基準メンバー選択)」パネル 240
- 「Criteria Set Entry (基準セットの入力)」パネル 190, 243
- 「Criteria Set Update Utility (基準セットの更新ユーティリティ)」パネル 246
- 「Database Data Set Display (データベース・データ・セット表示)」パネル 252
- 「Database Data Set Specification (データベース・データ・セット指定)」パネル 254
- 「Database Hierarchy (データベース階層)」パネル 257
- 「Database Load Summary (データベース・ロード要約) 報告書 616
- 「Database Positioning (データベース位置決め)」パネル 258
- 「Database Selection (データベース選択)」パネル 261
- 「Date/Time Attributes (日付/時刻属性)」パネル 263
- 「DBD Information (DBD 情報)」パネル 267
- 「DBD Library List (DBD ライブラリー・リスト)」パネル 269
- 「DLI Mode Data Sets 1 (DLI モード・データ・セット 1)」パネル 274
- 「DLI Mode Data Sets 2 (DLI モード・データ・セット 2)」パネル 276
- 「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」パネル 279
- 「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネル 282
- 「Edit Entry (編集項目の入力)」パネル 286
- 「Editor Options (エディター・オプション)」パネル 293
- 「Extract : To Data Set Specification (抽出 : 受け入れ先データ・セット指定)」パネル 308
- 「Extract Entry (抽出項目の入力)」パネル 297
- 「Extract Options (抽出オプション)」パネル 305
- 「Field Information (フィールド情報)」パネル 324
- 「IMS Catalog Specification (IMS カタログ指定)」パネル 330
- 「IMS data (IMS データ)」パネル 334
 - long 型 16 進数形式 509
 - スクロール・ロックの解除 500
 - フィールドの非表示 502
 - フィールドの幅 542
 - フィールド順序 516
 - 隠しフィールドの表示 530
- 「IMS Subsystem Specification (IMS サブシステム指定)」パネル 332
- 「Insert Segment (セグメントの挿入)」パネル 349
- 「Insert Segment Layout Selection (挿入 : セグメント・レイアウト選択)」パネル 354
- 「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネル 356
- 「JCL Submission (JCL 実行依頼)」パネル 357
- 「Key Specification (キー指定)」パネル 358
- 「Load Entry Panel (ロード項目の入力パネル)」361
- 「Logical Relationship Information (論理関係情報)」パネル 369
- 「PCB Selection (PCB 選択)」パネル 370
- 「Preserve copybook library (コピーブック・ライブラリーの保持) オプション 238
- 「Print Audit Trail (監査証跡の印刷)」パネル 376
- 「Print Entry (印刷項目の入力)」パネル 379
- 「Print Options (印刷オプション)」パネル 386
- 「Redefines / Range Specifications (再定義/範囲の指定)」パネル 392
- 「Relationship Criteria (関係基準)」パネル 394
- 「Secondary Index Selection (2 次索引の選択)」パネル 396
- 「Segment Information (セグメント情報)」パネル 397
- 「Segment Layout (セグメント・レイアウト)」パネル 399
- 「Segment Layout Selection (セグメント・レイアウト選択)」パネル 406
- 「Segment Selection (セグメント選択)」パネル 409
- 「Set Batch Job Card Information (バッチ・ジョブ・カード情報の設定)」パネル 411
- 「Set COBOL Processing Options (COBOL 処理オプションの設定)」パネル 412
- 「Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)」パネル 419
- 「Subsystem Selection (サブシステム選択)」パネル 432
- 「Subsystem Settings Menu (サブシステム設定メニュー)」パネル 435
- 「System Settings (システム設定)」パネル 437
- 「Template Data Sets (テンプレート・データ・セット)」パネル 439
- 「Template Entry (テンプレート項目の入力)」パネル 440
- 「Template Member Selection (テンプレート・メンバー選択)」パネル 442
- 「Template Specification (テンプレート指定)」パネル 444
- 「Template Update : New Database Segments (テンプレートの更新 : 新規データベース・セグメント)」パネル 449
- 「Template Update Utility (テンプレートの更新ユーティリティ)」パネル 450
- 「Template/View/Criteria Set Menu (テンプレート/ビュー/基準セット・メニュー)」パネル 456
- 「View Entry (ビュー項目の入力)」パネル 458
- 「View Member Selection (ビュー・メンバー選択)」パネル 460
- 「View Update Utility (ビューの更新ユーティリティ)」パネル 462
- @
 - see 国別文字
- *
 - 無効値の表示 69
- #
 - see 国別文字
- \$
 - see 国別文字
- 移動、次のセグメントへ 514
- 移動、前のセグメントへ 518
- 一時データ・セット割り振り 44
- 印刷 (IPR) 関数 619
- 印刷処理オプション 41
- 開始位置
 - 表示 532, 536
- 概要
 - テンプレート 86
 - ビュー 86
- 拡張エラー・メッセージ
 - ビュー (view) 40
- 監査
 - 監査証跡報告書 201
 - 監査証跡報告書 202
 - 「Print Audit Trail (監査証跡の印刷)」パネル 376
 - 印刷 198
 - 定様式詳細統計セクション 201
 - 不携帯詳細統計セクション 202
 - 要約統計セクション 202
- 関係の変更
 - 基準 195
 - 関係基準の変更 195
- 関数
 - ITU 550
- 基準セット
 - バッチ・ジョブでの更新 193
 - フォアグラウンドでの更新 192
 - 更新 192
 - 複数回にわたる更新 570
 - 基準セットの更新 192, 192, 193
 - 基準セットの作成
 - テンプレートの使用 191
 - モデルから 191
 - 基準セットの編集 191
- 基本コマンド
 - 「IMS data (IMS データ)」パネル 544, 546
 - AUTOSAVE 467
 - BACKWARD (逆方向) 32, 32
 - BOTTOM 32, 468
 - CANCEL 469
 - CAPS 470
 - CCSID 471
 - CE 472
 - CHANGE 473
 - CHILD 482

DBD 483
DBDLIST 483
DOWN 32, 484
DPRINT 485
EDIT 486
END 487
FE 487
FIND 489
FMAP 498
FORMAT 499
FORWARD 32, 32
FREE 500
GE 501
HEX 501
HIDE 502
HIERARCH 503
HOLD 504
INSERT (挿入) 504
JUST 506
KEY 506
LEFT 507
LHEX 509
LIBLIST 510
LOCATE 510
NEXT 514
OFFSET 516
ORDER 516
PARENT 517
PIC 518
PREVIOUS 518
QUIT 469, 520
RCHANGE 520
RDF 521
REFRESH 521
REFS 521
RELATED 522
REPEAT 522
RESET 523
RFIND 525
RIGHT 525
ROOT 526
SAVE 527
SCOPE 527
SEGMENT 528
SEGSTATS 529
SELECT ALL 529
SHOW 531
SHOW (FLD) 530
SHOWCOB 531
SLOC 532
SSID 536
STR 536
TOP 32, 537
TPRINT 537
TWIN 537
TYPE 538
UNDO 539
UP 32, 539
UPDATE 540
VIEW 541
VSAVE 542
WIDTH 542
XKEY 543
ZOOM 544
ブラウズ・セッションと編集セッションでの相違点 547
削除 484
機能キー
スクロール 71
記録
複数レイアウトの生成 87

起動 28
強調表示
オフにする 523
強調表示をオフにする 523
罫線
表示する 68
検索
ビューの使用
説明 638, 679
ビューを使用しない
説明 651, 679
繰り返し 525
検索範囲に対する制限 147
長いストリング 145
検索の繰り返し 525
検索の制限 147
言語、コンパイラ仕様 42
言語仕様 42
更新
複数テンプレート 550, 565, 570
構文図、見方 xi
行コマンド
D 547
I 547
K 547
R 548
RA 548
S* 410
SHC 409
Snn 410
SS 410
SXE 259
行コマンド (line commands)
FC、FH、FL、FS、FT 547
V 548
ブラウズおよび編集 547
国別文字 45
左寄せ、数値フィールドの 506
再定義
表示 68, 521
複数の 01- レベルの生成 87
最終ページ
スクロール先 31
最初のページ
スクロール先 32
使用許諾 dccxxxi
使用不可の HALDB 区画および
DEDB 領域 24
ブラウズまたは編集での DEDB 領域 59
使用不可の HALDB 区画および DEDB 領域 24, 59
指定、フィールド選択基準の 122
時刻フィールド
指定、スクランブル・オプションの 119
定義 114
手段、編集の 141
出力データ・セット割り振り 44
順序
フィールド 112
処理オプション
「BMP Mode Options (BMP モード・オプション)」パネル 224
「BMP Mode Parameters (BMP モード・パラメーター)」パネル 227
「DLI Mode Data Sets 1 (DLI モード・データ・セット 1)」パネル 274
「DLI Mode Data Sets 2 (DLI モード・データ・セット 2)」パネル 276
「DLI Mode Options (DLI モード・オプション)」パネル 279

「DLI Mode Parameters (DLI モード・パラメーター)」パネル 282
COBOL 412
DBCS 413
Compiler Language Selection (コンパイラ言語の選択) 236
IMS
LOCKMAX 592
PSB type (PSB タイプ) 438
ISPF settings (ISPF 設定) 429
PL/I 419
31 ビット 10 進数 420
63 bit binary (63 ビット 2 進数) 420
GRAPHIC 419
UNALIGNED 420
エディター・オプション 293
グローバル
FM/IMS
の設定
420, 428
システム設定 435, 437
バッチ
バッチ実行依頼ジョブ・ステートメント
情報 411
バッチ・ジョブ・カード 411
処理オプションの設定
COBOL 処理オプション 42
HLASM 処理オプション 43
PL/I 処理オプション 43
エディター・オプション 43
コンパイラ言語 42
システム設定 41
トレース・オプション 44
バッチ・ジョブ・カード情報 42
一時データ・セット割り振り 44
印刷処理オプション 41
言語およびコンパイラ 42
出力データ・セット割り振り 44
初期化 (DIB) 関数 681
初期表示形式 64
除外、セグメント・タイプおよびレイアウトの 111
数値フィールド
左寄せ 506
制御
ICU 570
ITU 565
切り捨てなし
フィールドの表示 114
切り捨てなしでのフィールドの表示 114
設定 (オプション 0)
description 428
設定 (オプション 1)
説明 420
選択
フィールド 112
選択、セグメント・タイプおよびレイアウトの 111
対比表示形式 64
大きすぎる値
切り捨て 69
切り捨てを防止するためのテンプレートの編集 69
表示 69
大文字に
データの大/小文字の変更 470
値リスト、データの順序変更 119
抽出
抽出報告書 183
抽出 (IXB) 関数 577
抽出基準を使用した部分的抽出 172

抽出処理 166
 順次従属セグメントを持つ DEDB データベース 178
 長いストリング
 検索 145
 変更 146
 添え字 114
 統計
 SEGSTATS 基本コマンド 529
 ブラウズまたは編集セッションのリスト 84
 特定数値を持つフィールドの検索 489
 突き合わせレイアウト 122
 日付フィールド
 指定、スクランブル・オプションの 119
 定義 114
 配列エレメント
 添え字付きで表示する 69
 配列エレメントの添え字付け 69
 反復可能項目、構文図 xi
 範囲
 「Redefines / Range Specifications (再定義/範囲の指定)」パネル 392
 番号
 検索および置換 473
 比較演算子 63
 非選択のセグメント
 非表示にする 523, 531
 表示 531
 非表示のセグメント
 指示 73
 非表示文字
 表現 68
 表示
 データ・タイプと長さ 538
 テンプレート構造 536
 ピクチャー文節 518
 フィールドと情報の再定義 521
 開始位置 532, 536
 表示、拡張エラー・メッセージの 40
 表示域
 クリーンアップ 523
 表示域のクリーンアップ 523
 表示形式
 データの大/小文字の変更 470
 ブラウズ時 63
 使用可能 64
 初期 64
 変更 64
 表示形式の選択 63
 表示形式の変更 64
 不定様式表示 64
 複数テンプレートの更新 550, 565, 570
 文字ストリング 144
 変更
 スクランブル・タイプ 116
 スクランブル値オプション 116
 スクランブル値列 117
 スクランブル範囲値 118
 データ・セット名の順序変更 118
 長いストリング 146
 変数、構文図 xi
 編集: IMS Database (ブラウズ: IMS データベース) パネル
 See 「IMS data (IMS データ)」パネル
 編集方式 141
 報告書
 データベース・ロード診断 618
 データベース・ロード統計 615
 データベース・ロード要約 616
 データベース抽出統計 602
 データベース抽出要約 600

報告書の印刷 80
 用語集 dcccxxx
 抑制セグメント
 非表示にする 523, 531
 表示 531, 541
 列
 検索の制限 148

数字

1つのセグメントのズーム 544
 10進 -16 進コンバーター 36
 16進 -10 進コンバーター 36
 16進数
 上下表示形式 64
 対比表示形式 64
 16進数表示形式
 設定 501
 16進値
 表示 65
 31桁 10進数処理オプション 420
 63ビット 2進数処理オプション 420

A

ABOUT 基本コマンド 467
 AF 許可 541
 AUD (Print Audit Report) 関数 687
 AUTOSAVE 基本コマンド (編集のみ) 467

B

BACKWARD 基本コマンド 32, 32
 BATCH チェックポイント頻度
 設定 139
 BMP モード
 DLI モードとの相違点 20
 BOTTOM 基本コマンド 468
 BOTTOM プライマリコマンド 32

C

CA-Panvalet 32
 CANCEL 基本コマンド 469
 CAPS 基本コマンド 470
 CCSID
 表示または非表示 471
 CCSID 基本コマンド 471
 CE プライマリコマンド 472
 CHANGE ALL チェックポイント頻度
 設定 139
 Change Extended (CX) コマンド 146
 CHANGE 基本コマンド (編集のみ) 473
 CHAR 表示形式 64
 CHILD 基本コマンド 482
 COBOL
 copybook 94
 コンパイラー、詳細の表示 29
 COBOL REPLACE 559
 COBOL 処理オプション 412
 COBOL 処理オプション、指定 42
 COPY REPLACING 412, 559
 copybook
 CA-Panvalet ライブラリーに保管された 17, 32
 function
 batch example 561
 ストリングの置換 (COBOL のみ) 559
 複数レコード・レイアウトの生成 87
 copybooks
 サブセットの抽出 88
 criteria set
 function
 batch example 576
 CX (Change Extended) コマンド 146

D

D 行コマンド 547
 DBCS
 表示または編集 44
 DBCS 処理オプション 413
 DBD 基本コマンド 483
 DBDLIST 基本コマンド 483
 DEDB データベース
 順次従属 (SDEP) セグメントの抽出およびロード 178
 DELETE 基本コマンド (編集のみ) 484
 DELIMS
 REXX IEB 呼び出し、ビューの使用 638
 REXX IEB 呼び出し、ビューを使用しない 652
 DIB (初期化) 関数 681
 DLI モード
 BMP モードとの相違点 20
 DOWN 基本コマンド 484
 DOWN プライマリコマンド 32
 DPRINT 基本コマンド 485
 DX プライマリコマンド 36

E

Edit (編集)
 基準セットから 191
 EDIT チェックポイント頻度
 設定 139
 EDIT 基本コマンド、説明 486
 END 基本コマンド 487
 Exit 30

F

FC, FH, FL, FS, FT 行コマンド 547
 FE 基本コマンド 487
 field
 スクランブル・オプションの指定するための選択 115
 スクロール先 74
 FIELD 基本コマンド 488
 fields
 エラーの、変更 472
 スクロール時の保持 73
 filerc 672
 Find Extended (FX) コマンド 145
 FIND 基本コマンド 489
 FM/IMS
 28
 起動 28
 終了 30
 FM/IMS
 ロード・ステップの説明
 608
 FMAP 基本コマンド 498
 FMN
 1JIN
 バッチ・ブラウズ (IBB) 673
 バッチ編集 (IEB) 633
 ロード (ILB) 609
 印刷 (IPR) 620
 抽出 (IXB) 577
 FMN
 IMSIN
 バッチ・ブラウズ (IBB) 673
 バッチ編集 (IEB) 633
 ロード (ILB) 609
 印刷 (IPR) 620
 初期化 (DIB) 683
 制御ステートメント
 バッチ・ブラウズ (IBB) 674
 バッチ編集 (IEB) 633

ロード (ILB) 610
印刷 (IPR) 621, 683
抽出 (IXB) 578
抽出 (IXB) 577
format
不定様式表示 64
FORMAT 基本コマンド 499
FORWARD 基本コマンド 32, 32
FREE 基本コマンド 500
FX (Find Extended) コマンド 145

G

GE 基本コマンド 501
GETIMS
REXX IEB 呼び出し、ビューを使用しない 655
GETIMS (IMS セグメントの検索) REXX 関数 639
GETIMS、REXX IEB 呼び出し
ビューの使用 639
GRAPHIC 処理オプション 419

H

Help (ヘルプ)
fields 37
アクセス 37
チュートリアル 38
HEX 基本コマンド 501
HEX 表示形式 64
HIDE 基本コマンド 502
HIERARCH 基本コマンド 503
HLASM
copybook 96
HLASM 処理オプション、指定 43
HOLD 基本コマンド 504

I

I 行コマンド 547
IBB (IMS バッチ・ブラウズ) 関数 672
ICU 機能 570
IEB (IMS バッチ編集) 関数 630
ILB (IMS ロード) 関数 607
IMS
システム要件 26
リリース、
FM/IMS
でサポートされている
26
IMS ライブラリー・データ・セット
ライブラリー・データ・セットの指定 32
IMS 表示パネル
16 進形式 501
INSERT 基本コマンド 504
IPR (IMS 印刷) 関数 619
ISRTIMS
REXX IEB 呼び出し、ビューを使用しない 659
ISRTIMS (IMS セグメントの挿入) REXX 関数 659
ISRTIMS、REXX IEB 呼び出し
ビューの使用 640
ITU 機能 550
IVU 機能 565
IXB (IMS 抽出) 関数 577

J

JUST 基本コマンド 506

K

K 行コマンド 547
KEY 基本コマンド 506
KEYLIST

JCL での指定 178
KEYRANGE
JCL での指定 178

L

layouts
突き合わせ、定義 122
LEFT 基本コマンド 507
LHEX 基本コマンド 509
LHEX 表示形式 65
LIBLIST 基本コマンド、説明 510
lines
番号、コピーブック・サブセット作成用 88
LOCATE 基本コマンド 510
LOCKMAX 592
LZ 基本コマンド
see LZERO 基本コマンド
LZERO プライマリコマンド 513

M

MAXROOTS
JCL での指定 178
message
さらに表示 31

N

NEXT 基本コマンド 514

O

OCCURS 文節 114
OFFSET 基本コマンド 516
ORDER 基本コマンド 516

P

Panvalet 17
PARENT 基本コマンド 517
PIC 基本コマンド 518
PL/I
「Set PL/I Processing Options (PL/I 処理オプションの設定)」パネル 419
copybook 95
PL/I 処理オプション、指定 43
PREVIOUS 基本コマンド 518
Primary Option Menu (基本オプション・メニュー) 373
処理オプションの設定 (オプション 0) 40
設定 (オプション 0) 428
設定 (オプション 1) 420
PRINT
REXX IEB 呼び出し、ビューを使用しない 661
PRINT (IMS セグメントの印刷) REXX 関数 642, 661
Print Audit Report (AUD) 関数 687
PRINT、REXX IEB 呼び出し
ビューの使用 642
Processing Options (処理オプション) 40
Program Directory 730
PSB
動的と静的の相違点 21
PSB タイプ処理オプション 438
PTF レベル、
File Manager
の表示
467, 541

Q

QUIT 基本コマンド 469, 520

R

R 行コマンド 548
RA 行コマンド 548
RCHANGE 基本コマンド 520

RDF 基本コマンド 521
REFRESH 基本コマンド 521
REFS 基本コマンド 521
RELATED 基本コマンド 522
REPEAT 基本コマンド (編集のみ) 522
REPLIMS

REXX IEB 呼び出し、ビューを使用しない 663
REPLIMS (IMS セグメントの更新) REXX 関数 663
REPLIMS、REXX IEB 呼び出し
ビューの使用 643
REPORT
ロード (ILB) 609
抽出 (IXB) 577
RESET 基本コマンド 523
REXX IBB 呼び出し 679
REXX IEB 呼び出し
ビューの使用
DELIMS 638
GETIMS 639
ISRTIMS 640
PRINT 642
REPLIMS 643
SETRC 646
VIEWIMS 646
VIEWPOSN 649
ビューを使用しない
DELIMS 652
GETIMS 655
ISRTIMS 659
PRINT 661
REPLIMS 663
SAVEIMS 666
SETRC 666
VIEWIMS 667
説明 638
REXX コンパイラー
REXX 125
REXX コンパイラーの使用 125
RFIND 基本コマンド 525
RIGHT 基本コマンド 525
ROOT 基本コマンド 526

S

SAVE 基本コマンド (編集のみ) 527
SAVEIMS
REXX IEB 呼び出し、ビューを使用しない 666
SAVEIMS (IMS 変更のコミット) REXX 関数 666
SCOPE 基本コマンド 527
scramble
オプション
スクランブル・タイプ、指定 116
時刻フィールド 119
値オプション、指定 116
値データ・セット名、指定 118
値リスト 119
値列、指定 117
日付フィールド 119
範囲値、指定 118
SDEP セグメント
取り出し中 179
抽出およびロード 178
SDEPTSO
IXB 機能 585
segment
ズームインによるすべての表示 69
SEGMENT 基本コマンド 528
segments

SNGL 表示形式で非表示になる 120
SNGL 表示形式で表示する 120
現行の定様式にする 120
削除する 483, 484
指定された番号へのスクロール 510
次に移動 514

SEGSTATS 基本コマンド 529
SELECT ALL 基本コマンド 529
session
終了 487

SETRC
REXX IEB 呼び出し、ビューを使用しない 666

SETRC、REXX IEB 呼び出し
ビューの使用 646

SHOW (FLD) 基本コマンド 530
SHOW 基本コマンド 531
SHOWCOB 基本コマンド
使用 29
説明 531

SLOC 基本コマンド 532
SMF ログ・ファイル
SMF ログ・ファイル検索 JCL 200

SNGL 表示形式 65
CHAR または HEX 70
セグメントの非表示 120
セグメントの表示 120
ブラウズ/編集 69
非 ZOOM 70

SSID 基本コマンド 536
STR 基本コマンド 536
strings (ストリング)
コピーブック・サブセット作成用 88

SYSPRINT
バッチ・ブラウズ (IBB) 673
バッチ編集 (IEB) 633
ロード (ILB) 610
印刷 (IPR) 620, 683
抽出 (IXB) 578

T
TABL 表示形式 67
TCREATE
IXB 機能 586
TOP 基本コマンド 537
TOP プライマリコマンド 32
TPRINT 基本コマンド 537
TWIN 基本コマンド 537
TYPE 基本コマンド 538

U
UNALIGNED 420
UNDO 基本コマンド 539
UNLOAD、抽出 (IXB) 578
UP 基本コマンド 539
UPDATE 基本コマンド、説明 540
UP プライマリコマンド 32

V
V 行コマンド 548
VER 基本 29
VER 基本コマンド 541
VER プライマリコマンド 28
view update
function
batch example 570
VIEW 基本コマンド 541
VIEWIMS
REXX IEB 呼び出し、ビューを使用しない 667
VIEWIMS (ビューのロードまたは作成) REXX
関数 646, 667

VIEWIMS (新規ビューの作成) 646, 667
VIEWIMS、REXX IEB 呼び出し
ビューの使用 646
VIEWPOSN、REXX IEB 呼び出し
ビューの使用 649
VSAVE 基本コマンド 542

W
WIDTH 基本コマンド 542

X
XD プライマリコマンド 37
XKEY 基本コマンド 543

Z
ZOOM 基本コマンド 544

あ
アスタリスク
無効値の表示 69

え
エディター・オプション 43
エラー
メッセージ 694
エラーのあるフィールド
定義済み 487
エラーのある次のフィールドを検索する 487

き
キー・ファイル
作成 76
キー・ファイルを使用した部分的抽出 169
キーの位置決め
比較演算子 63
キーワード、構文図 xi

こ
コピーブック
ストリングの置換 (COBOL のみ) 412
コマンド
LVL 29
構文図の読み取り xi
コンパイラー、COBOL、詳細の表示 29
コンパイラー言語仕様 42
コンパイラー仕様 42

さ
サブシステム
[Subsystem Selection (サブシステム選
択)] パネルにリストされた 432
状況の最新表示 521
サブシステム設定 44
サブセット
コピーブックからの抽出 88

し
システム処理オプション 437
システム設定 41
シャドー行
定義済み 120

す
ズームイン
1 セグメントすべてを表示するための 69
スクランブル・オプションを指定するための
フィールドの選択 115
スクロール
right 525
TABL 表示形式での影響 73
スクロール移動量の設定 72
データ・セットのクリーンアップ 539
パネル内での 31, 32
フィールドの保持 73

フィールドまたは桁 74
フィールドまで 74
一時的指定変更 73
下 484
基本コマンド
BOTTOM 468
DOWN 484
LEFT 507
RIGHT 525
UP 539
基本コマンドによる 71
機能キーによる 71
左 507
最後のセグメントに 73, 73
最後のページへの 31
最初のセグメントに 73, 73
最初のページに 32
指定されたセグメントへの 510
スクロール・ロック
除去 500
スクロール移動量の指定変更 73
スクロール時のフィールドの保持 73
ストリング
変更 146
ストリング (string)
検索 144
検索および置換 473
スライディング・ウィンドウ 74

せ
セグメント
ズーム 544
一致しない
判別方法 123
現行の定様式、定義済み 120
最後にスクロール 73
最後へのスクロール 73
最初にスクロール 73
最初へのスクロール 73
選択 122
選択されていない 122
選択済み 122
前へ移動 518
抑止 120
セグメント・タイプ
除外 111, 111
選択 111
セグメント・レイアウト
除外 111
選択 111
セグメントの挿入 150
セッションの終了 487

ち
チェックポイント
AUTOSAVE のオンまたはオフ 467
SAVE を使用した呼び出しの発行 201, 527
UNDO を使用したバックアウト 539
概要 138
チェックポイント頻度
監査証跡 201
設定 139

て
データ
CAPS ON による上書き 470
DPRINT 485
ロード中 183
基本コマンド
DPRINT 485
統計、リスト 529
保管せずに取り消し 469

保管せずに終了 469
データ・セット
保管 487
データ・タイプ 68
データ・タイプと長さ
表示 538
データの制限
検索範囲に対する 147
指定フィールドへ 149
指定桁へ 148
データの編集
セグメントの挿入 150
データベース
作成、完全コピーの 166
データベース・ロード診断報告書 618
データベース・ロード統計報告書 615
データベースおよびセグメント
アクセス 17
データベース抽出統計報告書 602
データベース抽出要約報告書 600
テーブル・エレメント 114
テーブル表示形式 67
テンプレート
バッチでの更新 91
フォアグラウンドでの更新 89
交換可能ではありません、間
Base
FM/Db2
と
FM/IMS
21
更新 86, 89
作成 86
説明 86
複数回にわたる更新 550, 565
テンプレートおよびビュー
概要 21
テンプレートの更新 89
テンプレートを使用した基準セットの作
成 191
テンプレート構造
表示 536

と
トレース・オプション 44

は
バージョンの確認 28, 28
バッチ・ジョブ・カード処理オプション 411
バッチ・ジョブ・カード情報 42
バッチ・ブラウズ (IBB) 関数 672
バッチ実行依頼ジョブ・ステートメント情報
処理オプション 411
バッチ編集 (IEB) 関数 630
パネル
「ISPF Settings (ISPF 設定)」パネル 429
パネル参照 205

ひ
ピクチャー文節
表示 518
ビュー
テンプレートからの作成 458
バッチの更新 107
ブラウズまたは編集前の作成 104
ブラウズまたは編集集中の作成 105
モデル・ビューから作成 459
更新 106, 459
作成 104
説明 86
編集 109, 459
ビューの更新 106, 107, 459

ビューの編集 109, 459

ふ
フィールド
CAPS ON による上書き 470
エラーのある次を検索する 487
選択および順序付け 112
特定数値の検索 489
別のテンプレートを使用して表示 498
フィールド・データ・タイプ 68
フィールドの開始桁 68
フィールドまたは桁
スクロール先 74
フィールド見出し 67
変更 113
フィールド見出しの変更 113
フィールド参照 68, 205
フィールド参照桁
表示のオン/オフ 521
フィールド状況 259, 409
フィールド選択基準
指定 122
変更中 196
フィールド選択基準の変更 196
フィールド属性
設定 113
フィールド属性の設定 113
フィールド長 68
フラグメント、構文図 xi

へ
ページ
最後へのスクロール 31, 468
最初へのスクロール 32

め
メッセージ
リスト 694

も
モデルからの基準セットの作成 (CM) 191

ら
ライブラリー・データ・セット
ライブラリー・データ・セットの指定 32,
32

り
リリース、
File Manager
の表示
467, 541
リリース、
FM/IMS
でサポートされている
26

れ
レイアウト
複数の生成 87

ろ
ロード
「JCL Submission (JCL 実行依頼)」パネ
ル 357
No replace (置換なし) 183
Replace (置換) 183
ロード報告書 189
ロード (ILB) 関数 607
ロード報告書 183, 189